Vol.V. JANUARY 15TH, 1901. No.1.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

（一月十五日發行）

（毎月一回十五日發行）

（第五卷第壹册）第四拾壹號

目次（禁轉載）

（明治三十四年一月十五日發行）

（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金壹圓也　第六回全國害蟲驅除修業生　西山精一君

一金貳拾錢也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　正田太郎右衛門君

一臺灣製花簪(蝶付)　四本
一支那山東省製蟲籠　壹個
一澳國維那府製摸形紙蝶　十四種壹箱
一新形むしづくし錦畫　壹枚
一イボタロウ(千葉縣産)　數枚
一古渡夏艸冬蟲　四把壹箱
一針金蟲(カマキリの寄生蟲)　酒精漬
一白雲木の五倍子　壹箱
貴族院議員　田中芳男君

一人形石(石蠶の一種防州岩國産)　七ヶ箱入
一西洋芫菁　壹壜
一和産荳芫菁　壹壜
一南京蟲(床虱)　壹壜
一蟲除御祈禱神拜扇(伊勢御田扇)　壹本

一第九號幼稚園用切紙　壹枚　廣島縣　小山彰君
一一貫張菓子敷(蝶摸樣附)　壹個　三重縣　前田安太郎君
一陶器水插(蝶摸樣附)　壹個　岐阜縣　水谷弓夫君
一陶器蝶形皿　壹個　岐阜縣　土岐郡陶器學校
一縮緬服紗(蝶摸樣附)　壹枚　岐阜縣　山村亮平君
一甲州産印傳煙草入(昆蟲附)　壹個
一甲州産錢「銀貨」入(昆蟲附)　壹個
山梨縣　八田達也君
一摸形昆蟲　四個　千葉縣　林壽祐君
一酒抔(昆蟲摸樣附)　二個　岩手縣　小山幸右衛門君
一掛筒(萬古燒昆蟲摸樣附)　壹個
一茶碗(害蟲摸樣附)　壹個
一煙草入金具(昆蟲摸樣附)　壹個
一鼈甲製櫛(昆蟲摸樣附)　壹個
岐阜縣　近藤乙吉君
一蝶摸樣附菓子器　壹個
一蝶形襟狹　壹個
一鍔(昆蟲摸樣附)　壹個
一苞蟲二種の寫眞　壹個
山形縣　吉田馨君
一馬尾蜂　拾壹頭　岐阜縣　村瀨吉三郎君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其御厚意を謝す

明治三十四年一月

名和昆蟲研究所

第七回全國害蟲驅除講習員募集

開期　自三月一日 至三月十四日　二週間　定員四十名

第七回講習會期日今回右之如く定め開會することなしたれば希望者ハ至急申込あれ
但規則書は郵劵貳錢送附あれば直ゞ送呈す

明治卅四年一月

名和昆蟲研究所

◎第二回懸賞昆蟲寫生圖募集

懸賞課題　蝶、蛾　募集(卅四年一月)
期限(三十一日限)

一等　二名　昆蟲世界一ヶ年分
二等　三名　同　半ヶ年分
三等　五名　害蟲圖解　三枚

右ニ付詳細なる規定は前號にあり

明治三十三年十二月

名和昆蟲研究所

◎昆蟲展覽會寄附金受領公告

當所主催と成り明年四月を期し開設する第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金貳圓也　第一回岐阜縣害蟲驅除修業生　小竹浩君

第二回岐阜縣害蟲驅除修業生桑原濱次郎氏の盡力により寄附されたる金額並ニ芳名左の如し

一金參拾錢　岐阜縣養老郡養老村　野寺昌太郎君

一金貳拾五錢　岐阜縣養老郡牧田村　芳田與太郎君

明治三十四年一月

岐阜市京町

名和昆蟲究研所

トンボの種類

◎歳首の所感を書して讀者に訴ふ

吾人同志の徒の始めて「昆蟲世界」を刋行せる既往に遡ぼり吾が學術界及び實業界に於ける事實を追懷すれば萬感交々生じて大息すべきもの一にして足らず、惟ふに當時日清戰役の餘波をうけ、經濟なほ膨起、人心なほ驕慢にして擧國殆んど力耕精業を事とするを忘れ、學者の著述に、民間の論議に皆多少の殺氣を帶び、遂に畏くも　聖明の宸慮を惱まし奉れる勤儉の大詔をさへ暗誦するに堪へざるが如き慘憺たる光景を現出し、識者をして私かに畏懼の感を惹かしめしもの前後幾回なるやを知らざりき。次で全國に農作害蟲發生瀰蔓し一府三十餘縣下の禾穀その一襲に蹂躙せらるゝに迨んで、人心こゝに始めて定まり遽かに之が驅除の方策を講ぜりと雖ども、倉皇狼狽の極その中庸を缺き或ひは兒戲に類せる、或ひは姑息に偏せる手段を求むるに止まり敢て淵底より豫防驅除の途に出でざりき、是れ甚はだ怪しむべきに似たるも要するに神符除災時代の遺影を殘留せる當時にありては深く尤むべきにあらざるなり、越えて卅一年に至り機運一轉、處々に斯學の萌芽の存在を認むるを得たり、即はち始めて昆蟲學講習會の端緒を啓き又公私立農學校試驗場の害益蟲研究を開始する者著るしくその數を增加せり、翌三十二年に至れば斯學の發達は豫期の外に出て害蟲驅除の聲は農家の輿論として上下を動かし新著世に公けにせられ、良器また創製せられ、加之も研究調査の成蹟にして發表せられしもの數種の多きに上れり、斯くて昨三十三年を迎ふるや講習會の開設せらるゝもの鬱然としてその數を倍し、之を前年に比較すれば更に一段の光明を放射し確かに斯學普及の跡を認知し得るに至れり、而して此間

に立て啓誘示導の任に當れる者多々之れあるべきも本研究所の如きまた其一たるを失はずと自信して疑はず、蓋しその然る所以のものは啻に本誌の逐歳愛讀者を増し來る事實に於てのみ論下するにあらず、本研究所施設の事業のために感化をうけし者漸次その多きを加ふるに徴して昭々たればなり。

夫れ斯くの如く昆蟲學思想の發展と害蟲驅除の方法とは着々その効果を收め、一方に於ては科學的の智識を開發すると共に、他の一方に於ては實業的の利益を增進せんことを企畫せりと雖ども、由來本邦は斯學に對する百般の設備完たからざれば固より未だ今日の如き幼稚の狀況を以て滿足すべきにあらず、則はち忌憚なく之を言はしむれば過去の數年間は試驗期又は準備時代に屬するも、將來は正に實行期また整頓時代に推移すべきを以て、百尺竿頭更に一歩を進めて斯學の伸暢を企圖すべき好望時代となす。

然りと雖ども吾人の微力なる時に或ひは世人の攻難のために事業の阻害を蒙ふり、時に或ひは一種纏綿の事情によりて進行を抑制せられ、未た以て生平抱懷の什が一を遂行するに到らす、吾人は此に至りて切に讀者に忸怩たらざるを得ず、遮莫れ初より一身の榮辱毀譽を棄てゝ專意專に斯學に從はんことを盟ひたれば假令幾回の蹉躓を其間に來たすことあるも決して之が爲めに宿志を左右せらるゝ者にあらぞ、吾人不省なりと雖ども深く我國の現勢に鑒みて斯學普及の必要を知る、豈に彼の塵俗に伍して蠢々たる徒輩と功利を尺寸の間に爭そひ爲めに斯學の衰退を顧みざるが如き行動をなす者ならんや只全力を竭くし誠意を傾むけ而してなほ世に容れられずんば則はち射て中らぞんば之を鵠に求めぞ反つて之を己れに修むるの故智に倣はんのみ。

終りに吾人の抱懷せる希望の一斑を告白すれば、本邦に於ける斯學の隆昌を企畫し兼て斯學を實地に

應用して農家の福利を增進せしめんと欲するに外ならず、言或ひは不遜過大に涉るの嫌ひあるべきも吾人は斯學普及の上に於て紙筆を役し口舌を爛らし以て今日成功の一半の勞に當れりと信するが故にまた之に對する多大の責務を有す、己にこの責務を負荷す豈に這般の希望なくして又一の定見なくして已むべけん、況んや吾人はこの希望を懷くに止まらず、更に之が實踐を試みんとする者なるをや。

然らば則はち如何にしてか之を實踐すべき、曰く不動の軌道を運行して自己の確信する所ろを主張し自己の實驗せる所ろを公示する是なり、而かも之を行ふや幾多の手段方法を用ゐざる可からざるも、之を外にしては倍々博く同志を宇內に求め、之を內にしては研究所の業務を擴張し機關雜誌を改善するが如きは現時に於ける急務の一なりと思惟す、但これをなすは大いに外部の援護に竢たざる可からざるものあり、語に曰く游江海者託於船、致遠道者託於衆と、是れ博く吾人の久しく抱持せる希望を明々地にこゝに吐露して敢て吾が讀者の心情に訴ふる所以なり。

吾人はこゝに新歲を迎ひながら一言の祝詞に及ぶなく主れふ斯學の前途と事業に就てのみ敍述する所以の眞意は讀者夙く之を諒知せられしあらむ、讀者にして既に吾人の微衷を解しまた終始一貫敢て渝ることなきを思はゞ、今年より將に大いに爲さんとする所ろの事業特に本研究所革新の上に就て陰に陽に之を幇助する所あれ、謹んで告ぐ。

蚊虻之力不ㇾ如二牛馬一、牛馬困二於蚊虻一、蚊虻乃有ㇾ勢也。

論説

◎蜻蛉に就て　（第壹版圖參看）

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

我國に產する蜻蛉類は其種類尠からず、總て肉食性にして重に小蟲類を捕食すること多ければ、之が種類習性等を研究するは農業上益蟲保護の上に最も必要の事とす、去る明治三十年に我全國に浮塵子ある害蟲の發生してより害蟲驅除、益蟲保護の事各地に唱道せらるゝに至れり、然りと雖ども害益蟲の區別を知得するは僅かに昆蟲學の幾分を研究せしものに限り、他は毫も之を顧慮せざるが如き有樣なり、故に兒童の此有益蟲たる蜻蛉を慘酷にも糸にて縛し死に到らしむと雖も一般農家は雲烟過眼視して更に之を顧みる所なし、是れ全く農家が其益蟲たるを知らざるに基因するや明かなり豈に慨嘆の至りならずや、然るに爰に最も喜ぶべきは昨年三河國渥美郡に於て苗代害蟲驅除の爲め蜻蛉保護をして各苗代田に蜻蛉の捿止に便ならしめんとて細竹或は之に類似せしものを立てゝ専ら保護繁殖に意を用ゐられし事之れなり、余は本年此等良法美事の各地方に於て廣く實行せられんことを望む、此等の必要より左に圖說せんと欲する蜻蛉類は重に苗代田に關係多きイトトンボの類となす、但し詳細は後日に讓り今は只其大躰を記するに止むべし。

亞科　ハグロトンボ科(Calopteryginae)に屬するもの

第一　アオハダトンボ Calopteryx virgo, L.（第壹版第十圖雄第十一圖雌）

頭部より腹端までの長さ雄蟲は一寸九分内外、翅の開張は二寸五、六分なり、複眼は大にして頭部の左右にあり、單眼は三個頭頂に存在す、全躰青藍色にして光潤あり、翅は暗黒色にして瑠璃光を放つを以て異樣の色澤を呈し、脚は細長にして股節及脛節の兩側には粗毛を生ず、雌蟲は雄蟲より躰長少しく短かく之に反して翅の開張は長し、而して翅色は大いに異なりて淡き褐色を呈し、下翅は上翅より濃色なり、雄蟲は緣紋を欠くも雌蟲は之を有し白色なり、常に河邊に飛揚す。

第二　ハグロトンボ Calopteryx atrata, Selys.（第壹版第五圖）

此種は前種に能く類似するを以て注意せざれば混同することあり、雄蟲は躰長一寸九分内外、翅の開張二寸六分五厘左右あり、複眼は大形黒褐色を呈し單眼は三個を有す、全躰青藍色にして腹面は黒色なり、脚は前種より少しく長く粗毛の有樣は前種に同じ、翅は暗褐色にして異樣の反射ありて一定せず、雌蟲は雄蟲より躰長く翅の開張共に少しく長し而して全躰は黒色なり常に河邊山林中の低處を飛揚せり。

第三　ミヤマトンボ Calopteryx cornelia, Selys.（圖を出さず）

此種は此科中最も大形にして常に山中に生ずるものとす、雄蟲の躰長は二寸四、五分許、翅の擴張は三寸一分内外あり、複眼は暗褐色を呈し單眼は三個頭頂に存在す、全躰赤銅色にして腹側腹面は共に褐色を呈せり、翅は赤褐色を呈し結節部迄は濃くそれより尖端に至れば淡きを常とす、脚は細長にして股節及脛節の兩側には粗毛を生せり、雌蟲も雄蟲より躰長短かく、二寸一分翅の擴張は三寸三分内外あり、脚は暗褐色にして粗毛を生ずることは同一なり、而して雌蟲は緣紋を有し下翅の先端は濃色

なるを常とす山中に多し。

第四　カワトンボ Mnais pruinosa, Selys.（第壹版第六圖雌第七圖雄）

此種は雌雄色澤を異にするを以て別種の觀あり、雄蟲は軀長一寸九分内外、翅の擴張二寸八分位ゐあり、全軀青色にして灰白色を覆ひたれば異樣の色澤を呈す、複眼は褐色單眼は三個を有す、翅は上下翅共に翅底は無色透明にして、其より先は樺色を呈し、其内前縁部并に縁紋は濃色なり、脚は黑色にして股節及脛節の兩側には粗毛を生ぜり、雌蟲は體長一寸八分翅の擴張二寸九分内外あり、且全軀青色にして赤銅色を帶べり、翅は上下翅共に透明縁紋は淡黄色を呈し常に河邊の低き處を飛揚す、尙此種に似て雄蟲の翅色淡きものありと雖も今同種なるや否や判然せざれば後日研究の上紹介すべし、因みに云ふ該種は春季早く出づるものなり。

第五　ヤナギトンボ Mnais strigata, Hagen.（圖を出さず）

此種は雌雄共に翅は無色透明にして恰も前種の雌蟲に類似すと雖も、軀色并に縁紋の色澤に依て區別し得べし雄蟲は體長一寸七、八分翅の擴張二寸三、四分あり、複眼は大にして褐色單眼は三個あり、胸部は青藍色にして腹部は灰白色恰もカワトンボの雄蟲に似たり、而して胸腹面は脚と共に白色を呈し腹面は黑色なり、脚は比較的短かく其粗毛は以上の種に異ならず、雌蟲は軀長雄蟲より少しく短かく赤銅色にして縁紋は赤色を呈す、常に山中に生ずるも普通の種にはあらず。

此科に屬するものにてヤナギトンボに似たる一種あれど說明を畧す。

亞科　イトトンボ科（Agrioninae）に屬するもの

第六　アヲイトトンボ Lestes temporalis, Selys.（第一版第三圖雄）

此種は最も普通の種なり、雄蟲は體長一寸四五分、翅の擴張は一寸七分五厘内外あり、複眼は最も大にして單眼は三個頭頂に存在す、頭部の形狀ハ恰も亞鈴に似て、全體青藍色をなし、腹側及ひ腹面は淡黄色を呈せり、翅は透明にして雌雄共に暗褐色の緣紋を有し、脚は淡褐色前科と同じく股節及脛節の兩側には粗毛を生せり、雌蟲は之れより少しく大なるのみにして別に差違あることなし、常に草叢中に飛揚し苗代田に出て來りて小蟲類を捕食す、往々螟蟲、螟蛉蛾等を食殺するを見ることあり。

第七　モノサシトンボ Psilocnemis annulata, Selys.（第壹版第四圖雄）

此種は前種に亞げる普通種にして雌雄色澤を異にするを常とす、雄蟲は體長一寸五分内外翅の擴張は一寸六分内外あり、頭部は黒色にして褐色の複眼を有し單眼は三個あり、胸部は青黒色腹部も又同色にして第二、三、四、五、六節の各前節に接する部分は綠色を呈し九、十の兩節は綠色なり、翅は透明にして淡褐色の緣紋を有す脚は淡褐色にして黒色部あり脛節は白色粗毛を生じたり、雌蟲は体長一寸四、五分翅の擴張は一寸八分内外あり、脚部は黄色を呈し粗毛を生ずることは前に異ならず、該種も亦苗代田にありて多く各種の小蟲類を捕食す。

第八　キイトトンボ Ceriagrion coromandelianum, Selys.（第壹版第一圖雄第二圖雌）

此種はアヲイトトンボの如く普通にして黄色なるを特徴とす、雄蟲は體長一寸二分翅の擴張は一寸四五分内外あり、頭部は鈍黄色、複眼は淡褐色にして口部ハ黄色を帶ひ單眼は三個を有す、胸部は鈍黄色にして三條の黒縱帶を保ち、腹部は鮮明なる黄色にして第七節より第十節迄の四節は黒色を呈せり翅は透明にして緣紋を有し、脚は黄色短かき粗毛を生じたり、雌蟲は少しく大形にして全體鈍黄色を呈し、第七節以後の關節は黄色なり、他はその雄蟲に異なることなし、常に草叢中にあれども時に又

稻田に來りて小蟲類を追擊し之を捕食すること多し。

第九　イトトンボ Agrion quadrigerum, Selys.（第壹版第拾貳圖雄）

此種も亦普通なり、雄蟲は體長一寸翅の擴張一寸三分內外にして全體暗色を呈し胸面は灰白色なるを常とす、其翅は透明にして褐色の緣紋を有す、雌蟲は雄蟲と同形にして胸部は綠色、上部に黑色の縱帶あり。腹部は靑色上面に黑帶を有し腹面は黃綠色を呈す、常に草叢中に多し、メクラトンボ、トウスミトンボとも稱せり。

第十　オホイトトンボ Agrion sp.?（第壹版第十三圖雌）

此種は前種の雌蟲に酷似するを以て往々見誤ることあり、雄蟲は體長一寸一分翅の擴張は一寸三分五厘內外あり、全體鈍綠色にして胸部の上面には三條の黑色縱帶あり、腹部は靑黑色を呈し二、三、四、五、六節の前節に接する所及び八、九、十の三節は水色を呈し、腹面は黑色側面は黃色なり、翅は透明にして淡黑色緣紋を有し、脚は短かく股節及脛節には粗毛を生じたり、雌蟲は少しく大なるのみにて雄蟲と大差なし、常に草叢中に棲息し往々苗代田に來りて小蟲類を捕食す、此種は又第七のモノサシトンボに似たり。

第十一　ホソイトトンボ Agrion sp.?（圖を出さず）

此種は曩に當所長名和靖氏が動物學雜誌にオホイトトンボとして揭載されたるものなるが、今回各種比較研究の結果其體細長なるが爲めホソイトトンボと改稱したり、雄蟲は体長一寸一分翅の擴張は一寸三分五厘內外あり、複眼は褐色を呈し、單眼は三個頭頂にあり、胸部は淡黃褐色を呈し四條の縱帶あり、腹部は褐色に靑色を帶び、翅は透明にして褐色の緣紋を有す、脚は短かく黃褐色を呈し粗毛を

生ず、雌蟲は少しく大形にして他は雄蟲と大同小異なり、常に草叢中ヿ飛揚す。

第十二　アカイトトンボ Agrion sp.?（第壹版第八圖雄第九圖雌）

此種は其名の如く赤色なるを特徴とす、雄蟲は体長九分翅の擴張一寸内外あり、頭部ハ黒色にして胸部も又黒色二條の綠色縱帶あり、腹部は第一、二節は黒色他は橙赤色を呈し、翅は透明にして淡き樺色の緣紋を有す、ろの脚は短かくして粗毛を生せり、雌蟲は雄蟲より少しく大ヿして頭頂は黒色、胸腹部は共ヿ赤色を呈し背面の中央ヿ黒帶あり、常に苗代田にありて小蟲類を捕食す特に山間ヿ多きが如し。

第十三　オホアカイトトンボ Agrion sp.?（圖を出さず）

此種は前種ヿ似て大形なり、雄蟲の体長一寸二分五厘翅の擴張一寸三分五厘あり、全体赤褐色にして複眼は褐色を呈し單眼は三個頭部ヿ存在す、翅は透明にして褐色の緣紋を有し、脚部は鈍黃色、股節及脛節の兩側には粗毛を生ぞること前各種に同ド、常ヿ山間の草叢中にあり普通の種ヿあらず、小蟲類を捕食す。

此科に屬するものは他に尙二、三種あれども標本不完全なるを以て後日採集の上掲載すべし、なほ本年は今より協議を整のひ各地一般ヿ苗代田ヿ大麻莖或は細竹或は之ヿ類するものを立てゝ此等の有益蟲を保護すれば唯ヿ以上の種のみならず、他の種類或は鳥類をして苗代に近づかしめ、暗々裡に害蟲を減殺するの利益あれば必らず之を實行されんことを切に希望して已まず。

◎コムストック氏の昆蟲全書に就き(Comstock's Manual for the Study of Insect)

米國理學博士　桑名伊之吉

夏季は昆蟲の最も多き時にして一枝なほ百を以て算ぞひ、一樹千を以て算ぞふ、況して一園に棲息する蟲族に至りては千萬無量擧て算ぞひ得べきにあらざるなり、そも昆蟲は形貌の美麗にして愛すべきあり、醜惡にして忌む可きあり、變体の驚く可きあれば、奇形の恐るべきあり、美音の悦ぶべきあれば哀聲の憐れむ可きあり、其習性の彼此相異なる亦甚だしく、其他水中を游泳するあり水上を歩行するあり、空中を飛揚するあれば花間に舞ふあり、人畜に寄生して害を及ぼすあれば、絹糸を吐き花蜜を採集して人生の要用に供するあり、草木の葉莖花實を食ふて間接に人類を害するあれば、却つて害蟲に寄生して人類を援くるありと雖ども世俗多くは之を識別するの明を欠けり、想ふに古來好事家なるものあり、博く植物を採集し之を研究するを以て快樂の資となせしもの多しと雖も、昆蟲に至りては殆んど其例あることなし、世間往々注意深き人ありて自家の庭園或は隣庭の植物の名を諳んずるのみならず、之に棲息する鳥名をも併せ能く知れるも昆蟲に到りてはキリギリス、カフロギ、蝶の如き普通種四、五の名を知るのみにして、其實物を見るに至りては敢て彼此を識別すること能はざる者皆然りとなす。

世俗の斯く昆蟲に無智なるは必ず種々の原因なかる可らざ、則はち其形の小なると種類の多くして彼是相酷似するものと、また其變態の著しき等は主要なる原因たるも、之を研究するに曾て良書なかりしは之が眞因たらずんばあらず、始め米國に於てGray氏が植物敎科書を著し斯學を研究するものに多大の光明を與へしより、昆蟲學に志ある輩は淺回か專門家に訴へしにぞ、何人かありて早くGray氏

（明治三十年九月十日內務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

昆蟲世界第四卷 自第貳拾九號至第四拾號 總目錄

◎口繪

◎祝辭

◎論說

◎講話

◎雜錄

◎通　信

◉問答

◉雜報

の植物書の如きものを昆蟲學教科書として編纂し、以て斯學者の指針たらしむると同時に其發達を圖らざるやと、然れ共これ過大の問題にして凡人の能く答ひ得可き事業にあらず、蓋し昆蟲の數は植物に十倍せるを以てGray氏植物書の如きもの十數冊を重ねざる可からざればなり、これ斯學者の容易に手を降す能はざる所以なりき、從來昆蟲書は世に乏しきにあらずと雖も、或ひは專門に渡り、或ひは簡易に失し眞に初學の階梯たるに過ぎず、故に現今の欠を補ふに足る良書の出るを俟つこと尚ほ植物研究者のGray氏植物書に於けるが如き又推して知るべきなり。

茲にコムストク氏の昆蟲全書は一千八百九十五年を以てコーネル大學に産れ、始めて世人の宿望を滿たしめたり、此新刊の良書は紙數七百頁にして鮮明の活字を以て寫され、挿畫八百餘個と六枚の全面圖を添附せり、此書は唯に昆蟲界を網羅するのみにあらずして節足綱(Arthropoda)即ち甲殼類、蜘蛛類、多足類其の他の一斑をも併せ記載せり、特に嘉尚すべきは仝博士が多年敎授の經驗により記事は努めて平易にして初學者も尚ほ解し能ふ可き程度に於て自在に斯學の眞相を寫述したる一事にあり、即ち各目、科等に一々撿索表ありて、實物を把つて之に對照すれば直ちに其何科の何種なることを發見し得るの便あり。

就中、書中の殊色とする處は翅脈研究の新法とす、從來の昆蟲學者は各目に於て翅脈の名稱を異にせり、故に往々目脈にして甲目と乙目に於て名稱を異にするあり、或ひは相異なるの翅脈にして彼目と此目に於て同名なるありて、啻に天然の分類に戻れるのみならず初學者をして屢々躓かしむる事あり然るにコムストク氏は生物進化の眞理に基づき翅脈の名稱を統一し、何目にも之を應用せしめたり、是れ單に分類に利便多きに止まらず其の最とも天然に近きものと謂つべし、又各目の學名には一々發

音を附し以てラテン語の發音に誤なからんことを務めたり、插圖は悉皆コムストク夫人の彫刻に係り多く實物より描寫したるものなるを以て其の眞に逼れるは勿論、科學的特性を明かに現實にせるは轉た學生をして種目撿索の便を得せしむるに餘りあり。

此新著書こそは多くの人を斯學に誘導するのみならず、天然の美妙を探り生物界の秘奥を研鑽せしむるの端緒たるに足るものと謂ふ可し、昆蟲は前にも言へる如く其數多く、何時何處にても容易に之を採ふるを得るも、形貌の異なると、習性の相同じからざるとを以て、自然之を研究するに難澁を感ず、乃ち此書の必要此に於てか益々大なりと信ず、終りに余はコ氏の世に與へられたる此厚恩と其辛苦とに對つて大いに謝せざるを得ず。

◎第二十世紀を迎ふ

岐阜縣中學校教諭　長野菊次郎

自然の現象は倏忽も其變化を遠慮せず、移り行く歳月は時のまも休止することなく、第十九世紀の最終の光輝は昨日の西の海に沈みて、第二十世紀の最初の曙光は容赦なく東の空を照したり、顧みれば第十九世紀に於ける學問の進歩は物質的進歩の基礎を定め、物質的進歩は實に一瀉千里の勢ほひを以て氾濫し來り、微々たる人力或ひは動物力の過半は風、水蒸氣、電氣等の强力を以て易へられ、最少の勞力は成るべく最大の勢力を得る方便に向ひて使用せられ、最少の時間は成るべく最大の年月を贖なふ方法に向ひて消費せられ、其他製造力と云ひ運輸力と云ひ之を往古に比すれは其幾千萬倍を加へたるや實に知る可からざるものあり、然れども十九世紀も亦物質的進歩の極點に達する能はずして遂に其成功の大半を第二十世紀に讓りたり、されば第二十世紀に於ける物質的進歩は第十九世紀に於け

るよりも尚一層の進歩を加へ、物質的進歩の猛勢なるに從ひて人は次第に肉体の勞役、換言すれば苦痛を輕減すべき慾情を喚發し世の趨勢は成るべく肉体を勞せずして成るべく大なる利益を得べき方向に向ひて奔馳し、生存競爭は日一日より其熱度を增し來らんこと更に余の喋々を要せざるなり、肉体を苦しめずして利益を得、生存競爭に打勝ちて大に幸福を得んことは明らかに人生の希望の大部分を滿足せしむるものならん、然れども人は如何なる点に於て生存競爭に打勝ちつゝあるか、又は打勝ち得べき、これ大いに考慮せざる可からざる所なり。

思へば、ダルウヰン (Darwin) 氏始めて生存競爭 (Struggle for Existence) てふ文字を唱道せしより以來、此言葉は種々の場合に適用せらて今や殆んど普通の慣用語となれり、然れども世人の大部分は人類相互の間に生存競爭の行はるゝを知りて、外界と人類との間に行はるゝことを知らざるもの多く、或ひは之を知るものあるも之に對する適當の方法を講ずるものは甚はだ稀に、眞に生存競爭の意義を解し眞に生存競爭に打勝つべき方法を講ずるものに至りては實に曉天の星辰よりも尚ほ微々たりと云はざる可からざるなり。

抑そも海陸軍の擴張の如きは明らかに國と國との競爭に敗を取らざる覺悟たるに外ならずして、之に對する戰艦銃砲の改良は物質的進歩に伴ひて日進月歩の壯觀を呈せり、又個人互に体力を練り智識を磨き、或ひは農に、或ひは商に、工藝に、美術に、全力を奮ふて刻苦するは明らかに人と人との競爭に打ち勝つべき覺悟たるに過ぎずして物質的の進歩は人類の希望をして殆んど無限に增加せしめつゝあるなり、然れども人類相互の競爭に打勝ちたればとて、外界との競爭に打勝たざれば決して十分の利益を占むること能はず、又最大の幸福を得ること能はざるや必せり、元來人は自然界に於て構造の

完美と腦力の發達の点に於ては最高の進化をなしたるものなれども、人は生存競爭に對する都ての場合に於て生物中最も優勢なるものにあらざるなり、看よや下等植物たる即ちコレラ病菌、ペスト病菌、チフス病菌其他各種の病菌の爲めに年々奪はるゝ人命の數は果して幾何ぞ、又直接に人命を損せずとも人類と全種の植物を食する昆蟲との競爭に於て吾人は常に彼等の爲に非常の苦痛を感ぜるにあらざるや。

（未完）

◎櫟の巢蛅蟖飼育經歷の結果に就て（附驅除豫防の考案）

在北總　大竹義道

余は昆蟲類に就き注目し居れども、如何せん本務あるに尙は特に日々攻究を要するものあるがゆゑに昆蟲殊に害蟲類に就ては思ひながら其の發生、經過、習性等を研究するを得ざるは常に遺憾とする所なり、何となれば昆蟲類は其幼蟲より成蟲に至るまで、自ら飼育して其經過期變体等研究するにあらざれば眞の趣味もなく、亦之れよりして驅除豫防の妥當なる思考胚胎せざればなり、併し余は他に本務ありと雖ども其研究の念慮敢て絕ちしこと毫もなければ、田畑山林に臨む每に昆蟲類の擧動に就ては注目せざることなし、此を以て余が昨今滯在せる地方の變りて覩ゆると又害蟲類の目に觸れる中、殊に其地方の經濟上に損害を與ふる害蟲類を認むるや、其儘捨置き難き念慮湧出して止まず、余が昨三十二年の春、北總地方の山林を通行する折り未だ其經過習性等に就き研究せざる一種の蛅蟖、櫟樹に非常に蔓延して新葉を咬害するを認めたり、其節地方人に此の成蟲又は驅除法等を質したるも、此毛蟲は年柄により非常に蔓延するものなれども曾て之を驅除せしことなし、又成蟲を知るものなしと

のみ答へ、格別注意せざるもの丶如くなりき。
抑々總國の山は丘陵平坦なるに森林の面積多くして、植林には最もよく注意しあれば、何人と雖ども他國より此地に來りて一度森林の体裁を視る時には實に整然として能く栽植しあると其管理の行き屆きゐるに感賞せざるものなきほどなるが、是れ自然森林に栽植する地形上、便にして又伐採後、運搬にも甚だ都合よきのみならず、東京の如き大都會を控へあると、其附近地方の販路に頗る便あればなり、然るに前陳の如く地方人は其被害の慘狀を視るも敢て驅除等に注意せずといふ所以のものは畢竟昆蟲類は自然に湧き出づるものなれば人力の得て救ふべきにあらずと斷念せるに因るもの丶如し、斯る蛄蟖の櫟に蔓延し貪食を逞ふするに到らば必ずや其樹の生長を甚だ遲鈍ならしむるのみならず、中には枯死するもあるを以て頗る經濟上に影響すると明なれば、此の害蟲の幼体より蛾に至るまでの經過習性等を研究せんと欲する念慮止みがたければ、何とかして其經過の研究に從事したしと思ひ居りしに、昨冬季中偶々或る森林の道路を通行せる折り、櫟林に入りて注視するや一の櫟枝の外皮よりして殊更に脹起しゐるを認めたれば之れ自然の脹起物にあざらるならんと心附き、接近して篤と撿せし上、其樹皮とも見まがふ脹起物を少しく剝ぎ見たるに其內部に無數の小毛虫蟄居しあれば、尙ほ其一蟲を取りて凝視するに一眼起とも思はる丶蛄蟖なれば、是れ正しく今春櫟林に於て大害を爲せし毛虫と同一種ならんと信じ、其枝を切り採り又其の先方に至りて注目するに屢々之を發見したれば其の枝三四本持ち皈ることゝなせり、然れども直に歸宅する路すがらにもあらざれば之れを新聞紙に包みて携帶せしに、毛蟲の其巢より爬へ出つるあれは止むことを得ず、其組織なる巢網上より熱湯を注ぎて殺し置き數日を經て之れを持ち皈り或る戸棚に入れ置けり。

斯て本年四月二十四日に室内の高き壁等に甚だ小なる蟲の群をなし徐行せるものを見受けたれば、此蟲は如何なる所より爬ひ來りたるもの乎、如何にも不審なれば暫く思案を運らしある中、端なくも若しや櫟毛虫の戸棚に入れ置きたるもの丶蘇生したるものならんかと心附き、其戸棚を開き視るに果せる哉無數の毛虫各所に群居せるあり、怪しみの餘り豫て包み置きたる新聞紙を取り出し之を檢視するに尚ほ多く其巣網内に群居せるもありき、之れを庭前に投出して篤と檢せるに雨露防寒ともあるべき其の巣網の裏面に接しあるものは熱殺を受けたるも、夫れより内部に群居せるものは熱殺を受けざりしと見へて、斯の如く其巣より餌食物を得んが爲め外部に爬ひ出したる事實を確め得たり、而して又新聞紙に包みたる儘柘樹の葉枝上に置き先づ室内に爬行せる虫の中十疋計りを飼育することゝなし他は盡く撲殺せり、其後用事の出來たる爲め新聞紙に包みたるものを始末することを忘却し其儘柘枝上に置きしが數日を經て心附き其新聞紙を開かんとするや一疋の微虫飛び出せり、是れ亦不審なれば尚ほ靜かに開き檢するに復た數疋の微虫飛び出でたり、篤と視るに蜂形樣なれば直に一疋を捕ひ管瓶に入れ顯虫鏡を以て檢するに一種の寄生蜂なりき、是れ必ず櫟蛅蟖に寄生しありたるもの丶羽化したるものならんと信したれば、徐に巣網を剝き視るに一豆形にして殆んど五厘足らずの蛹の多く附着したるを發見せり、之れに因て此の小蜂は櫟毛虫の未だ冬籠りせざる前に多分已れの幼虫に餌たらしめんが爲め、櫟毛虫に卵子を産附し遂に其寄生せられたる毛虫は小蜂幼虫の餌となり殺滅を受け、乃ち寄生幼虫は老熟後其毛虫の体外に出で羽化せしものなるを確認するを得たり。

却說、此十疋の蛅蟖を四月二十八日より飼育することゝなせるに、茲に困難を感したるは余が居宅の庭園は勿論其の附近に櫟又は楢樹の生木しあらざりしことなり、依て止を得ず試に種々草木葉を給せ

しに其蟲は毫も之を食せざりしを以て大に當惑し居りたる折柄、庭園に何か之れに類似の植物なきやと此所彼所を捜索中「カナメ」の生垣内に(鳥渡氣の附かざる所)櫧の若木一本混し生長しわりしを發見したれば、是れ植物學上殼斗科に屬するものにして即ち櫟楢と同族なれば、これなる多分食するならんと信し其新葉を切り採りて與へしに、數箇月間斷食し居りて大に飢餓に迫り居りたればにや、直に食ひ附き始めたり、之れを見て余は此蟲の成蟲に至るまで飼育を完ふし得らるべしと心底大に喜悦を爲せり。

山ニ猛獸アレバ。林木之レカ爲ニ斬ラレズ。園ニ螯蟲アレバ。葵藿之レガ爲ニ釆ラレズ。

左は昨年十月十二日愛知縣名古屋市に開設せる東海農區實業大會の講話席上に於て名和本所長の演述せる筆記なり、速記者整頓の都合により少しく掲載を後らしたるも、將に開かんとする全國昆蟲展覽會に關係を有するを以て特に之を收録することなせり

◎全國昆蟲展覽會開設の理由

名和昆蟲研究所長　名　和　靖

前田先生か御話にありまする前に、僅か十五分か乃至二十分の時間を拜借致しまして茲に一寸諸君に向つて御報告致し度い事が御ざいます、夫は昨日會場にも演題は出て居りました通り「第一回全國昆蟲展覽會に就て」斯ふ云ふ題でございまするが、此事は已に諸君が御承知に成て御いでゞ御ざゐませ

うが、特に茲に一ッ申して置き度い事がある。

抑も昆蟲展覽會を開設すると云ふ譯はどうであるか、實に展覽會と云ふものは日本に後來どの位の利益を與へるものであるか、どう云ふ譯から是を開なければ成らないかと云ふ事でございます、此事を詳しく申ますると非常に長くなりますから簡單に申すのでございますが、兎も角明治三十年に於て浮塵子と云ふ細かい昆蟲が稻に發生した爲めに七千五百万圓と云ふ大損害を與へたのでございます、此七千五百万圓と云ふ大損害を與へた爲に始めて日本で害蟲驅除の必要と云ふ事を大多數の人が認めましたのでございます、三十年以前には害蟲驅除と云ふ事に就ては殆んど暗黑と云ふて宜しい位ゐで、三十年以后は必ず之を行らなければ成らぬと云ふ人が頗る多く成つて參りました、卅年以前には「虫の話」と云へば農談會の內に一席宛蟲の話をするまでに止まつて居りました、然るに卅年以后は巡回講話を行つても一日だけ兎も角虫の話をすると云ふ事が彼方にも此方にも繁へて來ました、夫だけでは未だ完全無缺とは云へ無い、寧ろ誤りが多いと云ふ樣なことを確かに實驗して居る依て假令短期…………、短い時期でも講習と云ふことの必要を認て、卅一年に初て害蟲驅除の講習と云ふものを岐阜縣が致したものと自分は信んじて居ります、其より以前は恐くは害蟲驅除の講習は無いと信んじます、卅一年には僅か二回しか無いが三十二年即ち昨年に成つてからも非常なもので、私が直接に關係したゞけでも十五箇所あつたです、其他彼方にも此方にも五日間乃至二週間三週間と云ふ講習が出來て本年の如きは一層盛んでございます、或る點から云へば一の流行物の樣に成つたと云ふても宜しい、併し斯ふ云ふ事は流行物に成つても盛にした方が宜しうございます、依て卅一年に始めましてから今日に至る迄で數へ來りますると、三十二回講習を致した結果修業證書を與へた者が殆ど千七百名に達するのでございます、千七百名…………全國に行き渡つて千七百名ばかり、所が其講習の中には或は一縣が主催となり或は一郡が主催と成ると云ふ樣な譯合で私は講師に成つて參つた事もあるが、爰に昨年の九月を期しまして昆蟲研究所、私が持つて居る昆蟲研究所が主催に成つて全國から有志者を募集して開設

した事がございます、それが段々回を重ねて己に五回を過きまして第六回はこの十一月二十一日から開く事に成つて居る、五回丈けでもどれ丈けの生徒があるかと云へば修業生は則ち二百名でございます、殆ど各府縣に渡つて居る僅か四五縣丈け洩れて居りまするが其れは申込の順序で致し方が無いのです、其二百名の内東海農區の五縣には八十九名の修業生がございますので、精しく申せば三重縣十九人、愛知縣三十八人、靜岡縣十四人、岐阜縣十八人、山梨縣八名、合せて八十九人最早全國講習員の内聯合縣で殆ど半分を占めて居る次第でござゐます、斯ふ云ふ理屈に段々と關係する人が出來るもので御ざゐまするから。どうか是等の方々が出來得る限り國家に盡して貰はなければならぬ、何か一つ獎勵法を用ゐぬ事には是等を獎勵する事は出來まい、と云ふ處から依て昆蟲展覽會を開設すると云ふ事の必要か起つた、それはどうであるかと云ふと彼方此方を調べて見ますると隨分既に是迄行はれて居る内に長所がある、其長所を以て普及したならば非常に利する處がございまするが、長所を調べ出すと云ふ事が既に難かしい、依て展覽會と云ふ獎勵法に付けて四方から集めると各々の長所が集まる、今丈けの長所を集めても慥かに利する所があるにも拘はらず、此多數の方か一層研究してそれが爲めに出品されるとしたならば其間に得る所は容易ならぬものに相違ない、恐く此展覽會の成蹟が宜かつたならば始めて日本昆蟲學の基礎が出來るでは有るまいか、唯今それ迄の基礎を作つて置かぬと往々誤りを來たす樣な事がありはしないかと思ふ、一方から考へると誠に私立で以てコンナ事を遣ると云ふ事は大膽極る事でございますけれども、非常の時には非常な手段を以て進まんければならぬでございます、と云ふて私一人が喧ましく云ふて之れが旨く出來るものでは無い、畢竟多數の方の贊成を得て十分御力を盡し下すつた結果が初めて有益と成るのでござゐます、已に諸君は此事業の大体に就て御贊成下すつて居るに相違は無いけれども、尚一層是に就ては御奮發あらん事を御願しなければならぬ。

（未完）

左の一篇ば曩に本所より派遣せる名和助手が第二十五回岐阜昆蟲研究會に寄せられたる相州城ヶ島昆蟲採集の報告なり、冬季採集に從事する斯學者の注目すべきもの多しと信じ茲に登載して博く參考に資す。

◎相州城ヶ島に於ける冬季の昆蟲採集

名和昆蟲研究所助手　名　和　梅　吉

余は冬季の少閑を利用し相州三浦三崎町ょ近接せる城ヶ嶋の昆蟲と、その海中に棲息せる鹹水産昆蟲の調査とを併せ試ろむべしとの本所長の命示ょ從がひ、乃はち舊臘二十五日の夜を以て啓程し、二十七日の正午過ぐる頃始めて目的地ょ到達し爾來今日に至る一週日間專はらその事に從がへり、依て些さか今回の實驗より得たる三四の事實を報道して研究會例會ょ欵席せる責を塞ぐ所ろあらんとす。

冬季採收の目的地と豫定せる城ヶ島と云へるは三崎町の西、十町を隔て巍然海表に屹立せる一小島にして島影山姿甚はだ壯觀と云ふ能はざるも漁蝦の利多きを以て夙ょ動物學者の爲めょ其名を知らる、廣袤は東西十六町、南北約四分一、周回一里に餘り幾十の人家崖腹岸頭ょ點綴して自づから相海の幽趣をなすも、東部一半は矮竹白茅繁茂して自由に捕蟲網を揮ふこと能はず、唯纔かに中央人家の在る所ろを徘徊して採集を事とするょ過ぎず、特ょ島中樹種に乏しくトベラ。ヒサカキ。マサギの類及び樟、松樹の綠葉を着くるを見るのみなれば、彼の櫟。樫。櫸等に至りては殆んど之を檢出すること能はざ、隨ふて此等諸樹皮の間に潜居する蟲類を採集せんとするが如きは固より望み能はざる所ろなり、此を以て余は百方痛心の末、方形捕蟲器を用ゐて專はらトベラ。マサギ。クスノキ。ヒサカキ等ょ向つて打落捕獲法を行ないひ、尙ほ圓形捕蟲器を以て頻りに雜草間に蟄伏せる蟲類を驚起追捕するに努め、更に捕蟲用の篩網を用ゐて細かょ塵芥間を搜索したりと雖ども、惜哉、早や極寒ょ際せるを以て大形の蟲を得るょ難く、辛ふじて小形のもの若干を獲たるに止まれりき、斯くて本月二日ょ至るまで凡そ三四回の採集を行なひしょ、その地域の狹小なるは端なくも余をして全島ょ於ける大体を知悉せしむるょ至れり。

余が調査せる所ろに依れば本島は三崎町と一葦水を隔て、其間行舟頻繁なるを以て町と島との昆蟲の種類は大同小異ニ止まるも、之を吾が岐阜のものニ比較し來れば異種頗ぶる多く曾て標品ニ供せざりしもの十餘種の多きニ達するを算せり、即はち風土の異なるに伴ひ此ニ捿息する小動物もまた大ひに異なるものあるを知れり、例へば蟷螂の如きは卵塊存在の點よりその捿息を推測したりと雖ども、而かも全島を一周して唯一塊を目擊せしニ過ぎざりし事實より言ふ時はその蕃殖の岐阜に比して極めて少なきを證徵すと謂ふべし、左は言へ、微細なるコメツキムシ。コメツキモドキ。ナナホシテントウムシ。アカイロテントウムシ（此種はトベラの葉裏に附着せる介殼蟲を食す）フタホシテントウムシ。イヌノチヂミクソムシ。メダカハネカクシ。シリグロハネカクシ其他數種の如きは全く岐阜産と相同じからざるニあらず。

目今城ヶ島の圃地には麥大根及び豌豆あるのみ、就中、大根ニありては蚜蟲多く發生し、これに寄生蜂。ヒラタアブ。ホシヒラタアブの襲擊を加ふるあると豌豆ニはハムクリバイの被害甚しきを見る、其他双翅類の蠅類はまた本島多く之を產するを以て一々枚擧するニ遑あらずと雖ども、特に雄の翅端の黑色なるものと、最とも小形にして且つ黑色なる種類ニ富むの一事ニ至りては實ニ一驚を喫せり、此等の蠅類は皆海邊に群居し海藻すなはち昆布類の漂着せるものある時は輙はちこれに止まつて靜息するを恒とするも、其軀体帶黑なるを以て藻中石上に在る間は自然淘汰の妙用ニより容易ニその存在を認むること能はざるなり。

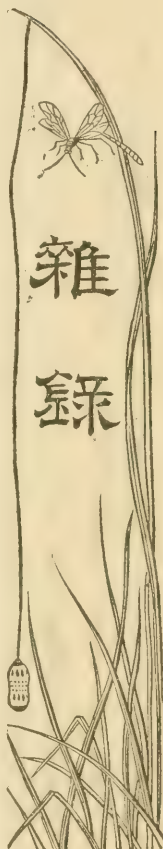
啻りこれニ止まらず其他なほ自然淘汰作用の標品に乏しからず、今一例を擧ぐれば、宛然小蟻ニ類似せる兩三種の小蟲の如きは此作用を代表する好適の標品と稱すべく、又ハムクリバイの種類も少なからずと覺しく各種の植物葉面にその痕跡を存せり、此等の事實は本月二日までに採收郵送せる標品に就て一覽せば直ちニ氷解せらるべしと信すれば、また之を茲に贅せざるべし、之を要するに前に擧げたるものは皆陸產に屬せり、次で少しく鹹水產昆蟲に就き述ぶる所ろあらん。

余が捕獲せし鹹水產昆蟲は都て三四種に上れり、是は全たく豫期せざりし所ろの好結果なりと信ず、蓋し從來鹹水產昆蟲とし云へば、たゞ僅かに蚊又はウミグモ等三四種を算するに過ぎざりしも、これに余が手裡に歸したるものを加ふれば實に七八種の多きに及ぶべければなり、而してその新たに獲たる種類を言へば概むね双翅類に屬するものにして其幼蟲に依りて之を見ればカモドキ科に隷すべきものと、蠅科に配すべきものあるを疑がはず、若し今をして盛夏酷暑の候たらしめば更に加ふるに甲翅類その他の異種を發見せしや未だ知る可からざるなり。

昨今城ヶ島に於ける氣候は岐阜に比し暖氣遙かにその上に居るも、季節は竟に爭ふべからざと見へ、本島には必らず生息すと聞けるウミグモすら未だ一頭も獲る能はず。將に手を空ふして歸途に就かんとす、余の遺憾知るべきなり。

任他、本月二日を以てマツモムシの一種を多獲せり、此種は果して淡水產なりや、將た鹹水產なりや、今遽かに斷定し難しと雖ども、假りに鹹水產昆蟲なりとせば、半翅類中鹹水產昆蟲の數を增すものに似たり、其詳細に至りては幾多研鑽の後重ねて報導する所ろあらん、此の他なほ雜事の叙述すべきものありと雖ども夙夜研學に忙殺せられ筆未だ意を悉くすの期に到らず、一に會員諸彥の洞察を仰かんとす。（辛丑一月初二誌す）

ことわりを知らで木をはむ蟲なれば深き御法を聞く甲斐もなし。

雜録

◎昆蟲見聞錄（其七）

東京西ヶ原農事試驗場　小山海太郎

（二十六）蜜蜂の飼育研究

中川久知先生は實驗的動物學者としても、學術的學者としても夙に世に知らるゝ所ろ、而してその著書の如きは悉く實驗の上より執筆せられたるものゝみ、就中、新撰博物示敎に於ける蜜蜂飼育の事は近來世上に行はるゝ所の獨乙式の飼育法に優ると其幾干なるかを知らざる程なり、然し君の實撿は一年間のみなりとの直話なれば、蜜蜂飼育に志あるものは尙ほ宜しく實驗研磨、あたら君の發明をして空しくせしむるなくんば邦家の爲に一の幸ならんか。

（二十七）昆蟲の十二支見立て

力らも及ばぬ事に肩肱を張て筆の命毛を切た所が物笑の種となるばかり、ヱヽ馬鹿を獅子一番趣向を替て昆蟲の十二支見立てとは如何なんと、當らず觸らずではあるまいかと、しやつくを云つて見た所で、智惠の袋を倒にして振て見ても。

子キリムシ（子）　蛆（丑）　トラカミキリ（寅）　フウ椿象（卯）　カツオムシ（辰）　ミノムシ（巳）　ウマオヒムシ（午）　キスヂノミムシ（未）　サルハムシ（申）　トビムシ（酉）　イヌバヘ（戌）　イノコムシ（亥）

（二十八）子供と螢

多くの昆蟲類の中にて、兒童の最とも親愛する所のものは蝴蝶（てふ〳〵）、蜻蛉（とんぼ）、螢（ほたる）、キリ〴〵ス、蟬（せみ）等なるべし、今兒童が螢狩に當り如何なる唱歌をなすかを聞くがまに〳〵。

長野縣　ホタルもこーよ、ヤマンブキもこーよ、カンチカハラ、ミヅクルマもこーよ〳〵。

（附記　螢の内にはカンチ、ヤマンブキ、ミヅクルマなどありと稱せり）

東　京　ホタルこへ〳〵、山見てこへ、行燈の光をちよいと見てこへ。

大分縣　ホタルこへ〳〵、ワレの水は酸ひぞ、已の水は甘ひぞ、小柄酌以てこへ、水替てやろう。

熊本縣　ホーホーホーホタルけい、谷川の水やろー、小柄酌持て來へ、くんでやろ。

（附記　ホーホー螢けいはホーホー螢こへと云ふ意なりと）

富山縣　ホタルこへ〳〵、みんざくら、そつちの水は辛ひぞこちの水は甘ひぞ。

（二十九）　昆蟲畵題

古來の畵譜等を見るに、其昆蟲と他の物との配合甚はた不釣合なるもの少なからず、科學的學問の進歩せる今日の美術家は大いに此點に注意せざるべからず、今思ひ付きたるまゝ二三の例を擧ぐれば。

菜花、百合、躑躅等には蝶は能く適合すべく、櫻梅等には蜜蜂、牽牛花及び南瓜等にはマルバチの類、蘭の類にも蜜蜂類、早蕨にはキバチツノトンボ、芒にはキリキリス、稻穗及び水邊の草に蜻蛉、大木には蟬、サイカチムシ、クワガタムシの類、秋草なれば蟷螂は何れにも佳なるも可成蜂、蜻蛉の類を添ひたし、池にはアメンボウ、ミヅスマシ、ゲンゴロウなど冬期の外は期節を選まず、クツワムシは南瓜か茶の木、其他網脈葉の植物が佳なるべく、電氣燈瓦斯燈等にも蛾類などを副ふる亦妙ならんか。

（三十）　アメンボウの方言

近頃東京近在の兒童がアメンボウを呼ぶを聞くに「ナミムカヒ」と異稱す、抑もアメンボウは其河江にあるや水勢の爲めに押し流されんことを恐れ、常に流に逆ふて游泳す、即ち波に向つて進むの性あるなり、ナミムカヒの名また面白からずや、長野縣の或地方にてはアメンボウをヲジャウメと云ふ、是れ亦水上を走ること乘馬の水中を游ぐが如きに因る蓋しヲジャウメは御乘馬の意ならんと。

◎萬葉集に現れたる昆蟲

在東京　逸　名　氏

萬葉集に出てゐる昆蟲は極めて少ない。日晩、蟋蟀、蠶の三種ばかりである。今、長歌及び旋頭歌を別として短歌のみについて見るに、日晩が九首、蟋蟀が六首、蠶が三種しかないやうに思はれる。尤も此他に日晩ならば秋風とか戀とか、蟋蟀ならば月とか寒とか、或他の題を主にして之に此昆蟲類を取合せて讀んだのは無いでもなからう、併し余が今日研究した所では尙は見當らない。

殊に不思議に感ぜられるのは蝴蝶の無い事だ。蝶は諸君の見らるゝ通り誠に美しく且麗しい虫で、幼ない小供ですら之を可愛がるのである。然るに萬葉は勿論の事、其他の歌集に於ても餘り見受けないのは少しく不審の次第だ。無論今樣端歌の類には可なり引張り出されてゐる、又た俳句にも餘程澤山使用されてゐる、併し本歌には殆んどない。動物學をやつて昆蟲學を教はつて育つた明治以後の歌人は是非共此の蝶を澤山に詠じてもらひたいものだ。

さて日晩は萬葉集では蟬と同樣の意義に用ひてゐるやうだ、依て今日吾々の稱へるカナ〳〵、ヒグラシも熊蟬も油蟬もチツ〳〵蟬もすべて此の日晩の一語にまとめたものと見てもよい、此歌は即ち

しのひのみ居ればいふかしなぐさむと出ぞちきけば來鳴く日晩』
もだもあらんときもあらなん日くらしの物思ふときに鳴つゝもとな』
日くらしは時となけども我が戀ふるたをやめ我はさだめかねつも』
夕はやに鳴く日くらしのこゝだくの日ごとにきけばあかぬ聲かも』
萩の花さきたる野邊にひくらしの鳴なる時に秋風ぞふく』
ゆふされば日ぐらし鳴きていこま山こえてぞわがくる妹がめをほり』
こいしけみなぐさめかねて日くらしの鳴嶋かげに庵するかも』
いまよりは秋つきぬらん足引の山松かげに日ぐらしなきぬ』

岩ばしる瀧もとゞろにあくせみの聲をし聞けば都しおもほゆ』

又た蟋蟀といふ萬葉集の字はコホロギと讀むべしといふ説と、キリギリスと讀むのが正しといふ説と二ツあるが恐らくきり／＼すが正しからうと思ふ、其歌は都合六首である。

夕月夜こゝろもしのにしら露のおくこの庭にきり／＼すなくも』

秋風のさむく吹くなへ我か宿のあさちがもとにきり／＼すなくも』

かけ草のおひたる宿の夕かげに鳴くきり／＼すきけどあかぬかも』

庭草に村雨ふりてきり／＼す、なく聲きけば秋つきにけり』

きり／＼すまちよろこべる秋の夜をぬるしるしなし枕とわれは』

草ふかみきり／＼すいたく鳴宿に萩見に君はいつかきまさん』

又蠶の歌には。

たらちねのおやのかふこのまゆつくりこもれる妹をみるよしもかな』

たらちねの母がかふこのまめつくりいふせくもあるか妹にあはすて』

なか／＼に人とあらずばくはこにぞなふましものを玉の緒ばかり』

蠶の歌は或は此の外二首ばかりあるかも知れぬ、併し今見當らないから三首だけ擧げて置く。

◎昆蟲短報（其三）

第三回全國害蟲驅除修業生　靜岡縣　神村直三郎

（十）　楓褐色椿象

七月二十日卵より發生したるもの多數を捕獲す、卵は蠶卵の如くに密付せり、捕獲當時は幼蟲の群、卵皮の傍に密着して動かず、体長七厘觸角四節をなす、七月二十四日楓樹に於て黄褐色大椿象一を捕ふ、蓋し孵化幼蟲の母蟲ならんか、幼蟲は七月二十四日第一回の脱皮をなし体長一分五厘に至る、七

月二十六日溫度九十六度に至りしため斃死するもの多く同二十八日悉く斃る。

（十一）　仙人草尺蠖

仙人草の嫩芽は淡綠色あり、これと同じ色の尺蠖の幼蟲、これを食ふ、八月三日其幼蟲の体長一寸許なるを捕へて飼育せ、同月六日ょ至り食を止め、食草ょ五六本の絹糸を以て繭を作る、八月八日ょ体は六分許ょ縮まり同十日蛹ょ化す、其蛹綠色にして八月十八日に羽化す、其蛾亦乳綠色愛すべし。

（十二）　酸漿シンクヒ蟲

八月七日幼蟲一を捕ふ、此時己に一顆の實を食ひ盡さんとして僅かょ其皮を殘せるのみ、体長一寸弱、鮮綠ょして班紋あり、其紋氣門上線の位置に於て、著るしき赤黃紋毎節一個、其側邊ょ四個の黑色紋あり、其狀●。●の如く四隅ょ於てせらる、八月八日体色黃綠に變し、果を離れて、彷徨す、同日夕方より成繭ょかゝる八月九日繭成る其繭たる飼育箱の一隅ょ小紙片を綴合して作る、八月二十日羽化す、九月八日又幼蟲一を捕ふ、体長四分黃色ょして黑點あり、九月十二日体長六分餘、同十五日成熟十六日土中に入る、これを前期に比するょその体格著るしく劣るを見る、此たび土中に入りたるを見れば、前期にも土ょ入るべきを誤りたるなり、されど幸はひに羽化を了せり、後のものは、蛹越年か十二月二日未だ羽化せず。

◎昆蟲と名士

千葉縣特別通信委員　林　壽祐

◎亞細亞の英傑、帖木兒はまたテムールと稱し、元の太祖鉄木眞(テムシン)の裔なり、我か延元元年を以て、土耳其斯坦國サマルカンド府の近地ょ生れ、應永中七十歲にて沒す、嘗て戰爭ょ利を失ひ、僅に身を以て免れ、蒼皇として走り、路傍の倭屋ょ匿る、既にして氣屈し、再び恢復を圖るの念なく、將ょ自殺せんとす、適々一匹の蟻（或は曰く甲蟲）あり、麥粒を啣み、高く天上に持ち行かんさするもの丶如し、

然れども麥重くして、登りては落ち、落ちては躋る事十數回、なほ挫けす、勇奮以て攀登を試むる事七十回、始て天上に登ることを得たり、是に於て帖木兒膝を拍ち、獨語して曰く、噫微蟲にして耐忍撓まざる斯の如し、況んや吾れ六尺の大丈夫、何をか爲し能はざらん、佳い哉蟻蟲吾れ今日汝の教訓を受けたり、何れの時か、忘れんやと勇み出で、遂に中央亞細亞を一統し、印度波斯より歐洲を侵撃し、世界を震動し、大蒙古國王とて、雷名古今に轟けり。

◎昔、支那に車胤といへる人あり、家貧にして學を好む、然れども燈火を求むるの資なし是に於て多く螢を捕ひ、これを籠に聚め、其發光によりて籠下に讀書す。又宣士といへるものあり、貧窮にして研學の資を缺く乃ち雪を聚めて燈火に代へ、以て書を學びたり。嗚呼此二人の苦心勉勵想ふに堪へたり、これを以て後世勤學の好譬と爲し、能く勉勵するを指して、螢雪の勞とは謂ふなり。

◎呉猛といへるもの亦幼にして家貧し、夏に至るも蚊帳を用ゐること能はず、蚊軍喧々として襲ひ來り、皮膚刺傷せられ、爲に眠るを得ず、呉猛思へらく、吾れ衣を脱ぎ父の皮膚を被ひ、吾裸体となり父の側に臥すれば、蚊軍吾身邊に集り、父は安眠せることを得んと、夜々裸となりて臥せり、父依りて安眠するを得たり、其孝心感ずるに餘りあり、宜なるかな、支那二十四孝の一員に選ばれ、其名千歳に朽ちざるや。

◎木村重成、嘗て誤つて茶童良寛の刀に觸る、良寛憤怒重成を毆つ、然れども敢て怒る色なし、人々以て怯となす、重成曰く豎子何者ぞ、彼れ蠅のみ、夫れ蠅は糞尿と腐敗したる臭物を舐食し、其の翅足を清めず、直に金冠錦衣に飛翔して之を汚がすに非ずや、諺に蠅は高官を恐れずと、一人の其罪を問ふ者あるなし蓋し是れ論ずるに足ざる微蟲たればなり、余は茶童を視るに、一の憐むべき小蠅を以てす、顧ふに近く東軍此地に寄するや必せり、余ハ其時を以て主君の爲めに一身を献けんとす、余嘗なりと雖も、豈微々たる蠅蟲輩と生死を共にするを得んやと、衆大に感じ、これより茶童を呼ぶに蠅坊主を以てす、良寛大に怒り、再び重成を打懲さんとし、反つて重成寛大なる恩光に射撃せられ、深

く前非を悔ゐ、重成の臣下となり、能く忠勤を盡し、重成が若江の花と散りにし時、其身も潔く殉死し果てきと。

（附）歐陽公の文に憎蒼蠅賦あり、我邦細川頼之の詩に人生五十愧無功、花木春過夏已中。滿室蒼蠅掃難去。起尋禪榻臥淸風の句あり、然らば則ち蠅は昆蟲中最も人に嫌惡せられしもの歟。

◎多賀安雄、畫を善くす、嘗て故あり三宅島に配流せらる、寶永中に至り、赦されて江戸に還れり、時に安雄が畫きし草花、巧妙眞に迫れり、偶一蝶來り、翻々として遊戲す、是れ生ける花と思ひしなり、安雄感ずる所あり自から英一蝶と、改稱す。

◎太閤秀吉嘗て連歌を催し、自ら奥山に紅葉ふみわけ鳴く螢と前句を詠し人をして後句を附けしむ、衆謂ひらく、古來螢の聲を聞きしものなしと、滿座之が爲に茫然たり一奇士あり、次して曰く鹿とも見へず杣のともし火と、時にまた玄旨といへる人の之に和して武藏野にしのをつかねて降る雨に、螢より外鳴く蟲もなし、と秀吉頗る喜悅の色あり。（完）

木之折也。必通蠹。牆之壞也。必通隙。然木雖蠹。無疾風不折。牆雖隙。無大雨不壞。

支那後漢孝明帝ノ治世十七年春正月。甘露甘陵ニ降ルノ記事アリ。蓋シ蚜蟲ノ排泄液ヲ指スモノカ。

通信

◎三重縣南部七郡聯合物産品評會昆蟲の景況

第二回全國害蟲驅除修業生　三重縣　大矢圓三郎

明治三十三年十二月五日より十日間本縣下宇治山田町に於て開設せし三重縣南部七郡聯合物產品評會は其出品農、工、水產を合して五千有餘の多數に上り、參考品も亦種々有益なるもの多かりしが中に昆蟲に關する出品は實に左の如くなりき。

一、松蛄蟖、鳳蝶、金條蛄蟖、桑の天牛、桑のスキムシ、桑尺蠖、ウラナミシジミ、夜盜蟲、蔬菜の螟蛉、根喰葉蟲、稻の葉捲蟲、麥の大横這、浮塵子、陸稻の螟蟲、稻の螟蟲、サルハムシ、蟲蠶等の經過標本　拾六箱　一、蝶蛾類　壹箱　一、益蟲標本　三箱
（以上　三重縣農事試驗場出品）

一、害益蟲標本　二箱　（度會郡巡回教師近藤作次郎出品）

一、裝飾標本　六箱　（蝶類を巧みに配置したるものにて、モンシロテフ、キテフ、スカシバ等を以て帆船を現はしたるもの、甲蟲を以て富士山に日の出を現はしたるもの、益蟲を以て益蟲の二字を現はしたるもの、鳳蝶を面白く配置したるもの、各分類を兼ね花卉となしたるもの
（右飯南郡漕代村　宮下秋藏出品）

一、分類標本　七箱　（志摩郡鵜方村　大矢圓三郎出品）

一、撒藥驅蟲器　一、同簡便器　一、天牛驅除器、同簡便器　一、畔燒器械　一、撒水器
（以上　三重縣農事試驗場出品）

一、簡便捕蟲袋　（伊勢農事株式會社出品）

一、浮塵子捕蟲器　一、浮塵子驅殺器　（度會郡田丸町　浦田戸四郎出品）

一、米作豐凶年氣候比較圖　一、稻作蟲害年ノ氣候圖　（三重縣　測候所出品）

◎土岐郡害蟲驅除講習會景況報告

岐阜縣　土岐郡農會の一員

本會の主催に係る害蟲驅除講習會の景况を報告せんに講師には名和昆蟲研究所長名和靖氏を聘し、三十三年十二月十六日より五日間開會せしが、十五日には講師の來郡に付水谷郡農會長以下同會役員講習會員等貳拾餘名多治見停車場に出迎ひ、車聲轣轆として午后五時頃土岐津町高東舘に着され翌十六日午前九時より郡衙樓上に於て開始せり、講習員は小學校教員六拾名、町村役場吏員四名、本郡農事講習修業生三十四名、町村農會員五拾四名、計百五拾貳名にて其他日々數拾名の傍聽者會場に充溢し熱心なる講師の興味ある講話を傾聽せり、而して二十日には午后一時證書授與式を擧行し町村長、郡農會役員等拾數名參列の上水谷郡農會長より壹百七名(他の十名は出席一日不足の爲め一ヶ月間獨習せしめ授與の筈)に對し修業證書を授與し終て同塲に於て冷酒折詰の小祝宴を開き、席上會長の指名を以て五分間演説拾數番あり、師弟賓主各々歡を盡して退散したるは午後四時頃なりき、尙ほ十九日夜には講習會員主催となり土岐津町彌生亭に於て害蟲幻燈會を開き名和講師始め講習員數名說明の任に當りしに來會者は五百餘名にして近來の盛會なりし、又二十日夕には郡内有志者四拾餘名名和講師の慰勞會を不二見樓に開き主客皆蟲名を以て其名に代へ甲呼乙答皆昆蟲にして特に益蟲の主なるものは福引として昆蟲標本を與へ、杯盤の間頗ふる興味を感じたり、時に席上三絃に和して昆蟲情歌を謳ふものあり、耳を傾むけて之を聽けば

〇三十年來昆蟲學を調べた其名わ日本一
〇蟲の世界の微妙なわけを斯うもたやすく說き明かす
〇蜜を貰ふた花にハ蝶が花粉媒助の御返禮
〇蟲の干城よあの蟷螂は双の斧もて敵を打つ
〇害蟲の腹には益蟲やどり利害つれそふ世の習ひ

後にて聞けば是はこれ水谷郡長の戯作に係り潜かに某々等をして練習せしめたるものなりとか、歡極つて退散したるは午後十時なりき、翌二十一日は名和講師出發に付早朝より講習會員、小學生徒等三

百餘名は旅館の前に別を送り、水谷會長以下數拾名車を聯ねて多治見驛まで農會理事三名は名古屋まで見送りをなしたるが實に土岐郡稀有の盛事なりき。

◎土岐郡昆蟲學會景況

岐阜縣　土岐郡昆蟲學會

本會は害蟲驅除講習會の閉鎖と同時に別紙規則を協定し、直ちに發會式を擧行せり其役員は會長水谷弓夫、副會長清水仁一郎、理事小栗劍次郎、鈴木喬、伊藤射夫、奥村規矩夫、土本六三郎、山内徳松、山内慥爾の諸氏にて支會長を各學校長に囑托の上會務擴張の任に當らしむることゝし特に名和昆蟲研究所長名和靖先生をば名譽會員に推し其承諾を受けたり。

土岐郡昆蟲學會規則

第一條　本會ハ土岐郡昆蟲學會ト稱シ事務所ヲ土岐郡役所内ニ置ク

第二條　本會ハ名和昆蟲研究所ト氣脈ヲ通シ農事ノ稗益ヲ計ルヲ以テ目的トス。

第三條　本會ニ會長、副會長各一名、理事七名ヲ置キ會務ヲ裁理ス。

第四條　本會ハ毎年二回以上集會ス。

第五條　會員ハ常ニ實物ヲ採集シ、標本及圖書ヲ調製シ、集會ノ際交換研究ヲナシ、斯學ノ普及ニ努ムベキモノトス。

第六條　本會ハ郡内各小學校内ニ支會ヲ設ケ、標本ヲ陳列シテ縱覽ニ供スルモノトス。

第七條　會員タラントスルモノハ會長ノ許諾ヲ受クルヲ要ス。

井蛙ノ不ルレ可ラ三以テ語ルニ二於海ニ一者ハ拘レハ下於虚ニ上也。夏蟲ノ不ルレ可ラ三以テ語ルニ二於水ニ一者ハ篤レバ下於時ニ上也。（老子）

◎蝶の處分法に附質問

第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　谷　保太郎

蝶の幼蟲は諸種植物の害蟲なるも其成蟲たる蝶は異花生殖の媒助を成す、故に果實成熟上必要の蟲に候、就ては害益何れが多きか、十露盤上捕殺すべきか、或ひは生存せしむべきか、其得失御調査乃上御教示の程奉願候。

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

蝶類か各種の花間に翩飜して花蜜を吸收する際に花粉の媒助を爲すことは一般に認むる所なり、單に此点より斷定せば蝶は益蟲として生存せしむべきものなれども、此は大ひに研究を要すべき問題なりとす、余は今大躰より考察して左の如く答へんとす、即はち各種の植物は蝶類の媒介を得て受精を完ふすることあれども、多くの場合にあつては蝶よりも寧ろ蜂或ひはハナアブ蠅類の爲めに媒助を完ふするもの多ければ、吾人に對して有用の植物を害する所ろの成蟲たる蝶は、生存せしめずして一般害蟲の驅除と同様に之を捕殺するも可なりと。

◎桑虱の件に付再答

蟲廼家山人

山形縣東嚴生君より質問ありし桑虱の件に就ては本誌第三十八號に概畧答へ置きたるも、今回山形縣の害蟲驅除豫防法施行規則を得たれば此處に聊さか補足して問者の意を滿足せしむる所ろあらんとす、偖て其規則中には「介殼蟲カヒガラムシ被害樹木（桑樹、櫻桃）」とあるを以て見れば、全く郡衙より

照會されし桑虱なる名稱は該介殼蟲の方言を記載されしものなるべし、故に單に桑虱の名稱のみなれば無論介殼蟲と別種と爲さゞる可からずと雖も、方言の事なれば假りに桑樹、櫻桃に發生する介殼蟲として置くべし、但質問には被害樹木が桑樹、櫻桃とあるが故に、右兩種の樹木に發生する介殼蟲の種類にして果して同一なれば差支へなきも、若し種を異にするに於ては隨つて其の性質發生經過に差異あるや明らかなり、去れば其名稱、習性、經過等を答ふるにも此等に注意せざれば問者に滿足を與ふる能はざるのみならず、單に介殼蟲として答へ置けば或ひは之か爲に誤謬を來すことなきを保せず、是れ全く規則の不完全なるに因つき質疑應答者の常に困却する處なり、余は今クワノカヒガラムシとして答ふべし該蟲は學名をDiaspis patelliformis, Sasaki,と謂ひ、桑樹に最とも多く發生して大害を與ふるものにて年二回發生し、雄蟲は翅を生ずれども雌蟲は生涯翅を有することなし、而して雄蟲は完全變態を爲し、雌蟲は全く不完全變態を爲す所ろの最も奇異なる性質のものなり、尙雄蟲の（幼蟲、蛹時代のもの）体に覆ふべきものは鈍白色にして長形なり、雌蟲の介は之に反して殆んど圓形にして其一隅に黃褐色部あり、故に其介殼を見るときは殆んど別種の觀あり、何れ該蟲に就ては后日本誌上に掲載する筈なれば此には畧答に止め置くべし。

一　善用人者。若蚈之足衆而不相害。若脣之與齒堅柔相摩而不相敗。（新書）

雜報

◎全國昆蟲展覽會の更正規則　先に世間に發表せる第一回全國昆蟲展覽會規則は少しく不あるより今回左記の如く更正したり、掲けて出品者の注意を促かす。

第壹回全國昆蟲展覽會趣意書

輓近昆蟲學思想の發達に伴ひ、之が研究と其應用の上に於て長足の進歩を爲したるが如きも、其成績區々として深く世に知られざるもの多し、洵に昭代の恨事にして斯の如きは復た昆蟲學の伸暢を計る所以にあらず、本所茲に觀るあり、今回博く大方の翼賛を得て全國昆蟲展覽會を開設し、以て斯學攻究の一助に供し、併て其應用の普及を圖らんとす、此擧や微々たる本所の經營に係り、且加ふるに斯種の企畫は世に未だその前例なきを以て、固より好果を豫期せすと雖も、それ或は國利の萬一を稗補するものあらん歟、同志の士幸に一顧の榮を垂れよ。

因に云ふ、二十餘年來本所採収せる所の昆蟲標本は其數已に貳拾萬に超え、其種類の珍異なるもの亦少なからさるのみならず、昆蟲を工藝美術の上に應用せる内外新古の器具また將に千點に達せんとするを以て、展覽會開期間は交々之を參考室に陳列して公衆の縱覽に供せんとす、冀くは來觀を賜へ

明治三十四年一月十五日

岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

第一回全國昆蟲展覽會規則

第一條　本會は昆蟲學の發達及之が應用を圖らんが爲め名和昆蟲研究所主催となり明治三十四年四月十六日より同年五月十五日まで三十日間岐阜市京町岐阜縣農會構内に於て開設す

第二條　本會の出品を分ちて左の四部とす

第壹部
- 第一類　分類標本　第二類　害蟲標本
- 第三類　益蟲標本　第四類　教育用標本
- 第五類　裝飾用標本　第六類　有効蟲標本

第貳部
- 第一類　驅除、採集、製作、飼育、保存に供する器械、
- 第二類　驅除、採集、製作、保存用の藥品類

第三部
- 第一類　書籍、圖畫、寫眞
- 第二類　共同驅除、講習會、研究會の成績
- 第三類　驅除、採集、製作、飼育、保存の方案

第四部　第一類　參考品

第三條　前條第一部及第二部の出品は自已の製作又は考案に係るものに限る

第四條　過大巨重の出品は本會の都合により拒絶することあるべし

第五條　出品は本會に於て相當の保護を爲すべしと雖も萬一盜難火風震災其他避くべからざる事故に依り破損若くは紛失したるときは本會其責に任せす

第六條　出品は第三部及第四部を除き總て審査す

第七條　出品の審査は明治三十四年四月三日より始め五月五日に終る

第八條　出品人は其出品ニ對し再審査を請ひ又は授與の褒賞を拒み若くは審査の決定に對し異議の申立を爲すことを得ず

第九條　出品は審査の上優等なるものは其出品人に對し一等より四等ニ至る等級ニ從ひ褒賞を授與す　但受賞の出品ニ對し特に協贊の功ある者には協贊賞を授與することある可し

第十條　一人にして數部類に出品し其出品優等なるときは其部類に於て各褒賞を得べしと雖も一類内數種を出品したる者ニ對しては其中最優等なるもの一種ニ限るべし、但一類内と雖も異種にして優等に位するものあるときは特に相當の褒狀のみを授與することあるべし

第十一條　故人又は出品者以外の者と雖も特に斯學に功勞ある者には追賞又は功勞賞を授與することあるべし

第十二條　褒賞授與式は五月十二日を以て擧行す

第十三條　本會ニ出品せんとするものは第一號書式の出品目錄及第二號書式の出品解說を製り明治三十四年二月十五日までに名和昆蟲研究所に宛差出すべし

第十四條　出品は明治三十四年三月二十日以前ニ必ず到着の日取を以て名和昆蟲研究所ニ宛發送すべし

第十五條　出品ニは必ず番號、品名、出品人の住所氏名を明記したる小札を添附し相當の方法を以て堅固ニ荷造すべし

第十六條　會場の整理、出品の陳列等に關する一切の事務及費用は本會に於て之を負擔す

第十七條　出品運送ニ關する費用ハ總て出品人の負擔とす

第十八條　本會に左の役員を置く

總裁　壹名　　會長　壹名
顧問　若干名　　事務委員長　壹名
審査長　貳名　　事務委員　若干名
審査委員　若干名　　評議員　若干名
書記　若干名

第十九條　本會役員の事務掌程は左の如し

總裁　本會を統裁す
會長　本會一切の事務を統轄す
顧問　本會重要の商議に參與す
事務委員長　總裁及會長の指揮を受け事務を整理す
審査長　總裁及會長の指揮を受け審査事務を分擔統轄す
事務委員　會長及事務委員長の指揮を受け事務ニ從事す
審査委員　審査長の指揮を受け審査事務に從事す
評議員　本會ニ關する議事に參與す
書記　會長以下の指揮を受け庶務に從事す

第二十條　開會中は每日午前第八時より午后第四時まで衆庶の參觀を許す、但都合ニ依り本文時間を伸縮し又は臨時入場を止むることあるべし

第廿一條 參觀人は必す入場劵を携へ退出の際之を返還すべし

第廿二條 入場料は金貳錢とす、但五歳未滿の者は無料とす

第廿三條 瘋癲又は醉狂其他妨害の虞ある者と認むるときは入場を拒絶し或は會場外ょ退去せしむることあるべし

第廿四條 大形の手荷物を携帶し又は畜類を牽きて入場することを許さず

第廿五條 陳列場内に於て吸煙するを禁す

第廿六條 參觀人は本會委員又は看守人の承諾を得るょあらざれば列品ょ手を觸ることを得す

第廿七條 出品を摸寫し又は會場を撮影せんと欲する者は本會事務所の許諾を受くべし

（第一號書式） 用紙美濃紙

第一回全國昆蟲展覽會第（何）部第（何）類

出品目錄

何縣何國何郡（市）何町（村）（何團体代表者）

出品人 何 誰

部類番號	品名	名稱	數量	原價

右は展覽會規則を遵守し出品候也

年 月 日 右 何 誰 ㊞

名和昆蟲研究所宛

（第貳號書式） 用紙美濃紙

第一回全國昆蟲展覽會第（何）部第（何）類出品解説

何縣何國何郡（市）何町（村）（何團体代表者）

出品人 何 誰

部類番號	品名	產地	製作地	製作人及考案者の氏名

物質	
製法	
用法	
効能	
褒賞	
審査請求の主眼	

右之通ょ候也

年 月 日 右 何 誰 ㊞

名和昆蟲研究所宛

（備考）

一、番號は一類毎に記載するものとす

一、目錄は一類毎ょ別紙ょ認むべし

一、參考ょ供すべき記事あるときは出品解説ょ添附すべし

一、團體の出品に係るものは必ず其代表者を記入すべし

◎田中芳男氏の來所　前掲の如く田中芳男氏は本所の主催に係る全國昆蟲展覽會々長を承諾せられしに付その設備の用件を帶び本月九日の夜來所の上種々示導する所ありて翌十日の東行列車にて出發せられぬ。

◎諸氏の來所　（三十三年十二月十二日）名古屋稅務管理局技手安藤福三郎氏（十三日）廣嶋縣御調郡農會岸松儀七郎同村上源之助二氏、岐阜縣不破郡表佐村多和田幾治、同縣海津郡大江村安藤登兩氏、（十九日）愛知縣丹羽郡犬山高等小學校長板津森三郎氏、（廿日）京都府何鹿郡圓山製糸合資會社技師片山尊一氏、台中縣技手小澤質氏、（廿四日）愛知縣名古屋市大江與三二、山城國宇治郡山科村友田秀二郎、丹波國南桑田郡保守村長尾禮一郎の三氏（廿五日）大阪東區平野町帝國鐵道協會土木技士高木鶴松氏、（廿六日）滋賀縣農事試驗場技師高見長恒氏、（廿七日）京都府愛宕郡松ヶ崎河村英太郎氏（廿八日）岐阜市美園町柳原壽三郎、東京日本橋區兜町澁澤武之助の二氏（卅一日）農商務技師兼農商務書記官農學博士酒勾常明氏隨行杉野氏及東海支場技師直井市輔氏（卅四年一月四日）岐阜市徹明小學校堀惣次郎、岐阜縣加茂郡上米田尋常小學校朝日貞吉二氏、（五日）同縣山縣郡高田尋常小學校河野守一氏（六日）岐阜縣土岐郡視學小栗鍬次郎岡山縣技手兼屬高見章夫、農事試驗場肥料鑑定生佐藤太郎、岐阜縣安八郡大垣高等女學校長宗宮信行等四氏（七日）岐阜縣惠那郡串原尋常小學校長千葉銈次郎、同縣羽嶋郡博文小學校長土岐鐵三郎、同縣大垣町西濃印刷株式會社渡邊豊爾の三氏、同縣稻葉郡長良尋常高等小學校東海幸太郎氏、（十日）大垣興文高等小學校長近藤乙吉氏其他縣下の學生有志者六拾余名何れも來所の上昆蟲標本を縱覽せられぬ。

◎第二十五回岐阜昆蟲學會　同會第二十五回月次會は一月五日（第一土曜日）午后二時例に依り岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會せり、今其摸樣を記せは一同着席名和昆蟲研究所長名和靖氏は開會の挨拶を爲し、次で斯會の沿革を說き及ぼして本會設立後滿二年に達したるは斯學の爲滿足の至りなるも畢竟前途遼遠なれば以後益々奮勵を要すと述べ、次に山形縣農事試驗場技手吉田馨氏は同場の摸樣より東北地方は苹果の特有產地として名聲高く隨つて栽培家大に增加し改良の域に進みたるも一朝彼の恐る可き綿蟲の害に罹り苹樹は甚しく衰頽し今日に至りては二三十年間苦心培養せしものも憐れ伐採せざる可からざるの慘狀を呈し今や果實の需用も熾々必要なるに至りたれば之等の恢復を計らんと研究の結果氏は夏、冬二季の驅除法有效確實なりとせり即ち一は夏日該被害部を灌注器を用ゐ冷水

にて充分洗滌し一は冬季華氏百度の温湯を以て前法と同しく洗滌し然る后石油乳劑を注射せば積年被害を逞ふせる綿蟲も撲滅すること敢て難きに非ざるべしと說き、續て昨冬昆蟲研究の爲相州三浦三崎へ出張中なる名和梅吉氏の城ヶ島に於ける冬季の昆蟲研究報告を永澤小兵衛氏代讀せられ又岐阜中學校教諭長野菊三郎氏は「二十世紀を迎ふ」と題し動物生存競爭より話頭を起して昆蟲と人類の生存競爭に說及ほし歐米諸國の適例を以て詳細演說せらる、終に三崎より名和梅吉氏送致の新種の昆蟲標本各種及び田中芳男氏の送られたる工藝美術品の昆蟲並に墺國の紙製蝶數十種にして殊に紙蝶の形体着色等眞に實物の如くありしは一驚なりし尙ほ祝意を表する爲酒肴の饗應ありて閉會せしは五時なりき、當日は雨天の爲め參會者は二十余名なりしも種々有益の事多くして却々盛會なりしと云ふ。

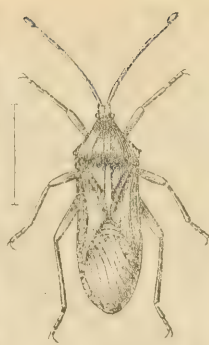
◎水曜昆蟲會　同會第十五回（三十三年十二月十二日）より第十九回（三十四年一月九日）に至る五水曜會は例の如く名和昆蟲研究所内にて所員一同昆蟲に關する談話ありたり、其重なるものを摘載すれは吉田悅三氏は桐實に潜伏せる椿象の一種に就て棚橋昇氏はヨコバイ卵三十塊を採り調査したるに最多數十三個最少數四個にして一塊平均九個なりきと談ド、名和所長ハ嘗て愛知三重等の巡回中に視聞せられたる事柄を縷述せられ、名和梅吉氏は分類學の續き並に三崎土產に就て、森宗太郎氏は兵舍の床虱の話、長屋六二氏はコゴミムシダマシに就て何れも每會談話する所ろあり問答する所ろありて利する所また少なからざりき。

◎三河の巡廻講話　當研究所長名和氏は愛知縣三河國八名郡役所の聘に應じて客冬十二月七日より九日まで三日間同郡内を巡回し害蟲驅除に關する講話をなしたるが到るところ頗ぶる盛會なりきと。

◎第七回全國害蟲驅除講習會の開設　第七回全國害蟲驅除講習會は恰も今春の昆蟲展覽會のために折角の好時機を奪はるゝより何時開設と云ふ見込なかりしも、客冬開きたる第六回講習會員外の希望者より其後續々開會を逼まられ已むを得ず万障を排して來る三月一日より二週間當所に開會のことに決定せり、入會希望者は此際成るべく速やかに申込ありたし、委しくは規則に掲け置きたれば成規の照會次第直ちに該規則を送附すべし。

◎介殼蟲の法令と記事に就て　諸種の植物を傷害する介殼蟲に就ては本研究所實驗の結果已に一論文を起草して大いに當業者を警戒せんとする際、此頃外務省の告示その他の方法を以て本邦より獨逸國へ該蟲附着の植物禁止令の大要を公示せられぬ、依て本號該篇を掲げんとしたるも本年の初刊のこ

として重要記事多く到底彼が如き長篇を收載するに苦めり是れ編者の頗ぶる遺憾とする所ろなるも亦如何ともなし難し、讀者暫らく次號を俟て、豫しめ茲に告ぐ。

◎岡山縣邑久郡の昆蟲展覽會　岡山縣邑久郡に於ては昨年八月を以て昆蟲展覽會開催の計畫ありしも種々の事情より暫らく延期したるが、本年二月は恰も同地に於て名和本所長を招聘し昆蟲講習會を開始せる第一周年の紀念月に當るを以て同講習の開會日たりし仝月廿日より廿四日まで五日間邑久村邑久高等小學校内に展覽會を開くことに決定せる旨通知あり斯學のため洵に慶すべき壯擧と云ふべし。

◎アヅキガメムシの潜伏　アヅキガメムシは夏秋の候に現出す、常に小豆の莖に群生し液汁を吸收して之を黄變せしめ大害を與ふる處の害蟲なり、大さは四分五厘内外ありて其狀上圖に示すが如し、此蟲は躰より一種の惡臭を放發す是れ椿象蟲の特性にして外敵を防禦する唯一のものとす、頃者冬季の採集をなしつゝありしに端なくも該蟲の多く潜伏し居る場所を見出せり、そは堤防の雜草間にも蟄居しあれば多少採集し得ることありと雖も、多くは山腹にあるスキ、カヤ等の株間に潜伏し（只該蟲のみならずイチガメムシも同樣）以て越年せし事實を確かめたり、則はち多きときは十數頭一團となりて群集せるより之を見れば該蟲の潜伏すべき屈强の地は全く前述の如き所にあるが如し、故に之が豫防的驅除としては右等の處を開發して捕殺するにあり、而して各種の昆蟲は大抵一定の潜伏場を求め居るものなれば、當時之を研究するは最も愉快にして且有益のことゝ信ず。（名和助手）

◎年賀狀と昆蟲　本年各地方より當研究所へ贈られたる年賀狀中昆蟲に關するものを見るに其數に於ては確かに昨年よりは增加したるのみならず、其意匠に於ても亦稍進歩の狀あるを證せり、今三四のものに就き評下すれば自製葉書中にて圖樣の佳なるは新潟縣茅原治六氏の「門松に蜻蛉」の圖にて之に亞くは長野縣清水藏氏の「寓意的權衡」の圖なるべく、次は三重縣鈴木龍郎氏の「蝶形内の警告文」なるべく、其の他岡山縣竹内睦男氏の「蝶と蜻蛉」も可なりの出來なり、又私製葉書を應用せしは頗ぶる多く一々之れを列擧し難きも就中、圖案彩色印刷の尤も優良なりと認めたるは靜岡縣佐野常明氏のものにて加之もこれに昆蟲入門と題してパッカードの分類法に依り益害蟲一覽を記入したるは良き思附と云ふべし、次は岐阜縣若原勇太郎氏の「蝶に牡丹花」同縣岩越金兵衛氏の「蝶に菊」の圖なるが其他靜岡縣丸山方作氏の「益害蟲相撲見立」愛知縣山本溪松氏の「廿八星瓢蟲等に關する記事」岐阜縣安藤登、谷保太郎兩氏の「報告的賀狀」靜岡縣神村直三郎、青嶋平三郎兩氏の「蟲名讀込賀狀」また時に取りての愛矯あり。

關西唯一農事機關

新農報

定時刊行 毎月一回

新農報は不偏不黨の旨義を遵守し漸次我邦農家の改良進歩を企圖し專ら農家の福利幸運を增進せしめんことを期す論説は趣意明晰にして行文流暢恰も盤上玉を轉ずるが如し一讀能く其意を解し易し

◉寄書は内外農業家諸氏の最も斬新にして精確なる卓説を網羅す殊に歐米最近の農況を紹介するゝ本欄の獨得とする所也右の他雜錄、雜報、紀行、問答、樂園等皆有益なる記事を登載す

◉定價一部郵税共五錢六冊半ヶ年分廿五錢

發行所 大阪西區川北西野大阪硫曹會社 新農報社

◎購讀者諸君へ公告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候處往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼすものなれば此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

明治三十四年一月

岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所

昆蟲世界會計部

◎質問者に告ぐ

○質問は事實の正確記事の精細なるは勿論贅言を省き簡明なるを要す尤も現品を添ふる事○質問は一紙に一件を限り必ず毎紙記名あるべし○紙上には故ありて匿名を用ふるも本所へは住所氏名を明に通知あるべし○右に違ふ者は棄却すべし○本所は成るべく質問者に滿足を與ふるにとを勉むべしと雖も質問に答ふると否又其遲速等は總て本所の適宜とす

（注意）此頃中質問書に他の要件を併記せらるゝ方あり右は甚だ紛わしく整理上不便に付爾今右樣の事なき樣充分御注意ありたし

明治三十四年一月 岐阜市京町

名和昆蟲研究所

本堂は各地の諸雜誌を取次販賣致居り候處今回昆蟲世界の取次販賣をも特約致候間舊に倍し御下命あらんことを

諸雜誌大販賣 東京市神田區裏神保町

東京堂書店

東京牛込早稻田早稻田農園

種苗新設

農書。農用高等器械。蠶具。幻燈。種苗類 ◉定價表は往復端書にて呈

青年農會報

毎月一回 見本參錢

右一ヶ年分郵税共參拾錢毎號拾部以上取纏は十二冊郵税共廿五錢

○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(三版)
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
●第四煙草害蟲タバコノアヲムシ(煙草螟蛉)
●第五稻の害蟲イチモジセヽリ(苞蟲)
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姬象鼻蟲)
●第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)
●第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ(螟蛉)
●印は既版の分

●第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
●第十豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盜蟲)
●第十一桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
●第十二稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
○桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗螽)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アヲハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)
○印は逐次出版の分

◎圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
◎壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
◎百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

◎豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢
但申込の際前金添附の事

圖解代金　凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用一割增の事

右害蟲圖解第一より第十二迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解說を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

恭賀新年

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所
所長 名和靖
助手 名和梅吉

明治三十四年一月一日

第一回全國昆蟲展覽會

右は當昆蟲研究所主催となりて來る三十四年四月十六日より三十日間當所に於て第一回全國昆蟲展覽會を開設する筈なれば廣く出品あらんことを希望す　但詳細なる規則書は昆蟲世界第四十一號の雜報欄内に掲載しあるを以て附て見らるべし

明治卅四年一月

名和昆蟲研究所

◎昆蟲標本發賣廣告

農作物害蟲標本　壹組（桐箱入解説付 金四圓五拾錢）
同　益虫標本　壹組（桐箱入解説付 金參圓五拾錢）
教育用昆蟲標本　壹組（桐箱入解説付 金四圓五拾錢）
自然淘汰標本　壹組（桐箱入解説付 金五圓五拾錢）
雌雄淘汰標本　壹組（桐箱入解説付 金五圓五拾錢）
氣候變形標本　壹組（桐箱入解説付 金四圓）

壹組の荷造費貳拾錢郵稅百里迄廿錢百里外四拾錢

當昆蟲研究所は專ら昆蟲の研究標本の調製に從事せんが爲め豫て諸般の設備に汲々たりしが今や準備も畧ぼ其緒に就き廣く江湖に向て本所を紹介するの運に至りたるを以て更に規摸を擴張し前記の標本並に學術的裝飾的に屬する昆蟲標本の調製を應諾せんとす特に害蟲驅除豫防法に依り各府縣に於て定められたる害蟲類を始め各種の學校に適當なる昆蟲標本は本研究所が多年獨得の技倆に依りて之が調製を爲し多少に拘らず貴需に應ずるのみか其調製の如きも掛額柱懸等ぞ御希望に依り種々美術的に調製をなし以て昆蟲思想の發達を圖り公益に資する所あらんとす本所長名和靖は曾て第三回内國勸業博覽會に於て出陳の昆蟲標本に對し有効一等賞を得其第四回に於ていも進歩一等賞を得たり標本の精美と調製の緻密なるは世自ら定論あり今復茲に之を謂ふの要なし幸に愛顧を垂れ陸續御注文の榮を賜へ

發賣所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

(明治三十四年一月十五日發行)

昆蟲世界

(毎月一回十五日發行)

第四巻第四十一號

◎昆蟲世界第四拾號目次

◉岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演説に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上

但該會へは縣の内外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

明治三十四年一月

名和昆蟲研究所内

岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し

第二十六回月次會(二月二日)
第二十七回月次會(三月二日)
第二十八回月次會(四月六日)
第二十九回月次會(五月四日)
第三十回月次會(六月一日)
第三十一回月次會(七月六日)
第三十二回月次會(八月三日)
第三十三回月次會(九月七日)
第三十四回月次會(十月五日)
第三十五回月次會(十一月二日)
第三十六回月次會(十二月七日)

第二十六回月次會は二月二日に開會す精々御出席を請ふ

市街界 案内道 町道 研究所 縣廳 病院 中學校
ホ監獄 ヘ郵便局 ト西別院 チ公園 リ長良川 ヌ金華山 ル停車場

◉名和昆蟲研究所案内

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町

名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部 郵税共 金拾錢

壹年分拾貳部郵税共 金壹圓八錢

(見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す)

(注意)本誌は總て前金に非れば發送せず◎爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◎郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付き金拾錢三十一行以上一行に付き金八錢とす

明治三十四年一月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二
(岐阜縣岐阜市京町)

發行所 名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二
發行者 名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戸
編輯者 桑原貫之助

同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戸
印刷者 河田貞城

(大垣西濃印刷株式會社印刷)

Vol.V. FEBRUARY 15TH, 1901. No.2.

(二月十五日發行)
(毎月一回十五日發行)

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

第四拾貳號 (第五卷第貳冊)

目次 (禁轉載)

(明治三十四年二月十五日發行)
(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金壹圓也　第六回全國害蟲驅除講習修業生　和歌山縣　中上直吉君
一磁石(蝶摸様付)一個　大阪府　栗山昇平君
一中央新聞(昆蟲記事掲載)一葉　長野縣　小出保君
一勸業臨時報告(昆蟲記事)一冊　岩手縣　小山幸右衛門君
一人民(昆蟲記事)一葉　東京府　佐藤順造君
一玩具(胡蝶回轉)一個
一玩具(トンボ)一個　岐阜縣　土岐銕三郎君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲けて厚意を謝す

明治卅四年二月

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎昆蟲展覽會寄附金受領公告

當所主催と成り本年四月を期し開設する第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金貳圓也　第三回全國害蟲驅除講習修業生　兵庫縣　大西忠太郎君
一金壹圓也　第二回岐阜縣害蟲驅除講習修業生　岐阜縣　佐藤正雄君

明治卅四年二月

岐阜市京町　名和昆蟲研究所

第七回全國害蟲驅除講習會に付急告

講習會員募集中の處申込期限前**滿員**となれるに依り今後の申込は第八回の分に繰下ぐ

尚開講は三月一日午前九時の豫定なれば先に確定會員名簿に登載濟の通知を受けられし會員に限り遲くも本月廿八日までに來會あり度し

明治卅四年二月　名和昆蟲研究所

◎第參回懸賞昆蟲寫生畫募集

課題　**昆蟲**(昆蟲類なれば何にても宜し)　募集(本年四月十五日限)

賞品(自第一等至第四等)　發表の際これを定む

我國教育界に於て臨本に依り圖畫を習得せしむる爲め一般學生に實物寫生の練習少なきを憂ひ昨年來二回の懸賞畫題を提出せしに幸に好果を擧けたるを以て更に第一回全國昆蟲展覽會の附屬事業として茲に全國の學生に向つて大募集を企畫せり續々投稿を賜へ

大募集規定

鉛筆畫又は毛筆畫、輪廓線、光線附又は着色畫となすは適宜、用紙及其大小は適宜但壹枚壹圖に限る、可成は實物大を貴ぶと雖も、小形のものは放大圖にするも又は昆蟲に植物を添ふるも共に妨けなし、其繪畫は實物を臨本として自寫せしものに限る、其用紙中に必らず蟲名、學校名、學級名、姓名及び年齡等を明記すること、一旦收受せる圖畫は一切返附せざること、最優等に屬する受賞畫は都合に依り木版又は寫眞銅版等に製して昆蟲世界誌上に掲載す

明治卅四年二月　名和昆蟲研究所

論説

◎蟲害地の地租免除に就て

粟を量りて舂づき米を數へて炊かすんば終に家國を治むべからず、然るを萬頃曠沃の嘉禾美穀を擧けて害蟲の口腹を滿たすに任す、焉んぞよく國郡の恐慌困憊を來たし因りて以て多量の外國產米を輸入するの愚を學ばざるの理あらんや、看よ此一事己に農作害蟲驅除豫防の急且要務なるを認むべきに、口に之を唱ひ而して躬に之を行ふの徒、寥乎聞ゆる所ろなきは蓋し是れ何たる故ぞ、吾人少さか疑ひなき能はぞ。

顧ふに昨春德嶋縣下の螟蟲被害地に地租優免の令を布かるるや、私かに農業の休戚、農民の性情及ひ國家の出納等より觀察を下してこの仁慈的施政は一新例を將來に遺すに止まらず其極或ひは一國の富力に關係を及ぼすなきやを危惧し、更に其得喪を學術の上より研鑽して嘗て之を紙筆に公けにせり、特に講習講話會席上に於ては極力害蟲驅除の必要を縷陳し以て仁政寬德の本旨を誤解するなからんことを懇示し、更になほ進んで害蟲驅除の事業は消極的に屬するも之を行へば必らず積極的の得益と相伴ふが故に、少額の經費を吝み濫りに之を斥ぞくべきにあらざる事を警告し、以て地租免除熱の漸やく四方に蟠延せんとするを未然に防止せし事實は讀者の疾に知悉せらるる所ろならむ、さばれ吾人は

素と微かに學術界の一隅に逍遙するに止まり彼の農政上の是非に論及して世人の注意を喚起し得べき奇驕の文字を臚列するの權能なきと、一般農家は敢て斯種の發令に關心せざるとの故を以て、親しく其利害を國民の判斷に仰くに至らざりき、隨うて地租免除の禍根を永久に絶滅するの方策即はち完全なる害蟲驅除法を博く攻究せしむるに到らずして已みぬ、惜ひ哉。

史を按するに、大寶元年より近く文政十一年に至る千百廿餘年間に我國民の飢饉風火水旱獸蟲害その他の妖災に襲はれしこと無慮三百回、これに私史家記に散見の凶變を綜合すれば前後約ろ五百回に下らざ、中に就き蟲害に關するもののみを擧ぐるも猶よく拾八回を算し、其慘狀殊に太甚しければ乃はち租庸免除の恩典に浴したりき、但當時は交通の梗塞、國民の迷信等より記事茫漠に過ぎ統計正確を缺き、細かに此間の消息を今日に傳ふるもの無く纔かに六十三年弱に一回の被害を示すに止まれり、是れ吾人の讀者とともに最とも遺憾とする所ろなり。

夫れ此くの如く我國既に蟲害地免租の先例あり、之を今時に襲用する何の不可なきが如しと雖ども、若しあらゆる驅除の方法手段を講じ、壯者は力竭きて田疇に露臥し、老幼は食盡きて土砂を咀むの悲慘に陷いれる收穫皆無の被害地に限り、之が地租を特免するに非ずんば、或ひは恐る、一種の弊惡を此間に胚胎せんことを、そも吾人が強て此議をなす所以の眞意は徒らに無辜の貧弱を酷遇薄待せんと欲するに出てたるにあらず、要は自勤自助の美風を涵養せしめて、彼の爛腸の食に飽きなから飢渴を有司に哀請し、狐腋の裘を着けながら沍寒を隣人に泣訴するが如き非禮隨行の敢て農者に無からんことを期するがためのみ、假りに多少の病蟲害發生することありとも、中古未開の世と異なり今や學理開け器具整のひ驅除豫防を講ずる途に於て稍缺くる所ろなし、將た何の足らざる所ろありて爾く卑む

べきの依頼心を長しいいに保持せんとするものか、況んや國費多端、税源涸渇の秋なるに於てをや。
吾人は恒に恰當の時期に於て協心戮力以て驅除豫防を行へば、害蟲必らずしも大害を加ふるものにあらざるを知り、又害蟲驅除の爲めに嚴令苛法を施かるるか、若くは之が爲めに當路の保護を乞ふが如きは、寧ろ農家無上の恥辱なるを以て、苟くも此等の弊竇れ斷然矯正せざる可からざるを確信し、此意見を貫徹せんが爲には從來多少の酸辛をも辭せざりき、即はち之を換言すれば先づ農者の意思を牢固にし、次で國家の慶福を圖らんとするに外ならざるなり。
頃者、端なくも畿內の某所及び西南の某縣に於て德島縣の前轍を踏み將に蟲害地地租全免の請願をなさんとするの議ありと聞き、吾人は平生の所信に照らし轉た感慨に堪へざるものあり、爲めに此の一文を草す、語に聽く、良農は水旱の爲めに耕さずんばあらず、良賈は折閲の爲めに市せずんばあらず、と同志の士深く省慮する所ろなかる可からず。

草鬱則爲レ腐。樹鬱則爲レ蠹。人鬱則爲レ病。國鬱則百慝並起。（亢倉子）

◎カマキリタマゴバチ(Podagrionsb・)の研究 （第二版圖參看）

在農商務省農事試驗場　中川久知

カマキリの卵を採り洋燈のホヤの中に貯へ置ときは五六月の頃數多の寄生蜂出て來るものあり、此蜂

はカマキリの卵中にて幼蟲時代を越冬したるものとす、何となれば前年より取り置たる卵より出るを以てなり、余は此蜂をカマキリタマゴバチと名け、左に記載を試み其所屬を定めんとす、尤とも此蜂は寄生蜂なれども有益なるカマキリに寄生するが故に害蟲なるや論を待たず。

（体長）

雄	雌	産卵器
4.3	4.0	5.5
4.0	4.0	5.3
4.0	4.1	5.5
4.1	4.0	5.7
3.9	4.0	5.8

（ミメを單位とす）にして雌雄共に大差なし而して産卵器は身体の長さよりも長し。

是より身体の諸部に就て記載するに方り先づ雌に就て述べ、終りに雄に於て雌と異る所を説くへし、仍て雌雄を特更に掲げざるものは總て雌の事に就て記したるものと知るへし。

（頭部）　全体を背面より見る時は頭部の前縁は多少凹めり、これ顔面の中央より額部に位ゐする中央小眼の下まで凹みあるによる（第二版二、三圖）而して此凹みの下端に觸角を着け、左右の觸角の根基は短かき隆起物によつて分隔せらる（第三圖）、大眼は毛を被らず、小眼は三個ありて中央のものは前方に向ひ、左右のものは孰れも外後方に向へり、觸角は雌雄共に同形にして莖節（第六圖S）は中央の小眼に達し、柄節（同圖P）は長形にして繋節（同圖F）は八節より成り第一節は小なり、然れとも環狀をなすに至らず、第二節は最とも長く第三節より遞次長さを減ず、棍棒狀部（同圖Cl.）は不明瞭なる三節より成る、同部に於て大顎は左右共に末端に三齒ありて（第五圖）小顎鬚は四節下唇鬚は三節を有す、而して孰れも中央の節は本末のものより短かし（第四圖A小顎鬚B下唇鬚）頭部は一般に針にて突きたる如き凹みあり之を針痕とす、但顔面に至れば漸やく鱗狀をなす、又眼を除き全部毛を被ふれり。

（胸部）　胸部は僅かに頭部よりも幅廣くして毛を被ふり、前胸は稍々四邊形にして前後徑は左右徑よ

も短かく（第二圖及第七圖p.t.）中胸前板（第七圖s.c.）は前外方より後内方に向つて斜走する二溝によつて三區に劃され、中央は單に中胸前板と稱すれども、左右は側葉と名く、中胸後板は著しく突起せず總て胸部は毛を被ふり、針痕を印するも中胸後板（第七圖sct）は針痕少しく疎大にして鱗狀をなさんとする傾向あり、而して中胸後板の後縁には稍方形なる凹みを一列に排置す、帶狀部即後胸（第七圖fr）には中胸後板の後縁に列するものと同形にして稍大なる凹みを排列す、其次に位ゐする部分は素と腹部の第一環節の胸部に進入して其構成に加はりたるものにして、之を中央環節と名け（第七圖ms）隆起線によりて左右後の三區に分たる、其左右兩區にある紋理は一見疎大なる網狀をなすが如きも、熟視すれば此網眼中に更に小なる網狀の紋理あり（圖には右小紋理を省く）又後區の紋理は極めて小なり、左右兩區には一個づつ氣孔を具へ（同圖st）孔は俵形なり。

（翅）　翅は雌雄共に完備して前翅には翅根より翅端に向ふ暗色の帶あり、亞前脈（第二版八圖sc）は外端屈折して前脈（同圖co）に繋がり前脈は枝脈（r）を分ち、外脈（pm）は短くして殆んど枝脈と同長なり（第十圖rをpm比較すべし）而して枝脈の末端は翅の外端を距る事遠く畢れり、後翅は根基の前側に小なる暗色部あるのみにて他は透明なり、脈の末端に位ゐする棘は三個ありて内方に位ゐする一個は外方の二個の棘と方向を異にせり。

（肢）　肢は常の如く三對ありて後肢は腿節著るしく大きく、後縁に七個の齒狀突起あり（第十三圖）脛節は弓狀に曲り足節は五節より成り、其第一節は他より少しく長きのみにして別に異狀を呈せず（雄に於ては大に異りたる所あり後に記す）。

（腹）　腹部（第十二圖）は六環節を明瞭に見るを得べし、六環節中第一と第四は他の諸節よりも著しく

長大なり、而して第一第二環節は後縁の正中線に沿ふて深き缺刻あり、第三第四環節は淺くして廣き凹みを有す、産卵器は腹部の腹面より後方に挺出す。

(着色) 全体概むね黑色なれども、左の諸部は着色を異にす。

觸角(棍棒狀部は暗色にして黑色に近し)腹部の腹面、肢の基節の末端、回轉節、脛節足節の第一乃至第四節、産卵器の中在片は赤黃色を呈す、尤とも足節の三節は少しく暗色を帶ぶ。

(雄) 後肢の腿節、後縁の歯狀突起は四個にして、足節は三双肢共に根基に位ゐする一節は側面より見れば頗ぶる幅廣し(第十三圖)着色に於て雌に異なる處ろは腹部の根基部の赤黃色を呈するにあり。

今 Dalla Torre 氏の膜翅類全書を閲するに小蜂科を三十六亞科に分ち、Foerster 氏の膜翅類研究及び Hymenoterologishe Studien と題する書の二卷を見るに、氏は小蜂科と卵蜂科を合一して Pteromalini と稱し、足節の數五個なると四個なると三個なるとによりて三區に分てり、本種は元より氏の足節五個を有する區に屬する事は明らかなり、而して Foerster 氏は五個の足節を有するものゝ中にて腿節肥大なるものと否らざるものとに區別し、其の肥大なるものを更らに二亞科に分てり、即はち Leucopsidinae, Chaleidinae これなり、

(甲)は翅を靜止する時に於て翅を縦に折るも、(乙)は翅を折らずと云へる點を以て區別せり、今此二亞科を Dulla Torre 氏の書に對照すれば、Chaleidinae は其第三十五亞科、Leucobsidinae は其の第三十六亞科に相當す、又 Foerster 氏の書及 Howard 氏の北亞米利加 小蜂科の記載 Descriptions of North American Chaleid. と題する書を見るも本屬に相當する屬を擧げず、唯 Howard 氏は一書に蟷螂の卵に寄生するものは Podagrior 屬のものなるに事を說けり、玆に於て再び Parmor religiosum 氏の著書

を繙き同屬の事を記したる參考書を調査せしに其主要なるものは Westwood 氏が千八百四十七年よ倫敦昆蟲學會報に寄せたるパルマン屬の作用及同屬諸種の記載 On the Economy of the Genus Palmon of Dalman with Descriptions of some species belonging there to と題したるものなる事を知るを得たり、蓋し Palmon は Podagrion の異名なればなり、仍て同書を調査せしよ其一種 Palmon は Podagrion の異名なればなり、更よなは同書を調査せしよ其一種 Palmon Religiosus に一圖を付しありて本種と同屬なる事は疑を容るゝ所ろなし然れども腿節の齒狀突起の數其他に於て本種と異なり、又同氏が Palmon の亞屬として Pachy tomus Klugianus なる一種を擧けたるを見るに其記載は腿節の齒狀突起の數及足節の第一節が扁濶なりと云ふ点よ於ては本種の雄よ符合すれども、着色の点よ於ては多少の差あるのみならず、該種は埃及國に產するものなれば未だ標本若しくば圖を見るにあらざれば容易に同種なる事を定め難し、要するよ本屬の諸種を記載したる書に於て未た本種の如く雌雄が足節の形狀に於て異なる事を記したる文を見るざを以て Westwood 氏は唯、雄のみを得て新亞屬を設けたるよ過ぎずと云ふべし、故に種名は未定として後日の調査を待つことゝせり。

第二版圖解

●第一圖　カマキリ乃卵塊(自然大)●第二圖　カマキリタマゴバチの全体圖P前胸　Dv産卵器(廓大)●第三圖　頭部を前方より見る　E大眼 Dc中央小眼 Dc'左側小眼(二十四倍)●第四圖　鬚　A小顎鬚　B下唇鬚(八十倍)●第五圖　大顎(三十三倍)●第六圖　觸角　S莖節 P柄節 F繋節 Cl棍棒狀部(六十倍)●第七圖　胸部　Pt前胸 Sc.中胸前板 Sct中胸後板 Te鱗狀板 Fr.帶狀部即後胸　中央環節 St氣孔(三十三倍)●第八圖　前翅　Sc亞前脈 Co前脈 R枝脈 Pm.外脈(三十三倍)●第九圖　後翅(三十三倍)●第十圖　枝脈と外脈との比較 R枝脈 Pm外脈(八十倍)●第十一圖　脈の末端に位する棘(八十倍)●第十二圖　腹部 1.環節 6.第六環節(二十四倍)●第十三圖　後肢 Cx基節 T.回轉節 Fe.腿節 Dp腿節後緣に位する齒狀突起 Ti.脛節12345足節(二十四倍)●第十四圖　雄の後肢(二十四倍)

◎サンノゼー介殼蟲と我國貿易の關係

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

サンノゼー介殼蟲（San Jose Scale）は今を距ること二十年前北米合衆國加利福尼亞洲サンノゼー(San Jose）市近傍の果樹園に於て同國の昆蟲學者コムストック博士の發見に係りしものなるが、當時その害毒劇甚なりしより博士は遂にこれに有害介殼蟲の名稱を附して之を世に公にせり、即はち學名を「Aspidiotus Perniciosus, Comstock」と稱するもの是なり、爾來同國に於ては該蟲の研究に從事する昆蟲學者前後相踵で輩出し、各種の方面より之を調査せる結果、この猛惡恐るべきの害蟲は我が帝國より舶齎せる諸種の苗木とゝもに輸入せりとなし、乃はち我國を以て其原產地なりと認定するに至れり。

然るに同國コーネル大學に於て專はら介殼蟲の研究を遂げたる高階於菟治氏は千八百九十二年同國農務省昆蟲局の囑托を受けて歸朝し、本邦產介殼蟲數多を蒐集の上之を彼地に送附せしことありしに精細調査の結果一としてサンノゼー種を發見せられざりき、其後千八百九十五年に至り介殼蟲調査に有力なるアルベルト、ケーベル氏は本邦及び清國に來り復た該蟲の調査を行ひしもサンノゼー種は我國に存在せざる旨を報告をなし畢りぬ。

學者の調査報告及びその所說は以上揭ぐる所ろの如くなりしも、彼國政府は數年以前よりサンフランシスコ港に輸入植物檢疫所を設置し以て我國より輸出の植物果實は勿論、他の諸國諸島產のものをも最とも嚴密に點檢し、苟しくも介殼蟲又はこれに疑似の種類を檢出することあれば直ちに其輸入を禁止し、或るものに對つては被害植物消毒法を行はしめ、又或るものには燒棄法を施行せしめぬ現に去る三十年の如きはシャトル港に於て我國輸出の蜜柑に介殼蟲の寄生を發見せりとなし、當時の檢査官

とゴードウヰン商社の店員其他關係者の間に端なくも一場の紛爭を惹起せしことは本誌讀者の今なほ記憶に存する所ろなるべし（昆蟲世界第二卷第七號參看せよ）而して此檢査所開設後に至りサンフランシスコに於て我國產の苗木にサンノゼー介殼蟲の寄生せるものを發見せりとて、彼國人は一層我を目して其原產地となし、或ひは學者の講演に、或ひは文章に、其事を囂々論議して畢竟該蟲の母國視するに至りぬ。

夫れ斯くの如く米國に於ては現時熾んに我國を指して此の有害介殼蟲の母國と唱道するに關はらず、顧みて本邦當業者の態度を通觀すれば姑息偸安誠とに可憐の淵底に沈み、毫も自巳身上に痛痒を感知せざるもの丶如し、況んや國家の休戚に關する大事をや。

今や我國はこの害蟲のために唯り好得意を米大洲に失ふに止まらず、また將に歐南の一大市場より斥ぞけられんとす、看ずや、獨乙帝國は該蟲の侵入跋扈を怖るるの餘り既に業に之が害毒、分布區域及原產地等の調査に着手し、昨年我國產の輸出品に其附着捿息を發見せしを機會として、突然一の輸入禁止勅令を發布施行せしことを、而して此の勅令たる只纔かに果實の類を制禁するに止らず苟くも我國より彼國內へ入るべき草木及び枝葉類を包有すと云ふに至りては其影響する所ろ實に尠少にあらず、隨うて永年間經濟上巨額の損失を來たすや問はずして明らけし、思ふて此に至れば余は我國民の疎漫にして且無邪氣なるを悲しまずんばあらず、試ろみに昨年末の官報を把りて其外務省告示第四十四號を讀むに。

外務省告示第四拾四號

獨逸國に於て「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」の傳播を豫防するため本邦より輸出する草木及新鮮なる其枝葉類竝に之が包裝又は、貯藏用に供したる樽、箱及其他の物品の輸入を禁止し又新鮮なる果實類竝に其包裝用に供したる物品にして其輸入地

に於て施行する檢査に際し「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」の存在を確認せらるゝ限は其輸入を禁止する旨本年八月六日の勅令を以て公布せられたる趣本邦駐剳獨逸國臨時代理公使より通牒ありたり

明治三十三年十一月十日　外務大臣　加藤高明

此の不祥忌むべきの告示に次ぎて駐獨本邦公使の通報及び禁止勅令の全文を以てせり、尤も這般の事實たる事甚はだ輕微なるが如きも之を小にしては實業發達の機鋒を抑壓し、之を大にしては一國の榮辱に關するが故に、所謂禁止勅令なるものに對し一二批評を加ひてその妥當ならざる事由を陳べんことを欲すと雖も、惜ひ哉、本誌は未だ政事を是非するを允されざるを以て余は緘默を守り茲にはその關係文を轉載するに止むべし、讀者は之を一讀過の後瞑目一番深く我國の現情に鑒みて其得失曲直を判斷せよ恐らくは思ひ半ばに過ぐるものあらむ。

○獨逸國へ本邦產草木及其枝葉類輸入禁止　獨乙國に於ける本邦產草木及其枝葉類輸入禁止の件に附き本邦駐剳同國臨時代理公使より左の如く通報あり依て之を譯載す（外務省）

日本國より輸送せられたる五種の植物に對し正確なる檢査を施したる結果「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」の存在することを確認せられたるに因り本年一月及二月中漢堡に於て右植物を抑留せられたり

右植物の出所が日本に相違なきことは途中に停留せられずして直接日本より到達したる植物の種類日本固有のものに屬せることに依り明瞭なり

又害蟲傳播或は輸送の途中に於て起りしものにあらざるかとの推測は右植物に於て發見せられたる蟲の狀態よりするも將た右植物を容れたる箱內の包裝の有樣よりするも爲し得べからざることなれば其害蟲は日本國に於て旣に發生し居りたるものと思考す且つ又日本に「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」の存在することは獨逸帝國衞生局の意見書に依るも將た又漢堡植物館の報告書に揭載せられたる米國の植物探究者の記事に依るも判然明確なるを以て本國政府は本年八月六日左記の如く日本國產の草木及新鮮なる其枝葉類は「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」傳播の虞あるがため其輸入を禁止し並に新鮮なる果實類の輸入に對しても或る制限を加ふべしとの勅令を發布せられたり

勅令

天佑に依り獨逸國皇帝孛漏生國皇帝等朕ウヰルヘルム茲に聯邦參議院の協贊を經帝國の名義を以て左の通命令す

第一條　「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」の傳播を豫防するため當分の内日本國より草木及新鮮なる其枝葉類並に之が包裝又は貯藏用に供したる樽、箱及其他の物品を輸入するを禁止す

日本より輸送したる新鮮なる果實類並に其包裝用に供したる物品にして其輸入地に於て施行する檢査に際し「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」の存在することを確認せらるゝ限は前項と同樣其輸入を禁止す

前掲の貨物及物品にして船舶に積入れて陸揚せられざるものに對しては右禁止を適用せず

第二條　帝國宰相は右禁止の例外を許可し且つ必要なる保全方法を示定することを得

第三條　帝國宰相は右輸入禁止の範圍を擴張して「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」の存在を證明せらるゝ處の他の領土にも及すことを得

第四條　本令は其發布の日より實施せらるゝものとす

右證據として朕茲に親しく名を署し璽を鈐す

千九百年八月六日

ピーレフエルドに於てウヰルヘルム

然るに本年に至り吾が外務省の重ねて公示する所ろに從へば、獨國は他に見る所ありしにや更に除外例なるものを布きたりと云へり、今單に除外例とし云へば固よりあるものを除外に置くの法規なれば聊さか我國實業のために賀すべきが如くなるも、其本文を熟讀するに迨んで決して甘心すべきものにあらざるを知れり、蓋しこの感想は啻り余が一己の說に止まらずまた一般讀者の輿論なるべしと確信す、その規定に曰く。

外務省告示第一號

獨逸國に於ては「アスピヂオーツス、ペルニシオーズス」傳播の危險に對する輸入制限に關する勅令（三十三年十一月十日外務省告示第四拾四號參照）中除外例を設け左の區別に從ひ取扱ふ趣本邦駐劄同國臨時代理公使より通牒ありたり

（甲種）全然輸入を禁止すべき植物　各種の樹木及其部分（截斷したる枝等）其他此等樹木の種子、嫩苗、嫩枝及截枝等とす就中特に注意すべきは各種の果樹即ち林檎、梨、榲桲實、櫻實、梅、杏、巴旦杏、胡桃（「カリヤ、オリウアルフオルミス」）、棗（「ヂオスピロス、ウヰルギニアナ」）柿、支那榲桲實（「ヂオスピロス、カキ」）其他各種の裝飾用及要用樹木殊に菩提樹、楡、赤楊、柳、「アカチーン」桑樹（マクルーラ、アウランチアカ）及針葉樹並「ヒムペーレン」、「ブロムペーレン」、「ヨハンニスペーレン」、「スタ

ヘルベーレン」及其類似の植物、各種の葡萄樹、「エウオニムス」、白刺山櫨、白荊蕀、薔薇、「スピレーン」、「コトネアステル」、「チドニア、ヤポーニカ」

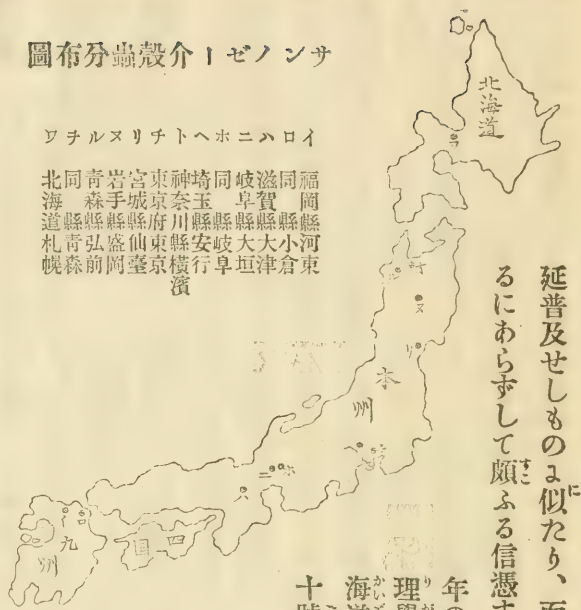
（乙種）豫め檢査を施すを要せずして輸入を許可すべき植物　各種の水中植物及其部分其他各種植物の地中に在る部分例へば、球葱及地中に成長したる莖（嫩芽の發生し居るも）の部分（リッオーメン）但甲種の部類に屬せざるものに限る

（丙種）檢査の上「アスピヂオーッス、ペルニシオーズス」の害なきものと認むるとき輸入を許可すべき植物　甲種の部類に屬せざる陸生植物及其部分並其種子及嫩枝等にして專門家の檢査を經て滿足なる好結果を得たるもの

前三種の植物中二種以上を合裝したる輸送物の取扱は其種類中最嚴の取扱を要するものに從ふ

明治三十四年一月九日　外務大臣　加藤高明

此有害恐るべきサンノゼー介殼蟲の一たび獨乙國に發見せらるるや其斷乎として苛嚴の處置に出たる此くの如く、而して米國の我國に對する擧動また己に彼が如し、豈に之を輕々看過することを得んや余は切に望む、國利民福のために當路者は片時も速かに該蟲に對する方針を立てられ、我國は果して米國の主唱せしが如く其母國なるや否やを調査し其成績の如何に因りて恰當の處分を施かれんことを、之を要するに最初米國が本邦產一二の植物にその痕迹を留めたると一地方の通信を例證として、原產地若くは母國の名稱の下に直ちに我國を排斥し去らんとするが如きは素と推測臆斷に出でたる失當の處置と云はざる可からず、特に除外例なるものは我國より輸出すべき果樹盆栽類を擧げて殆んど全たく拒絶せしに異ならざれば、一國の經濟上より打算して非常の厄災を被ふりしは勿論、若し長く之を放任するに於ては米國を始め其他の各國も亦同一の待遇を與ふるに至るへきは炳乎火を觀が如し、假りに此想像にして他日の事實たらしめんか、本邦と外國貿易の上に遠からず一大變動を來すこと莫しとなさず、豈に寒心の至りならずや。

更に之を內に顧りみて現時我國に於ける此の有害サンノゼー介殼蟲の分布を見るに、殆んと全國に蔓

延普及せしものに似たり、而して其事實たる余が俗耳を駭かさん爲めに作爲せるにあらずして頗ふる信憑すへき調査の結果たるに外ならず、乃はち昨三十三年の夏季に米國スタンフォルド大學介殼蟲專攻の桑名理學士の歸朝せられて、西は九州より東北は青森、北海道に至る分布地區間を調査せしに、本誌第四卷第四十號に收錄せる報告と、之に添附せる上記の分布圖の如き有力なる證徵を獲たるに依る、但同氏は脚未だ四國の地を踏まざりし故を以て圖中四國に於ける被害地を缺きたりと雖ども、同地方また之が爲めに慘狀を來せしは客冬本所に開催せる第六回全國害蟲驅除講習會に列したる伊豫國溫泉郡興居島村の果樹栽培家田村晴太郎氏が遠路齎らし來れる苹果の枝條を該蟲の滿面被覆せしに徵して昭らけし。（未完）

サンノゼー介殼蟲分布圖

北海道
本州
四國
九州

イ	福岡縣河東
ロ	同縣小倉
ハ	滋賀縣大津
ニ	岐阜縣大垣
ホ	同縣岐阜
ヘ	埼玉縣安行
ト	神奈川縣横濱
チ	東京府東京
リ	宮城縣仙臺
ヌ	岩手縣盛岡
ル	青森縣弘前
ヲ	同縣青森
ワ	北海道札幌

◎カーペンター氏の昆蟲書に就て（Insects Their slrugture and life by George H. Carpenter）

在米國　米國理學士　桑名伊之吉

近頃本邦にて昆蟲書の續々出版せらるゝは斯學界のため歡喜に堪へざる所ろなり、就中、その著るし

きものを擧くれば佐々木理學博士の「日本農作物害蟲篇」あり松村農學士の「日本昆蟲學」及ひ「日本害蟲篇」あり、名和氏の「薔薇之一株昆蟲世界」あり、此等の書冊は皆著者の博識と多年の經驗とによりて目下斯學研究上一日も忽緒に附すへからざるの秋に當り、其の楷梯たらんことを努めたるものなれば、初學者のこれによりて昆蟲學の大意を窺ひ得るは洵に容易の業に屬しまた一邦文昆蟲書なかりし昔日の比にあらざるなり余等後進の徒豈に深く諸氏の勞を謝せざるへけんや。

然れども昆蟲學のものたる其範圍極めて廣くして一人の力を以て能く其全體を研究し得ざるや勿論、其大體をすら一書の能く之を叙述せるもの世に尠し、例へば佐々木博士及び松村學士の害蟲篇は共に純粹なる農用昆蟲書にして松村氏の「日本昆蟲學」は單に系統的日本昆蟲學の一端を概述せしものに過ぎず、名和氏の「薔薇之一株昆蟲世界」また薔薇樹に群棲せる蟲類を主人として、これに聯繫せる自然界に於ける生物相互の關係をば最と興味深く且平易に說明せるものなり、故に此等の書籍によりて斯學上得る所ろ頗ふる多大なるには違はざるも、未だこれを以て昆蟲學の一般を修むること能ふと云ふ可からず、言ふまでもなく著者等もまた始めより之を望まざりしならむ。

若しそれ昆蟲學の一般を學ばんと欲せば必ずや横文の書冊に籍らさる可からず、而して横文の書たる其類頗ぶる多きを以て初學者は之が選擇の困難を感ずべし、現に近世無双の一大著書とも云ふべきコムストック氏昆蟲書にして尙ほ且、系統的(Systematic)及び配布的(Ecologic)に傾くの恐れあり、パッカード氏新昆蟲教科書に至りては專ら昆蟲の狀態、生理及ひ發生學をのみ記載せり、それ幾多の書類殆んど斯くの如し、昆蟲學一斑を網羅せる良書の世に寥々たる以て知るべきなり。

唯カーペンター氏の昆蟲書は紙數僅かに四百頁の一小册子たるに關はらず現今斯學界に於ける一良書

にして以て初學者の指南車とするに足れり、そも該書は都合六章の間に昆蟲の形態、生理、經過を述べ終りたる後少しく發生及び第二發生に說き及ぼし、その分類の項に於ては各科の習性特質を畧述し、續で昆蟲と外界との關係を論じ、最後に昆蟲系統を解說し、加之も簡單なるも善良なる參考書を列記せり、此に於てか余は實に此書こそ生物研究の大要を包括せりと評するも不可なきを信するなり。

凡そ昆蟲には形狀の小なるものありて人目に觸るゝものは比較的少數なるも、其種類の多き實に他動物を併有せしよりも尙夥多なりとす、隨うて之に關する材料また甚はだ少なきにあらず、而してカ氏が數十百の材料中より恰當のものを選拔して數百頁に配列するに當り繁簡序列その宜しきを得たるより見來れば氏には斯學上絕大の素養を存するを察するに難からず。

昆蟲學上最とも困難を感ずるは各家の分類法の相一致せざるに在り、例へば甲は七類法を主張し、乙は十五目に依り、丙は十九目に細別するが如し、而してカ氏は十五目法に從がひ各科にその特性を記し初學者をして一目の下容易に之を識別せしめ、又昆蟲と外界の關係を論するや奇異なる習性を擧げ寄生蟲の實業家を益する事例を示し、次で防禦的及び懲戒的設色の理由を細說して之が配布に終れり特に此書の異彩を放つは發生及び第二發生學を設けたるの一事にして是は未だ曾て他の昆蟲書に見ざる所ろとす、要するに余は本書の初學者及び教職にあるの士の座右缺くべからざるの一小冊子たることを疑はず。

◎第二十世紀を迎ふ（續）

岐阜中學校教諭　長野菊次郎

抑そも昆蟲を以て人類に比較せんか、その大さより言へば實に九牛が一毛のみ然れども其數に至りて

は幾千萬倍なるやも測り知る可からず、況んや彼が多量の食餌を貪ぼると、迅速の生長を遂ぐると、特にその蕃殖力の强盛なるに至りては殆んど豫想の外にあるに於てをや、マルピギー(Malpighi)氏は言へり、蠶は屢一日中に己の身と同一の重さある桑葉を食ふと、レオームル(Reaumur)氏は甘藍に棲む所ろの螟蛉を量りて之に與ふるに彼の躰の二倍に値ひする甘藍葉を以てせしに、廿四時間以内に於て之を喰ひ畢り而して此際彼の躰は其十分の一を增加したる事を實驗せり、試みに思へ、十六貫の重さある人が一日間に三十二貫の食料を食ひ、而して一貫六百匁を增加せりと言はゞ之を事實として認め得べきや否やを、又リンニウス(Linnaeus)氏は言へり、三疋の蠅より生じたる仔蟲は實に獅子が食ふと同一の速力を以て死馬を食ひ盡し得べしと、又一回の生殖に於て九十の仔蟲を產すべき一疋の雌蚜蟲は第八回の生殖に於て 441,461,010000000 の大數を生ずるに非ずや、嗚呼世界の人類は其數十四億に餘る敢て少しと云ふ能はずと雖も。彼等は唯哺乳類の一種たるに過ぎず、世界の動物四十萬種に近くして其三十萬種は昆蟲の占有する所ろとあり、而して彼は非常の繁殖力を有して無限に其數を增加すると同時に、彼は復た非常の貪食者なる事を思はゞ、吾人は實に、生存競爭場裡に於て昆蟲てふ大勁敵を有することを恐れずんばある可からず、否寧ろ悲しまずんばある可からざるなり、然り而して此勁力優勢なる昆蟲に向ひて敗を取らんか、假令他の一方に於て勝利を得ることありとも損失相贖はざるや明かなり、加之動物界中同一の種族に隷する人類間の競爭に敗北するは或ひは當然の理由存することあるべしと雖ども、下等の位置にある昆蟲の爲めに敗を取らんこと吾人の耻辱此上やあるべき、然れども事實は常に之に反せり、例へば他國の侵擊に對する海陸軍の設置計劃には巨大の費額を投して十分の準備をなせるに關せず、昆蟲の侵害に對する防禦は實に微々たるものにあらずや、人權の

侵害に對しては司法行政等の機關ありて安全に之を保護する方法確定すれども、昆蟲の跋扈に對しては其處置實に緩慢なるに非ずや、思ふてこゝに到れば殆んど世人の大多數が同類間の競爭にのみ全力を注ぎて、外界に對する觀念の甚はだ薄弱なることを嘆ぜずんばあらざるなり、

嗚呼、物質的の進歩は駸々として其際限を知らずと雖ども未だ蒸汽、電氣等の强力を用ゐて一擧に害蟲を撲滅すべき方法發見せられず、一部分或ひは一局部の驅除敢て其効なきにあらずといへども、畢竟姑息の方法たるに過ぎず、要するに害蟲を殄滅して萬民の安全を計るは國民一致の力を要するより急なるはなきなり、希くは本誌を愛讀せらるゝ三千有餘の諸君、天下の士民に諭すに昆蟲の如何なるものたるかを以てせられ、世人をして昆蟲の撲滅せられざる限りは吾人は決して幸福を求め得べきに非ざることを了解せしめられんことを、世人が昆蟲思想を以て滿たされ、輿論か昆蟲の聲を以て高まる曉には國家は、國庫の大半を費やすに至るも害蟲殄滅の策を講ぜん事明々瞭々又多言を要せんや

今や第十九世紀の日光は昨日の夢と化して世は既に第二十世紀の光輝に浴すれども、野邊の草葉未だ嫩芽を發せず、簷端の梅花未だ蕾を破るに至らず、温暖なる時候には樹木を害し穀菜を損せし害蟲等も、或ひは木の洞に、瓦礫の下に、草の根に、土の裡に蟄居して靜かに睡眠せるを以て、吾人は殆んど彼等が人類の大勁敵たることを忘れて無事平穩なる第二十世紀を迎ひ得たりと雖ども、春光一たびさし初めて氷融け霜散ずる曉に至れば、冬季に勇氣を潛め來りし昆蟲等は忽ち勃然として蹶起し、第二十世紀の初舞臺に一花咲せん勇氣を皷舞し如何なる激烈なる競爭を試むるか未だ知る可からざるなり、油斷する勿れ天下の士奮起せよ同感の士。

（結尾）

◎北米合衆國に於ける應用昆蟲學の進歩（續）

農商務省農事試驗場　財前鉚太郎

一、州立農事試驗場に於ける害蟲調査　北米合衆國各州に農事試驗場の設けらるゝに至りたるは千八百八十七、八年頃にして既に八十八年の春には略各試驗場の設備を完成せり之れと同時に昆蟲技師を任命して速に害蟲調査に着手せしめたるに同技師等の鋭意該調査に從事したるの結果は同年四月頃より續々各試驗場より害蟲調査報告として現出せり、今當時此等各試驗場に在りて害蟲調査に從事して調査報告書を世に公にしたる昆蟲技師を列擧すれば Crosman（アラスカ試驗場） Hulst（ニユーセシー同上） Morse（カルホルニア同上） Tracy（ミユシピー同上） Ashmead（フロリダ同上） Weed（オハイオー同上） Popenoe（カンサス同上） Perkins（ヴルモンド同上） Fernald（マサチユーセツト同上） Luger（シチツダ同上）等なり

此等昆蟲技師を始めとして當時各試驗場に在りて害蟲調査若しくば研究に從事せる技師等は皆科學的智識を有し、專ら應用的眼光を以て時機適切の攻究調査をなしたるが故に、其報告成蹟類は多く當時重要なる害蟲類に就き記述せるものにして、直接農家に稗益を與ふる所大なりき是故に農家も自から害蟲に注意し來り或ひは害蟲驅防成蹟を實地に施行し、或ひは農家自ら害蟲に關し實驗を試むるに至れり、之が爲め昆蟲技師等も農家の此等に關する實地經驗を學術的に研究調査して大に便益を得たるのみならず政府を始め各州に於て害蟲調査研究に關する經費を年々增額し、なほ補助金をも下付し、或ひは圖書室、研究室等を增設し、或ひは昆蟲技師に多額の補助金を與へて害蟲を調査研究せしむる等種々の設備經營をなせり、是れ實に北米合衆國の應用昆蟲學か進歩發達して世界斯學上に一異彩を放ちたる所以なり。

一、應用昆蟲學協會の建設　千八百九十年北米合衆國に應用昆蟲學協會の建設せられたるは、大に當國農學界に偉大なる進歩を與へたるものなりと謂はざるべからず、抑そも同會設立の主旨とする所は合衆國各州の昆蟲學者等毎年會合して相互の親密を計り、各自の斯學上に於ける意見及ひ實驗說を開陳し、又害蟲の驅除豫防法を討議し、以て相提携して合衆國に於ける應用昆蟲學の進步發達を計らんとするにあり、尙進んでは世界各國の昆蟲學者と氣脈を通じ相互の害蟲に關し研究調査したる成蹟報告類を交換し、以て協心同力世界斯學の隆盛を企圖せんとするにありき、而して先づ之は合衆國に於ける昆蟲學者の合同によりて開始せられ、漸次當初の主旨を貫徹するの運びに至らんとせり、是亦北米合衆國應用昆蟲學の進步發達に與つて力ある一の施設なりとす。

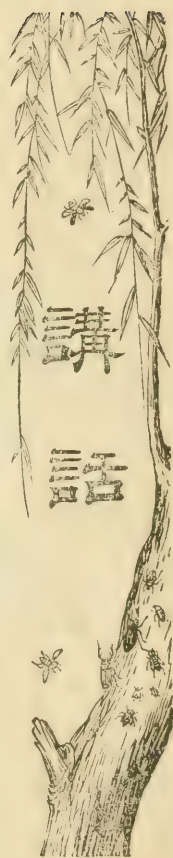
一、東方諸州にサンゼスケールの發見　（サンゼスケールに關しては三十三年六月刊行の昆蟲世界三十四號サンノゼ介殼蟲と獨逸を參照あれ）北米合衆國に於ける應用昆蟲學か今日の如く隆盛に赴きたるの原因種々ありと雖も、就中、サンゼスケールが東部諸州に發見せられたるが如きは其原因中の重要たる者と謂つべし、合衆國東方諸州にサンゼスケールの發生したるは千八百九十三年にして其始め同蟲は或不明の地よりカルホルニア州に輸送せられ、次で同州サンゼ市に發見せられたるに原由するものなり（千八百八十年頃）爾後次第に加州全部に傳播し延きて大平洋沿岸をも襲ひ、遂に北米全土に蔓延するに至りたり、而して同蟲が蔓延加害するに至りたる由來を討尋するに、千八百八十七、八年頃ニユーゼルシー州に住む無智の或苗木業者か心なくも同蟲が寄生し居りたる苗木を東方諸州に輸送したるに始まるもの丶如し、然れども同蟲の害毒が發生したるは輸送の當時より五、六年後即ち千八百九十三年なりき、次で六、七年を出でざるに東部は勿論中部各州に現出し來たり終に北部寒冷なる

地方を除くの外は何所にも發生加害を認むるに至れるなり。

サンゼスケール一度發生加害するや廣大の果樹園も枯衰凋落し夏猶は淒愴荒凉の悲景を呈せしむるに至る故に同蟲の發生は合衆國園藝界に大恐慌を與へたるものにして爲めに園藝家、果樹栽培家等は同蟲の害毒の恐怖すべきを絶叫し、昆蟲家亦之に和して同蟲の驅防の看過すべからざる事を説けり、於此乎世人の注目を惹き政府は同蟲に關して法律を布き、或ひハ驅防費を支出し、或ひは當業家等の同蟲に關する諮問會を開設し、百方之れが熄滅を企圖せり、又昆蟲家、實業家等は同蟲に關し孜々として調査研究に從事し或ひは報告書を公にし、或ひは驅防方法を設計し、又或ひは驅蟲劑を發明する等大に應用昆蟲學上に一新時機を與へたり、今や進んで此等の事項を陳述すべし　（完）

編者云ふ、此篇を盡ことく譯出する時はなほ數十葉の多きに至るへきを以て、他の明文卓説を收錄するの障害たるべしと信じ、これにて暫らく筆を擱く、去れどその殘稿ハ恐らくは某雜誌に現出するの日あるべしと思はる、看者幸ひに恕焉。

飛かふ蝶　我宿の春の花ぞのみる度に飛かふてふの人なれにける。　（後京極）

講話

◎全國昆蟲展覽會開設の理由（續）

名和昆蟲研究所長　名和靖

さて此第一回の展覽會は何處に開くかと申すと、是は岐阜で以て第一回は開くつもりです、第二回以後は愛知縣に御開きなさるとも、靜岡縣で御開き爲さるとも、何處でも一向搆ひませぬ、兎も角第一回は岐阜縣に開くのです、夫はどう云ふ譯かと云ふと明年は此聯合縣の物産共進會がございますから、其時機を利用したならば非常に宜かろうと云ふので、四月十六日より五月十五日迄三十日間開設する事に致しました、開設する方は實は余程混雜で迷惑を致しますけれども、御覽下さる方に取つては非常に宜かろう、如何となれば聯合の共進會へ御出でに成つた方が展覽會を御覽下さる事も出來るし、又全國から出品をするのでございますから聯合縣以外の人が展覽會へ必ず出席する、其人も又物産共進會を序に見る、斯ふ云ふ利益もございますから非常に煩雜と云ふ事は知りつゝも同時に開設をしやうと云ふ積りで居ります、夫等の事に就て詳細の事は昨日印刷にして皆御廻しゝて置いたのでございますから是等に就ては彼是申上げませぬ、それを御覽下さると大体を知る事が出來ます、但茲に私が特に諸君に御願ひするのは外では無い、今全國の講習生が二百名ある其内の殆ど半分は聯合五縣内にをるのですが、聞く處に依れば京都府とか、岡山縣とか、宮城縣であるとか云ふ聯合以外の縣がなか／＼出品物に就ては奮發をして居るので御ざいます、何れ廣く出品されるのでございますから隨分優等な物が出様と思ふ其時に聯合縣には殆ど出品物が無いとか、偶に出で居る物も劣等であると云ふやうな

事では甚だ私ハ面目次第も無いと思ひます、講習員は多數である殊ニ物産共進會と一緒ニ行やふふと云ふ位ならば此聯合縣の出品物は特色を顯す樣な物を一つ出品して戴きたいのである、今ニ成つて最早時機が遲い樣ニ思はれる方もございますけれども決して左樣で無い、早い程宜しいニ違ゐ無いけれども冬季の採集と申して是かふ昆蟲を集めると云ふ事は非常に有益で御ざゐます、例へて云ふならば春から夏秋といふ間の採集は既ニ濟んだが冬と云ふと是からで其冬の採集と云ふ事があるのです、此冬は昆蟲が誠に無くなつて仕舞ふ樣ニ思はれるが、太陽が朝に東から出で西へ入ると、夜は太陽が見へぬから無くなつた樣に思はれるが決してさうで無いと同じ事で、冬の採集は縱令蟲が目ニ見へないかふと云ふて何處ニ居るか分らぬと云ふので抛棄して置くのが誤り害蟲驅除の一大弊害の起つて來る原因で、冬の採集を盛ニすればアヽ彼は此處に居る、彼は何地に在りと云ふ事が分つて時に豫防方法を發見し得るもので御座りますれば私は冬の採集を貴んで居る次第であります、是迄も冬の採集を致して色々簡便な方法を發明した事が澤山でございます、此点ニ一層注意下すつて願ひたい、この印刷物ニは採集方法、標本製作の簡單なる方法迄是ニ書いてありますから是非共諸君は多少に拘はらず、優劣にかゝわらず、兎も角其地方々々から御出し下すつたならば非常ニ有益な事であると存じます、最も出品人は個人でも構ひはしませんが或は郡農會の名稱を用ゐるとも又或は昆蟲研究會の名稱を用ふるとも何れにしても宜しい併し出來得るならば團体の名稱を希望します、又費用の如きは研究所が主催でございますから研究所が一切受持つて行ります、但運搬費のみは出品者に於て御受持ち下さらんければ成りませぬ、又賞與の點に至つては何分微々たる私立研究所の事で大きな事は出來ませぬから、總体の經費一千圓乃至千五百圓遣ふと云ふ豫算の中から三百圓を賞與費ニ充てる積でござゐます、一等は銀牌、二等三等は木杯、四等は褒狀、と斯ふ云ふ積りで銀牌の如きは當今天賞堂に意匠を凝して紀念の物を彫刻せよと命じましたが、何か紀念に成る樣蟲を彫刻せんとて製造中でござゐます何も銀牌が欲しい爲に出品を勸誘して下さると云ふ譯ではないニ違ひ無いが、兎ニ角紀念として然ふ云ふ理屈に

しようと心配致して居りました、諸君は直接に手を下して爲さる御方よりも御見受けする所では間接に働いて下さる方が多いと思ひます、折角講習を受けられた人が五縣聯合の内に斯く澤山あるから諸君にしてそれ等の人に充分御注意下だすつたならば唯展覽會を助ける計りで無く、後來それが爲めに幾多の利益が殘るかも知れませぬ、どうか其御積りで御勸誘下さつたならば研究所も非常に滿足する次第でござゐます、唯展覽會の成立に就てざつとした事を唯今自分の氣の付いた事丈け述べました次第でござゐます、色々御話し致し度いですが成るべく時間を省くと云ふが却て利益と思ひますから茲に止め置きます、印刷物を御請取下さらぬ方はまだ少し殘つて居りますから何時でも差上げます、どうか日本の昆蟲學の基礎を吾々が堅めて見やうと云ふ積りで一つ御勸誘下すつたならば非常に喜ばしいことでございます、甚だ失禮でござゐました。（完）

流水の腐れざるは其の逝くを以ての故なり。戸樞の蠹せざるは其の運るを以ての故なり。（子華子）

◎昆蟲標本の一口評　古奥　青簑白笠の人

余は或る用事を帶びて今年一月二十日に、伊勢の國へ行きし序を以て四日市に開會中の北勢二市五郡物産品評會を一覽しぬ、出陳の點數は都て五千に餘れりと聞けば今一々之をいふ由なし、責めては昆

蟲の亡靈ばかりも供養しやらんものをと徐ろに大慈悲心を起したれば、同場參考室に陳列せられし昆蟲標本につき、いでや一口評を試ろむべし、但し當るも八卦、當らぬも八卦、當りて製作家を益することもあらば本懷至極なれども、當らで叱責を蒙ふれば唯々恐縮至極と言はんのみ、兎に角に無禮過言の段は幾重にも御免候へ。

第一に眼睛に映し來りしは三重縣農事試驗場の出品なりき、標品函數は都合十餘にして其意匠は概して佳良に就中、土中伏蛹地蠶の幼蟲等の狀を示すに黑土を用ゐし手際は流石に餅屋の餅なりけり、此標品は昨年宇治山田町に開ける南勢の七郡聯合物產品評會にも出陳せし趣むきなれば、其長所も短所も世既に定評あるべけれども、遠慮なく惡口を敲けば該品は老成の手腕によりて製作せられざりしものゝ如し、即はち被害植物の乾葉の排列にせよ、將またフクダワラの吊り樣にせよ、何一つ美術的に配合せられしものとては生憎にも吾等の如き凡眼俗目には認め得ず、特に麥の害蟲として示されたるオホヨコバヘの一函は生澁の痕迹歷々として恰んど見るに堪へざる程のものにて、その麥穗をば無下に交叉せる留針もて抑へたる如きは、如何にも農者には工藝美術心の皆無なることを表白せりき、次に桑尺蠖標品に於て特更幼齡のものゝみを示して老熟の仔蟲とては一頭だも加へ置かれざりしは如何にぞや、又蟷螂を說明するに其卵塊を添へられたるは注意の深きを見るに足るれど、オホカマキリのもカマキリのも、混同せるは如何に、尙ほ他の一缺點(?)を擧ぐれば豹紋蝶の雌雄は恐らく別種なるべきに、これにも心附かれざりしは如何に、當時余はこの出品否寧ろ摸範標本に對して蜀隴の感轉た切なるを覺えき、希くは次會には此等苦情の種子を蒔かぬやう深厚の用心有りたきものにこそ。

第二に評すべきは桑名郡長嶋村佐藤爲繼氏出品の五函なり、此先生は物好に昆蟲を弄ぶ癖あるも、嘗て正式に修業せしこと無かりしと見えて蟲名などは少しも知り玉はず、例へばヤマジョウロウをヤマシロテフとし、クルマバッタモドキをクルマバッタとし、モンキテフの雌二頭を横列してヒメシロテフの雌雄なりとし、ルリタテハをばクジャクテフと宣まへ、コシアキトンボをホタルトンボと自稱

し、ニイニイゼミをミンミンゼミと誤解し、シホカラトンボをハイトンボと命名し、其他メスグロヘウモンの雌を捉へて單に豹紋蝶と謬まり、コスズメを指してアキツバメなりと傍記せるが如し、唯りこれに止まらず極めて不完全なる舊式の展翅板を用ゐたりしと覺しく、昆蟲の双翅を直ちに函底に接觸せしめて黴菌や標本蟲の歡迎に應せられ、且つ其翅狀も圓曲に過ぐる迄櫛形作りとせられぬ、畢竟素人の未熟者の製作せる不十分の標品としては十分の價値あるも、專門家のものとしては一向感服すべき點あるを認めざりき、但し此を參考品として出品せる勇氣さ加減と、又物產品評會に因みて益蟲標品、害蟲標品に分ちたるとは先々慾目から申して賞揚すべき二點か。

第三に紹介すべきは三重郡大矢地村立阪昆蟲研究所の出品せる十四函なり、此の研究所は何人の監督の下に何時の頃組成せられしかは第二の問題として、未た博く名も得ぬ田舍研究會の製品としては相當のものと見しは僻目か、去れど是また前者と同じくチャバネセセリを指してハナセセリとし、ヒメアカボシ瓢蟲をばヒメフタホシ瓢蟲とし、加之蜻蛉及ひ褄黑横這の雄雌をとり違ひたるが如き、玉蟲や蟷螂の針の止め方を疎漫したるが如き、桑カミキリの觸角の整理を一定せざりしが如き、又標品保存用としては殆んど全たく兒戯に類せる容器を用ゐたりしが如き非難の節々を算へ來れば、現時本邦に於ける昆蟲學思想の程度も想ひやられて最と哀れに感せり、左は云へ名和一流(?)の装飾用のものは確かに見答へあり、蛾類甲蟲類また二三の珍種を交じへ、其製作も他に比し稍優れるを覺ふと雖ども、未た夐かに佳境に入れりとは云ふ能はず、今後なほ多くの工夫熟達を要するや固より論なし、所員たる者請ふ今日のさまに甘んせざれ。

◎蟲界雜記（第二）

千葉縣印旛郡遠山村　齋藤啓二

（一）螟蟲驅除妙法　螟蟲驅除の妙法と書き出せば讀者は其如何なる妙法なるかを早く聞かんとを欲せらるゝならん、由來螟蟲驅除法に付ては妙說甚だ多く或ひは何々神社の御札とか或ひは何々講

祉の祈禱など、千種萬樣あれども、余が所謂妙法とは其等とは一際異なりて加之も未た世間に其類例なき最とも斬新奇抜の迷法とす、余が住地を距る東方十里許にして上總國に松崎と稱する處あり、此に一つの稻荷神社を安置す、土俗之を松崎の稻荷と稱へ其名近郷に高く正月初午の日は賽客四方より來り集まる、然るに此等の賽客は皆稻荷社背后の椽下なる砂を一握つゝ持ち皈るを例とす、此砂は即ち御砂と稱し春季螟蟲の發生したるときに驅除用劑として田面に撒布せらるゝものなり、豈に妙ならずや、余も先年同社に參詣し所謂御砂を戴きたることありしに社背に大孔をなせるを目撃せり、迷信は時と所を擇はず種々奇怪の現象を產出するを恒とするものなれども、特に此の驅除法の如きは天理教會の御水と同樣、邪法中の邪法と稱すべきか。

（三）トックリ蜂　一昨年の夏の頃なりき余か家の垣根なる「マキ」の枝にトックリ蜂が例の如く土を以て拇指頭大の土巢を作りしかば、彼等の有益蟲なるとは嘗て知る所なるも其內部の構造を實檢せんとの好奇心を起し無慈悲と知りつゝも之を破潰したるに、中に押込められたる螟蛉共勢ひよく這ひ出てたり、余は其數の餘り多きに一驚し、試みに之を數へたるに同じ螟蛉十八頭あり、而して蜂の卵子は唯一個のみなりき、則はち此卵子孵化すれば件の螟蛉を食盡し、十分成長すれば巢孔より出つるものにて內なる螟蛉は親蜂の豫しめ捕殺貯蓄せしものに係る、然るに古人は此事實を知らず蜂は養子をなすものぞとて、蜂が螟蛉や蜘蛛を押込め置くをば他日眞に蜂に變化するもの丶如くに考へたり、以て理學思想の厚薄を知るべきなり。

◎昆蟲見聞記（三）

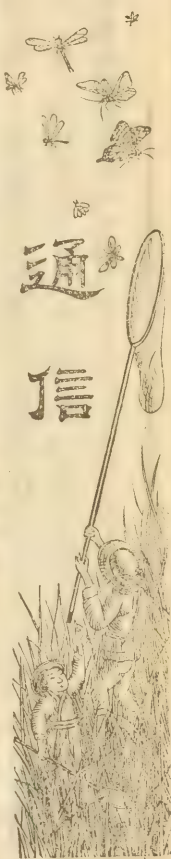
長野縣　清水　藏

（其十一）寄生蜂の効力　予は昨年モンシロテフを試育して其習性經過を確めんと欲し、春季菜圃より該幼蟲十頭を採收して飼育箱に移し置きしに、中七頭は寄生蜂なるアヲムシヤドリバチの爲めに斃され僅かに三頭のみ蛹化せりき、其後また十頭の幼蟲を捕ひ來りて飼育せしに八頭は寄生蜂に斃され

二頭は生存せり、松村農學士はその著日本害蟲篇に掲げていふ、害蟲の凡そ七割半は寄生蜂の爲めに斃さると、余はこの小試驗によりて其説の確實にして且[illegible]護の偉功を奏すべき事を知得せり。

附記　余はアヲムシヤドリバチの繭は必らず一處に群[illegible]るを見、その結繭の狀を知らんことを欲せしに七月七日モンシロテフ飼育箱を窺ひたる際、料らずも之を知ることを得たり、乃はち硝子戸に該螟蛉の一頭附着するものあるより之を熟視すれば腹部の兩側より蛆狀の小蟲十數箇微かに其頭頂を出現せり、是れ寄生蟲の今や其隱處を離れんとするものなるを以て、尙は留意觀察なせしに小蛆は漸次その体軀の三分の二內外を出したる頃より前後左右に震ひ動かし（其全体を出ずも無脚なるを以て墜落するが故ならんか）徐々に結繭に着手したる後凡そ三十分時にして一半を終へ、それより全たく隱處を辭して自己の營みたる繭中に移り、その中に在りて他の一半を營なみ終れり、此間また凡そ三十分時を要しき。

（其十二）蠁蛆の空蛹高さ八寸　蠁蛆の我が蠶業界に大害を加ふることは世人の能く知る所なるが先頃某製種家と邂逅し談偶々この事に及びしに、其人のいはく、近來惡質の傳染病流行しこれに對する手段として清潔法の督勵頻繁なるより余また床下の洒掃に着手せんとせしに、豈に圖らんや蠁蛆の蛹殼地中に堆積しあるを認めぬ、乃はち試ろみに其厚さを計りしに實に八寸に達せり、是れ蓋し數年間蠁蛆を逸出せしめしより皆床下に潛伏して蛹化せしものゝ逐漸斯かる多量となりしものなる可しと雖ども、其繁殖力の多大なるまた驚くべしと、然り、或學者は今の製種家を評して蠁蛆の製造者なりと言ひけんもこの事實に思ひ合はされて最と可笑し。

（其十三）タガメ產卵の狀　本誌第三十四號に靜岡縣神村直三郎氏はタガメの倒懸產卵の狀を實見上より記述せられしが、余も亦昨年七月廿九日に同蟲の稻莖に倒懸產卵するを目擊せり、依て直ちに其の卵子を採り來り相當の保護を與へて孵化せしめんと試ろみしも、遂にその功無かりき。

◎苞蟲被害試驗報告

長野縣下伊那郡松尾村 塩澤彥一郎

余が擔當に係る本村農會試作場に於て昨三十三年中に捕殺せし苞蟲(方言コウジク)數を報告すれば以下表出するが如し、抑も此蟲は明治二十九年六月二十六日發布せられたる長野縣令に依り驅除豫防すべき稻の害蟲の一にして必ず之を適宜處分せざる可からざるものなるに、少しも關心する所の農家なきは地方農產上實に慨はしき次第なり、現に昨年の如きは稻の發育頗ぶる佳良にして害蟲また例年より少なかりしを以て農家は一般に喜悅の色ありしに、或る部落に限りこの苞蟲夥たゞしく發生して漸次喰害を始めたり、然れども當時農家は養蠶業の多忙に追はれて專心驅除に從事せず可惜稻作を擧けて其蹂躪するに一任せるのみか、此蟲は豐年蟲とて決して凶歲に發生するものにあらざれば毫も憂苦するに足らずとて却つて之を歡迎するの狀ありしが、秋收期に至り始めて驅除の勞を取りし者は被害少なきも、所謂豐年蟲呼ばはりせし頑陋の農圃は收納甚はだしく減少せるを實驗し大いに前の非理なりしを悟りしもの〻如くなりき、余が今茲に報告するものは害蟲の發生少なき試驗區に就き捕獲せし實蹟表なるも、而かも尙ほこの結果を見る、害蟲の驅除豈に等閑に附すべげんや。

試驗種類	試驗區別	捕蟲數
室素質肥料試驗 各作附步數三拾步	蠶蛹區	一六,六一〇
	蛹〆粕區	一六,八四〇
	大豆粕區	一七,五七〇
	鰯〆粕區	一九,九二〇
	鰊〆粕區	一八,四六〇

試驗種類	試驗區別	捕蟲數
三要素試驗 各作[illegible]數 形木框內	完全肥料區	一〇,八〇〇
	無加里區	一九,二〇〇
	無燐酸區	一三,二〇〇
	無室素區	一〇,八〇〇
	無肥料區	九,六〇〇

肥料用量試驗 作附拾五歩	
少量區	一七、五〇〇
中量區	一六、四四〇
多量區	一九、三六〇

過燐酸石灰施用量試驗 作附各一歩	
無燐酸區	二三、八〇〇
少量區	一六、八〇〇
中量區	三一、八〇〇
多量區	一七、一〇〇

備考　捕蟲數は一反歩ニ改算せしものなり

◎土岐郡昆蟲學會月吉支會發會式景況報告

岐阜縣土岐郡農會

本年一月十五日を以つて土岐郡昆蟲學會月吉支會發會式を明世村月吉尋常小學校ニ於て擧行せり、當日本部よりは理事小栗劔次郎氏及び肥田支會長成瀨義郎氏等臨席せり、軈て午后二時を報するや會員三十餘名式場に整列し、支會長木村敏香氏の開會の辭ニ次ぎて小栗理事の昆蟲學研究の必要及び順序方法ニ關する演說、成瀨肥田支會長の農業地方ニ於ける小學生徒と昆蟲思想養成の關係の演說及び他諸氏の祝詞演說等ありて式を終へ、茶菓の饗應ありて散會したるが、席上には斯學研究用の標本、圖書、寫眞、器械等を陳列して一般の觀覽ニ供せり。

因に云ふ本郡ニ於ては先ニ昆蟲學會を組織し其本部を土岐郡役所內に置きたるが、漸次各小學校ニ支會を設け學校長を支會長に委囑して專はら斯學の振興を圖る計畫なりと。

◎山形縣の害蟲驅除豫防法施行規則

山形縣北村山郡田麥野村　村山榮太郎

吾が山形縣に於ては昨年縣令第五拾貳號を以て農作害蟲驅除豫防法施行規則二十三條を定め、その驅除豫防すべき害蟲の種類は左の拾貳種なる旨公示せられたり。

一、浮塵子(ウンカ。コヌカムシ)　一、綿蟲(ワタムシ。メンチウ)　一、螟蟲(ズイムシ)　一、介殼蟲(カヒカラムシ)　一、苞蟲(ツトムシ)　一、蛅蟖(ケムシ)　一、葉捲蟲(ハマキムシ)　一、地蠶(ネキリムシ。ヨトウムシ)　一、螟蛉(アヲムシ)　一、天牛(カミキリムシ)　一、泥蟲(ドロコ。フンカツギ)　一、尺蠖(シヤクトリムシ。ボツクヒムシ)　(規則全文は之を畧す)

◎昆蟲に關する葉書通信 （拾）

(四十九)通信に就て(長野縣、小山蝸牛兒) 昨年の園藝會雜誌を見たが芙蓉の根化して蟬となる所を實驗したと云ふことを通信した人があつた、尤とも記者は誤謬であろうと附記された、又舊冬相州の或所へ行きしに小學校の先生がウドンゲノハナと俗に云ふものはカゲロウの卵だと敎へたそうだがクサカゲロウをカゲロウといふたはよいとした所がカゲロウの解釋にカゲロウは旦に生じて夕に死するものぢやとの話、アハレ茲にて誤謬が證明されて氣の毒なり、又僕の地方ではクロアゲハやジャコウアゲハやカラスバアゲハの事をヤンメ蝶(病目蝶)と云ふて彼れを捕ふると眼病をすると云ふて居る又オキクムシをばアマノジャクと云ふ、其故は昔し或る醜女が瓜姫と云ふ美形の替玉となつて嫁入しやうとして其謀計が現はれてサンザなぐられた末、高い木に結び付けられて苦しい思ひをして死んだ、其亡靈が今も時々變ばるゝのであるとて、其背面の妙な所を貞ぢやと思ふて居る、總じて蟲と云ふ物は皆な湧き出すものぢやと思ふので、當年はウンカが湧いたの、蛆が湧いたのと云ふて居る者が多いは實になさけない、モウチツト書きたい事があるけれど端書に餘白が無くなッた、后は此次の一錢五厘。

(五十)松村學士の消息(岩手縣、鳥羽) 獨乙國留學中の松村農學士は其後維納府にて有名なるブクウエル氏に遇はれ昆蟲學名などを質され、又昨年九月頃匈國ブータペストに於て浮塵子學者ホールベート氏に就き研究を遂げられし由、尙同學士は日本產有害鱗翅目目錄に執筆せられつゝある趣きなり、過日同學士の余が許に送り越されし歐州產の昆蟲は左の如し、記して同好に示す。

(一) Polymmatus virgaureae, L.　(二) Pararge megera, L.　(三) Polymmatus Iorilis, Hufn.
(四) Melanargia galathea, L.　(五) Coenonympha arcania, L.　(六) Erebia melas, Hbst.
(七) Parnassius apollo, L.　(八) Hesperia lineola, Oliv.　(九) Epinephele janira, L.
(十) Pararge aegeria, L.　(十一) Syrichtus malvae, L.　(十二) Melitaea aurelia, Nick.
(十三) Gonopteryx rhamni, L.　(十四) Aglia tau, L.　(十五) Papilio podalirius, L.

(五十一)螟蛾の渡海法(淡路三原、飯田儀太郎) 淡路三原郡の南海岸に一小島あり、沼嶋といふ、甞て此嶋より航行の際に海上一里半計りの處を螟蛾の渡海するを見たり、其の樣を云へば數頭の螟蛾の海上に彷徨せるものありしが、暫らくにして海面に落下し、一方の翅を水面に浮べ而して他方の翅

をば上方に立てゝ帆となし、順風をうけて灘村方面に向ふと見ゆしが、忽ちにして飛揚し又暫時飛翔しつゝありきとは本郡榎本六平氏の談話なるが、果して此事あるものにや、聞くが儘を報導す。

窓うつ蟲　ともしびの窓うつ蟲の羽音には夜ふかき雪をきく心ちして　（實陸）

◎アゲハノテフ蛹の寄生蜂に付質問

静岡縣磐田郡十束村　大庭正三郎

余が愛培するレモン樹にアゲハノテフの飛揚し來り暫時にして灰色卵子を二、三個産附せり、依て其習性經過を知らんとて飼育をなし朝夕暇を偸みて注意すること幾日終に蛹となれり、於此乎、其蝶の羽化せんことを日々待ち居りしに、或日の事、一の小蜂の出づるを見たり、心窃かに怪しみて蛹體を切開せしに蝶にはあらで灰黑色の小蜂充滿し其數を檢すれば無慮二百頭を算せり、小兒婦女老婆等の昆蟲思想を喚起せしめんと態て之を示せば大に珍奇となし、中にも一小兒より此蜂は何時蛹の体に入りたかを問はれ頗る應答に苦しめり希くは昆蟲世界誌上に於て示教を垂れられよ。

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現蟲を見ざれば確答は出來ざるも、蛹中に多く寄生し居るを以て察すれば是れ恐らくはアゲハサナギバチと稱するものならんか、而して本問の如き結果を來せるはアゲハノテフの幼蟲が未た蛹化せざる前に該蟲の之に寄生せしに因る、即ちアゲハノテフの幼蟲が老熟の際茲に該蜂の飛揚し來りて其體内に産卵したるもの孵化して蛆となり、躰肉を食して成長し、斯くてアゲハノテフの幼蟲が蛹化するに

至れば寄生蜂の幼蟲亦老熟して蛹と爲り、尙は變じて成蟲即ちアゲハサナギバチとなれるなり。

◎密柑の害蟲に付質問

佐賀縣佐賀郡春日村 遠藤治一

當地方は別封在中の如き密柑の害蟲を發生し、一般の柑橘園は殆んど其害を受けざる莫く爲めに當業者は非常に困難を極め居れり、希くは之が發生經過及び驅除豫防の方法を懇示ありたし。

答　名和昆蟲研究所助手 名和梅吉

現蟲を見るに半翅目中介殼蟲科に屬する所のミカンノワタカヒガラムシ(Pulvinaria aurantii, Cockerell)と稱するものにして、柑橘の諸害蟲中最とも猛惡恐るべきの害蟲なり、其發生經過は明かならざれども、一年二回の發生を爲すものゝ如し、即ち第一回は五、六月第二回は九、十月頃とす、現時夥多葉裏枝幹等に附着するものは九、十月の頃孵化せし所の幼蟲時代のものとす、僣之を驅除せんには被害旺盛なる枝葉は切り去り、その少なきものは石油乳劑を以て洗滌すべし、又五、六月及九、十月の頃幼蟲の最とも若き時代に當り石鹼水を撒布するを可とす。

◎寄生蜂に付質問

福井縣三方郡十村大字倉見 瑠井悦太郎

多くの寄生蜂中稻、麥、桑等に發生する害蟲の種類に依りて同種の寄生蜂が寄生することありや、若し之れありとすれば其害蟲及び寄生蜂の名稱等を明答の榮を賜はれかし。

答　蟲廼家山人

寄生蜂の種類に依りては或る害蟲にのみ寄生するものと又數種に通じて寄生するものとあれども、之を要するに後者に屬するものは少數なるが如し、然れども今後幾多の研究を積まば或ひはなほ他の多くの種類を發見するに至るや其邊は得て知るべからざるなり、今一二を擧ぐればオホズイムシの蛹に寄生する種は又イチノアオムシの蛹にも寄生し、桑樹の害蟲イトヒキハマキムシの卵、幼蟲及び蛹に寄生する種のアオハマキムシの卵、幼蟲及び蛹に寄生し、イチノズイムシの卵に寄生するものとフタホシズイムシ及びイチノアオムシの卵に寄生する等の如きは其著明なる適例とす。

花(はな)の蝶(てふ)　たづね來(く)るはかなきはにも匂(にほ)ふらん軒端(のきば)の梅(うめ)のはなの初(はつ)てふ。　（家隆）

雜報

◎果然此事あり　蟲害地に於ける地租免除請願の風說は去月帝國議會開始の當時より早くも世間に傳はりしを以て、是は容易の事にあらずと思惟し所思の一端を論說よものせし折から果然近着の京紙はその確實なる事を報道せり、そも此事たる唯り一小地方の不幸たるよ止らず實に帝國の不幸といはざる可からざれば、吾人は被害地に對つて同情一掬の熱涙を濺ぐものなり、去れど請願理由書よ示す如く害蟲は果して九月初めよ至り俄然發生したるものなりや否や、最初極力豫防的驅除法を施行し次て防禦的驅除法を嚴行せしや否や、三郡內約そ壹萬七千圓の地租地即はちこの廣大なる耕地の收穫を絕無よ歸せしめし程の被害ありとせば、恐くは他地方をも荒廢ならしめ結局減作、多費、勞苦等のため延て全縣下の凶變を起さしめたるべきに、曾て其事あるを聞かざるは是れ驅除を十分に勉めたるも收穫絕無に歸せりと云ふを得可きや否や、算へ來れば疑問は決して胸臆を去らずと雖ども、斯學の發達普及せざる間はまた深く之を責めざるべし、一月十六日の朝野新聞よ曰く。

宮崎縣宮崎郡上田島郡神宮司亘太郎外九十餘名の連印にて左の蟲害地地租免除請願書を昨日横山、角両代議士の紹介にて衆議院に差出したり。

蟲害地に係る地租免除請願

一金壹萬六千六百拾壹圓參拾壹錢壹厘　　收穫皆無地租高

內

金七千百七拾三圓八拾七錢四厘　　宮崎郡免租請願高

金六千三百六拾八圓三拾六錢八厘　　東諸縣郡同上

金參千〇六拾九圓〇六錢九厘　　兒湯郡同上

私共儀從來農業相營罷在候處近年凶歲打續き困難相極め居候、然るに本年不幸にして出穗開花の央二回の暴風雨に遭遇し三割以上の損害を蒙り前途の生計に苦慮致居候折柄、九月始めに至り俄然浮塵子發生し暫時にして全部の稻田に蔓延し蝕害を逞するに依り、農家一同驚起直に其豫防驅除に着手し各村數千圓の費用を投じ、水田には石油を注き、又點火誘殺の法を施し大にこれが驅除に從事したる結果、幾分は收穫を見たりと雖も收穫皆無となりしもの別表の通りに有之、其慘害實に筆紙の盡す所に無之狀

況に有之、農民の困難一方ならざる次第に御座候間事情御洞察の上右收穫皆無地に係る地租特別の御詮議を以て免除被成下度、別紙調表相添此段請願候也

此一事已に多少奇異の感を抱かしむるに足る、然るに本月三日の毎日新聞はまた報ずらく。

昨日議員より左の二案を衆議院に提出せり

△蟲害地地租特別處分法案　（野尻岩次郎外三名提出）

該案は京都府紀伊郡上鳥羽下鳥羽村にて浮塵子發生の爲め、收穫皆無となりし地方に對し、三十三年度地租を免除すべしと云ふにあり。　（他の一案は略す）

記事頗ぶる簡にして免除請願租額を知るに由なしと雖ども、彼れと云ひ此と云ひ、國家の收入を減ずるの上に於て甚はだ好しからぬ現象と云はざる可からず、想ふに我が國民は其本を務めずして其末に居るの誇りを免る可からざるか噫。

◎**邑久郡昆蟲展覽會**　岡山縣邑久郡昆蟲研究會主催の同會への確定出品數ハ郡内の標本八拾函にして其他縣内外の縣官立學校諸官衙所藏のもの若干と、藥品書籍器械等の參考品等なれば意外に盛會を見るに至るべしと同地よりの近信に見ゆ、なほ當研究所へも昆蟲標本は勿論其他器具等の出陳を依賴し越せり。

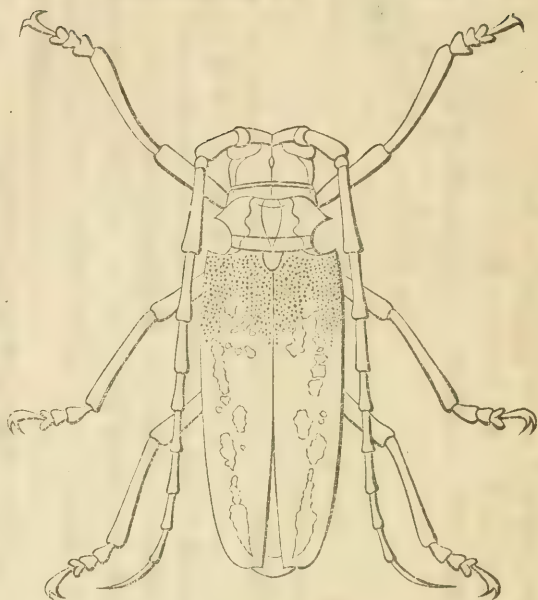
◎**第七回全國害蟲驅除講習會**　來三月一日より二週間當研究所内に開く同會は期節の宜きと實蹟の良好なる爲めか、從來入會生の少なき遠地よりの入會申込みも多ければ志願者は速やかに其手續をなすべしと。

◎**全國農事會本部の希望要件**　全國農事會本部に於ては一昨年及び昨年に於ける全國農事大會議決の精神に因つき先頃五ヶ條の希望要件を印刷して第十五議會關係者間に配布したるが就中第三項には左の事項を記載しありし旨在京本縣人坪井伊助、土川誠一兩氏より報道ありき。

一名和昆蟲研究所に國庫補助金下付の豫算案を提出せらるゝ樣政府に建議の件

第十四議會に在りて兩院の通過せられたる岐阜縣名和昆蟲研究所に對し國庫補助金三千圓を五ヶ年間交付せらるべき建議案は大多數を以て成立したるに係らず本年度豫算案中該件の明記せられさりしは頗ろ遺憾とする所なり爾來該研究所は非常の勵精を以て總ての規摸を擴張し着々著大の實効を奏成し將さに四月十五日より全國昆蟲展覽會を開設せんとする等斯業界に貢獻するもの盖し尠しとせす因て本議會に於て速かに該豫算案を編製し議院に付せられんことを政府に建議あらんことを望む

◎**天牛と其寄生蜂**　我國に産する天牛類の多きが中にも、此に示す所ろの天牛は該種類中最と

カミキリムシの圖（雌自然大）

も大形の種にして單にカミキリムシ（Batocera lineolata, Chevr.）と稱するものあり、全躰灰黒色を呈し翅鞘上には白斑を有す、其幼蟲は殼斗科植物の櫟、栗、樫等の樹幹内に生じ内部を食害して空虚となし遂に之を枯死せしむる處の害蟲なり、昨今薪に使用せんとて被害樹を割るときは中より該蟲の出るを見、次て亦被害部より鼈甲色を呈し美麗なる蜂の十餘も出ることあり、是れ俗に馬尾蜂（和名オナガバチ）と稱するものにて其産卵管は長さ五六寸あり、而て該蜂の斯の如き場所に捿息するは全く吾人の惡むべき有害蟲カミキリムシの幼蟲に寄生して斃死せしめたるものにて、春暖を得て此處を去り他に飛揚し行きて又カミキリムシの幼蟲に寄生するものとす、去れば此等を見出すときは宜しく愛護し置くべきものなり

◎今年の天候と昆蟲　今年に入りてより本月二三兩日に跨かり近年希有の大雪を見たるも、寒氣は割合に烈しからず若し此儘にて進まば害蟲の發育に關し憂ふべきものあらん、豫じめ備へざる可からざるなり。

◎城ケ島採集の昆蟲數　神奈川縣三浦郡城ケ島に於ける冬季昆蟲採集の摸樣に就ては前號の誌上に掲載せし如くなるが、其採集し得たる昆蟲の種數を調査せしに總計百五十三種にして、内五十種は全く當研究所にて是迄に採集し得ざりしものにて、即ち新種と稱するものゝみなりき、今之を各目類に區別すれば左の如し。（助手名和梅吉）

膜翅目二十五種、鱗翅目蛾二種、雙翅目四十七種、甲翅目四十三種、半翅目二十七種、直翅目三種、脈翅目三種、彈尾目三種、

◎水曜昆蟲會　同會第二十回(一月十六日)より第二十二回(一月三十日)に至る四水曜會は例に依りて名和昆蟲研究所内に開かれ所員一同の昆蟲談ありたり、今其重なるもの二三を摘載すれば名和愛吉氏は一月二十四日野蠶の繭を採集し羽化したる者と外敵に侵されし物とを調査したるに繭百個に就て蛾化せし脱繭五十六、寄生蟲に倒されしもの三十六、黴菌に罹りしもの九個ありき由之觀是外敵の勢力も亦大なりと述べ、次に吉田悦三氏は植物種類別に昆蟲採集を爲したる結果として椎木に於て五十種、樫に四十五種、イヅセンリヨウに四十種、馬醉木に二十一種、シダに於て三十六種を得たりと述べ、次に長屋六二氏は頃日枝尺蠖の体長を測りしに一頭平均六分七厘ありと述べ、次に名和正氏は樹皮下に於て採集せし昆蟲の比較談をなし松、榎、柳の三樹に就き蟲名を擧げて詳細說明せられ、棚橋昇氏は梅鮎蟖卵數に就て一塊平均三百三十八粒ありしと結論し、森宗太郎氏は繭の摸倣形及び蟲瘦に就て、福井克雄氏は冬季採集と觀察に就て、名和梅吉氏は縣下巡回の摸樣及びミノムシの冬死に就て詳說せられたりき。

◎岡山縣昨年の螟卵摘採數　岡山縣に於ては螟蟲驅除豫防のため今三十三年度に於て縣費より七千圓を支出して大いにその卵塊摘採法を奬勵の趣むきは曾て記載の如くなるが、昨年中同縣下一市十九郡に於て採取の卵塊は都て四百八十九万千九百三拾一個に上り、其中最多數を占たるは赤磐郡の百三拾壹萬三千七百六拾四個にて此奬勵金は千八百七拾九圓八拾九錢八厘を下附せられたるが即はち一卵塊に對し一厘四毛餘の割合なりしと。

◎熊本縣の螟蟲に關する令規　熊本縣の農作害蟲驅除に鋭意なるは一般に知らるゝ所ろなるも、なほ容易に之を絶滅せしむること能はざるより昨年の如きは春來告示に諭達に將た訓令を發して屢次警戒を加ひ、終に前後二回の縣令を以て六月二十六日より九月二十四日まで八十五日間螟蟲の驅除豫防の爲め水田に於ては八回以上、陸田に於て五回以上の捕蛾採卵二法を強制的に實行せしめたる趣むき同縣より特報ありき。

◎寫生畵の懸賞募集　當研究所に於ては先に第二回の實物寫生畵を募集せしが、今やまた第三回の懸賞募集の必要を感じ之を本誌廣告欄内に掲げ置けり、教育に從事の士は幸ひに協賛を賜へ。

◎第二十六回岐阜昆蟲學會　同會第二十六回月次會は本月二日(第一土曜日)午后例に依り

岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開かれたり、當日は生憎朝晴午陰、菲々として白雪を飛はし來れるに加へて身にしむ計りの寒風さへ吹きすさめるに、聊さゝかも之を厭ふの色なくて定刻までに參集せられしは無慮三十名に超えたり、軈て席定まるや名和昆蟲研究所長は開會の辭として本會は創立以來茲に廿六度の會を重ね、其の間會は一會と盛大に至り最も多數なる時は壹百名に垂んとし少なきも三十名を下らざりしに不幸にも本年の初會（一月）は降雨及び新年の會合等の障碍の爲め著しく會員の出席を減じ、今回亦また斯かる天候の故を以て會員の來會する者少なし是れ聊さか憂ふべきに似たるも此一事直ちに本會の衰兆と斷ず可きにはあらず、乃ち本會の希望は多數の烏合の衆を見んよりは寧ろ熱誠忠實の少數を得るを以て滿足するものなればなり、今回の如きは前回に比し更に一段の惡天候なれば來會者も如何と懸念せしに斯く三十餘名も遠路會合せられたるは特に滿足の意を表する所なり、想ふに本年一月及び今回ともに皇天雪雨を下界に降らして或ひは會員の意思を試驗するなからんか、會員諸氏向後倍々奮勵する所ろあれと述べ、次に永澤小兵衛氏は去月三重縣四日市に於て開會せし北勢二市五郡物產品評會に出品の各昆蟲標本に就て批評を試みられ、次に名和梅吉氏は相州城ヶ島に於て冬季昆蟲採集を試みられたる報告として同地の摸樣及び採集の昆蟲標本を示し併せて岐阜縣下七郡害蟲調查の爲巡回せし摸樣に就て述ぶる所ろあり、次に名和所長の昆蟲標本採集法に關する注意談及び永澤小兵衛氏の萬古、薩摩、伊萬里等有名の陶器に應用せられたる昆蟲に就て說明ありて一先休憩（此時城ヶ島の昆蟲標本、小學生徒の昆蟲寫生畫、昆蟲展覽會に用ゆる分類、設色旗等を縱覽に供せり）終りに名和所長は昆蟲展覽會出品の方法、小學生徒寫生畫に就き詳細の談話を試みられ全く閉會を告けしは午后五時頃なりき、因に云ふ會員散會の折り抔れ積雪數寸道路獰惡なりしも皆勇氣を皷し且後會を約して歸途に就けり、中には揖斐郡本巢郡安八郡羽島郡等の遠方の學校職員も多く見受たりし。

◎昆蟲標本の來觀者　本年一月十日以來當研究所備附の昆蟲標本を來觀せられしは左の諸氏なり。

（一月十一日より二十日まで）東京西ヶ原農事試驗場助手小山海太郎氏、（十二日）武藏國比企郡大河村字腰越馬場秀吉氏、（十五日）岐阜縣視學泉繁太郎氏、（十七日）同縣山縣郡上伊自良村郡會議員棚橋弘一、同村長梅田忠左衛門、兵庫縣多氣郡今田村大西忠太郎三氏及び岐阜高等女學校長三吉艾氏案內にて京都市視學六浦徹矢、同市乾隆尋常小學校長中野虎太郎二氏、（廿二日）岐阜縣揖斐郡春日村長駒月重郎兵衛、六合郵便局長新川林彌、同縣稻葉郡市橋村篠田庄平三氏、（廿三日）明治生命保險株式會社員松尾覺太郎、仝平岡正倫二氏、（廿七日）岐阜縣惠那郡上村高等小學校長田中準次郎、同縣加茂郡川邊高等小學校長今井光助、同縣土岐郡

駄知尋常小學校長水野淳、愛知縣第一中學校教諭德淵永治郎四氏、（廿九日）岐阜縣羽島郡博文小學校職員野田銀一郎、同尾關粂二二氏、（卅一日）岐阜市美江寺町山本卯兵衛氏案内にて韓國京城安中植、同國京畿道安山郡枚岩村鄭寅韶の二氏並びに縣下の學生有志者等三十餘名。

◎三十一年以來の昆蟲講習會員　去る三十一年始めて講習會を開會せし以來當所直接に關係ある諸種の講習會即はち害蟲驅除講習會及び昆蟲學講習會の各縣に開會せるものを擧ぐれば以下記するが如し。

年	月日	會期	會場位置	主催	會名	種類	人員
卅一年	從四月十日 至同月二十四日	十五日間	岐阜縣岐阜市京町岐阜縣農會樓上	岐阜縣	第一回岐阜縣害蟲驅除講習會	實業者	三十六名
	從五月七日 至同月十三日	七日間	岡山縣赤坂郡軽部村赤坂磐梨郡役所樓上	岡山縣赤坂磐梨郡農會	害蟲驅除講習會	實業者	二十四名
三十二年	從二月十六日 至同月二十日	五日間	大分縣速見郡日出町	大分縣農會	害蟲驅除講習會	實業者	二百五十名
	從二月二十二日 至同月二十六日	同上	大分縣東國東郡岡崎町	同上	同上	同上	
	從二月二十八日 至三月四日	同上	大分縣西國東郡高田町	同上	同上	同上	
	從三月六日 至同月十日	同上	大分縣宇佐郡四日市町	同上	同上	同上	
	從三月十二日 至同月十六日	同上	大分縣下毛郡中津町	同上	同上	同上	
	從四月十日 至同月二十九日	二十日間	岐阜縣岐阜市京町 岐阜縣農會樓上	岐阜縣	第二回岐阜縣害蟲驅除講習會	實業者	三十七名
	從六月五日 至同月九日	五日間	岐阜縣岐阜市京町	岐阜縣揖斐郡農林會	昆蟲學講習會	教育者	二十六名
	從六月二十日 至同月二十六日	七日間	富山縣富山市総曲輪東本願寺別院内	富山縣農會	害蟲驅除講習會	實業者 警察官	百〇三名
	從七月十八日 至同月二十二日	五日間	岐阜縣岐阜市京町	岐阜縣羽島郡教育會	昆蟲學講習會	教育者	三十二名
	從八月三日 至同月二十三日	廿一日間	同上	愛知縣渥美郡農會	同上	同上	三十六名
	從九月二十五日 至十月八日	十四日間	同上	名和昆蟲研究所	第一回全國害蟲驅除講習會	一府十五縣	三十九名
	從十一月七日 至同月十一日	五日間	福井縣三方郡八村	福井縣三方郡農會	害蟲驅除講習會	實業者 教育者	四十四名

	從十一月十四日 至同月十八日	同上	福井縣大飯郡高濱	福井縣大飯郡農會	同上	實業者 教育者	五十名
	從十一月廿五日 至十二月八日	十四日間	岐阜縣岐阜市京町	名和昆蟲研究所	第二回全國害蟲驅除講習會	一府十四縣	三十九名
三十三年	從二月十七日 至同月二十一日	五日間	岡山縣邑久郡邑久村	岡山縣邑久郡農會	昆蟲學講習會	教育者 實業者	七十名
	從三月二十一日 至四月三日	十四日間	岐阜縣岐阜市京町	名和昆蟲研究所	第三回全國害蟲驅除講習會	二府十七縣	四十九名
	從四月五日 至同月九日	五日間	同上	岐阜縣本巣郡農會	昆蟲學講習會	教育者	三十一名
	從四月十日 至同月二十九日	二十日間	同上	岐阜縣	第三回岐阜縣害蟲驅除講習會	實業者	三十六名
	從五月一日 至同月五日	五日間	岐阜縣不破郡垂井町	岐阜縣不破郡農會	害蟲驅除講習會	實業者 教育者	七十七名
	從五月七日 至同月十二日	同上	岐阜縣岐阜市京町	岐阜縣稻葉郡農會	昆蟲學講習會	教育者	三十名
	從五月二十三日 至同月二十七日	同上	福井縣遠敷郡小濱町	福井縣遠敷郡農會	害蟲驅除講習會	實業者 教育者	五十名
	從六月一日 至同月十四日	十四日間	岐阜縣岐阜市京町	名和昆蟲研究所	第四回全國害蟲驅除講習會	一府十一縣	三十五名
	從六月二十一日 至同月二十五日	五日間	岐阜縣惠那郡中津町	岐阜縣惠那郡農會	昆蟲學講習會	教育者	六十七名
	從七月一日 至同月五日	同上	岐阜縣岐阜市京町	岐阜縣加茂郡農會	同上	教育者	三十八名
	從七月二十六日 至八月八日	十四日間	同上	名和昆蟲研究所	第五回全國害蟲驅除講習會	一府十五縣	三十八名
	從八月十三日 至九月二日	廿一日間	同上	愛知縣渥美郡農會	昆蟲學講習會	教育者	三十六名
	從九月四日 至同月八日	五日間	長野縣北安曇郡大町	長野縣北安曇郡農會	同上	教育者 實業者	三百一名
	從九月二十六日 至同月三十日	同上	山口縣玖珂郡岩國町	山口縣玖珂郡農會	同上	實業者	九十名
	從十月四日 至同月八日	同上	岐阜縣安八郡大垣町	岐阜縣安八郡農會教育會	昆蟲學講習會	教育者 實業者	四十八名
	從十月二十三日 至同月二十七日	同上	岐阜縣岐阜市京町	岐阜縣山縣郡農會	同上	教育者	三十六名
	從十一月廿一日 至十二月四日	十四日間	同上	名和昆蟲研究所	第六回全國害蟲驅除講習會	三府二十二縣	五十一名
	從十二月十六日 至同月二十日	五日間	岐阜縣土岐郡土岐津町	岐阜縣土岐郡農會	害蟲驅除講習會	教育者 實業者	百十七名

三十一年 二回 七十名、三十二年 十四回 六百五十六名、三十三年 十八回 千二百名、
總計 三十四回 千九百二十六名

◎丹後昆蟲研究會　曾て本誌第三十四號に掲載せる如く當所主催の全國害蟲驅除講習會修業生星野、岩見、谷口、糸井、森等諸氏が計劃せる丹後昆蟲研究會は愈々客臘を以て組織せられ之が名譽會長として名和本所長を推擧し來りたるが其の會則は左の如し。

第一條　本會は昆蟲に關する事項を研究し併せて昆蟲思想の普及を謀るを以て目的とす。
第二條　本會は全國害蟲驅除講習生其他有志者を以て組織す。
第三條　本會事務所ハ當分與謝郡蠶絲同業組合内に置く。
第四條　本會に左の役員を置き總會に於て之を選擧す。
一名譽會長一名、一專任幹事一名、一幹事二名、
第五條　會長は本會を總裁し、幹事は本會に關する事務に鞅掌す、其任期は各滿二ヶ年とす、但再選するも妨げなし。
第六條　毎年二回定期總會を開き時事問題を討議するものとす。
第七條　本會へ入會せんとするものは幹事へ申込むべし退會者亦同じ。
第八條　本會會費は會員の負擔とす。

◎歌のかず〳〵　昨年長野縣に開會せる昆蟲學短期講習會及び本縣土岐郡害蟲驅除講習會の折名和本所長に寄せられし歌どもは十數首の多きに上れるが其中秀逸と認むべきものを擧ぐれば下の如し、但少しく思ふ所ろあれば實名はこゝに掲けず。

名和先生の我が土岐郡に害蟲驅除の講習を開きたび玉ひし終りの日その慰勞の爲に種々のざれ事を物せしとき先生の御姓名の字を一字づゝ句のかしらに置て讀める二首のざれ歌

●名も形も●わかぬ小むしの●やまに野にすゝめる限り●をしらべ盡して
●名とり川●わたるとせねど●やがて世を●すくふ績はの●しるき君かも

（菊里狂人）

健全無毒の
精良春蠶種

又昔種
青熟種
角又種

…養蠶家は次號の…
…昆蟲世界を看よ…

蠶種製造業
岐阜縣不破郡
岩手村字岩手
兒玉樹神館

大西捕蟲器發賣廣告

(專賣特許)

捕蟲器

○本器は苗代、本田兼用の捕蟲器にして改良短册苗代には尤とも適當なり
○本器は苗代に入らず、唯だ畦上にありて最も輕便に使用し得らる丶なり
○本器は諸害蟲を漏なく捕獲し得るは勿論浮塵子の如きは全滅し得るなり
○本器は各府縣農業實驗家の好評を得尤とも實効あることを証明せられたり
○本器は一人一日に苗代では貳町五反步、本田なれば貳町步捕蟲し得らる

製造元
發明者
兵庫縣多紀郡今田村字市原 大西忠太郎

附言 本器の特約販賣及ひ製造販賣を望まる丶方は至急申込あれ創業祝として岐阜市に開く全國昆蟲展覽會開會中に卒先注文の分に限り(但一町村壹名)原價の壹割引の事

◎昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名（十二名）

岐阜縣土岐郡昆蟲學會
和歌山縣　巽　正良君（壹名）
長野縣　壚澤彦一郎君（一名）
静岡縣　神村直三郎君（一名）
兵庫縣　三枝角太郎君（一名）
徳島縣　豐野次郎三郎君（一名）

第壹回全國昆蟲展覽會

◎本會は來る四月十六日より三十日間當所内に開く
◎本會開催の必要及目的は本誌四十號以下にあり
◎開會中物產大共進會も開かれ船車賃割引の便有
◎本會の旨趣を贊成する者は何人も出品するを得
◎開會中當所貯藏昔萬の標本及昆蟲應用品を陳列
◎本會擴張に伴ふ更正規則は本誌四拾壹號にあり

名和昆蟲研究所

◎購讀者諸君へ公告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候處往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

明治三十四年二月

岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所
昆蟲世界會計部

謹賀新年

第六回全國害蟲驅除講習修業生 藤澤節太郎

東京早稲田農園 春期精撰種子定價一覽

東京市牛込區早稲田 早稲田農園

品名	一合代價	一合郵稅
早生千成茄子	金四拾錢	金壹錢
中生東京山茄子	金參拾五錢	金壹錢
晩生東京山茄子	金參拾五錢	金壹錢
巾着茄	金四拾錢	金壹錢
佐土原長茄子	金五拾錢	金壹錢
清國大長茄子	金貳圓	金壹錢
清國大圓茄子	金貳圓	金壹錢
米國太長茄子	金貳圓	金壹錢
米國大圓茄子	金貳圓	金壹錢
早生節成胡瓜	金參拾五錢	金壹錢
大胡瓜	金參拾錢	金壹錢
越瓜	金壹圓廿錢	金壹錢
大越瓜	金壹圓廿錢	金壹錢
鳴子甜瓜	金四拾錢	金壹錢
大甜瓜	金五拾錢	金壹錢
梨甜瓜	金參拾錢	金壹錢
洋種甜瓜(各種)	一袋金五錢	
夏大根	金七錢	金貳錢
時なし大根	金貳拾五錢	金貳錢
細根大根	金八錢	金貳錢
龜井戸大根	金拾五錢	金貳錢
廿日大根 赤、黄、白紫各種	金四拾錢	金貳錢
冬瓜	金拾貳錢	金壹錢
支那大冬瓜	一袋貳錢	
琉球大冬瓜	一袋貳錢	
清國方瓜	一袋貳錢	
清國芋瓜	一袋貳錢	
內國大西瓜	金拾錢	金壹錢
西洋西瓜 アイスクリーム	金參拾錢	金壹錢
西洋西瓜 マウンテンスウイト	金貳拾五錢	金壹錢
縮緬南瓜	金六錢	金壹錢
菊座南瓜	金五錢	金壹錢
早生南瓜	金六錢	金壹錢
洋種南瓜 ハッバード	金拾貳錢	金壹錢
大苦瓜	金拾五錢	金壹錢
太絲瓜	金五錢	金壹錢
夏蕪	金八錢	金貳錢
瀧の川人參	金五錢	金壹錢
札幌人參	毛附 金八錢	毛取 金貳拾錢
金時人參	金八錢	金壹錢
大長人參	毛附 金拾錢	毛取 金參拾錢
短太人參	毛附 金八錢	毛取 金貳拾錢
千住葱	金五拾錢	金壹錢
下仁田葱	金五拾錢	金壹錢
岩槻葱	金貳拾錢	金壹錢
九條葱	金貳拾錢	金壹錢
瀧の川牛蒡	金貳拾錢	金壹錢
札幌牛蒡	金貳拾錢	金壹錢
砂川牛蒡	金拾錢	金壹錢
堀川牛蒡	金拾貳錢	金壹錢
越前牛蒡	金拾五錢	金壹錢
洋種赤玉葱	金七拾錢	金壹錢
洋種黄玉葱	金六拾錢	金壹錢
韮葱	金六拾錢	金壹錢
甘藍(各種)	金壹圓廿錢	金貳錢
花椰菜(各種)	一袋五錢	
玉萵苣	金八拾錢	金壹錢
かきちしや	金貳拾錢	金壹錢
縮緬ちしや	金參拾錢	金壹錢
菠薐菜	金五錢	金壹錢
洋種菠薐菜	金拾錢	金壹錢
鶯菜	金六錢	金貳錢
しゆんぎく	金六錢	金壹錢
塘蒿	一匁五錢	
洋芹	一匁五錢	
ふだんな	金四錢	金壹錢
つるな	金四錢	金壹錢
石刀柏	金參拾錢	金貳錢
蕃茄(各種)	金八拾錢	金壹錢

其他各種

（毎月一回十五日發行）

昆蟲世界

（明治三十四年二月十五日發行）

第五卷第四十二號

◎昆蟲世界第四拾壹號目次

（明治三十年九月十日内務省許可）

…	市街界
‖	案内道
|	町道
イ	研究所
ロ	縣廳
ハ	病院
ニ	中學校
ホ	監獄
ヘ	郵便局
ト	西別院
チ	公園
リ	長良川
ヌ	金華山
ル	停車場

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共　金拾錢　〔見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す〕

壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局

廣告料五號活字廿一字詰一行に付金拾錢さす、三十行以上一行に付き金拾貳錢

明治三十四年二月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和靖

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶
編輯者　桑原貫之助

同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶
印刷者　河田貞城

（大垣西濃印刷株式會社印刷）

Vol.V. MARCH 15TH, 1901. No.3.

(三月十五日發行)

(毎月一回十五日發行)

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

(第五卷第參冊) 第四拾參號

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

(明治三十四年三月十五日發行)

目次 (禁轉載)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金貳圓也　北海道廳　田坂農場
一金壹圓也　兵庫縣　平林紋次君
一蟬形紙鋏　壹個　貴族院議員　田中芳男君
一普通教育動物學教科書
一普通教育動物學教科書註釋　理學博士　箕作佳吉君
一昆蟲標本　貳種　和歌山縣　藤枝碩三君
一半身肖像(寫眞)一葉　愛知縣　味勝正義君
一國民唱歌集壹冊。一新選國民唱歌集三冊。一重音唱歌集貳冊。一國教唱歌集壹冊。一忠勇軍歌集貳冊。一教育勅語唱歌壹冊。一東京唱歌貳冊。　東京音樂學校教授　小山作之助君
一半身肖像(寫眞壹葉)　岐阜縣　小竹浩君
一昆蟲摸樣附商標壹葉　三重縣　岩田製糸場
一昆蟲摸樣附商標壹葉　廣島縣　小山彰君
一農業金融論壹冊　東京市　裳華房

右當所へ寄附相成候に付芳名を掲げ其厚意を謝す

昆蟲展覽會寄附金受領公告

當所主催と成り本年四月を期し開設する第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金貳拾圓也　岐阜縣　岡崎治市君
一金拾圓也　岐阜市　竹中正義君
一金壹圓也　第二回岐阜縣害蟲驅除修業生　古川紋治君
一金壹圓也　第一回岐阜縣害蟲驅除修業生　大橋尊義君
一金壹圓也　第二回岐阜縣害蟲驅除修業生　河村源一君
一金壹圓也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　谷保太郎君
一金壹圓也　岐阜縣加茂郡佐見村農會

明治三十四年三月　名和昆蟲研究所

◎昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

岐阜縣佐會利重次郎君(二名)　香川縣脇屋禎三郎君(壹名)　宮城縣鈴木琨喜君(壹名)

◎第參回懸賞昆蟲寫生畫募集

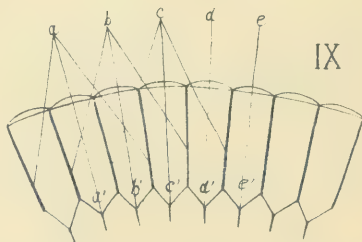
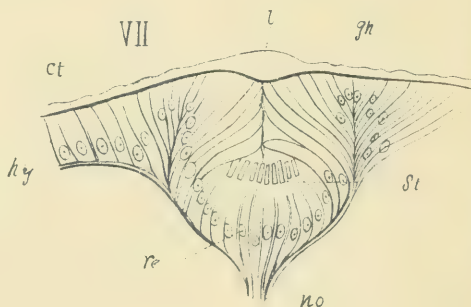
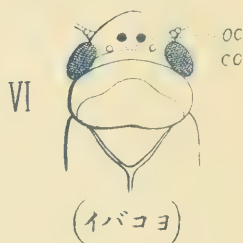
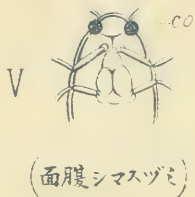
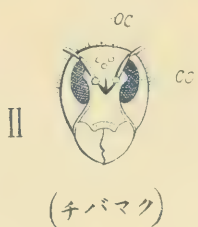
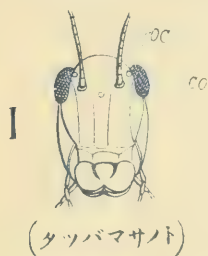
課題　**昆蟲**(昆蟲類なれば何にても宜し)　募集(本年四月十五日限)期限

賞品(自第一等至第四等)　發表の際これを定む

我國教育界に於て臨本に依り圖畫を習得せしむる爲め一般學生に實物寫生の練習少なきを憂ひ昨年來二回の懸賞畫題を提出せしに幸に好果を擧けたるを以て更に第一回全國昆蟲展覽會の附屬事業として茲に全國の學生に向つて大募集を企畫せり續々投稿を賜へ

大募集規定

鉛筆畫又は毛筆畫、輪廓線、光線附又は着色畫となすは適宜、用紙及其大小は適宜但壹枚壹圖に限る、可成は實物大を貴ぶと雖も、小形のものは放大圖にするも又は昆蟲に植物を添ふるも共に妨けなし、繪畫は實物を臨本として自寫せしものに限る、其用紙中に必らず蟲名、學校名、學級名、姓名及ひ年齡等を明記すること、一旦收受せる圖畫は一切返附せざること、最優等に屬する受賞畫は都合に依り木版又は寫眞銅版等に製して昆蟲世界誌上に掲載す

明治卅四年三月　名和昆蟲研究所

單眼及び複眼の位置形狀及び組織を示す

(單眼 oc)(複眼 co)(外皮膜 ct)(水晶躰 c)(硝子躰 gh)

(皮下層 hy)(桿狀躰 st)(網膜 re)(視神経 no)(角膜 F)

(水晶躰 K)(色素鞘 P)(主要色素細胞 p')(第二色素細胞 p'')(網膜細胞 R)

論說

◎過去に於ける日本の蟲害（其一）

天に變異現はるれば蒼生之れが爲めに傷み、地に殃災起れば民業之れが爲めに廢たる、是を以て往時凶札のある毎に、朝廷幣を神祇に奉じて國內の淸平を禱られ、官廳倉廩を開きて時に窮民を賑濟しぬ降りて明治に至れば海外通商の便開け、且つ有司夙に救荒の方策を講ぜるを以て、儉歲食に不足なく饑年衣るに餘りあるが如しと雖ども、而かも猶ほ國民の凍餒に瀕せしことは唯に一再に止まらざりき隨うて外國米綿の舶載せられしもの前後幾千万苞に上れるやを知らず、特に近年樹林濫伐の餘弊をうけしより、水旱交々來り襲へて瞬時に腴墳膏壤の禾穀を害なひ、其極、毎歲諸稅の大半を治水費に投せざる可からざるに至りては、帝國の不幸、同胞の痛苦、固より論なし、その他海嘯に、震災に、疫癘に、風火に、蟲害に、また各々國民をして蕩產流離せしむるに足れり、宜矣、今日の困弊は單り苛稅重租にのみ因れりと謂ふを得ざるや。

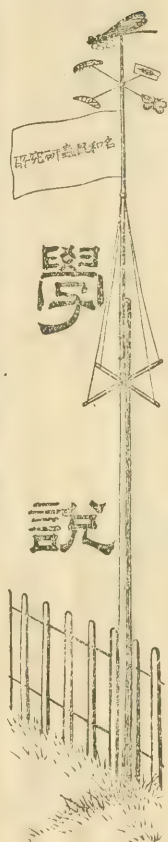
然れども此等の災異は、素と人爲を以て祈祝掃攘し易からず、就中、金と時と力の三者を併せ用ゐる時は水、蟲二害は纔かにこれを救濟するに難からざるも、由來治水の事業は其效績を彈指の間に擧げ能はざるを以て、之れが成功は少なくも五十年乃至百年の後に竢たざるを得ず、唯り驅蟲の方に至り

ては、或ひは器機の利巧を以て優に之れを未然に制止し得べく、或ひは藥劑の妙用に藉りて能く之れを現在に防遏することを得べし、然るを世間往々祆禳の昔話に拘泥し、また蟲豸偶發の迷說を信じて稼圃の蝕害は全然不可抗の一災厄なりと速斷する者なきにあらず、豈に浩歎に堪ゆ可けんや。

試ろみに本邦農家の現狀を稽査するに、之れを維新前に比較すれば、其の農的智識と、生計の程度に於ては稍高まれる所ろありと雖ども、逐漸、資本の乏絕し地力の減殺するに伴ない、爰に端なくも強者の併呑剝奪に遭ひ、今や殆んど祖業をすら繼承し能はざる貧弱の身を以て、過重の納稅義務を負任し、而してなほ此等不測の災異と日に畎畝の間に相戰はざる可からず、其の衷情洵とに憫れむべきものあるに似たり、更に顧りみて他の大農富豪なる者の爲す所ろを視れば、涓滴小民を庇護せんとするの慈眼愛心なく、肥肉厚酒、腐腸の惡食に太平を謳ひ、皓齒鄭聲、伐性の毒斧に魂魄を蕩かし、曽て春稼秋穡の何たるを解せざるもの丶如し、固より此かる儕輩の若きは、禍福門を同ふし利害隣りを爲すの事理を辨別するの識なきが故に、その處世の道に迂遠なるは敢て訝かり怪しむに足らずと雖ども苟しくも血あり又淚あるの實業家を以て自任する者にありては、疾く窮民救恤の大策を畫する所ろなかる可からず、否らずんば、久しく下層界に沈鬱蟠屈せる心炎胸火を異日事業の上に噴漏し、遂に一種厭ふべきの異分子を播植するに務むるなからんかを危ぶむ、是れ蓋し一時の夢想に外ならざる可きも、窮すれば則はち濫するは小民古今の常態なり、凶豐と民業、貧富と人心の關係、決して輕視すべき細事にはあらざるなり。

災異と困乏とは人の良性をして猛惡陋劣に陷いらしめ、豐稔と富實とは之を導びきて公正忠亮に趨むかしむるものなりせば、經世濟民の上より必らずや、凶を避け福を享けしむるの道を與へざる可から

ず、則はち人力の得て左右し得べからざる災異は暫らく之れを措き、面のあたり實行必成を期し得らるべき驅蟲方の如きは、今の疎放緩慢を以て足れりとせず、あらゆる農家の當に爲さゞる可からざる事業として、又各級農會の必らず施さゞる可らざる事業として、之れを豫防的に嚴行してれに依りて此に増利備荒の端緒を啓き、而後徐ろに其の困弊を救ひ其の慘苦を薄らかしむるに在るのみ。惟ふに、近ごろ人心に漸やく倦怠を生じ、敢て凶歉の怖るべきを忘れ、また之れに備ふるの途に暗し、是時に方り特に疑ふべきは、農學者として將た農政家として其の虚名を衒ひ奇利を釣らんが爲めには、恒に筆を雜誌に著書に染むるの徒、世間斗筲もたゞならざるに、嘗て一人の力を此等災異記事に注ぎ以てこの可憐の農民を警醒する者あるを聞かざるに在り、是れ編者が不學自から揣らず、俗務の餘暇を偸みて、爰に禿筆を呵する所以なり、讀者賴ひに淸世に杞人の痴を學ぶの徒と同視すること勿れ。

寢覺に蟲を聽く　老が身は寢ざめがちなる秋の夜の憂さを語らふ蟲の聲かな。（東久世通禧）

◎昆蟲と植物の關係（第三版圖參看）

岐阜中學校敎諭　長野菊次郎

顯花植物の大部分は昆蟲の媒介によりて受精作用を完ふするものなれば、其種類に富むや固よりなり而して昆蟲媒花は如何なる準備をなして昆蟲を招待するか、請ふ之を左に述べん。

（第一）花被の色彩艶麗なること（第二）香氣あること（第三）蜜を分泌すること以上三項は昆蟲を誘引する花の特性として見るべく、加之蟲媒花の花粉は多少、多面体をなすあり、突起を有するあり、又粘質を帶べるもの等ありて容易に蟲躰の一部分に附着し易からしむ。

凡そ草木の粲爛たる美花を開き、清楚たる芳香を放つあれば、人は之が艶麗を賞し、之が薫香を喜ぶといへども、其實決して人の感官を快よくせしめんが爲に花の準備せるものにはあらざるなり、何となれば人は花の受精作用に對して何等の利益をも與へざればなり、獨り花の花客として愛顧を仰ぐものは昆蟲を措きてまた他に之れあらず。果して然らば昆蟲は如何なる視器を以て花の色彩を感じ、如何なる嗅器によりて香臭を感ずるか、是れ余輩の知らんと欲する所なり。

昆蟲の眼には複眼と單眼との二種あり、單眼は常に頭部に横はりて三個を通例とすれども、或ひは一二個なることあり、或ひは衣魚の如く八個を有することあり、又甲蟲及び蝶類の大部分の如く全く之を欲くものもあり、其色澤も亦種類によりて黒白赤緑等の別あり、單眼は形態學上、外胚葉の變形せるものにして、外皮膜（Cuticula）の變形せる角膜質水晶体（Corneal lens）と皮下層細胞（Hypodermal cells）の變形せる硝子躰（Vitreous body）と網膜より成り、視神經の末梢は桿狀躰（Rod）をなせり。

複眼は通例二個にして圓形なれども、或ひは楕圓形、腎臟形、瓢形等をなすものあり、而して鍬形蟲の如きは、頭部の横突起によりて半ば二分せられ豉豆蟲の如きは脊面に二個腹面に二個を備へたり。

ろも複眼とは許多の小眼の集合せるものにして、形態上外胚葉の凹陷部の集合せるものに相當し、角膜、水晶体、網膜躰を有し、水晶体網膜躰の周圍には内外二層の色素細胞層なるものあり。

複眼をなせる小眼の面は多く六角形にして、其數は種類によりて同じからず、今其二三を擧ぐれば

(1)しみ　十二。　(2)あり　五十。
(3)はい　四千。　(4)こがねむし　八千八百二十。
(5)かひこ　六千二百三十六。　(6)めんがたすゞめ　一万二千。
(7)あげはのてふ　一万七千。　(8)べつこうとんぼ　一万二千五百四十四。
(9)はなのみ　二万。　(10)とんぼ(一種)　二万。

單眼複眼の生理的官能につきては、諸説紛々として其歸する所を知らずと雖ども、之を總括すれば大略次の如し。

單眼 { 密接せるものを見るべし / 垂直にあるものを見るべし / 暗所を見るべし

複眼 { 遠距離のものを見るべし / 水平にあるものを見るべし / 物体を放大する作用あり

尙進んで複眼に映する物体の影像如何を尋ねんに、リユウエンホツク(Leewenhock)氏及びゴツチエ(Gottsche)氏等の唱へし所ろは、小眼は盡ごとく諸物躰の形像を完全に影寫すべしと云ふにあり、此說によれば鳳蝶が一輪の花を尋ねて飛び來る際には、一方の複眼に一万七千の花影を映すべき理なり ミユウレル(Muller)氏の唱へし嵌工說(Mosaic theory)によれば各小眼は諸物体の只一部分を影寫するものにして、全複眼を以つて始めて諸物の全域を視るを得べしと云ふにあり、これにつきラボツク(Rubbock)氏は次の如く說明せり、不透明壁を有せる破璃管の數個を取り、第九圖の如く並列して之を複眼に擬せんに、aより來る光線はa'に達しbより來るものはb'に達しcdeは皆c'd'e'に達すべし、然れどもcよりの光線他の管內に入らんとしても、決して其底部(卽網脈に當る)に達すること

能はざるべし、然ればa'b'c'd'e'等に映ずる各影像を集合して始めてabcdeなる全体の形狀を知るべき理なり、このミユウレル氏の嵌工說は今日數多の學者の賛同する所なり。

以上昆蟲類の視官の概畧を述べたれば、以下眼と他の關係につき一二の要件を略述すべし。

眼の色と視力との關係　ギル.ヒチル(Girchner)氏の觀察によれば、一樣なる色の眼を有せる双翅類は、輝ける線狀若くは斑紋の眼を有せるものより能く視ることを得、例へば食蟲虻科、長脚蠅科の或種の如き肉食する蠅類は、敏捷なる視覺を要するが故に、一樣なる黑色の眼を有す又此等の蠅類にして、其幼蟲が他動物に寄生すべきものは、其幼兒の爲に最とも容易に適當なる寄主を見出すべく一樣なる色の眼を持てり、例へば長吻蠅科、眼蠅科、ヤドリバヘ類等の如し。

淸朗なる光線中に生活する蠅類、例へば長脚蠅科の多數及び長吻蠅科の或種及び虻、メクラアブ等の如きは金光色の線紋若くは斑紋ある眼を有せり。

眼の色は又雌雄によりて異なることあり、例へば馬蠅の一種の如し、其花を訪問する雄は單色の眼を有して線紋及び斑紋は眼の下、後方の一部分に存するのみなれども、其貪食にして血を吸ふ所ろの雌は眼の全面に線紋及び斑紋を有せり。

昆蟲の色感　昆蟲が物の色を識別し得べしとは、初めスプレンゲル(Sprengel)氏によりて報告せられたり、其後ラボック氏は蜜蜂につきて次の試驗をなせり、氏は蜜の一滴を玻璃小片上に載せ之を青色の紙上に置きしに、青色は蜜蜂の好む處ろなりしと見へ、之を觀るや否や直ちに此に飛び來れり、氏は他に橙色の紙を布ける玻璃の一片を彼の青色片の塲處より少しく隔てゝ並べ置き、蜂の不在を窺ひて青色片と橙色片とを置き換へたるに、蜂は其位置の變じたるに關せず直に青色片の方に飛び行

きたり、氏は其他種々の色を用ゐて反覆試驗せしが、蜜蜂は何時も皆青色の方に赴むけり、故に蜂ハ青色を好み且之を識別する力あることを確めたり、尙同氏の實驗によれば蟻は諸色を分別する力あれども、彼の感ずる色は吾人の感ずる色と多少趣むきを異にし、彼れ吾人の眼に著るしく見えざる一種の紫色(Uetra-violet)に感ずること最とも强しと云へり、又空中の高き場所より下方に飛ぶ所ろの蝶は、往々白紙の小片を白花と誤ることあり、而して同時に白色の蝶、例へばモンシロテフの如きは白花を選び、黃色の蝶、例へばモンキテフの如きは黃花に止まる傾むきあり、エリオット(Elliott)氏の報告によれば、白き裝飾ある赤き穀倉に於て白き蛾は白き部分に止まり、黑く或ひは赤みある蛾は暗く赤みある部分に於て止りたりと。

グロッス(Gross)氏の觀察によれば、家蠅が屢々彼の室の天井の靑綠色の輪に止りしことありしかば、之に覆ふに白紙を以てせしに、蠅は忽ち他所に飛び行けり、是に於て再たび其紙を取り去りしに蠅は忽ち飛び返りたり、パッカード(Packard)氏の觀察によれば、家蠅が厨の黃ばみたる壁にて綠色の紙を選びたり、然れども同し壁及び天井に貼りたる靑色紙(Prussian blue paper)の面には誘はれざりきと、此他アルプス山に生ずる深紅色の百合花及び橄欖色の菊花には同色の蝶類戲ると云ひ、又ヨルガホ、ツキミサウ、マツヨヒグサ等の如く、夜中開花して花粉の傳播を昆蟲に托するものは、夜間と雖も、多少認め得べき白色或は黃色を呈するが如き、皆昆蟲類に多少の色感ある事を證するものと云ふべし。

以上述ぶる所ろによりて昆蟲類に色感あることを知らば、諸花が美彩を呈する所以は昆蟲を誘引する一の方便たることを解するに苦しまざるなり、扨、花の色は如何なる順序によりて進化せるかと云ふ

に、アーレン（Allen）氏の説によれば、黄色は初等色にして白、紅、紫等是につぎ、藍は最とも高等のものなりと云へり、然れば同一種の植物にして初等色の黄と高等色の藍とを兼有せるものは甚はだ稀なり、例へば菊には黄白紅等の數色あれども藍色のものなく、牽牛花には藍紫紅白の色あれども黄色なきが如し、然れども稀にテンジクボタン、ウツコンカウ等の如く元來黄色なるも培養の如何によりて白、赤、紫、藍等に變遷して殆んど花の全色彩を現出するものなきにあらざるなり。

花色に種々ありて昆蟲の選ぶ所ろも亦多少異なるべければ某花には某昆蟲來り、其昆蟲は某色を選ぶなどの一定の規律あるべきは當然の理なれども、經驗に乏しき余輩は今爰に之を例證すること能はざるなり、但し其一班につきては先輩の説あり曰く蠅の愛するは通常白色又は鮮黄色にして甲蟲は重に黄色なり、蝶或は蜂の愛するは通常赤紫青にして、蒼蠅は其色赭赤にして肉色に類し、臭も亦腐敗に傾ける肉に類するものを好むとなり。

昆蟲の視得べき距離　　昆蟲の視得べき距離は種類によりて其遠近を異にすれども六フイート以上を超ゆること能はざるべし、之を平均するに、鱗翅類に於ては一、五メートルの距離に於て大なる物躰の動くことを知り得べく、膜翅類は僅かに六十八センチメートルなるが螢（Lampyris）は二メートル餘の距離に於ける大なる物体の形狀を見得べしとなり、然れども精密なる試驗を經ざる今日に於ては昆蟲の視覺は動搖せるものを見得べきも正確なる視覺を有するものは甚だ稀なりと云へり、但し大なる圓眼を有する蜻蛉及び貪食にして靜飛する昆蟲、例へば蠅の或種、ヤマバチ、蜜蜂等の如きは例外なりとす、之を要するに、昆蟲は視覺よりも嗅覺によりて重に誘引せらるゝものと知られたり、今や進んで昆蟲の嗅官に論及せん。

（未完）

◎各種の昆蟲書に就て

米國理學士　桑名伊之吉

(一)パッカード氏の新昆蟲書　何れの國よても、昆蟲學の研究は經濟的昆蟲(Economic Entomology)に始まりて、形態學即ち(Morphology)とか、分類學即ち(Taxonomy)とか云ふ純粹なる科學的研究をば暫らく后に爲すものなり、蓋し經濟的昆蟲學は直接我等に利益あればなり、經濟的昆蟲學が除々歩を進め害蟲驅除宜しきを得、殺蟲劑及び器械の改良を加ふるに至れば自然形態學とか、發生學とか、分類學とか云ふものをも漸次研究し、彼此の關係を知り甲乙の系統を明かにし、生物進化とか、自然陶汰とか云ふが如き深遠高尙よして且つ靈妙不可思議なる眞理を搜索するよ至る、是れ昆蟲研究の第二世紀なり。

パッカード氏の昆蟲學敎科書(Packard's A Text Book of Entomology)　は何れかと云へば、第二世紀に於て最とも愛せらるゝ所ろの一大著書よして、目下本邦の如く昆蟲學の尙ほ幼稚なる時代には餘り多く之を顧みる人なかるべきも、經濟的昆蟲學を研究するの學生と雖ども、猶ほ形態學、發生學及び分類學の一斑を知るの必要あるは勿論のことなり、左よ書中の要目を記して以て斯學研究者の參考よ供せんとす。

抑そも斯書は全躰を三大部よ分ち、その第一部には形態學及び生理學(Physiology)第二部には發生學(Embryology)　第三部には變態即ち「Metamophorsis」を說けり、以上の部分中にパ氏は下示の目次の如く一々精密よ之を陳述せり、— 動物界に於ける昆蟲の位置、昆蟲と他の節足類との關係、昆蟲類(Hexapota or Insecta)、頭及び其副器、胸及び其副器、腹及び其副器、神經系、氣門、食道系及び其の

副器、食道系に於ける泌液管、防禦的臭腺、誘惑腺、初脈系、血液の組織、呼吸系、生殖器、卵蚴及び成蟲の發生、第二發生及び總說等卽ち是なり、斯書は紙數七百二十九頁ありて明細なる索引を附し挿圖六百五十四と參考書の書史的目錄あり、之を要するに昆蟲の發生に就き此書の如く其一般を網羅せしものは未だ嘗て世に出でたることなし、去れば單に敎職にある人のみならず、苟くも昆蟲の解剖生理、變態等を知らんと欲する者の机上一日も缺ぐ可からざるの良書なるべし、余は信ずコムストック氏の昆蟲全書と此書とに依て學ばゞ、容易に斯學の堅固なる基礎を造り得べきことを。

(二)スミス氏の應用昆蟲全書　是迄米國にて發行したる應用昆蟲書は一にして止まらずと雖ども、農用植物及び動物、害蟲及び其驅除法を悉ごとく列叙せしものに至りてはスミス氏の應用昆蟲書(Smith's Economic Entomology)の右に出づるものは莫かるべし、彼が多年の經驗と博識とは此書によりて、頗ぶる多衆の間に斯學の普及を見ることを得たるは慶賀己む能はざる處ろなり、その精細なる索引と巧緻なる挿畫によりて害蟲の種屬を識認することは甚はだ容易にして、紙數は四百八十一頁を重ね中に三葉の全葉圖あり、此の書また全躰を三大部に分ち、第一部の八章には昆蟲体軀の構造及び分類法を說き、第二部に於ては昆蟲世界を自然分類に隨うて普通の害蟲及び益蟲を列記し、第三部に至りて殺蟲劑、應用的藥劑及び器械の使用法を陳述せり、而して此書の昆蟲學者に必要なるは勿論、農家園藝家等又座右必須の好侶たるは余の認視して疑はざる所ろなり。

(三)コムストック氏の昆蟲生活　此一小冊子は單に敎職にあるの人、若くば好事家の書架上に於て唯に好位置を占むるに止まらず、一般實業家にも亦甚だ便利を與ふることとなる可し、而して此書の長所と稱すべきは誤謬の無きにあり、他日其特色を顯すに至るれ余の豫じめ斷言するを恐れざる所ろな

り、其文体は餘り學術的(Technical)に傾むかず、優麗高雅にして詩的に屬せりと雖ども、利口に過ぎず又粗畧に渉らず、說明する處ろは凡て平易なりとす、其畫圖の如きも單に美的に止らず、能く說明の及ばざる所ろを補足して餘りあり、何人にても表紙のキリギリス(Katy-did)を一見せばコムストック氏の「昆蟲生活」(Constock's Insect Life)なることを知り得べし。

(四)ウイツ氏の昆蟲生活の斷、根本的に昆蟲思想の普及を圖らんとせば、宜しく先づ小學兒童より敎へ導ひく可し、彼の鐘太皷を以て蟲送りを行ひ、符札を立てゝ安心するの農民や、害蟲は天候に依りて一時に自生するものと迷信するの人に對つて遊說するは比較的勞多くして功少なし而して目下本邦焦眉の急務は農家に昆蟲學大意を皷吹するにあれば、當局者は大に奮發して斯學の普及を努めざる可らず、偖て其兒童の昆蟲思想を養成するに當りても、先づ宇宙間にある千羅萬象に就き大体を說明し、然る後ち漸次昆蟲談に及ぶ可し、否らざれば兒童の見識狹少となり隨うて之を學ぶに快味少なくして得ること多からぞ、例令花の構造とか、植物受精法とか云ふことを簡單に敎へ置きて后、昆蟲と植物との關係てふが如き話題を撰ぶを宜しとす、茲にウイツ氏の「昆蟲生活の斷」(Stories of Insect life by C. M. Weed)なる一書あり、何人も能く知れる其表紙に描出せる處ろの蝶(Mourning Cloak)を一見せば、假令彩色なくも直ちに該書たることを知り得べし、此書は青年子弟の爲めにウ氏が多年敎授の經驗を以て綴り成せるものにして、男兒女子の野に遊ひ牧場に戯むるゝ時、天然を學ぶの參考書としては適應せり、我等は兎角我等に最近のものを疎外し又之を輕視す、若し男兒女子をして始めより普通なる生物の性質常習を能く鑒察せしむるときは、長ずるに隨ひ普通種外のものをも注意して自然の美妙を悟り得るに至たる可し、而して一方には農用昆蟲學の一班を知らずゝゝの間に學ひ得るや必

せり此書は紙數僅かに五十四頁にしてその價ひまた二十五仙（米貨）に過ぎざれども其得る處ろは百斤にして止まざ、余は本邦一般の小學校が此かる有益なる書籍を採用する時の能ふだけ迅かに來たらんことを翹望して已まず。

◎サンノゼー介殼蟲と我國貿易の關係圖入（續）

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現今歐米諸國に於て蛇蝎視する所ろの此の有害サンノゼー介殼蟲が、我國にも發生するものなることを始めて世に紹介せしは恐らくは一昨三十二年の春なりしならむ、乃はち當昆蟲研究所構內に栽植せる苹果樹に於て偶然余が發見公示の時を以て其が濫觴となすべし、其後深く之を調查せしに既に業に三十二年以前より各地に發生せる事實をも見聞し、又其の分布傳播の狀に至りては既報の如く在米國の畏友桑名理學士探究の功によりて今や殆んど全國に涉り、之が加害の不尠なるを証徵せられぬ。この有害にして且つ兇惡怖るべきサンノゼー種が、斯くも國內に瀰蔓するものなりせば、身苟しくも勸業の要衝に立つ者にありては、寸時も不問に附すべきの秋にあらざるべし、若し不幸にして歲々これが跋扈跳梁するが儘に放擲して顧みざらんか、忽倏の間に內國の生產力を減殺せらるべきは言ふに足らず、第二の獨乙、第三の獨乙は世界到るところの我が得意市塲に現出して、遂に海外貿易の上に至大の影響を來たすなからんかを疑ふ、現に東京に在る某農園の如きは這般の獨乙の嚴令に制せられて、曩に海外に輸送せる植物の販路に窮したる結果、全たく內地に於ける買收を中止するの已むを得ざる悲境に沈淪せりと云へり、思ふに世の園藝に從事する者は、有司の干涉を竢つに及ばず、眼前の

機利に迷ハず、少なくとも世界的見識を以て三省熟慮する所ろなかる可からず。
そも斯の有害サンノゼー介殼蟲なるものは如何なる形狀習性を有するか、斯の微々たる小蟲、しかも顯微鏡下ュ照見するュ非らずんばその肢躰の搆造を知得し難き害蟲は、如何ュ猛惡なる種屬ュ配すべきものなりや、世界を畏怖せしめたる斯の害蟲は今后ゐは加害すべきや、此等の諸疑問を精しく解釋することを得ば紙上に多少の興味を添ふべしと雖ども、餘白ュ制限あれば今ハ止だろの梗概のみをものせんとす。
之を昆蟲學上の分類法より言へば、サンノゼー介殼蟲は有吻目の介売蟲科（Coccidae）に屬する一種ュして、外觀こそ違へ、實は浮塵子、蚜蟲ュ最とも近接せる種族とす、この種また介殼蟲の特質として其雌雄に依りて變態を異にし、雄蟲は完全變態を經過するも、雌蟲は全たく有吻目の本領たる不完全變態をなせり、是れ他の昆蟲類ュ於て多く見ざる所ろの一異點なりとす、剩つさへ雌雄の別ュより其体軀を被覆する所ろの外売の形狀ュ差異あるを以て、其外売すなはち介売を一見せば明ふかュ雌雄をも鑒別し得べし。
雌蟲の介売は暗褐色、或ひは灰色を呈し敢て一定するにあらず、其形狀は不正圓形にして且つ扁平ュ、中央は少しく隆起せり、試ろみに靜かに外売を除去すれば中ュは稍々黃色を呈せる身長四、五厘許りの微小の雌蟲こゝに棲息するを見る、而して雌蟲はもと全たく眼と觸角と翅脚を缺如するものなる

サンノゼー介殼蟲の圖

（イ）は雌蟲附着の狀（ロ）は介殼（ハ）は第一脫皮（ニ）は第二脫皮（ホ）は成蟲（雌）（ヘ）は腹端の放大

を以て他に移轉し若くは飛躍すること能はざるなり、斯く各種の器官は退化し了せるも唯り食を取るべき口吻のみは大いに發達して其長さ殆んど躰軀の二、三倍に上るを恒とす、すなはち此口吻を樹皮下に衝入れて養液を吸收しろの保全を計るが爲めに、躰軀の微小なるに關はらず被害甚はだしく終に數丈の喬樹をすら枯衰せしむるに至るなり、雌蟲に於ける口吻の構成此くの如くなるが故に、介殼を起して下方に向はしむる時は、その容易に皮心より脱去せざるが爲に軀躰の下垂するを見る、然れども卵子より孵化せし際には普通の昆蟲に於けるが如く、眼、觸角及び脚を具備するを以て能く幼蟲の運動し居るを目撃し得べし、而して一たび固定の位置を占め加害をはじむるや、玆に脱皮して生育を遂げ、先づ觸角を失ない、脚部を失ない次で眼目をも併せ失ふに至るなり、自然陶汰の妙用豈にまた奇ならずや。

雄蟲の介殼は其色灰黑にして、楕圓形をなしこれに蛇の目形の斑紋を印せり、その幼蟲期に於ては雌蟲に於けるが如く、各種の器官を備へて運動もし、脱皮期に迨んで一たびは觸角及び脚部を失却することあるも、再脱皮の後にて復た觸角、脚部等の痕迹を生じ、斯くて蛹期を經過して成蟲とは化成するなり、其成蟲なるものは二翅六脚を有し自由に飛翔することを得るも、たゞ前双翅の大なるのみにして、後翅の如きは已に鉤狀に退化變形せるを以て一見恰かも雙翅目中の或種に彷彿たり、其腹端にある劍狀の附屬物はすなはち異日交接の時に用ゐるべき一の器機なりとす。

上述の如く該蟲は一瞥の下に其雌雄を識別し得べく、又これが習性に於ても粗ぼ會釋することを得べしと雖ども、惜ひかな、我國に於ては該蟲に就て未だ精緻明確の調査を遂げざるを以て、經過その他に至りては如今信憑すべきもの世間極めて鮮矣、是れ畢竟昆蟲學界の大欠點たるに違はざるも、或

ひは夙に令規を以て制裁を加へざりし過失ならずとせんや、余が切に當路者に對つて反省を促がすの眞意蓋しまた此に存せり、否、當路者の發令を竢つに及ばず一般園藝業者の痛心苦慮、疾くこの害蟲を驅防するの道を求めざる可からざるは此の一事以て證左となすに足れり。

サンノゼー介殼蟲の經過は今なほ明瞭ならざれば爰に斷言し能はざるも、余が年來の試驗調査に徴すれば、一年凡そ三回以上の發生を遂げ以てその同族の蕃殖を計るものに似たり、而して吾が岐阜縣下に於ては梨樹の栽培地とし云へば、その地區の何れたるを問はず、近ごろ之が爲めに非常の慘害を被ふり其劇甚なるものに至りては、或ひは斧斤を入れ或ひは火殺するに非らずんば之を驅除し盡すこと能はずと云へり、特に安八郡北杭瀬及南杭瀬村地方に於て然りとす、豈に寒心に堪へんや。

因みに云ふ、昨年夏、宮城縣仙臺に於て著名の果樹園八ヶ處に就て該蟲を調査せしに、固より苹果樹にも之が發生を認めしも、梨樹にありては其の自然生と假曲法栽培のものとに論なく一樣に夥だしく寄生するを見、特に同地第一の大梨園針生某のものゝ如きは慘害の狀驚くべきものありきと、又同時に青森縣弘前市に於て、同地の有力者にして園藝家たる菊池楯衛氏の說明を聽き且つ親しく同市の果樹を巡檢せしに、被害の劇烈なるそ意想外にして其苹果樹を損害せる狀は反つて綿蟲の上にありしものゝ如くなりしも、當業者の注意厚からざるが爲め殆んど全たく放任の狀ありきと。前者は永澤小兵衛氏の實見に係り、後者は桑名伊之吉氏の書信に據る、茲に附記して該蟲の到處に蔓延せし一斑を示し、併せて余が記事に對する責任を明らかにす。

該蟲の梨樹その他を加害するの狀は多少相違あるべきも、之を要するに老株古木よりは寧ろ幼樹稚苗に多く、先づ根邊に發生して漸次上部に及ぼし、終に枝梢に蔓延して全樹盡ごとく介殼を以て被覆するものさへ之れあり、勿論斯かる大被害の樹木に在りては樹勢自づから凋萎の狀を呈し、幹枝處々に紫赤色の斑點を浮べて樹木天然の光潤を缺き葉花著るしく減少して、幾十日を經るも肥大繁茂の迹あるを認めざるなり、之を換言すれば斯かる被害樹は早晩枯死を免ることを得ず、而してこの枯死に

垂んとせる衰殘枯落の被害樹は今や岐阜縣下の梨園、否、本邦各處の果樹園に散在せりと云ふに至りてハ大いに警戒を加へざる可からざるなり。

夫れサンノゼー介殼蟲の暴威猛力を逞ふすること實に此くの如きものありせば、當業者は宜しく之に對して恰當の處置に出でざる可からざるに、現時の光景を以て言へば概して等閑に附し去つて之が救濟を講ずるを知らず、今や實に憐むべき境界に彷徨せるものゝ如し、しかも該蟲の害たる唯に枝幹の發育を阻害するに止まらず、夏期に至れば蕃殖に蕃殖を重ねて遂に葉芽、子實にまで其勢力範圍を擴め、之がため其果實をして凸凹醜惡なる畸形狀と變ぜしむるのみか、往々成熟を防たけ之をして空しく墜落の厄に罹らしむ、是れ海外諸國の久しく認めて以て大害蟲と稱する所以にして、又嚴法苛令を急施する所以なるべし、去れば我國に於ての急務は、之を内にしては此害損を救濟するの方法を講じ之を外にしては歐米諸國をして再たび獨乙國の勅令の如き不祥の法文を布かしめざるの方策に出で、以て長しなへに國利國益を保持するの覺悟なかる可からざるなり。

前に叙述せる蟲害は、現に吾が岐阜縣下到るところの果樹園に之を見る、借問す、こは古來濃飛地方に棲息せし種屬なりや、是れ最とも愼重に調査を加ふべき一大疑問とす、己に疑問に屬す固より未だ斷定を下し能はざるも、恐らくは嘗て種苗と共に他方より輸入せられしものにはあらざるなきか、何となれば余は該蟲の發生せる梨樹、苹果樹ともに古木には概むね其痕迹なく、殆んど近年他より購入せる幼樹にのみ之れあるが如き調査成績を得たればなり、然れども余は此等の一小部に於ける調査を以て決して滿足するものにはあらざれ、今後尚は更に進んで精確の材料を取得するに努むべければ、詳密の例証は數年の後に公表すべきも、此記事の疎放にあらざるを示さんが爲めに茲に一新例を擧げん

に、本年一月下旬の事なりき、從前曾て他方より苗木を輸入せざる縣下不破郡宇留生村大字牧野の地を撰びて實檢を試ろみ諸處調査を遂げしも、何の得る所ろなかりき、但し或る古木に於ては夥たゞしく之が發生をなせしものありしも、鏡檢の結果全たく別種のものたるを知れり、去れば昔時栽培家の或ひは慘害を被ふれりと稱するものに就て十分の調査を經なば、眞正のサンノゼー種にはあらずして此別種のものなるやも未ざ保すべからぞ、而して安八、不破二郡に於ける苗木供給地は愛知縣にありと聞き、本年二月上旬重ねて同縣種苗生產地の中心とも云ふべき中島郡國府村及ひ井長谷村地方を巡察し、井長谷村大字井堀の苗木商服部松之丞氏の先導を得て諸處調査を遂げしに、苹果樹、梨樹ともに該蟲の發生實に甚はだしく、到底生育の望みなきものまた多々之れあるを目擊せりき、但同地は單に苗木を種培するのみにて、巨大の果樹とては極めて少なく、纔かに之れあるも十四五年前埼玉縣武藏國安行より購入せるものに就て該蟲の存在寄生を認めたるのみ、此を以て推量するに或ひは安行產のものより漸々幼樹に傳播せしにはあらざるなきか。

終りに、余が本篇を脫稿の後、在米桑名氏の飛信に接す、曰く、氏が昨夏歸朝して介殼蟲を調査せられたる結果にや、該蟲には頗ぶる堪能の稱ある昆蟲學者シー、エル、マーラット（C. L. Marlatt.）氏は同國農務省昆蟲局の命を受け、三月下旬來邦調査に着手せらるゝに至るべしと、嗚呼これ本邦のために幸か將た不幸か、余は茲にその得喪を言はざる可しと雖ども、之が爲めに他日の國辱國損を來たすなからんことを禱ると共に、只管米國民の實地的擧動の敏捷輕活なるに一驚せずんばあらず。（未完）

きりぎりす　きりぎりすてゝをさせとし鳴かずとも月もるまじき閨のひまかは。（結城道閑）

次に掲ぐるは名和本所長が冬季の採集に就き、或る教育者集會の席に於て談話せる概要なり、時節柄世人を益する事多かるべしと信じ、特に圖畫を加へて、茲に收錄す。

編者しるす

◎冬季に昆蟲採集の利益

名和昆蟲研究所長　名　和　靖

昆蟲學研究と昆蟲採集の關係に就きましては、今更申すまでもありませんが、それを特さら茲に申述ぶるのは畢竟、言はんければならぬ必要があるからで御座ります、則はち昆蟲採集と申せば、多くの方々は春から秋までの間に、空を舞ふたり花卉に飛んだりして居る昆蟲を捕る事とのみ思ひまして、或る隱れ場處に潛んで居る蟲類をば殆んど念頭に掛けませぬから、私は出來得るだけ世の中で注目せない此の採集法を盛んにしたいと思ひまして、近頃は頻りに此事を同志者に勸め居る次第で、それは冬季の採集と云ふ事である、尤とも冬季採集につきましては先に印刷物にも致して之を配ばり、其後また昆蟲世界の第三十八號（昨年十月分）にも第一回全國昆蟲展覽會の題下に於て大概申して置きましたから御承知の方も多いこと丶存じますが、それでも其後逢ふ人毎に聞いて見ますると、成程御說は拜讀しましたが、まアヾ實行して見ませんと言ふのが大多數なやうで御座ります。

それで何故、冬季の採集が此くも世の同志に歡迎せられないかと考へて見ますると、經驗が少ないので餘程困難と思ふて居るらしいのと、未だ實行しませんから其眞正の味はひ即はち利益と云ふものを知らんからと思ひます、然るに冬季は御承知の通り植物が枯落し、動物が蟄伏すると云ふ時で、平生人力で捕ることの出來ない熊の如き猛獸や、獅鹿の如き快獸ですらも容易に手に入ると云ふ時期でありますから、小さな蟲類を捕ふとしたら其の容易な事は一目瞭然の次第である、それを古來の迷說と

も申さうか、冬になると蟲が天地間に居らんやうになツて、春になれば始めて化生するイヤ化生處ろか、偶生すると云ふ先天的の所信に制せられて、雪や霜の顔を見ると全たく蟲と云ふ觀念を忘れてしまう様に成りまする、若し蟲が果して化生か偶生かをするものと致しますれば、丁度神代の神樣と同資格となりまして非常に品位を上げる譯柄でありまするが、若し左樣なれば世界の昆蟲學者は皆ンな是迄虚偽を敎へたものと爲る、加之害蟲を豫防的に驅除する譯にも參らんやうに爲る、動物學の土臺といふものが悉ごとく土崩瓦解するやうに爲る道理でありまする、何ンと由々敷大事ではありませんか。

それで冬季の採集は啻り昆蟲學に利益する計りで無く斯ふいふ妄説迷信を打破る上に就ても非常に有力な証據となるので、決して彼の寒中の裸體詣をするやうな物好から起きたのではありません、是は理屈の上から申す計りで無く、私の處では是迄年々經驗を致して確かめて居りまするので、二月の岐阜昆蟲學會の席上でも其事を御話も致しましたし、又先頃岡山縣の邑久郡で開會致しました昆蟲展覧會へも六種の採集法によりて取集めました小蟲類百三十種計りを出品しまして、一面には之を奬勵すると同時に一面には其方式をも敎へました、勿論大喝采を博したと申す事であります。

偖六種の採集法とは木の皮の間を搜がすのと、石の下などを搜がすのと、草の根を搜がすのと、敲き網を行ふのと、篩網を行ふのと、最う一つは掬ひ網といふのをやるのでありますが、一旦之を行ひま

すると其面白味と云ふものは、中々忘れられ無い程で、夏や秋に迚も捕れません蟲までが捕れると申しましたならば、恐らくは皆様が怪しく思はれませうが決して僞りではありませぬ、夏や秋でありまするると木葉が茂り、草が蔓こりて中々小蟲などは見附かりませぬ、それに何分大きい蝶とか蛾とかと申すものが眼に入りますから、小蟲はなンぼ珍異の種類だと申しても捕る氣には成りませぬ、假し捕らふと致しても保護色がありますので容易な事では成りません、處ろが冬で御座りまするど斯ンな心配がありませんから中々面白い種類が澤山捕れまするので、小兒などは悦んで採集に參りまする、夫れに冬だからと申しても左樣に寒風肌を裂く日や雪降りの日ばかりでありませんから寧ろ思ふよりは容易な事業でありまする。

岐阜縣下では先頃、安八郡の大藪尋常高等小學校でこの方法に依りまして頗ぶる見事な成蹟を得ました、特に女生徒の作りましたもの抔と申したら實に感服のものもありました、そこで私の研究所からは夫々心計りの賞品を一同に贈りまして其功勞を感謝しましたが、聞けば羽島郡でも同樣の計畫があッて、凡そ百餘名の生徒の製作品を近々公けにするさうです、本巣や揖斐郡でも何か計畫があると云ふことをも耳に致ました、是は甚はだ結構な次第であるが、私の希望は此に止まりませんで今の中に各地方に於て盛んにこの採集法を行ひまして蟲の特質や習性經過を取調ぶる利益をも併せ得らるゝやうに致し度く存じ居ります、此他の採集法は昆蟲世界の第廿八號昆蟲幻燈會の部に挿繪を入れて説明して置

きましたから御覧を願ひたいものです。

◎サンホゼー介殼蟲は日本に居ります（San Jose scale or Aspidiotus perniciosus, Comstock.）

在米國スタンフォルド大學昆蟲部　白髮翁

凡ろ動物でも、植物でも、其原產地を去りて新領土に移轉する時は、其繁殖は中々盛んなものでそ、而して直ちに其全面に蔓延致します、彼等は新らしき事情に遭遇せん限りは一向繁殖するの機會がありませぬ、例へば一定の地が如何に其地在來の動物又は植物にて蔽はれて居ても、隅から隅まで立錐の餘地なき處へ尙ほ他地若くは外國から新たに來た所ろの動物若くは植物は、之を驅逐することなくして足を容るゝに相當の空間を見出すことが出來る、何となれば他から來た所ろのものは在來の生物の生存に適せぬ樣なる處へでも、尙ほ其生を安んずることを得るのみならず、彼等は天仇を本國に殘し來りたれば、此點よりして更に天仇の侵害といふものを受くることが無いからである。

サンホゼー介殼蟲（大日本農會報第貳百拾五號三十二年八月發行には「サンヂョースケール」とあり、松村農學士の日本昆蟲學六十九頁には「梨の介殼蟲」とあり、又昆蟲世界には「サンノゼー」介殼蟲とあるもの是なり）を北米合衆國加利福留仁亞州にて發見してより未だ僅かに二十餘年である、而して此害蟲は現今最とも恐るべき、最とも忌むべき且最とも驅除に困難なる針頭大の微小昆蟲として有名である、抑も此害蟲に就きましては新約育州コーネル大學昆蟲學教授コムストック氏が一千八百八十年に始めて科學家の注意を促したのでありまして、氏の之を加州サンホゼー市近傍の果樹園に於て發見したのは實に一千八百七十九年でありました、そして氏は此昆蟲に有毒介殼蟲（"the pernicious scale"）の名稱を附しましたが此時は決してサンホゼー介殼蟲とは申しませなんだ、そして彼の斯く名附けましたの

は是まで彼が見たる所ろの數多の貝殼蟲中で、凡そ此種ほど有害のものは見なんざと云ふ所ろから起きた事なさうです、然し乍ら其始めて發見した塲處及び最とも酷く害に被かつた果樹園がサンホゼー市近傍であッたが爲めに世人は直ちに之をサンホゼー介殼蟲と申すやうに成ッたのは同市の爲めに甚はだ遺憾のことである。

此害蟲の侵害區域は一千八百八十三年までは北の方桑港に止まり、同八十六年までは南部加州果樹栽培の要地へは侵入して居らなんだが、其後と云ふものは數年ならずして加州全体は申すまでも無く、オレゴン州ワシントン州及び英領コロンビヤに達して東方はアイダホー州子バダ州よりニウメキシコ州まで傳播しました、現に六歸高峯以東にては一千八百九十三年まで此害蟲の居ることを知らなんだが、今は合衆國全体に之を見る樣になッた、遮莫、現今に至りては加州の如き過去の慘害ほど非常の害を被ふり居らぬ。

此害蟲は被害苗木と共に甲地より乙地に移り、又遠く外國へまでも渡りて參ります、若それ一たび或る果樹園に足をおろす時は直ちに子孫の繁生を見る、すると其幼蟲の時に甲樹より乙樹、甲園より乙園と漸々擴がる、又鳥類やら他昆蟲の翅肢にも附着して傳播することもある、併し雌蟲の老熟せしものは一定の塲處を死ぬまで去りはしなせぬ、それは雌蟲の老熟せしものには足も翅も無いからであります。

此蟲の發生經過は普通のものと異なり中々面白くありなす、通常我等の肉眼にて見たる所ろにては雌蟲を保護しある所ろの介殼でありまして恰かも魚の鱗片の樣である、故にまた一名を鱗蟲とも云ひます、偖この鱗片狀のものを起して仰天にすると恰かも貝を仰天にしたるやうになる、即はち貝殼蟲の名はこれから來たので誠に其當を得たる稱である、此の介殼の下には大さが粟粒程で、通常黄色なものがある、是れが此蟲の御本尊樣で、体長の幾倍と云ふ長き口吻を植物の甘皮に刺入れて其養液を吸收するのです、雌蟲には足もなければ、觸鬚も眼も無く又翅もありませぬ、故に前にも申しました如

く、一度居處を定めまするど終生動く譯には參らぬから自然乾き死ぬのである、が奇妙にも之と反對に雄蟲には完全なる足、觸鬚、眼及び翅があり能く飛行して雌蟲の居處を探りあてますが此の雄蟲は最とも細きものでありまして普通の人の眼には掛りませぬ。
時に冬越したる雄蟲は初春に出でゝ四月頃雌蟲と交接すれば直ちに死にます、それより雌蟲は幼蟲を產みますが是は最微のもので顯微鏡の力を藉らずば能く見れませぬ、色は黃、形は橢圓形で、六脚と一双の觸鬚とを備へ居れば能く活動します、幼蟲の雄蟲になるものと雌蟲になるものとは其形貌は寸分も變りませぬが、其雌蟲になるものは一定の處を動かずに直ちに介殼を分泌して兩度脫皮するときは、足をも觸鬚をも失なひ、又雄蟲になるものは均しく介殼を分泌して一度脫皮すれば足及び觸鬚を失ふも、其の蛹化して成蟲となるの際更に新らしき足、翅、觸鬚及び眼が出來てまいるものですが一時は中々活動を致します。
此有害蟲は不思議にも未だ原產地が詳びらかで無い、數年前より米國にて有名の昆蟲學者は各々その戶籍調をなしつゝあるも未だ一向明瞭せぬ、或時までは南米智利國から故ゼームス　ライク氏が一千八百七十年頃カリフォルニヤ州に輸入せし苗木とゝもに參ッたと申して居りましたが、近頃の說ではアベコベに加州から智利の方に持ッて行ッたものであらうと云ふ樣になりました、尤とも南米には野生の植物に於て少しも該蟲を見ないと云ふ事です、其他布哇、濠洲及び太平洋諸島にも居るが皆何處からか傳播したものと斷定されて居る、處が數年前から桑港の撿疫官クロウ氏は一兩度ならず本邦より輸入する植物に此害蟲の寄生し居るを認めた、特に甚はだしかりしは一千八百八十八年一月廿五日の便船で齎らし來たッた植物の寄生し居ッたのである、加之二種の最とも類似の種類を發見した、そこで米國の昆蟲學者は日本が此有害なるサンホゼー介殼蟲の原產地ではあるまいかと云ふやうに成ッた、スルト大變ざといふ處で新聞雜誌等に種々の論說が現はれることゝ成ッたのは畢竟本邦の爲めに惜しむべきことである。

（未完）

◎和漢の學者と昆蟲（其壹）

古奥　青蓑白笠の人

世に昆蟲學といへる名稱の無かりし往時に、昆蟲の眞相實躰を知らぬ和漢の學者どもが、心に隨がひ手に任せて、己が不得意の昆蟲の事實を、書きもし、詠みもし、せしことの殊勝さよ(!)去るにても、故人は如何にして何處よりか、斯かる豊華なる材料を得たりしぞ、今これを讀むに偶々捧腹に堪へぬ妄説もあれど、興味津々として中には感ずべき節も多かり、溫故知新の資にもと、座右の古書どもを獵りてこの欄の埋草となしぬ。

○鈴蟲松蟲　當時褐色にして髭長く、腹黄にしてチンチロリンとなくを松虫といへど、これ古への鈴虫なり、鈴ふる音のごとくきこゆればなり、又色黑くして首ちひさく、尻大にして脊すぼみ腹黄白色にしてリリリンとなくを鈴虫といへど、これ松虫なり、そは松風の音に似たる故の名なり、おのれ若かりし時、遠江國秋葉山にて松枝にさるひゞきあるを聞きてあやしく思ひ居たり、そは年のくれの事なり、其後三河國寳飯郡の小江の松原を春の中頃にやあらん夜深く通りつるに松枝に笛の如き音あるをあやしみ、しばし立とまりて聞きしに風の吹き來る音にまじりて聞こゆ、時にもより品にもより枝振にもより風の吹廻しにもよりて

まゝある事なるべし、さる故ニ松風の琴の音ニかよふと歌ニもよめるなり、ただドウ〳〵とふく風の音のみならば松に限るべからず、松風に限りて琴の音にかよふはリリリインのひゞきあるゆゑなり、チンチロリンとなくは鈴虫にて鈴の音に似たり、西川行幸、壬生忠岑の序に山の端ニ月待虫うかゞひて琴の音にあやまたる、また或時は野邊の鈴虫を聞きて谷の水音ニあらがはれ云々、とあるニてよくわかてり、これ眞の鈴虫松虫の差別なり。（右、齋藤彥麿の片廂）

○東鑑中蚊觸　蚊觸（カブレ）東鑑五十二

かぶれとは、もと蚊に觸れて瘙痒生ずるより名づけ初ける。（右、天野信景の鹽尻）

○蜻蜓をトンボウといふは、吾邦の名を秋津洲といふゆゑ、東方といふ事なるべし。（右、物徂徠の南留別志）

○蜂、蜈蚣其外毒蟲に螫れたるニは、雄黄の細末水に調敷べし、痛つよくば酒にて飲べし。（右、建部清庵の民間備荒錄）

○子生月數　人は十月ニして生る、馬は十二月、狗三月、豕四月、猿五月、鹿六月、虎七月、蟲八月。孔子家語　（右、菊岡沾涼の近代世事談）

○虫の字むしとも、うじ（蛆）ともよめど、うじは、きたなくむぐめくをいひて、歌にはよまず新撰字鏡云、蜡（宇自）とあれど、蛆の字をよみきたれり、本草云、蛆蠅之子也、凡物敗臭則生云々。（右、契仲阿闍梨の圓珠菴雜記）

○蜂、馬を螫したる事　文政元年九月、讃州高松の東三里、石塚といふ處の百姓嗣右衛門といふ者の馬を、馬士近所の岡に牧し、馬を叢祠の側の古墓につなぎて、おのれは草をからんとせし時、蜂多く出でゝ馬を螫す、馬士見てはしり行きて打ち拂へば馬士にも數しらずあつまり螫す故、たへかねて馬をひきて歸りしに、馬人とも大ニ腫れて馬は二日を經て死す、馬を屠りて見るに毛の間に蜂十四五くひつきて居たりしと、近所の人池戸村周藏といふもの九月六日ニ吾が塾ニ來り其の家をいづるまで

馬士は死せざりしが、とても治まじきよしをかたる、予若き時、備後府中の僧大酔して山中に臥したるを大蜂あつまり螫して死せしよし畫史墨隨が語りし、其の後はじめて此の異をきゝぬ。（右、菅茶山の筆のすさび）

○享保年中の典藥の抄書みたるが、そのうち又抄出す、耳に蟲の入たるは酢につけたる生薑を水にひたして、耳にいれ歩めば虫いづるとぞ、血の道には、蜂の巣をやきて酒にてのむ、ねぶの木と東へさしたる栗の枯枝、等分黑燒にして酒にて下す。（右、白河樂翁の退閑雜記）

○今の俗、薺の薹のみのりたるを、ぺん〱草と呼て紙燈にかけ繫ぎ、夏虫を避るの呪とす、こは西蕃にも似たることありて物理小識六の卷に、高濂が籟品、正二月有窩螺薺、即地英菜、取薺菜花莖、作挑燈杖、可避蟲蛾、謂之護生草、と見ゆ。（右、小山田與淸の松屋叢話）

◎昆蟲見聞記（四）

長野縣　清水藏

（其十四）オホツマグロヨコバイ　本誌第四十號昆蟲生氏はオホツマグロヨコバイの桑樹の害蟲なることを實驗したりとて記述せられしが、當地方にても該蟲は常に桑樹に加害しつゝあり、倘該蟲は桑樹のみならず、各種の樹木、蔬菜、雜草等幾十種の植物に害を加ふるものにして、成蟲の儘越冬す、目下日當りよき生垣の下、塵埃、雜草等の下を探ぐれば數十頭を獲ること難きにあらず。

（其十五）當地方の昆蟲發生期　當地方に於ける螢、蟬等の發生期を摘記すれば左の如し。

（蟲名）	（廿七年）	（廿八年）	（廿九年）	（三十年）	（卅一年）	（卅二年）	（卅三年）
螢	六月十二日	六月十二日	六月十一日	六月十日	六月十二日	六月七日	六月九日
ニイニイ蟬	六月十八日	六月十六日	六月十六日	六月十九日	六月十六日	六月十五日	六月二十日
ハル蟬	○	○	○	○	○	五月四日	五月十四日
カナ〱蟬	○	○	○	○	○	六月廿六日	○

倘三十三年にありては、ヒオドシテフを三月十五日に、キテフ及びテングテフを三月卅一日に、ルリシジミを四月五日に、キアゲハを四月六日に、ツマキテフを四月廿四日に、コミスヂテフを五月七日にベニスズメを六月八日に見たりき。

(其十六)埴科郡西條村の蝶類　余が今日までに採集せし蝶類は左の如し、此中數種を除くの外は皆自庭園内にて採集せしものに係れば、倘この他に幾多の種類あるや必せり、現に余が目撃せしのみにて未だ捕獲するに至らざるもの三四種あるに徴するも明らかなり、その名稱及び多少比較の如きは更に精確に報道せんとす。

鳳蝶科　四種　粉蝶科　六種　蛺蝶科　十九種　蛇目蝶科　五種
天狗蝶科　一種　小灰蝶科　九種　挵蝶科　五種

●蟲界雜記（第三）

千葉縣印旛郡遠山村　齋藤啓二

(四)品評會の麥蛾　昨年十月當縣成田町に於て大日本農水産會聯合品評會を開設したりしに、農産舘第一號大小麥列品中に麥蛾の羽化して箱中を飛び廻り居るもの多きを見たり、又甚しく食害せられつゝあるものも數多ありき、又水米の部に於ても穀蛾の害を被りしもの數多ありき、當時余は不審に考へたり、品評會は各人皆品質調製の良否を爭ふ塲所なるに、如斯き粗末なるものを出品するは如何にや、害蟲迄出品するとは餘りに寫生的ならずやと。

(五)ルリタテハを手擒す　ルリタテハは是迄諸氏の記せられし如く、甚だ敏活なる蝶にして之を捕ふること中々容易にあらず、然るに余は之を手捕にせしことあり、即ち一昨年の春の頃一杉林中に於て不圖該蝶の飛翔するを發見せしかども、身は素と採集に出掛けしにあらざれば、捕蟲器を持ち居らざるも、イザ一襲を試みんものをと、所々追廻りし后彼れ低き杉枝上に止まりしを后方より襲ひ空手にて捕へたりき、然るに毒壜もなく又蝶を入るべきものもなし、且つ余は他に携ふべき荷物あれども、

別に致方のなければ片手に蝶を持ち、片手荷物を持ちて二里餘の道を歸來りしは中々苦しかりき、此蝶展翅せられて今尙ほ余が標本函にあり、ルリタテハは我地方には甚だ稀なる蝶なれば容易には手に入らず。

（十八）飛生蟲の用途　　飛生蟲の用途に付ては曾て本誌にも記載せられたることありしが、それと略ぼ同樣のこと余が地方にも一時行はれたることあれば記して以て參考に供せん、余が近鄕なる成田山は海內屈指の佛閣にて賽客分時も絕ゆることなく、其不動堂上なる一大賽錢函は常に賽錢を以て充滿す、然るに町內の頑童幼婢等の之を羨みて鳥黐を棒端に付けこれに錢を粘着せしめて竊かに菓子代を拵へつゝありしが、鳥黐にては錢にまで付着して始末惡しとや思ひけん、后には飛生蟲を用ゐたり、其法糸にて飛生虫を縛り、函內に投下して錢を搔ましめて引上ぐるなり、此法彼等間に於て尤も輕便なりと感ぜられ、飛生虫は一疋四五錢位にて賣買せられたることありき、然れども今は取締を嚴にしたれば最早再たび爲し難かるべし。

●昆蟲見聞錄　（八）

在東京　小山海太郎

（三十一）燕の一　　通常燕を保護鳥の一として我政府の之れが捕獲を禁ぜし所以のものは他なし、其多くの蟲類を捕食するを以て、吾人農界に於ける益鳥なりとの事由あるに過ぎず、然く天下公衆の認めて以て有益鳥なりとなすものは、今更茲に喋々するを要せずと雖も、之に對つて感ずる所の一ッ二ッを記さんに、余曾て鄕里にあるの日、天忽然として黑雲を起し驟雨將に到らんとす、時恰も盛夏、蠶兒の給桑に多忙の時にして父と共に桑條の刈收に餘念なかりき、偶々燕群あり來りて我桑園に集まり、縱橫上下飛ぶこと切りなり、其何の爲めなるかを知らず、時々鎌を空ふして彼等の擧動を伺ふ、爲に父に叱責せらるゝもの數回、是れ余が桑園に「桑のブシラ」（クワノシブ、ソブ、シロシブ、クワノワタムシ、クワジラミ）と稱するもの甚だ多く發生し、今や正に翅を生じ桑條の動搖に逢ふて飛散するも

のあるを燕群は何れよりか認め來りて其飛散するものを捕食せるなりき、故に試みに一株の桑條を動かさんか「桑のブシラ」も四方に飛散するを見ると共に燕群喜び嘻々として襲ふ、又奇觀なりし、按ずるに、邦人の通常燕を保護して其住家に巣はしむるや、窮鳥懷に入る獵師も之を捕へず、燕常に常磐の國に住するも蛇多くして子を育する能はず、故に我國に至るもの何んぞ保護せざると、噫、此心底や既に善なり、今更に其有益鳥なる名字の下に保護するに至らば如何に燕の幸福なるべきことよ。

(三十二)燕の二　岩燕(飯島博士保護鳥圖譜一二頁及第三版參照)は元來深山の岩石に群居巢を結ぶものにて、之れを捕へて商品に供するものもあるとの事なれど、余が郷里の近傍にては、倉庫の廡下等に纍々營巢するもの少なからず、去れば彼れの平野にあるもの又吾人が常に憂慮する所の害蟲を捕食すること少なからざるべし、吾人は如何にもして、此鳥の尙は一層繁殖し遂に戶々家々に最も多くの營巢を催す樣の方法を講じたきものなり、大方の讀者諸君子中には岩燕の營巢を催すの方法を知れるものなきや、紙上にて聞かまほし。

(三十三)燕の三　通常燕の擧動を觀察するに、單に空中を飛翔する所の蟲類を捕食するに止まらず又水面に浮べる蟲類をも捕食すること甚多きが如し、吾人が夏日池邊に立て池面を眺むること少時、忽ち群燕の快飛一轉、時々水面に落るが如くして又飛び去るを見るべし、又農桑期に於ては特に水田面に於て斯の如く旋轉翔舞するの頻繁なるを見る、蓋し是れ吾人が耕耘に因りて地中の蟲類をして水面に浮出せしむるに依るなるべし、燕類の吾人を益する又少々にあらざるを知るべきなり。

(三十四)鶺鴒　鶺鴒も又保護鳥の一として其捕獲を禁ぜらる、蓋し害蟲を捕食するの爲に依るなり、俗間鶺鴒を目して有毒鳥なりと稱するものは固より無根の說なれども、是を古史に照すに、我國神代の往昔、諾冊の二尊に陰陽の法を悟らしめたるものは該鳥なり、故に捕ふべからずと、果して然らば我國歷史上より云ふも勸業上より云ふも保護せざるべからず、然るに此鳥の雛が其卵を孵化せんとするや、人の來るを恐れざること多く爲に、小兒輩の手獲する所となること少なからず、世の父兄たる

もの宜しく兒孫を教導せざるべからず、因ょ記す鶺鴒は多く水邊にありて小蟲類を捕食し、殊に水田耕耘の時の如き、其浮漂せる蟲を捕ふること甚だ多きれ、吾人農家の親しく實驗する所なり。

（三十五）三光鳥　地方ょ依りては三光鳥を以て又有毒鳥なりとし、其止まりし木枝ょさへ手を觸れしめざるが如く警むる所ありと、蓋し其有毒たるは又無根の說たるを免がれず、而かも有益無害の鳥にして其鳴聲の（月日星星）と呼ぶが如きより三光鳥の名出でたりと云ふを聞けば、又天を敬するの意より之れを保護せんが爲に有毒なりなど、傳唱するにはあらざるなきか、其想像の當否は暫く措き、之れが保護ょ至りては最も注意すべきもの丶一ならん。

雨中蟲（あめのむし）　なく蟲の聲たゑぐ〵に聞ゆなり雨夜ふけたる庭の草むら。（鍋島直大）

◎中遠（靜岡縣の一部）の蝶報

第三回全國害蟲驅除講習生　靜岡縣　神村直三郎

昨年及び前年に於ける予の採集と、友人の採集に係る中遠地方の蝶類を世ょ紹介せんとす、尙は採集を重ね更ょ區域を擴張せば多種を得らる可けれど、ろは他日に讓りて茲ょ第一報を試ろみんとす、但し表中に擧げたる名稱の中には友人の採集ょ係るものも含有せりと雖ども其の期節及び多少の二事を確かめたるは一ょ予が採集の結果とす、去れば定めて謬りも多からんと信ず先達の士是正を賜へ。

科名	名稱	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
鳳蝶科	アゲハテフ	少	多	甚多	少	甚多	多	
	キアゲハ	少			少			
	クロアゲハ					多		
	カラスバアゲハ	未詳						
	アチスヂアゲハ		少					
	ヤマジヨロヴ	少	少					
粉蝶科	モンシロテフ	多	多		甚多		多	多
	スヂグロシロテフ	少						
	ツマキテフ	多						
	チツ子ンテフ	多	甚多					多
	キテフ	多	甚多			多	甚多	甚多
	ヤマキテフ						甚多	多
蛺蝶科	ヒオドシテフ			多				
	ルリタテハ	少	少			多	多	少
	コミスヂテフ			少	少			少
	イチモンジ		甚少					
	ゴマダラテフ		少			多		
	アカタテハ							少
	ヒメアカタテハ						多	多
	ウラギンスヂヒヨウモン		少	少	多			多
	リヨクシヨクヒヨウモン							少
	オホハヤバ	甚少						
	メスグロヒヨウモン							甚少
	コムラサキ	未詳						
斑蝶科	アサギマダラ							甚少
蛇目蝶科	コジヤノメテフ	未詳						
	ヒメウラナシジヤノメ	多						
	キマダラテフ		少			甚多		
	ジヤノメテフ				多			
	ヒカゲテフ			少			多	
	ヒメジヤノメ		多					
天狗蝶科	テングテフ	未詳						
小灰蝶科	シジミテフ		多					
	ルリシジミ	未詳						
	ヤマトシジミ			多				甚多
	ベニシジミ			多				
	ツバメシジミ	甚多						
	ムラサキシジミ	未詳						
	ウラギンシジミ							甚少
	ウラゴマダラシジミ		甚少					
挵蝶科	ダイメウセヽリ		少					
	イチモンジチヤバチセヽリ		少			多	甚多	甚多
	ミヤマチヤバチセヽリ	未詳						
	ホソバ子セヽリ	未詳						

◎昆蟲方言及譬喩

千葉縣　林　壽　祐

千葉縣下長生郡近傍の昆蟲方言を擧ぐれば、次に記するが如し。

○金龜子　たまんぼ　○椿象　うんがむし
○天牛　ぎち〳〵　○螻蛄　けらさ
○蟋蟀　めゑ〳〵　○蟻　あありんぼ
○大蜂　くまんばち　○地蜂　砂蜂
○蝗　なんご　○穀蛾　うぞ
○蝶　てう〳〵　○蛹　にしやごし
○蠶ノ卵　虫の子　○ガムシ　かんば
○ヘヒリムシ　へつぴりむし　○蒼蠅　ぶんぶんばゑ
○カナブンブン　かれたまんぼ　○蟷螂　はらたちばば(能く怒る故に)
○同卵塊　蛇の涎(形による)　○螽蟖　きゃりす
○同　あかんぶ(褐色なるもの)　○同　あをんぞ(綠色)
○蟬　しいみ　○ツクツクボシ　ほーゑんつくつく(鳴聲に因)
○ハルゼミ　むつからじいみ(麥刈頃出る故)　○蜻蜓　おつぎよさんぼ
○豆娘　姉樣蜻蛉(頭形に因りて)　○同　ひかげさんぼ(日陰に居る故)
○同　おはぐろさんぼ(黑色なるもの)　○ウチハトンボ　油屋蜻蛉
○赤蜻蛉　さうがらしさんぼ(赤きを以て)　○ミヅスマシ　しろかへむし(水面を廻旋するにより)
○アブラゼミ　たらうじいみ　○沙浮子　こちよ〳〵(手掌に載する時の擧動による)

又筆の序に當地方に於て用ゐる所ろの昆蟲に因める俗譬を示さんに。

○蚤の夫婦(夫小軀にして妻大幹なるもの)　○ニシヤドシ(蛹)が(人の自在になるもの即ち氣の善い人を)　○蛆虫が(賤むべき人を呼ぶ時に)　○烏蠅(能く怒るものを)　○螢(淫賣婦)　○蟬(空論を好むもの)　○ブヤウ(蚋)の睾丸(微小なるものゝ形容)　○蚤の喰つた程(疼痛の極めて微なるを)　○虻蜂さらず(勞して効なきを)　○ヘツピリ虫の附つた樣に(强請

するを）　○ニガムシ喰ツぶした樣な顏（疾病又は怒れる人の顏相）　○ウンガムシ（椿象）已んが身の嗅いのも知らずに（已れの短所を悟らず人を彼是惡く言ふもの）　○蜻蛉の頭（麥飯）　○泣き顏に蜂（痛苦の重さなるを）　○カンパ（ガムシ）だ（水中を巧に潛行するものをさして）　○烏蠋の樣に（肥滿せるものを）　○此他一寸の蟲にも五分の魂、馬鹿さ蜂には搆うものが馬鹿、蟷螂の勇、など俗語多し。

◎兒童の昆蟲採集と父兄懇談會

岐阜縣安八郡大藪高等小學校

本校に於ては授業の餘暇、職員は高等科兒童を郊外に引率して冬季の昆蟲採集をなさしめ、之れが研究をなさしむると共に、手工科の一端ともがなとて、兒童四名を一組として一函づゝの標本を製作せしめたり（函は縱六寸、幅四寸のボール紙製にて、表面には硝子の蓋あり、中に七十乃至八十の二等邊三角形の厚紙を針を以て刺留め、其尖端に微細の昆蟲を裝ふたり）しに兒童は深く興味を感じ數日間熱心に事に從へり、然るに名和昆蟲研究所長には斯學の應用は多數の協力に依るにあらざれば得て能く其目的を達すること能はざるものなればとて、小學兒童に其思想を養成するの利あるを說き且つ痛く此擧を翼賛せられ、標本製作の際にも親しく視察を遂げられしが、今回その成るに方り別記の書に添へ、多くの賞品を寄贈せられしを以て、本月七日本校父兄懇談會に併せ該賞品授與式を擧行せり、今その概況を叙述すれば父兄懇談會には習字、圖畫、作文、裁縫等の如き兒童の成績品及び兒童の冬季に採集せる昆蟲標本を陳列して一般の縱覽に供し、又尋常科の實地授業、高等科兒童の修身、歷史、地理科に於ける談話演習及び理科實驗等あり、次で來賓名和昆蟲研究所長、佐々木安八郡視學、近藤大垣興文小學校長等の有益なる演說ありて茶話會に移り、各自の注意事項に付談話する所ろありて薄暮散會せり、當日は今年に於ける第二回の大雪ありて奇寒骨を刺し、泥路車軸を沒するの困難ありしも小幡當郡長を始め有力者の參會多くして意外の盛會を呈したりき。

嘗て聞く、巧手ありと雖も規矩を修めずんば方圓を正ふすること能はず、察耳ありと雖も六律を吹かずんば五音を定むること能はずと、今それ農作害蟲驅除の急須を感ずるも、先づ昆蟲の種屬、名稱、性狀より之れが採集、保存の諸法を知悉するにあらずんば、焉んぞ能く恰當の處置に出てゝ其の効果を實地に收むることを得べき、況んや、昆蟲攻究の事たる、啻り農藝の上に密接の關係を有するに止らず、之れを科學の上に施せば、以て博物學の發展に資すべく、以て觀察力の養成に益すべきもの、多々之れあるを以て、秩序的に學修すべきの必要あるなや。

吾が濃州の地、由來、米產を以て天下に名あり、而して農を害なひ民を窮しむる所の昆蟲に對しては、一も備ふるものあるを知らず、是れ不肖靖が夙夜一身の褒貶安危を顧みず、敢て屢次、警醒の意を漏らす所以なり。
今茲、西濃を巡察し、途に大藪を過ぎる、過々、小學校長柳田君の其部下の敎職と共に、男女兒學生を督勵し、講學の餘暇を以て、昆蟲採集に勉めしめ、漸く堆んで數函の標品を獲たりと聞き、親しく君を校に訪ふて之れが顚末を質せしに、其成蹟の優良なる、其學生の精勤なる、洵とに本邦小學の典型と爲すべきものあり、私かに謂ひらく、多年唱道の一端を、始めて事實に證徵することを得たりと、乃ち此の事に關はれる六十有餘の學生諸子に贈るに、斯學研鑽に供用すべき器具其の他を以てし、聊か柳田君企畫の事業を助長するの微意を表す、惟ふに、今日の小成に安んぜず、國家の爲め、將た斯學の爲め、倍々規矩を修め、六律を吹くに鋭意從事せられなば、其方圓を正ふし、五音を定むるに至る蓋し難きにあらざるべし、語に曰く、道は邇きにあり、而して諸れを遠きに求む、事は易きにあり、而して諸れを難きに求むと、諸君それ旃焉。

明治卅四年二月三日誌

岐阜市京町　　名和昆蟲研究所長　　名　和　靖

◎昆蟲に關する葉書通信（拾壹）

（五十二）昆蟲思想の普及（山形縣松嶺、齋藤朝之助）　熟々考ふるに貴所は天下の中心にありて昆蟲學界に先鞭せられ其裨益貢献する所の宏大なる、恰かも活々乎として其畔岸を知る能はざる大河の如し、而して天下に警戒刺激を與ふるに於ては猶ほ池心に石を投ずれば、渦紋を現して近きより遠きに旋回を及ぼすが若し、是れ自然の然らしむる所あるべしと雖ども、其波動生の漸次遠距離に來るや、水勢また緩慢となり其潤澤また隨つて多からざるに似たり、而して此の可憐の農民の頭腦を開拓する名和翁の力に頼るにあらんば難きを感ぜり、嗚呼、漠々たる吾が奥州の野、未だ伯樂の來らざるを恨むや久しき哉。

（五十三）冬時の紋黃蝶（岐阜縣羽島郡、岩越金次郎）　去る二月十七日單騎採集旅行に出掛候處、始めの程は一向獲物も少なく不愉快を感ぜしも、漸やく進擊するにつれて追々獲物も有之、甚だ愉快を感じ申候、其中、曲利附近の堤防の中腹にて四羽の紋黃蝶のタンポポの花に戯ふるゝを認め、激戰數刻の後遂に三羽を捕獲致候、今頃この蝶の現はれ居るは定めて成蟲の儘越年したる、然かも尾羽打枯らせし浪人が餘りの好天氣なるに浮かれてフラ〳〵と飛出したるものならんと存ぜしに、何ぞ圖らん黃粉麗はしく裝へて身には一つの手傷だも受け居らざる天晴のものならんとは、今その其狀態より察する時は近頃成蟲に化したる如く見ゑ候が如何のものにや、冬時捕蝶の狀を報道に兼ね疑問の廉を寄せて同好に示す。

（五十四）昆蟲子守歌（岐阜縣安八郡、村田庄太郎）　昆蟲學普及には種々の方法手段あるべきも幼女等をして子守などの際に蟲名を記憶せしめなば、知らず〱の間に農作物害蟲に關する智識觀念を得せしめ、兼て子守謠改良の一助にもならんかとの微衷より左の子守歌を試作せり、看者幸ひに短處のみを捉へて彼是咎め玉ふな。

一ッひめずうむし、尺とり、毛むし。　二ッ不思議ないらむし、はまき。　三ッみのむし、てんとうだまし。　四ッよとうむし、あぶらむし。　五ッいつも恐いはずい虫、うんか。　六ッ群がるこがねと、羽むし。七ッ菜むしや、かみきり、ゐなご。八ッ山邊にャしんむし、ぞろこ。九ッ此のような害蟲を捕らば。十デ年々御國が榮ふ、サテ〱御芽出たや。

月下蟲(げつかのむし)　さやかにも月(つき)すみ渡(わた)るよもぎふの庭(には)にさひしき蟲(むし)のこゑかな。（水野忠敬）

◉農作害蟲衆議院を襲ふ　前號の本誌紙上に農作害蟲に蝕損せられたる西南及び畿内の地方より「蟲害地租全免」の請願を衆議院に提出せし趣きを報道せしが、右は宮崎縣下及び京都府下に起りし蟲害地を指せるの外、和歌山縣下の被害地をも含めるものにて、其害蟲は浮塵子及び螟蟲の二種とす、即はち左の如し。

（一）宮崎縣宮崎郡生目村、瓜生野村、大宮村、那珂村、佐土原村、廣瀬村、住吉村の七村、東諸縣郡高岡村、穆佐村、倉岡村、木脇村、本庄村の五村及び兒湯郡新田村、都於郡村、三財村の三村に於ける浮塵子被害地に適用せんとするもの。

（二）京都府紀伊郡吉祥院村、上鳥羽村、下鳥羽村の三村に於ける浮塵子被害地に適用せんとするもの。

（三）和歌山縣日高郡印南町、南部町、比井崎村、三尾村、塩屋村、稲原村、名田村、切目村、切目川村、岩代村、上南部村の二町九村に於ける螟蟲被害地に適用せんとするもの。

然るに何ぞ料らん、此等免租希望地の外、他にも續々蟲害地免租を請願するものありて、爲めに衆議

院は一段の繁忙を加へたるが如き光景を呈出せんとは、是れ實に國會開設以來未曾有の珍事と謂ふべし、現に去る十六日に下院請願委員より參考として其筋に回附せし願書のみにても左の七件に上りしと云へば、大概は推測らるべし、昔時の農作害蟲は百姓の田圃を荒らすものとのみ聞及べるに有繋二十世紀の害蟲は智識も增し慾望も深くなりしと見ゑて、今や進んで堂々たる帝國の代議院を襲ふに至れり、沙汰の限りと謂はざる可からず、去るにても、害蟲をして斯く代議院を襲ふまでに至らしめたるは誰が罪科ぞ、而してこれをして斯く代議士を忙殺せしむるに至りし所以のものは抑そも何に因れるか、此間の消息は吾人は一切之を言はざるべし、吾人はまた之を言ふを欲せざるなり、吁。

（一）第廿八號　（二）第七十八號　（三）第七十九號　（四）第八十號　（五）第八十一號　（六）第八十二號
（七）第八十三號

◎政論家の詠歌　一時は國會開設請願の狂奔家として又た海南の奇男子として世にもて囃されし讃岐の小西甚之助氏は、其後時事に感ずる所ろありてにや、專ぱら敷島の道に耽り居らるゝやに聞及べりしに、近ごろ或るものゝ本に「社日」と云へる題にて下の如き歌の載せあるを見たり、舊政論家の昆蟲讀込歌とは餘りに珍らしければ茲に揭ぐ。

ウンカてふ蟲捕り終へて田作りの、わづかに肩を伸ばすけふかな。

◎山形縣の害蟲驅除費　山形縣内に於ける明年度の害蟲驅除費は昆蟲研究生養成費等を除くも其總額に於て實に貳千九拾餘圓に達せり、若し之を活用せんには其効功を收むる蓋し不少にあらざる可しと信ず、他府縣に於ても斯くありたきものなり。

南村山郡農會	金貳百參拾圓	東村山郡農會	金貳拾圓	西村山郡農會	金千五拾圓
最上郡農會	金貳百貳圓五拾錢	南置賜郡農會	金百貳拾圓	東田川郡農會	金貳百圓
西田川郡農會	金百貳拾圓	飽海郡農會	金百五拾圓		

◎國庫補助交付の建議　先年第十四議會に於て無事兩院を通過せる、當昆蟲研究所へ國庫補助の議は未だ實行の運びに到らざりしが、本月三日稻垣代議士より岐阜縣農會への電報に依れば同日開會の部會に於て右交附金三千圓を三十四年度歲出追加豫算として建議の件を可決せりとあり、次で全國農事會本部員湯野川忠世氏より岐阜縣農會理事坪井伊助、土川誠一兩氏へ宛たる書信に依れば其建議案なるものゝ全文は左揭の如くにて、之が爲めに代議士中、稻垣示、鮫島相政、佐藤昌藏、恒松隆慶、石井鼎の諸氏は日夜苦心盡力し居らるゝ趣むきなり。

名和昆蟲研究所に交附すべき國庫補助金追加豫算の提出を政府に求むる建議案

(理由)　名和昆蟲研究所に對し國庫補助金三千圓づゝを向ふ五ヶ年間交附すべき建議案は大多數を以て十四議會を通過したるに本年度豫算中、該費目の編入を鈌きたるは頗る遺憾なりとす、爾來同研究所は諸般の經營を刷新し、著しく規摸を伸張し、以て斯業界に貢献する所尠しとせず、仍て政府は速に追加豫算を提案せんことを望む。

◉米國來信(本邦介殼蟲調査)

在米桑名伊之吉氏より去月七日附の書信に依れば米國にては益々本邦産介殼蟲に注目することゝなり、近々專門學者マーラットを本邦に派遣調査せしむることに決せりと、其文にいふ。

米國農務省昆蟲局よりは今般同局昆蟲學者 C. L. Marlatt. 氏を日本に派出し介殼蟲を調査研究せしむるやう相決し申候由其筋より通牒に相成候間右不取敢御報知仕候、右は全く余が歸米報告せし所あるを以て大にこれに刺激せられしものかと存候、兎に角米國民の實業的研究に着眼するの迅速なるには一驚致候、余は屢々貴紙を借り又面話を以て該蟲を本邦にて早く研究するの必要を說きたるが故に、今更何事をも不申候、世界的に考ふれば大に耻づる所あるへく候、勿論外國人が日本に來りて研究致呉候は日本に取り費用も要せず候間却て好都合の樣に考ふる人も可有之候へども、今日は世界列國と比肩の際に付此かる事を申し居る塲合には無之義と存ぜられ候、右マ氏は來三月上旬當校に來り余の標本を見、且つ種々の要領を得次第、桑港より出帆の都合に候へば、何れ三月下旬には貴地に達する事と信じ居候云々。

◉愛知縣と害蟲驅除

愛知縣下の郡農會中、三十四年度の經費へ害蟲驅除に關する費目を設けたるは以下の各郡なりと云ふ。

〇葉栗郡農會　昆蟲研究生補助　〇海西郡農會　害蟲驅除　〇西加茂郡農會　害蟲標本製作幷に螟蟲採卵奬勵　〇丹羽郡農會短期昆蟲研究會補助　〇南設樂郡農會　病蟲害豫防講習會

◉一月中の溫度

氣候と昆蟲發育と親密の關係あるは少しく事理を解する者の知る所ろなるが今年は如何にも平年と異なるものあるに依り、試ろみに去月中本所に於て觀測せる外氣の一斑を示さんか。

〇最寒　二月三日(前十時二八、后二時三七、后十時二三度)平均華氏二十九度、三三　(此日大雪)

〇仝上　二月二日(前十時三二、后二時三二、后十時二五度)平均華氏二十九度、六六　(此日大雪)

〇最溫　二月十八日(前十時五〇、后二時五二、后十時五〇度)平均華氏五十度七分

〇仝上　二月廿七日(前十時五〇、后二時五六、后十時四〇度)平均華氏四十八度六分

なほ、同月中の天候を區別すれば快晴五回、雨雪拾壹回、雪八回、霰壹回、地震三回、霜貳拾壹回、强風六回なりき。

◉全國昆蟲展覽會の設備記事

同會開期は早や間近に逼れる事とて各地よりの申込は勿論

己に現品送致の向も少なからざる事なるが、今日まで出品區域の判明せしは北、奥北の地より西、九州に亘り居れば斯學攻究上多大の利益あることゝ信ず、又過般田中會長より評議員、事務員を委囑せられし者十餘名に達したるが外に顧問十餘名を置くことに内定し居れり、その發表は多分本月中旬なるべし、又右評議員の中、去月廿五日の第一回役員會に臨まれしは柿元一兵、林茂、桑原貫之助、坪井伊助、古井誠之、大畑市太郎等の諸氏なりしが、これにて大躰の方針も立ちたれば以後は内部の組織整理のみとなれり、去れど紙面の都合により後號を以て世に公表する事となしたり。

◉**諸縣への出張講話**　今年夏秋の候を期し短期の昆蟲學講習會を開設するに付、その講師派遣を當昆蟲研究所まで照會し來りたるは已に十數縣に上れるが、就中承諾の旨を回答せしは左の七縣なり。

○靜岡縣　○島根縣　○德島縣　○愛知縣　○福井縣　○千葉縣　○鳥取縣

◉**第廿七回岐阜昆蟲學會**　同會第廿七月次會は本月二日(第一土曜日)午后一時例に依り當昆蟲研究所内に於て開會せしに、當日は恰かも第七回全國害蟲驅除講習會開會中の事とて來會者は無慮百餘名に達したり、劈頭先づ名和昆蟲研究所長は開會の挨拶を爲し、次に岐阜縣屬村井正元氏は桑樹を喰害するシンムシの驅除實驗談を試み、次に講習員齋藤啓二氏(千葉縣)は室內害蟲驅除豫防の必要を、同堀內英力氏(宮城縣)は東北地方特產の昆蟲に就て、當昆蟲研究所助手名和梅吉氏は岡山縣邑久郡昆蟲展覽會の摸樣に就て各々演說せられ、暫時休憩の後講習員矢野延能氏(愛媛縣)の同縣下に於ける螟蟲被害に關する演說あり、終りて名古屋市佐野鉉之助氏はアセチリン瓦斯の由來幷に其性質効用等を說明し、且つ瓦斯燈に点火の實驗をなし、これを害蟲驅除に應用するの利益を論斷せり、斯くて散會せしは五時半なりしが、中々に有益の事柄多くして參會者の視聽を惹きしもの少なからざりき。

◉**第七回全國害蟲驅除講習會**　同會を本月一日より當昆蟲研究所內に開設せしに、豫記の如く入會員は遙かに定限を超へ、次回へ繰下のものを除くも尚ほ五十三名に達せり、開講式は初日の午前十時を以て擧行し、名和本所長の開會の辭、代議士井上甚太郎氏の祝辭に兼ねて我國經濟救治策と題せる有益なる演說等ありき、今回は種々の源因より斯く盛會を致したるが之を縣別とすれば十八縣に涉りその職業また五六種に分つを得べし、詳細は次號に讓りこゝには會員の出生地をのみ掲げ置くべし。

○新潟縣　一名　○石川縣　一名　○福島縣　一名　○香川縣　一名　○三重縣　十二名　○長野縣　二名
○宮城縣　六名　○大分縣　一名　○佐賀縣　二名　○岩手縣　二名　○福岡縣　一名　○千葉縣　三名
○山梨縣　三名　○熊本縣　五名　○愛媛縣　二名　○兵庫縣　一名　○鳥取縣　五名　○靜岡縣　四名

◉田中會長の來所

全國昆蟲展覽會長田中芳男氏には會務監督のため去月廿五日來所、川路同會顧問に面話、次で同會評議員會に臨まれ一宿の後、攝州へ向け出發されしが、本月九日にも亦名和本所長と名古屋に於て會見の上種々會務上の協商を遂げらるゝ都合なり。

◉岡山縣邑久郡昆蟲展覽會

豫記の如く岡山縣邑久郡農會の主催に係る邑久郡昆蟲展覽會は去月二十日より廿四日まで五日間同郡衙内に開設せり、固より郡立の事とて規模甚はだ大ならざりしも、昆蟲展覽會は本郡未曾有の事と云ひ特に農作に關係多ければ參觀人は日々千二三百名に上り頗ぶる雜沓を感じたりしと、乃て廿三日午后にはそが褒賞授與式を擧行せしに、同縣農會長吉原知事代理西村參事官を始め荒木邑久郡長、柚木技師、縣會議員、教育家、有力者、實業家等約百餘名の來賓ありて一層壯觀を添へたるが、名和審査長の報告、朝倉邑久郡農會長の式辭あり、次で一等以下四等までの褒賞を授與し、畢りて西村參事官、荒木郡長その他の祝辭あり、次で出品惣代服部杢三郎氏の答辭ありて式を徹し、別席に於て鄭重なる饗應ありきと、當時審査長として該地に赴むける本所長名和靖氏代理名和梅吉氏の朗讀せる褒賞授與申請文は左の如し。

報告

邑久郡昆蟲展覽會審査結了し、本日を以て褒賞授與の式を擧行せらる不肖梅吉之を審査長に承け精査審議中に就て優等者十八人を選抜し、玆に謹んで褒賞の授與を申請す。本會出品は參考品を合せて出品八七十二人、總點數四千一百に上れり、由來農産物品評會或は共進會の中に昆蟲標本を加へたるものありと雖も、本會の如きは未だ曾て其比を見ざる處なり、而して各種の昆蟲は之れ多くは郡内に於て蒐集せしものにして之れが普及進歩を希圖する固より急務なりと雖も、出品一方に偏し、昆蟲標本を除くの外は出品點數寡少にして本會の本旨を達するに於て遺憾なしと云ふべからず、然りと雖もその此處に至りし所以のものは近來斯業に關し一般世人の注目せし結果に基因せずんばあらず、現今我邦に於ける斯業の趨勢は未だ幼稚なるを以て將來一層勵精以て天然力を利用し、加ふるに人爲を種々なる方面に應用して國利民福を增進するに至らんことを望む、玆に出品に就て意見を陳し概評を下さんに左の如し。

分類標本は出品點數寡少にして多少見るべきものありと雖も排列其宜しきを得ず、加之ならず錯雜混淆せるものあり、共に注意すべき事とす。

害蟲標本は大ひに見るべきものあるも、概ね蝶蛾類のみにして、一も稻、麥、桑及茶等の重要農作物に於ける害蟲及發生經過等を示せる標本を欠きたるは誠に遺憾とする所なり。

益蟲標本亦出品點數少なく、中には害蟲の混淆し居るものあり、今日の場合止むを得ざるべきも、此等は畢竟斯學の普及進歩を妨ぐるを以て、今后は益々斯學の研鑽に努め斯の如き誤謬なからしめんことを望む。

昆蟲標本は出品點數他に比して頗る多く大に見るべきものあり、就中其種類の夥多なるは進歩を証するに足れり、然りと雖も蒐集、製作及保存等の不完全にして、翅粉脱落、躰軀缺損、排列其當を得ざるが如きは雜駁の譏を免る能はざるなり。
昆蟲に關する器具、機械、藥品及び圖書、成蹟等亦當業者に取りて參考とすへきもの多し、然りと雖も尙ほ幾多の欠點を存し將來大に改良すべき餘地あるを認む。
之を要するに、出品中前評の如く多少の缺點は免る能はざるも、概して各小學校よりの出品多數なるは、昆蟲學思想の普及の上に於て其効決して尠なからざるを信ず、玆に審查の梗概を陳し褒賞の授與あらん事を請ふ。

明治卅四年二月廿三日　邑久郡昆蟲展覽會審查長　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

また褒賞を受けたるは都合十八名なるが、一等(本杯壹組)壹名、二等二名、三等五名(共に木杯壹個)四等褒狀にてこれを細別する時は

◎一等賞　大宮尋常小學校　◎二等賞　朝日尋常小學校、福田尋常小學校　◎三等賞　邑久尋常小學校、太伯村青年農會、有隣高等小學校、福田村福間隼人、邑久村赤枝少太治　◎四等賞　今城尋常小學校、邑久高等小學校、曉翠尋常小學校、高松尋常小學校、集成尋常小學校、邑久村秋山靜太。潤德尋常小學校、明治尋常小學校、明倫尋常小學校、赤磐郡可眞村大久保重五郎(以上)

にして開會中は本所より出陳せる冬季採集の昆蟲標本を始め東京、和歌山、大阪等よりの參考品意外に多く、彼此同郡を利する所ろ多かりしが、其翌廿四日を以て無事閉會せり、偖同會の開設に付ては郡內の有力者教育家は勿論郡衙の保護奬勵一方ならざりしが特に郡農會長朝倉力治、同副會長入江澄兒二氏の如きは晝夜を分たず奔走盡力せられきとなり。

◎水曜昆蟲會

同會第廿三回(二月六日)より第廿八回(三月六日)に至る六水曜會は例に依り當昆蟲研究所內に開かれ所員一同の輪番昆蟲實驗談話ありたりき、其內重なるもの二三を記せんに、名和梅吉氏は果樹の大害蟲サンノゼー介殼蟲調查として愛知縣中島郡地方巡回の摸樣及び岡山縣邑久郡昆蟲展覽會出品に對する批評、森宗太郎氏は螟蟲の越冬に就て永澤小兵衛氏は大名と昆蟲に就て、及び螢合戰の摸樣を歷史上より談せられ、名和正氏は小鳥の胃中にある昆蟲細見談をなしたり。

◎昆蟲標本の來觀者

二月一日以來當昆蟲研究所備附の昆蟲標本を來觀せられしは左の諸氏なりき。

(二月七日)三重縣三重郡教育會展覽會派出員山北重憲、伊藤熊二郎二氏　(十六日)北海道岩內郡幌似村田坂農場管理田中熊太郎氏　(十七日)福岡縣農事試驗場技師黑木幾太郎氏　(廿一日)宮城縣志田郡荒雄村梅森三郎氏　(廿二日より廿四日迄)愛知縣丹羽郡書記味勝正義氏　(廿八日)山形縣東田川郡齊村大字我老林門脇福治郎、渡部亥之吉、丸山喜代治の三氏　(三月四日)愛媛縣溫泉郡石井村岡田溫、長野縣上水內郡古牧村傳田政治、中村仁治郎、海野惣作、名古屋市榮町守隨鐘三郎五氏　(七日)三重縣一志郡學事視察員近藤憲夫、內藤幾次郎、松川才三郎、田邊直藏四氏、同日愛媛縣溫泉郡農事巡回教師松浦春吉氏　(八日)滋賀縣技師岸秀次氏並びに縣下の學生有志者等五十餘名

◎購讀者諸君へ公告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候處往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

明治三十四年二月　岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所

昆蟲世界會計部

○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(三版)
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
●第四煙草害蟲タバコノアオムシ(煙草螟蛉)
●第五桑の害蟲イチモジセヽリ(苞蟲)
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姫象鼻蟲)
●第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)
●第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ(螟蛉)
●第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
●第十豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盜蟲)
●第十一桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
●第十二稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
●第十三桑樹害蟲イトヒキハマキムシ

●印は既版の分

○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗螽)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)

○印は逐次出版の分

◉圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
◉壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
◉百枚以上一纒代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

◉豫約代價

圖解代金　壹枚拾錢郵稅貳錢
一凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用一割增の事
但申込の際前金添附の事

右害蟲圖解第一より第十三迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依而當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

岐阜縣岐阜市京町

發行所　名和昆蟲研究所

廣告
一各種衡器製作
一度量衡器販賣
一漆器製作販賣
弊舗の製作販賣に係る前記諸品の精巧優良なるは年來各地に開設せられたる競技會共進會博覧會等に於て毎ゝ榮譽を荷ひたる事實と今回全國昆蟲展覧會事務所より賞杯製作の寵命を被ふりたるに依るも明白に御座候處、なは業務擴張のため來四月より岐阜市に開く東海農區聯合五縣物産共進會へ弊舗特得の妙技に成れる工業品を出品の上、更に賣店代理店等へも多數出陳致置候間續々御用命被仰付度奉願候
愛知縣名古屋市榮町八番地
守隨本店
仝市新柳町四十二番地
守隨支店

同窓會員に謹告す

小生等今回滿場一致を以て雜誌「昆蟲世界」を以て同窓會の機關と決議致候就ては本會員は總て義務購讀相成樣御承知置願上候也

名和昆蟲研究所内ニ於て
第七回全國害蟲驅除講習會員一同

第壹回全國昆蟲展覽會

○本會は來る四月十六日より三十日間當所内に開く
○本會開催の必要及目的は本誌四十號以下にあり
○開會中物產大共進會も開かれ船車賃割引の便有
○本會の旨趣を贊成する者は何人も出品するを得
○開會中當所貯藏廿萬の標本及昆蟲應用品を陳列
○本會擴張に伴ふ更正規則は本誌四拾壹號にあり

名和昆蟲研究所

雜誌昆蟲世界合本出來廣告

第一卷第二卷ハ品切

本邦唯一の昆蟲雜誌
昆蟲世界 合本
（一年分を一卷とす）

昆蟲世界發行所
名和昆蟲研究所

春蠶種販賣廣告

本館製造の春蠶種は飼育し易く繭質善良加ふるに病毒皆無なるは既往の成績に徵し既に當業家諸君の稱賛を辱ふせる所なり現に昨年の如きは豫約を募集せしに未だ期限に至らざるに既に製造額以上に達するの盛況を呈し止むなく謝絕したり今回大に規摸を擴張し蠶室貯桑場、上簇室等を增築し精選蠶種を製造致すべきに付多少共御注文の上御飼育あらんことを

岐阜縣不破郡岩手村字岩手
樹神館蠶業部
館主 兒玉氏信

一本館製造蠶種の種類ハ昔、青熟、角又
一代價 框製壹蛾金參錢、普通製一枚金壹圓四拾錢（多數注文は特別割引）
一期限 每年六月二十日迄に御申込の方は名入として特製す故に可成期日前に御注文を請ふ
一養蠶傳習生募集（規則書は郵券送附次第進呈）

東京早稲田農園 春期精撰種子定價一覽

東京市牛込區早稲田 早稲田農園

品名	一合代價	一合郵稅
早生千成茄子	金四拾錢	金壹錢
中生東京山茄子	金參拾五錢	金壹錢
晩生東京山茄子	金參拾五錢	金壹錢
巾着茄	金四拾錢	金壹錢
佐土原長茄子	金五拾錢	金壹錢
清國大長茄子	金貳圓	金壹錢
清國大圓茄子	金貳圓	金壹錢
米國太長茄子	金貳圓	金壹錢
米國大圓茄子	金貳圓	金壹錢
早生節成胡瓜	金參拾五錢	金壹錢
大胡瓜	金參拾錢	金壹錢
越瓜	金壹圓廿錢	金壹錢
大越瓜	金壹圓廿錢	金壹錢
鳴子甜瓜	金四拾錢	金壹錢
大甜瓜	金五拾錢	金壹錢
梨甜瓜	金參拾錢	金壹錢
洋種甜瓜(各種)	一袋金五錢	
夏大根	金七錢	金貳錢
時なし大根	金貳拾五錢	金貳錢
細根大根	金八錢	金貳錢
龜井戸大根	金拾五錢	金貳錢
廿日大根(赤、黄、白紫各種)	金四拾錢	金貳錢
冬瓜	金拾貳錢	金壹錢
支那大冬瓜	一袋貳錢	
琉球大冬瓜	一袋貳錢	
清國方瓜	一袋貳錢	
清國芋瓜	一袋貳錢	
內國大西瓜	金拾錢	金壹錢
西洋西瓜(アイスクリーム)	金參拾錢	金壹錢
西洋西瓜(マウンテンスウイト)	金貳拾五錢	金壹錢
縮緬南瓜	金六錢	金壹錢
菊座南瓜	金五錢	金壹錢
早生南瓜	金六錢	金壹錢
洋種南瓜(ハッバード)	金拾貳錢	金壹錢
大苦瓜	金拾五錢	金壹錢
太絲瓜	金五錢	金壹錢
夏蕪	金八錢	金貳錢
瀧の川人參	金五錢	金壹錢
札幌人參 毛附	金八錢	
札幌人參 毛取	金貳拾錢	
金時人參	金八錢	金壹錢
大長人參 毛附	金拾錢	
大長人參 毛取	金參拾錢	
短太人參 毛附	金八錢	
短太人參 毛取	金貳拾錢	
千住葱	金五拾錢	金壹錢
下仁田葱	金五拾錢	金壹錢
岩槻葱	金貳拾錢	金壹錢
九條葱	金貳拾錢	金壹錢
瀧の川牛蒡	金貳拾錢	金壹錢
札幌牛蒡	金貳拾錢	金壹錢
砂川牛蒡	金拾錢	金壹錢
堀川牛蒡	金拾貳錢	金壹錢
越前牛蒡	金拾五錢	金壹錢
洋種赤玉葱	金七拾錢	金壹錢
洋種黄玉葱	金六拾錢	金壹錢
韮葱	金六拾錢	金壹錢
甘藍(各種)	金壹圓廿錢	金貳錢
花椰菜(各種)	一袋五錢	
玉萵苣	金八拾錢	金壹錢
かきちしや	金貳拾錢	金壹錢
縮緬ちしや	金參拾錢	金壹錢
菠薐菜	金五錢	金壹錢
洋種菠薐菜	金拾錢	金壹錢
鶯菜	金六錢	金貳錢
しゆんぎく	金六錢	金壹錢
塘蒿	一匁五錢	
洋芹	一匁五錢	
ふだんな	金四錢	金壹錢
つるな	金四錢	金壹錢
石刀柏	金參拾錢	金貳錢
蕃茄(各種)	金八拾錢	金壹錢

其他各種

(明治三十四年三月十五日發行)　**昆蟲世界**　(毎月一回十五日發行)

第五卷第四十三號

◎昆蟲世界第四拾貳號目次

發送の疎漏より昆蟲世界第四拾壹號(一月分)と第四拾貳號(二月分)とを取違ひ發送致候を發見致候就ては一月分のもの御返却相成候樣致度該號落手次第直に二月分を差上可申候　名和昆蟲研究所

◉岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演説に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上

但該會へは縣の内外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

名和昆蟲研究所内

明治三十四年三月

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し

第二十八回月次會(四月六日)
第二十九回月次會(五月四日)
第三十回月次會(六月一日)
第三十一回月次會(七月六日)
第三十二回月次會(八月三日)
第三十三回月次會(九月七日)
第三十四回月次會(十月五日)
第三十五回月次會(十一月二日)
第三十六回月次會(十二月七日)

岐阜昆蟲學會

市街界 ⋮　案内道 ‖　町道 |　研究所 イ　縣廳 ロ　病院 ハ　中學校 ニ
監獄 ホ　郵便局 ヘ　西別院 ト　公園 チ　長良川 リ　金華山 ヌ　停車場 ル

◉名和昆蟲研究所案内

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵税共　金拾錢　〔見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す〕
壹年分拾貳部郵税共　金壹圓八錢

(注意)　本誌は總て前金に非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿一字詰一行に付金拾貳錢、三十行以上一行に付き金拾錢とす

明治三十四年三月十五日印刷並發行
岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二
(岐阜縣岐阜市京町)

發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二
發行者　名和靖
同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戸
編輯者　桑原貫之助
同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戸
印刷者　河田貞城

(明治三十年九月十日内務省許可)
(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

(大垣西濃印刷株式會社印刷)

Vol.V. APRIL 15TH, 1901. No.4.

(四月十五日發行)

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

(毎月一回十五日發行)

昆蟲世界

(第五巻第四冊) 第四拾四號

目次 (禁轉載)

(明治三十四年四月十五日發行)

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金參拾圓也　第七回全國害蟲驅除講習員一同
一金貳圓七拾錢　宮城縣古川警察署長岩淵俊夫君外署員一同
一金壹圓也　第七回全國害蟲驅除修業生　宮城縣　村山研君
一金壹圓也　同上　熊本縣　小山新太郎君
一昆蟲摸様附菓子敷　壹個
一サザウヲ(蟲癭)白根山産　數枝
一蟬形風鎮(溫故燒)　壹對
一貝細工蝶形簪　壹本
一捕蟲網　壹個
一桑天牛引伸寫眞(大)　壹葉
　　貴族院議員　田中芳男君
一昆蟲摸様附簪類　八種　岐阜縣　若原彥造君
一甲斐絹手巾(昆蟲摸様附)壹枚　山梨縣　八田達也君
一木葉蝶(琉球産)　六頭　沖繩縣　大山勇吉君
一臺灣産蝶類(十四種)三拾頭　在臺灣　前田孟雄君
一實業の日本(昆蟲記事掲載)　農學士　西垣恒矩君
一半身肖像(寫眞壹葉)　第七回全國害蟲驅除修業生　新潟縣　櫻井熊治君
一海南新聞(昆蟲記事掲載)　壹葉　愛媛縣　海南新聞社
一報知新聞(仝上)壹葉　第七回全國害蟲驅除修業生　福島縣　箱崎專治君

右當所へ寄附相成候ニ付芳名を掲げ其厚意を謝す

四月　名和昆蟲研究所

◎昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

宮城縣　殘間常藏君(壹名)　長野縣　山岸喜市郎君(壹名)福井縣森永貫一君(壹名)新潟縣櫻井熊治君(五名)

◎昆蟲展覽會出品人諸君に告ぐ

全國昆蟲展覽會は豫定の如く本月十六日より五月十五日まで三十日間開會致候に付出品人諸君は何分左の三式に御列席かたぐ\御參會被成下度乍畧儀此段以本紙上及御案內候也

開會式……………四月十六日
褒賞授與式…………五月十二日
閉會式……………五月十五日

全國昆蟲展覽會事務所

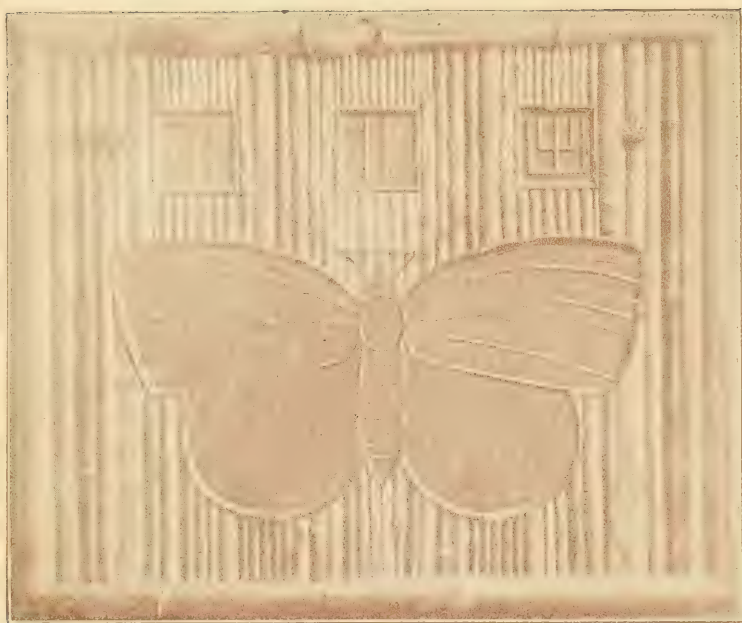
第壹回 全國昆蟲展覽會開會

昆蟲學研究及び農作害蟲驅除に關係を有せらるゝ諸彥の來觀を俟つや特に切なりとす

我國に於ける昆蟲の分布區域及び應用的の研究は本會を措てまた他にあらざる可し

第壹回全國昆蟲展覽會出札口

（坪井伊助氏寄贈同氏試植の竹を以て製作す）

第七回害蟲驅除講習會員　（名和梅吉撮影）

謹で吾が同窓會員諸君に檄す

本月十六日を以て開催の第壹回全國昆蟲展覽會ハ生等昆蟲學研究を事とする同志に異常の刺衝を與ふるの機會にして博く之を言へば實は本邦昆蟲學界に一大革新の宣告をなすものに均し、宜なり未だ開會せざるに早己に嘖々人口に上れるや、假しその評語の毀譽相半することありとも、生等は唯この壯擧が如何に人心を撼動せしめたるやを忖度するの試驗石として之を聽くの外、敢て他事を知らざるなり。生等は已に爰にこの好機を與へらる乃ち之を利用し勇往猛前、大に將來に對つて經營する所なかる可からず、今やその施設すべき事業を拉し來らば百種千類、前途に充溢壅塞して生等の微力固より能く之を艾除し能はざるものあり、就中(壹)蟲類分布區域の調査の如き(貳)田圃及び室内に於ける益害蟲類調査の如き(參)衛生及び貿易に關係を有する害蟲の調査の如き(四)昆蟲名稱一定の調査の如き(五)昆蟲名稱改正の調査の如き(六)昆蟲學思想普及法の調査の如き(七)昆蟲學の發展を期するが爲め方針一定の協商を遂ぐるが如き、皆これ目下焦眉の重要問題にあらずや。斯學の前途を觀來れば、それ此くの如く或は民生の危害を脫がれしめんが爲に雄心の憤發を促がす可きものあり、又負荷の重任を盡さんが爲に一身の榮辱を捨てざる可からざるものあり、然るに世間往々沒理の徒あり、或は濫りに學說の新古を問ひ、或は系派の異同に拘泥して、陰柔の間に相轢り相難じ、割居對抗、漸やく將に萌出せんとするの孽芽を損ふを知り、未だ內に互に融和共通して之が前進を圖り、外い異邦の事物を同化して之が應用を期し、以て新に東洋昆蟲學の旗幟を絕海の一隅に樹つるの深謀遠慮なきなり、其心事の偏狹醜陋なる寔とに憐むべきものあり、而して之が弊惡を矯めんが統一を畫し、卒先宇內に呼號して力を斯學の扶植に致さ者は本會員を措きてまた誰かある、吾が同窓會員の責務も亦重且大なりと謂ふべし。

惟ふに一昨年來、名和昆蟲研究所に各種の講習會を開かるゝや、その名稱の何たるに論なく、苟くも躬、修業生たるに於ては皆等しく同窓會に加はり、他日大に力を斯學の隆昌に致さんことを誓へり、而して蹶起事を爲すべきの時は正に眼前に横はれり、若し誤てこの好機を逸し去らんか、將た何れの日か復た斯學の基礎を牢むるの期あらんや、古人は言へり、天の與ふるものを取らざれば反てその咎を受け、時至て迎へずんば反てその殃を受くと、吾が同窓會員諸君何ぞそれ自から進んで、この天與を取りこの時を迎ひ以て豫期の志望を達せざる。

然れども事ハ協心戮力に出でざれば其利尠し、其利に浴せんと欲せば多衆の聚合和協を先にするに在り、乃ち此目的により吾が同窓會員の總會を五月十一日(第二土曜)午前第九時を期して研究所に開き、午后は更に內外の協賛員より成れる大日本昆蟲學會の創立式に臨まんとす、會員諸君敢て或は農桑の初期を名として責を免るゝ勿れ、職務の繁劇に托して席を空ふする勿れ、行程の遠邇によりて心を二とする勿れ、唯それ誠心實意、倶に一場の裡に半日の清談快話を試み、以て斯學の爲に、献替する所あれ、恐くは諸君に利すべきものの啻に二三にして止まらざる可し、謹で告ぐ。

明治三十四年四月七日　岐阜市に於て

全國害蟲驅除講習會員有志總代
岐阜縣害蟲驅除講習會員有志總代

論説

◎過去に於ける日本の蟲害（其二）

門外ノ淸流ニ繋ク二野船一ヲ。白楊紅槿短籬ノ邊リ。旱蝗千里秋田淨シ。林野蕭々タリ八月ノ天。とは漢人張耒が農作の旱損蟲害に罹れるを傷めるの絶唱にあらずや、假し山河隔絶歳月また遙かに相去るも、之れを誦する者、誰か其の場圃凄涼、秋收空廢の光景を憫れみ、延て害蟲驅除、災異救濟の完成を聯想せざるべき、岡鹿門嘗て北海道を跋涉し飛蝗行を賦き、其の後半に、噫吾縱無二燮理責一。豈忍袖手目二年凶一。安得下長房役鬼術上。一鞭驚二起彼懶龍一。捲レ海降レ雨洗二飛蝗一。蘇下息殘苗上享二秋豐一。の句あり、鹿門はもと是れ詞壇の一騷客のみ、而してなほ此の感慨を發す躬、害蟲驅除の職責にある者は一日もこれを忽諸に附すべからざるなり。

今の人は五風十雨其の中和を得、穀菜の生育其の度に適へば、則はち害蟲また猖獗を極むべきを豫斷するも、古へはその見る所ろ全たく之れと異なり、季候順運を缺き、沴氣長く天に塞がり、火雲久しく地を包み、禾稼登熟するに及ばざれば、害蟲こゝに自生蕃殖を致すとなせり、乃はち蟲害を災異の一に加へたるに違はざるも、敢てこれを以て饑餓を招致すべき主因と識認せざりしは、管子の凶年五害より、本邦歷代の記錄これを証徵して餘りあり、但史家が世事に迂濶に、且統計を輕視せる結果として

幾多の災異史中、益を後世に遺し、警を今人に傳ふるものに至りては、蓋し極めて少矣、特に蟲害紀事に於て此の感の轉た切なるを覺ふ。是故に本邦の史籍に就きて、その載する所の變異殃災を算ふれば、約そ五百回に下らざる可きも、單り蟲害を標榜とせしもの丶みを擧ぐれば、寥々什が一にだも足らず、而して其の體裁たる、概ね簡潔晦冥に失し、事例を揭げず、因と果とを示さず、偶々蝗の一字を冠して蟲類の總名となし、更に之れを螟螣蟊賊の四族に大別して、背理無効の驅除方を說き、濕化卵鱗の分類法によりて千蟲萬豸を包括しぬ、その是非得失は素より今日の常套を以て律すべきにあらず、しかも之れを閲讀するに方りてや、恒に大いに意を留むべきものあるを知る、他なし古人は荒年に蟲類の發生を確信し、而して蟲類の發生は首として凶儉を仲媒するの事由を悟了せざりしが故に、その被害の實相を知悉せんと欲せば、炬眼を飢饉の條下に放ちて、仔細に前後の關係を對視比照する是れのみ、乃はち飢饉を說くは易く、蟲害を知るの難き、以て察すべきなり。

これを實例に擧ぐるに、方今、博識を以て學者間に敬畏せらる丶田中芳男翁の、曩に斯地に來るや、一夕この間の消息を漏らさらく、余嘗てこれを僚友鳴門義民氏に聽けり、往時の飢饉は天候寒冷にして五穀の凶作を來せるに原づくと傳ふるも、恐らくは非ならん、必らずや、耕土の冷濕、農作の不稔なるに際し、害蟲は逆比例に蕃殖を遂げ、畢に救ふべからざるの厄災を加ふるに迨び、農民は之を天意神命に歸して一も施設する所ろなく、絶望大息の餘り、たゞ首を鳩め手を束ね、以て自から凍餒の奇禍を求め得たるに過ぎず、若しそれ智識を礪砥し文明の利器を用ゐて、これを豫防的に驅除することを得ば、復た此かる慘狀を目擊せざるに至らん、と庶はくはそれ蟲害史調査の砭針に充つべき歟。古人が專心饑荒をのみこれ畏れ、却つて蟲害に重きを置かざるは、前に粗ぼ悉せしが如し、今また鴻儒

佐藤一齋の所論を讀むに及びて、益々これを確かめ得べきを知れり、その文にいはく、國家救荒の政は固より亦具備せざるは無し、而して除蝗の方に於ては則はち或ひは未だ之れを講じあらざるなり、獨り我が邦然りと爲すのみならず、而かも漢土と雖ども亦炎火祈祝の外は寥々乎として未だ別に其の術あるを聞かず、豈それ天に出づるを以てのゆゑに、人力のこれに勝つ能はざるか、抑そも其の方ありて而して人未だ之れを知るに及ばざるか、と夫れ害蟲に對する一般國民の觀念は、かくも幼稚に、蟲類とは淫霖烈日の際に自生偶發を遂げ、あらゆる農作に危害を加ふる生物にして、一旦その暴威を逞ふするに到れば人力の能く驅防し得らるゝ所ろにあらず、となせり、而してこの誤信は不幸にも幾百千年の間、連綿として農家の腦底に深刻せられ、被害太甚しければ輙はち神鬼の冥護に祈り、否らざれば則はち狂愚厭ふべきの驅除法に甘心したりき、固より曆本を司どる者すら腐草化螢說を固執せる當時の事にしあれば、農家の頑迷は敢て訝かり怪しむに足らざるも、その害蟲を疾視畏懼の反響は、伊勢大廟奉仕の神職を起して、御田扇と稱する除蟲用の符札を天下に頒布するに至らしめぬ。

飜つて當時本草學を攻め、農政を議する者の行動を窺へば、眞に經濟の原則より立論して、蟲害は豐凶を左右し、豐凶は人心を柔剛ならしむるを以て、極力これを豫防すべきの理を喝破せし者の如きは、纔に二三輩に過ぎず、他はたゞ好奇心に驅られて雜駁なる昆蟲書を編述するか、又は彌縫的に凶年五務、荒政十二策の類を敷衍するに止まれりき、況んや天仇の制裁と器機の應用によりて、これに對抗すべき術策を講ぜし者をや、而してその稍面目を一新するに至りしは近く米艦來航の後にあり。

蝶の色々　常夏のあたりは風ののどかにて散かふものは蝶のいろ〳〵。　（寂蓮法師）

◎歐洲に於ける蝴蝶

在伯林 農學士 松村松年

地球上に棲息する昆蟲の總數は未だ以て爰に知るべからずと雖ども、目今其學名を有するものに至りては大畧三十万ありと云へり、其中鱗翅目の總數は五万にして、六千餘種は蝴蝶なり、今や濠洲に、印度に、亞佛利加に、至るところ網羅を搦ひ、其捕獲する所ろのものは重に蝴蝶なるを以て、從來採集し來りたるもの丶外、更に新種を發見せんことは餘り多からざるべく、從つて前記六千餘の總數も亦容易に其以上に達し難からん、而して此中、歐洲に產するもの大畧二百八十種あり、今之を科目に細別し、以て其數を擧ぐれば左の如し。

科	歐洲產數	日本產數（琉球を除く）
(一)鳳蝶科 (Papilionidae)	一〇	一四
(二)粉蝶科 (Pieridae)	三〇	一一
(三)小灰蝶科 (Lycaenidae)	六七	三二
(四)擬豹紋蝶科 (Erycinidae)	一	一
(五)天狗蝶科 (Libytheidae)	一	一
(六)小紫蝶科 (Apaturidae)	三	二
(七)蛺蝶科 (Nymphalidae)	五三	三六
(八)阿檀蝶科 (Danaidae)	一	一
(九)蛇目蝶科 (Satyridae)	八四	一七
(十)挵蝶科 (Hesperidae)	三〇	二一
計	二八〇	一三五

次に歐洲日本共棲の蝴蝶を列記すれば左の如し。

科		
鳳蝶科（あげはてふくわ）	Papilio machaon, L. （キアゲハ）	
粉蝶科（こてふくわ）	Pieris napi, L. （スジグロテフ）	Pieris rapae, L. （ツマグロテフ）
	Leucophasia sinapis, L. （ヒメシロテフ）	Colias hyale, L. （ツマグロキテフ）
	Colias palaeno, L. （ヤマツマグロキテフ）	Rhodocera rhamni, L. （ヤマキテフ）
小灰蝶科（しゞみてふくわ）	Thecla w-album, Kn. （カラスシジミ）	Polymmatus phlaeus. L. （ベニシジミ）
	Lycaena baetica, L. （ウラナミシジミ）	Lycaena argiades, Pall. （ツバメシジミ）
	Lycaena argus, L.	Lycaena, argiolus, L.
	Lycaena aegon, Schiff.	
小紫蝶科（こむらさきてふくわ）	Apatura ilia, Schiff. （コムラサキ）	
蛺蝶科（たてはくわ）	Limenitis populi, L. （オホイチモンジ）	Limenitis sibylla, L. （イチモンジテフ）
	Neptis lucilla, Fab. （フタスヂテフ）	Neptis aceris, Lep. （ミスヂテフ）
	Araschnia levana.	Vanessa v-album, L. （Vタテバ）
	Vanessa xanthomelus, Esp. （ヒオドシテフ）	Vanessa io, L. （クジヤクテフ）
	Vanessa antiopa, L. （キベリタテハ）	Pyrameis cardui, L. （ヒメアカタテハ）
	Melithea athalia Rott.	Melithea phoebe, Knoch.
	Argynnis selene, Schiff.	Argynnis daphne, schiff.
	Argynnis aglaia, L. （ウラギンヒヨウモン）	Argynnis adippe, L.
	Argynnis laodice, Pall.	Argynnis paphia, L. （ギンスヂヒヨウモン）
蛇目蝶科（じやのめてふくわ）	Satyrus dryas, Schiff （ジヤノメテフ）	Pararge achine, Schiff,
	Coenonymbha oedippus, Fab.	
挵蝶科（はなせゝりくわ）	Hesperia comma, L.	Hesperia sylvanus, Esp.

余歐洲に捕蟲網を揮ふこと爰に一年半、此間或ひはザクセン高原に鳳蝶を追ひ、或ひはシユレジエンの幽谷に蟬聲を聞き、或ひは墺國のブルシルに蟷螂を探り、或ひはドナウを下り、又或ひは匈國に出てセメリンの群山に杖を曳く等、足跡の歷る所ろ新たに享有せる智識敢て少なしとせず、而して此等の經驗により取得せる結果を科目に從ひ蝴蝶の事を記さんに、蝶類採集上最とも吾人の注意を惹きしものは蛇目蝶なりとす、蓋し其種類頗ぶる多く、本邦の如く陰濕の地に徘徊するに止らずして、炎天花間に戲ふれ、或ひは石上に靜止する等、苟くも双眼に入り來る蝶群の大半は此種の蝶類なればなり本邦には產せざれども Melanorgia と稱する一屬あり、此もの大いに粉蝶に類し、其飛翔の狀も亦極めて能く似たり、始め余の此蝶に接するや、一見以て粉蝶となせり、此屬は朝鮮には產すれども、未だ本邦にて捕獲せられたるを聞かず、北獨乙の如き千里坦々たる平野にありては鳳蝶を見ること甚だ少なく、稀に Papilio machaon（キアゲハ）を見ることあるのみ、然れども群山起伏せるハルツの如きアルプスの如き地方にありては、其種類少なしと雖ども其數は甚だ多きが如く、常に山頂に徘徊し時々葉上に靜止せるものあるを見る。次に注意を惹くは小灰蝶科に屬する Polymmatus（ベニシジミ屬）の一種にして、その種類甚だ多く、好んで濕地の牧草上に友を求めて徘徊するの美觀は、未だ余の本邦に於て見ざりし所ろなり其深紅にして白紋を裝へる、若くは黑紋を點せる、宛然熱帶產の種類なるが如し Thecla 屬のものは極めて稀なりと雖ども、Lycaena 屬のものに至りては敢て少なしとせず、多くは青藍色を帶び概して本邦種よりは大形に且つ捕獲極めて容易なり、但其多數群飛の狀の如きは余の未だ本邦にて見ざる所ろとす。粉蝶科にてはヤマキテフ（Rhodocera Rhamni'a, L.）多く、ツマグロテフは其形甚だ大きく、一見恰かも別種の觀を呈せり、當地には Colias 屬のものも多く、其中最とも普通

なるは、本邦同様にColias lyaleなるべしと雖ども、少しく山間に入れば紅色を帶べるC. edusa若くはColias myrmidone の如き美麗種多く、C. palaeno は本邦と同じく稀少なるが如し。天狗蝶は當地にも一種あれども、多くは伊太利亞等の溫暖地に限られ、中央歐洲にて之を得ることは稍難し、但し卵子より之を飼育し、一匹拾五錢位ゐに販賣する者なきにあらず（此等の飼育法に就ては他日更に記する所ろあるべし）小紫蝶は當地に極めて稀なり、寧ろ余は曾て之を瞥見せる事だもあらず、他には我が琉球にも產する、同科に屬するCharaxes屬あれども是も亦甚だ得難く、唯暖國に限られたるものと解釋せらるゝものゝ如し、尤とも之を販賣する者に就て其價を問へば壹匹七拾五錢位ゐなりと、去れば琉球に產するCharaxes weismanni の如きは極めて高價なるのみならず、之を藏するものとては、瑞西に住せるアトルフ、フリチエ氏を除き、僅かに兩三人に過ぎざるべしと云へり、余は當地に產せるCharaxes jasius, L.を獲んと欲して諸處を跋涉せしかども、遂に之を見ること能はざりき。蛺蝶科中最とも普通なるものはクジャクテフにしても V. C-album, 亦少なからず、キベリタテハは本邦同樣多產の種類にあらず。豹紋蝶の種類は本邦と同種のもの多く、其形狀等に至りても著るしく異點あるを認めず、就中、吾人の注意を惹きしものは Argynnis lathonia, L. にして其銀色の美麗なる是亦熱帶地方に產するものゝ如し、Melithea 屬のものは本邦唯僅かに二種に過ぎざれども、當地には十六種の多きに上り從つて野外に於て眼睛に映じ來るもの亦少なからず。最後に挵蝶科に就き記さんに、本邦と同種のもの二種ありて、至る處ろに其形影を認め得べく、四月頃に至れば Syrichthus屬のもの多く出でゝ、路上に靜止して雨水を吸收する等は敢て本邦種に異なる所ろなし。

之を要するに、歐洲產の蝶類分布は本邦同樣、舊東北地方に屬するを以て、その互ひに相類似せる點

あるは毫も怪むに足らざと雖ども、亦其間に自ら本邦の種類と相異なる所ろあるを見るなり、假令同種類なるも多少其形狀若くは彩色を異するが故に、双々これを比較する時は容易に其異同を識別するを得べし、蓋し想ふに歐洲の地大いに其地質、氣候の相同じからざるものあるを以て、幾百千年經歷の間に自然淘汰の作用により、同種も大に變形せるに至りたるものなるべく、然も猶別種となすの價値なき等に至りては、博く日歐兩國の昆蟲を比照研究し而して後に知り得べきのみ、然らば則はち異りたる同種の多きも亦決して怪むに足らざるべし。

◎サンノゼー介殼蟲と我國貿易の關係（續）

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

前章既に有害サンノゼー介殼蟲傳播の沿革より、現時本邦に於ける果樹園の恐慌、外國貿易上に來せる一頓挫に說及ぼし、また其の性狀、各地侵害の實例を擧げ、以て當業者の公憤を促がし併せて當路有司の猛省を乞へり、今や更に筆鋒を一轉して此の兇惡なる害蟲に制裁を與ふる天敵すなはち有益蟲と、人工驅除上二三の要件を叙述せんとす。

讀者試みに想へ、サンノゼー介殼蟲の如き暴威猛力を逞ふする害蟲にして、世に一の天敵微りせばその慘毒を國內に流布する決して今日の比にあらざる可きことを、幸はひにしてサンノゼー種には幾多强剛の天敵なるもの有り、晝となく夜となく、絕えず之れを襲擊して其の蕃殖を妨たげ其の銳鋒を挫くが故に、理數の命ずるが如く貪饕惡食して暴かに己が種族を增殖せしむること能はざるは造化の妙工に出づるとは云へ、觀來れば優勝劣敗の迹、寔とに驚嘆に堪へざるものあるを知る。

但我が國俗一般に昆蟲學の智識に乏しく未た益害蟲の判別だも之れを知らず、爲めに偶々介殻蟲の群棲中に於てこの有益なる天敵を發見することあるも、直ちに目するに害蟲の母蟲又はその巣窟を以てし、玉石同架これに慘殺を加へて更に惜む所ろなし、これ豈に益蟲保護上の缺點たるに止まらず、斯學發達上の障害たらずとなさんや。

サンノゼー介殻蟲の天敵とは何ぞや、曰く瓢蟲、寄生蜂の如き有益蟲と、寄生黴菌の一種これなり、請ふこれより順次この貴重すべき天然驅除者を吾が讀者に紹介せん。

◎第壹、瓢蟲(テントウムシ)　瓢蟲の介殻蟲を驅除するに有効なるは、斯學に志ざしあるもの丶等しく認知する所ろなり、余嘗て苹果樹にサンノゼー種を發見せし當時、これが習性經過の狀を研究せんと欲し、故らに其蕃殖するが儘に放任せしに、終に滿樹外殼の被覆を見ざる所ろなきに至れり、會々出張調査の所用を帶び巡按二旬の後、歸來被害樹を點撿すれば料らざりき、サンノゼー種は殆んどこれを見ること能はず、却つて下幹部に於て瓢蟲の蛹化せるもの參拾餘顆を發見せんとは、乃はち瓢蟲の幼若にして食慾旺盛なるもの丶來りて余が飼育場を蹂躙し、食に飽き日を經るに隨がひ斯く團蛹に變生せしことを悟了せり、余が研究の資料と希望とは全たくこ丶に消盡せしかども、退いて考ふれば瓢蟲の害蟲に對する魔力を確認するの好機會を得たるは蓋し之れが爲めなりき、想ひ起す、曩さに米大洲に於て介殻蟲の猖獗なるや、合衆國政府は金貨二千弗を支出して専門家アルベルト、ケーベル(Albert Kœbele)氏を濠洲に派遣せしに、氏は介殻蟲と瓢蟲の關係を調査せし結果として、有名なる天敵すなはち Vedaria 屬に配すべき一種の瓢蟲を發見し之れを本國に携さへ歸りて非常の好果を收め得たりし事實を。

目今我が國に於ては介殼蟲を喰殺する瓢蟲に數種あり、就中、最とも普通ょ且有効なるをヒメアカボシ種(Chirocorus similis, Rossi.)となす、この種は粗ぼ人の知る如く、小形の一種ょ屬し、躰長わづかに壹分四厘、横徑壹分三厘許り、高さ八厘左右ょして恰かも圓球を切半下伏せるが如き凸圓形をなし、全躰眞黑色を呈しその翅鞘の中央には稍楕圓狀の朱赤色紋貳個を有せり、故ょまた之れをヒメフタホシテントウムシ又はフタホシテントウムシとも俗稱す、凡そ通常の瓢蟲（例へばナナホシテントウムシ、テントウムシ、カメノコテントウムシ、ヒメカメノコ等を指す）は觸角の關節拾壹個より組成せるも、此の種に限り九節より成

ヒメアカボシ瓢蟲

イ　ロ　ハ

（イは成蟲　ロは幼蟲　ハは蛹）

れるを以て、明らかに他と區別し得べし、而して此の種ハ成蟲（イ圖）のまゝ越年し、常に介殼蟲を獵りて食餌ょ充つるも、幼蟲（ロ圖）は特ょ健啖にして時ょ或ひは害蟲を全滅に歸せしむることあり、其の狀貌は灰黑色を呈し躰軀には刺股狀の毛針を有するを以て、動もすれば人に厭嫌せらる、斯くて老熟するょ至れば樹幹の下部に隱栖を卜して蛹化を遂ぐ、其の蛹（ハ圖）となるや、敢て他種の如く幼蟲時代の躰皮を脱離せず、唯背上に縱裂の痕を留むるのみ因りて考ふるょ蛹は幼蟲の躰皮内ょ存在せるやまた疑がひを容れず。

◎第貳、寄生蜂　瓢蟲類ょ亞ぎて介殼蟲蕃殖の防害者たるを寄生蜂類となす、從前研究せられたるものは數種ありと雖ども、現ょ余が發見試驗を遂げしは二種類ょ止まる、即ち其一は學名をAphelinus fuscipennis, How. と稱し他の一をCoccophagus aurantii, How. と稱するもの是れなり、此等は躰軀微小

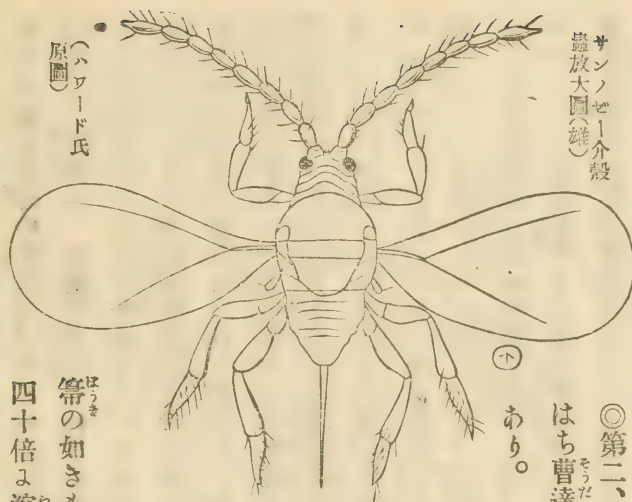
にして、長け僅かに二厘弱に過ぎざるも、そのサンノゼー種に寄生して之れを斃死せしむるの効に至りては蓋し豫想の外に出づるものあり。

◎第三、黴菌　前掲の天敵の他なほサンノゼー種を自滅的に驅除すべき一種の黴菌あり、その効用は未だ詳びらかに世に賞揚せられざるも、吾が岐阜縣下安八郡南杭瀬、北杭瀬地方に於ては既に該菌の發生によりて介殼蟲蔓延防遏の一助をなせるを目擊せり、我が國昨今の如き昆蟲學の發達顯著ならざる時に方り、直ちに之れを應用して害蟲驅除上の大勢力たらしむるは、固より望み得べからざる所ろなるも、徐ろに研究の功を積まば他日或ひは良成績を擧ぐるに至るやも測り知る可からざるなり、仄かに聞く、農商務省農事試驗場病理部に於ては該菌の性狀等を精査細驗せんと欲し、既に各種の方面よりそが資料を聚收せりと、此の試驗にしてもし成功することありとせば將來斯學界に於て享くる所ろの福利それ幾何ぞや、余は鶴首翹足以てその詳報の來るを竢たん。

介殼蟲には上記の天敵天疫ありて、常時間斷なく其の傳播力を減殺するも、此の種族の蕃殖の絕大なる、決して容易に殲滅を期し難きを以て、これら天敵を愛護すると共に、また人工的驅除を行はざる可からず、而して其方法たる繁簡難易、決して一樣ならずと雖ども、現時主ぱら歐米諸國に重視せらるゝは青酸瓦斯の燻烟にあり、この方は輕便多効にして經費また甚はだ貴とからざれば、我が邦に於て之れに倣ふは敢て不可なきに似たり、然れども今の狀態に居てこれを學ぶ、或ひはこれ危險を招くの虞れなからんか、況して文明國の方法を直ちに僻遠不便の果物產地に施こさば、反つて弊害を釀すべきの憂ひあるをや、故に人工驅除法に對しては斷然剽輕の施設を愼み、階級を履み、序を追ひ、簡易より漸次複雜に移るの方針に出でんことを警告す、以下列擧する所ろの方法また此の意に外なら

す、讀者深く微衷の存する所ろを諒とせよ。

◎第一、潰擦法　こは各發生地に於て普通に行ふ所ろの方法にして、藁を束ね、或ひは繩を糾へて被害局部を摩擦し、專はら潰殺を期するに在り、最とも簡便の一方なれども、冬季に施行せされば比較的その奏功著大ならざる可し。

サンノゼー介殼蟲放大圖（雄）
（ハワード氏原圖）

◎第二、洗滌法　前法と同じく晩冬初春の間に行ふを利便とす、即はち曹達の稀薄溶液にて被害部を洒洗し、害蟲被殼の破潰を期するにあり。

◎第三、注射法　介殼蟲の或る時代に對つては、單に石鹼劑を用ゐるも、能く驅除の目的を達し得べし、すなはち熱湯を以て石鹼を溶解し、その稀薄液となりたるものを注射若くは塗抹するにあり、但この法は卵子より孵化せし際に用ゆべきものとす。

◎第四、塗抹法　石油乳劑の害蟲驅除に有力なるは幾多の經驗に於て既に明確となれり、之れを介殼蟲の驅除に供用せんと欲せば、原液に八、九倍の水を混じ刷毛類又藁箒の如きものを以て痛く塗抹するを要す、右は冬季の驅殺法なるも三、四十倍に溶解して幼蟲孵化期に注射するも亦効驗多し。

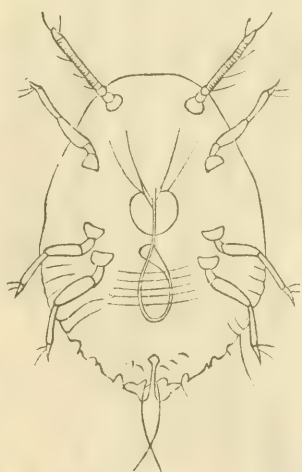
製法　半ポンドの下等石鹼三個（凡そ百八拾匁）を細末となし、これを貳升五合の熱湯に溶

解したる後、木綿又は篩にて濾過し、その濃液の未だ冷却せざる間に、同温度にせる石油五升を加へて、急劇に之れを攪拌し十分混和せるに至りて止む、斯くて漸やく放熱すれば乳白色の糊状液となるなり、余はこれを指して原液と云ふ。

◎第五、燻殺法　この方は青酸瓦斯を發生せしめ、その毒煙の力を藉りて害蟲を窒死せしむる目的に出づ、近年歐米諸國に於て苗木その他に使用するには最とも適當の驅除法と認め、現に盛んに採用し居れりと云ふ、其の方法は先づ黑布を以て製れる天幕樣のものを以て緊密に被害樹を覆蓋し、その中にて青酸瓦斯を發揮せしめ、斯くて三十分乃至四十分間、放任燻烟するにあり

製法　青酸加里の一オンスと硫酸一オンス半を水の二オンス四分一に投合するにあり、こは米國メエリーランドの人ダブルユー、ザー、ジョンソン氏の考定に係れりと、尚他日詳報することあらん。

介殼蟲を豫防驅除するに益蟲を保護し、及び人工を加ふるは固より肝要の事たるに違はざるも、もし種苗購入の初めにろが病毒蟲害の有無に注意せずんば、如何に成木に對つて各種の手段を施こすとも恐らくは多勞少利の結果を得んのみ、蓋しサンノゼー種が現今國内に分布蔓延するに至りしも、首として苗木の媒介に因づけりと推定すべき事實多きのみならず吾が岐阜市に該蟲の發生を來せし起源を繹ぬれば、僅かに數年前、奥北より輸入の苹果苗木に基づける確證のあればなり、況んや啻り該蟲のみならず、綿蟲その他毒惡恐るべきものをも、病菌とゝもに併せ輸送せらるゝ虞れあるをや、然るに實際は全たく之れに反して

（ハワード氏原圖）

サンノゼー介殼蟲幼蟲
（放大圖）

世人の苗木を視ること甚はだ輕忽に過ぎ、細かに査檢することを爲さず、又消毒その他の豫防方法を施こすことを思はず、只顧これが栽植收實に急にして、樹質の健否好惡を鑑別するに疎そかなり、嗚呼これ果して何の意ろぞや夫れ無智の農民すら蠶兒の病毒を忌畏するの餘り、規定の鏡檢を經たる良種にあらずんば乃はち之れを却ぞく、然るを肉眼赤手その多少有無を判別すべき有形害蟲に留心する者絶ねて之れ無きに至りては、茫然自失、その沒理的擧動に驚かずんばあらず、余は切に望む、今後種苗類を授受するに當りては少なくとも蠶種に對する底の注意を與へられん事を、唯に當業者にのみ之れを望むに止まらず、税關所在地の知港及び勸業の要衝に在る有司に對つても同じく、周到嚴密の監督を加へられんことを勸む、蓋しこれを望み、これを勸むる所以のものは徒づらに事の煩雜冷酷に渉らんことを希ふが爲めに非らず、畢竟上は國家の福利を思ひ、下は民業の伸暢を計るが爲めにあるのみ。

聞ならく、北米合衆國に於ては、この有害サンノゼー介殼蟲につきて多年經營慘憺の末、或ひは法令を布き、或ひは訓示を發し、或ひは補助を給して驅防の方策を講ず、その警戒の嚴なる宛かも疫癘に接するに異ならず、隨うて果樹栽培家も各々期せずして團躰を組織し、規程を編製し、互ひに氣脉を通じて一意これが必滅を期するに餘念なきもの、如しと、之れを我が國の當業者が晏然舊態を固守して未だ該蟲に對する歩調をも整のへず、眼のあたり子實を損傷する小害蟲あるを知りて、永遠に幹根を枯死せしむべき大害蟲あるを悟らず、内に尸利を營なむに孜々として、外に商品を斥ぞけらるゝを料らざるの淺見に比し來れば豈に同日の談ならんや、而して一歩を進めて彼我得失の係かる所ろを言へば、本邦産植物の海外に到るや、一枝一葉悉ごとく顯微鏡下の犧牲に供せられて、時としては烈火に焚かれ、時としては毒烟に投ぜられ特に甚はだしきに至りては空しく道途に棄てられて、その眞に

有價商品たるを證明せらるゝものは極めて些少なるに、翻がへつて本邦に舶載せらるゝ所ろの輸入植物處分如何を問へば、假し病菌蟲毒によりて滿たさるゝことあるも、一の制裁をうけず、又一の厄運に遇ふことなくして、安らかに商港埠頭より直ちに各方面に廻送せらるゝを見るべし、豈に羨望の至りならずや、此に至りて余は私かに皇天の彼れに厚くして此れに薄きを悲しまずんばあらず。

之れを要するに、有害介殼蟲は到底姑息の手段を施こすも驅除の功を收め難きを以て、之れが善後の策としては疾く大決斷を行ふに在り、則はち植物病蟲害豫防のために先づ輸入植物檢疫所を公開し、次で介殼蟲及び一般害蟲の調査をなさんが爲めに內地に恰當の令規を設け、これと共に當業者の一致結合を奬勵し、其の力を藉りて樞要の果樹栽培地には病菌蟲害試驗所樣のものを置かしめ、一たび此等公署の證明を得たる時は、何人と雖ども之れと相爭ふ能はざること、恰かも生絲の生絲檢查所に於けるが如くならしめ、一は海外に於ける信用勢力を牢ふするとゝもに、內地の當業者を刺激するの日あらんことを渴望して已まず、當路者及び栽培家にして雅量宏懷、幸ひに卑見を採納せらるゝことを得ば、一身の光榮これより大なるは莫し。

終りに、本篇はおほ章を重ね號を連ね、外國輸入害蟲に關する調査意見及びこれと相關聯せる諸種の事實を細說せんとの心算なりしも、時恰かも全國昆蟲展覽會の開期に近づき、塵事劇かに身邊に蝟まり來りて錐鑿の餘暇を容さず、因りて少焉こゝに筆を擱く、讀者豫じめこれを記せよ。　（完）

から蝶　おもしろや花にむつるゝから蝶のなればや我もおもふあたりに。　（源　仲　正）

◎サンホゼー介殼蟲は日本に居ります(San Jose scale or Aspidiotus Perniciosus, Constock.)(續)　在米國スタンフォルド大學昆蟲部　白髮翁

私は昨夏(一千八百九十年)當大學から本邦に派遣を命ぜられまして、本邦產介殼蟲を採集すると同時に、此害蟲のことを出來得るだけ委細く調べましたが、何分九週間の內に六十餘州を飛び回ることて、遺憾にも意の如く調査が出來ませなんだが九州、本州及び北海道へは荒々足を踏込ました、而かも到る處で此害蟲を見受ましたのには驚きました、九州では筑前宗像郡河東村にある、一本の古さ(四十五年餘)梨の樹に多く寄生するのを見たときには大邊に驚きました、これは現に福岡縣々農會幹事安部熊之輔氏の案內でした、其外同村近傍を經て小倉近くに來ると安部熊之輔氏の梨園にて又被害の甚だしきを見受ました、仝氏は澤山の被害樹を掘り倒したと申されましたから標本として其株を持ち歸りました、安部氏の梨苗は東京邊から參つたと聞及びました、滋賀縣々農事試驗場內の林檎にも寄生し居りしを生捕にしました、岐阜縣下にては名和梅吉氏と同道にて大垣近傍の杭瀨村及び其隣村の梨畑を巡檢したが皆被害を蒙つて居る、其地方にてはこれをキアブラと申して居る、農夫の噺によればキアブラがつけば三年目には其樹は枯死するといひます、實に左樣なる可く信じます、米國にて現に左樣ですから、偖て東京にては三田育種場の裏園に鉢植のこしねたる西洋梨が一本あつた、其木にひどく該蟲の附着せるを見受けたれば、其木を丸で持ち歸り標本にしてある、其外諸處でも見た、川崎でも多少見受けた、橫濱の植木商會に行きましたときに其主人の噺に、嘗て獨乙に送りた苗木盆栽の中、該蟲が居るとて燒藥された、其損害は數百圓であると申しました、其他米國に送つた盆栽苗木で

は大變ひどい目を見て居る、伊多利にては一切日本の植物の輸入を許さぬ、濠州からは元と中々注文があつた處であるが、今は少しもない、故に輸出額は年々減少しつゝありとて大に憤慨して居りましたと、云ふも畢竟針頭大の小蟲の爲である、同國ニても慥ニサンホゼー介殼蟲が手ニ入りました。東北地方ハ安行、盛岡、仙臺、青森、弘前、等を巡視しましたが、各地の林檎園又は梨畑で此害蟲を採集致しました、殊に弘前などにてハ酷く害を被つて居る、彼綿蟲よりも一層害がひどくあります若し此儘に放つて居たら林檎栽培をば全廢せねばならぬ樣になるであらうと恐れます、それから北海道に渡ッて札幌附近を少々調査しましたが、豫想外ニ北海道には本道や九州ほどは多く居りませぬ、而し多少之を見受けた、北海道にて最とも恐る可き介殼蟲はサンホゼー介殼蟲でなくして林檎の介殼蟲即はちMytilaspis pomorum. である、此蟲の爲めに或處では果樹を枯死せしめて居る、サンホゼー介殼蟲及び林檎の介殼蟲の外に、今一つ恐る可き介殼蟲は櫻の介殼蟲(Diaspis amyg,dali.)である、此種は日本到る處ニ多く居ります、殊ニ櫻梅杏桃桐等がひどく害せられて居る、又佐々木博士が數年前ニ委細調べた處の桑の介殼蟲(Diaspis patelliformis)も最とも有害なるものゝ一つです、其外百種近く日本生の介殼蟲で有害のものが居ります、これは漸々調査して他日「昆蟲世界」の讀者諸彦に御紹介申す積りです借て本邦が斯る有害なるサンホゼー介殼蟲の原産地なるや否やニ就き一言申しませう、私自身でハ此夏僅々九週間本邦で之を研究したるのを以て斷案を下すことハ出來ませぬ、責めては一ヶ年位ゐもそれのみを調査したなれば、何とか確乎たることが申せるでせう、其れは兎も角も、北米ニユーメキシコ農科大學の昆蟲學者ニして介殼蟲專攻者カコレル(Cockerell)氏の説ニよると、日本に二種のサンホゼー介殼蟲と親類のものが居て、これが他處ニ居ないとすれば、學術上自然日本が其母國である樣ニ思はるゝと申して居ます、又ヲハヨー州の昆蟲學者ウエブスタ氏も十中の八九は日本を以て原産地と信じて居ります、數日前同氏より委細の手紙を受取ましたが、其中ニも左樣に書てあります、併しながらこれ等の人の説は皆科學的の想像ニ留つて居ます、要は本邦にて實地ニ研究をするにあります、

考へて見まするに、若し彼等の云ふ如く果して日本が該蟲の母國なりとせば其配布が廣くなくてはならぬ、野生の植物に於ても之を見受けねばならぬ、然るに私は本邦巡回中野生の樹木にては該蟲を採集し得ませなんだ、併し配布は恐ろしく廣くありました、故に例令日本が原産地でなくても、日本には永らく生存して居るものと信じます、又大層寄生蜂の爲に斃されて居る、又瓢蟲も二三種居つて之を食殺しつゝあるをも實見しました。

斯の如き次第でありますから、最早日本にサンホゼー介殼蟲が居るじや、居らないじやと云ふことを爭ふの必要はない、一日も早く我等此害蟲に就き充分の研究をなし、之を世に公にするの外に良策はありません、それと同時に天仇を發見し人爲的驅除を講究し、自國の果樹を救ふと共に外國にまで之を及ぼさなければならぬ、之を爲すには經驗のある學者と大枚の費用が要るから、到底一私人で出來得る事業でない、是非とも政府の力を藉らねばならぬ、政府も亦之に對し大に責任があることゝ信じます、歐米諸國皆政府の力によりて之が驅除法を研究しつゝあることは余の今茲に喋々する迄もなきことです、獨乙から我政府に此害蟲のことに付き交渉しましても、又米國邊の紙上で大變騷で居ても、尙は悠然として日本には居ないと云つて居た日には餘り迂濶な話である、否な歐米の科學者から指をさして笑れます、余は常に日課が忙敷ければ、餘りこみいつたることを除きまして茲に僅かに要領のみ申上ます、折もあらば又名和君の機關紙上を借りて述べたく存じます。（完）

左は名和本所長が第七回全國害蟲驅除講習會開講の初め、會員に對つて演說したる要領なり、世間或ひは本所の開催に係る講習會の種別及びその價値を知らざる人なきを期し難ければ、速記のまゝを揭げて爰に眞相を明らかにす。　編者　志るす

◎講習會の種別と其價値

名和昆蟲研究所長　名和靖

私がこの三四年以來、微力を盡して居りまする、講習會の區別につき、又其の講習會の價値と云ふ事

に就きましては、まアだ世間では能く解らん方々も多くあると見ねまして、諸君と同様、往々質問せらるゝ場合がありますが、未だ此種の會の多く開けません今日でありますから、其疑ひも無理とは思ひませんが、一躰蟲の講習會と云ふから、如何にも可笑しく聞へるのであッて、何も別に農事の講習會や、教育の講習會と違ひはありません、但この講習會の價値と云ふ一點になりますると丁度二筋道に岐れまするし、又修業致しました會員らの者の働き次第で、善くも言はれ、惡しくも考へられますから、其邊の事は私の口から効用がコレ〳〵であると云ふ事も、効用が無いとも申しますまい、大概世間には定評と云ふものが有りませうから……………唯私が講習會を經營するに當りまして、最初から心密かに期して居りまする事柄もあり、目下世間でやッて居りまする事柄に就きまして多少の考ひもありますから、此等の事を眞率に申述べまして、序でに講習會には二種ある事と、何が爲めに講習會を興したかと云ふ事と、今一つハ講習會員より徵收したる經費を何に支出してあるかと云ふ事までも、打明けて申述べまして聊さか諸君の參考に供し、併せて當研究所の主義方針の一斑をも御漏らし致さうと思ひます。

偖私は是まで普通の講習會に對しましては、害蟲驅除講習と昆蟲講習……………この兩様の名稱を用ゐて參りました、これは物好から名前を違へて附けた譯では無く、全たく其性質と云ふものと目的とが違ッて居る爲めに各別な名稱としたのであッて先づ害蟲驅除講習なれば其名の通り、專ぱら實地應用に適ふやうに教習しまするも、また勉めて昆蟲學の原理をも研究せしむるやうな方針を立てゝ居ります、それ故に講習會員の資格も大概は直ちに之を實地に應用しやうと云ふのみで、申さば現役將校が多數の部下を引率して實戰をすると同様、間直接に農作害蟲の驅除に從事すべき必要のある人が多いのです、勿論中には教育者や醫員などもありますけれども、然らば他の昆蟲講習會とは如何なる場合に用ゐる名稱かと申すと、是は主として小學教員から成立ちました時に用ゐる名稱でありまして、害蟲驅除一點張の方とは少しく性質が違ふのである、申すまでも無く、小學教員は現役兵の指揮官では

ありませんで、つまりは未來の現役兵を敎成すると云ふ大切な役目を持ッて居る者でありますから、自づと講習のやり方を別ゑせんければ成らんのであります、其れ故、敎育者に對しては害蟲驅除と云ふ名義ゑしませんで、昆蟲の二字を冠ぶせた次第である、卽はち理科の一つゑ屬する動物學の一部たる昆蟲の事を敎へると云ふ事ゑなるのであります。

處ろで昆蟲の事とは耳新らしく申すまでゞも無くその區域が非常ゑ廣ふありまして、且研究の材料が容易く得ふれまするもので、其上ゑ興味が多くて誰にでも解かり易いと云ふ點から、理科思想を富ますゑは此を措いては外に致方がない、すなはち昆蟲學を研究さするのが一番捷徑であると云ふ事で、現に箕作理學博士や、或進化論者などは常にこの說を主張されゑして、加之も德育養成に偉大の關係を有するものであると申された位ゐであります、ろれも其筈で、昆蟲を研究致しまするど隨つて自然と云ふものを愛するやうになり、天地の眞美と云ふものを玩味する念が起きますから、自づと德性の涵養に必要なる土臺を作り出しますし、これと同時ゑ勸善懲惡の道理を辨別するやうに成ります、その外間接の利益としては害蟲一疋見出しましてもソレ是は農作物の仇敵だと申しまして容赦なく殺して仕舞ひ、一方では是が益蟲だから保護せんければ成らぬと云ふ風ゑなりまして知らず〳〵の間ゑ其區別を知るやうにも成りまする、已ゑこの智識が一般敎職の間に備はることゝなれば、敎師は遠慮なくその精神を兒童に吹込むやうになる、之を一度吹込むと兒童の方では蟲を捕まへて標本を製くるやうにも爲り、又は田ゑ入りて蟲取りをする事を何とも思はんやうにも爲る、實ゑ敎師の一令一命はこゝになると恐ろしい程効驗が見ゑて參るものであります、そして小學敎員は講習中ゑそンな事まで稽古するかと云ふと、如何にも名稱こうは昆蟲講習會でありますが、原と單純な昆蟲學の事ばかりでは有りませんで、經濟的に屬する所ろの應用昆蟲學（或ひは人によりて農用昆蟲學とも申します）の趣味をも加へて何分これを活かして働かすやうに、豫て敎科を作り置く積りでありますから自然左樣にあるのである、是は理論から申すのでは有りませんで、寧ろ實地の經驗から御吹聽を致す次第であり

ますから、決して手作りの味噌とは違ひます。

そこで一方では應用昆蟲學に重きを置きまして、昆蟲學の原理を説くことは第二にする、一方では理科思想涵養のため、これに必要なる昆蟲學を主力と致しまして應用昆蟲學をば第二に置くと云ふ風に、交互輕重の度合を違はして居るのです、所謂手加減とも申さうか其邊の事は教科の異同から參るのでありますが、兎に角兩方とも異名同躰では無い積りで居ります、併し何分短期の事でもあり又前述のやうな目的でありますから、左樣に何もかも違はせて講習する譯には參りません、何れ其の缺點は一兩年中に補足する時期が來ることゝ確かに信じて居りますから、其際にまた發表を致しませう、是で以て害蟲驅除講習と、昆蟲講習との區別が明らかに了解せられた事と信じます。

今から想ひ出しますと實に妙です、明治三十年以前までは世間に何一つ昆蟲談など丶申す事が行はれませんで、蟲の話をすると云ふても誰も聽く人が無い、偶々農談會の催ふしのある時などに一席の昆蟲談を致す位ゐが關の山でありました、時勢の未だその機に到らんとは申し乍ら寧ろ只今では不思議に考ひ居る程であります、そして此時代の有樣と云ふものは學校に譬へて申さば、先づ幼稚科すなはち家庭教育とか若くは幼稚園教育とか申す場合でありました、處ろが三十年に浮塵子と云ふ大害蟲が全國を荒らしまして、一億圓に近い損害を與へましてからと云ふものは、頓とその意向が變りまして、漸ッと一日づゝの巡廻講話會が彼方此方に行はれるやうに成りました、是は確かに浮塵子の刺激のために一進歩を與へましたもので、丁度尋常小學の程度に成ッたのであります、然るに一昨年すなはち三十二年頃からは短期の講習……五日乃至三週間位ゐの講習が盛んになッて參りまして、今では殆んど全國到る處ろに開かッて居るやうな有樣で更に一段の進歩を見るやうに至りました、これは即はち高等小學とか補習科とか申すものと同じ資格に成ッたのである、處ろで、是れで以て十分かと申すと、中々左樣なものでは無い、益々進んでその以上のものを行らん日には決して安全とも思はれんし、又完全な域に進む譯には參りません、然らば何ンなものが入用かと申すと、ツマリは中學程度のもの

が欲しいのである、尤とも其以上が備はれればこれに増した事はありませんが、物には順序と云ふものがあッて中々さう一足飛に進むことが出來ませんから、私は先づ半年なり一年なりの講習會が目下我國の時勢に照らして最とも必要であると考へて居ります、現に昨年以來或縣々からその照會をうけたのは一つや二つではありません。

話しの序でに申し上げますが、凡そ日本で昆蟲の講習會を開きましたのが、恐らくは岐阜縣が嚆矢かと思ひます、夫れは三十一年の四月でありました、其以前には聞いて居りません（是は私の記臆ではありますが）然るにその次ぎに聞きましたのが岡山縣であッて、それは同年五月の事でありました、其れから追々諸方で講習の聲が聞へまして遂に全國から講習會員を集めて聞く事になりました、即はち諸君はその第七回の會員となられましたのであります。

（未完）

蝴蝶の夢　思ひわびぬ責めて蝴蝶のゆめも哉こゝろの花のたのしみにせん。（讀人不知）

訪問

◎大日本農會幹事長田中芳男氏の談話

私共が昔し勸業の局に當ッて居る頃の事を考へて見ると、害蟲驅除の事に就ても色々な事がある、其頃は僚屬鳴門義民が專ぱら昆蟲の事を擔任して、色々な出版物も作ッたが、何分農民が今のやうに自から進んで、害蟲驅除をやッて見やうと云ふでは無く、官からいくら勸めても中々應じなかッた時代でした、さうだらう今からト二十年も前だから子、そこで鳴門のいふのには、日本の農作に大關係あ

るものは蟲害である、これさへ甘く行くものなら非常な利益で、將來飢饉を見るのも見ないのも全たく、驅除法の行はれると行はれない二つ一つである、それよしても曆本にまで草腐れて螢と爲ると、はツきり書かれて居ツては、中々農民が言ふ事を聽入れんから、どうかして呉れまいかとの事であツた、ソレ二十四氣の夏の處ろよナ、あツたゞらう、君等は能く知るまいが書いて置いたもんだ、ナニそれはまアそれで善いとして、鳴門等がさう言ふもんでしたから、とう〳〵內務省と交渉を始めた、すると內務省では如何よもさうかも知れんから、削ッた處ろで何も差支へは無いが、氣を附けられて廢めたとあツては此方の面目威信にも關係するから否やだと云ふ樣な調子で、そこで段々協議して見ると、曆から削ッて貰ふて害蟲驅除が出來さへすれば何も別に異存は無いと云ふので、此方から交渉して削ッた訳でなく、內務省が自から取ッた事にして其時から、とう〳〵取らした、ウンその年月か、確かよは記憶を………して居らんが、なンでも、私が居ッた時分だから、さうと明治十二年から十四年の間と思ふがネ、農商務と成ッた後だッたらうよ、調べて見ればナニ直ぐ解かる事は解かるが、此話は實歷談だから昔しは斯いふ事もあッたと云ふ事を君等のため御話して置くのさ、ウン其の次ぎ、次ぎと來ては鳥渡困るネ、何れまた話さうよ。

◎福岡縣技師農學士黑木幾太郎氏の談話

世の中が段々進めば進む程、害蟲驅除よ對する方法も是迄とは變はると思ひますが、私はどうしても藥劑を以て驅除する樣にせんければ成るまいと思ひます、藥劑と云ふても瓦斯の類を燻蒸さするのです、福岡縣の害蟲ですか、先づ普通の浮塵子、螟蟲を除いては、さうですネ一種稻を恐ろしく害するものがあります、其れは蟲でも無くまた黴菌でも無いやうですが、只今試驗調査中です、是れ神力(稻の名)に餘計つきます、それから私の縣では桐の害蟲が酷く害を致しまして殆んど困ッて居ります、ハイ螟蟲ですか、實地撿分も致して明細よ調べた處ろもありますが、そりゃ中々酷いのは皆無と云ふ場處もあッて、平均したら二割以上の損でせうョ、それですか、それャ勿論誘蛾燈から見ますと採卵

法ハ効驗が多いよ違ひありません、ハア山口縣の浮塵子黴菌ですか、あれャ騒ぎが強い程ではありますまいョ、何んだか聞く所ろでは、まアだ十分な試驗も濟まん樣子であッて、今の摸樣では餘り當てに成らんやうです。

◎農商務省農事試驗場技師農學士堀健氏の談話

今度來たのはサンゼー介殼蟲調査の爲めでして明日からは大垣地方を調べる積りです、此蟲の呼びやうですか、私は是までサンゼーとばかり呼んで來ましたが、さうですネ、隨分色々に成ッて居りますナ、コムストック先生は斯ういふ事よは中々喧ましい流義で、無茶な事をせん人ですが、矢張サンゼーと發音して居りましたョ、これは一つの地方の總稱でして谷間の處ろ一躰を指すのです、何れ公使舘なら解かるでせうから東京へ歸ッたら聞合はして確めて上げませう、ホンに今のやうでは困りますから矢張一定する必要がありますネ、蟲害地免租の事ですか、是は去年徳島縣が例を作ッたもんですから困ります、尤とも徳島の時分にも大部議論はありましたがネ、さうです、少しでも蟲が附く直ぐ免租と云ふ事よなると、農家は進んで害蟲驅除をしようと云ふ氣よ成らなくなりますからふ、餘程考ひものです、あアそれは承知しました、歸ッて復命の上で調査の結果を書いて上げる事にしませう、標本ですか、それは駄目です、今蟲の飼育室を持ッてやッて居るのは知れたもので九州の○○縣、外三四ヶ處しか有りますまい、其處も主任が代ッてから困ッてる樣子です、東海道筋では○○縣でハ立派な養蟲室を建てましたが、まアだ人が有りません、土臺私の居る本場でさへアノ樣子ですもの、逆も支場なぞで完備してる筈がありはしません、標本なぞは製ッては置きませんよ、東海支場にせよ何處よせよ、昆蟲展覧會へ出品して呉れーと頼んだ處ろが、まアだ應ずる氣遣ひはありますまい、ろの藥品の事ですか、そーと鳥渡解りませんナ、確か書いて有ッたかと思ひますが、西ヶ原の標本ですか、私は飼育よ計りかゝッて居ッて暇が無いもんですから、碌々何も製ッては置きませんが、此から少しはやる積りでハ、製作の方は助手に任して置くもんでして、どうも早や折々疎忽な扱ひをされて、

まアだ机の抽出に在るなどゝ云ふやうな事で閉口する事があるんです、ハヽヽア。

新くはまゆ　知らせばや新くは繭のかき籠りいぶせきまでも忍ぶこゝろを◎（藤原歌仲）

◎昆蟲ご俳句

第六回全國害蟲驅除講習修業生　愛媛縣　田村晴太郎

昆蟲に關する俳句は古來其吟甚ぐ多し、开は蝶、鳳蝶、虻、蜂、蠶、蚤、蚊、螢、蟬、蜻蛉、蟋蟀、茅蜩、螽、鈴蟲、轡蟲、寒蟲、蟷螂、蓑蟲等已に季題に於て定められたるもの多きに依るなり、今一々之を摘錄すれば日も亦足らざるべし、爰には只其一二句づゝを撰ぶのみ。

自然淘汰

飛ぶ小蝶まぎれて失ぬ白牡丹。　杉風

まれ〳〵に蝶の動くや蕎麥の花。　蓑笠

氣候適應

春の風蝶を起して舞せけり。　芹舍

益蟲棟領

蠶する人は神代の姿かな。　會良

寐所もあらじさぞ思ふ蠶棚。　百明

虻の目の何か悟りて早かてん。　支考

腕首に蜂の巢作る仁王門。　松芳

卵

蟷螂の卵や光る梅の花。　奇淵

幼蟲

蝴蝶にもならで秋ふる菜蟲哉。　芭蕉

孑孑のふるや金魚の鼻の先。　失名

複眼

蜻蛉の顔は大かた目玉かな。　知足

保護器

蓑蟲の得たりかしこし初時雨。　蕪村

山蟻の牡丹の輪をめぐりけり。　吟江

やがて死ぬけしきも見えず蟬の聲。　芭蕉
蟬啼や行者の過る午の刻。　蕪村

生存競爭

暑き日や蜘蛛に引るゝ蠅の聲。　蒼虬
追れては月にかくるゝ螢かな。　蓼太

益蟲保護

蜻蛉や何の味ある竹の先。　探丸
蜻蛉や花なき杭に住ならひ。　柳居
蜩や捨てゝ置ても暮るゝ日を。　捨女
苅跡やはり合なしに飛ぶ螽。　野徑
羽虱を花に落すな村烏。　正秀

害蟲發生

時鳥蚤の四月蚊の五月。　徐寅

害蟲加害

蟲の爲に害はれ落つ柿の花。　蕪村
大かたの木の葉にあるや蟲の穴。　杉風

害蟲驅除

蟲になる苔欠たる李かな。　尙白
鈴蟲や雨に千種の下むせび。　二柳
人をして哭かしむ霜の蟋蟀。　几董
柴舟ゃいさゞ啼行波の上。　闌更
寒蛩や箸で追やる膳の上。　孤屋
促織や窓にも蜘蛛の糸仕事。　乙語

昆蟲越冬

蓑蟲は息才で居る木の芽哉。　素鏡
冬ごもり蟲螻までも穴かしこ。　貞德

◎和漢の學者と昆蟲　（其貳）

古奧　青蓑白笠の人

○上よいへる縣居翁魚名十の隱題の歌のちなみよ云ふべきを忘れて、今こゝよあぐ。

蟲名十　ありあけのかけのみしらみゆくものをさしもあふてふなをいかにせむ　（枝直）

（右、清水濱臣の泊洦筆話）

○蛭兒進雄　（上略）陽は聲を發し陰は聲なし、飛鳥混蟲みな如此なり（中略）西は五行よ金とす金氣傷殺するときは、混蟲蟄伏し草木凋落す（中略）頰垂は螢火なり（阿曇連頰垂、見齊明紀）虫名は貉なり（石川朝臣虫名、見天武紀、刑部直虫名、見光仁紀）（中略）虫をもて名とせしもの多かる中に粟田臣飯虫（書紀廿五孝德紀）阿部朝臣粳虫（續紀十一聖武紀）はその名雅致たるよあふねども意味おもしろし、こは孔子家語（執轡篇）なる倮蟲（倮蟲三百有六十而人爲之長）より出でたるもの

なるべし、この他、縣主飯粒（書記十八安閑紀）東漢氏直糠兒（同十九欽明紀）舍人造糠虫（同廿九天武紀）あり、右におなじ意にて名づきたるべし。（右、瀧澤曲亭の玄同放言）

○蟋蟀草　スモウトリ唐草書にあれども、漢名詳ならざるに因りて、通詞を以て清人に尋ねしに、雅名これなく、俗に蟋蟀草と云ふと云へり。（右、青木昆陽の昆陽漫録）

○俊明公の七回りの御忌に種姫公主のよみ給へしと聞へし歌に。

きりぎりす汝も鳴音にうき秋を忍ぶの袖の露や透らん。（右、白河樂翁の退閑雜記）

螣

螟

蟊

賊

瓢蟲女史摹

○植物の虫　すべて草木など植うるに苗の程は虫に損はるゝものなり、葉を損ふ虫あり、莖をそこなふ虫あり、根を損ふ虫あり、節をそこなふ虫あり、葉を損ふ虫は螣といふ、莖を損ふ虫は螟といふ、根を損ふ虫は蟊といふ、節を損ふ虫は賊といふ、かくの如きの虫なり、日々よくよく見てとり捨てざれば、多くはそこなはるゝものなり。（右、齋藤彥麿の片廂）

○五月朔日の事なり、其夜飯坂にとまる、温泉あれば湯に入りて宿をかるに土座に莚を敷きてあやしき貧家なり、灯なければ、ゐろりの火かげに寢所をまうけて臥す、夜に入りて雷鳴り雨しきりに降りて臥せる上よりもり、蚤蚊にせゝられて眠らず、持病さへおこりて消え入る許になん（中略）大山をのぼりて日既に暮れければ封人の家を見かけて舍を求む、三日風雨あれてよしなき山中に逗留す。

蚤しらみ馬の尿する枕もと。

（中略）岩に巖を重ねて山とし、松栢年舊り、土石老いて苔滑に、岩上の院々扉を閉ぢて物の音きこえず、岸をめぐり岩を這ひて佛閣を拜し、佳景寂寞として心すみ行くのみおぼゆ。

　のどけさや岩にしみ入る蟬の聲。

（中畧）實盛討死の後、木曾義仲願狀にそへて此社にうめられ侍るよし、樋口の次郎が使せし事共まのあたり緣紀にみえたり。

　むざんやな甲の下のきり〴〵す。

（右、芭蕉翁の奥の細道）

○越後糸魚川異蟲三州某村蠅伊豆天城山蛭　信濃の國より越後の國へ行路（糸魚川）にや野と云ふ所あり、そこにウルリとて蜂の少さなる蟲多く有りて晝の間行客その野を過る事あたはず、夜のうちに往來す、彼の蟲人をさす事甚しと云、サスリの類にや、又三州吉良庄某の村に蠅多き事他所に比すべきかたなし、俗に昔、伊勢に五月蠅（サハヘ）多かりしを祭り込で、爰に集めえなんど云、伊豆國天城山には蛭樹木に多し、行人高聲すれば蛭必ず落て人に害ありとて馬夫敎へてものいふ事なからしむとかや遠鄙にはかゝる事間々多し。

（右、天野信景の塩尻）

◎捕蟲餘記（貳）

福岡縣企救郡　天野宗軒

其五、蝶類目錄　余は本誌第四拾號紙上に當地產蝶類目錄を載せたり、然るに其中ミヤマチャバネセセリハ衍なれば之を削り新たにイチモジチャバネセセリと小灰蝶科に屬するムラサキツバメを加ふることゝせり、又挵蝶科中名稱不詳の一種は余が數年前に採收製作せる不完全の標本たゞ一個を有するのみなるが、未だその名を知るに及ばぞ。

其六、蟬類　余が住地近傍に於て昨年採集せる蟬類は次の五種とす今その習性の一二及び發聲期を記さん。

（イ）ニイニイゼミ（方言コゼミ、チーチーゼミ）七月十六日頃より鳴始む、到處の喬木に居る、特に畠及び庭園中の樹木にありて、

朝五時頃より黄昏迄鳴くが如し、蛹は平均地上二尺五寸位ゐの樹幹上に止まり化成す、最さも多し。

(ロ)ツクツクボウシゼミ(方言ツクイヒヨウシ、ツクツクボーシ)　八月二日より鳴始め、十月十一日なほ聲を絕たず、少なし、但し松林には最さも多し、蛹は地上壹尺位ゐの樹幹に止まりて化成す。

(ハ)クマセミ(方言カタビラゼミ、オホセミ)　七月廿二日より鳴聲を聞く、庭園等の樹木に多し、蛹は平均五尺餘の樹幹又は小枝上にありて化成す、到處に多きも、アブラセミの如くにはあらず。

(ニ)ハルセミ(方言マツムシ)　初夏の頃鳴く、小松林中に多し。

(ホ)アブラセミ(方言ヒグラシ)　七月十六日よりその聲を發す。到處に多し、蛹は平均五尺餘の葉上にありて化成す、その樹幹に於て仙脫するものは僅かに十中の二位ゐに過ぎざるが如し。

其七、キテフの翅色　石川理學博士著進化新論三七二頁に氣候上の多形の記事あり、其中に言へるあり曰く、キテフの一種 Terias biformis.(ツマグロキテフ)は二形を有し、他の一種 T. multiformis.(キテフ)は多形を有し、春月に出づるものと秋末に出づるものと大に其形態を異にし云々と、然れども余が昨年採集せるキテフ標本に依れば、十一月頃の採集に係るもの丶半は春形にして半は夏形(或ひは秋形)に、而して十二月廿一日の採集のもの亦同じく春形なりき、然らば則はち春形とは秋末に於て化成したる蝶の越冬して春時に於て現出するものにはあらざるか、キテフの越年するは實事なるに春時に於て未だその夏形なるものを見ぞ、果して然らば春形とは秋形のみ、秋末に於ける蝶の偶々寒時に再現するもの丶み、之を換言すれば翅表に黑斑少なく、裏に斑紋の顯著なるの種は氣候寒冷の時に生ずるものにして、表に黑斑多く裏の斑紋鮮明ならざるは温暖の時期に生ずるもの丶如し、即はち春形夏形と云はず、之に換ふるに寒形暖形を以てせば却つて眞に近きが如し、識者希くは余が爲めに敎を垂れよ。

◎害蟲短片(其九)

静岡縣　昆蟲生

(十七)蜜柑樹の綿介殼蟲　我が静岡縣に於ては近年柑橘を栽培する者遽かに增加し、東海道屈指の

產地となれり、偖余が柑橘害蟲調査の際、到處にこの被害を見しは即はちこの綿介殼蟲なりき、勿論當業者は殆んど關心せざるも毎に被害甚はだしく且煤病を招くものあるは多く此介殼蟲の媒介によるものならん、而してこの起因する所は該蟲の特性として始終粘液を分泌するを以て自然煤病の胞子を附着し、それより漸次蕃殖を來たすに至るならんか（氣候の激變、蚜蟲の寄生の爲めにも此病を誘發するものなり）蓋し綿介殼蟲の寄生を受けたるものには、盡ごとく煤病に罹れるを認むるより推測すれば、唯り直接の害毒を加ふるに止まらず、亦間接に病菌を誘引するの强力なるを知るに足れり、當業者敢て之が驅除を忽諸に附する勿れ。

（十八）桃の果蠹蟲蜜柑に寄生す　　松村農學士の日本害蟲篇を繙とけば、その二百三十頁に桃の果蠹蟲の桃樹に加害するを見るべし、然るに余は昨年六月下旬より七月上旬に亘りて蜜柑の墜落するもの多きを怪しみ、乃はち拾收して試育を遂げたるに桃の果蠹蟲の成蟲に羽化したりき、然らば此害蟲の食料は單純なるものにあらずして二種以上に及ぶや明らけし、悉ごとく書を信せば書なきに及かぞ、任に害蟲驅除にある者は深く思はざる可からざるなり、附記す、該蟲は八月下旬より九月に亘りて蜜柑を喰損すること極めて夥たゞし、時を候がひ速やかに處置するを要す。

（十九）蓼藍の螟蛉野生の水藍を喰害す　　前項に、害蟲の食料たる植物は二種以上に及ぶべきを說きしに益々これを確實ならしむべき資料を得たり、それ縣下濱名磐田の兩郡は盛んに藍作をなせるを以て、また盛んに螟蛉の侵害を受け損失實に甚はだしきに驚ろき居りし折柄、偶々靜岡市を貫流する河江の兩岸に水藍茂生するも一葉の能く滿足に生育するもの無きを怪しみ、之れが調査を試ろみしに、全たく藍作を害する螟蛉の寄生せるを檢擧せり、もし市の附近に於て藍作をなさば必らずやこの害蟲も亦傳播加害をなすや疑ひを容れず、此理を更に推擴むれば、開墾の成就するに伴れ此方を喰害せし蟲類は植物を追ふて彼處に移るべきを了知すべし農家たるもの宜しく警戒すべきなり。

如敎熱血充虚腹。何惜微軀粉碎來。實にこの詩の如く、世ょ貪食有害なる蚊なるもの丶無かりせば、人類畜類よりその他下等動物の受くる所ろの恩惠幾何なるを知らざるなり、看よ朝ょ夜ょ將また白日にこの蚊族の襲撃あるが爲めに一般生類の困苦擧げて言ふべからざるにあらずや、特ょこの類中ょは啻ょ人類を煩るしむるの作業を妨ぐるに止まらず、猛惡怖るべきの癘疫を媒合流布するものありと聞く、余が蚊族を疾むは自己の安逸を期するが爲めのみにはあらざるなり、然り今日全たく蚊族の絶滅をはからば、本邦のみょ於て一日少なくも幾十萬圓の收益あるべしと信ず、すなはち假りに農民が朝夕二時間は蚊族のためょ勞働を減殺するの曉ょは、全國貳千萬の農民の上に於て約そ參百參拾參萬參千三百三拾三人の勞力を失ふと同じく又之を半減とするも百七拾萬人ょ上るょあらずや、更ょこれを一人參拾錢の傭銀を得る者として勘算すれば全たく五拾萬圓乃至百萬圓の損益を左右するを知るべし、こは唯夏月の一日間ょ於ける算用ょ過ぎざるも、夏秋數月ょ亘る日數に積算せばろの額實に幾十倍ょ達すべし、加之も全國人口の上ょ於ては千五百万張乃至二千万張の蚊帳を備へざる可からざるを以て、壹張貳圓と見做すも三四千萬圓を徒費し優に國民の負荷を免除し得べき税源たり、況んやその他病毒傳播のためょ被ふる所ろの損失をや、聞く昊天は無用のものを生ぜずと、蚊族また或る方面に對つては有用有効たるを失はざるべきも、而かも好んで之れが蕃殖を希ふは背理の至りと謂ふべし、余は飽くまでも斯かる有害の族類を滅盡して國家のためょ齊しく慶福ょ浴せんことを欲す、知らず世間余と同感の士ありや否や、又世間これが驅除を攻究せるの人ありや否や、爰に卑見を陳じて敢て問ふ。

◎蚊族の害毒ょ就て

岐阜縣養老郡　川瀬小左衛門

◎昆蟲採集と佛教徒の迷信

愛知縣額田郡　山本秋三郎

ろれ宗敎は善因善果、惡因惡果の法則に依りて巧みに作爲せられたるものょして、古より惡因以て終止善果の例あることなきなり、然らば何をか善惡の標準となす、即ち人類の目的を達する方向に適順

するを善とし、否らざるを惡となす、何をか人類の目的と云ふ、曰く宇宙自然の眞理に基き公利公益を興すの謂ひなり、而して佛はもと是れ自利利他を說き勸む、即ち公利たり公益たるを得ば其事物の何たるを問はず、之を行ふて可なり、否、行はざる可からざるなり。

世に佛敎迷信者なるものあり、直ちに生物を殺害するを以て惡行となし、下等動物に屬する昆蟲をすら殺生を行へば未來地獄に墮落すべしと主張せり、嗚呼これ何たる愚濛ぞや、人類は萬物の靈長にして昆蟲は之に隷屬すべき卑下の一生物のみ、之を殺害する何かあらん、假し人類は同生物たる昆蟲を殺害し得べからずとするも、之が爲めに未來の酸苦を口にするが如きは抑ろも謬れり、想ふに昔時楠公は幾万の人命を奪へり、而して忠臣烈士の龜鑑として彼が如く萬人の崇敬をうけ、德川老公は數百回の戰陣に慘殺掠奪を擅にせり、而して撥亂反正の勳功によりて今なほ朝廷の殊遇を辱ふせるにあらずや、是れ蓋し國を蠹害するものを戕害して、公利公益を計りしに外ならざればなり。

凡そ殺生に二途あり、公利公益のための殺生は至理至善にして、之に反するものは非理大惡なり、看よ我國先に正義の爲めに淸國を討伐せしも宇內誰一人これを非理無道視せしもの無らずや、況んや昆蟲をや、又況んや農作を傷害し生產を破却せしむる所の害蟲を授業用に採集するに於てをや、然るを頑迷なる佛敎徒はこの理を曉らず漫に殺生不可說を唱へて一方には昆蟲學の發展を阻障し、更に一方に於ては農作害蟲の驅除豫防を等閑ならしむ、寧ろ憫むべきの極と云ふべし。

斯かる佛敎徒の如きは平年少なくも三千萬圓の蟲害を知悉せざるの罪科なるべきも、また害蟲驅除が佛敎の本旨に協へるを辨別せざるの過失のみ、思はざる可からず、故に苟しくも身僧たり尼たる者は此際厚く農民に訓諭し、害蟲は國家の害蟲たるを以て之を殺害するも罪なし、否却つて之を捕殺せざる可からず、益蟲は國家の益蟲たれば極めて懇ろに之を保護せざる可からず、その之を保護するは善を助け善を行ふものあるを以て始めて極樂往生を遂ぐべし、而して害蟲を殺害せざる者こそ惡に與みし惡因を蒔く者なれば未來永劫地獄より救はる可きにあらざるの理を敎へずして可ならんや、嗚呼斯

かる無識の衆生は古往今來常規を以て度すべからざるものと見ゆ、喝。

ひく山繭　賤の女が引く山まゆの絲とめて亂れそむとも知る人やなき。（師兼）

◎温知小學校昆蟲展覽會報告　岐阜縣揖斐郡温知尋常高等小學校

昨三月二十六日本校に於て昆蟲展覽會を開催せり、今その概況を報せんに、本校にては冬季に昆蟲採集の必要を認め豫て之が設備に鞅掌し、原、窪田、河村の三訓導を以て委員となし、九百餘名の生徒を四十團に編制してこれに屬せしめたり、而して各團には團長及び副團長壹名を置き數日間放課後に於て昆蟲の採集に從事せしめしに、三々五々隊伍を整のへ此處の田野、彼處の山林と皆思ひ〳〵に捜索探究を遂げし結果、數百種數萬頭の潛蟄昆蟲を採收せり、依てこれを粗ぼ分類的の簡便標本に製作し、豫て各團躰に配布せる縱八寸横五寸の小箱（貳個づゝ）に恰當裝置をなさしめ置き、開會當日には右の八十餘箱に本校備付の十餘箱の保存標本を加へて之を一教室に陳列し、正午より衆庶の縱覽を許したりしがその稀有の會なると天氣の晴明なりし爲め父兄の之を觀覽せんとて來校せるもの無慮千餘名に達したり、聽て名和昆蟲研究所長名和靖氏は參觀人に向ひ「昆蟲と農業の關係及び昆蟲研究の必要」てふ題下に滔々二時間に渉る有益にして流暢平易なる演説あり畢りて散會を告げたるは午後三時半なりしが、來賓は近傍の各學校長及び有力者等約三十餘名なりし、又標本展覽後名和氏は採集に從事せる四十團の生徒に對ひ、斯學研究に供用すべき物品をば奬勵賞品として贈與せられたり、當日生徒總代の朗讀せる謝辭は左の如し。

本日生等の採集せし昆蟲の展覽會に際し、名聲ある昆蟲專門家名和先生の御來臨を辱ふし、懇篤なる御批評と御講話とを承り、剰へ賞品として有益なる書籍并に圖解を賜はる、茲に謹で謝意を表す、

明治三十四年三月廿六日

揖斐郡溫知尋常高等小學校兒童總代　今西武夫

◎天龍川の食用蟲類

長野縣下伊那郡　伊原長三郎

當縣上、下伊那郡地方にて天龍川に棲める蟲類は、その種類少なからぞ、就中、その主なるものをカワムシ、シャチホコ、ホテイムシ、ヤゴメ等なりとす、此中ホテイムシを除けば何れも膳羞に供し得へし、今カワムシに就て左に概要を述べ他は調査の後更に報道する所ろあらんとす。

○カワムシ　當地方にて斯く命名せる昆蟲は二三月乃至六七月頃、天龍川の沿岸、石礫の下に常棲するものにて、其色は灰白を呈し、躰長凡そ四分乃至七分に達し、脚は恰かもゲヂ〳〵の如くにて數多く、尖端少しく曲がれり、夏季成蟲に化生するも其名稱は不詳なり、儕これを捕獲するには先づ下流に蹈網又は四手網を沈め置き、上流の石礫を暴かに動搖せしむる時は、相驚きて一時に多く網中に罹るを以て容易に捕獲することを得べし、特に降雨出水の際には最とも多獲するを恒とす。その調理法は醬油にて煮漬とすれば足れり、香ばしくして味また美なり、土俗は寒中に捕れるものを賞愛す。附て云ふ出水の際にはカジカ魚、ヨナ魚等とゝもに漁するを以て此等の魚類とまた共に煮喰するを普通とす。

◎昆蟲に關する葉書通信　（拾貳）

（五十五）名和昆蟲研究所に望む（三重縣桑名郡伊東富太郎）曩に貴所の助手名和梅吉氏は本邦產蟬類及び浮塵子、瓢蟲の種類を圖說し、又本年の初刊には蜻蛉類に就て圖說せられ後進を益する頗ぶる大なり、顧みるに動物學雜誌また全力を擧げて本邦產動物を圖解せんとす、此擧もし成功せば斯學界を益する幾何ぞや、特に一昨年來蝶類、天牛類を圖說したるが爲めに學名和名を同人間に知得せしめたるの功決して沒すべからざるものあり、凡ろ本邦の昆蟲その數少なきにあらず而して採集品目の多きは貴所に及ぶものあるなし、何ぞ其標本を寫生公布して貴所が天下に負荷せる大責任を盡さゞる、恐らくは今日の狀を以て言へば貴所は未だ其責任を完ふせりと謂ふ能はず、所藏の標本を示し之が學名俗稱を知らしめて後、始めて天職に殉せりとの光榮を享くべきなり、貴所の寬懷余が冀望を容るゝの

勇氣ありや、但これを爲すや固より經濟の點を考へざる可からず、余は假ひ雜誌の價ひを倍徵するも斯學研究者は甘んじて之を愛讀するなる可しと信ず。

（五十六）幻燈映畫に就て（岩手縣東磐井郡、小山幸右衛門）　智識程度の低き農家を導きて斯業改良の一斑を知らしむるには、農業幻燈會などは適切ならんと思ひ、農事講習會の際は勿論、農談會にも常に之を携帶せり、然るに昆蟲の映畫に至りては何れも調製不完全にして眞に逼れるものに至りては極めて僅少なるが故に、觀者に滿足を與へ難し、若しこれを調査材料に豐富に且標本の饒多なる貴所に於て調製せられなば、斯學のため多幸多福ならんと思料す、敢て告ぐ。

（五十七）浮塵子の越冬（三重縣飯南郡、鈴木龍郎）　余は浮塵子越冬の狀につき及ぶべき的、精密に調査せんものと思ひしも遂に其意を得ざりしが、去三月九日端なくも紫雲英蒔附田に採集を試みしに、豈に料らんや稜黑浮塵子の成蟲（雌）四頭と多くの仔蟲を捕獲せり、余は從來浮塵子は仔蟲の形態を以て越年すべしと信じたりしに、今回の收集により却つて大に疑惑を生ぜり、同感の士願くハ研究の結果を報道して余等後進の蒙を啓かれよ。

（五十八）有効なる殺蟲液（靜岡縣磐田郡、神村直三郎）　第三回全國害蟲驅除講習會の同窓友なる滋賀縣の榎綾次郎氏は、去冬を以て余に一小瓶を送附せられぬ、乃はち之を見れば驅殺液と稱する害蟲驅除用の液劑にして別に一葉の說明書をさへ添へらる、時たま〳〵本縣農會委託試驗の麥圃に蚜蟲の發生せるありて、當事者これが驅除に困しめる折からなれば、取敢へず同じ說明の示す如くに配合して試用せしに、苗の長け一寸五分もありてそが表裏兩面に密附せし蚜蟲すら、わづか三回の注射のために十中の八を滅くせり、後なほ櫻樹の同蟲にも之を試ろみしに十五分時にして悉ごとく驅殺せり、是れ後者は皮膚硬强なるにも似ず斯く好果を收めたるは洽ねく浣注せられたるが爲めにして、前者の全滅せられざりしは浸液一樣ならざるの結果なりと信ず、同劑は芳香を有し價ひまた低廉なり、唯その欠點として見るべきは原料の沈澱物やゝ粗大にして噴霧器口を壅塞するにあれども、是は容易に除去し得べし、記して同劑の世に出でたるを紹介す。

中々に戀に死なずばくはごにぞ成べかりける玉の緒ばかり。　（讀人不知）

くはご

●害蟲の全勝　昨年全國各地に於ける蟲害農作に對し特別の處分あらんことを被害府縣より國會に請願せしに就き、其不道理なることを再應注意せしは既に讀者の知る所ろならむ、然るに去月閉會當日の新聞記事に依れば、害蟲侵蝕の力や優りけん、遂に目的の如く帝國の收入を減殺するの法案即ち政府案とは反對に昨年に於ける蟲害地の地租を免除することに協定せりと云へり、如何に附則と云へる但書を以て保障となすとも一旦、斯く先例を作爲して顧みざる以上は將來容易に洗掃の期なかるべしと思料せらる、蓋し吾人の悲しむ所ろは彼れに在らずして全たく此れに存するなり、知らず經世濟民を以て自任する者の胸裡に能くこれを矯め且つ救ふの成竹ありや否や、聽かまほしき限りにころ。

○水害地租の協議會　水害地田畑地租免除に關する法律案兩院協議會は昨日午前十時より協議室に於て開會し、兩院協議員二十名出席の上抽籤を以て議長を選びしに、當日は貴族院方より議長を出す事となり、二條公議長席に着し災害地方の地租特免は水嘯に限らずして旱害、蟲害も亦同樣なれば、何卒衆議院の案に同意せられたしと述べ。永井嘉六郎、高岡忠郷氏等、各地災害の實況を述べて同意を求め、右に對して正親町實正氏は貴族院が單に水害を可決し、旱害、蟲害地の特免を否決せる次第を述べしが結局、双方より三名宛の委員を出して成案を作る事と爲り、委員を高岡忠郷、山口熊野、永井嘉六郎、正親町實正、中村元雄、西村亮吉の諸氏と指定し一旦休憩の後、委員相談會の結果は同十一時より再び開會の上報告せられたるが、要は政府案第一條水害の下に衆議院は蟲害、旱害、風害の六字を加へたる修正を爲し、同一免租となすの説なりしを、該修正の六字は削除し、其代りに附則に於て「明治三十三年度に生じたる蟲害、旱害、風害地には本則を準用すとの附加へを爲したる者にて、之に依り水害地免租は永久の法律となり、他の諸害は三十三年度限り同一の免租を受くる次第なり。斯くて協議會は之を可決し、同三十分散會したり。（以上時事新報）

○水害地方田畑地租特別免租に關する法律案兩院協議會　政府提出田畑地租特別免除に關する法律案は嚮に衆議院にて水害の次に、旱害、蟲害、風害の六字を挿入して貴族院へ送付したるに、貴族院にては更に政府案を復活して前記の六字を削除したる爲め、茲に兩院協議會を開くに至りたる由は既に屢々報道せし如くなるが、右の協議會は昨廿二日午前十時より開會し、抽籤の結果、衆議院の藤金作氏議長席に着き、先づ兩院協議員中より各三名の委員を擧げて成案を作らしむることなり、件の委員諸氏を別室に退きて種々合議の結果、相互讓歩の上、旱害、蟲害、風害は三十三年度に限り効力を有せしむる爲め之を附則に追加するの成案を作り、之を協議會に報告したるに滿場一致にて之を可決し、正午散會したる由。（以上、中外商業新報）

●大阪府下の蟲害　大阪府と云へばペストの產菌地とのみ速了する人多かるも、全たくは左にあらで農作蟲害に於ても中々下流には立たざるあり、去月廿二日臨時府會を招集し、害蟲驅除費約四萬圓(？)を提出したる席上に於て菊池府知事が提案說明の演說をなしたるに徵すれば、以てその損害の一斑を知るに足れり、但し此巨額を或ひは農學校卒業生利用策の爲めに又或ひは石油代と化成せしめずんば同府のため結構至極と申すべけれ、今同知事演說の一節を抄出せんに。

次に稻作害蟲驅除案について詳細の說明をなせり、其要は該蟲のため或年のごときは九拾五萬七千餘石を損失せり、是れ國家經濟上冷視すべからざる現象に屬す、府農會、郡農會、村農會の各團躰を督勵し、充分該蟲の驅除に勉むべきは勿論、新に一百人の府吏員を各郡村に派し注意勵行せしむる事とせんとす、而して農作のことを元來自治のことに屬するより成るべく其間に公權を使用せざることを欲するも、命を拒み延て一府下の經濟を紊亂せんとするの擧あるにおいては、已を得ず警察權を使用することに決定したり云々。

●國庫補助交附建議の否決　兼て稻垣示、石井鼎、早川龍介、堀尾茂助、恒松隆慶の五代議士より衆議院に建議せる、名和昆蟲研究所に交附すべき國庫補助金追加豫算の提出に關する建議案は當初部會に於て可決したる結果、議場に提出せられ初見八郎、大村和吉郎、大矢四郎兵衛、並河理二郎、江角千代次郎、石井鼎、河口善之助、森本確也、麻生太吉等の諸氏とが調査委員となり適否の調査を遂げられしが、去月廿二日の第廿二の日程に組込れ議場の問題として現はれし際、あはれ委員長大村和吉郎氏は可決報告をなせしを形見に見ん事否決とはなれりけり、その事の理非は回避して茲には言はず、只紀念にもと、三月廿四日の發行に係る官報號外より件の記事を抄錄し置かん。

二十二　名和昆蟲研究所ニ交附スベキ國庫補助金追加豫算ノ提出ニ關スル建議案
(稻垣示君外四名提出)　(委員長報告)
〔大村和吉郎君演壇ニ登ル〕

○大村和吉郎君(五十七番)　此名和昆蟲研究所ノ建議案ハ、委員會ハ大贊成デ通過シマシテゴザイマス、殊ニ之ハ十四議會ニ於キマシテ兩院ヲ通過致シタ事柄デ、總テノ農作物及植物等ノ蟲害ノ上ニ附キマシテ、最モ必要ナル事柄デゴザイマスカラ、ドウカ速ニ讀會ヲ略シマシテ、通過アランコトヲ希望致シマス、是ハ是非僅ノ事柄デゴザイマスカラ、是非通過ニナリマスルヤウニ希望致シマス(贊成又ハ反對ト呼ブ者アリ)

○議長(片岡健吉君)　贊否ノ採決ヲ致シマス、本案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者　少數

○議長(片岡健吉君)　少數ト認メマス

●昆蟲展覽會總裁　全國昆蟲展覽會總裁は是まで未定のところ花房義質男承諾せられたり、尙ほ同男につきては次號に詳報することある可し。

●審査長定まる　別項記載第壹回全國昆蟲展覽會の審査長として、農商務省農事試驗本場在勤の技師農學士小貫信太郎氏派遣に成るべき旨、去月廿九日附を以てその筋より通達をうけたり。

●第七回全國害蟲驅除講習會記事　前號所報の如く去月一日より開會の同會は同十四日に授業を終へたるを翌十五日午前十一時より修業式を擧行せり、來賓は縣參事會員諸氏、三吉岐阜高等女學校長、長野岐阜中學教諭、林岐阜縣技手、桑原縣農會理事その他數名にして、永澤小兵衛氏の挨拶及び報告、名和當所長の修業証書授與及び告諭、古井縣參事會員の祝辭、修業生總代櫻井熊治氏の答辭ありて正午その式を終へ茶菓の饗應ありき、斯くて午后三時よりは同會員一同の懇親會を濃陽館に催ふし講師四名を招待せしが、餘興には當所及び井上東京商業高等會議員（甚太郎）より寄附の福引及び會員新作の蟲歌、昆蟲劍舞等の披露ありて和樂の間に黃昏ごろ散會せり、開會中は東京音樂學校教授小山作之助氏の昆蟲と音樂に關する一場の演說ありしが氏は全國昆蟲展覽會のために作歌作曲を承諾せられぬ、又例に依り五分演說及び幻燈會の催ふしもあり茶話會もありて前會に比し一段の活氣を添へたるやに覺へたり、何にせよ同會は長期講習會の豫備として各擔任の教科を分ち、新たに加へたる學科もありしことなれば、之を從前に比すれば何れの點より見るも優れたる成績を呈したるは當然の事とは云へ、斯學のために悅ばしき現象と云ふべけれ、猶會員の原籍姓名及び履歷の大略を例により茲に揭ぐべき筈なれども紙面の都合に依り次號に讓る。

●本號の口繪　卷首に挿入せる寫眞銅版中その上なるは、來る十六日より開く全國昆蟲展覽會の入場劵賣渡口に充つべきものにして、岐阜縣農會理事坪井伊助翁より寄贈せられたり、其材料は同氏試作の竹にて包被せるものとぞ、又下なるは去月修業せる第七回全國害蟲驅除講習會員一同の照相にて當所の名和助手が紀念として撮影せしものに係る、その斯く茲に揭げたる事由は同會員に限り、修業期の遲れたるため展覽會に加はることも協はず、眞情の愍れむべき點もあれば、特に優待の意を示さんとてなり。

●第二回懸賞繪畫披露　去一月末日限り募集せる懸賞繪畫（畫題蝶と蛾）は八十七點（遲着又は違式のものを除く）に上りしが、其後精細の審査を遂げ、優等受賞者を左の如く査定せり、依て茲にその結果を報す。

○壹等賞　（アサギマダラ、蝶、著色毛筆畫）岐阜縣安八郡大垣興文高等小學校第四學年生日比半彌
○貳等賞　（モンシロテフ、蝶、水彩畫）廣島縣安藝郡船越村鼓浦高等小學生海谷一念　（クロアゲハ蝶著色毛筆畫）岐阜縣安八郡大垣興文高等小學校第三學年生澤庄九郎　（アゲハ、蝶、著色毛筆畫）愛知縣八名郡高等小學校第四年生加藤庄一
○參等賞　（アサギマダラ、蝶、著色毛筆畫）東京府第一中學乙三年級生市河三喜　（ルリタテハ、蝶、著色毛筆畫）和歌山縣有田郡御靈村川口爲吉　（イチモンジセセリ、蝶、鉛筆畫）廣島縣吳和庄町淡水學校高等科第四學年生小山彰　（アゲハ、蝶、著色毛筆畫）愛知縣八名郡高等小學校第三年生外山由二　（ヒメアカタテハ、蝶、著色毛筆畫）岐阜縣安八郡大垣興文高等小學校第三學年生上田仙太郎
（アケビノテフ、蛾、著色毛筆畫）岐阜縣安八郡御嵩村大藪高等小學校第四學年生大崎久次郎

●全國昆蟲展覽會彙報

同會長田中芳男翁には會務整理のため去月廿七日拂曉來岐の上即日歸途に就かれたるが重ねて本月三日にも臨場の上親しく裝飾そ の他につき指示せられぬ、この數日內には又々來會の上滯在して閉會式その他に鞅掌せらるゝ都合なり、出品はその區域頗ぶる廣濶にして二十餘府縣より點數また意外に多ければ、斯學研究者に取りては稀有の好機なるべしと信ぜらる、何れその詳細は後號紙上に登載をべし、又既に田中會長より同會顧問を委囑せられしは從三位勳四等（全國農事會長）前田正名、正五位勳五等（岐阜縣農會長）川路利恭、理學博士（大學敎授）箕作佳吉、同上（同上）石川千代松、農學博士（同上）玉利喜造、同上（農事試驗場長）澤野淳、同上（農商務農制課長）酒勾常明、子爵三島彌太郎、理學博士（大學敎授）飯島魁、同上（同上）渡瀨庄三郎、同上（同上）佐々木忠二郎、同上（高等師範敎授）丘淺次郎、農學士理學士（農事試驗場技師）堀正太郎、農學士（同上）小貫信太郎、同上（同上）堀健、同上（同上）小幡健吉、中川久知、小山作之助、米國理學士高階於菟治諸氏の外、在米國米國理學博士河內忠次郎、米國理學士桑名伊之吉、在獨國農學士松村松年の諸氏にて、事務委員長兼評議員としては笠井信一氏を推擧せり、次に評議員及び事務委員としては左記の諸氏にそれぞれ委囑書を發したるが、中に○印を附したる分は事務に關係せぬ人々なり

○從六位勳六等峯是三郎　正七位農學士末松達一郎　正八位柿元一兵　○野呂駿三　林茂　大畑市太郎　田中榮助
坪井伊助　名和靖　古井由之　駒田孫市　土川誠一　山田省三郎　桑原貫之助　安藤伊三二郎　長野菊次郎
農學士小川三策　稻垣知剛　村井正元　大野勇　渡邊治右衛門

●第廿八回岐阜昆蟲學會

同會月次會は本月六日（第一土曜日）午后二時より岐阜市京町名和昆蟲研究所內に開會せしに恰かも岐阜市大祭當日の事とて會者少なく約二十餘名に過ぎざりしが岐阜中學校敎諭長野菊次郎氏は飛蝗が就て曾て北海道に大發生をなせし事より、百年前歐米諸國に發生加

害の狀況を外國の昆蟲書によりて演繹し、當所助手名和梅吉氏はサンノゼー介殼虫の發生區域等に就て演說せり、終りて後、同窓會總會、大日本昆蟲學會及び昆蟲展覽會世話係選定等に關する協議を遂げ閉會せしは同五時なりき。

●水曜昆蟲會　同會第廿八回（三月十三日）より第卅回（四月三日）に至る三水曜會は例に依り當昆蟲研究所內に開かれ所員一同の談話ありき、談話中一二を記せんに棚橋昇氏は公園地の採集に就て、森總太郎氏は蚜蟲卵に就て、福井克雄氏はカツオムシに就て、名和梅吉氏は蟲癭に就て、其他或る昆蟲標本の批評等ありき。

●昆蟲標本の來觀者　三月九日以來當昆蟲研究所備付の昆蟲標本を來觀せられし左の諸氏なりき。

（三月九日）東京音樂學校教授小山作之助、岐阜縣師範學校教諭高井德三の兩氏（十一日）富山縣氷見郡書記富田矢氏（十三日）奈良縣生駒郡郡山高等小學校長圓田俊造、同校訓導藤村熊太兩氏（十六日）臺灣總督府臺北醫院醫員兼臺灣總督府醫學校講師青木大勇、臺灣總督府醫學校木下嘉七郎兩氏（十七日）石川縣金澤市石浦町木村次郎氏（十八日）愛媛縣溫泉郡視學下村純忠氏（十九日）愛知縣丹羽郡樂田村試査員河村儀重氏外六名（廿日）大阪府屬杉原宣雄、山口縣農事試驗場技手日比野吉彦二氏（廿一日）農商務農事試驗場技師堀健、愛知縣●八名郡書記森田德治郎、同縣渥美郡書記宮林桂治郎、同縣南設樂郡書記渥美眞壽雄四氏（廿二日）秋田縣農事試驗場技手渡部安三、京都府何鹿郡佐賀村片岡部一、愛知縣西春日井郡清洲町日下部富藏三氏（廿三日）愛知縣丹羽郡柏森高等小學校長水野浩氏外職員生徒百五名（廿四日）靜岡縣農事試驗場技手北神貢氏（廿五日）十勝國河西郡伏古村宮崎濁卑氏（廿七日）大阪大林區署營林技手石田重三郎氏（廿九日）滋賀縣神崎郡農事巡回教師中西已之助、石川縣石川郡農事巡回教師遠藤一二郎二氏（四月一日）茨木縣多賀郡農事巡回教師宮脇喜代造、大分縣卓佐郡近藤仁二氏（四月二日）愛知縣中島郡服部松之亟氏（四月七日）埼玉縣農會視察員二味道政、同上中村龜之助、神奈川縣中學教諭松野重太郎、山梨縣屬横谷秀藏、同縣農會幹事齋藤道太郎六氏外九十餘名。

●三月中の天候　當所に於て觀測せし所ろに依れば去三月は晴天勝にして、風は比較的多かりしも雨雪少なく、曇天また少なかりしが、外氣の最高最低溫度は以下揭ぐるが如くなりき。

●最低　三月　三日（前十時四〇、后二時四五、后十時三一度）平均華氏三十八度六六（此日雪、西風强）
●仝上　三月十三日（前十時四三、后二時四〇、后十時三三度）平均華氏三十八度六六（朝氷結、雪）
●最高　三月廿六日（前十時六〇、后二時七二、后十時四八度）平均華氏六十度（桃花梨花開く）
●仝上　三月廿八日（前十時六三、后二時六八、后十時六〇度）平均華氏六十三度六六（椿花開く）
●一ヶ月中の天候を區別すれば概むね晴天は二十日、雨雪は八日、曇天は三日とす。

（以上、四月七日脫稿）

◎昆蟲展覽會寄附金受領公告

當所主催となり本月より開設すべき第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金拾五圓也　岐阜縣　長屋五郎兵衛君
一金拾圓也　岐阜縣　揖斐郡昆蟲研究會
一金五圓也　大阪府　石井重任君　由井昌太郎君
一金貳圓也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　高橋磐三郎君
一金壹圓五拾錢　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　安田三郎右衛門君
一金壹圓也　第一回岐阜縣害蟲驅除修業生　松野春一君
一金壹圓也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　林金吾君
一金壹圓也　第六回全國害蟲驅除假修業生　宮城縣　和賀平市郎君
一金壹圓也　第一回岐阜縣害蟲驅除修業生　高木宇三郎君

明治三十四年四月

名和昆蟲研究所

動物學雜誌 第百四拾九號目次

▲人爲陶汰の一新例(渡瀨庄三郎)▲日本産ボ子リア(承前)(池田岩治)▲ツメナガセキレイ(小川三紀)▲動物の防衛法に就て(林壽祐)▲日本産貝類圖說(内山柳太郎)▲動物界に於ける防禦の方法(ナンシー大學キユエノー講)

◎雜錄▲姫路附近に産する蝶類幷に天牛科類▲日本動物を記載せる論文▲本邦産浮塵子(第一集)▲日本の海螢▲鹿の角と生殖器との關係▲メロゴニー▲ウニの化學的單爲生殖▲カルシユムなき海水中にて分裂球及び組織細胞の分離▲浮流動物雜記▲動物硏究法雜記▲新著紹介▲三崎實驗所日誌▲東京動物學會記事◎質問應答◎會報

發賣所 東京神田裏神保町 合資會社敬業社

發賣所 東京日本橋通三丁目 丸善書店

●驚くべき胃病の新藥●

一方散は我が祖先より傳ふる秘法にて如何なる難症と雖も、全治すること多年の實驗に依て保証す

◎定價 ◎七日分金貳拾錢 ◎十五日分四十錢 ◎二十二日分五十五錢 ●四十二日分壹圓

●送料十五日分二錢以下十五日分毎に二錢宛を增す

●取次ぎを望む人は御一報あれ特約す

胃病新藥 **健胃一方散**

本舖 岐阜縣安八郡大垣町字若森 **杉山常三郎**

名和昆蟲研究所御指定旅館

旅店開業

弊館義是まで割烹專業に御座候處今回御得意樣方の御勸めに預かり座敷增築の上來る四月一日より旅人宿をも營業致候間御投宿の程伏して願上候特に全國昆蟲展覽會へ御用の方に限り諸事至極便利に御取扱可申上候に付毎度御集會の御用命を被ふりたる御舊緣を以て蟲料理御風味旁々陸續御光臨被成下度奉願候

弊館の庭園、座席、器什より待遇向の義は今更申上くるまでも無之候に付御投宿の上御高評を賜はり度候

岐阜停車場より北へ貳丁

料理店 旅人宿 **濃陽館**

蟲屋旅店廣告

昆蟲學研究のため御來宿の方に限り萬事特別に御取扱可申上候間倍舊の御引立奉願上候

名和昆蟲研究所御指定宿

岐阜市西野町西御坊門前 **むし屋**

店主 武藤治郎吉

○害蟲圖解出版廣告

- ●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（三版）
- ●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（再版）
- ●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ（二化生螟蟲）
- ●第四煙草害蟲タバコノアオムシ（煙草螟蛉）
- ●第五桑の害蟲イチモジセヽリ（苞蟲）
- ●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姫象鼻蟲）
- ●第七桑樹害蟲シンムシ（心蟲）
- ●第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ（螟蛉）
- ●第九茶の害蟲ミノムシ（避債蟲）
- ●第十蔬菜害蟲エンドノヤリムシ（夜盜蟲）
- ●第十一桑樹害蟲クワカミキリ（天牛）
- ●第十二稻の害蟲ツマグロヨコバイ（浮塵子）
- ●第十三桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
- ○茶の害蟲チヤケムシ（茶毛蟲）
- ○桑樹害蟲キンケムシ（金毛蟲）
- ○稻の害蟲イナゴ（蝗蟲）
- ○稻の害蟲フタホシズイムシ（三化生螟蟲）
- ○桑樹害蟲アオハマキムシ（青葉卷蟲）
- ○桑樹害蟲クワハマキ（桑葉卷蟲）
- ○蔬菜害蟲モンシロテフ（紋白の蝶蛉）
- ○松樹害蟲マツケムシ（松毛蟲）
- ○梅樹害蟲ウメケムシ（梅毛蟲）
- ○梨の害蟲ナシゾウムシ（梨象鼻蟲）
- ○人豆害蟲ヒメコガ子（金龜子）

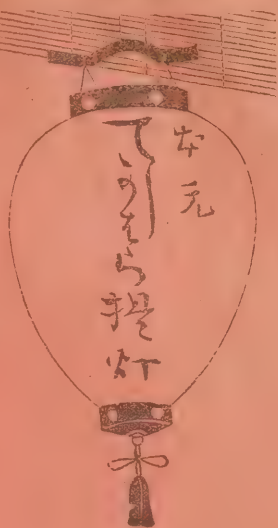
●印は既版の分　○印は逐次出版の分

○豫約代價

- ●圖解の紙幅　縦一尺三寸横九寸
- ●壹枚の代價　拾五錢郵税貳錢　壹枚拾錢郵税百枚に付き貳拾錢
- ●百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵税貳錢
　　但申込の際前金添附の事
圖解代金　凡て前金にあらざれば回送せず但郵券代用一割増の事

右害蟲圖解第一より第十三迄は既に發行を成し江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易く尤も必需のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の效を奏したりと云ふ依而當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

元祖勅使河原提燈販賣廣告

名産　岐阜提燈
名産　岐阜團扇

其他紙製品

右は今回全國昆蟲展覽會開催に際し協賛出品として弊社特技の紙製品各種に昆蟲類を描きたるものゝみを選み出陳致候に付斯學に御熱心の諸彦は參考品として御購求被成下度殊に其圖案意匠の豐富優麗なるは平素弊社の長處とする所なれば多少に拘はらず御用命被仰付度奉願候也

岐阜市米屋町
本元　**勅使河原合資會社**

大西捕蟲器發賣廣告

（專賣特許）

捕蟲器

◉本器は苗代、本田兼用の捕蟲器にして改良短冊苗代には尤とも適當なり

◉本器は苗代に入らず、唯だ畦上にありて最も輕便に使用し得らるゝなり

◉本器は諸害蟲を漏なく捕獲し得るは勿論浮塵子の如きは全滅し得るなり

◉本器は各府縣農業實驗家の好評を得尤とも實効あることを証明せられたり

◉本器は一人一日に苗代では貳町五反歩、本田なれば貳町歩捕蟲し得らる

製造元
發明者　兵庫縣多紀郡今田村字市原　**大西忠太郎**

附言　本器の特約販賣及び製造販賣を望まるゝ方は至急申込あれ創業祝として岐阜市に開く全國昆蟲展覽會開會中に卒先注文の分に限り(但一町村壹名)原價の壹割引の事

秤御買上ノ諸君ヘ御注意ノ為メ急告

一秤ハ何種ニ拘ハラズ㊥ノ商標幷ニ守隨製ノ打込印ヲ御認メノ上御買入相成候事必要ニ候
一㊥ノ商標幷ニ守隨製ノ打込印ナキ者ハ拙店ノ製品ニ無之候
一拙店ノ製品ニアラザルモノハ多ク原料粗惡ニシテ耐久ノ見込無之候
一耐久ノ見込ナキハ今回ノ定期檢定成績ニ於テ既ニ御了解相成候ト存候
一耐久ノ見込ナキノミナラズ損所修覆ノ時原料ノ取替又ハ各異形ノ為メ非常ノ手數ヲ要シ候
一非常ノ手數ヲ要シ候故ニ修覆料モ亦隨テ高價ニ相成候
一修覆料ノ高價ニ止マラズ無據御斷リ申上候品モ澤山有之候
一拙店ハ三百年來斯業ニ從事シ陸軍省所有ノ大砲掛秤鐵道局使用ノ車輛掛秤臺灣總督府ノ標本秤等ヲ製造セシノミニテモ技術ノ巧妙ニシテ堅牢ナル製品ヲ出ス亊明白ニ候
一拙店ハ全國ニ於テ三支店四分店四十出張所七百八代理店ヲ有シ修覆又ハ取次ヲナサシムルヲ以テ損所修覆ノ際ハ獨特ノ便利有之候
一定期檢定ヲ受ケザル秤又ハボンド目カン〳〵等ヲ御使用相成候方往々見受ケ候得共右ハ法律上嚴罰有之候間速ニ御棄却可被成候

右ハ將來秤御買入ノ諸君ニ對シ豫ジメ御注意申上候也

漆器營業種目

美術漆器、一閑張、張拔、螺鈿入漆器、朱塗物、重箱、本膳椀、椀盛、菓子椀、吸物椀、折敷膳、會席膳、吸物膳、菓子器、杯洗、盃類、盆類、鏡臺、針差、枕類、鏡類、額緣、塗板額、貿易漆器、紀念木杯、卷煙草箱、料紙文庫、硯箱、香合、棗類、香盆、小箱、塗煙草盆、行燈、衣桁、切手盆、机類、箸箱類、下駄箱、紅葉箱、簞笥、長持、用簞笥、櫛簞笥、膳簞笥等ハ御注文ニ依リ十分入念調製可仕候

御嫁入道具、家具類、玩弄物ヲ始メ其他漆器類一切營業可仕候

特ニ蒔繪ハ自宅ノ工場內ニ技師雇入レ有之ニ付美術蒔繪ハ無論其他意匠圖案ノ求メニ應ズ

◎購讀者諸君へ公告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候處往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

明治三十四年二月　岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所

昆蟲世界會計部

昆蟲學用器具廣告

●殺蟲注射器　定價金廿二錢荷造八錢 送費百里迄八錢外十六錢

●益蟲保護器　定價金八十錢荷造十五錢 送費百里迄廿錢外四十錢

●米國新形擴蟲鏡　定價郵税共金一圓十五錢

●採集箱　定價金七十五錢送費百里迄十二錢外二十四錢

●翅伸板（拾枚壹組）　定價金一圓二十錢送費百里迄十二錢外廿四錢

●那布答林（ナフタリン）（壹磅）　定價三十錢送費百里迄八錢外十六錢

●昆蟲標本保存箱　定價金五十五錢荷造十五錢送費金廿錢但百里以外四十錢

●ピンセット（尖曲）　壹箇金二十錢郵税二錢

取次所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎昆蟲學用書籍寫眞廣告

名和昆蟲研究所長名和靖著

五版　薔薇の一株　**昆蟲世界**　全　定價貳拾錢 郵税貳錢 郵券代用一割増

●日本農作物害蟲篇　理學博士佐々木忠次郎先生著　郵税共定價金貳圓

●增訂四版 日本昆蟲學　農學士松村松年君著　定價金壹圓七拾錢 郵税金拾貳錢

●增訂三版 日本害蟲篇上下二冊　同君著　定價金參圓參拾錢 郵税金貳拾錢

●害蟲驅除全書　同君著　定價郵税共金九拾五錢

●昆蟲標本製作法　鳥羽源藏氏著　定價金貳拾五錢郵税四錢

●日本有益蟲一覽　農學士松村松年君著　定價郵税共金貳拾錢

●害蟲標本寫眞帖（三十三枚張）　コロンボス世界博覽會出品　定價金貳圓送費百里迄拾貳錢外貳拾四錢

●中等教育用昆蟲標本寫眞帖（十六枚張）　皇太子殿下獻上　定價金九十六錢送費百里八錢外十六錢

取次所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

（毎月一回十五日發行）

昆蟲世界

（明治三十四年四月十五日發行）

第五卷第四十四號

◎昆蟲世界紙面改良廣告

昆蟲世界の義は非常の決斷を以て本年一月分より改良を施し之を昨年に比すれば其紙數に於て凡そ七頁を增したると同樣の體裁に更め且つ繪畫を增し記事を精選し多數の寄書を收容し專ら愛讀諸君の厚意に副はんことに努めたりと雖ども猶ほ紙面の狹隘を感ずるものあるを以て來五月發行の第四十五號よりは壹行を四十六字詰となし全册の上に於て更にまた一頁分の字數を增加することに內定せり讀者幸ひに今後の愛讀を賜へ

明治三十四年四月　昆蟲世界編輯部

◎岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば續々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上

但該會へは縣の內外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

明治三十四年四月

名和昆蟲研究所內　岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會本年中の日龍は左の如し

第二十九回月次會（五月四日）　第三十三回月次會（九月七日）
第三十回月次會（六月一日）　第三十四回月次會（十月五日）
第三十一回月次會（七月六日）　第三十五回月次會（十一月二日）
第三十二回月次會（八月三日）　第三十六回月次會（十二月七日）

市街界　…
案內道　‖
町道　｜
研究所　イ
縣廳　ロ
病院　ハ
中學校　ニ
監獄　ホ
郵便局　ヘ
西別院　ト
公園　チ
長良川　リ
金華山　ヌ
停車場　ル

◎名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所よは常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

壹年分拾貳部郵稅共金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず◎郵券代用は五厘切手にて壹割增とす◎爲替拂渡局は岐阜郵便電信局

廣告料五號活字廿二字詰一行に付金拾貳錢、三十行以上一行に付き金拾錢とす

明治三十四年四月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二　發行者　名和梅吉
同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶　編輯者　桑原貫之助
同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶　印刷者　河田貞城

（明治三十年九月十日內務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

（大垣西濃印刷株式會社印刷）

Vol.V. JUNE 4TH, 1901. No.5

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.

GIFU, JAPAN.

(六月四日發行)

(毎月一回十五日發行)

昆蟲世界

(第五卷第五册) 第四拾五號

目次 (禁轉載)

(明治三十四年六月四日發行)

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎昆蟲展覽會寄附金受領公告

本所主催と爲り開設せし第一回全國昆蟲展覽會へ寄附金額並に芳名左の如し

一金五圓也　第一回全國害蟲驅除修業生　福井縣　松原朔朗君
一金五圓也　岐阜縣農學校　鈴木茂市君
一金五圓也　岐阜縣　山縣郡昆蟲研究會
一金貳圓也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　天野秋二君
一金四圓也　第三回全國害蟲驅除修業生　岐阜縣　福塲隆次郎君　塩田健藏君　孝森長之助君　杉原秋之助君　伊田柳松君
一金貳圓也　第一回全國害蟲驅除修業生　岐阜縣　岡崎重市君
一金壹圓也　岐阜縣　後藤村治郎君
一金壹圓也　第　回全國害蟲驅除修業生　兵庫縣　西田兵太郎君
一金壹圓也　岡山縣　篠岡春太君
一金壹圓也　第一回全國害蟲驅除修業生　京都府　岩見勇藏君
一金壹圓也　第　回全國害蟲驅除修業生　三重縣　鈴木龍郎君
一金壹圓也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　古田宮之助君
一金壹圓也　第一回全國害蟲驅除修業生　兵庫縣　三枝角太郎君
一金壹圓也　第　回岐阜縣害蟲驅除修業生　小林儀三郎君
一金壹圓也　宮城縣　細川松三郎君
一金壹圓也　千葉縣　大竹義道君
一金壹圓也　第三回全國害蟲驅除修業生　鳥取縣　蓮佛万吉君
一金壹圓也　第　回全國害蟲驅除修業生　新潟縣　茅原治六君

岐阜縣

一金壹圓也　第一回岐阜縣害蟲驅除修業生　津田顯孝君
一金壹圓也　小野錬次君
一金壹圓也　仝上　棚橋善二君
一金壹圓也　第二回岐阜縣害蟲驅除修業生　森島勘次郎君
一金壹圓也　仝上　木村儀三郎君
一金壹圓也　第三回岐阜縣害蟲驅除修業生　木方友九郎君
一金壹圓也　仝上　後藤宇三郎君

第八回全國害蟲驅除

講習會員募集

開期（自七月十五日 至同月廿八日）貳週間　定員四十名

夏期に於ける害蟲驅除講習の利益と興味とは今これを説明するを須たず、希望者は六月三十日以前に成規の手續を經て申込あれ、但し期限前と雖も定員外に達したる時は入會を謝絶すること前回に同じ。

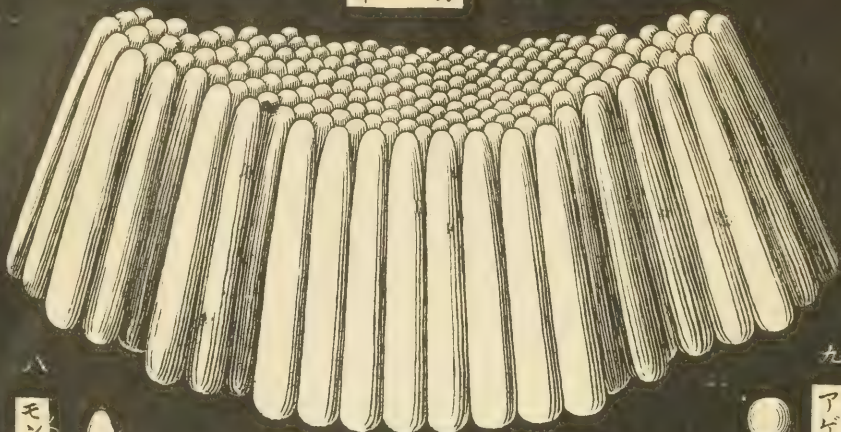
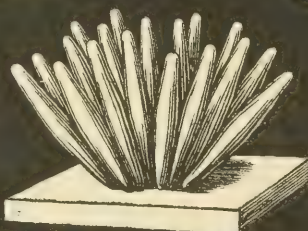
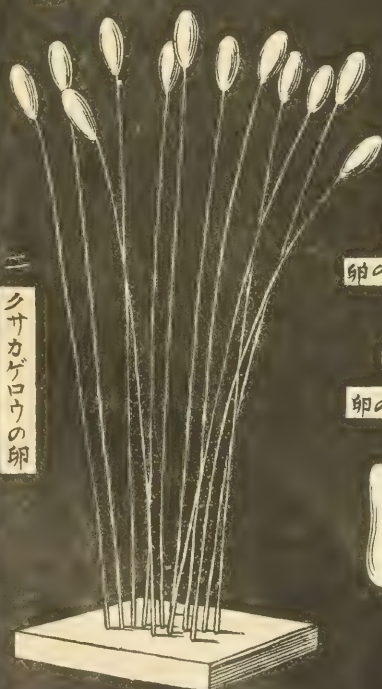
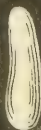
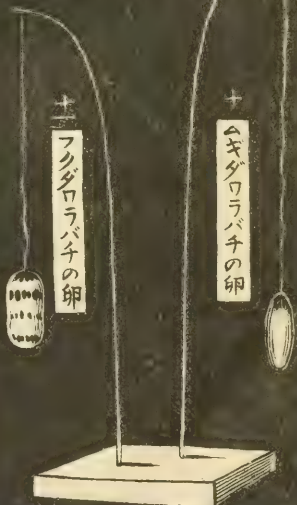
規則書入用の向は郵劵封入の上至急照會あれ、直ちに回送すへし。

明治卅四年六月

岐阜市京町

名和昆蟲研究所

(白墨細工)

昆蟲の卵及び繭摸型の實寫

同窓會員諸君に敬告す

日本帝國褒章之記

岐阜縣美濃國本巣郡船木村
名和靖

資性堅忍夙ニ農學ヲ修メ尋テ動物學ヲ練修シ專ラ力ヲ昆蟲學ニ竭シ害蟲驅除益蟲保護ノ法ヲ究メ之ヲ農業及ビ教育上ニ應用普及スルヲ以テ己レカ任ト爲シ常ニ山野ヲ跋渉シ艱苦備嘗蟲類ヲ採集スルコト一百三十餘萬頭標本ニ製作セシモノ凡ソ八十餘萬頭之ヲ内外國博覽會ニ出陳シ若クハ諸學校各種ノ團躰ニ寄附シ或ハ各地ニ巡歴シテ農會其他ノ諸會ニ於テ講演スルコト六百有餘回數々講習會ヲ開キテ多ク生徒ヲ教養シ私立昆蟲研究所ヲ岐阜市ニ創メテ汎ク衆庶ヲ啓誘シ月刊雜誌及害蟲ノ圖ヲ發刊シ殺蟲器捕蟲器益蟲保護器ヲ按出シ若クハ害蟲標本保存筐ヲ改良スル等開示開導甚タ努メ稗益ヲ農家及教育家ニ與フルコト鮮少ナラズ洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナリトス依テ明治十四年十二月七日
勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

明治三十四年五月十四日

奉勅 ㊞

賞勳局總裁正三位勳一等子爵大給恒 ㊞

此證ヲ勘査シ第四百二十一號ヲ以テ褒章簿冊ニ登記ス

賞勳局書記官從四位勳三等横田香苗 ㊞
賞勳局書記官正六位勳六等藤井善言 ㊞

右の如く今回授賞の恩命に接し候に付此段同窓會員諸君に報道致候也

同窓會幹事

實地應用昆蟲叢書　豫約出版

⊙出版期限　第壹編は本年七月上旬を以て發行し、第貳編以下毎月よ開版の豫定とす

⊙挿入圖畫　毎編數多の精緻なる木版及び鮮麗なる石版、寫眞銅版を挿入添附すべし

⊙紙數用字　紙數は凡貳千頁左右とし、活字は四號五號を併用し往々傍訓を附すべし

⊙紙質製本　印刷用紙は最上等の光澤舶來紙を選擇し、且つ最とも裝釘に注意すべし

⊙豫約方法　豫約希望者は豫約前金を添へ、名和昆蟲研究所編輯部に宛申込まるべし

◎第壹編……第壹回全國昆蟲展覽會（歐米諸國にも未だ其類例なき昆蟲展覽會に出品せる昆蟲の名稱、學名、産地を細説し添ふるに同會記事及十餘の石版木版を以てす）

◎第貳編……昆蟲標本製作全書（昆蟲標本の製作指南書四五種あるも共に遺憾の點少なからず、本書は精確の筆を以て此等の缺點を補足し且つ歐米新式の法をも説明せり）

◎第三編……昆蟲學大意（我邦に昆蟲學書の少なきはその發達普及を期し難き所以なり、本書は斯學研究者の侶伴たり又楷梯たる程度に於て能く斯學の奥秘を漏らせり）

◎第四編……農作害蟲圖說（稻、桑、茶の如き我國力の消長に關係ある作物の害蟲を主要として、其他一般農作害蟲をも圖説し、驅除の方針、術策を詳解せる實用書なり）

◎第五編……園藝害蟲圖說（果樹、庭園より、溫床を害損する蟲類幾十種の性質、經過及び驅除豫防方法に說及ぼし、一々繪畫を以て平易に說明せる好著述とす）

◎第六編……森林害蟲圖說（我國の如き森林に富める邦土に在りては造林學上先づ害蟲に注意するを要す、此書はこの必要に充てんが爲に編述し尚添ふるに室內及家畜害蟲の記事を以てす）

◎第七編……有益蟲類圖說（害蟲驅除は末にして益蟲保護は本なり、而して我國未だ益蟲に關せる良著なし、抑そも斯學界の一大缺點といふべし、讀者拭目以て本書の開版せらるゝを俟て）

◎第八編……有効蟲類圖說（世間益蟲を說く者あれども、工業に藥用に應用せらるゝ所の有効蟲を口にする者は少なし、害を轉じて福を求めんと欲せば先づ此書を繙とかれよ）

◎第九編……昆蟲分類法大意（時代の新舊、邦國の東西、學派の異同によりて分類法を異にし大に初學者を困しましむ、本研究所屹然その中に居て斯學研究に資すべき材料を供給せんとす）

◎第拾編……昆蟲生理學大意（昆蟲學を學ばんと欲せば生理を知らざる可からず、本書は一般生理より發生解剖及び植物との關係を簡潔に叙述して遺憾なからしむ）

◎第拾壹編……日本蟲害史要（何故に昆蟲學を重視するやと問はゞ、言はずして蟲害を畏るゝが爲のみ、蟲害を知らんと欲せば先づその歷史を知れ、本書また附するに文學と昆蟲との關係を以てす）

◎第拾貳編……日本昆蟲目錄（我國に栖息する昆蟲目錄の出版せられざるは寧ろ我國の恥辱なり、然れ共之を調査するの困難は未だ此に至らしめざりき、本書の有益にして價値ある以て知るべき也）

⊙申込期限　本年六月二十日限り豫約申込に應ず、期限の後は一切謝絶するものとす

⊙代價郵稅　豫約代價は壹部（拾貳篇）金六圓とし別に郵稅を受く、正價は金九圓とす

⊙送本手續　送本は申込の次第よ依る、豫約出版完成の后よ非られば壹冊賣をなさず

⊙特別取扱　諸官廳、諸學校、縣郡農會の証ある申込には前金を添へざるも妨げなし

⊙代金分送　當所に開設せる講習會修業生よ限り豫約代金を兩期に分送することを得

實地應用昆蟲叢書豫約申込所　名和昆蟲研究所編輯部

論説

◎過去に於ける日本の蟲害（其三）

往時、本邦に於て蟲害を被むれる農作の狀況及び其損害範圍等に至りては、記事茫漠として之れを詳知するに便なきも、正史の示す所ろを以て之れを言へば、凡そ千二百年前に起れる海内十七國の大蝗害を以てそが權輿となすべきか、左は云へ、是より先、數々飢荒違例の踵至せるあり、又古語拾遺所載の末文に就てこれを稽ふるも、上古蒙昧の世、早く既に農作害蟲の發生を見、之れが救濟法として不完全なる驅除方を案出せしは蓋し推測するに難からず。

其他、記紀の傳記に依れば、神人雜居の時、鳥獸昆蟲の災異を攘はんが爲に、その禁厭の法を定めたりと云ふが如き、中古以還、朝廷に於て重視せらるゝ大殿祭并ひに六月晦大祓の祝詞に、波府蟲能禍無云々。昆蟲乃災云々の語ありて、然かも之れを諸種の大惡重罪の次に擧げたるが如きは、多少古人が害蟲を畏怖せるの資料たらずんばあらず、去れば後世、神道者流の著述に、水分致雨救旱魃。大雷示威殺蚜蚄。といひしも毫も怪しむに足らざる可く。祭神の古式に白豬、白馬、白雞を供献するは、上古驅蟲方の遺影として之れを見るを得べし。

それ植物饒多、田圃稀疎の上古にありて尙ほ蟲類に農作を害なはるゝこと此くの如く、降つて中世に至

れば益々加害の度を增し、爲めに上は聖主の叡慮を惱まし、下は神佛の加護に訴へる等、既往に於ける國民は每に經營慘憺たりき、而して今日に至るも比較上、驅除豫防法の進歩せざる所以のものは何ぞや蓋し被害力の未だその絕巓に到らざるに因るか、或ひはまた農民の愚昧にして知覺力の未だ足らざるに因るか、恐らくは二者ともに非ざらん、然らば則はち何によりて此くの如きか、曰く、唯それ學理を應用せざるの過失のみ、豈に他あらんや。

試みに想へ、學理により蟲類の性質を審かにし、其の經過を知り、其の天仇を求め、其の長處を避けて其の短處を衝き、其の好惡を探りて其の喰蝕を免がれしめば、假ひ之れが殲滅を期し難きも、その蕃殖を殺滅するや必せり、而るに農家の無邪意なる、依然なほ神代の遺法を墨守して祈祝をこれ事とし、或ひは漢土傳來の說に拘泥して炎火をこれ弄し、禁厭燃火にあらずんばまた他に驅防の方策無しと信じ居常害蟲に對する術を講ぜず、又驅除の利得あるを思はず、その發生蔓延に放任して以て恰かも一種避くべからざる他の災異と同視せるが如し、人或ひは學理を應用せる長方形苗代田上に翩々神符の飜かへるを見て、その無用を嗤ひ、之れを結髮洋裝の頑翁に譬ふるも、箇は是れ數千年來農民の腦底に深刻せられたる襲代の弊習にして、古史に所謂、爲攘鳥獸昆蟲之災。定禁厭之法。百姓至今。咸蒙恩賴。皆有效驗也。より來れるもの、乃はち其の根づく所ろ深く且つ遠矣、豈に五七年の啓示開誘の功を以て盡ごとく之を改めしむることを得んや、況して他方に於ては佛道に歸依する者の。農作害蟲驅除を以て殺生罪と誤信するあるをや。

之れを要するに、本邦の農作は古來害蟲により收納を減退せられしに關はらず、今になほ豫防驅除を緩慢に附し去るの形跡あるは近ごろ各府縣に於て、漸やく强制的驅除法を施行するの事實に照らし歷々爭

ふべからざるものあり、若しそれ永く今日の姑息に安んじ、敢て釐革する所ろなくんば、小蟲の加害遂に大運に關し、一縷才かに斷ちて全局を紊し、その生產力を殺ぎ、其民心を離散するの極、之れが統治收攬に不利を感ずるに至らんことを恐る蟲害と國家の間に果して斯くの如きものありとせば、職に牧宰に在る者、社會學を攻究する者は豫じめ爰に思ふ所ろなかる可らず。

本邦の歷史を繙讀すれば、過去時代は殆んど闇黑裡に彷徨せる結果として、國民は幾度か飢餓の悲境に陷いり、國力は之れが爲めに著るしく缺損せられ、產業は屢次進行を阻害せられにき、而して開明國民を以て自任する現時に於ても、大半は依然舊態に安んじ、進んで一矢を已が祖先の仇敵に報いんとするの念慮に乏しく、又百年以前の考案に係る油脂類驅除法を以て無上の良法となすに至りては、文明國民たるの實躰を具備せりと謂ふを得べきか特に農政家及び大農なる者に對つては、蟲害と飢荒、飢荒と人心の關係を知悉し、專心力を小民の啓導慰撫に致さんことを望む、熊澤蕃山曰く、士有常祿。故雖凶年得免飢寒。民則不然。一遇凶荒。貧者賣牛馬。賣山林。賣田圃。賣妻子。卒之乞食道路。不免餓死。慘亦甚矣。幸遇豐穰。衣食粗足。有沽酒相慶者。一村僅一二人。自一國而言之。沽酒城下者。亦不爲少。士見之以爲。彼儲蓄有餘。故能爲此。殊不知。彼亦人耳。寧得不一夕暢飲以酬終歲之勞耶。故士見其沽酒。宜以爲喜。而今則不然。使其熟慮。豈能無愧心哉。と能く民を知れりと謂ふべし。

終りに、吾人が數回號を重ねて過去の蟲害を叙述する所以のものは、恒に信ぜる所ろを遂行せんが爲めに止まらず、鑒戒を今人に示して災異を未然に防止せんとの微衷に出づ、蓋し經濟的に昆蟲學を攻究し之れが應用普及を圖るの眞意も亦實に玆に存せり、讀者幸ひに吾人の素懷を察し、その希望を納れ、後の吾人たる者をして復た吾人の苦言を再演せしむること勿れ。

（完）

本篇には中古以來の蟲害史を編次表示し、吾人の宿論たる蟲害と飢荒の關係を詳述せん腹案なりしも、遠からず開板すべき日本蟲害史要に之を收錄すべければ本篇には、之れを省きぬ。

◎昆蟲の名稱に就て

在獨乙伯林　農學士　松林松年

學名は昆蟲界、否な生物界に於ける扇要にしてその之れ無きものは、毫も學術界に價値を有せざるものなりとは、余既に本誌第三十二號に於て一言せり、然らば和名は如何にすべき、彼の羅典人種と云ひ羅馬人種と云ひ、其等しく二十六字のアルハベートを用ゐるの國にありては、俗名を用ゐるの必要は更に之れなかるべきも、本邦の如き根本的にその文字を異にせるの國に在りては蓋し之が必要を見るなり、然らば何によりて之を定めんと欲するか、今や和名一定の輿論あり爰に卑見を吐露して斯學者の參考に供するも敢て徒事にあらざる可き歟。

夫れ學名の命名法には一定の規則あり、然らば則はち和名の命名法また一定の規則なかる可らず、然るに近時濫雜の名稱を附して昆蟲を記載せんと欲するもの多し、學名には既に『プリオリテート』ありて之を動かすべからず、和名また豈に『プリオリテート』なしと云はんや、但それ學名にして不適當若くは誤謬に出でんか、假令その名稱は能く『プリオリテート』的なるも能く之を變更することを得、例へば新領土臺灣に於て嘗て横暴を逞ふせる飛蝗の名稱は從來 Pachytylus nigrofasciatus, Latr. とせられたるも實は錯誤に出で P. migratoroides, Reich なりき、そも此 migratoroides なる名稱は希臘語にして羅典語にあらず、羅典語ならざれば得て命名の法則に合へりと云ふ能はざるが故に、余は之を migratoriformis と改記して發表せんと欲せり、況んや和名の不適當なる若くは不穩當なるものなりせば、全く之を採用せざ

るも亦可なるに於てをや。

凡そ既知の昆蟲名を用ゐざ自家指定の名稱を下す以上は必らずや之に説明なかる可からず、況んや學名なき新和名たるに於ては、更にその昆蟲の地位を定め、その種固有の特性を擧げさる可からず、蓋し一屬にはその屬を通じたる特性なるものありて自づから他と判別すべき特異の諸點を有するが爲めなり、彼の滋賀縣農事試驗場浮塵子報告(第一)に揭げたるヒゲマルヨコバイは觸角第二節の膨大せるを以て命名せられたるやに覺ゆ、是れ Delphax 屬に通じたるの特性にして決して其種の特性にあらざ、然るに其屬名をも定めず漫然之れに和名を下さんと欲するに至りては、余はその甚はだ困難にして寧ろ有害なるを認むるものなり。

思ふに本邦に於て學名を有する昆蟲は如何、その判然せるものは凡そ幾何ぞや、既に學名の判然せるものなりせば之に和名を附する敢て難きにあらざるも、其地位の不明なるものに強て和名を附せんと欲せば、其極遂に今日の如く命名式に亂雜を與へ、杜撰を加へ、科と科とを違ひ、目と目とを混じ、初學者をして殆んど津涯の何れにあるやを迷はしめ、延て斯學の進歩を阻害する少なきにあらざる可し、故に余は曩に日本昆蟲學を編纂するや、先づ勉めて學名を訂し、而して後に和名を探れり、その之を探るに當りてや本邦には昆蟲に關する參考書甚はだ少なく、彼の有名なる栗本氏の千蟲譜の如き、蘭翁の万蟲圖の如きものすら、其圖畵曖昧にして科若くは屬の名稱を探り得たるに過ぎざ、勿論紺蟄(テフトンボ)の如き、又サイカチムシの如き顯著にして一屬一種の外之なきものなりせば、一瞥之を識別し得べしと雖ども、苟くも一屬數種に亘るものに至りては到底斯かる不完全の著書によりて比較し得べくもあらざるなり。

更に之を詳言せば、蜉蝣とは如何なる昆蟲を指せりや、Ephemeridae に屬するものなることは確實なるも、果して Ephemera 屬を云ふか、將また Dipterominum 屬を云ふか、等しく三本の尾毛あり、果して前者に屬するものなりせばEphemera orientalis ML なるか、E.orientalis ML なるか、或ひはまた E.strigata Eaton なるか、疑ひは遂に此間より避くべからず。

それ學名なきの和名は斯くも曖昧を極む、この曖昧にして殆んど分別し能はざる和名を根基として完全なる一書を著さんと欲す豈に望むべくして得べけんや、此故に嘗て余の和名を定めんとするや、余が最とも敬畏せる盟友名和靖氏を叩き、質すに既知の和名を以てし、その之なきものには新稱を命名せり、中に就き和名あるも不穩當と思料せるものをば之を省き、命名に困しめるものには往々羅典語の變語を附したるもあり、或ひはまた學名の意譯もありき彼のDaimio tethysをダイメウセセリとなせしが如き、又 Callidium albicinctum をシロスヂカミキリと稱せしが如きはその一例に屬せり。

今を以て之を言へば、余が往年の擧動は甚はだ大膽にして慄然膚上に粟の生ずるを覺ゆるものあり、然れども事また已むを得ざるに出で、加ふるに恩師箕作博士の、その命名を勸むるに逢ひ遂に辛うじて其業を終へたり、既に斯かる内情の存するあり、拙著日本昆蟲學に不穩當の和名少なからざるや固より期する所ろなりと雖ども、一たび之を世に公けにせり之を更ふれば初學者の疑惑少なからざるべしと信じ暫らく變更するを欲せざるなり、但し學術の進歩に伴ひ學名の變更は到底免るゝことを得ざるべし、こは同名異物若くは異名同物を存するのみならず、數多の學名中には或ひは多少の誤謬なきを保せざればなり。

(未完)

◎昆蟲と植物との關係（續）

岐阜中學校敎諭　長野菊次郎

アヲバヘが腐肉に群がり、シデムシが屍体に集ひ來る等を一見せば、昆蟲が嗅覺を有する事を信ずるに難からざるべし、特にラボック(Lubbock)氏が蟻に施せる有名なる實驗の如きは、其嗅覺が十分發達せることを證明して餘りあるなり、然れども其嗅官の位置につきては、古來諸說紛々、甲は觸角にありと言へば、乙は之に反して觸角は聽官なりと唱ふる等殆んど歸する所を知らざりしが、ハウゼル(Hauser)氏クリーペリン(Kraepelen)氏等の精密なる試驗の結果、嗅官の位置は多數の昆蟲に於て觸角にあることを確証せられたり、然れども腮鬚、唇鬚及ひ觸毛等も亦嗅覺を有するものなることはグラーベル(Graber)氏等の証明せる所なり。

今や觸角の主要は嗅覺にありと論結せしめたるハウゼル氏の實驗の一二を下に畧述せんに、始めハウゼル氏は昆蟲の觸角を取り去りて、其後數日間に昆蟲が物体に對する關係は如何なる變化を來たすかを試みたりしに、或昆蟲は觸角を除去せられたる後數月間生存せしも、或ものは數日にして死去したり、よりて此度はパラフィン(Paraffine)を以て觸角を塗り、空氣の出入を妨げしに觸角を除きたると同一の結果を生じたり、是に於て試驗を左の三樣に分つべき必要を生じたり。

(第一)　觸角の有無により、強き香氣ある物質(例へはテレビン油、石炭酸)に對して如何なる關係を生ずるか。

(第二)　觸角の有無により、食物を搜索するに如何なる關係を及ぼすか。

(第三)　觸角の有無により、生殖上に於ける雌雄間に、如何なる關係を來たすか。

右第一の試驗を行ふには、玻璃棒を石炭酸に浸して石の下にありけるルリハネカクシの一種(Philonthus

aeneus)を去ると十「センチメートル」の所に置きしに蟲は頭を擡げ方向を轉じ觸角を激動せしめたりき、ハウゼル氏は一層棒を密接せしめしに、蟲は速かに廻轉し、非常に煩悶して反對の方向に突進したり、此時ハウゼル氏は其棒を取り去りしに、蟲も前脚の力を借りて觸角を口に入れ其臭氣を去らんとする狀態を呈したり、Oil of turpentine に對しても同一の結果を生じ、醋酸に對しては特に甚しかりき。

此の試驗を畢りたる後、觸角を取り去り、其後二日を經て同上の試驗を行ひしに、少しも感せざりしのみか、一二分間石炭酸又はテレビン油に浸したる玻璃棒を頭の上に翳せしも、殆んど無感覺にして唯腮唇鬚を輕く動かせしのみなりき。

第二の試驗を行はん爲にはシルハ(Silpha)及び其幼蟲を置くに苔等を以て其底を蓋ひたる大なる箱を以てし、其箱の隅に小さき孔を具へたる瓶を置き、其内に臭氣強き肉類を入れたりしに、觸角を有せる間は直に肉を發見したれども、觸角を去りたる後はそれに密接だもなし能はざりき、大麻蠅類(Sarcophaga)等にて試みしも亦全一の結果を奏したり。

扨此等の試驗の際、ハウゼル氏は腐敗したる肉の大片を皿に盛りて書卓の上に置きたりしに、數多の蠅は窓外より内に向ひて飛び來れり、彼れ屢々之を追ひ拂ひしかども、彼等は肉の上に群集したり、是に於てハ氏は窓を閉して總ての蠅を捕へ、悉とく其觸角を奪ひて再び之を放ちしに、蠅は室内を飛び廻はりしも最早肉には群集せざりしのみか、是に近寄りだにせざりき。

第三の試驗に對しハ氏は雌雄をして互ひに其配遇を見出し易からしむる爲に雌と雄と其觸角を異にせる天蠶蛾類の一種(Saturnia pavonia)マヒマヒテフ(Oeneria dispar)及びコフキコガ子の一種(Melolontha vulgaris)を選びたりしに前二者は觸角を除去せられたる後は交尾すること能はざりき。

Melolontha vulgaris の雌雄二十對は適當の箱に置かれしに、翌朝に至り其十二對は交尾したり、此時八氏は前者を他に移し、新たに三十對を同し箱に入れ而して其雄蟲の觸角を除去せしに、翌朝に至りて唯四對のみ交尾せる事を認め、第三日に至りて他の五匹が又交尾せる事を見出したり。

右等の實驗によれは昆蟲の觸角が嗅覺を有して食物を搜索し、又は生殖作用を完ふするに至大の關係を有することを知るべし、今や進みて嗅官の構造に論及せん。（未完）

◎作物被害原因驅除法索引（其壹）

農商務省農事試驗場技師　農學士　小貫信太郎

左の索引表は米國昆蟲學者ウード、ウオルス氏が農家のために編述せられしものに係る、我が國の農業と彼の國の農業とは其程度及び耕作法等に於て頗ぶる其趣むきを異にすれば、固より直ちに盡ごとく之を我に應用し能はざるも、此等の方法を取捨折衷する時は敢て實用に供し難きにあらざるべしと信じ、公務の餘暇これを飜譯して匣底に藏むるや玆に日あり、一夕名和氏と會見し談この事に及びしに、文字は假ひ無味なりとも博く之を世に公けにせば同志を利する所ろ極めて多かるべしとて、切に寄稿を逼らる依りてこの懇請に任せ昆蟲世界の餘白を塡塞することゝなしぬ、覽者その心して特に我が國に適切の事項のみを選擇せば、これ或ひは万一を稗補するに足らん歟。

第一條
一、若し圃場に於て作物の被害を認むる時。（第二條を見よ）
二、若し果樹の被害を認むる時。（第三十八條を見よ）
三、若し園藝植物の被害を認むる時。（第五十八條を見よ）

第二條（第一條第一項）
一、作物の生育不同なる時。（第三條を見よ）
二、作物凋萎したる時。（第廿五條を見よ）
三、作物黃萎したる時。（第廿三條を見よ）
四、作物の葉ゝ斑點を生せる時。（第廿八條を見よ）
五、作物の葉枯死したる時。（第三十條を見よ）
六、幹枝の一部若くは葉の一部枯死したる時。（第卅二條を見よ）
七、作物の一部蝕害せられたる時。（第三十三條を見よ）

第三條（第二條第一項）
一、作物の發芽不齊なる時。（第四條を見よ）
二、幼時にその生育大小不等なる時。（第十四條を見よ）
三、十分生長したる作物その大小不等なる時。（第十四條を見よ）

第四條（第三條第一項）
一、作物の發芽すべき場處の地面を注意して調査すべし。種子の消失せる場合あるは鳥、野鼠その他の動物の所爲なり、其近傍ゝ必ふず出沒せる形跡を認むべし、若し種子甚しく加害せられたる時は他の種子をストクキチ液中に浸したるもの、或ひは亞砒酸粉を塗り之を食はしめて驅除すべし。
二、種子尙ほ存して發芽せざる時。（第五條を見よ）

第五條（第四條第二項）
一、若し種子盡ことく發芽せざる時。（第六條を見よ）
二、種子發芽すれども生長せざる時。（第七條を見よ）

第六條（第五條第一項）
一、非常に乾燥せる場合には濕氣の缺乏により種子發芽せざるものとす、斯る場合には通常圃場の一部は能く發芽すれども、他の部は全く發芽せざること多し、此等の原因は圃場の高低均一を得ざると土地の理學的性質の不同に依るものとす、若し然らずして乾燥せざる時も猶は發芽せさるなれば、種子を播下する時の深さの不同ゝ歸す、例へば餘り淺きものは

條（項一）

二、發芽に要する濕氣を十分得る能はざるに依る等の如し。

二、以上皆その當を得ざる場合には種子の惡しきに原づかざるを得ず、未熟或は過熟或ひは老種子は普通惡種と云ふべし。

第七條（第五條第二項）

一、餘り深きに過ぐる時は新芽地上に達する能はざることあり。

二、若し淺深その當を得るも猶ほ生長せざる時。（第八條を見よ）

第八條（第七條第二項、第十三條第三項、第廿一條第二項、第廿二條第一項）

一、左の場合には恐らくは蟲害を受けたるなるべし、注意して檢査すべし。

（甲）蟻の如き蟲の生存するを見る時。（第九條を見よ）

（乙）蛆の如き蟲を見たる時。（第十條を見よ）

第九條（第八條の甲、第六十條の第一項）

一、害蟲白色を呈する時は、白蟻科の蟲なり、この蟲類は主に沼地に生息するを以て、この沼地を改良すれば此害を免れ得べし。

二、若し褐色或ひは白色以外の色なれば、蟻科若くは之に近き蟲類の加害せるなり、此場合には十分鄭寧なる耕種法を行ふ時は之が被害を免るゝことを得。

第十條（第八條の乙、第廿七條第二項、第六十條第二項）

一、若し蛆狀の蟲類にして足なき時は大概蠅の一種アンソシード科の害なり、未たこの驅除法を試ろみず、但し非常なる大害をなさゞる可し。

二、若し六脚を有する時。（第十一條を見よ）

三、六脚以上を有する時。（第十二條を見よ）

譯者云ふ、本條第一項の記事は本邦とは多少その事情を異にせり、則はち我が國にて斯かる場合には種蠅又はチュフラの害なりとす。

（未完）

◎講習會の種別と其價値（續）

名和昆蟲研究所長　名和靖

全國の害蟲驅除講習會は今回で以て、第七回に達しその會員は既に三百名ょ超ねましたか中ょは餘程成績の宜い方もあります る、即はち此會員をば兵卒では無く、其地方々々で兵卒を指揮もべき任務に當るやうに養成致さうと云ふので、學力も年齡も資格も規定してあるのである、そして此會を毎回岐阜ょ於て開きまするのは外ではない、講習の會期二週間でもッて指揮官たるべき資格を速成致さうと云ふので、專はら實物にも多く接せしめ且世間ょ餘り澤山無い參考品をも何分多く見聞せしめたいと云ふに過ぎん譯で、現ょ三河の渥美郡の講習會の如きは毎年わざ〳〵岐阜まで參ッて三週間も開いて居る次第であります、それから講習時間も日ょ三時間か四時間と云ふは世間普通であるに關はらず、當會は八九時間と規定してある、是は衞生上危險とか何とか心配をする人もありませうが、經驗によれば決して左樣な心配は無い、却つて病氣で參ッても閉會の時ょは健康体になッて歸ふるゝ人が多い、ト申すと或ひは不審を抱く人もありませうが、是は思ふに採集やら何やらで自然界に接する爲からであらうと考へられます、則ハち適當の運動もすれば、新鮮な空氣も吸ふ、それに直ちに天地自然の美と云ふものと相接するから知らず〳〵の間に身体も健康を得るは當然の事である、尙ほそれに附隨せる講習時間割や、寄宿舍規則は後ょ申上げさせますが、兎も角も斯樣な次第に成ッて居ります。

此外に出張講習と云ふがあッて是は五日から七日の間で終了するやう組織してありますが、短日の事と云ひ且は標本一つある譯でありませんから、勿論不完全には相違ありませぬ、が、一般農家や各種の人

に斯學の普及を圖るには、これより外に致樣がありませんし、又期日の短かい割合には成績が宜いとの事であります、是は重に各縣へ出張して行りましたのであつて今年も諸方から望まれて居ります。處で今私が話しました講習會の事柄を總括致せば、箇樣な風に成ります。

○明治三十年前に行はれた所の蟲の話（農談會の一部）………家庭教育又は幼稚園程度

○三十年後に流行の五日乃至七日間の短期講習………尋常小學校程度

○昨今志願者の多い二週間以上の講習會………高等小學校程度

○是より將に開かんとする半年乃至一年の長期講習會………尋常中學校程度

此中已に三種のものは皆順序を經て開きまして長期のものは未だ開きはしませんが、追々希望がある爲に目下其の設備に付工風中であります、是い未た諸方に前例の無いのと、如何にしたならば會員の利益に成るだらうと云ふのと、其敎科程度やら時間割等を精しく取調べ置かんければ、其時に成ッて困難を來たす事があるだらうと云ふので、早や調査に着手致して居る次第でありますから何れ早晚發表致す場合があると信じて居ります、否、早晚處ではありません、今回の講習會を以て已に此の長期講習の準備會と見做しまして、敎科も從來と違ひそれ〴〵分擔を定め、又加除致しまして、是までの講習會には曾て無かつた學科も大分入れましたのです、即はち規則に書いてある昆蟲學大意や、害蟲驅除法、益蟲保護法は勿論のこと、其他昆蟲の分類法や、昆蟲と植物の關係や又昆蟲の歷史や文學との關係に至るまで、夫々專門的に又分科的に講習する積りでありまする、畢竟初步ではありまするが前申す通り長期講習の準備會でありますから其積りで御承知置きを願ひたい。

諸君も知らるゝ如く我が國の昆蟲學は幼稚の時代であッて、未だ發達して居りません、そこで隨つて普及も致しません、斯かる有樣でありますから其土臺と申すものも立ッては居りません、是が則はち當研究所が研究する所ろの餘地でありまして又大に諸君の御奮勵を願はんければ成らぬ次第です、然るに微々たる私立の研究所では如何に致しても到底斯かる大事業を成遂げる譯には參りませんから、專はら多

衆の熱心家と共に之に當らんければ成らぬ、何故かなれば當研究所には事業を部分けと致しては置くもの丶取調ぶべき事柄や、爲すべき事柄は頗ぶる多くありまして到底一朝一夕に成功し難い、現に外國などでは或る一種の害蟲のために一生を犧牲にして居る人もあり、又或る學者の如きは或る種類の中のたゞ一種を專門的に研究して尙ほ調べきれんと云ふ位ゐである、然るに如何に昆蟲學の發達せぬ我が國とは申し乍ら何もかも盡ごとく皆取調べつ丶ある次第で、是は固より不本意ではあるが、また已むを得ぬ事情から起きたのである、右樣の次第であるから此際是非熱心の同志を求めて我が國に於ける斯學の基礎を作り兼て之を普及發達せしめんければ成らぬのである、則はち諸君の責任は重且つ大なるものと謂はんければならぬ、尤とも昆蟲學の基礎を作り併せて我が國に於ける昆蟲の分布區域を取調べ、又我が國に於ける現在の斯學の進歩を測る目的を以て來四月より此處で以て全國昆蟲展覽會を開く積りで、只今は專はら準備中でありますが此展覽會に就きての詳細は講習中に何れ更めて申述ぶること丶致しませうから茲には申しませぬ。

偖、斯く講習會を開きますと、諸君から會費と云ふものを納れさせまするが此金を何に費消するかと云ふことを御承知置までに申したいのです、此會費に就きましては田中先生の如きはソレは取るが當然だから何も怪しまる丶事も無いし、耻づかしい事も無いと迄御話になりましたけれど、之を取るは別に考へもあり且つは諸君を赤の他人と思ひませぬから、打解けて申すのである、一体私が講習會を開きまするに傳授料の性質で以て徵收しますれば當今規定の通りでは不滿足である、然るに斯く定めて置くのは畢竟自已の利益計りを考へる爲めでは無く、これを以て將來或る事業費に充つる爲めである、如何にも當今の會費でも幾何か殘餘があるには相違ないが、實費を扣除した殘りは一回五拾圓より少なからずと云ふ程度で以て皆これを銀行に預け、私の老父は之を管理して居る次第で、其金額は去る卅一年以來已に千圓近くに成ッて居る（諸方よりの寄附金も合せ）そして其預け樣は收入後三日以内に必らず預ける事にしてあるが、塲所は當市の第十六銀行であります。

然らば其の貯金を何に費う積りかと申せば是は全國昆蟲展覽會の經費にする爲めでありて決して之を無用のものに徒消するのではありません、斯かる次第であるから私の事業や講習會につき世間から如何なる攻擊や疑惑が掛らうとも決して疚しい事が無い計りでなく、近々これが事實と成ッて現はれる事と信じて居りますから少しも氣には掛けませぬ、併し世間と申すものは妙に能く人の事は彼是言ひたがるものである、それも私一已の身の上ならば排ひも致しませんが、苟しくも事業の上に妨害を及ぼす日には大事であるから斯く申し置くのである、現に玉利博士なども能く私の心事を御存じであるに拘らず、此の内幕を御存じが無い爲めに今年の一月までは矢張り疑はれた一人であッたさうであります、尙ほ此他色々申したい事もありますが、今日はこれ切りと致します、呉々も諸君の御勉强せられて聲價を世の中に揚げられんことを望みます。云々

（完）

（高崎正風）

螢(ほたる)　空高(そらたか)くあがれば人(ひと)のあふぐかな光(ひか)りはおなし螢(ほたる)なれども

雜錄

◎和漢の學者と昆蟲（其三）

古奥　青嚢白笠の人

〇九月蚊帳　俗事に九月の蚊帳へは雁金を書き付るものなりとて、紙に書て蚊帳の隅に結び置事あり、何の故なるか知れず、物理小識に曰く、夏月線染て蝙蝠をこしらへ蚊張に付るハ、淸國人が長崎に來りてなせしより始り、それを誤り傳へて雁金を付る樣になりしと語る人ありしが然もありなんか、蝙蝠ハ蚊を好みて餌食とせり、又蝙蝠の糞を夜明叉といひて眼病内瘴の藥に用ゐ、夜明叉は則蚊の眼玉なり、

這等の事を思へば蚊帳に雁がねを付は誤にて、蝙蝠こそ蚊の爲には禁物にて、蚊を除るの咒法にも成ぬべし。(右、敎訓亭貞高の閑窓瑣談)

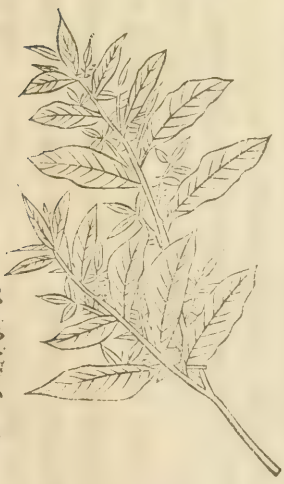
○露木子が曾て抄し置れしとて見せけるものに曰、皇朝の人、調味するは禽獸魚鼈なり、たゞ蟲のみ食ふよしをきかず、古へ芳野の民は蛙をもて上味とし、これを毛瀰と言よし古書に出たれば人よく知れり、こは海濱に遠き地方故にしかありけるに哉、近頃榊原篁洲の閑錄を閱るに、周長之山間。堀取大蟻卵。爲醬名蟻醬。禮所謂蚳醢也。(中略)とあるを見れば和漢同日の談也、僕先年奥州米澤の人に會せしに、蟲螽と金花蟲(本草に載せる金花蟲とハ少く異にして小蠹の如し)とを醬をもて煑たるを食しぬ、其味美なり、米澤の人上味とす、今俗、蟲を調味するよし絕てなしと思ひしに、米澤にはかゝる事あり、これに依ておもふに上世芳野の土人蛙を上味とせしよしを信じぬ。(右、原德齋の三省錄)

○京極藤相國(京極太政大臣宗輔。大納言宗俊之子)喜好異常。能養蜂。蜂皆有名。唯所使令。未嘗有螫。恒蜜紙自擎。行呼其名。皆隨聲群聚從游。不啻海鷗鳥。世稱馴蜂相公。(下略)

承保帝在鳥羽宮。庭樹蜂窩。俄墮階地。群蜂亂飛。皆畏其螫避走。公徐取盤上枇杷。以箏爪剝皮。手擎之。蜂悉附着。而後令皁隷遠棄。(右、服部南郭の大東世語)

○耆婆草　天正年中、蠻國よりわたる、秋に至て花あらずして實生ず、箒木の莖穗に似たり、よく瘡疥を治す、打傷惡腫にもよろし、又惡蟲の螫たるに葉をもみて付る、褥の下に置ば蚤虱を避く、書篋の中に納れば蠹生せずとなり、能く瘡疥を治し、惡蟲を避く、よつて耆婆草と呼ぶ、俗にるうだといふは蠻國の語なり。

耆婆草　春苗を生ず、嫁菜に似たり、臭き匂ひあり秋に至れは箒木に似たり、花なし。(右、菊岡沾凉の近代世事談)

編者いふ、田中芳男先生の說に依れば耆婆草なるものは藜

科に屬する一年草にして、漢名を土荊芥といひ、和名をアリタサウ又ルウダサウとも云ふ、其花小さく實も亦小さしと、記して參考となす。

○月令に、腐草化して螢となる、又本艸に茅根化して螢となると云り、京童の常談に宇治の螢は賴政の亡魂なりといへるを、本艸の茅根と賴政の亡魂と混じたりと思はれはべる。（右、田宮仲宣の橘庵漫筆）

○蝗の害は水旱より甚し、しかるに蝗を逐ふには、大勢松明をもやし、鐘太鼓を鳴して逐ふのみなり、羽ある蟲は火をもて去るべけれど、その餘の蟲はしるしなし、近來油をもて去ることあり、西國にては大に功ありしと云へり、火を以て去るとても表面の形計にて祭禮などのごとく騷ぎ散らして、道の眞中を通るばかりにては、しるし少き筈なり、是も細かに心を用ひて取行せば、全くしるしなしとも云ふべからず。（右、齋藤拙堂の救荒事宜）

○謝蝴蝶　謝學士。吟蝴蝶詩三百首。人呼爲謝蝴蝶。其間絕有佳句。如狂隨柳絮有時見。舞入梨花何處尋。又江天春晚暖風細。相逐賣花人過橋。句意深遠。（右、茗澗雲の藝苑名言）

○物名も漢語より來れるあり、促織をハタヲリといへるれ、ハタル。オルと云ふ事にて、漢名につけたる和名なり。（右、物徂徠の南留別志）

◎昆蟲見聞記（五）

長野縣　清水藏

（其十七）モンキテフ產卵の狀　昨年六月廿七日桑園に於て除草の際、間作の大豆葉にモンキテフの來り止まりて其翅を異樣に動かし、去りてまた他の莖上に止まり同一の擧動をなせしを怪しみ、就て之を細撿すれば葉面には一粒づゝ產卵せるものありき、翌日また桑園に於て同樣の狀を目擊し始めて此蝶の產卵の顚末を知得たり、一躰此蝶と同科なるモンシロテフ、スヂグロテフは葉裏に產卵するものなるに獨り此蝶に限り葉面を擇ぶは奇なりと謂ふべし。

（其十八）螢に關する俗謠　當地方にて兒女の螢火を捕へんとする時には、手に〳〵箒、團扇、竹片な

どを持ち草叢を打ち探りつゝ『ホータも來へ〳〵〳〵山吹も來へ〳〵〳〵かんねん、かはらの水くれる〳〵』と呼ぶなり、尙は螢狩の俗謡としては。

ホータホタ〳〵螢の虫は尻の光で駕（籠）に乘る。　戀にこがれて鳴く蟬よりも鳴かぬ螢が身を焦す。

（其十九）野螢（クハゴ）　松村松年氏の日本害蟲篇に依れば、野螢は年一回の發生の如くなるも、當地方の實驗によれば年二回の發生をなすものゝ如し、即はち第一回は六月上旬より下旬頃までに結繭して羽化産卵し、再たび化生して幼蟲となると覺しく七月中旬頃より八月にかけて蠢々自營するを目撃せり何れ飼育上の確報は追て寄稿すべきも、此には只疑ひを書して斯學者の叱正を乞ふのみ。

風前螢　いなば吹く風の行へは見えねども片なびきして螢飛ぶなり。　（黑川眞賴）

◎ウスバヤドリバチに付質問　　岐阜縣惠那郡付知町　昆　蟲　生

別封の蜂は當地にて採集せしものなるが、其名稱及び習性等に到りては昆蟲思想なき吾等には更に不分明に付右詳細昆蟲世界誌上にて御教示相成度此段現品相添へ及御質問候也。

答　　名和昆蟲研究所助手　名　和　梅　吉

現蟲を見るに膜翅目の姫蜂科に属する一種にしてウスバヤドリバチ（Ophion sp?）と稱するものなり、該蜂は常に桒其他の蛄蟖及び地蠶等に寄生して之を斃殺し、暗々裡に吾等の害蟲を驅除する所の有益蟲とす故に此種のものは常に保護し置くべし。

◎フクダワラバチに付質問　　越後國東蒲原郡津川　清　野　忠　三　郎

昆蟲世界雜錄欄頭に我地方にて俗に豐年俵とて六七月頃稻葉上に一糸を以て垂下する俵狀の繭あり、右は何蜂の繭にて又その蜂の農業上に及ぼす利害は如何、該誌にて敎示ありたし。

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

該蜂の繭は一般に豐年俵或ひは福俵等と稱するを以て和名フクダワラバチと命名せり、既に此繭に就ては本誌第三卷第十七號雜錄中に於て本所の昆蟲翁が記載されたるものあれば就て見らるべし、又自著通俗益蟲集覽第一輯にも掲載し置きたれば參照あれ。

◎イチゾウムシに付質問　大阪府北河内郡南鄕村　中村秀次郎

曾て當地の一害蟲を質問仕候ひしにイチゾウムシならんと御敎示相成候處イチゾウムシとは如何なる害をなすものあるや、其發生經過等御敎示相願度候。

答　蟲廼家

イチゾウムシは成蟲、幼蟲共に稻を害し其成蟲は稻莖を喰ひ切り、幼蟲は稻根を食害するを常とす、其發生は一年一回乃至二回にして六、七月頃多く出で、苗代田或ひは本田に於て稻莖中に産卵し、孵化すれば稻株中に入る斯くて十、十一月頃に至り成蟲と爲るなり、冬季間は成蟲幼蟲共に捿息するを見る。

雨中螢（あめのほたる）　雨（あめ）ふれば草（くさ）の中（なか）にやかくるらん池（いけ）のほたるの數（かず）ぞ少（すく）なき。（毛利元德）

雜報

○第壹回全國昆蟲展覽會記事

豫報の如く第壹回全國昆蟲展覽會を去る四月十六日より當研究所構内に開設し、五月十二日を以て之が褒賞授與式を行ひ、同十五日を以て無事閉會を告げたり、會期三旬の長きに亘り、出品蟲數十六万に餘

り、縦覽券所持者また五万以上に達し、其間の事情頗ぶる複雜を極めたれば今本誌上にろが詳細を報道し難し去ればその顚末は將に近日を以て刋行せんとする『第壹回全國昆蟲展覽會出品目錄』に讓り、こゝには唯梗概をものすべし、

開會以前の景況一斑

昆蟲展覽會なる名稱は頗ぶる單純にしてたゞ昆蟲類を一場に蒐集し展觀に供するに止まれるが如しと雖ども、今回の計畫は全たくこれと異なり、その目的は廣く全國の昆蟲類を蒐集して分布區域を知らしめ兼ねて製作の優劣、保存の適否より種類調査等に至るまで苟しくも斯學上に必須の要件を査察し、一方にはその科學上の進步を測定すると共に一方には之が應用に關する諸種の研究に充てんが爲めに、出品區域を廣濶にして昆蟲標本より器具、書籍等に至るまで出陳せしめたり、去れば名は昆蟲の展覽會と云ふと雖ども實は一種複雜なる組織にして、加ふるに展覽會としては破格とも云ふべき出品擬賞の事ありしが故に、審査に會務に非常の煩累を來たし、本年一月以降着々ろが設備に從事せるに拘はらず開會當時まで尙は整理し難きもの多々之れありき、特に東西諸國にその前例なき會を斯學幼稚の本邦に開くことゝて、出品者、執務者ともに不慣なる爲め出品の延着、破損、錯誤、訂正等頗ぶる多かりしも、此等幾多の困難は遂に程なく解决せられて會場內外の整理、陳列室の裝飾等に至るまで盡ごとく豫期の間に終了しぬ。

會場內外の整備及裝飾

會場は岐阜縣農會の建物全部及び當研究所構內の一部を以て之に充て正門には大國旗を交叉し其下に入場劵出札所を設け(前號の口繪を看よ)門內の大旗竿よりは四方に幾條の麻綱を張りて之に內外國に產する蟲類を描ける小旗百數十旒を結付け、陳列室の樓上下には隙なく彩燈を連ね、又出入の玄關にも國旗と蝶旗とを交叉したり、裝飾は此く質素なりしも、會場の樓上北面に貼附せる主なる害蟲の放大圖はその南東面の大字とゝもに頗ぶる人目を惹き、門內の水產昆蟲また物珍らしげに足を留むるもの多かりき、會場入口を右に第一號室に入ればこゝには器具藥劑及び參考出品等ありて第二號室には書類及び害益蟲標本等を所狹きまでに陳列し、次に樓上の第三號室には蚕の發育摸造形、アセチリン瓦斯捕蟲燈より分類標本、敎育用標本、小學生徒採集の冬季昆蟲標本、裝飾用標本を順序を立てゝ陳列し、第四號室に入れば當研究所出品の參考品のみを以て分類、淘汰の有樣より諸外國の蟲類をも知らしめたり、斯くて樓

下の第五號室に移れば茲には當研究所其の他の所藏に係る昆蟲を美術工藝品に應用せる東西新古の製作品及び諸家珍藏の參考出品幾千點かありて從來昆蟲を念頭に置かざりし人々を驚殺せしめたりき、斯くて廊下傳へに出口に出づれば勅使河原合資會社が意匠を凝らして製作せる蟲摸樣の紙製品數十點あり、次に養蟲室あり、次に東京その他より出品せる昆蟲に關係せる書籍器具の賣店ありて自由に購求の便を與へぬ。(其の他なほ樓上天井蝶摸樣、壁間の統計表等の如き細事にわたれば頗ぶる冗漫に失せんことを恐れてこゝには省く)

開會式當日の略況

軈て四月十六日の午前七時半を報ずるや、數發の烟花を合圖に待設けたる開會式は岐阜中學校の假講堂に於て執行されぬ、今其順序を言へば本會事務委員長笠井信一氏の先導につれ、總裁花房男爵の式場に臨まるゝや、事務委員長より出品目錄を呈し、次に會長田中芳男氏は左の式辭を朗讀せられぬ。

第一回全國昆蟲展覽會開場式式辭

近年昆蟲學の發達に伴なひ其研究と其應用とに於て漸く進步の徵ありと雖も其成績の如きは尙區々にして世の利用を成すに至らざるもの多し就中農業園藝森林に於ける害蟲の如きは國家の消長に關し殊に貿易上少なからざる影響を及ほすを以て之が豫防驅除の方法を考究するは目下の一大急務なりとす、名和昆蟲研究所茲に觀る所あり第一回全國昆蟲展覽會開設を企圖せるは昨三十三年三月三日なりし、爾來全國有志者の贊成する所となり特に本縣に於ては縣會より補助せらるゝ所あるのみならず大に官民の翼贊を得て便益する事項頗る多きにより豫期の如く本日を以て開會するに至れるは本會に於て深く謝する所なり而して其出品人員の中には多くの團躰ありて其出品の如きも頗る觀るべきものあり、今其出品の總數を擧ぐれば出品人員百有三十名、出品點數五百八十個にして其昆蟲の數は凡拾六萬個以上に達す、此他尙參考出品を數ふるときは數萬個の昆蟲標本及害蟲驅除豫防採集製作保存の器具及藥品幷に各種應用物品書籍圖畵摸形寫眞等數千點の多きあり以て觀覽者をして昆蟲分布區域を知らしむべきは勿論、工業の摸範となすに足るべし疑を容れず、本日開場に際し花房總裁閣下の臨場を辱ふし尙本縣知事閣下を始め參列の榮を得たるは本會に於て最も滿足する所なり、茲に顚末を述べて開場の式辭とす。

明治卅四年四月十六日

全國昆蟲展覽會長從三位勳二等　田中芳男

斯くて田中會長の式辭終ふるや、花房總裁は左の式辭を朗讀せられぬ。

式　辭

名和昆蟲研究所の主催に係る全國昆蟲展覽會出品の陳列成るを以て本日茲に開場の式を擧くるに至れるは本員の最も悅ふ所なり、抑も昆蟲は微細の動物たりと雖も其害を逞ふするに於ては實に國家の一大難事なるを以て全國官民共同戮力之が驅除防禦に從事するにあらざれば容易に其功を奏する能はざるにより昆蟲學の思想を養成するは目下の要務なるべし、今此會を以て直に其害源を除く能はずと雖も大に上下一般を感動せしめ併て斯學の發達を促すべきを信す、尙其出品の優劣の判定は他日審査の結了に待たん

明治三十四年四月十六日

全國昆蟲展覽會總裁正三位勳一等男爵　花房義質

次に來賓岐阜縣知事川路利恭氏は左の祝詞を朗讀せり

本日を卜して第一回全國昆蟲展覽會開會の式を擧行せられ利恭亦盛典に列するの榮を得たり、抑も農産物の蟲害に罹るもの連年之れ有り國力の消長從て亦之れに繫る、於茲乎昆蟲の研究は國家生存の條件なり、名和昆蟲研究所之れに見るあり國を擧て志を昆蟲研究に注がしめんとし特に本會を催す蓋りに應ずる者東西心を同ふし南北相競へり斯道に篤きものをして益篤からしめ學はざる者亦感奮す、洵に是空前の事業なり豈祝賀せずして可ならんや聊か蕪辭を述て祝詞とす

明治三十四年四月十六日　　岐阜縣知事從五位勳五等　川路利恭

次に岐阜日々新聞社員仙石保吉氏の演說あり、次に出品人總代の答辭ありき左の如し。

維時明治三十四年四月十六日第一回全國昆蟲展覽會設備全く成を告け茲に總裁閣下親しく臨みて開會の盛典を擧げらる、惟ふに我國維新以降各處に開設せられたる展覽博覽共進の諸會を算し來れば殆ど屈指に勝へざるも其冠するに昆蟲の二字を以てするものに至りては蓋し名和昆蟲研究所の主催に係る本會を以て之が嚆矢とすべし、啻り我國に於てのみ然るにあらず斯學の先進地たる歐米諸洲に在りて尙且未た其企畫あるを知らざるなり盛なりと謂ふべし不肖尊義等幸に此無前の壯擧たる展覽會開場の末班に列し剩へ總裁會長兩閣下及來賓諸彥の高諭を辱ふするの榮を擔ふ感荷何んぞ之に如かん、將來益斯學を攻究し以て今日に酬ゆる所あらんことを期す謹て答辭を述ふ

明治三十四年四月十六日　　第一回全國昆蟲展覽會出品人總代岐阜縣海津郡昆蟲研究會代表者　大橋尊義

右終りて田中會長の挨拶あり、これより一同退場の上陳列場を巡覽し別室に於て茶菓の饗應ありき。

偖開場式の全たく畢りしは午前八時なりしが同九時半よりは一般公衆の縱覽を許したり、此日は恰かも東海農區五縣聯合物産共進會開場式の當日とて縱覽人は少なかりしも尙ほ五百餘名とぞ註せられぬ。

開會式後の展覽會景況

開會式擧行當時の昆蟲展覽會ハ設備なほ不完全なりしが爲め聊さか遺憾の點なかりしにあらず、特に遠隔地より出品の未た到着せざるあり、參考品として價値あるものゝ未たるの調製を終へざる等ありしを以て、日夜會場の整理に注意すると共に頗ぶる其効果の如何に懸念したりしに、遂に出品增加して會場に光彩を添へ且つ審査長として農商務省より特に農事試驗場技師農學士小貫信太郎氏を派遣せられされば內部に於ては百般の組織上稍整頓を來せり、去れど觀覽人の多少も會の信用と盛衰に關するを以て頗ぶる外部に對する注意を要するものあり然るに當初三四日間ハ纔かに四五百人の入場者に甘んぜざる可からざる形勢あるに反し幾多の源因より漸やく其數を增し、遂に一日四千人弱の入場者ありて一時に雜沓を來たしたることもありき、去れば執務者が初めに豫定せる人員に比し殆んどその倍數に上れるのみならず、京都府大坂府をはじめ近縣の農桑學校生徒の續々來覽するあり、又全國の諸縣より農事的に學事的に調査せんが爲に來り臨める者頗ぶる多く、特に數百里外の遠地より代表者若くは視察員の資格を與

へて來會せしめし者また多かりしを以て實に意料外の感を惹けるに加へて歐米人及び臺灣人の參觀せし者さへ少なからざりき、此を以て靜かに學術的に調査研究すべき材料たりと豫想せる出品も多くは好奇的に觀察せられしやの嫌ひを生じたるも、斯く多數の參觀人中には新たに斯學に志ざせる者亦少なからざる可しと思へば、この混亂雜沓の間に將來好望の種子を播下せしやも未た測り知る可からず、是れ蓋し自畫自賛の言辭を弄するにあらで世間の事物多くはその初め一種の好奇より起りて漸次眞理に近づき終に之を大成するに到るを以てなり、而してその効果の如きは今遽かに之を知り能はざるも恐らくは明治三十六年の後、粲然眼を拭ふに足るものを此裏に胚胎せしなふんとは當研究所の斷じて豫言するに憚からさる所なり。

褒賞授與式前の展覽會景況

各出品に對する審査は開會式後小貫技師監督の下に岡田忠男（靜岡縣）松原朔朗（福井縣）小山内孝九郎（青森縣）安藤登（岐阜縣）杉山馨（仝上）の五氏によりて開始せられしかど、出品區域の廣濶にして比較的多數なる容易に終了せるに至らず、特に之が着手の初め審査規程を定むるに當りてや、田中會長、名和所長等は小貫審査長の草案に依り屢次討議を凝らし玆に不少の日子を徒費せしを以て公然審査室を開きしは四月末の事なりき、蓋し審査に非常の繁忙と困難を來たすなるべしとは開會以前より豫想せられたる事實なりしを以て、時日の切迫に關はらず先つ豫じめ其基礎を牢固ならしめたる所以なり。

因みに云ふ、昆蟲展覽會は未だ前例なき一種特異の計畫なるを以て世に之が審査規程なるものあらず且つ加ふるに或る方面の希望に依り今回の規程をば遠からず開設せらるべき內國大博覽會に適用し得る程度に定めたるが故に、大いに前後の事情を考究するの必要を感じたりき、然れども實驗の結果として多少修正を加へざる可からさる諸點を發見しぬ。

前陳の如き事情ありしを以て審査委員の苦心一方ならざりしも是亦規定の如く査定擬賞を終へ唯々授賞式當日の來らんことをのみ竢つに至れり、普通を以て之を言へば授與式前の如きは賞狀賞品の調製淨書に忙はしく決して寸隙を存するものにあらざるも、幸ひに田中會長の細心注意に依り賞狀に代ふるに授賞一覽の印刷物を以てし、賞品に代ふるに目錄を以てせしかば、自づから全力を他方に擧くることを得たりしなり、審査事務の終了彼が如く、之に伴ふ庶務また彼が如しと雖ども、此際尤とも遺憾に堪へざりしは花房總裁の來臨せられざりし一事なりき、而して開會式を擧ぐるに方りてや專はら素朴を旨とし

賓客を招待せるもの極めて少なく、爲めに式に列せし者亦百餘名に過ぎざりしも、今回は縣內外の知名の士を始め本會に關係を有する者全躰に向つて來會を請ひたり、是れ接遇上前式と著るしく異なれる諸點とす、但裝飾その他に至りては一つも前回と違ふ所ろなかりき。

褒賞授與式景況

五月十二日は褒賞授與式當日なりしが之を午前に執行する時は、五縣聯合物產共進會褒賞授與式と時刻の衝突を來たすの虞れあるを以て午后一時參集の事に更め、式場には岐阜縣廳前假縣會議事堂を借用せり、聽て一時半に至り、少年樂隊の吹奏せる歡迎の曲に導びかれて衆員の着席するや、笠井事務委員長の先導により總裁花房男爵代理川路利恭氏の臨塲あり、次に事務委員長開會の報告あり、次に小貫審査長の審査概況申告及び褒賞授與の申請あり、その全文は左の如し。

申告書

名和昆蟲研究所の主催に係る第一回全國昆蟲展覽會出品の審査結了し爰に褒賞授與の式を擧けらる。

抑本會の出品は昆蟲學及之か應用に關する各種の要素を包有し昆蟲標本、製作用器具、驅除機械及藥劑より事業の成績等に及び出品總數六百七十三個にして其區域の跨かる所北は青森、岩手より南は九州を超ゑて遂に沖繩臺灣に達し都て三府二十一縣を算せり但し團躰出品を奬勵の結果として其人員は百四拾三名に止れりと雖も昆蟲展覽會の始元としては亦盛なりと謂ふべし特に昆蟲の分布を調査するに方り其利する所決して尠少にあらざるを知るなり。

然れとも我國に於ける斯學の發達は程度尙低く隨て斯學に關する智識の普及は今後數年の經營に竢たざる可からざるか故に今回の出品に對し固より完全を望む能はす是れ啻り斯學に於てのみ然るにあらす凡そ創始に屬する百般の事業に免るべからざる通患にして將來の進步の上より言ふときは反つて頗る有望の餘地を存するものと謂ふべきなり、是を以て審査の如きも高度の標準に據り細緻の項目に照し嚴密公正敢て假借する所なからしめたり。

今各種の出品に就き概評を下さんに、第一部分類標本は出品點數尤も多く比較的見るべきものありと雖も概れ類目を示すに止まり其科屬種別及學名の調査に至りては寥乎殆と數ふるに足らす偶々類目を區分するものと雖もまた多少の誤脫なきにあらず。

害蟲標本は各蟲の變態經過は勿論被害作物寄生蟲黴菌等を添加せしもの極めて少なく或は二三の蝶蛾を排列して徒らに其名稱を冠せしめたるものあり以て其不完備の一斑を測知すべし。

益蟲標本は之を害蟲標本に比較すれば點數少なし而して其優劣に至りては敢て軒輊あるを見す。

教育用標本は學科程度に副はさるもの多く是亦完全の域を距ること尙遠きの感あり。

裝飾用標本は點數特に多く且百事細心以て製作せられたるやの痕跡を留む、往々巨大美麗のものあるか爲に頗る人目を惹くに足れりと雖も昆蟲を裝飾の用に供するは寧ろ末技に屬し好事に走りて實用を缺くの憾なきにあらす將來注意あらんことを望む而して其製作保存及排列の諸點に於ては奇巧のもの無きにしもあらざるも要するに未た遙かに大成の域に入り難し。

其他保存箱の不完全藥劑の空乏及製作の不良より蟲躰の缺損せしもの少なからす、就中排列に至りては好奇却て卑野に陷り學術上の

本旨を誤れるもの少なからす是れ最も鑒戒を加ふべき一要項なりと信す、但小學校生徒の製作品に至りては其製作及學術上の評價は暫く之を措きその斯學普及の點に於て洵に悦ふべき現象なりとす。

第二部驅除及製作用器具機械及藥劑等に至りては出品點數少なく又改良進歩の顯著なるもの多からす是れ頗る遺憾とする所なり然れども進歩の端緒を示せるもの亦少しとせす益當業者の奮勵を望む。

今全般を通觀するに本會に出陳せし所のもの皆未た幼稚の域を脱せずと雖も其出品區域の廣濶なる其種類の夥多なる蓋し斯學研究上稗益する所偉大なるべしと信す。

上述の如く出品の種類頗る多く且加ふるに範圍亦廣大なるを以て之が優劣を判定するは蓋し至難に屬す幸に審査委員諸氏夙夜精勵の効に依り期定の日子間に審査を完了し優等者六十九名を撰拔して既に總裁閣下の裁可を經たり爰に審査の概要を述へ併て褒賞授與を申請す。

明治三十四年五月十二日

第一回全國昆蟲展覽會審査長農商務省農事試驗場技師正七位　小貫信太郎

次に總裁代理は左の式辭を朗讀の後、事務委員長の讀上けたる褒賞等級及出品名縣名氏名に對し、一等乃至三等賞狀は順次各別に之を授與し四等賞狀は一括して其總代に交付せらる。(賞品は會長之を授與せり)

第壹回全國昆蟲展覽會出品の審査終了を告け本日を以て褒賞授與の典を行ふ、惟ふに昆蟲學のものたる之を立國の本源たる農桑業に施せば以て民生を利すへく、之を科學の上より攷究すれば以て智囊啓發の料に資すへきの必要なりと雖も現時本邦に於ける斯學の狀蹟は尙ほ未た幼稚の範囲を脱せざるが故に之を今回の出品に徵するも其製作陳列應用の諸點より分布區域種類調査の事項に至るまで共に十全を得たりと謂ふ能はず是れ余が聊か遺憾とする所なり。

然れとも諸子既に東西未た曾て前例なきの此事業を翼賛し爰に斯學の基礎を作爲せり、今後益々協戮研鑽各々其志ざす所に從ふて一意之が振興に精勵せば邦家の慶福を增進し併せて斯學の大成を期するに難からざるべし、諸子それ焉れを勉めよ。

明治三十四年五月十二日

總裁正三位勳一等男爵　花房義質

右終りて奏樂あり、次に田中會長は起て左の功勞賞及び追賞授與の稟請をなせり。

功勞賞及追賞贈與稟請書

第壹回全國昆蟲展覽會則第二條ニ規定セル第一部及第二部ノ出品中其優良ニ位スルモノハ既ニ審査員諸氏ノ精査審議ヲ經テ審査長ノ決裁申告ニ依リ各々褒賞ヲ授與セラレタリト雖モ尙ホ他ニ會則第十一條ニ該當スヘキ者アルヲ以テ明治以降昆蟲學ニ盡瘁シ功勞最モ顯著ト思料スヘキ者五名ヲ推薦シ是亦同シク總裁閣下ノ裁可ヲ得タリ。

顧フニ此等功勞者中、其職責ニ對スル功課ヲ加算セシモノ無キニアラサルモ由來本邦ニ於ケル昆蟲學ハ其萌蘖ヲ明治ノ初年ニ發現セシヲ以テ此創始ノ時代ニ際リ能ク農桑業ノ有害蟲ヲ驅防シテ經世濟民ノ策ヲ講シ能ク斯學ノ啓發扶植ニ勉メ以テ今日ノ境域ニ達セシメタルノ功績ハ强チニ之ヲ職務ノ有無ニノミ歸スルコト能ハサルノミナラス、當年示導實行ノ迹ヲ追懷スレハ其酸辛決シテ今日ノ比ニアラサルヲ知ル乃チ此等諸氏ノ熱誠忠實ハ大ニ之ヲ顯彰スヘキ價値アリト査定シ、先ツ之ヲ本會審査長ニ諮ヒ次テ評議員ノ內議ニ詢リ其同意ヲ得タルヲ以テ爰ニ功勞賞及追賞ヲ擬セリ、希クハ贈賞アランコトヲ謹ンテ稟請ス。

明治三十四年五月十二日

全國昆蟲展覽會長從三位勳二等　田中芳男

會長の稟請に次ぎ、事務委員長は受賞者を呼上げ會長は左の功勞賞及び追賞薦告文を順次朗讀し、総裁

はこれに賞狀及び賞品を併せ授與せり。

東京府　鳴門義民氏

夙ニ昆蟲學ヲ攻究シ明治十年以降卒先農作害蟲驅除ノ衝ニ當リ遂ニ螟蟲驅防法ヲ案出シテ之カ實施ニ盡瘁シ又公務ノ餘暇害蟲書ヲ編述シテ斯學ノ皷吹啓導ニ從事スル等功勞尠ナカラス仍テ本會規則第十一條ニ據リ功勞賞ヲ贈與シ玆ニ其名譽ヲ表彰ス

東京府　正六位勳六等　練木喜三氏

夙ニ動物學ヲ修メ特ニ應用昆蟲學ノ伸暢ヲ期シ明治十年以降專ラ意ヲ農作害蟲ノ驅防ニ注キ後進ノ啓誘ニ努メ農家ノ示導ニ任シ又公務ノ餘暇各種ノ害蟲圖解ヲ編述シテ斯學思想ノ普及ヲ圖ル等功勞尠ナカラス仍テ本會規則第十一條ニ據リ功勞賞ヲ贈與シ玆ニ其名譽ヲ表彰ス

佐賀縣　正七位　小野孫三郎氏

夙ニ應用昆蟲學ヲ修メ明治十三年以來各地ニ發生セル飛蝗及果樹害蟲等ノ驅防ニ拮据鞅掌シ又公務ノ餘暇重要植物害蟲新說ヲ開版シテ農家ノ闡示啓導ニ資スル等功勞尠ナカラス仍テ本會規則第十一條ニ據リ功勞賞ヲ贈與シ玆ニ其名譽ヲ表彰ス

愛知縣　岡田虎二郎氏

農作害蟲驅除ノ忽諸ニ附スヘカラサルヲ唱導シ屢次各地ヲ歷巡シテ深ク警戒ヲ加ヘ後又螟蟲卵塊摘採法ヲ案出シテ農事上ニ利便ヲ與ヘタル等功勞尠ナカラス仍テ本會規則第十一條ニ據リ功勞賞ヲ贈與シ玆ニ其名譽ヲ表彰ス

長野縣　(故)　清水三男熊氏

本邦農作ノ蟲害ニ罹ルモノ多キヲ憂ヒ昆蟲學ヲ修メテ利世安民ノ途ヲ講シ又蠁蛆ノ爲メニ逐年蠶業ノ衰退スルヲ慨キ遂ニ蠁蛆聚獲ノ便法ヲ案出スル等功勞尠カラス仍テ本會規則第十一條ニ據リ追賞ヲ贈與シテ玆ニ其名譽ヲ表彰ス

次に左の如き川路岐阜縣農會長の祝詞ありしが是は副會長野呂駿三氏代讀し、次に濃飛日報記者原眞澄氏の演說ありき。

第壹回全國昆蟲展覽會は今や其出品の審査を畢り玆に本日をトし褒賞授與の式を擧行せらる豈夫れ祝意を表せざるべけんや、顧ふに國力の充實を謀らんと欲せば生產物の發達を努めざるべからず而して害蟲の驅除豫防と益蟲の保護增殖とは農產物の發達上利害の關はる所頗る大なり若し其措置宜しきを得ずして一朝蟲害に罹らんか、忽ち巨万の財を失ふの虞あり故に昆蟲の研究は農產物の增進を

圖る上に於て一日も忽にすべからず是を以て名和昆蟲研究所主催となり第壹回全國昆蟲展覽會を開設せられたるは斯業に裨益すること少なからざるを信ず、是實に國家の慶事にして抑も亦本會の爲めに深く喜ぶ所なり、聊一言を陳べて祝辭とす。

明治三十四年五月十二日　　　　岐阜縣農會長　川路利恭

來賓の祝辭に次ぎ各地よりの祝文祝電(別項記載)の披露あり、次に授賞者總代の荅辭あり、右にて全たく式を畢へ、奏樂に伴れて總裁以下順次退場、樓下の控席に於て茶菓の饗應及び紀念品の贈遺あり、一同退散せしは二時三十分なりき。

爰に本日を以て第壹回全國昆蟲展覽會褒賞授與式を擧行せらるゝに當り朝野貴紳の來臨を辱ふし特に總裁閣下の高諭を賜はる某等の光榮何ものか之に過ぎん、夫れ本會は名和昆蟲研究所の獨力經營に成り名は則ち私立と云ふと雖も事は則ち國家的に屬し且加ふるに東西未た其類例なきの壯擧に屬するを以て之か設備の困難固より他の諸會と同じからざるものあり、而して今や此盛會を見る所以のものは抑も總裁會長兩閣下を始め本會の機務に參與せる諸彥の誘掖畫策其宜しきを得たるに歸せずんばあらず、但某等の斯學に冷淡なる未だ優良の成績を出陳し以て國家の万一を裨補するに至らざるを愧づるのみ某等今日を以て足れりとせず益斯學の爲に微力を致し敢て閣下の懇詞に副はんことを期すべし、謹て荅辭を呈す。

明治三十四年五月十二日

第壹回全國昆蟲展覽會受賞者總代　岐阜縣揖斐郡昆蟲研究會

閉會式の景況

褒賞授與式後第三日は本會閉鎖の當日にて會務修結の紀念日なりしかば、乃はち五月十五日午后三時を以て閉會の典を假縣會議事堂に擧げたり、その大體は概むね開會式と同じかりしが、式は音樂を以て開閉せられ同三時三十分を以て修了しぬ、今其次第をものすれば先つ始めに笠井事務委員長の閉會の申請あり、其全文は。

全國昆蟲展覽會は名和昆蟲研究所の經營を以て之を斯學思想の幼稚なる本邦に開催せしものなるが故に其施設齊整を缺き其規模壯宏を極めずと雖而かも時の古今を問はす海の內外を通し未た前例なきの企畫に出て其出品總數は六百七十三個、昆蟲總數は十六萬に餘り更に他に參考品として斯學に關係を有するもの幾千點の多きを算し褒賞授與の榮を荷へる者六十九人に及へり而して縱覽總人員は遙かに五萬の上に達し中、優待者八十八人、特待者九百三十人、小學生徒約一萬人にして特に注目すへきは北海道琉球臺灣及海外よりの來觀者また少なからざりし一事とす、是に因りて之を觀れば既往三旬の會期間に其世を利し人を益せるの功は決して尠少にあらざるを知るなり盖し本會開設の目的を貫通するに殆からん歟、爰に經過の梗概を陳述し併せて閉會の式を擧けられんことを申請す。

明治三十四年五月十五日

全國昆蟲展覽會事務委員長從六位　笠井信一

右の申請の終はるや、田中會長は左の閉會式辭を朗讀せられぬ。

本會開設以來幸に失態遺算なく本日を以て閉會式を擧くるに至れるは一に各員和協奮勵の功と謂はさる可らす、是れ余か特に悅ふ所なり。

惟ふに本會の冥々裏に科學實業兩者を融和し國利民福を圖れるの成績に至りては未だ遽かに之を知るに由なきも其從來之を輕視せる

者を警醒して昆蟲と國家の關係を悟らしめ又上下の注意を惹起して斯學研究の必要を感せしめたる結果近き將來に一生面を開くへき導火線となりしは余が斷して疑はさる所なり而して此間に立て之か發展應用を講究し本會開催の目的を成就せしむる者はそれ應に出品人諸氏の責務なるべし、茲に閉會を命するに臨み所見を陳へて式辭となす。

明治三十四年五月十五日

會長從三位勳二等　田中芳男

次に川路岐阜縣知事並びに岐阜日々新聞社員仙石保吉氏の演說あり、次に左の出品人總代の答辭あり。

茲に第一回全國昆蟲展覽會を圓滿無事の間に經過し光輝ある閉會式を擧行せらるゝに際り朝野貴紳の臨場を辱ふし且優渥なる訓諭を賜はる感謝何そ堪へん。

謹て按ふに近來昆蟲學の聲價頓に高まりしより或は之を學術的に或は之を經濟的に攻究する者著しく增加したりと雖も惜むらくは之か進步を測度すへき試金石なかりしに名和昆蟲研究所の首唱盡力に依り今回の盛擧を見るに至れるは不肖秋二等の寔とに國家の爲に慶賀する所なり。

終りに本會を吾が岐阜縣に開催せられたるは秋二等の榮譽とする所にしてまた當局諸彥の日夕會務に鞅掌せられたるの功勞は特に感謝已まざる所なり、今や此盛典に列し衆員に代り蕪言を陳へて答辭となす。

明治三十四年五月十五日

出品人總代　岐阜縣武儀郡　天野秋二

出品人總代の答辭を以て式を畢へ、參列員一同を別席に請ぢて茶菓の饗應ありしが、評議員事務委員諸氏が始終奔走盡力せられし事は褒賞授與式の時に異ならざりき。

各地よりの祝電祝文

昆蟲展覽會開會式及び褒賞授與式の際、各地の同志より寄せられたる祝電祝文はその時々之を披露せしが中に就き重なるものを摘載すれば左の如し、但餘白の都合により文章はこれが收錄を見合はす。

祝電の部

東京農商務省農事試驗本場	中川久知
山梨縣甲府市	山梨昆蟲研究會
宮城縣名取郡	名取昆蟲研究會
岐阜縣大垣町	金森吉次郎
嶋根縣松江市	田中房太郎
宮城縣仙臺市	小山内孝九郎
東京市	池田謙藏
山梨縣甲斐國東八代郡	八田達也
山形縣松嶺町	齋藤朝之助

祝文の部

大分縣下毛郡西谷村	白木一策
愛媛縣新居郡泉川村	山内幹衛
鳥取縣岩美郡中鄕村	宮脇松太郎
青森縣青森市	柏原彥太郎
京都府船井郡上和知村	野間貞三郎
石川縣石川郡	高多信久
千葉縣安房國鴨川	腰越由松
兵庫縣農事試驗場	小野孫三郎
京都府船井郡	蠶絲同業組合

三式に於ける來賓と紀念品

本會に於ける三式中、開會式の來賓は無慮百餘にして褒賞授與式はこれに二倍し、閉會式には五十餘名

なりしが、重立たるは農商務省高等官、縣内外の高等官、農事試驗場技師、國會議員、縣廳高等官、縣會議員、縣農會役員、共進會審査官、縣官立學校職員、地方有力者等なりき、又褒賞授與式の際に紀念品として贈呈せしは縣下西濃の特產たる杞柳の掛筒へ東濃產の麥稈昆蟲細工を添へこれに岐阜市產の金華山燒の花活を挿入せるものなりしが、菓子また總て蟲づくしの意匠に出で中にも九州のイナゴの儀助煑信州のザザムシの如きは大いに愛嬌を添へて賓客の賞贊をうけたり。

本會務に盡力せる諸員

本會則規定の役員は前號所載の如くなれば重複に涉ると本會出品目錄に別に明記すべきを以てこゝには再掲せざる可しと雖ども、其の顧問たり評議員たり事務委員たり將た審査委員たるに論なく、直間接に本會務を援助せられたるの功勞は特に多とする所なり、偖前號記載漏れの分のみを擧ぐれば庶務係、審査係は田中會長指揮の下に名和研究所長の命により所員それ〲分擔して之に當り、會計係は岐阜市加納榮太郎氏に囑托し、出品係は田中會長の配慮を以て東京より篠原惣三郎氏を招きたり、其外縣下に散在せる昆蟲講習會修業の人々より成れる世話係なるものは日々事務所に出入して百務を補佐するの勞に當られ、少くも二三日長きは三十餘日も盡力せられたるが、鳥取縣の蓮佛万吉氏また遙々來りて此一員に加はりぬ、今その氏名を擧ぐれば、天野秋二、後藤村治郎、松野春一、小野鉄次、伊藤善三郎、佐藤正雄、遠藤熊次郎、足立宇七、小森省作、森島勘次郎、長屋準一、棚橋善二、後藤宇三郎、大橋陣一、杉江勝三郎の諸氏にて外に長屋繁一氏は書記として雜務を執られぬ。又前記の審査委員中、松原、岡田、小山内の三氏はそれ〲公務繁劇の躬なるに拘はらず遠く來りて十餘日間事務に鞅掌せられ、杉山、安藤の兩氏は本會設備の際も亦一方ならず盡瘁せられたれば茲に特書してその厚意を謝す。

授賞者姓名及び等級別

本會の審査規程は非常に細緻嚴正のものなりしがこれを標準として精密に查定したる結果、合格擬賞せられて其々規定の褒賞を得るの榮譽を荷へたるは左の六十九名とす、但或る器具の如きは更に一段の進步を加ふれば有益の發明品として博覽會等に於ても充分名譽を發揚するの價値あるに違はざるも、今これに擬賞する時は却つて勇氣を挫折するか若くは進步を阻害すべしとの意見により、特に制裁を與へざりしもありきと云ふ、參考までに茲に附記す。

○壹等賞（銀杯壹個） 貳名

分類標本 岐阜縣揖斐郡昆蟲研究會
害蟲標本 山形縣飽海郡昆蟲研究會

○貳等賞（三組木杯） 拾名

分類標本 愛知縣南設樂郡松崎種次郎
同 上 岐阜縣海津郡昆蟲研究會
同 上 三重縣阿山郡興農會
同 上 岐阜縣稻葉郡昆蟲研究會
害蟲標本 岐阜縣揖斐郡昆蟲研究會
同 上 岐阜縣可兒郡害蟲驅除講習修業生
同 上 岐阜縣羽島郡農會
益蟲標本 岐阜縣海津郡昆蟲研究會
同 上 山形縣飽海郡昆蟲研究會
教育用標本 岐阜縣本巢郡昆蟲研究會第六部落

○參等賞（木杯壹個） 二十二名

分類標本 岐阜縣惠那郡敎育會
同 上 愛知縣渥美郡昆蟲研究會
同 上 岐阜縣安八郡農會 安八郡昆蟲研究會
同 上 岐阜縣武儀郡害蟲驅除講習修業生
同 上 岩手縣膽澤郡水澤町下飯坂武次郎
同 上 岐阜縣師範學校第二年級生徒有志者
同 上 岡山縣邑久郡昆蟲研究會
害蟲標本 愛知縣南設樂郡新城町松崎種次郎
同 上 岐阜縣稻葉郡昆蟲研究會
害蟲標本 愛知縣中島郡農友會
同 上 岐阜縣本巢郡昆蟲研究會害蟲驅除講習修業生
同 上 靜岡縣濱名郡白須賀町農會
益蟲標本 愛知縣南設樂郡新城町松崎種次郎
同 上 靜岡縣濱名郡白須賀町農會
同 上 宮城縣志田郡昆蟲研究會
教育用標本 岐阜縣羽島郡松倉小學校長津屋基
同 上 岐阜縣惠那郡敎育會
裝飾用標本 岐阜縣安八郡大垣町森宇多司
同 上 岐阜縣海津郡昆蟲研究會
同 上 岐阜縣羽島郡農會
同 上 岐阜縣稻葉郡昆蟲研究會
同 上 岐阜縣山縣郡昆蟲研究會

○四等賞（褒狀） 三十名

分類標本 岐阜縣羽島郡岩越金次郎
同 上 岐阜縣本巢郡昆蟲研究會第五部落
同 上 三重縣志摩郡鵜第村大矢圓三郎
同 上 岐阜縣加茂郡昆蟲研究會第五支會
同 上 三重縣桑名郡七取村伊東照代
同 上 岐阜縣羽島郡松倉小學校長津屋基
同 上 三重縣三重郡大矢知村後藤幸吉
同 上 岐阜縣吉城郡農會員後藤三喜藏
同 上 京都府與謝郡丹後昆蟲研究會
同 上 宮城縣名取郡名取昆蟲研究會
害蟲標本 岐阜縣海津郡昆蟲研究會

同　上　大阪府中河内郡玉川村藤戸作治郎
同　上　岐阜縣不破郡農事昆蟲研究會
同　上　奈良縣生駒郡農事試驗場長中野末喜
同　上　富山縣射水郡片口村江尻豊太郎
同　上　臺南縣廳內中村辰治
同　上　山形縣東置賜郡屋代村高橋清兵衛
益蟲標本　香川縣香川郡農事試驗場福家梅太郎
同　上　富山縣射水郡片口村江尻豊太郎
同　上　岐阜縣羽島郡農會
教育用標本　岐阜縣加茂郡昆蟲研究會第五支會
同　上　岐阜縣本巣郡昆蟲研究會第四部落
同　上　愛知縣渥美郡昆蟲研究會
裝飾用標本　岐阜縣羽島郡松倉小學校長津屋基
同　上　岐阜縣不破郡農事昆蟲研究會

裝飾用標本　岐阜縣土岐郡昆蟲學會
同　上　岐阜縣本巣郡昆蟲研究會第六部落
苗代捕蟲器　三重縣阿山郡興農會
半圓形捕蟲器　愛知縣渥美郡細谷村村田照二
直翅類展翅板　岐阜縣郡上郡八幡町　鹽田健藏　西原吏恭

○三等賞（木杯壹個）　二名

冬期採集昆蟲標本　岐阜縣揖斐郡温知尋常高等小學校
同　上　岐阜縣安八郡大藪尋常高等小學校

○四等賞（褒狀）　三名

冬期採集昆蟲標本　岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻尋常高等小學校
同　上　岐阜縣揖斐郡鶯尋常小學校
同　上　岐阜縣加茂郡八百津尋常高等小學校

參考出品及び雜事

開會中の雜件を一々こゝに收錄すれば頗ぶる多岐にわたるを以て主要のもの二三を記し置かんに、觀覽者中に貴紳に博士に學者に當時の名家多かりしは最とも榮譽とする所ろにして又參考品出品者中、岐阜市勅使河原合資會社は多數の紙製品（昆蟲摸樣）を陳列せられ、同市林正一氏は廻轉器を考案製作の上觀覽に供せられ、名古屋市旭商會はアセチリン瓦斯の効用を示さんが爲めに特に採集燈を發明出品せられ同市小川弘水氏も書幅及び武具に昆蟲を應用せる愛藏品の陳列を快諾され、同市守隨鐘三郎氏は漆器及び書帖書幅を出品せられ、東京市有隣堂、與農園、王子製紙株式會社氣田製紙分社、田中李次郎氏等はそれ〳〵商品の出品を承諾せられ、石川縣廳及び宮城縣廳に特に展覽會事業を翼賛せられて蟲供養碑の搨本若くは寫本を寄贈せられ、本會長田中芳男氏は幾多の參考書及び昆蟲に關する物品を出陳若くは寄贈せられ爲めに一層の利益と光彩とを添へられたれば、爰に書して感謝の意を表すると共にまた大垣町西

濃印刷株式會社、岐阜市濃陽舘、同市武藤蟲屋旅店等が煙火、音樂隊、裝飾用提灯等を寄附せられたるの厚情を謝す、その他なほ列記すべきものあれども追て發表するの時機ありと信すれば爰に筆を擱く。終りに云ふ、閉場後、或ひは出品の送還に或ひは殘務の整理に着手し、今やその大半を終結せりと雖ども出納處分に至りては尙ほ十數日を要すべし、故にこゝに其顛末を述ふる能はざるも大躰を言へば收入豫算を增加せると共に支出豫算また其範圍を破りたるは明白とす、而してその精算の如きは之を後號の本誌上に公示して本會關係者並びに寄附者の一覽に供へんとす、尙ほ會期間の縱覽者總數、出品點數、出品府縣、出品人員等の如き統計的に屬するものは擧げて本記事に揭けずと雖ども、是は會長式辭、審査長報告、事務委員長申請書等に悉したりと信すれば就て閱讀あらんことを望む、これを以て本會の記となす。（完）

◉昆蟲展覽會役員出入　第一回全國昆蟲展覽會總裁花房男爵には開會式に臨まるゝ爲め四月十五日を以て來岐濃陽舘に投宿せられしが翌十六日夕發瀛車にて歸京せられ、開會前より來會せられたる小貫審査長は五月十四日を以て當地出發しぬ、田中會長には三十餘日間淹留の上會務を監督せられしが五月十九日を以て一先その僑居を引拂はれ同廿七日を以て再たび來岐、殘務の整理を指揮の上同三十日出發せらる、又本會顧問にして來觀されしは酒勾博士、澤野博士、堀理學士、堀農學士、小幡農學士等なりしが、米國農務省昆蟲部次長ドクトル、マーラット氏夫妻も來會一覽の後快よく顧問を承諾せられき。

◉第八回全國害蟲驅除講習會　同會につきては第七回講習未了の際より申込者非常に多かりしも、全國昆蟲展覽會その他の用件のため開期を決定するに到らざりしが愈々七月十五日開講、同月廿八日終講の事に取極め此程その旨を各府縣廳まで通知せり、尤とも夏期のことゝ云ひ敎室寄宿舍等の都合もあれば定員外の申込は謝絕して後回に繰下の筈なれば希望者は期限前に成規の手續をなさるゝこそ宜けれ。

◉害蟲の發生果して多し　今年一二月の氣候に徵して農作害蟲の加害多からんことを氣づかへ嘗て本誌上に警戒の記事を揭げ置きしが、近頃全國各府縣よりの通信及び農商務省への報告等を照合するに何れの地方も皆浮塵子、螟蟲の害は勿論、園藝山林の害蟲に困難し居るものゝ如し、寒心の至りと謂

ふべし。

◉マーラット博士の來朝　米國の昆蟲學者博士マーラット氏が本邦に於けるサンノゼー貝殼蟲及びその天敵調査用件を帶び來朝すべき旨は豫報の如くなるが氏は夫人同伴にて去四月下旬東京附近より靜岡縣下を調査の上、當岐阜市に來られ三日間滯在の後、大垣京都を經て北國に赴むき昨今は九州地方を跋渉中の由なるが、歸途は再たび當地に立寄り本月中旬頃一旦東京に出て、更に東北地方より北海道に赴かるゝ豫定にて本邦滯在日數は半年間なりと、又此行に加はり説明の勞を取り居らるゝは農商務省農事試驗場技師堀健氏なるが氏の物語に依ればマ博士は貝殼蟲中のサンノゼー種に於ける專門家にて先年コロンバス大博覽會の折の如きは最とも盡力せる人なりと。

◉農商務省と害蟲　今年に於ける農商務省は槪して農作害蟲豫防驅除に重きを置かるゝものゝ如く、早春各府縣に向つて先づ豫防の訓諭を下し、次に全國農事試驗場長會議に於ても種々の要件を容れ、次に近ごろ農事試驗場員數名を各被害地に派遣して視察せしめぬ、農事上の一進歩として慶すべきなり。

◉本誌第四十五號の發行に就て　昆蟲世界第四十五號すなはち本號は五月定期日に發行すべきのところ第一回全國昆蟲展覽會記事を兩分するは好しからざるのみならず、俗事紛雜の際に輕々執筆して誤錯を傳へんよりは寧ろ期日を遲らすとも其經過の顚末を一括して實事を報道せば彼我共に利便ならんとの意見より斯くは違例に出でしなり、去れど本月すなはち第四十六號分よりは舊に復して定日に發刊すべく、又本號に漏れたる數多の通信寄書の類も成るべく同號に揭載せん臆算なれば其心して待たれよ。（編者誌）

◉害蟲驅除の縣令頻々たり　昨年宮城縣に於て短冊苗代田强制施行の嚴令を發布し其効果を收めしより漸次各縣に於ても、これと類似の布令若くは違警罪に問ふとの縣令を發布せるもの多く現に香川、富山兩縣及び大阪府の如きは最とも熱心に普及を圖り居るが如しと云ふ、但危ぶむ所ろのものは害蟲驅除の勵行を寄貨とし多費少利の驅除劑を販賣せんとする奸商の跋扈如何にあり、利と害とは恒に相伴ふとは云へ、或る博士證明の名の下に此種の藥劑を持廻りし者ありきと、愼重の注意あらまほし。

◉第廿九回岐阜昆蟲學會　同會第二十九回月次會は五月四日名和昆蟲研究所內に開會せり、今回は全國昆蟲展覽會開設中なるを以て匆忙言はん方なかりしも例により定日に開けるなり、開會の初名

和昆蟲研究所長は開會の挨拶と共に將來の方針に就て談せられ、續て田中全國昆蟲展覽會長は昆蟲展覽會より說き起し今を去る二十年前氏が勸農局に關係ありし頃大いに全國の農作害蟲驅除に力を用ゐられし事より當時暦本の中欄に腐草化して螢と成るとあるが如き妄說を除去する爲め內務省と交涉したる顚末に及び次に歐米の書籍を斟酌して害蟲に關する書籍を著はされし實歷談に移り當時熱心に害蟲驅除を唱導したるは鳴門、練木兩氏なりしが之を稍大成せしは名和氏が昆蟲研究の結果なりと論結せり、次に名和所長は昆蟲學を修めし經歷の大要を述べ散會せり、會衆は二十餘名にして時正に五時なりき。

◉馬尾蜂の冤罪　去る三月十九日の報知新聞は、無慘にも馬尾蜂をば害蟲呼はりして、圖解的雜報を載せ、また日出國新聞にも神變不可思議の圖を挿入して蜂躰を分拆するの雜報をさへ掲げらる、流石不敵の益蟲もこれには恐縮して隨喜千行の涙を雨ふらしたるなる可し、何はとも、社會の反射鏡に珍說異聞の一として斯かる無稽の記事の持囃さるゝ間は、國民の昆蟲學思想の程も推測られて、最と哀れに感せらる、唐の羅隱の句に采得百花成蜜後。不知辛苦爲誰甜。昔しも今も蜂族の人類に甞めらるゝ味ひは同じかりけり、報知はいはく

○大馬虫の發見　去る十六日埼玉縣北足立郡土合村大字鹿手袋農永堀儀助が同郡六辻村大字別所の山林中にて、梨の木を伐採せし所、其の大ウロ穴より三疋の大馬蟲と云ふ害蟲を取押へ、浦和警察署へ屆け出でたるが、此の大馬蟲は農家の最も恐るべき大毒虫にして一度馬の耳に觸れば忽ち斃死すと云ふ、其身躰は挿畫に示す如くにして飴色にて背部の中央に二個の黑點あり、長さ一寸、尾髮の如き者にて尻より長さ八寸餘の者三筋に分れ一見蜂の如き体裁なりと

◉同窓會員への通知　何事につけ舊套を脫却して新機軸を出すに熱中せる第七回全國害蟲驅除講習會員は茶話會の席上に於て同窓會への加盟を決議し、次でこれと隨伴せる諸種の件々を協量の上、別紙寫の如き通報を同會員一同に對つて發送したりきと。

拜啓小生等は第七回全國害蟲驅除講習生として先頃來當所に參集致居候處曩に貴下等前進諸君の御計畫相成候同窓會に加盟の上、大日本昆蟲學會設立の件及び同窓會友の通報機關として雜誌「昆蟲世界」を義務講讀の件をも滿堂一致を以て協定なほ其旨を會員に通知の件をも議決仕候間右御承知置相成り候樣奉懇願候

國民の昆蟲に對する觀念は概して幼稚にして中には迷信の結果却つて進步的農業を嫌惡する頑陋者も

多々有之、斯くては斯業の發達を期し難き次第に付何とかして一般に蟲類の習性經過の大要計りも示し申度そが最良手段の一として本會機關雜誌の頒布區域を伸張周密にし、居なのふよして名和先生の高論、諸先輩の實驗説を始め同窓會員の動靜をも知ると同時に本會員の主義方針をも公表し、兼て此等迷信妄語を一日も速く國民の腦裏より脱却せしめ度存居り候

前陳の次第に付貴下には直接斯道に御盡瘁相成ると共に極力雜誌の購讀者をも御勸誘被成下候はゞ國家の利益不少の事と存居候、右小生等の希望を開陳旁々議決事項御報道まで如此に御座候、時節柄爲斯道御自愛奉祈上候敬具

明治三十四年三月十三日岐阜市名和昆蟲研究所に於て

第七回全國害蟲驅除講習會員總代

小山新太郎㊞　森莊之助㊞　堀内英力㊞　齋藤啓二㊞　高多信久㊞　濱田正一㊞

◉第七回全國害蟲驅除講習會修業生姓名

前號に約せる第七回全國害蟲驅除講習會修業生の出身地、姓名生年月及ひ履歴の大要は左記の如くなり。

組別	縣別	郡市名	族籍	役名	姓名	生年月	履歴摘要
第壹組	石川	石川郡	平民	組長	高多信久	明治八年八月	縣農學校修業、郡農會農事調査員、耕地整理實査設計ニ從事
	長野	上伊那郡	平民		大槻清比古	明治六年十二月	高等小學卒業、小學教員、簡易農學校冬期教科修了
	三重	鈴鹿郡	平民		森龜松	明治十五年七月	高等小學卒業、縣農事講習所修業
	鳥取	岩美郡	平民		濱田正一	明治十六年十二月	實業團躰事務所書記、郡農事試驗場書記、組合役場書記奉職中
第貳組	宮城	名取郡	平民	組長	堀内英力	明治七年一月	郵便電信書記補、動植物學研究、縣中學校囑托教員、舘腰小學校訓導
	兵庫	三原郡	平民		中野壽郎	明治十三年六月	高等小學卒業、郡農事講習會修業、郡農事試驗場奉職中
	福岡	鞍手郡	平民		青柳才次郎	明治十一年十二月	大分縣農學校卒業、奈良縣農事試驗場奉職中
	三重	河藝郡	平民		行方甚次郎	明治十四年二月	郡養蠶傳習所及縣農事講習所修業蠶種檢査所事務員、縣農會書記

組	府縣	郡	族籍	役	氏名	生年月	經歷
第三組	福島	石城郡	平民		箱崎專治	明治十年十月	高等小學卒業、縣農事講習會全科修業、農業ニ從事
	靜岡	田方郡	平民		石井注平	明治四年七月	高等小學卒業、縣農事講習會修業、農業ニ從事
	三重	安濃郡	平民	組長	內藤石之助	慶應二年九月	小學校授業生、縣蠶業講習會修業、村助役就職中
	三重	河藝郡	平民		三村貞吉	明治十五年六月	高等小學卒業、河藝郡役所雇
第四組	新潟	刈羽郡	平民	級長	櫻井熊治	天保十三年十一月	郡勸業委員、郡農會評議員、郡農事試驗場助手事務員、農業ニ從事
	宮城	名取郡	平民	組長	加藤濱之助	慶應二年九月	小學校農業科教員、岩沼高等小學校訓導在職中
	靜岡	富士郡	平民		佐野昇	明治八年十一月	普通學修業、蠶業修業、蠶種檢査員、縣農會農事講習會修業
	愛媛	溫泉郡	平民		森莊之助	明治三年十一月	普通學修業、小學校教員、村役場書記、銀行書記
第五組	三重	河藝郡	士族	組長	小川正美	元治元年十一月	小學教員、農業ヲ修ム、郡書記、農業ニ從事ス
	宮城	名取郡	士族		棟方儀七郎	明治元年七月	縣農學校卒業、郡試驗場技手、郡農事巡回教師
	佐賀	杵島郡	平民		諸富宇三郎	明治十四年九月	高等小學卒業、簡易農學校卒業、農業ニ從事ス
	山梨	北巨摩郡	平民		功力幸平	明治十四年十月	普通學修業、村役場書記就職中
第六組	愛媛	越智郡	平民	組長	矢野延能	安政五年十二月	郡雇、村長、郡農會理事、米穀取引所支配人、紡績會社員、農業ニ從事
	鳥取	岩美郡	平民		宮脇松太郎	慶應二年二月	簡易農學校乙科卒業、郡農事試驗場技手奉職中
	三重	安濃郡	平民		中村三郎	明治十二年八月	養蠶傳習會、農事講習會修業
	宮城	加美郡	平民		加藤治三郎	明治四年二月	普通學修業、郡農事試驗場雇、郡農事巡回補助教師及雇
第七組	熊本	飽託郡	士族	組長	大岩康	明治六年十月	高等小學卒業、私立諸學校修業、宇土郡役所臨時雇奉職中
	鳥取	氣高郡	平民		門脇正輝	明治十六年三月	高等小學卒業、農事講習會修業、農業ニ從事
	長野	上伊那郡	平民		丸山盛藏	明治七年二月	高等小學卒業、縣農會農事講習會修業、農業ニ從事
	三重	河藝郡	平民		坂三次郎	文久三年四月	普通學修業、短期農事講習會修業、農業ニ從事

第八組	熊本	阿蘇郡	士族	組長	川口良重	安政四年十二月	普通學修業、醫術ニ從事、村會議員、郡會議員、村長就職中
	宮城	栗原郡	平民		村山研	明治八年十一月	縣農學校卒業、郡農事巡回教師、郡農學校助教諭郡試驗場技手
	大分	直入郡	士族		二宮暉吉	慶應二年十月	醫學修業、檢疫委員、醫學講習會修了、實業ニ從事
	三重	北牟婁郡	平民		中川林亮	明治三年十二月	郡農事講習及縣農事講習會修業、村農會長、郡農會評議員
第九組	山梨	北巨摩郡	平民	組長	溝口登	明治四年十一月	縣農會農事講習會修業、郡農會共進會事務員
	三重	名賀郡	平民		竹森周治郎	明治十年十二月	高等小學卒業、郡縣農會農事講習會修業、農業ニ從事
	三重	河藝郡	平民		棚瀬助太郎	明治十年四月	高等小學卒業、郡養蠶傳習及短期農事講習會修了、養蠶講習所修業
	宮城	志田郡	平民		早阪賢藏	明治十二年十二月	縣農學校卒業、農業ニ從事
第十組	熊本	熊本市	平民	組長	小山新太郎	明治四年八月	高等小學卒業、中學師範二校ニ於テ修業、縣雇奉職中
	鳥取	氣高郡	平民		清水恒藏	明治十四年三月	尋常小學補習科卒業、郡雇、農業ニ從事
	佐賀	杵島郡	平民		江頭和太郎	明治十六年五月	縣農學校別科講習修了、農業ニ從事
	山梨	中巨摩郡	平民		渡邊重義	明治十一年八月	普通學修業、縣農會講習會修業、農業ニ從事
第十一組	千葉	印旛郡	平民	組長	齋藤啓二	明治七年五月	高等小學卒業、郡農事講習會修業、植物學研究、農業ニ從事
	千葉	印旛郡	平民		島田榮藏	明治十二年十二月	高等小學修業、農事講習會修了、農業ニ從事
	岩手	稗貫郡	平民		晴山立郎	明治六年七月	高等小學卒業、農業ニ從事
	熊本	阿蘇郡	平民		岩下文藏	明治十三年八月	高等小學卒業、阿蘇郡役所雇奉職中
第十二組	三重	多氣郡	平民		阪口幸之助	明治十年六月	高等小學卒業、郡農事講習會修業、農業ニ從事
	靜岡	引佐郡	平民		手塚濱太郎	明治元年三月	農事講習會修業、郡縣農會試驗地耕作擔當
	三重	河藝郡	平民	組長	大泉源之助	慶應三年十月	高等小學卒業、縣農事講習所乙科卒業、郡農會米作改良委員
	千葉	安房郡	平民	副級長	鈴木周太郎	安政元年六月	戶長、副戶長ヲ經テ郡書記、安房郡書記奉職中

第十三組						
岩手	稗貫郡	平民		梅津善次郎	明治七年六月	高等小學卒業、農商務東京蠶業講習所別科修業、郡養蠶巡回教師
熊本	菊池郡	平民	組長	伊藤省己	明治六年六月	島廳書記、郡書記害蟲驅除豫防及米穀改良委員、共進會委員
靜岡	引佐郡	平民		内山豐作	明治十年九月	農事講習會修業、農業ニ從事
鳥取	鳥取市	士族		山根五百藏	安政四年十二月	稻作改良試作擔當、農業ニ從事
廣嶋	佐伯郡	平民		住田史郎	慶應二年六月	蠶種檢查員、郡農會試驗委員、香川縣仲多度郡農事試驗場長

◉本號及ひ次號の口繪　是は或る意味ありて本號卷首に挿入せしものなるも餘白なきを以て次號講話欄に於て委しく説明する所あらんとす、尙ほ次號には全國昆蟲展覽會に關係せる寫眞銅版を載すべし。

◉名和當所長の受賞　當昆蟲研究所長名和靖氏は去月十四日附を以て内閣賞勳局より藍綬褒章を下賜せられぬ、其全文は別紙同窓會報告にあれば就て看られよ。

◉苗代田害蟲豫防的驅除の必要　箇は今更言ふまでもなけれど、今年は特に油斷すべき年柄にあらずと思はるれば養蠶の多忙に紛れて之を怠懈する如きことあらんには去る三十年に於ける悲慘を再演せずとも限らず成るべく小學生徒の如き多數の力によりて共同驅除を行ふこそ肝要ならめ。

◉出張講習に就て　本年は如何なる譯にや各縣より出張講習の申込多きも到底これに應じ難きを以て名和所長は二ヶ處、他は三四ヶ處の需めに應ずることゝなせり、何れ其景況は追て報道すべし。

◉大日本農會の夏期講習會　同會は來る八月一日より附屬東京農學校に於て三週間開會の筈なるが其中昆蟲學の講師は農學士小貫信太郎氏なりと云へり。

◉名和昆蟲研究所の標本室　當所の標本陳列室は從來狹隘なりしが今回之を取擴け來覽者の便利を圖りたれば斯學に志ざしある人は遠慮なく來訪ありたし

◉大西捕蟲器

こゝに圖したるは第三回全國害蟲驅除講習修業生大西忠太郎氏の發明せる捕蟲器にて專はら苗代田害蟲驅除用に充つる目的により考案せしものゝ由なるが九州地方に向け多く販路を擴めたりと、ろも本器は昨秋の創製に成り未た實驗を經たるにあらされば効驗の多少實用の適否は之を言ふ能はざるも、其此種の器機に改良を加へしは過般の全國昆蟲展覽會に於ける觀覽者の評言に徵すべし兎もかく時節柄農業家の參考までに玆に掲く。

◉全國害蟲驅除講習會規則更正

來る七月十五日より開會の全國害蟲驅除講習會に就き前項に記載する所ろありしが尙は入會志願者のために少しく注意し置かんに、從來講習生の資格は年齡十五年以上なりしを滿二十年以上と更め講習科目中に新たに昆蟲分類法、昆蟲生理學及び本邦昆蟲發生史の大要を加へ大いに應用上の利便を圖ることゝなせり、又入會申込期限は本月三十日なるも是れたゞ標準を示せしに止まれば滿員外の場合には申込の順序を以て許諾することに內定せり、因みに云ふ前回即はち第七回までに入會修業せしは三府三十六縣の志願者三百四名なるが更に之を細別すれば左表の如くなり。

府縣名＼開會數	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	計
東京府	—	—	—	—	—	一	—	一
京都府	七	八	一	三	一	二	—	二二
大阪府	—	—	一	—	—	一	—	二
神奈川縣	—	—	一	—	—	一	—	二
兵庫縣	二	二	二	一	二	二	一	一二
長崎縣	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟縣	—	—	—	—	—	一	一	二
埼玉縣	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬縣	—	一	二	—	—	—	—	三
千葉縣	—	—	—	—	二	—	三	五
茨城縣	—	—	—	—	—	—	—	—
栃木縣	—	—	—	—	—	—	—	—
奈良縣	—	一	—	—	一	一	—	三
三重縣	三	七	八	一	一	一〇	三	四二
愛知縣	八	三	—	三	五	一	—	二〇
靜岡縣	二	三	三	—	六	一	四	一九
山梨縣	二	—	五	一	—	一	三	一二
滋賀縣	—	—	二	—	—	—	—	二
岐阜縣	五	一	七	二	三	二	—	二〇
長野縣	二	三	—	一	二	二	二	一二
宮城縣	—	—	二	—	—	一	六	九
福島縣	—	一	—	—	—	—	—	二
岩手縣	一	—	—	—	—	四	二	七
青森縣	—	—	一	—	—	—	—	一
山形縣	—	—	六	一	—	—	—	七
秋田縣	—	—	一	—	—	—	—	一

府縣名＼開會數	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	計
福井縣	一	五	—	—	五	三	—	一四
石川縣	—	—	—	—	二	—	一	三
富山縣	—	—	一	一	—	—	—	二
鳥取縣	—	—	一	—	一	三	五	一〇
島根縣	一	一	—	—	一	一	—	四
岡山縣	—	—	一	—	—	一	—	二
廣島縣	—	一	—	—	—	—	一	二
山口縣	一	—	—	—	一	一	—	三
和歌山縣	一	一	—	七	一	三	—	一三
德島縣	—	—	二	—	四	一	—	七
香川縣	一	—	—	—	—	—	—	一
愛媛縣	一	—	二	一	—	一	二	七
高知縣	—	—	—	—	—	二	—	二
福岡縣	—	—	—	—	—	—	一	一
大分縣	—	一	—	—	—	四	一	六
佐賀縣	—	—	三	—	—	—	二	五
熊本縣	一	—	—	—	—	—	五	六
宮崎縣	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿兒島縣	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一府十五縣三十九名	一府十四縣三十九名	二府十七縣四十九名	一府十一縣三十五名	一府十五縣三十八名	三府廿二縣五十一名	十八縣五十三名	三府三十六縣三百〇四名
開會月日	三十二年從九月廿五日至十月八日	同年從十一月廿五日至十二月八日	三十三年從三月廿一日至四月三日	同年從六月一日至同月十四日	同年從七月廿六日至八月八日	同年從十一月廿一日至十二月四日	三十四年從三月一日至四月十四日	

（以上六月二日脱稿）

○害蟲圖解出版廣告

◉第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(三版)
◉第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
◉第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
◉第四煙草害蟲タバコノアオムシ(煙草螟蛉)
◉第五桑の害蟲イチモジセヽリ(苞蟲)
◉第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姬象鼻蟲)
◉第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)
◉第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ(螟蛉)
◉第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
◉第十豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盜蟲)
◉第十一桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
◉第十二稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
◉第十三桑樹害蟲イトヒキハマキムシ

◉印は既版の分

○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗螽)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)

○印は逐次出版の分

◉圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
◉壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
◉百枚以上一纒代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

◉豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢
但申込の際前金添附の事

圖解代金　凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用一割增の事

右害蟲圖解第一より第十三迄は既に發行を終へ江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易くせる必須のものたり故を以て岐阜縣に於ては既にこれを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依て當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　**名和昆蟲研究所**

紫雲英種子販賣

一本種子は昨年始めて本誌上に廣告せし處各地方の農會或は農家諸彦の御愛顧を蒙り御購入の榮を得候段難有奉存候猶本年は一層純良なるもの澤山栽殖致候間左記御熟讀の上多少に不拘舊に倍し御注文の榮を賜へ

一早中晩三種共御希望の諸君は來る七月十日迄に御申越し被下度候

一代價は種子採收の后相定め御注文の向へ御報知可申候

一農會の外總て前金にあらざれば發送不致候

一爲替金は岐阜縣本巣郡船木村美江寺郵便局振込小生へ宛て御送金有之度候

岐阜縣本巣郡船木村
岐阜縣本場
紫雲英販賣者　名和爲吉

大西捕蟲器發賣廣告

(專賣特許)

捕蟲器

◎本器は苗代、本田兼用の捕蟲器にして改良短册苗代には尤とも適當なり

◎本器は苗代に入らず、唯だ畦上にありて最も輕便に使用し得らるゝなり

◎本器は諸害蟲を漏なく捕獲し得るは勿論浮塵子の如きは全滅し得るなり

◎本器は各府縣農業實驗家の好評を得尤とも實効あることを証明せられたり

◎本器は一人一日に苗代では貳町五反歩、本田なれば貳町歩捕蟲し得らる

製造元
發明者　兵庫縣多紀郡今田村字市原　大西忠太郎

附言　本器の特約販賣及び製造販賣を望まるゝ方は至急申込あれ創業祝として原價の壹割引の事(但一町村壹名)

◉專賣特許出願中◉

●苗代田用アセチリン害蟲驅除燈發賣●

名古屋市傳馬町四丁目
名古屋旭商會
（電話番號特五七六番）

此の害蟲驅除燈は當商會の發明に係り過般全國昆蟲展覽會に出品して公評を博せるものにて光輝十分、普通のランプ驅除燈十個以上の光力を有するに關はらず、價額低廉にして實用に適せるは堅く保證する所なり

既に名和昆蟲研究所に於ては夜々試驗の結果其有効有益なるを證明せられたるにても之を知り得べし、時節柄各級農會の御試用を俟つ

（アセチリン害蟲驅除燈圖）

東京市本八丁堀五丁目一番地
東京旭商會

●農事試驗場及ひ府縣郡農會に急告す●

秤御買上ノ諸君ヘ御注意ノ爲メ急告

一秤ハ何種ニ拘ハラズ㊞ノ商標幷ニ守隨製ノ打込印ヲ御認メノ上御買入相成候事必要ニ候
一㊞ノ商標幷ニ守隨製ノ打込印ナキ者ハ拙店ノ製品ニ無之候
一拙店ノ製品ニアラザルモノハ多ク原料粗悪ニシテ耐久ノ見込無之候
一耐久ノ見込ナキハ今回ノ定期檢定成績ニ於テ既ニ御了解相成候ト存候
一耐久ノ見込ナキノミナラズ損所修覆ノ時原料ノ取替又ハ各異形ノ爲メ非常ノ手數ヲ要シ候
一非常ノ手數ヲ要シ候故ニ修覆料モ亦隨テ高價ニ相成候
一修覆料ノ高價ニ止マラズ無據御斷リ申上候品モ澤山有之候
一拙店ハ三百年來斯業ニ從事シ陸軍省所有ノ大砲掛秤鐵道局使用ノ車輛掛秤臺灣總督府ノ標本秤等ヲ製造セシノミニテモ技術ノ巧妙ニシテ堅牢ナル製品ヲ出スコ明白ニ候
一拙店ハ全國ニ於テ三支店四分店四十出張所七百八代理店ヲ有シ修覆又ハ取次ヲナサシムルヲ以テ損所修覆ノ際ハ獨得ノ便利有之候
一定期檢定ヲ受ケザル秤又ハポンド目カン／＼等ヲ御使用相成候方往々見受ケ候得共右ハ法律上嚴罰有之候間速ニ御棄却可被成候
右ハ將來秤御買入ノ諸君ニ對シ豫ジメ御注意申上候也

漆器營業種目

美術漆器、一閑張、張拔、螺鈿入漆器、朱塗物、重箱、本膳椀椀盛、菓子椀、吸物椀、折敷膳、會席膳、吸物膳、菓子器、杯洗、盃類、盆類、鏡臺、針差、枕類、鏡類、額縁、塗板額、貿易漆器、紀念木杯、卷煙草箱、料紙文庫、硯箱、香合、棗類、香盆、小箱、塗煙草盆、行燈、衣桁、切手盆、机類、簪箱類、下駄箱、紅葉箱、簞笥、長持、用簞笥、櫛簞笥、膳簞笥等ハ御注文ニ依リ十分入念調製可仕候
御嫁入道具、家具類、玩弄物ヲ始メ其他漆器類一切營業可仕候
特ニ蒔繪ハ自宅ノ工場内ニ技師雇入レ有之ニ付美術蒔繪ハ無論其他意匠圖案ノ求メニ應ズ

名古屋市榮町壹丁目

度量衡
漆器業 ㊞ **守隨本店**

（電信略語 シスイ）
（本町参百番）

◎購讀者諸君へ公告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候處往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

明治三十四年五月

岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所

昆蟲世界會計部

昆蟲學用器具雜誌

●殺蟲注射器　定價金廿二錢荷造八錢　送費百里迄八錢外十六錢

●益蟲保護器　定價金八十錢荷造十九錢　送費百里迄廿錢外四十錢

●米國新形撿蟲鏡　定價郵稅共金一圓十錢

雜誌昆蟲世界合本出來廣告

第一巻第二巻大品切

本邦唯一の昆蟲雜誌（第三第四卷）

昆蟲世界合本

（壹卷金壹圓貳拾五錢）

西洋綴金文字入美裝

名和昆蟲研究所

◎昆蟲學用書籍寫眞廣告

名和昆蟲研究所長名和靖著

五版　薔薇の一株　昆蟲世界　全

定價貳拾錢郵稅貳錢郵券代用一割增

●理學博士佐々木忠次郎先生著　日本農作物害蟲篇　郵稅共定價金貳圓

●農學士松村松年君著　增訂四版日本昆蟲學　定價金壹圓七拾錢郵稅金拾貳錢

●同君著　增訂三版日本害蟲篇上下二冊　定價金參圓參拾錢郵稅金貳拾錢

●同君著　害蟲驅除全書　定價郵稅共金九拾五錢

●鳥羽源藏氏著　昆蟲標本製作法　一　定價金貳拾五錢郵稅四錢

●農學士松村松年君著　日本有益蟲一覽　定價郵稅共金貳拾錢

●コロンボス世界博覽會出品　害蟲標本寫眞帖（三十三枚張）　定價金貳圓送費百里迄拾貳錢外貳拾四錢

●皇太子殿下獻上　中等教育用昆蟲標本寫眞帖（十六枚張）　定價金九十六錢送費百里八錢外十六錢

取次所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

明治三十四年六月四日發行

昆蟲世界

每月一回十五日發行

第五卷第四十五號

（明治三十年九月十日内務省許可）（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◉昆蟲世界購讀者諸君芳名

千葉縣 土屋理一郎君（一名）
東京府 林 壽祐君（一名）

◉寄附物件受領公告

一金貳拾五圓也 岐阜市 佐々木曠君
一金拾五圓也 京都市 大谷尊重君
一金五圓也 同 市 波多野鶴吉君
一金貳圓也 岐阜縣 西堀彌市君
一金壹圓也 東京市 本山陀吉君

右當所ニ寄附相成候ニ付芳名を掲げて茲に其厚意を謝す

五月 名和昆蟲研究所

◉岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演説に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上

但該會へは縣の内外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

名和昆蟲研究所内
明治三十四年六月 岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し

第三十一回月次會（七月六日） 第三十四回月次會（十月五日）
第三十二回月次會（八月三日） 第三十五回月次會（十一月二日）
第三十三回月次會（九月七日） 第三十六回月次會（十二月七日）

⋮ 市街界
‖ 案内道
| 町道
イ 研究所
ロ 縣廳
ハ 病院
ニ 中學校
ホ 監獄
ヘ 郵便局
ト 西別院
チ 公園
リ 長良川
ヌ 金華山
ル 停車場

◉名和昆蟲研究所案内

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町 名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部 郵税共 金拾錢 （見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）
壹年分拾貳部郵税共 金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金ニ非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿二字詰一行ニ付金拾貳錢、三十行以上一行ニ付金拾錢とす

明治三十四年六月四日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）
發行所 名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二 發行者 名和梅吉
同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戸 編輯者 桑原貫之助
同縣安八部大垣町大字郭百五十三番戸 印刷者 河田貞城

（大垣西濃印刷株式會社印刷）

Vol.V. JUNE 15TH, 1901. No.6.

(六月十五日發行)

(毎月一回十五日發行)

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

第四拾六號　(第五卷第六册)

(明治三十四年六月十五日發行)

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

目次　(禁轉載)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一銅色繪蜻蛉形釘隱　二個
一群蝶蒔繪莨箱　五枚
一昆蟲類印刷繪
一富山市製キリギリス籠　二本
一昆蟲摸樣團扇
一木蛾ニ類する大蛾(支那産ナランン)二頭
一金綱製蠅叩　八本

貴族院議員　田中芳男君

一高千穗昆蟲學研究所寫眞　福岡縣　男爵　高千穗宣麿君
一千葉縣香取郡勸業報告　千葉縣　大竹義道君
一石川縣石川郡安原村村是　石川縣　高田久兵衛君
一花蝶燒付硝子廣口壜　岐阜縣　山田廣太郎君
一蠶蛾摸樣繭形火入　岐阜縣　敕使河原直次郎君
一蝶畵時計下ヶ振(万古燒)三重縣　丹波修治君
一蝶摸樣平皿(金華山燒)　岐阜縣　福田金次郎君
一珊瑚珠蝶形天止　岐阜縣　各務龜太郎君
一絹製昆蟲花簪　三本　愛知縣　船橋好守君
一桑ニ繭形帽子徽章　京都府　辻原七五三之助君
一八町蜻蛉　二頭　愛知縣　水谷助六君
一扇面ニ百合蝶蒔繪莨箱　石川縣　由田辰二君
一群蝶蒔繪莨箱　靜岡縣　岡田忠男君
一蠟色ニ金群蝶蒔繪莨箱　岐阜縣　天野秋二君
一蝶に雀芝山入小箱
一蝶ニ秋草摸樣盃　愛知縣　守隨鐘三郎君

右當所へ寄附相成候ニ付芳名を掲げ其厚意を謝す

六月　名和昆蟲研究所

第八回全國害蟲驅除講習會員募集

開期(自七月十五日至同月廿八日)貳週間　定員四十名

夏期に於ける害蟲驅除講習の利益と興味とは今これを說明するを須たず、希望者は六月三十日以前に成規の手續を經て申込まれ、但し期限前と雖も定員外に達したる時は入會を謝絕することと前回に同じ。

規則書入用の向は郵劵封入の上至急照會あれ、直ちに回送すへし。

明治卅四年六月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

全國昆蟲展覽會長 田中芳男君

全國昆蟲展覽會副會長
小貫信太郎君

全國昆蟲展覽會功勞賞受賞者
棟木喜三君

(西濃印刷株式會社印刷)

◎昆蟲展覽會寄附金受領公告

岐阜縣稻葉郡昆蟲研究會頭津田顯孝氏并に第一、二、三回岐阜縣害蟲驅除修業生（稻葉郡撰出の）小野鐵次、棚橋善二、森島勘次郎木村儀三郎、木方友九郎及後藤字三郎等諸氏の盡力によりて寄附されたる金額并に芳名左の如し

稻葉郡役所内

一金参拾錢也　淺見鉄也君
一金貳拾五錢也　高橋貫一君
一金拾錢也　平井虎之助君
同上　清水左一郎君
同上　高井鐵十郎君
同上　山田勘三郎君
同上　吉田政夫君
同上　山田耕君
同上　棚橋朝通君
同上　多和田鷹之助君
同上　前田喜三郎君
同上　皆谷平次郎君
一金拾五錢也　有志者三名

稻葉郡木田村

一金貳拾錢也　長屋才吉君
一金貳拾錢也　坂口三津吉君
一金拾五錢也　山田數松君
一金拾錢也　谷藤銀治郎君
同上　山田關太郎君
同上　森甚藏君
同上　安藤新一君
同上　森庄治郎君
同上　森喜代次郎君
同上　谷藤治作君
同上　谷藤富士吉君
同上　坂口新吉君
一金五錢也　有志者

稻葉郡南長森村

一金貳拾錢也　伏見平次君
一金拾錢也　青山國太郎君
同上　墟谷惣市君
同上　岩野新七君
同上　森銀次郎君
同上　遠藤甚六君
同上　伏見源之助君
同上　森藤一郎君
同上　堀増右衛門君

稻葉郡市橋村

一金六拾錢也　篠田次郎一君
一金貳拾參錢也　戸崎榮治郎君外四名
一金貳拾錢也　戸崎養一君
一金拾五錢也　戸崎増太郎君
一金拾五錢也　戸崎三尾君
一金拾貳錢也　戸崎謙君
一金拾錢也　戸崎東一郎君
同上　安藤永保君
同上　後藤定市君
同上　井上助市君
同上　井上滿次郎君
同上　篠田柳作君

稻葉郡長良村

一金五拾錢也　長良村有志者

稻葉郡鏡島村

一金貳拾錢也　大洞善吉君
一金拾八錢也　有志者
一金拾五錢也　岩永峰三郎君
一金拾錢也　上松治郎一君
同上　淺野源三君
同上　後藤平八君
同上　服部喜作君
同上　服部用八君
同上　後藤三作君
同上　森島利吉君
同上　上松静一君
同上　江崎三秀君
同上　墟谷宇平君
同上　眞鍋喜代作君
同上　服部甚六君

稻葉郡則武村

一金五拾錢也　則武村有志者

稻葉郡常盤村

一金拾錢也　棚橋永助氏
同上　棚橋勝右衛門氏
同上　鷲見好郎氏
同上　河合丹助氏
同上　山川佐々一氏

稻葉郡黒野村

一金五拾錢也　有志者
一金貳拾錢也　松井太郎氏
一金拾錢也　國島喜八氏
同上　宮部吉次郎氏
同上　島塚梅吉氏
同上　久世内吉氏
同上　神山幸治氏
同上　鹿野與市氏
同上　佐藤太市氏
同上　島塚伊吉氏
同上　島塚二郎作氏

稻葉郡方縣村

一金貳拾錢也　各務精一氏
一金貳拾錢也　窪田小三郎氏
一金拾錢也　宮部彦兵衛氏

稻葉郡那加村

一金壹圓也　遠藤海三郎氏　長繩藤太郎氏　伏屋數右衛門氏　淺野精次郎氏　松岡清重郎氏　廣瀬嘉之助氏　淺野捨三郎氏　牧田惠以氏

稻葉郡三里村

一金拾錢也　村瀬保吉氏
同上　石捧千次郎氏
同上　辻德彌氏
同上　辻喜七氏
同上　辻鶴三郎氏
同上　加納慶一郎氏

論說

◎本邦昆蟲學者の通弊を論ず

仙臺宕麓　晴耕雨讀子　草

方今「我が國の昆蟲學は尙ほ幼稚時代に在り」とは斯學を專攻する先輩諸氏の異口同音に得々公言する所ろなるも、余は恒に多少の疑惑を此間に挿めり、顧みれば今より纔かに二十年前、始めて科學界に特立せる昆蟲學のことにしあれば、之を他の學術に比較する時は、固より乳臭黃口を免がれ得ざるべきも苟しくも躬、斯學に賴りて衣食し、斯學の發展を期すべき天職に居る者にありては、その有心と無意とに論なく、道義上、自家占有區域內の學術を捉へて徒らに短劣の惡名を冠むらし得べきにあらず、假りに人ありて、何が故に爾かく幼稚の地位に在らしむるやと反問せば、必らずや之を解決すべき正當の辭柄無きに困しむのみならず、却つて自己の斯學に熱誠忠實ならざるを表現するに過ぎざる可し、蓋し學者間にこの評言の殆んど普通語として行はるゝに至りしは、敢て己が職責を逃れ、且その醜態を掩はんとするが如き卑陋心より起れるにあらざる可きも、其間また多少の消息なくんばあらざる可し、惜むらくは斯學の幼稚を詰責するの口舌を以て、未た斯學を知らざる者の啓誘開示に轉用せば、その學者たるの品位に一段崇高の度を加ひ、兼て隱冥裏に國家を利すべかりしものを。

昆蟲學者の心事を解析し來れば、その本旨に於てすら已にこの謬見を懷けり、奈んぞ他に幾多の弊竇を

伏藏隱慝せずといはんや、而して極端よりこれを言へば、斯かる冷薄無情の學者が斯學界に翱翔せん間は到底之が發達普及を望むべからず、今試ろみに城府を撤して余が思ふ所ろを語らしめよ。

(其壹)昆蟲學者は外に明にして内に暗し　先輩諸氏の所論によりて之を斷ずれば、本邦昆蟲學の泉源は極めて淺近にして、既往の事物は一として學習するに勝へざるものゝ如し、即はち古人の著書に、ろの分類法に、その圖書に、殆んど全たく今日の學術界を裨益せずと謂ふにあり、余は怪しむ、是は敬畏すべき學者の言質として深く信憑するの價値ありや否やを、それ往時は本邦未た昆蟲學なるもの之あらざりしも、醫學に屬する本艸學の一科としては練修的に研究せられにき、去れど其目的は止だ少數の有用蟲類を醫療上に應用せんとに過ぎざれば、敢て今日の如き細微なる分類に言及ぼすの必要なかりしや昭らけし、然かも尚ほ一定の軌道を履み大綱の下に種屬を綜合し、習性經過の概要を叙述し、百年以前既に之を公行せるものあり、踵で千蟲譜成り、蟲類書こゝに始めて同人間に玩味せらる、而して昆蟲を經濟的に研究せんと試ろみたる者も亦この前後に輩出せりき。さばれ、此等の現象は時勢の推移と人心の嗜好に伴へる一の反影に外ならざるべし、蓋し昆蟲學の起因としては早く漢土より傳はりし毛詩を推重せざる可からざるに依る、降つて近代に至り漢方家の本艸學に蘭醫派の博物學を加味し、兩者の融和同化するや、蟲類研究の必要起り、各種の蟲譜を編述せられ、ろの幕末の慶應三年の如きは佛國博覽會に五十餘函の昆蟲標本を出陳するに至れり、但し蟲類を工藝美術に應用せしは遠く中古の昔時にして、今奈良法隆寺に現存の摺文及び春日社所藏の古器物、正倉院の御物等は能く之を証徵し、なほ東京帝室博物舘所藏の新撰字鏡原本に就てこれを見るも、邦人が夙に蟲類に留心せしを窺ひ知るに足りぬべし。

斯かる歴史を有するが故に假ひ完璧たらざりしとは云へ、一種の學術として本邦の文物を開成するに多大の功益を與へたりき、然るを近時西洋の學説を主張する先輩諸氏は汎く國書を涉獵せざるの結果にやその眼中絶ゑて發達史なく、蟲害史なく、古人なく、又著書なきなり、之を譬ふれば、初め本邦に儒佛二道の侵入するや、畢に神道と相協はず、抗爭軋轢の餘り一たびは和平を傷つけたるも、後ち互ひに圭角を殺ぎ衝突を避け、打て一丸となりて千餘年間の文明道德及び學術工藝を維持し來れるに、近年基督敎徒が偏へに他敎の蹂躙破滅に忙はしく、また儒佛二道の恩惠德澤を追懷するの暇なきに彷彿たるものあり、怪しむべきの至りならずや、凡そ人は先づ己れを知り而して後に他を知るを要す、若し自家の事情に暗く却つて隣人の事にのみ精しからば、將たこれを何とか評すべき、余熟々先輩諸氏の爲す所ろを觀るに、吾に迂濶にして彼に通曉し、自國の昆蟲學發達史を知らず、又未た蟲類をも辨知せざるに、先づ羅甸、希臘を嘖々し、いはゆる西洋の事情に是れ模倣せんことを勗むるの狀蹟を存せずやは。

余は恒に思へり、本邦の昆蟲學はもと東西折衷の博物學に胚胎せしを以て、必らずや雜駁にして且不備の點多かるべしと、是故に舊來の蟲名にして採るべきもの鮮なからんか之に新稱を命ずるも可なり、又分類上に不便あらば改名を施こすも亦これを妨げず、唯その故なくして固有の名稱を更たむるが如き、舊名塡字の適否をも考定せずして擅まゝに新名若くは生澁未熟の洋語を冠らすが如きは共に忍ぶ能はざる所ろなり、特に東西その風土を異にすれば隨つて百般の事物盡ごとく異なり、然るを應用に際り、全たく舊慣を打破し、代ふるに自己すら未經驗の洋法を以てせんとするに至りては寧ろ其剽輕妄擧に驚ろかざるを得ず、是れ蓋し本邦の事情に不明なるの罪科なりとは云へ、斯かる態度を以て朴訥質直の農民に臨まんとす、嗚呼、それ危殆なるかな。

（未完）

學說

◎作物被害原因驅除法索引（其二）

農商務省農事試驗場技師農學士　小貫信太郎

第十一條
（第十條第二項）

一、若し堅くして針線の如き時はハリガネムシ即はち叩頭蟲科の一種なり、此蟲は屢次大害をなせども未だ實際に行はるべき適當の驅除法なし、被害甚はだしからざる場合には更に肥料を施こし生育を促進せしむるを良策とす。土地に雜草を多く生せしむる時は翌年に生存するの好機を與ふべし。

二、若し短大にして柔かき時は金龜子科の幼蟲なり、同前の方法を施すべし。

第十二條
（第十條第三項）

一、蟲もし絹糸の管內に存する時は葉捲蟲科の一種の幼蟲なる根の巣蟲なり、驅除法無し、輪作栽培を行ふべし。

二、若し絹の管を有せざる時は夜盜蟲科に屬する根切蟲の一なり、甚だしき害蟲にして特に幼植物を害す然れども、通常地上に生育したる部分を害するものあり、これ亦適當の驅除法なし、雜草その他株等を十分に殘さゞるやうに注意するを最良とす。

第十三條
（第四條第二

一、注意して作物を調査すべし、而して其兆候全たく第二條第二項以外にあらざる時は地に近き部分を撿し、次に根を撿すべし。

二、若し夥たしく蚜蟲を發見する時は被害の原因は即はちこれにして、此蟲は地上地下共に生存して喰害を逞ふす、驅除法あれども經濟上收支償はざるべし、但適當なる肥料と十分なる

項）耕種を行へば其加害に關はらず相當の收穫を得べし。
三、若し蚜蟲を發見せざる時。（第八條を見よ）

第十四條　（第三條第三項）

肥料の不平均は最ともこの現象の原因たり、他の原因ある時は作物の幼時に於て蟲害をうけ遂に回復し能はざるものなる可し尙ほ然らざれば注意して作物を觀察せよ、左の現象を見るべし。
一、葉莖ともに黴の生じたるが如き狀を呈しゐる時。（第十五條を見よ）
二、黴の發生を見ざる時。（第十七條を見よ）

第十五條　（第十四條第一項 第十七條第四項）

一、葉及び莖に於て顯微鏡檢査を施こし、甚はだ細き糸を以て覆はれたるを發見する時。（第十六條を見よ）
二、細き糸を見ざるも粉狀のものを以て覆はれたる時は多くヘレノスポーア或ひはツユカビに犯されたるものなり、これに對しては經濟的驅除法無し。

第十六條　（第十五條第一項）

一、若し細絲內に甚はだ小なる黃色若くは赤色の動物を見る時はアカダニの一種にして細絲は即はち巢糸なり、この蟲はテトランカスと稱する族に屬す、小豆は屢次この害に罹る、細粉を散布するは善き驅除法なりと稱せらる。
二、若し細絲の外に粉狀のものを存せば即はちエリシフエテシーと稱する一種のツユカビの寄生にかゝれるものなり、硫黃華を散布すべし、然れども經濟的に行はるゝや否やを知らず。

第十七條　（第十四條第二項）

一、地上に於ける部分に於て數多の昆蟲を見る時。（第十八條を見よ）
二、地上に於ける部に於て蟲の存在を見ざる時。（第二十條を見よ）

第十八條（第十七條第一項）

一、花或ひは高き部分に蟲を存する時。（第十九條を見よ）

二、其他の部分に蟲ある時は半翅類に屬する椿象類なり、此類は蚜蟲其他數多の蟲類を含む、經濟的驅除法なし、但し蟲の飛躍する場合に於てはブリキ板にタール其他の粘着物を塗り作物を拂ふ時は大部を捕ひ得べし。

第十九條（第十八條第二項）

一、若し赤色若くは黄色の蛆狀の蟲を存する時はタマバヘ科に屬する小蠅の幼蟲なり、驅除法なし、此蟲は植物の種類を限りて發生すること多し、故に翌年はその栽培を廢め他の種類のものを耕種すべし。

二、若し小にして活潑なる黒色の蟲を存する時は袋足類（Physopoda）に屬なるスリップと稱するものなり、驅除法無し。

第二十條（第十七條第二項）

根を檢査すべし。

一、根に於て蚜蟲を存せば蚜蟲科の一種なり、適當なる驅除法なし、且この蟲は被害作物の科に近き作物にも屢次生存するを以て異種の作物を選び、之が輪栽（例へば穀物、瓜哇薯、ツメグサ等）をなすべし。

二、若し蚜蟲を存せざる時。（第二十一條を見よ）

第廿一條（第二十條第二項）

一、根の諸處膨脹せる異點あるを發見する時。（第二十二條を見よ）

二、若し根部膨脹せざる時。（第八條を見よ）

第廿二

一、若し栽培の植物豆類なる時は根の膨脹は多分天然にして害蟲に犯されたるにあらず、第八條を參照すべし。

二、豆類以外の作物なる時はネマトウダの被害なり、他の作物を栽培し且數年間は叮嚀に雜草

條
一を芟除すべし。

◎昆蟲の名稱に就て（續）

在獨乙伯林　農學士　松村松年

余はこれより昆蟲の名稱に就き本邦にある一二の著書並びに雜誌の記事に渉り、聊さか論評を試みんと欲す、若しそれ同好諸氏の參考ともなりせば幸甚なり。

顧ふに先に農學士小貫信太郎氏は昆蟲世界第十八號に於て熊本縣方面の稻田に發生する浮塵子の種類を記し、之に一圖を附せられたり、而してその中には數種の假名ありき、今こゝに三四を擧ぐれば。

第二、背白褐色浮塵子（セシロトビイロウンカ）　こは如何なる種類なるかを見るに、其圖及び記事はカバイロヨコバイ又の名トビウンカ（Delphax furcifera Horv.）なりき。

第六、ヨツスジヨコバイ　其記事に曰く、頸頭（頸頂？）は淡褐色に茶褐色の不正斑紋あり云々、然るに圖によりて之を見れば頭頂に整然たる四對の三紋列あり、果して孰れが是なりやを知らず、記事によれば本邦最とも普通に稻田若くは麥圃に發生するマダラヨコバイ（Deltocephalus Striatus L.）あるが如し、此屬は大概前胸背に四個の縱條を走らす。

第七、フタテンヨコバイ（佐々木命名）　圖によりて見れば本邦最とも普通なるムツテンヨコバイ（Cicadula 6-notata Fall.）なり然るに記事によりて見ればフタテンヨコバイ（C. Warioni Leth.）なり、何れを探るべきや。

第十二、褐色鬚長浮塵子（トビイロヒゲナガウンカ）　氏記して曰く、恐らくは Psyllidae に屬するものとす云々、然り Trioza 屬のもるなり氏は葉蝨科すなはち他の亞目植蝨類（Phytophthires）に屬する

ものなりと知り乍ら、之にウンカの名稱を附するは餘り甚はだしからずやと思はる、特にトビイロヒゲナガウンカの科に屬するものにして觸角の短かきものは本邦に未だその産するを聽かず、抑そも長觸角はこの科の特性とす、余は曩に日本害蟲篇を編纂するや、習性及び驅除法上の便利より此科を浮塵子類に加へたれども、特に其地位を明らかにし全たく、浮塵子と異なりたる名稱を附し置けり。之を要するに、幸はひに圖譜あるが爲めに粗ぼその種類を知り得べしと雖ども若し全たく圖譜無からん記事に對つて續々新稱假名を附せられたらんには、斯學を修むる者の困難將た如何あるべきぞ、是れ余が新稱を附せらるゝ諸氏に向つて深く注意を乞はざる可からずと云ふ所以なり。

左は云へ其學名の確乎たらざるもの多き今日に當り先づその和名を定めんと欲す、寧ろその困難の非常なるを知るなり、是故に余は初めに其學名を定め而して後に和名の命名に從はんことを欲せり、否らずんば其和名の大半は徒勞に屬するに至るを疑はざるのみならず、遂に延て以て初學者の障害たらんことを恐る、彼の褐色浮塵子とは如何なる昆蟲なりや、時には之をトビウンカと云ひ、時には之をトビイロウンカと云ひ、時には之をトビヨコバイ、ヒゲマルヨコバイ、セジロヨコバイ、カバイロヨコバイとも又龜甲浮塵子とも云ふに關はらず、此等八種の名稱は八種の昆蟲を意味するものには非ずして單に一種 Delphax furcifera Horv. の異名なるにあらずや、而して昆蟲世界第十八號に載せたる小貫氏の所謂、褐色浮塵子なるものは Delphax major Mats. にして即はち滋賀縣農事試驗成績報告にあるオホヒゲマルを云ふなり、然らばその第二報にある褐色橫這とは如何なるものを指すかと問へば、圖は曖昧にして之れを知ることを得ざと雖ども マダラヨコバイ (Deltocephalus Striatus, L.) 若くはメグロヨコバイ (D. oryzae Mats.) 又はトバヨコバイ (D. Tobae, Mats.) の何れかなるべし、前者は白蠟蟲科 Fulgoridae に屬し、後者

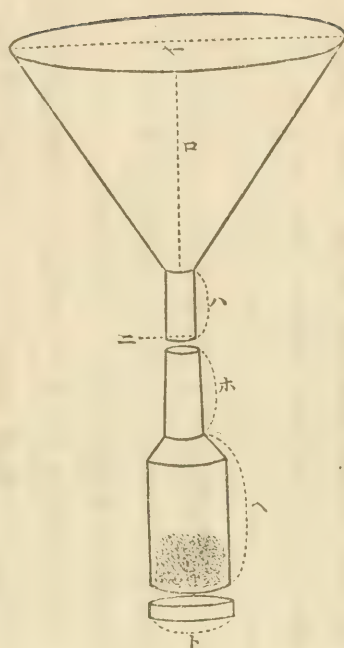
は浮塵子科 Tassidae (Cicadellidae) に屬せり、共に褐色は則はち褐色なりと雖ども、苟しくも異科のものに對つて同しく褐色浮塵子の名稱を下すに至りては其濫雜混亂また太甚しと謂はざる可からず。然るに佐々木博士は氏の著書害蟲篇に於て褐色浮塵子 (Delphax furcifera) をヨコバイ族 (Cicadellidae) に編入せり、初めは誤植にもやわらんと信じ試ろみに該篇を探索せしに同書一五三頁サルメンヨコバイ (Meenoplus sp?) 地位にも亦ヨコバイ族と書し、一五五頁ヒシヨコバイ (Oliarus flavipennis Mats.) の地位にも亦同じくヨコバイ族となせり、其他コクロヨコバイ (Delphax devastans Mats.) の地位を見るも尚ほまた然り、而して一二四頁テングヨコバイ (Dictyophora sinica Wk.) の地位には光蟬族 (Fulgoridae) なるものあり、若しそれ假りに Delphax 屬をして浮塵子科に屬せしめ Dictyophora 屬を白蠟蟲科に屬せしめんとせば此二科の差異は何れにある可きや、余は未た甞て Delphax 屬を Cicadellidae に編入せしものあるを見ず、佐々木氏の所謂稻の綠色浮塵子とは如何なる昆蟲なりや、白蠟蟲科に屬せるテングヨコバイも綠色なり、同科に屬するアヲバハゴロモ (Poecilloptera distinctissima Walk.) も綠色なり、其他ハネコブヨコバイ (Tropidocephala graminae Mats.) も亦綠色なり、而して氏が指す所ろ、氏が謂ふ所ろのものは則はち一三四頁の他科に屬するツマグロヨコバイ (Paramesus cincticeps Uhl.) の事なりとす。

(未完)

◎昆蟲家要錄

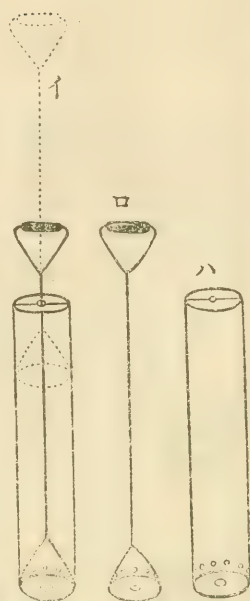
於西原昆蟲部研究室　財前鉚太郎

近時昆蟲學特に應用昆蟲學の研究我農業界のPopularとなりたると共に、其の先進國たる歐米の昆蟲學界の情況若しくは學者の論説報告成績類を窺はんことを望む人士尠少ならざるべし、依て不敏ながら此等の希望を有せらるゝ人士のため本誌を籍りて聊か斯裡の情況、學説、報告、成蹟類を漏さんと欲す、若し幸ひに同好諸彦の一讀を辱ふすることを得ば余輩の光榮之に若くものなけん。

其一、新案捕蟲ランプ　小蛾及び小形の甲蟲類を標本用として採集し得る適當なる捕蟲器は未だ聞知せざりしが、今より五六年前、米國「コロラドー」のギルレット氏は此等に關する一ツの捕蟲ランプを發明し、これを以て小蛾及び小形甲蟲類を採集せることを試みられたり、此の捕蟲ランプは圖に示す如く上部を漏斗狀となし、其口筒は中部の容器の上口に密嵌せしめ、又其の容器の下部即はち底は圖の如き栓を用ゆる、而して此の捕蟲器を使用せんとするには先づ此器の上部即はち漏斗を樹木若しくは支柱に吊下すべし。（漏斗の緣邊には金環を付し吊下の便に供す）此裝置終れは光線が漏斗に反射し得る適度の距離を計りて漏斗の中央にランプを吊下するものとす。

又中部の容器中には三オンス入硝子瓶に青酸加里を凡そ瓶の容積の半分程に充たし、是に些かの濕氣を與へ又瓶の上部は細き金網を以て蓋ふべし。

此容器に硝子瓶を入れ、其周圍には Excelsior（西洋鉋屑の細薄のもの）を容れ置き（但し容器の八分位ゐまでを適度とす）而して栓をなすべし、氏は此器を或夜電燈の下に使用して夕刻より十二時頃までに甲蟲三千有餘、小蛾類二千有餘を捕獲し得たり、又或時の如きは蟲類餘り群集し來りて二三時間に容器を充溢するに至りたりと、斯る時は容器を上部（漏斗）より取り下して毒藥「コロロホルム」一匕程を此容器中に入れ須臾にして底邊の栓を拔取り鉋屑を取出して毒瓶（青酸加里）中に振落すべし、斯くして後、新鮮なる鉋屑

を更に容器に入れ原の如き装置となすべし。斯くせば多數の蟲類は容器に群集し爲めに蟲体を損傷するの恐なかるべし。

氏の經驗に依れば、小形甲蟲類は午后九時半頃までに充分多數の種類を採集し得べし、然れども小蛾類に至りては此時間以后にも多く採集し得べし、故に一夜の中一度は此器を改むるを良しとすと、而して此捕蟲ランプを樹木若しくは支柱に吊下せる後は、其の装置を變せす毎朝容器のみを取下して其中を改むれば足れるも、こゝに一ツ注意すべき事は容器の硝子瓶及び飽屑を取出したる后、直ちに栓をなし置くにあり、若し然らざるに於ては使用の際良好なる目的を達する上に障害を來たすべし。

其二、石油乳劑製造器械　近時驅蟲用として世に稱揚せらるゝ石油乳劑は、其製法の簡易にして效力の大なるを以て、毎に多く使用せらるゝと雖も其實は容易に石油と石鹼とを混和して乳劑となすこと頗ふる難し、もし此等の粗製の乳劑を使用する時は驅蟲の效を奏する事少なくして反つて植物に害を來たす事大なり、故を以て其の製造に關し學者、實業家共に常に困難を感じ良法を發明せんことに苦心しつゝありしが、此頃米國の書を讀み始めてモルガン氏が一ツの乳劑製造器械を發明せしを知れり、今此器械の構造を略述すれば、そは全たく我邦に於て小兒等が手遊に供する水鉄砲に似たるものにして總て金屬製となせり、その筒は長さ二十吋（二尺位ゐ）より二十四吋（二尺四寸位ゐ）にして此口徑は大約四吋（四寸位ゐ）あり、而して筒の底より大凡一吋程の處ろに七個の小孔を輪穿し、又底の中央に乳液を

排出し得る直徑四分の三吋（四分三厘位ゐ）の穴を造り置き、喞子は口圖に示す如く其の先端を高さ三吋乃至三吋半の圓錐形となし、其周圍に底邊より四分の三吋の所に小孔を穿つなり。（但し此小孔は筒の小孔と相合する樣に造るを要す）又喞子の竿は太さ四分三厘の鉄捧を用ゐ其上部には柄を附くるを要す、外に乳劑の流出を防ぐ爲めには筒の上部に蓋を付すを便となす、此器を使用して乳劑を製する時は極めて善良なるものを得べく且つ從來の製法よりは廉價にて多量の液を得べしとなり。

譯者云、此器械は我邦小兒の手遊に供する水鉄砲の複雜なるものと思はゞ大差なけん、農家は須から く試製使用すべし。

螢　さよふけて傾ぶく月の下草にのこる光やほたるなるらん　（近衛忠凞）

左は近頃當研究所に於て小學校に奬勵し居れる蟲卵摸型製作法に關し、全國昆蟲展覽會の關係者に談話せる一節なり、斯學普及上或ひは裨益する所なきにあらざるべしと信じ茲に揭ぐ、但白墨を以て學生の健康に有害なりとか、又は無害なりとか抔云へる衛生上の觀察はこゝに問ふ所ろにあらずと知り玉へかし。（編者しるす）

◎白墨細工を以て昆蟲思想を養成する話　（第五版圖參看）

名和昆蟲研究所長　名　和　靖

私が昆蟲學講習の際に置きまして、講習會員諸君に對し往々蚊の發生經過より、その性質、驅除法等に

至る迄、詳細に說明致すことがござります、特に蚊の卵を說明する場合には必ず右の手ょ持ち居る所の白墨の全形を示して、恰も蚊の卵は是と同じものであると云ふことを申し、又蚊の卵塊は此のものを百數十個密着致しましたる樣の者で、丁度舟の形と成りて水上ょ浮びて居るのでありますと常に說明致して居りました、然れども未だ一度も白墨を以て組み立たることなかりし故、果して理想の通り出來得るものなるや否やを一度は試驗致したく思ひ居りましたが、其閑暇を得ることが出來ませんで久しく日子を空ふしましたが、終ょ實行し得るの時を得て漸く始めて出來致しました、此の出來致しましたる白墨細工の蚊の卵を衆人ょ示したる所、苟も蚊の實卵を一寸にても見た方や、又は蚊の卵の話を聞いて居りましたものは直に蚊の卵塊なることを想像して、能く出來たと賞賛致されました、處ろで私は案外ょも製作の容易なることゝ、然かも衆人の斯く迄注意を引きたるには實に驚きました、依て蚊の卵の外何か他のものも出來得るものならんと思ひまして、白墨の全形又は殘餘を用ゐて製作致しましたるに、意外にも種々の蟲卵、種々の繭等を容易ょ作ることを得まして是亦衆人に示したる所、又々賞賛を得ました、茲ょ於て是等の摸型數十種を製作しまして昆蟲展覽會の參考品として出品し置きましたるに、矢張公衆の目を引いて案外好成績を得ました、然るに私は白墨細工を小學兒童に普及せしめたなれば昆蟲學思想を養ふは固より、白墨の殘餘を見附けると、處嫌はぜ樂書する等の惡

賞狀

岐阜縣　名和昆蟲研究所

白墨細工

昆蟲ニ關スル微細ノ發育ヲ白墨ニテ摸造シ之ヲ擴大ニシタルハ最モ簡明適切ナリ

右審査ノ成績ニ依リ特ニ敎育上有益ナルヲ認メ茲ニ賞狀ヲ授用ス

明治三十四年五月六日

全國敎育品共進會總裁從五位勳五等川路利恭

戯より外方法のなき無用物を有用に化するのみならず、手工の一端ともなるのであるからぬ必ず得る所多からんことを深く信じて居りました、恰も良し全國敎育品共進會を當岐阜市に於て五月三日より九日迄一週間開設せらるゝことを聞きまして、遲ればせ乍ら直に製作の上出品を致しましたところ審査員の目に止りたりと見へまして右の如き賞狀を得ました。

右の次第でありますす故、今玆に聊か是が製作法に就きお話致します、第五版圖(前號の本誌口繪參看)の(一)は蚊の卵でありますが、是は初め白墨全形の兩端を鑪り紙にて磨り、後寒冷紗にて再び磨れば圓く爲ります此のもの百數十箇をアラビヤゴムにて密着せば恰も舟形に成りて蚊の卵塊の放大形を作ることを得ます、其儘の白色にて置けば產み立の卵塊を示す所なれども、蚊は夜中に產卵し二三時間を經れば、褐色に變じますから蚊の卵の白色のものは常に見る人少ないのです、矢張普通は褐色に塗り置くのを宜しいと思ひます。(二)はクサカゲロウの卵即ち俗に優曇華と云ふものにて、是を作るには白墨の殘餘を以て、卵形に例の鑪り紙と寒冷紗にて磨り上げ、その一端の細き所に錐にて小孔を穿ち、提灯の骨即ち細き竹を刺しアラビヤゴムにて止め、然る後適當の臺の上に十餘箇並列せしむるのであります、其色は產卵後凡六日間は綠色でありますが孵化の後は白色となれば綠白兩樣にする方適當と思ひます、若し一方のみなれば無論白色を普通と致します。(三)はテントウムシの卵塊で、其形は紡錘形、其色は黃色と致し臺の上に二三十箇をアラビヤゴムで密着せしむるのであります。(四)はハマクリムシの卵で、是は半球形をなしその色は綠或は褐色であります。(五)はウメケムシの卵でありますが立方形で綠色です。(六)はノミの卵ですが楕圓形で以て白色。(七)はオホマルバチの卵で曲玉の形を致し白色でありま す。(八)はモンシロテフの卵で、紡錘形をなせる黃色のもの。(九)はアゲハノテフの卵で、球形、黃色でありまそ。(十)はフクダワラバチの繭で(卵とあるは誤)米俵形にて白色、黑斑があります。(十一)はムギダワラバチの繭(卵とあるは誤)で紡錘形をなし褐色でありまそ。

以上の如く白墨の殘餘と鑪り紙及び寒冷紗の小片と繪具とアラビヤゴムとあれば種々の物を作ることが

出來ます、當研究所で十二三歳になる見習生に命じて作らせますに、喜びて容易に然も巧みに出來上ります、頃日も追々諸方の小學校の先生に兒童に試製のことをお願ひ致して置きましたが、多分何れも好成績を得ることゝ信じます、兎も角昆蟲學に關係の諸君は一度御試製の上衆人にお示しの程を願ひ上げます、然る上は自から白墨細工の價値如何を知るのみならず案外容易く昆蟲學思想を普及せしむることが出來得ると思ひます。

◎第七回全國害蟲驅除講習員の五分間演說

左に掲ぐるは本年三月一日より同十四日まで二週間當研究所に開きたる第七回全國害蟲驅除講習會員が例によりてなしたる五分間演說筆記の一部なり、餘白に限りあれば爰には演題の新奇にして且旨意の時事に適切と認むるもののみを載す。

(一)蚊の發生豫防に就て

愛媛縣　矢野延能

諸君、私は蚊の發生を豫防することを陳べやうと思ひます、私はもと彼の汚水中のボウフリ即はち宅地内外の汚水溜水を混したる便所、其他苟しくも腐敗水の停滯する所、竹藪の切株、山林では樹木の朽穴、山中海邊では岩石の凹窪せる溜水などに居る所ろのボウフリが蚊となるものと云ふ事は幼年の頃より聞及んで居りましても、唯ボーフリと其親の蚊を驅除するのみで、其發生の原因を究め之を豫防的に驅除する事に心附かずに居りました、故に從つて驅除すれば從つて發生しまして更に減ずる事がありませんでしたが、一昨年に至り當研究所で名和先生の御發行に成りまする昆蟲世界を讀みましてから、始めて蚊の卵の所在及び其形狀などを了解しました、偖昨年八月に至り私は僅かに道路一條を隔てました家に轉居しまするど非常に蚊の襲擊をうけました、そこで氣が附て屋後を調べますと下水溜に汚穢の水が停滯して居りまして水面には丁度黑胡麻を並べたやうなものが一面にあり且つ無算のボウフリが居るのを見ましたから、先づその胡麻樣のものを取つて調べて見ますと曾て昆蟲世界で覺へました蚊の卵であッて、黑胡麻の一粒は黑色長圓形の卵子貳百粒ばかりの一塊と云ふことが解りました、其外にまアだ味噌

の空桶の水が入ッてあるのにもボウフリの卵が居りましたから、試ろみに下水溜に古板古莚などを以て蓋をいたし間隙には土砂を掛けて蚊の侵入を防ぎ、外の器物は溜水を排除しまして、凡そ二週間の後下水蓋を取外づして檢査しまするとボウフリは卵塊とゝもに死滅し盡して一疋の形も認めませんでした、併し近隣に惡水や汚水の停滯し居るのが幾らもありますから家内に蚊が居らん譯には參りませなんだが前日に比較すると非常に減じました、是れ全たく昆蟲世界の賜もので即はち根本的發生豫防法の一部が行なはれたのであります、そこで私が考ひますには此豫防法を押擴め隣保より更に一町村に推及ぼし共同實施をやッたならば大に効があらう勿論都會の地は下水工事が完全なので自然蚊が居らんやうになるは當然ですが、田舍では迚も完全な工事が出來ないから先づ宅地近傍のボウフリの發生する處は排水を良くし凹所には土砂漆喰で塡充し或ひはまた適宜覆蓋をいたし、明溝をば暗渠といたし、水肥の如きものには板蓋又は多分の切藁を投入れまして十分に產卵を防ぎ、堀溜などの腐敗を防ぐには淡水魚屬を蕃殖致させまして蚊卵ボウフリを捕食せしむるやうに致さば最早蚊の蕃殖所がなからう、假しあッても幼蟲の食餌が缺乏の塲所であればその力が鈍いから決して前日の比ではありますまいと信じます、斯う致しますと獨り衛生上有害瓦斯の發生を防ぐの利益計りでなく、一方では肥料中の主要分の揮散を防ぎ、旁々一擧三得となる次第と存じます。

（二）蠶の蠁蛆驅除に就て

岩手縣　梅津善次郎

私は奥北岩手縣の者でありますが昆蟲學に就きては全たく要素の無きに拘はらず、今日は學課の一として斯學に關する事を申上げんければ成らぬ塲合に立到りましたに依り、鳥渡心附きの蠶蛆の驅除法に就き申上げやうと存じます、偖先年農商務省に於て開られたる蠶絲業者の諮問會の節決議致しました精神に基づき私の縣地では本年縣令を發布しまして、蠶の上簇後二週間以内に殺蛹すべし、又未だ殺蛹せざる生繭を他に販賣することを得ず、之に背反する者は拾圓以内の科料に處すと云ふ事に定められましたが、抑も此法の發布につきましては私には未だその利害が解りませぬ、私の地方は万事進歩せませんから

全力を擧げて奬勵保護を加ひ實業の發達を期さんければ成りませんが、斯かる場合ょは或ひは却つて此かる發達は如何なものであるか、恐らくは早きに失しはせまいか、若くはまた大いに刺激を與へて民業を振興せしむるものか、本會員中には其邊の經驗もある方がありと信じますから兎に角高說を承たまはり度い、次にこの驅除法ょつき昆蟲學上からの御說を願ひ度いと存じます、これで御免を願ひます。

(三)害蟲と堆積肥料の關係　　三重縣　阪口幸之助

私の地方では每年浮塵子及び螟蟲などが多少發生致しますが、之が驅除法としては矢張千里同風の誘蛾燈とか石油乳劑とかを用ゐるのであります、然るに私の地方では肥料としては堆積肥料(廐肥と土とを堆積腐熟せしめたるもの)と廐肥とを第一として居りますが、是迄の經驗ょ依れば若し挿秧前に堆積肥料を施したる田圃ょは、其の廐肥を施したる田圃よりは比較的浮塵子や螟蟲の發生が少ないと申して居ります、發生が少なければ勿論害も少ない、害が少なければ穀物の品質が宜しい、品質が宜しい位ゐなふば必らず產額も多いといふ樣な論に歸着するのでありますから、諸君ょ於かれても御試驗否な御調査を願ひたいのである、勿論これは堆積醱酵の際ょ幼蟲若くは卵塊などを熱殺するの効にも依りませうが兎に角、害が少なく利が多い事は御互ひに實施致したいのである。

(四)マラリヤプラスモヂームと蚊の關係　　大分縣　二宮暉吉

私は是よりマラリヤプラスモヂームと昆蟲の一種類なる蚊との關係ょ就きまして申上げやうと存じます斯かる演題を掲げましたに付諸君は定めし御疑念もありませうが、私は是迄衞生學、細菌學を專修致しました者で、これを學ぶ際ょ諸大家の說ょより蚊とマラリヤ即はち間歇熱とは大なる關係のある事を知りました、歐洲などにおきましては已ょ十分ょ研究が出來たさうでありますけれども、日本では今日までの處未だ細密な研究が出來て居りませぬ、然るょ諸君も御承知でありませうが、彼の細菌學に有名なる獨乙のコッホ氏は嘗てマラリヤ病毒は蚊であると云ふ事を發表されたのであります、又私が昨年東京に在學中、三宅醫學博士の講話中に傳染病を研究せんとならば昆蟲學を修め置くが宜しい、若し之を知

ッて居る曉には非常な利益がある、自分も斯學につき蚊とマラリャの關係を十分調査したいと思ひ居りしに富山縣へ出張の歸途、名古屋から豐橋までの間、名和昆蟲研究所長の名和君と同車したから種々蚊屬につき談話を試みしに參考になることも多かッたが、また利益も多かッた、そこで其蚊屬の名稱を詳しく書いたものがあると云ふ事を聞いたから之を贈りて貰ふ事に約束した」と云ふ事を御述べになりましたから時機があらば當研究所に入所致し度いと存じ居りましたが今回講習員の募集があると云ふ事を新聞紙で見まして速に入會の手續をして此の講習を受くる事となッたのであります、一体蚊と申すものは一種の原子動物でありまして夏の候になりますと、其の鋭利な吸收口を以て手足の嫌ひなく刺す所の惡蟲であります、刺されたる者は其の吸收孔より病毒を感受して直ちにマラリャに罹ると云ふ關係があるものであります、偖このマラリャ患者の血液を把ッて鏡檢致しまするど赤血球部に丸いものと又曲つなりのものとある、是はアメーバ狀の運動をなすもので其の發育の狀態は餘程面白いのでありますす即はち初めに幼蟲が有つて後に成蟲それから胞子を作るものである、幼蟲から胞子となるまでの經過時間は二十四時間或ひは四十八時間、七十二時間に一度くるりとすると其時に患者は劇しき熱を發するものである、此くの如き恐ろしき病氣を是迄は空氣傳染とか或ひは沼氣毒であると云ひ居りましたが、近頃に至つて蚊は即はち此病氣の原子であると云ふ事が確かまッたのであります、仍て私は當會に列りましてから名和先生は申すに及ばず、其他の講師よりも十分御薫陶をうけ、蚊屬は申すに及ばず其他の昆蟲に就ての夏候に至らば多く採集しまして鏡檢を行ない其結果を當所の昆蟲世界に報道致す心算であります、終りに蚊屬の害蟲たる事は申上ぐるまでもありませんが之を防ぐには第一に溝渠、塵溜等を常に清潔に致すのが專要で、斯う氣をつけますれば唯に之が發生を防ぐのみならず、また衛生上非常な利益と存じますから、御注意までに申上げて置く次第であります。

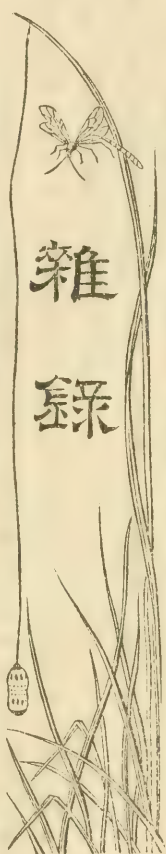
（五）稻作立毛品評會に就て

鳥取縣　濱田正一

私の地方で行ふて居りまする稻作立毛品評會と申すものゝ組織を言ひますれば、村農會長が監督員とな

り、篤農者が審査員となりまして、稲作期節を先づ四回ニ分けて審査を行ふのであります、第一回ニは其苗代が舊式であるか將た短册形であるか、又害蟲驅除の方法を行ふてあるか否やと云ふ點で、第二回は挿秧後で此時は田植の方法の良否新舊を鑒別する、第三回は除草の良否、穗揃の良否及び害蟲豫防の勤怠等を審査し、第四回に至りて收穫の多少等を調査するものであるが、毎回審査附點用紙ニ記入し置き、後出品米の高低によりて各點を加除し斯くて最高點の者を選擇して褒賞を與へる事になつて居ります、然るニ四回の審査中何を第一の重きに置くやと言へば第一回と第三回でありますから害蟲驅除の上ニ就て餘程利益がある事と信じまするし又當業者も注意を怠らんのであります、此方法は從來吾が地方で隨分盛んに致して參りましたが、本會ニ出品致しませぬ農業者と雖ども之を摸範として追々害蟲驅除ニ注意するやうニ成りましたので考へますと、此方法は啻り米作改良上利益ある計りではなく、害蟲驅除上また一大要素かと信じます、聊さか御參考までに申上げます。　（未完）

雨中螢　降る雨にともしび消ねて箱根山もゆるは谷のほたるなりけり。　（香川景樹）

雜錄

◎和漢の學者と昆蟲（其四）

古奥　青蓑白笠の人

○京師有富商。醬水銀。家畜群蜂。不知其幾千萬也。商釀酒飼之。未嘗自飲。盜畏蜂不敢犯。時鈴鹿山有群盜。殺掠行旅。國司不能捕。一日富商以百餘馬載財物。經鈴鹿。群盜要而奪之。從者散走。富商獨登山頂。仰天大呼。須臾群蜂蔽天而來。遂螫群盜。每一人聚者數石。盜百方禦之。蜂攅簇不敢去。群盜悉斃。富商乃取財物而還。（今昔物語）古人錄此等說。以爲鎖夏之一助。故余亦取之。虛實不必辨也。

（右、青山延光の酒史新編）

○あやまり來る事も年月おほく經し事は改めざれとこそ聞えたれ、挑灯をあんどうとしては誰が聞うべき、りん〳〵となくは松蟲なり、むし賣る人よ松蟲かいてんといへば、鈴蟲をころ出すめれ、是をこそ松むしとおしへたればとて、柿のさねのやうなるを松蟲とおぼへし人多ければ、蟲賣る人も迷ひなん、されば鈴むしかはんと思はゞ、松蟲をところいふべし、近衛家久公へまつ蟲の事問奉りしものありしが、りん〳〵となくを松蟲とし、ちんちろりとなくを鈴蟲となんいふと、こたへ給ひし消息、予がかたにおさめ置たり、山家集に、かの三まいはらへ、しゆそうあんとんともさせ、おの〳〵たいまつともしところあんなれ。（右、白河樂翁の退閑雜記）

○大盃　大なる盃を武藏野といへるは古き名なり、節用集大全に、酒盃大者。曰武藏野也。言野見不盡之意也。とあり、野廣ければ、見つくしがたきを呑つくしがたきよしよいひしなり、吉原伊勢物語といふ、いやしき草紙よ、此座には上戸ありとて大盃出さんとす、男わびて、武藏野はけふはお出しぞ大酒よ妻もこまれり我もこまれり云々、其後呑ぬけどもが、川崎よてもてあそびつる蜂龍盤の盃も大器なり、ろは盃をさす、酒をのむ、肴をはさむと云ふ義なり。（右、齋藤彥麿の片廂）

○聞蟋蟀有感　范姝。字洛仙。如皐人。聞蟋蟀有感。入手云。秋聲聽不得。況爾發哀吟。遊子他鄉淚。空閨此夜心。此聞蟋蟀而憐遠行也。起十字便高絕。（今詩別裁）（右、會瀾雲の藝苑名言）

○雪中の蟲　唐土、蜀の蛾眉山には夏も積雪あり、其雪の中に雪蛆といふ虫ある事、山海經よ見えたり唐土の書此說空からず、越後の雪中にも雪蛆あり、此虫早春の頃より雪中に生じ、雪消終ば、虫も消終る、始終の死生を雪と同うす、字書を按に、蛆は腐中の蠅とあれば所謂蛆蠅なり、蛆は蠆の類、人を螫とあれば蜂の類なり、雪中の虫は蛆の字に从ふべし、しかれば雪蛆は雪中の蛆蠅也、木火土金水の五行中、皆蟲を生ず、木の蟲、土の蟲、水の蟲は常に見る所めづらしからず、蠅は灰より生ぞ、灰は火の燼末なり、しかれば蠅は火の蟲なり、蠅を殺して形あるもの灰中におけば蘇るなり、又蝨は人の熱より

生ず、熱は火なり、火より生たる蟲ゆゑに蠅も蝨も共に暖なるをこのむ、金の中の蟲は肉眼におよばざる冥塵のごとき蟲ゆゑに人これをしらず、およそ銅鉄の腐はじめは蟲を生ず、蟲の生じたる所色を變ぞ、ゑばしこれを拭へば虫をころすゆゑ、其所腐す、錆は腐の始、錆の中かならず虫あり、肉眼におよばざるゆゑ人しらざるなり(蘭人の説なり)金中猶蟲あり、雪中蟲無んや、しかれども常をなさゞれば奇とし妙として唐土の書にも記せり、我越後の雪蛆はちひさき蟫蚊の如し、此蟲は二種あり、一つは翼ありて飛行、一つははねあれども藏て跂行、共に足六つあり、色は蠅に似て淡く(一は黑し)其居る所は市中原野蚊におなじ、しかれども人を螫むしよはあらぞ、驗微鏡よて視たる所を、こゝに圖して物產家の説を俟つ。(右、鈴木牧之の北越雪譜)

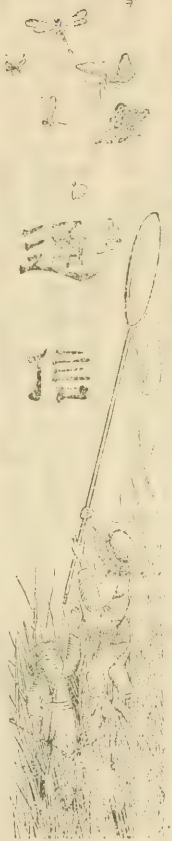
(瓢蟲女史摹)

○蜂　赤石退藏來り話す、備前尺所村荳神祠の榎半朽ちて蜂を生す、其蜂の尾、樹を離れずして多く死す、未だ死せざるを剪刀にてきりたれば、よろこび顏に飛び去る、常の蜂は尾すなはち劍、別に腹にあり、形かくの如し奇といふべし、文化の末よ二年ばかりかくの如くよして其後生ぜぞ、又、考安が話に其頃の事なりし、備後田房に考安が外家あり其家に冬、薪を多く買ひて積たりしが、其中よ栁の半朽ちたるよ多く蜂あり、前の形のごとくして數個珠數のごとく一條の馬尾よ蜂を貫きてあり、かくの如きもの數十條なりし、考安も一條よ三四個もつらぬきてありしをとりて歸り、紙につゝみおきしが後には尾おのれときれはなれ、其つゝみたる紙を食ひたり、朽木に馬尾のかゝりたるが化生したるにやと言ひし。(右、菅茶山の筆のすさび)

○蚊子侍從　續世續物語卷五に花の山『をとうとの中納言の、かむたちめになり給ひて後、おやのおは

いとの大將を奉りて、少將ゝはじめてなし申し給ひけるとかや、その少將の子ゝ、光家とか聞え給ひけるを、大臣殿の御子ゝし給ひて、殿上し給へりける、侍從ゝおはしけるをば、カノコ侍從とぞ人は申しける、親はかくれて子のあらはれたるにとりしなるべし、云々、しかれば夏月人をさすは皆子なるべし（右、富士谷御杖の北邊隨筆）

○夏蟲は日本紀の歌ゝも、夏蟲の火虫とありて蛾のことなれど、蟬をも螢をも夏虫とよめることあり。書紀仁德紀云。那菟務始能。譬務始能虚呂望。赴多彝耆氐。和名鈔蟲豸類。夏蟲俗云奈豆無之蛾和名比比流 後撰夏。八重むぐらしげきやどには夏むしのこゑよりほかにとふ人もなし。同。つゝめどもかくれぬものは夏むしの身よりあまれる思ひありけり。（右、契仲阿闍梨の圓珠菴雜記）

水邊螢（すゐへんのほたる）　よもすがらもねても影（かげ）のすゞしきは水（みづ）のうへ行（ゆ）く螢（ほたる）なりけり。（毛利元德）

◎石川縣廳にて諭示せし害蟲驅防方法

第七回全國害蟲驅除講習會修業生　石川縣　高多信久

苗代田に發生の害蟲を驅除豫防するには、左の方法を行ふときは、最とも奏功あるべしとて本縣當局者が農家に諭示せし條々を報道すれば次の如し。

○螟蟲　（一）採卵　苗代及び本田の稻葉に產附したる卵塊を採收するを最とも緊要とす。（二）捕蛾

苗代ょ於て他の害蟲とゝもに手網を以て捕獲し、夜中は誘蛾燈は苗代にありては一反歩二個以上四個以内、本田ょありては二反歩以上四反歩以內、四反歩以內ょ三個宛とし、薄暮より夜半まで點火すべし。

(三)眞枯及び白穗抜取　稻の眞枯又は白穗中ょは幼蟲蝕入し居るを以て之を拔取り燒却すべし。

○浮塵子　(一)苗代の驅除　該蟲は稻苗代の頃より發生するを以て、此際手網又は油類を以て驅除すべし。(二)畦畔の驅除　本田整理の際、浮塵子は畦畔に匍ひ上るを以て、手網にて捕獲し燒却すべし。(三)本田の驅除　本田ょ發生したる時は一反歩に付石油一升乃至二升を流し、稻幹を洗ふが如く水を掛け稻葉を掃ひ蟲を落すべし。

○螟蛉　(一)點火誘殺　苗代に於て誘蛾燈を點じ蛾を誘殺すべし。(二)採卵　稻葉に附產せし卵を採收すべし。(三)幼蟲捕獲　苗代本田ともに幼蟲を發見せば手網を以て捕殺し、又苗代に於ては細切したる草又は藁を撒布し、水吐口を塞ぎ、苗葉を沒するまで水を灌ぎ、蟲の草又は藁に移りたるを度とし水吐口を開き、これを簾の類を以て掬ひ取り驅殺すべし。(四)蛹の捕獲　幼蟲老熟せば稻葉を卷き其中ょ蟄し後之を嚙切りて水面に墜落し、田の四隅ょ漂着し、其儘脫皮して蛹化するを以て、之を掬取り埋却又は燒却すべし。

◎八頭郡害蟲買上方法

第三回全國害蟲驅除講習會修業生　鳥取縣　蓮佛萬吉

吾が鳥取縣八頭郡農會にては害蟲驅除豫防の目的を以て選種及び苗代改良奬勵規程(六箇條より成る)を設け町村農會をして、大いに厲行せしめしに着々その効果を擧げ、今や郡の大半は短冊形苗代ょ改良せり、次で農作物購入規程すなはち害蟲買上方法を施行せしに、本月初までょ捕獲せる二三化生螟蛾は五千頭以上に達し卵塊また三千餘を算し、爲めに三化生のものゝ如きは漸やく衆人の知る所ろとなれり、蓋し本郡の如きは二化生よりは三化生のもの多きに關はらず從來農民の之に注目する者なかりしを以て斯く奬勵法を設け、先づ一般ょ知らしむるの方策を執り兼て害蟲驅除の必要を感せしめんと欲するなり今農作物購入規程を揭くれば左の如し。

八頭郡農作物購入規程

(一)左の害蟲を捕獲し八頭郡農會又は其巡視員及農業補習學校若くは村役場ょ差出したるときは第二項の割合を以て料金を交付す。(螟蛾、螟卵)

（二）害蟲購入料額左の如し。螟蛾（雄）貳厘、同（雌）五厘、同卵壹塊五厘

（三）苗田害蟲發生期に際しては當業者は一齊捕獲に從事し、獵獲したる蟲子卵は適宜の容器に保管し第一項の手續を爲し料金を請求するものとす、但し農業補習學校、村役塲及農會巡視員にて受付たるものは料金を交付し、支拂證明書に現品を添へ郡農會に回附するものとす。

◎岐阜縣海津郡害蟲發生報告

岐阜縣海津郡昆蟲研究會

先月すなはち五月中に於ける本郡の害蟲發生は前々月に引續き絶えず加害の景況ありて、其中重なるものをハムシ類及び他の甲蟲類となす、植物の莖葉を喰害せる痕跡を認むるも其蟲數は實に少數にして僅かに研究の材料に供するに止まる程なり、蝶蛾に至りても亦同一なり、但し蚜蟲のみは非常の蕃殖力を逞ふし何れの植物と雖ども一としてその被害なきは無し依て各地に移牒して專はら益蟲の保護に盡力中なるも容易に減退の摸樣なかりしに、本月に入りてより大いに濕氣を催ふし天候に一異變を來たしたれば、自然的驅除を行ひ得る事と信し居れり。

◎北海道石狩地方の飛蝗報告

北海道農會

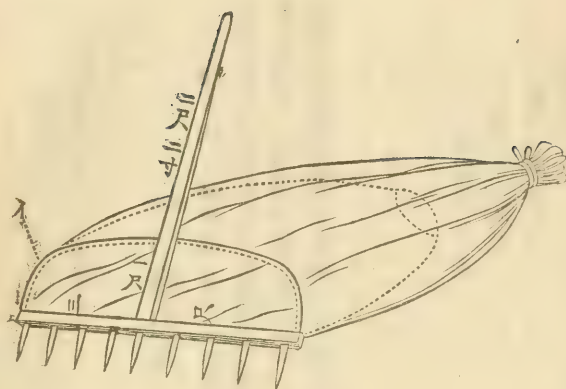
當札幌支廳へ御照會相成候飛蝗の件は、本會より御回答可申上樣移牒に付左記の如く御通知申上候。

今回の發生地は石狩國札幌郡江別村字野幌官林及附近の耕地にて、害蟲名はアシマダラバッタ（Pezotettix sp.?）にして有名なるPachyrtus sp.?にあらず其被害農作物は昨年大小豆に加害せしに依り、今年はその覆轍を覆れて之を播種せず今野生草木の食害せられしものを擧ぐれば、フキ、カウゾリナ、ケシアザミ、バイケイサウ、コンロンサウ、シナノキ、ツリバナマユミ、エゾアザミ、エゾキツ子アザミ、メイゲツカヘデ、アカダモ（ニレ）、ヤマハンノキ、ツルアヂサヰ、ヤチダモ、タチツボスミレ、シラカンバ、ウド、タラノキ、センノキ、タンポポ、ヨモギ、アザミ、ヅダヤクシユ、アカツメグサ、シロツメグサ、トリアシシヨウ、ノブニンジン、ヤナギノ一種等にして、官林被害面積は未詳なるも、耕地面積は貳百町歩乃至四百町歩（新聞に四千町歩とあるは誤れり）に亘り、最とも被害の慘烈を極め、その野幌に於ては主に「フキ」を喰害せり（日高國沙流郡に於ても此種のバッタ發生せり、そは送致の標本によりて識別

せられぬ）其他日高國に發生せるもの丶加害反別等は今なほ不明なるも重に「ヨブスマサウ」を食損せりと云へり。（六月三日附）

◎麥圃の大横這驅除報告

第二回全國害蟲驅除講習會修業生　三重縣　大矢圓三郎

客歳、本郡布施田村に發生して害毒を逞ふせる麥の大横這は五月中旬近傍の松樹に産卵せしやの形跡あるに依り、晩秋に至り被害麥圃に沿へる松林三間通りを伐採せしかども、其産卵は圃地近傍に止まらざりしと見え、本年三月に至り殘存せる松樹より該蟲甚だしく發生せり、當時村田本縣農事試驗場技手及び結城本郡書記出張の上、その孵化して松樹を跳下し草叢間に群集せるものには燃料を放ちて之を燒殺し、已に麥圃に移りしものには撒霧器を以て石油乳劑を灌注して專はら之が殺滅を圖りたり、爾後殘卵の孵化を慮はかり屢次注意する所ろありしが、此頃に至り又々非常に蔓延し其喰害の决して侮る可からざるものあるを以て、五月廿一日福川本縣農事試驗場技手、結城郡書記等出張しその實況を調査せしに當時該蟲は三四齢に達し、其の松林に沿ふて光線を透入せざる背陽の圃地には必らず多少の栖息を認めざるはなく、發生の處としては穗間に脫殼の存せざるはなく、甚はだしきに至りては一穗十數頭の群集せるあり到底姑息手段を以て驅防し能はずと信ず、即はち上圖に示せる如き齒附捕蟲器及び心臟形捕蟲器等を以て捕殺すると共にまた船形捕蟲器の一端を切去りたるものに糸紐を附し、之を牽きて畦間を進行しつ丶穗に集まれる幼蟲を掃ひ落さしめしに一反歩凡そ貳升(最多量)を捕獲せり、試驗の成績かく良好なりしを以て引續き之を行ふの方針を取り、先づ地方の心利きたる者を雇入れ、これをして其捕殺高に應じ賞與を得せしむることを約し、專はら驅除に從事せしめ居れり、乃はち別封の死蟲は當日驅除施行の補助として現場に臨みたる際、一人にて二時間に捕殺せしものとす。

亞鉛引鉄線を用ゐたり。

（備考）　この齒附捕蟲器は把手（長三尺二寸）を兩手に持ち畦間を進行し、一回に二畦づゝ驅除することを得るものにて、穗に集まれるオホヨコバイは竹齒に梳つられて狼狽し一回にその三分一强は悉ごとく袋底に入るなり、但し竹齒臺は橫三尺にて齒は竹を削り五寸の長さとなし、袋口（イ）は電信用の亞鉛引鉄線を用ゐたり。

◎印旛地方に於ける昆蟲の俗稱

千葉縣印旛郡　山　崎　市　平

人も知る如く余が地方には六方野原や習志の原など云へて茫漠たる平原多く、恒に陸軍諸隊の砲術練習場となれるを以て鳥類極めて稀なり、之に反して蟲類の棲息は比較的饒多とす、余が性昆蟲の研究を好むを以て且つ捕ひ且つ質し辛うじて左記の如き方言を知得たり、因りて貴誌に寄せて博聞の一助となす願くは斯學の爲めに餘白を割かれよ。

イナゴ（ハチツコ、ナアゴ、ハツトリ）●マツケムシ（マツムシ）●蟷螂（トカゲ、カンペイハラキリ、トウロウ、ハラタチゲンベイ、イボクイ、イナボザル、カマチコ、カミキリ）●金龜子（ブン〱ムシ、コガンホ、タマンボウ、コウランボウ）●クサガメ（オーガ、ヘツクサムシ、ウーガ）●ウメケムシ（ボウ〱ムシ、ポウポムシ）●ゲンゴロウ（カツパムシ、クウタムシ、イサトリ、カメムシ）●玉蟲（カ子ムシ、カ子タアランボ、ケキリムシ）●クワカミキリ（クワカヂリ、ササキリ）●夜盜蟲（子キリムシ）●穀象（ホリ、ウジ）●クツワムシ（ガチヤ〲、ガサ〱）●松蟲（チンチロリン）●鈴蟲（リン〱）●カナ〱ゼミ（カンナ〱、ヒグラシ、カマカマ）●ヤマガマス（ヤマノババノキンチヤク、ピヨウタン）●カブトムシ（オニムシ、ツノガラブウ〱）●同雄（牛）●同雌（馬）●同幼蟲（マンツムシ、コイバノムシ）●カナブン〱（ウルケ）●アブラゼミ（ギリ〱）●オホゼミ（クソゼミ）●キリ〲ス（キリギス、ギス、キリチヨン、ギーチヨン）●アリヂゴク（ヘナチヨコ、オタマコツヨロ、タメコツヨロ、スリバチムシ、ベツコウムシ、コチヨ〱ムシ）●鍬形蟲（ササキリ、篠キリ、カミキリ）●シホヤアブ（シホウイヤ、シヨウイツキ、ムシヒキ）●團扇蜻蛉（アブラヤ、ヤンマ、カ子ヤマトンボ、トラヤマ）●シラガタロウ（クリムシ、シラガタユウ）●芫菁（毒蟲、エゾムシ、イスズムシ）●稻葉捲蟲（ツトムシ、マクリムシ）●クマバチ（クマンバチ）●促織（オキクムシ）●茶蛅蟖（茶ガラシ）●蟲蛹（ニーシン、ニシンチロリン、ニシハドツチ）●地蜂（ミミクツリ、スウモバチ）●アブラムシ（ベトウ）●瓢蟲（カグラムシ、子コムシ、カメノコ）●ミヅスマシ（ミヅマワシ、メグリムシ）●ミヅカマキリ（カン〱ボウ）●蟷螂卵（ツクマイ、トンビノフグリ）●カラスバアゲハ（オタンジヨ、オカマテフ、カマクラテフ）●蠶卵（ムシノコ）●ホタル（ホータル）●有毛蟲の總稱（ケムシ）●無毛蟲の總稱（ハダカムシ）●蝶蛾類の總稱（テフ〱）

◎昆蟲に關する葉書通信

(五十九)昆蟲の方言調査の必要(在鹿兒嶋縣農學校、生態與一郎)　隼人の薩摩言葉てふ一種特別の言葉もてやらるゝには、敎授の際などの困難は一方ならざりし、特に昆蟲名などは醇粋のナマリを用ゐらるゝ故一層理解に苦しみしが、其後勉めて方言を研究したる結果今は左までには覺へぬ、却つて愉快味を感ずるやうになれり、余はこゝに於て始めて昆蟲の方言を調査するの必要を知れり、序に當縣の方言二四を報道せんに。

ヨトウムシ――ホウジヨムシ。
總ての椿象類――フームシ。
總ての天牛類――ビワムシ。
マメハンメウ――テントウムシ。
カマキリ――チンガメ。
アブラゼミ――クマゼミ。
蜻蜓類――ボイ。
赤トンボ――カワボイ。
總ての蛾類――ホウジヨガ。
浮塵子――ヌカムシ。
總ての金龜子類――アブラムシ。
クツワムシ――フダマキ。
蛇目蝶類――ゼニテフ。
クマゼミ――コロモゼミ。
ウチハトンボ――カタナボイ。

(六十)三化螟蟲の發生(兵庫縣津名郡鮎原村、廣田孫爹)　余近ころ郡農會用を帶び室津、尾崎、鮎原を巡廻せしに以上の諸村に於て多くの三化螟蟲(佐々木忠次郎氏の所謂一點螟蟲)を目撃せり、記して參考に供す。(六月一日附)

(六十一)本縣昆蟲界の寂寥(宮城縣名取郡昆蟲研究會員愛蟲子)　本縣農業界に鼎立して互ひに相讓らず、一時は昆蟲學研究上に壯快の華を咲かしたる先進中、岐阜派の永澤氏は客冬を以て名和昆蟲研究所に入り、駒場派の守屋氏は今春を以て茨城縣農學校に轉じ、札幌派の大町氏また近日を以て九州に巡廻敎師たらんとす、此に於てか本縣の昆蟲界俄かに寂寞として全たく師友を失へり、知らず誰人か來りて此の八万戸の農民に刺激を與ふる者ぞ、而して之が爲めに最とも不便不利を感ずるに至りしは、吾が名取郡に及くものなかる可し。

(六十二)今に迨んで師恩を感謝す(石川縣石川郡、高多信久)　余は曩に第七回全國害蟲驅除講習に加盟し、二週餘日の間孜々斯學を研究せし結果稍その一班を窺ひ知ることを得たるは、一に講師諸彦の訓諭

の懇篤なるに起因せずんばあらず、頃日農友某訪つれ來りて桑樹に發生するヱダシヤクトリ加害の恐るべきを談る、余依りて之が驅除の概要を綴りて某に示せしに喜び携さへ歸りて之を新聞紙に載せたり、畢竟この智識はみな是れ講習會の賜もの！余今に迨んで始めて師恩の厚さに感謝せり。

水邊螢（すゐへんのほたる）　草深き里の小川のいさゝ水よるはほたるのよる瀬なりけり。（東久世通禧）

◎浮塵子驅除に付質問

第二回全國害蟲驅除講習會修業生　長野縣　大島久吉

本年は弊地方に近年稀なる害蟲の發生あり、特に目下は苗代田に浮塵子の加害實に甚だし、從來捕蟲器を以て掬集を勉めしも目下のところ更に減少の見込なきに困らせり、願はくば該蟲の發生經過並びに驅除豫防法等詳細示敎を玉はらんことを。

追て當地は從來害蟲の恐れ少なかりしを以て今日と雖ども驅除に注意するもの誠に少なし、爲めに短冊苗代の如きは僅かに十中の三四に過ぎざる現況とす。

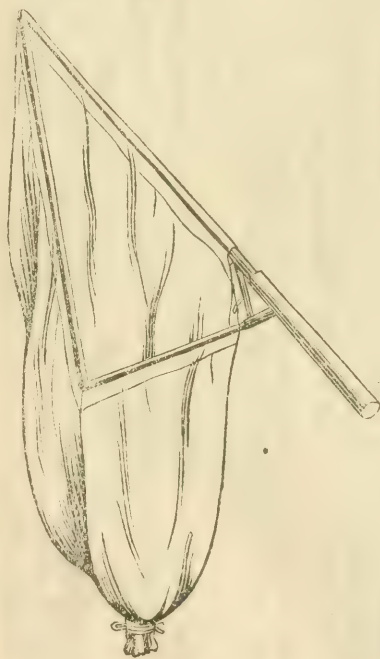
答　名和昆蟲硏究所助手　名和梅吉

當年は初春以來、一般に諸種の害蟲發生甚だしく彼の浮塵子、螟蟲の如き亦到處に多し、昨今の景況にて繁殖を逞ふせんか、必ずや去る三十年の如き悲慘の塲合に至るや明かなり、今やなほ幸に浮塵子の第二發生期に際し居れば時節柄左に項を別ちて之が驅除豫防の方法を答へ置かん、然し質疑者は單に浮塵子の被害甚しと記載せしのみなれば其如何なる種類なるや明かならざれ共、茲には各地に普通なるツマグロヨコバイと假定して之に對する意見を述べんとす。

ツマグロヨコバイの發生經過　　該蟲の發生經過は未だ一定せず、或ひは三回或ひは四回又或ひは五回に亘るも要するに皆各地氣候の異なるに從ひて自から差違あるもの丶如し、されど大躰より言へば年三回乃至四回と思へば大なる間違はなかるべし、現に農商務省農事試驗本場技師小貫信太郞氏が東京地方にては三回なりと推定せるに關はらず、岐阜地方にては四回の變化を爲すは余が親しく目擊する所ろなり、即ち第一回は五六月、第二回は六七月、第三回は七八月、第四回は八九月之なり、而して冬季は幼蟲或ひは蛹時代にて或ひは又稀に成蟲の儘にて越年す。

第一、苗代田の改良　　只浮塵子のみならず苗代田に於て一般の害蟲の驅除豫防を爲すには苗代田の改造を最とも必要とす、即はち四尺幅の短冊形に造り自由に稻苗に棲息する害蟲を捕集するに便ならしむべきものとす、然れども質問者の如き地方にありては驅除豫防上、不便不利なる舊式苗代に對つて施行すべき方法を講せざる可からず、其は下の條にて說明せん。

第二、捕蟲器掬殺法　　捕蟲器掬殺法は浮塵子驅除には最とも有効なるを以て一般に之を採用せり、而して其捕蟲器には種々あり或ひは正三角形、或ひは二等邊三角形、或ひは不正三角形捕蟲器、或ひは咽

三角形捕蟲器の圖

咽喉付圓形捕蟲器の圖

喉付圓形捕蟲器、或ひは半圓形捕蟲器、或ひは其他大西捕蟲器又或ひは金網捕蟲器等あり、就中最も普通に使用さるゝものは咽喉付圓形捕蟲器、不正三角形捕蟲器及び圓形捕蟲器等とす、但これを使用するに當りてや其巧拙に由りて著るしく効用に差異あるものとす、故に何れの捕蟲器を使用するにも直ちに其適否利鈍を斷定し難きものとす然し浮塵子の性質と捕蟲器の使用に練熟せる以上は余は普通の圓形捕蟲器を以てするも容易に掬集すべしと信ず、若し心に安んせざる所ろあらば咽喉付圓形及び不正三角形捕蟲器を用ゐべし、偖其掬集したるものをば、豫て水と石油とを混ぜ置ける廣口の容器に拂ひ落して水殺すべし、（捕蟲器の良否に就ては后日詳說することゝし今茲には言はず）尤とも捕蟲器にて掬集するには成蟲の時代を良期とす。

第三、注油驅除　注油驅除は浮塵子に向つて最も有効なりと雖ども、又其施行上の不注意より往々稻苗を害することあれば深く關心すべし、現に之か爲めに稻苗を黄枯せしめたる實例甚はだ少しとせざるは年々各地方の新聞、雜誌に於て證明する所なり、然らば如何なる方法に據るかと云へば只石油をして平等に散布するにあるのみ、而して注油量の如きは主として其浮塵子の時代により異なり、非常に少量にて奇効ある時と又多量に使用するも奏効の薄き時とあり、故に注油驅除を完全になさんには先づ浮塵子の發生に注意するを最とも必要の事項とす、先年彼の三河國渥美郡に於て浮塵子驅除に當り蟲害豫報を發して一齊に驅除せしに頗る好結果ありし如きは全く此浮塵子の發生を知り其弱点を應用したるに外ならず、即ち浮塵子の卵子より孵化せし當時は虛弱にして少量の油にも感じ易きを以て其時期を失せず注油驅除を勵行するにあり、蓋し斯の如きは最とも進みたる驅除豫防の方法と云ふべし、故に浮塵子驅除には成蟲（或ひは幼蟲の大形なる時）時代には捕蟲器を以てし微弱なる際には石油乳劑若くは石油驅除最とも有効なりと信ず、又假ひ其中間にありとも右二方の何れかを施行するを可とす。但し一段步に對する石油量は五六合とす。

第四、誘殺燈　浮塵子驅除に誘殺燈を使用さるゝ處ろあるやに聞けど、是れ大ひに注意すべき事なり如何となれば浮塵子の誘殺燈に入るは誠に微々たるものにて、到底收支償はざるを常とするを以てなり、然るに甚しきは貴重の薪材その他を燃焚して以て驅除の法を盡せりと誤解せる地方なきにあらず、是れ猛火には或ひは他の蟲類來るも浮塵子は比較的少數なるの經驗をなさゞるに因るものならん、遺憾と云ふべし。

第五、舊式苗代驅除　短冊苗代となさず舊慣法仕立となしたる塲合には勇斷を以て四尺幅位ゐに當る所に踏切りを造りて驅除に便ならしむるを第一とす、若しさなくば不正三角形捕蟲器に長き柄を附して捕獲すべし、又此塲合には注油驅除を爲すの外致方なからん、若し已むなくんば徐々に田水を張上げ十分苗の葉端まで灌漑したる後之を水責となして捕殺せば姑息法とは云へ効驗なきにあらざる可し。

右は浮塵子驅除中最とも普通に施行すべきもの二、三を略述したるに過ぎず、其詳細に到りては后日本誌上に掲載することゝなさん。

◎ヒメクロカモドキに付質問

京都府蠶絲同業組合事務所

前略、別便を以て郵送致候細蟲は目下地方の苗代田の水面上五、六寸の處に午前十時頃より午後五時頃迄群をなし飛び居り、夕方より朝には稻苗上に靜止し居る樣に見受け候是れ果して害蟲なりや、時節柄至急應答相成度此段及質問候也。

答　蟲　廼　家

現蟲を見るに全く雙翅目のカモドキ科に屬するヒメクロカモドキと稱するものなり、其幼蟲は常に水隈卑濕の地に捿息し、腐敗有機質のものを食して生育せり。此種は別に稻蟲を害する如き事なきも從來往々浮塵子と誤認して狼狽を惹起したる地方なきにあらず、而して該蟲は只稻葉上のみならず、麥其他各種植物の葉上にも多きものとす。

◎蚜蟲驅除に付質問

岐阜縣武儀郡關町　馬　場　淺　次　郎

庭園にある樫、椿、楓等に俗にコヾメと稱する害虫發生し蟻之に登る事多く、種々驅除に力を盡せしも更に甲斐なく中には枯死したるもあり、松樹の如きも亦該害蟲の發生する所となり大ひに勢力を失へり、何卒之が良法もあらば垂教ありたし。

答　名和昆蟲研究所助手　名　和　梅　吉

是は蚜蟲の害ならん、一体本年は各種植物に蚜目の發生特に劇甚なりしを以て各地方より之が驅除法を問合はさるゝ向非常に多かりき右の蟲驅除に付ては本誌第四卷第四十號問答欄に詳記しあれば就て見らるべし。

螟蟲驅除につき貴所の意見として絕對的に誘蛾燈使用に反對し其施行をさへ妨ぐる狀況ありとは、傳說として或要路の農學者の談する一節なりしが、本縣下より派遣せる全國害蟲驅除講習修業生の談話に據れば是と全たく相反するもの〻如し、本地方の如きは重きを貴所に置き、其所說を實行せんと期するものなるに、兩者の言ふ所ろ此くの如く違ふ時は施行上多大の疑惑を生じて、事業の妨害をなすこと少なからず、希くば此際名和所長の眞意を示し以て其方針の存する所ろを知らしめよ、恐らくは余一人の希望に止まらざる可し。

◎螟蟲驅除法に就き質問

靜岡縣引佐郡　公　民　農　者

答

名和昆蟲研究所長　名　和　靖

余は螟蟲を以て我が國の大害蟲中の大害蟲として殆んど之が爲めに半生の微力を致せり、隨つて其驅除法選擇に於ても最とも痛苦を感じたりき、然るに採卵法は十全のものとは言ひ難かる可きも比較上、最とも行ふに易く、少費を以て最とも確實に施行し得るが故に諸種の驅除法中、最とも之を重視し到處に之を講演して普及を圖れるは事實なり、既にこれに重きを置けり、他の諸法を以て之と同一視せざるや知る可きなり、左は云へ余は誘蛾燈その他を以て全たく無用有害など唱導せしことは嘗て一たびも無かりしは余が著述に言論に徵して之を知らる可し、余は不幸にして既に疑惑を蒙ふる、亦之を辨ずるも用なきに似たりと雖ども一言陳じ置かざる可からざるものあり、他なし、余は螟蟲の驅除法を食物に喩へて「採卵法は米飯に比すべく、汁其の他魚菜の類は誘蛾燈若くは心切鎌等に比すべし」となし此一話をば常に自說となせる事是なり、故に此比喩にして能く了解せられなば余が螟蟲驅除に對する方針また能く了解せらる〻こと〻信ず、思ふに某當路者が余を以てその事業に反對するが如く言はれしは直接余と會談せざるの結果にして、余が常に講習會等に於て「採卵法と誘蛾燈と並行なし能はざる場合にあれ何れかに失するやと問ふ者あらば余は斷じて採卵法を採らん、蓋し經驗上、過失及び經費少なくして其成績確實なるを知ればなり、彼の誘蛾燈の如きは固より効用無しと云ふにあらざるも、當今世人が信用する如く効用の多大なるものにあらざるは少しく施用せし者の反對せざる所ろなる可く、又九州の某縣會に於て七ヶ年繼續施用せしも大効なかりしとて廢止の建議をなしたる事實に徵するも恐らくは直ちに非理の判斷をなし得べし、且加ふるに經費、實用の諸點に於て幾多の不利益あれば之に重きを置かば遂に驅除に障害を及さずとも限らず是れ多年間双々兩者を比較して其輕重を論ぜる所以なり、其他根株及び

心切り法あれども是また恐らくは第二に屬するものと信ず」云々と演述して其理由を布衍せしを傳聞誤解せしものと信ぜらる、過般海南の某縣參事官來所の節も、此れと粗ぼ同樣の質問を所員に試ろみ其説明に依り疑念を解かれたる事例あれば、世間の廣き多く此種の誤りを傳へ居らるゝものと思料す、余不敏と雖ども螟蛾は其卵子の親たるを知る、既ょ其子の摘採をさへ唱ふる以上は先づ親たるものゝ等閑ょ附す可らざるを知る、然るを全たく之を不問に置くが如く誤解せらるゝょ至りては中心多少の遺憾なき能はず、即はち貴郡講習生の言ふ所ろは余が心髓を得たる實説にして、其傳説の如きは毫も信を措くの價値なき謬言とす、茲に責任を負ふて貴問に答ふること此くの如し。

瀧下螢（たきのほたる）　岩根（いはね）ふむ松（まつ）の下（した）みちよるくれば螢（ほたる）とぶなり瀧（たき）つせごとに。　（高崎正風）

雜報

◉惡疫と害蟲　流行病あるときは如何なる愚人も先づ淸潔を心がけ次ょ食物ょ注意すれども、田作を喰損する害蟲發生の時には智識ある農家と雖ども尙ほ之が驅除ょ澁ぶる、蓋し前者は自己の生命に關はるを以て容易く之ょ應じ、後者は財產を耗失するも敢て身体の危害に迨及ぼさゞるが故ょ等閑に附するなる可し、去るにても一身の安危をのみ是れ思ひ而して子孫長久の策を立て、國家富强の源を作るの義務に思ひ及ぼさゞる如きは智者の所爲と言ふ能はざるべし。

◉身體の害蟲と農作の害蟲　襤褸乞丐の徒と雖どもその身体の害蟲を驅除豫防するの必要を知り、且つ之が發生を耻辱とす、然るょ暖衣飽食の人は己が富源たる農作ょ害蟲の發生を見るも驅除豫防の必要なるを知らず、且つこれが發生を耻辱とせず、思はざるも太甚しと謂ふべし。

◉蟲害踵至の賜もの　或人いふ、今日の農家は小蟲害を念頭に置かず、之を前年虎列拉病の大侵入によりて衞生學の進步を來たしたる例ょ徵すれば、今後大蟲害の踵至すること三回にして始めてそれ

害蟲驅除豫防の普及を見得べきか、とまた一理無きにしもあらず。

◉苗代害蟲驅除の好時期　地方によりて一樣にいひ難きも昨今は苗代害蟲驅除の良時期なりと思はるれば、農家は官廳若くは農會等の督勵を待つに及ばず一意今に於て害蟲の根源を絶つの擧に出でられんことを欲す、特に本年は各府縣に於て害蟲驅除豫防に對するの意氣强きのみならず實際また發生も例年より多きやう思はるれば、夢々油斷すべきにあらず、一體如何なる譯にや本邦の農家はおしなべて害蟲驅除に重きを置かぬ、官廳農會等の勸告をうけ始めてこれに着手するが如き奇習を存せり、而かも官廳農會等に於て稍嚴達に過ぐれば則はちこれを怨嗟し、恰かもその保護奬勵を以て徒らに無用の干涉を加ふるが如くに誤解する者なきにしもあらずと雖ども、官廳や農會や將また警察官等が周到の注意を與へ農家をして一樣に良法に頼らしめんとするの精神は、畢竟國利民福をはかると云ふに過ぎず、日夜職に盡せども敢て自己の爲めにするにあらず、又好んで無用の煩勞をなさしむる目的に出づるにもあらざれば、此際農家は自利自愛の心を起し他の勸誘を竢たずして决行する所ろなかる可けんや。

◉害蟲發生地と派遣技師　本年各地より農作害蟲發生の報告に接するや、農商務省にては取敢へず去月を以て農事試驗場技師大塚由成氏を廣嶋、高知二縣へ、農商務技師加藤末郎氏を大阪、奈良、愛媛、香川の一府三縣へ、屬官田口國三郎氏を愛知、靜岡、和歌山の三縣へ、農事試驗場技師中川久知氏を山口、大分、宮崎の三縣へ派遣の上實地を視察せしめたるが、今回更に熊本試驗支場技師莊嶋熊六氏を長崎、佐賀、福岡の三縣へ、畿內支場技師岡田鴻三郎氏を熊本、鹿兒嶋二縣へ東京本場技師恩田鉄彌氏を新潟、福井、石川、富山の四縣へ、同場技師小瀧新太郎氏を京都、埼玉、千葉、茨城の一府三縣へ、北陸支場技師鏡保之助氏を兵庫、岡山、廣嶋の三縣へ、農商務技師紫藤章氏を滋賀、鳥取、嶋根の三縣へ、畿內支場技師長崎常氏を大阪府下へ出張を命じその景况及び驅防方法につき調査せしむる都合なり何れにせよ一報告、一命令の下に斯かる專門家を動かすやうに成りしは特に悅ばしき限りにて、畢竟一般農家に聊か昆蟲眼の備はり來りて逸早く豫防的驅除を欲するまで進步せし影響なるべし。

◉第七回全國害蟲驅除講習會拾遺　前々號來掲載せる第七回全國害蟲驅除講習會修業生一同は當研究所の基礎の薄弱なるを慨き、基本金中へ從來何れの講習會にも未た其類例なき程の金額を寄附せしが、中には頼しくも完全なる標本室の建築をさへ逼れるもありしと、又修業式の際に同會員總代櫻井熊治氏の朗讀せし答辭は左の如くなりき

維持、明治三十四年三月十五日天氣清朗にして和氣靄々の日に於て、第七回全國害蟲驅除講習會修業證書を授與せらるゝに當り、茲に貴顯諸彦の臨場を辱ふし、特に賜ふに懇篤なる高論を以てせらる、熊治等の光榮何ものか之に若かんや、顧ふに我邦に於て害蟲の猖獗を極め、比年農作物を損傷するや、其經濟界に及ぼす所の影響實に尠少にあらず、而して農民の之に對する或は冷淡に失し、或は驅除の方法を誤り、或は之か天仇を利用するの途を知らず空しく其毒害に罹れり豈に遺憾の極ならずや。

吾が名和先生夙に茲に見るあり、全國害蟲驅除講習會を開設し同志を聚めて專ら斯學の普及を圖らるるもの已に七回に及べり熊治等亦本會に於て其修業證書を得たるは最榮譽とする所なり。

此會や僅に二週間の短時日なるも所長名和先生並に講師諸彦の熱心なる教導に依りて昆蟲學の概要を知り、又害蟲驅除に對し則るへき方針を明らむるに至りたるは深く感謝に堪ざる所とす、今後各々鄕里に歸り拮据斯學の爲めに力を盡し聊か鴻恩に應ふる所あらんことを期せり、茲に蕪辭を陳べて答辭となす。

明治三十四年三月十五日

第七回全國害蟲驅除講習會講習生總代　新潟縣　櫻井熊治

◉北海道の蝗害

北海道石狩國に一種の飛蝗を發生しその加害區域漸やく廣く、已に四百餘町歩に亘れるは前項通信欄、北海道農會の報告にあるが如し、然るに前年同道に大蝗害のありし時、蝗卵の肥料に混入せしものありしに心附かず、之を施用せしため端なくも關東の一部に發生して農家の恐慌を來たしたる例あれば、同道產の鰊粕、乾鰮等を肥料に用ゐる地方にありては豫じめ其邊に注意する所ろなかる可からず、因みに云ふ、飛蝗の害は內地にては容易に之を知り難きも其の群飛暴亂の跡は實に目も當てられぬ程にて、到底筆舌の形容すべきにあらず、彼の名相白河樂翁公の國本論にも『蝗蟲群飛し山を覆ひ野に滿ち聲は風雷の如く又集ることと雲烟に似たり、一度集れば田中頃刻にして青色なし』とありて之が驅除も亦頗ぶる困難を感ずるものなるが、右につき現富山縣知事檜垣直右氏の物語る所ろに依れば、同道內には諸處に蟲塚と云ふあり、十勝地方にても二三これを目擊しこれを土俗に聽けば、皆先年大蝗害に罹りし時捕殺せる蟲屍の處分に困うじ、拾聚の上こゝに埋め置けるなりと答へきと、如何さま此一事もて其同族の無算なるを推知すべきなり。

◉昆蟲學研究者に勸告す

昨今の狀態を以て言へば北は北海の僻地より西は九州の邊陲まで、概むね農作害蟲の發生あり、斯學研究のためには復た得がたき機會なるべし、去れば斯學者は旅行採集の心もて奮然東西に周游し到處ろに精細なる調査を遂げなば意外の利益を享くることゝ思はる、徒らに

時日を荏延し敢てこの好機を逸すること勿れ。

◉第八回全國害蟲講習會に就て　來七月十五日より二週間、當研究所に開く第八回全國害蟲驅除講習會に入會申込者は頗ぶる多く、已に遠地の某縣よりは一時に十數名の申込あり、又夏期を利用して敎職に在る者の希望も續々あれば今日の景況を以てすれば申込期限前に滿員に達すべしと思はる、尤とも次回の講習會は會場及び講師の都合を以て何時これを開くに至るべきか、今より豫定し難く、又其間に出張講習の事ありて引續き第九回を開き兼ぬるに依り成るべく今回は特別を以て會員の多數を收容するやう、目下敎室及び寄宿舍につき詮議中なるも、三伏盛暑の候を擇びしことゝて何れも万一を慮かり居れば、或ひは豫定の人員を動かさゞるやも測られずと云へり。

◉岐阜四季の蟲歌　前回の全國害蟲驅除講習會修業式の當日、その懇親會場にて謳ひたる新作は『岐阜四季の蟲歌』と題するものなりしが、是はエンカイナ節とかに合せ歌ふものゝ由にて、作者は白山生となん呼べる同會員なりと、餘り几帳面な記事のみにては讀者の倦怠を來さす可ければ、眠氣ざましの料にもと次に掲ぐ。

◎春　いなばの山の花の香に。風さへ薫はる春げしき。捕ろ蟲の名もあげ羽蝶。國の土産させんかいな。

◎夏　苦學ながらの川ほとり。螢を追ふてスクヒあみ。斯うも集まろ夏のむし。何か新種が居んかいな。

◎秋　霜のあしたの秋の日や。ようらう瀧にタタキ網。蟲さろ人の眞ごゝろは。あの楓葉に似んかいな。

◎冬　伊吹おろしの寒ぞらに。雪こぎ分てフルヒあみ。冬の獲物をたれさして。調べる此身が損かいな。

◉本號の口繪　本誌の卷首に挿入せる口繪は第一回全國昆蟲展覽會に關係を有せる人々の肖照なり其中、上位なるは展覽會長の重任を帶び長らく諸務を統裁せる從三位勳二等田中芳男氏にて、德望學識並び高く現に貴族院勅選議員として東京學士會院の一員を兼ね、傍はら大日本農會及び大日本山林會を攝理す、氏は博物學に長じ著述頗ぶる多く、尤とも力を開物成務に致せり、年齡正に耳順を超ゑたるも其强健精勤に至りては遙かに少壯を凌ぐものあり、右方を全國昆蟲展覽會功勞賞授賞者たる、宮城縣養蠶顧問正六位勳六等練木喜三氏とす、氏が明治の初年以來我國の動物學を振興し、特に昆蟲思想を農家に注入せるの勞苦は、氏が農商務省及び駒場農學校在職中の事實並びに其著述により歷々たり、又氏が久しく西原蠶業試驗場に長として間接に昆蟲學の發達を幇助したるの功績は既に定評あるを以て茲に言はざるべし、又左方なるを農商務省農事試驗場技師正七位農學士小貫信太郎氏とす、氏年齒なは三十三

その昆蟲學を專攻するに至りしは近く兩三年來の事に屬するも、而かも斯學ㄧ篤く已ㄧ本邦浮塵子報告を記述して之を世に公けにせり、第一回全國昆蟲展覧會の開設するやそが審査長として數旬の間拮据精勵りの重任を完うしぬ、今西原農事試驗本場の昆蟲部長たり。

⦿發信者への注意

從來當研究所へ宛て發信せらるゝ人の中ㄧは種々用件の違ひたるも多かりしが何分左の區別に依り表皮を認められたし。

○質問應答ㄧ關するもの……………………………………調査部宛
○雜誌著書に關するもの……………………………………編輯部宛
○所務講習に關するもの……………………………………庶務部宛
○金錢出納に關するもの……………………………………會計部宛

⦿千葉縣香取郡勸業報告

去月末に出版せる千葉縣香取郡勸業報告を同郡農會農事教師大竹義道氏より遙かㄧ當研究所ㄧ寄贈せらる、乃はち之を披閲するに全篇害益蟲に關する記事甚はだ多きのみならず、其の「害蟲の驅除豫防に關する事」と題せる一項の如きは總て斯種の材料を以て滿たされぬ、依りて適切の條々を抄出して本誌愛讀者ㄧ紹介せんとす、盖し他山の石としては一讀の價値ありと信するを以てなり。(所末ミノカサ)

第一、害蟲の驅除豫防に關する事

千葉縣香取郡勸業委員　住母家周助氏報告

○靜岡縣　靜岡縣は稻苗を本田ㄧ移植する前、苗代ㄧ於て螟蟲の卵塊を採取することゝし、郡市町村長ㄧ訓令して一定の期日に之を施行せしめ而して縣廳第四課員及び技師技手並びㄧ巡回敎師は各郡に出張し、郡吏及び町村役塲員等は勿論、農會員等と協力一致以て之が實行の指揮監督ㄧ從事す、同縣に於ては害蟲驅除豫防の規則實施規定準則、害蟲驅除豫防に關する訓令を發し、又同縣技師伊藤悌藏氏の螟蟲及び浮塵子の經過發育並に驅除豫防法の發表等は頗る周到にして參考に資するㄧ足る。

○愛知縣(三河國渥美郡)　渥美郡の農家は一般に螟蟲卵塊を採取するに至りたるが、其の源因は嘗て同郡小學校長若くは首席訓導を岐阜市名和昆蟲研究所に入學せしめ、三週間の昆蟲研究を爲さしめたるㄧ由來す、同郡は之が爲めㄧ郡費五百圓を支出したりと云ふ、此の昆蟲研究を終へたる校長首席訓導は歸郡の上、或は夜學を開きて地方の靑年を集め昆蟲の講習を爲し、或は婦人昆蟲講話會を開き婦

人に對し害蟲驅除豫防に必要の智識を附與し、或は生徒の授業上種々なる方面に之を應用し、生徒をして容易に博物學の智識を得せしむる等、其の學得したる所を普及するに勉めたるを以て郡内を通じて昆蟲に對する智識と思想を旺盛ならしめ、害蟲驅除上大に便益を得るに至りしなり、而して尙ほ其の結果なりと稱するものを左に擧げん。

一、或る小學校に惡少年あり、從來幾多の懲戒を加へても愼まざりしが、同級生中より彼は害蟲なりとて排斥せらるゝに至り、其の害蟲と稱せらるゝを甚だ耻辱とし頗る品行を正すに至れり、以て害蟲に對する少年の觀念の大に發達せるを推知すべし。

二、某小學校長揚言して曰く、我校下に於ては最早蜻蛉、蛙等の益蟲を殺すものなし、若し之れあらば直に予が許に通知せよと、蓋し其の校下には既に害益蟲の區別及び保護と驅除との觀念の普及し居るを證明するものなり。

三、渥美郡視學は昆蟲學講習以來、郡内の小學校員は實物敎授の興味と方法を自覺し、又其の經驗を重ね大に敎授術上に利益を與へたりと說きたりしと聞く。

四、同郡にては郡長以下官民共に螟蟲採卵に鋭意盡力し、其効果大に見るべきものありと。

五、同郡にて卵塊採取の巧拙を比較せんがため曾て老人隊、靑年隊、幼年隊、男子隊、婦人隊等を組織し採卵せしめたるに、老人隊最も成蹟良しからず、婦人隊及び幼年隊最も優等なりしと、蓋し卵塊採取の業は婦人兒童に最も適當なるを知るべし。　（未完）

◉**鳥取片信**　鳥取縣八頭郡にては近頃苗代田害蟲驅除を奬勵し居れるが、本月四日より七日まで四日間に採集せるは螟蛾の雄三十万五千七百二十八頭、同雌二十五万六千二百七十頭、同卵子十五万八千九百二十塊の多數にて、本日よりは單に卵塊の摘採に勉めその買上代金を壹塊壹厘に改めたりと、尙螟蟲の外、浮塵子の發生も多きにより目下專はら驅除に從事中なりと、同地蓮佛万吉氏よりの近信に見ゆ。

◉**靜岡縣農事試驗場**　同場は靜岡市外十町餘の處にありて全部新築に係りしものなるが其中昆蟲飼育室は正門の右方にあり、主任は岡田忠男氏にて目下熱心に十餘函の飼育を試ろみ居れり、又標本は浮塵子最とも多く其製式は過般全國昆蟲展覽會へ當研究所より參考として出品せる加除自在の方法を採用せり、とは近頃同場を實見せる本所員の物語なり。

◉**共進會と昆蟲標本**　宮城縣志田郡にては今秋を期し古川町に大日本蠶絲會總會を開き併せて郡

内の農産共進會を開設に付、參考として同郡昆蟲研究會員の製作に係る昆蟲標本を出品し、一般農家の開發を勉むる由通報ありき。

◉蠁蛆驅除規則の發布　靜岡縣知事は去月二十七日縣令第四十二號を以て六ヶ條より成れる蠁蛆驅除規則を發布したるが、右に次ぎ諭告第二號を以て左の如く當業者に訓諭する所ろあり爲めに磐田郡蠶絲業組合事務所はこれが令規の全文を印刷の上、部内へ漏れなく通達して違反者を豫防せる趣むき同郡神村直三郎氏より通信ありき。

蠶絲業者の最も恐る可きは微粒子病及蠁蛆にして微粒子病にありては既に檢査法を施行せられ之を驅除するの方法ありと雖も蠁蛆に在りては未た驅除法の制定なく斯業の盛大を極むると同時に該蛆の蔓延甚しきを致し殊に本縣の如きは其被害少からす是れ今般縣令を布き驅除を勵行する所以なり今左に蠁蛆經過の概畧及驅除法を揭げ參考に供すへし。

抑も蛆の經過たるや四五月の交土中に蟄居したる蛹は羽化して蛆蠅となり日光の照射乏しく空氣の流通惡しき桑園を飛翔し桑葉の裏面に産卵す而して蠶兒は桑葉と共に蛆卵を嚥下し胃中に於て孵化したる蛆蛆は神經球内に喰込み后蠶の氣門に移り漸く發育して蠶を斃すに至る而して蠁蛆全く發育する時は蠶繭を破りて出て再ひ土中に入り蛹となり越年するものなり而して一疋の蛆蠅は千有余箇の産卵をなすものにして各桑葉に一粒乃至三粒を産付するものなるが故に其被害の大なる想ふへし蠁蛆驅除法の概要は左の如し

第一　蠁蛆は光線空氣の疏通惡しき桑園に産卵すること多きが故に新たに桑園を仕立つるものは五六月頃の風位を察して桑を植栽するを要す又晩生桑と早生桑とを交互一畦つゝ植付早生桑を刈取りたる后は自ら空氣の流通宜しきに至る樣仕立つるを要す。

第二　蠶室又は居宅近隣に植栽したる桑葉は可成蠶兒四眠以前に給與する樣注意すへし。

第三　五六月頃桑園に於て蠅尺蠖野蠶等を目擊したるときは直に之を捕殺すへし。

第四　蠶兒四五齡に至り斃蠶ありたるときは直に之に熱湯を注き若くは之を消殺すへし。

第五　蠁蛆の寄生したるものは結繭するも往々薄皮繭或は死籠繭となるもの多ければ是等の繭は直に殺蛹すへし。

第六　蠁蛆は蠶兒上簇后十二三日の頃出繭するものなれは這ひ出てたる蛆を發見したるときは必す之を捕殺すへし。

第七　製絲用繭は可成收繭後二三日の中に殺蛹し生繭は成るへく運搬せざる樣注意すべし。

第八　養蠶者、生絲製造者、蠶種製造者、蠶繭取扱者は繭架の下層に布帛或は强靭なる紙等の受幕を張り幕の中央に孔を穿ち漏斗を付し其一端を桶或は瓶内に挿入し蠁蛆の之に陷落する裝置を爲すへし。

第九　生繭を聚散或は保存する室内に罅隙ある時は目張其他の方法を以て蠁蛆の散逸を防ぐべし。

第十　生繭を運搬する容器は緻密なる綿布麻布其他蠁蛆の逃竄せざる材料を以て製作したるものを用ゆべし

第十一　捕獲したる蠁蛆は燒殺其他の方法を以て殺盡すべし。

◉第三十回岐阜昆蟲學會　岐阜昆蟲學會第三十回月次會は本月一日午后例により當研究所內に開會せり、農桑業多忙の今日この頃の事とて來會者も少なからんと氣遣はれたれば、座談としてこれを開き劈頭名和所長の挨拶あり次に長野菊二郎氏の昆蟲と植物の關係談、次に名和梅吉氏のサンノゼー貝殼蟲の調査報告、その他所員の實驗談等ありて五時半頃散會せしが次回には新奇の問題もありとの事なれば定めて盛んなる可しと思はる。

◉渡瀨理學博士と螢の研究　理學博士渡瀨庄三郎氏が螢の研究に熱中せられ、最とも細緻の觀察を下し居らるゝ事は屢次本紙にも掲載せる如くなるが氏はこれを以て滿足せず、更に之を各方面より研究せんとて、先頃はまた一文を雜誌『兒童研究』に寄せて兒童敎育の任に在る人々にその研究の結果を報道せられんことを求め、併せて各地に於ける螢狩の童謠をも通知せられんことを求められぬ、身敎職に在りて斯學を研究せらるゝ人々は奮つて博士の素懷を達せしめては如何、なほ博士の論文はこれを後號にものす可し。

◉採集器の飾物　或る遠地よりの通知に依れば其地方の各學校にては昨年一校毎に昆蟲採集器を備へ付けしに關はらず、二三の學校を除けば他は皆之を飾物同然敢て使用せんともせず又兒童をして苗代害蟲驅除にも從事せしめずとなり、採集器の飾物は當今の流行と思へば別に異樣にあらずとするも、有用の驅除隊たる兒童をその儘になし置くは惜むべき次第と謂ふべし、何れの縣の事にや。

◉驅蟲用油類の比重　害蟲驅除用として土地により種々の油類を用ゐ來りたるが、右に付試驗の成蹟を聞くに比重計の示す所に依れば重油にありては水より輕き事一六、輕油は二二、下等燈油は四一にして之が時價を比較すれば輕油は壹圓五拾錢、重油は壹圓貳拾五錢、燈油ハ貳圓貳拾錢にして其差異も少からず且つ比重も相違すれば燈用石油を用ゐるこそ宜しからんかと云へり。

◉螢籠の寄贈を望む　當研究所に於ては參考陳列室常備品として各地の螢籠を收聚せんとす、本誌愛讀者はその地方〳〵のものを贈與あらんことを望む、寄贈品に對しては相當の謝意を表すべし。

（以上、六月十一日脫稿）

秤御買上ノ諸君ヘ御注意ノ爲メ急告

一秤ハ何種ニ拘ハラズ（商標）ノ商標幷ニ守隨製ノ打込印ヲ御認メノ上御買入相成候事必要ニ候
一（商標）ノ商標幷ニ守隨製ノ打込印ナキ者ハ拙店ノ製品ニ無之候
一拙店ノ製品ニアラザルモノハ多ク原料粗惡ニシテ耐久ノ見込無之候
一耐久ノ見込ナキハ今回ノ定期檢定成績ニ於テ既ニ御了解相成候ト存候
一耐久ノ見込ナキノミナラズ損所修覆ノ時原料ノ取替又ハ各異形ノ爲メ非常ノ手數ヲ要シ候
一非常ノ手數ヲ要シ候故ニ修覆料モ亦隨テ高價ニ相成候
一修覆料ノ高價ニ止マラズ無據御斷リ申上候品モ澤山有之候
一拙店ハ三百年來斯業ニ從事シ陸軍省所有ノ大砲掛秤鐵道局使用ノ車輛掛秤臺灣總督府ノ標本秤等ヲ製造セシノミニテモ技術ノ巧妙ニシテ堅牢ナル製品ヲ出スヿ明白ニ候
一拙店ハ全國ニ於テ三支店四分店四十出張所七百八代理店ヲ有シ修覆又ハ取次ヲナサシムルヲ以テ損所修覆ノ際ハ獨得ノ便利有之候
一定期檢定ヲ受ケザル秤又ハポンド目カン〳〵等ヲ御使用相成候方往々見受ケ候得共右ハ法律上嚴罰有之候間速ニ御棄却可被成候
右ハ將來秤御買入ノ諸君ニ對シ豫ジメ御注意申上候也

漆器營業種目

美術漆器、一閑張、張拔、螺鈿入漆器、朱塗物、重箱、本膳椀椀盛、菓子椀、吸物椀、折敷膳、會席膳、吸物膳、菓子器、杯洗、盃類、盆類、鏡臺、針差、枕類、鏡類、額縁、塗板額、貿易漆器、紀念木杯、卷煙草箱、料紙文庫、硯箱、香合、棗類、香盆、小箱、塗煙草盆、行燈、衣桁、切手盆、机類、箸箱類、下駄箱、紅葉箱、簞笥、長持、用簞笥、櫛簞笥、膳簞笥等ハ御注文ニ依リ十分入念調製可仕候
御嫁入道具、家具類、玩弄物ヲ始メ其他漆器類一切營業可仕候
特ニ蒔繪ハ自宅ノ工場内ニ技師雇入レ有之ニ付美術蒔繪ハ無論其他意匠圖案ノ求メニ應ズ

名古屋市榮町壹丁目
度量衡 漆器業
守隨本店
（電信略語 シスイ）

實地應用昆蟲叢書豫約出版

⊙出版期限　第壹編は本年七月中旬を以て發行し、第貳編以下毎月に開版の豫定とす

⊙挿入圖畫　毎編數多の精緻なる木版及び鮮麗なる石版、寫眞銅版を挿入添附すべし

⊙紙數用字　紙數は凡貳千頁左右とし、活字は四號五號を併用し往々傍訓を附すべし

⊙紙質製本　印刷用紙は最上等の光澤舶來紙を選擇し、且つ最とも裝釘に注意すべし

⊙豫約方法　豫約希望者は豫約前金を添へ、名和昆蟲研究所編輯部に宛申込まるべし

◎第壹編……第壹回全國昆蟲展覽會（歐米諸國にも未だ其類例なき昆蟲展覽會に出品せる昆蟲の名稱、學名、産地を編説し添ふるに同會記事及十餘の石版木版を以てす）

◎第貳編……昆蟲標本製作全書（昆蟲標本の製作指南書四五種あるも共に遺憾の點少なからず、本書は精確の筆を以て此等の鈌點を補足し且つ歐米新式の法をも説明せり）

◎第三編……昆蟲學大意（我邦に昆蟲學書の少なきはその發達普及を期し難き所以なり、本書は斯學研究者の侶伴たり又楷梯たる程度に於て能く斯學の奥秘を漏らせり）

◎第四編……農作害蟲圖説（稻、桑、茶の如き我國力の消長に關係ある作物の害蟲を主要として、其他一般農作害蟲をも圖説し、驅除の方針、術策を詳解せる實用書なり）

◎第五編……園藝害蟲圖説（果樹、庭園より、温床を害損する蟲類幾十種の性質、經過及び驅除豫防方法に説及ぼし、一々繪畫を以て平易に説明せる好著述とす）

◎第六編……森林害蟲圖説（我國の如き森林に富める邦土に在りては造林學上先づ害蟲に注意するを要す、此書はこの必要に充てんが爲に編述し尚添ふるに室内及家畜害蟲の記事を以てす）

◎第七編……有益蟲類圖説（害蟲驅除は末にして益蟲保護は本なり、而して我國未だ益蟲に關せる良著なし、抑そも斯學界の一大鈌點といふべし、讀者拭目以て本書の開版せらるゝを俟て）

◎第八編……有効蟲類圖説（世間益蟲を説く者あれども、工業に藥用に應用せらるゝ所の有効蟲を口にする者は少なし、害を轉じて福を求めんと欲せば先づ此書を繙かれよ）

◎第九編……昆蟲分類法大意（時代の新舊、邦國の東西、學派の異同によりて分類法を異にし大に初學者を困しましむ、本研究所屹然その中に居て斯學研究に資すべき材料を供給せんとす）

◎第拾編……昆蟲生理學大意（昆蟲學を學ばんと欲せば生理を知らざる可からず、本書は一般生理より發生解剖及び植物との關係を簡潔に叙述して遺憾なからしむ）

◎第拾壹編……日本蟲害史要（何故に昆蟲學を重視するやと問はゞ、言はずして蟲害を畏るゝが爲のみ、蟲害を知らんと欲せば先づその歴史を知れ、本書また附するに文學と昆蟲との關係を以てす）

◎第拾貳編……日本昆蟲目錄（我國に棲息する昆蟲目錄の出版せられざるは寧ろ我國の耻辱なり、然れ共之を調査するの困難は未だ此に至らしめざりき、本書の有益にして價値ある以て知るべき也）

⊙申込期限　本年六月三十日限り豫約申込に應ず、期限の後は一切謝絶するものとす

⊙代價郵税　豫約代價は壹部（拾貳篇）金六圓とし別に郵税を受く、正價は金九圓とす

⊙送本手續　送本は申込の次第に依る、豫約出版完成の后に非られば壹冊賣をなさず

⊙特別取扱　諸官廳、諸學校、縣郡農會の證ある申込には前金を添へざるも妨げなし

⊙代金分送　當所に開設せる講習會修業生に限り豫約代金を兩期に分送することを得

實地應用昆蟲叢書豫約申込所

名和昆蟲研究所編輯部

○害蟲圖解出版廣告

◉第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(三版)
◉第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
◉第三稲の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
◉第四煙草害蟲タバコノアオムシ(煙草螟蛉)
◉第五桑の害蟲イチモジセヽリ(苞蟲)
◉第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姫象鼻蟲)
◉第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)
◉第八稲の害蟲イ子ノアチムシ(螟蛉)
◉印は既版の分

◉第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
◉第十豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盗蟲)
◉第十一桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
◉第十二稲の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
◉第十三桑樹害蟲イトヒキハマキムシ、
○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛄蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛄蟖)
○稲の害蟲イナゴ(蝗螽)

○稲の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛄蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛄蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)
○印は逐次出版の分

◉圖解の紙幅　縦一尺三寸横九寸
◉壹枚の代價　拾五錢郵税貳錢
◉百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵税百枚に付き貳拾錢

◉豫約代價

圖解代金　壹枚拾錢郵税貳錢
凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用一割増の事
但申込の際前金添附の事

右害蟲圖解第一より第十三迄は既に發行を終へ江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易くせる必須のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解し得し害蟲驅除上著大の效を奏したりと云ふ依て當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎購讀者諸君へ公告

本誌代金の儀は總て前金の規定に有之候處往々遲延相成候諸君も尠からず會計上非常に迷惑を來すのみならず爲めに本誌の改良上にも大影響を及ぼす次第に付き此際滯納の諸君は何卒速に御送金有之度此段願上候也

明治三十四年五月　岐阜縣岐阜市京町名和昆蟲研究所

昆蟲世界會計部

昆蟲學用器具雜誌

●殺蟲注射器　定價金廿二錢荷造八錢　送費百里迄八錢外十六錢

●益蟲保護器　定價金八十錢荷造十五錢　送費百里迄廿錢外四十錢

●米國新形撿蟲鏡　定價郵稅共金一圓十錢

雜誌昆蟲世界合本出來廣告

第一巻第二巻ハ品切

本邦唯一の昆蟲雜誌（第三第四卷）

昆蟲世界合本

（壹卷金壹圓貳拾五錢）

西洋綴金文字入美裝

名和昆蟲研究所

◎昆蟲學用書籍寫眞廣告

名和昆蟲研究所長名和靖著

五版　薔薇の一株　**昆蟲世界**　全

定價貳拾錢郵稅貳錢郵券代用一割增

●理學博士佐々木忠次郎先生著　日本農作物害蟲篇　郵稅共定價金貳圓

●農學士松村松年君著　增訂四版日本昆蟲學　定價金壹圓七拾錢郵稅金拾貳錢

●同君著　增訂三版日本害蟲篇上下二冊　定價金參圓參拾錢郵稅金貳拾錢

●同君著　害蟲驅除全書　定價郵稅共金九拾五錢

●鳥羽源藏氏著　昆蟲標本製作法　定價金貳拾五錢郵稅四錢

●農學士松村松年君著　日本有益蟲一覽　定價郵稅共金貳拾錢

●コロンボス世界博覽會出品　害蟲標本寫眞帖（三十三枚張）　定價金貳圓送費百里迄拾貳錢外貳拾四錢

●皇太子殿下獻上　中等教育用昆蟲標本寫眞帖（十六枚張）　定價金九十六錢送費百里八錢外十六錢

取次所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

無病の人見る可からず

健胃一方散（びやうくすり）

定價
三日分拾錢
七日分貳拾錢
十三日分參拾五錢
廿一日分五拾錢
六週間分九拾錢

●勿驚十年の胃病三週間ニ全治す

如何なる難症と雖も、全治すると多年の實驗ニ依て保証す、論より證據、一週間試み給へ　▲送料不要

美濃國大垣町若森
本舖　盛林堂　杉山常三郎

名和昆蟲研究所臨時刊行第一編

日本昆蟲分科表

定價郵税共金貳拾八錢（郵券代用一割增）

名和昆蟲研究所臨時刊行第二編

通俗 益蟲集覽　第壹輯（說明書附）

定價郵税共金貳拾貳錢（郵券代用一割增）

右發行ニ付廣告致候也

名和昆蟲研究所編輯部

春蠶種販賣廣告

本館製造の春蠶種は飼育し易く繭質善良加ふるに病毒皆無なるは既往の成績ニ徵し既ニ當業家諸君の稱賛を辱ふせる所なり現に昨年の如きは豫約を募集せしニ未だ期限ニ至らざるに既ニ製造額以上ニ達するの盛況を呈し止むなく謝絶したり今回大に規模を擴張し蠶室貯桑場、上簇室等を增築し精選蠶種を製造致すべきニ付多少共御注文の上御飼育あらんことを

岐阜縣不破郡岩手村字岩手
樹神館蠶業部
館主　兒玉氏信

一本館製造蠶種の種類又昔、青熟、角又
一代價　框製壹蛾金參錢、普通製一枚金壹圓四拾錢（多數注文は特別割引）
一期限　毎年六月二十日迄に御申込の方は名入として特製す故に可成期日前に御注文を請ふ

一春蠶傳習生募集（規則書は郵券送附次第進呈）

農學博士新渡戸稻造先生著
訂正三版 農業本論
洋裝 全一冊
正價 壹圓五拾錢
郵稅 金拾四錢

農學士松村松年先生著
增訂四版 日本昆蟲學
洋裝 全一冊
正價 壹圓七拾錢
郵稅 金拾貳錢

農學博士佐藤昌介先生閱
農學士伊藤清藏先生著
農業金融論
洋裝 全一冊
正價 壹圓八拾錢
郵稅 金拾八錢

農學士理學士堀正太郎先生著
訂正三版 作物生理學
洋裝 全一冊
正價 金八拾錢
郵稅 金八錢

中央氣象臺中川源三郎先生著
增訂再版 農業氣象學
洋裝 全一冊
正價 金壹圓廿錢
郵稅 金拾貳錢

中央氣象臺中川源三郎先生著
天氣豫報論
洋裝 全一冊
正價 壹圓五十錢
郵稅 金拾四錢

農學士大脇正諄先生著
訂正再版 最近米穀論
洋裝 全一冊
正價 壹圓三拾錢
郵稅 金拾四錢

理學博士宮部金吾先生閱
農學士出田新先生著
(近日發行)
實用植物病理學
洋裝 全一冊
正價 壹圓五拾錢
郵稅 金拾貳錢

農學士明峰正夫先生著
(近日發行)
農業種子學
洋裝 全一冊
正價 金壹圓
郵稅 金拾二錢

農學士 獨逸留學 高岡熊雄先生著
(近日發行)
農政學
洋裝 全一冊
正價 金壹圓五拾錢
郵稅 金拾四錢

獨逸哲學博士 米國文學博士 新渡戸稻造先生著
英文武士道
正價 金四拾五錢
郵稅 金四錢

獨文武士道
正價 金五拾五錢
郵稅 金四錢

農學士角田啓司先生著
日本土地經濟論
洋裝 全一冊
正價 金參拾錢
郵稅 金四錢

農學士高岡熊雄先生著
北海道農論
洋裝 全一冊
正價 金參拾錢
郵稅 金四錢

世界萬國の奇樹良木の種子

●大王松（壹袋代價但郵税共金參拾錢）

●落羽松　金貳拾錢

●世界爺ギガント　金五拾錢

●世界爺センペル　金參拾錢

●ストロブ五葉松　金拾五錢

●オレゴンパイン　金拾五錢

●ローソンひのき　金拾五錢

●ユーカリプタス、グラブラ　金拾錢

葉は三葉で長は一尺六七寸に達し丁度火箸の樣で枝から葉の垂れた處は神馬が鬣を春風に梳る如く實に得も云はれぬ風韻があり實に世界中第一等の松で庭木林木共に無類です

半分は木で半分は鳥だと云はゞ隨分不思議でせうが此落羽松は高十丈から十五丈位になる立派な木ですが其葉は並び方と云ひ柔かさ加減と云ひ鳥ので羽マルデす

神代の扶桑木はどの位あつたか知らないが此世界爺ギガントは枝下が三十間、總高さが五百六十六尺即壹町三十四間もあつて其根のうろを二頭立の馬車が通るのです

此木も前と同種類で壹町餘の高さのものがある此樹に不思議な事は七百年も經て老木の切株から萠芽する事であるナント目出度い事ではありませんか

日本の五葉松は葉が短くて木の勢も惡いが是は葉も長く樹の勢は至て宜しく庭木用材として至極適當なのであります

近頃日本の木材が高くなつたのでアメリカから非常に立派な長二三十間ふしなしヅツ通しの角ものなどが來ますが是は其材木の親即種子であります

學者の説によると世界中にひのきの種類が七つあつて其内これが一番立派なもので公園庭園其他の装飾樹には必用だといひます

是は前の世界爺ギガントと共に世界樹木の兩大關と云はれる程大きくなる木ですが日本では幹よりも葉が高くなる即はち熱病、マラリヤ、おこりなどの豫防になると云ひます

右の外下記の種類も到着す但壹袋郵税共金拾壹錢宛の分

●獨逸もみ●スパニアもみ●ヒマラヤシーダ●チリシーダ●カナリヤシーダ●アレポ松●コルシカ松●獨逸黒松●佛國海岸松●獨逸赤松●獨逸山はんのき●獨逸しほぢ此外尚十數種あり

栽培法　林學博士本多靜六先生の口授に依り印刷したるものを種子に添へて呈す

蒔時　五月初旬八十八夜前後最よし

内外種苗輸出入業　東京牛込　早稻田農園（電話番町參百番）

(毎月一回十五日發行)

昆蟲世界

(明治三十四年六月十五日發行)

第五卷第四十六號

全國昆蟲展覽會用を帶び貴地滯留中は一方ならず愛顧を辱ふし深謝の至りに候拙者事去月二十九日貴地發程熊本縣へ出張の上昨歸宅に付此段御挨拶旁々御報道申上候

六月十四日

東京市本郷區金助町七二　田中芳男

岐阜縣辱知諸君各位

全國昆蟲展覽會開會中は多用に取紛れ御來訪諸君に對し缺禮致したるも多々可有之と存じ乍略儀以本誌上奉鳴謝候

名和昆蟲研究所　名和靖

◉岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上

但該會へは縣の內外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

明治三十四年六月

名和昆蟲研究所內　岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し

第三十一回月次會(七月六日)　第三十四回月次會(十月五日)
第三十二回月次會(八月三日)　第三十五回月次會(十一月二日)
第三十三回月次會(九月七日)　第三十六回月次會(十二月七日)

(明治三十年九月十日內務省許可)
(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

⋮ 市街界
‖ 案內道
| 町道
イ 研究所
ロ 縣廳
ハ 病院
ニ 中學校
ホ 監獄
ヘ 郵便局
ト 西別院
チ 公園
リ 長良川
ヌ 金華山
ル 停車場

◉名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢　(見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す)
壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢

(注意)本誌は總て前金に非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵券代用は五厘切手にて壹割増とす

廣告料五號活字廿二字詰一行に付金拾貳錢、三十行以上一行に付き金拾錢とす

明治三十四年六月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二(岐阜縣岐阜市京町)
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二　發行者　名和梅吉
同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戸　編輯者　桑原貫之助
同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戸　印刷者　河田貞城

(大垣西濃印刷株式會社印刷)

Vol. V. JULY 15TH, 1901. No. 7.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

(七月十五日發行)

(毎月一回十五日發行)

昆蟲世界

第四拾七號 (第五卷第七册)

目次 (禁轉載)

(明治三十四年七月十五日發行)

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一金拾圓也　東京府　小貫信太郎君
一昆蟲に關する商標類其他十數點　東京府｛田中伍一君／田中健太郎君｝
一農事試驗場報告　第二號　廣島縣農事試驗場
一害蟲試驗成蹟　第一報　三重縣　村田藤七君
一害蟲驅除豫防必携　一册　第七回全國害蟲驅除講習修業生　新潟縣　櫻井熊治君
一實用植物病理學　一册｝
一農業種子學　一册｝　東京府　裳華房
一富士新聞(昆蟲記事揭載)四葉　岡山縣　松阪佳一郎君
一忍商報(昆蟲記事揭載)壹葉　埼玉縣　細谷秋君
一半身肖像(寫眞)壹葉　第七回全國害蟲驅除講習修業生　三重縣　三村貞吉君
一田中整理地共同苗代寫眞　壹葉　三重縣　伴野熊吉君
一昆蟲標本寫眞　壹葉　岐阜縣　林卜三郎君
一アシマダラバッタ幼蟲　多數　北海道農會
一手拭(昆蟲摸樣付)一筋　愛知縣　彥坂利作君
一莖切鋏　二個　福岡縣　盆農商會
一計量注油器　一個　大阪府　戸口榮之丞君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を揭げ其厚意を謝す

明治卅四年七月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

貴地方へ客遊中は種々御欵待を蒙り萬謝の外無之候一々御挨拶可申上筈の處皈縣後極めて多忙に御座候間乍畧儀以誌上御禮申上候

明治三十四年七月　名和靖

愛知縣三河國渥美郡
靜岡縣遠江國周智郡　辱交諸君

第九回全國害蟲驅除講習會員募集　定員四十名

開期(自八月十五日至同二十八日)貳週間

前回は應募者非常に多かりしを以て拒絶せし向少なからず依て第九回の講習會を開く希望者は七月三十一日以前に成規の手續を經て申込あれ但し期限前と雖も定員外に達したる時は入會を謝絶すること前回に同じ

規則書入用の向は郵劵封入の上至急照會あれ直ちに回送すへし

明治卅四年七月
岐阜市京町
名和昆蟲研究所

米國夏季婦人昆蟲講習會員

富山縣害蟲驅除講習會員

論説

◎本邦昆蟲學者の通弊を論ず（續）

仙臺宕麓　晴耕雨讀子　草

（其二）昆蟲學者は萬能なれども偏狹なり　熟々昆蟲學界を通觀するに、今の斯學に從事する者は概むね萬能主義を牢守し、未だ自家の本色を發表するに至らず、是を以て容易く其領有の範圍を識別すること難しと雖ども、日月の明を爲すや能く兼ねずと云へば、早晩舊套を脱して分科的の精覈研尋を積み、斯學前進の上に一動機を與ふるに至るべきは炳乎火を覩るが如し。例へば明治初年に於ける傷寒論崇拜醫家は醫藥の分離、齒科眼科の獨立及び細菌學の新興を豫期せざりき、而して今や唯り各科の發達を以て足れりとせず、百尺竿頭歩武を進めて一内科をすら腸胃、呼吸器、神經系等の各種に科分し、其研鑽を專ぱらならしむるに非らずや、更に之を内に顧みれば昆蟲學の現狀たる、猶ほ三十年前の醫學の如く尨大なる標榜の下に、萬能に安んじ彼此兼掌の者は之れありと雖ども、正式の階除を履み身を局部の專攻に委ねて其特長の發揮に努むる者に至りては蓋し極めて鮮矣、是れ豈に先輩諸氏の所謂「我が國の昆蟲學は尚ほ幼稚時代にあり」てふ評語を現實にせるものに非らざるなきか。

本邦の昆蟲學は斯く未だ雜駁研究の時期を經由せざるを以て、前途の成功すこぶる遼遠を極む、去れば先輩諸氏は其天職の命示に從がひ、神を窮め意を盡し各々得る所ろを執て國家の經營に貢献すべきもの

固より少なしとなさず、さなきだに害蟲の爲めに每歲農作の損傷せらるゝもの幾千萬圓あるを知らざるをや、然るを何ぞ料らん、動もすれば輙はち割居對抗、蝸牛角上の爭鬪を事とし、其本分を忘れ其良心に逆らひ、局外より之を靜觀冷視する時は醜汚殆んど鼻を掩ふに勝へざるの行爲あるを耳にせんとは。嘗て聞く、先輩諸氏は自然界に逍遙して斯學の秘奥を究め造化の大觀に俯仰して幽玄の眞理を探り、其心膓の高潔純正なる、遠く風塵の外に超絕するものありと、而して內に和協を缺き、外は粉飾に勉め、その已れを美にせんとして反つて公德を害なひ、他の枉を言はんとして遂に聲望を傷ぶるの弊患に罹れりとの巷說を聽くに迨びては、少さか之が選擇に惑はざるを得ず。道塗また傳へらく、昆蟲學者には海外に於て既に吐棄せられたる諸種の舊說を巧偸して博聞を衒ふ者あり、一時の奇功を收めんとて不經濟的方案の新機軸に出でたるを誇稱するものあり、又強ゐて自說を透徹せしめんと努むるの餘り腹非陰柔の言辭を弄して他說の批評を事とする者あり、曰く何、曰く何、と想ふに皆これ先輩諸氏を毀たんとするの誣言妄語に過ぎざれば一顧の價ひ無きに似たるも、また多少諷刺の意を寓せざるにあらざる可し。凡そ人の已れに同うするを喜こび、その之と異にするを惡むは、恒に俗輩の行動に於てこれを視る、假ひ風言と雖ども、苟しくも躬を四民の上に置き、後進の摸表たるべき者の、些々たる感情の衝突のために斯學の發展を阻障すと云ふに至りては、事の輕重得失に鑒がみて大に警戒する所ろなかる可からず、啻りそれに止まらず、斯かる兒戲を演ぜんよりは寧ろ何ぞ宏量坦懷、互ひに恕し互ひに容れ、異志を挿まず私情に驅られず、誠とに道を學ぶの名器となり、以て斯學と源流を同うせる醫學をして、今日獨り其榮譽を學術界に煌耀し得ざらしむるの策を講ぜざる。

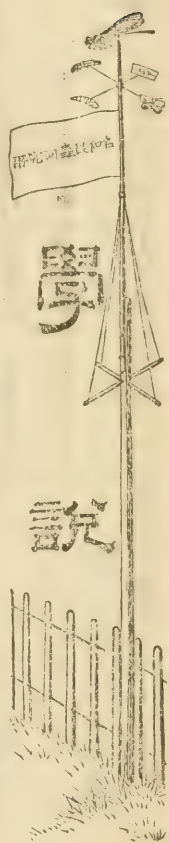
それ人には能あり不能ありて、如何に學に篤實博洽なりとも、一人の力を以て克く萬能に通ぜんことは

固より難し、枉て之を遂行せんと欲せば博而無成の譏りを免がるべくもあらず、是れ分科的研究の學術界に重視せらるゝ所以なり、然るを先輩諸氏の智を以てして、猶は久しく昆蟲學者てふ茫漠無涯の名稱の下に跼蹐し、更に當年進取の意氣を現はさゞるは抑そも何故ぞ。然かも現時は各自一身の榮辱を捨て禮を守り節を屈し、只顧斯學の扶植啓誘に任ぞべき眉急の危機なるに、その道を求むるや心を以てせず其これを取るや亦手を以てせんとす、其褊心僻見始めより與し能はざるも、今や良材缺乏して一塊の駑骨なほ千金に値ひするの秋に當り、空しく同志間の紛爭に抑制せられて、多年抱持せる經綸の半ばをも行ふこと能はざるは、國家の爲め將た先輩諸氏のために深く之を歎惜せざるを得ず。

看よ、斯學の伸暢に伴れ學者の愜心直意に竢つべきの重要問題一にして足らざるを、而して先輩諸氏は嘗て一たびも商量する所ろなきなり、聞く、植物學者は將に已にその亂雜の植物名稱を統一し了らんとすと、而して先輩諸氏は害蟲の魁首たる螟蟲と浮塵子に對つてすら、堅柔相摩し矛戟相擊ち、未だその假名を協定し得ざるなり、之を彼の蜂蝦の微を以て亦能く天地に游觀し洋海に放肆するに比ぶれば、その器局の廣狹、蓋し問はずして明らけし。由來吾が昆蟲學界は濟々のその士に乏しからず、而して一人の能く恬淡濶綽、百家を括摠して千載に馳騁するの雄圖を懷ける者あるを知らず、何ぞそれ世に處するの途に拙巧にして大功に任ずるの意志に健剛ならざるや、古人句あり、有レ心待三搦二月中ノ兎一、更ニ向二白雲頭上一飛ブ。と先輩諸氏られ猛省を加へて可なり。

（未完）

窓前螢　ともしびを吹けつ窓の夕風にかはる光りは螢なりけり。

（松平健子）

◎昆蟲の名稱に就て（續）

在獨逸伯林　農學士　松村松年

次に然らば稻の黃葉捲蛾とは如何なるものを云ふや、名和氏の所謂イ子ノアヲムシ（Naranga diffusa Walk.）の意なり、一は靑と云ひ他は黃と稱す、一は成蟲の着色に據り、他は幼蟲の躰色に基づく、何れを採るも可なり、然りと雖ども之を「プリオリテート」より論ずるときは、名和氏は既に明治二十八年十月、昆蟲雜誌第一號に於て之を發表せり、次で一七六頁飛蝗の事を見るに、佐々木氏は之に假名してイナムシと呼ばしむ、然るに從來本邦に於て用ゐ來りしイナムシの名稱は、イナゴ（Oxya Verox, Fab. ; O. chinensis Thunb. ; O. vicinia Brun.）の謂にしてPachytylusにあらざるやうに覺ゆ、然るに氏は又二五頁十四行に飛蝗を引き、之に假名してトビイナムシと言はしむ、更に二三頁十三行に蟲螽なる文字あり、之に假名してバッタと呼ばしむかと思へば又一八一頁十二行にある蟲螽の別名にはイナゴ。イナハッタギの名稱あり、畢竟バッタがイナゴなるか、イナゴがバッタなるか、イナムシがバッタなるか、バッタがトビイナムシなるか、初學者の混雜や實に名狀すべからざるものあらん、其和名を採用すると、せざるとは各個人に自由ありて余は今茲に呶々するの要なしと雖ども、其從來本邦に用ゐ來りし名稱あるに關はらず、恣いまゝに命名せられたるには昆蟲學を研究する者の迷惑此上もなかる可し、余は曩に「プリオリテート」を論せり、若しそれ今日「プリオリテート」の規定あるに非らずんば他日必ぞや之を完

成するの期なかるべし、況んや已に其難きを見るに於てをや。
嘗て農事試驗場長及び巡迴教師を召集せるの際、昆蟲名稱一定の發議ありしと聞く、これ甚はだ望ましき問題にして然かも亦到底行はる可からざるの問題たるを見るなり、凡そ蟲名を一定せんとす、如何なる規定に據らんとするや、仄かに傳へ聞く、本邦の學者は繁忙にして調査に暇なしと、それ或ひは然らん、然れども假りに其暇ありとせば如何、同じく亦調査し能はざるに非らずや。
夫れ名稱を一定せんと欲せば必ずや先づ學名を調査せざる可らず、而して此學名の調査は必ず書籍と標本とに須たざる可からず、書籍或ひは數万金を投せば之を得らるべきも其標本の如きは決して一朝夕の功に藉り整頓すべきにあらざ、況んや一種なほ數頭を要するに於てをや、假ひ書籍と標本とを兼備ふるも之が識別の任は數年間專攻せし者に非らずんば能はざるなり、現今世界に於て學名を有するの昆蟲は無慮三十萬ありと云へり、而して盡ごとく之を識別し得るの學者ありや否や、甚はだ疑はしき至りと謂ふべし、而して昆蟲全數三十萬の中、甲蟲の種族のみにても十二萬餘なりと云へるにあらずや、彼の有名なる教授コルベ（Prof. Kolbe.）は鞘翅學者を以て世界に鳴る者なるが、氏は既に三十餘年間昆蟲學界に其身を委ね、鞘翅學を專攻せし以來尚ほ既に十數年の星霜を經過したりと、而して余は親しく氏に接して本邦の甲蟲を研究するに當り、氏が日本甲蟲に關する智識の少なきに一驚せり、顧ふに本邦の甲蟲にして既に學名を有せるものは三千七百十九種の多きに上れるあり、氏が智識の乏しきも豈亦故なしとせんや、獨逸國の昆蟲學は本邦に比して先進たるの地位に居るも六千五百有餘の甲蟲を總括するの學者無きなり、又本邦には學名を有するの蝶蛾類の數貳千五百六拾餘種に達せり而して其種名を識別し得るの學者は幾人かある、夫れ甲蟲の名稱を確かめんと欲せば甲蟲學者を煩はさゞる可からず、鱗翅目を識別

せんと欲せば鱗翅學者に問はざるべからず、其他本邦には未だ十分の研究を遂げざる膜翅目の如き、双翅目の如きものありて、其大數は新種に屬すと云ふに至りては和名一定も亦容易の業にあらざるを知る可し、本邦從來鞘翅目を研究せしものは誰ぞや、鱗翅學を專攻せるものは何處にありや、現時昆蟲學者の名稱を有する者すら稀有にして本邦の學術は甚はだ幼稚なるが故に、世界の學者は邦語を以て記載せるものを未だ學術上の記載とは認むるに至らざるなり、然れば其學名を命ずるに當りてや、英獨佛伊若くは羅甸語の孰れかに依らざる可からず、此を以て其記事には時に羅甸語あり、伊語あり、佛語ありて爲めに語學も識別上甚はだ必要の事項たるを失はざるを見るに至りぬ、以上敍述せるが如き事情あり、宜なる哉本邦既に蟲名一定の議ありしより茲に兩三年を經るも未だ其緒を啓くに及ばざるや、謂ふ勿れ蟲名の一定するに至らざるは畢竟學者繁忙の結果たりと。

本邦の昆蟲類を算し來れば凡そ壹萬種に殆し今これに和名を下さんと欲す事頗ぶる難しと雖ども、就中目下農家に必要ある蟲名のみを一定せんと欲せば左まで困難なるにあらず、蓋し其學名の粗ぼ判然せるものあるに因る、是に於てか余は同好諸氏の賛成を得て此蟲名一定の件を名和昆蟲研究所に一任せんと發議する者なり、而して若し幸ひにして其議の行はるゝ時ありとせば、余は同所に向つて冀望に堪ざる一事あり、即はち穩當を缺くものにあらずんば成るべく「プリオリテート」の名稱を用ゐられんこと是れなり、また何を苦んで從來の通稱を捨て一己の私稱を用ゐるの擧に出づるを須ゐんや。

抑そも名和昆蟲研究所所有の昆蟲は殆んど邦內の產を網羅し、余また嘗て親しく之を觀覽してその實際を熟知せり、唯書籍に至りては比較上少なしと雖ども邦語を以て記述せるものは殆んど蒐集せられしやに覺ゆ、况んや名和氏所有の重要害蟲は既に合衆國博物館によりて其學名を識別せられたるもの少な

かゝざるに於てをや。人各々見る所ろ異なり東ょ青と云へば西ょ黄といふ、要はたゞ其観察の異なるものあるょ依る、若しそれ和名一定を彼の學派の異なれる數人に委んとせばその調和完成は到底期し難きものあらん、豫じめ茲に思はざる可からざるなり。

（大尾）

◎作物被害原因驅除法索引 （其三）

農商務省農事試驗場技師　農學士　小貫信太郎

第廿三條 （第二條第三項）

一、作物に蚜蟲を認めなば是れその原因なり、適當の肥料及び丁寧なる改良耕作法を行ふを良とす。

二、蚜蟲を見認ざる時。（第廿四條を見よ）

第廿四條 （第廿三條第二項）

一、若し作物幼稚なる時は過濕はその原因なり。

二、若し植物老熟せる時は自然ょ葉の黄變を來たすべし。

三、前二條の塲合にあらずして葉に赤色黒色若くは黄色の小點を存するを見る時は、これ即ち其原因なり、ウレデテ或ひはウスチラキ子ーと稱する菌類の寄生に依る、驅除法無し、但し黒色の煤狀の黴菌を驅除せんとせば百三十一度の冷水に十五分間浸し、後播種する時は大ひに其害を免るゝことを得べし。

四、若し作物蟲害を受け、或ひは乾燥被害を受けしならば早熟のため生じたる結果なりとす。

第廿五條 （第二條第二項）

一、天氣非常ょ熱くして乾燥せばこの原因なり。

二、若し然らざる時は。（第廿六條を見よ）

第廿六條（第廿五條第二項）
一、作物蟲を以て覆はるゝなれば、此蟲は被害の原因にして半翅類の蚜蟲或ひは椿象類なりとす、驅除法なし、萎凋せしむる程に甚はだしく生存せば最早收穫見込なし、蟲と共に燒却すべし。
二、若し蟲を見ざる時。（第廿七條を見よ）

第廿七條（第廿六條第二項）
一、根の腐敗より成るなれば黴菌の寄生に罹る驅除法なし、經驗上黴菌に罹らざる種類を栽培するを最良とす。
二、根腐敗におらずして蝕害せられたる時。（第卅條を見よ）

第廿八條（第二條第四項）
一、斑點甚はだ不規則なる時は器械的被害に歸そ、老熟せる作物に於ては自然的にこの現象を生ず、然らざれば霰又は強風はこの原因なり。
二、若しその斑處規則的なる時。（第廿九條を見よ）

第廿九條（第廿八條第二項 第三十條第一項）
一、若し其塲合小にして且赤色黃色若くは黑色の粉狀のものを見る時。（第廿四條第二項を參照せよ）
二、若し第一の塲合にあらざれば十分生熟せざる黴菌の寄生に歸す、其他葉に斑點を生ずる原因は甚はだ多し、驅除法無し。

第三十條（第二條第五項）
一、若し折死したる葉に小點を存する時は多分黴菌の寄生に罹りたるなる可し。（第廿九條を參照せよ）
二、小點を存せざる時。（第卅一條を見よ）

第卅一條（第卅條第二項）
一、若し葉にして白粉を以て覆はれたる時は恐らくはアルカリに依り燒かれたるなる可し。
二、然らざれば太陽の光線に依りて燒かれたるものなり。

この現象は莖幹に依て起るものなり、故に莖幹を撿査すべし。

第卅二條（第二條第六項）

一、若し鱗翅類の幼蟲若くは糞又は屑を有する孔を見る時には夜盜蟲若くは或蟲蛾の被害に歸す、驅除法なし。

二、若し幼蟲を存せずして其部分破損せるを見る時は、此破損は枯死の原因なり。

第卅三條（第二條第七項）

一、作物の穗又は頂の切斷せられたる時。（第三十四條を見よ）

二、葉の蝕害されたる時。（第三十五條を見よ）

第卅四條（第卅三條第一項）

一、穗又は幹に於て蟲を見ざる時は、根切蟲の被害なり、經濟的驅除法なし、前年より雜草を十分に拔取るは最とも良き方法なり。

二、此害もし小麥の莖中に發生し且蟲を見ざる時は、鋸蜂科の一種の被害なり、刈株を燒却するを最良とす

第卅五條（第卅三條第二項）

一、被害部に生存する蟲を見る時。（第卅六條を見よ）

二、被害部に蟲を見ざる時。（第卅七條を見よ）

第卅六條（第卅五條第一項　第卅七條第二項）

一、若し幼蟲を存せば鱗翅類のものなり「ハリスグリーン」又は「ロンドンパーフル」を用ゐる可し、粉狀の儘用ゐるを良とす其量は四反歩に付一磅乃至五磅を用ゐる、撒布器なき時は棒の兩端に粗目の袋を付け其中に粉を盛り圃場を步行して振掛くべし、此法は南方の棉圃に於て大に用ゐらる、若然らざれば水二百ガルロンに右の毒劑一磅を混じ撒布器にて撒布すべし。

二、幼蟲六脚のみを存せば葉蟲の一種なり、前と同一の方法を行ふべし。

三、蝗の類なれは蝗蟲科、若し綠色なれば螽蟖科に屬する蟲なり、前法を行ふべし、但し蝗蟲は屢次非常に多數に發生し驅除を行ふ前に全く作物を斃すとあり、以上の毒劑に糖を混じ誘殺し又は大なるブリキの箱を作り、其中に石油を盛り圃場を引廻し追込めて殺すべし、但し箱の後側の高さは二尺餘とすべし後方に、飛散するを防ぐ爲なり卵を地下に產するを以て冬耕を行なひ之を殺すべし。

◎螟蟲驅除に對する今昔の感を書す

名和昆蟲研究所長　名　和　靖

回顧すれば今より數年前、螟蟲驅除唯一の手段として點火誘殺法の行はるゝや、未だ深くその利害得喪を考究するに暇なく、國を擧げて翕然風靡、わづかに害蟲の一小部分を驅殺して其心に甘んじ、また他に良法名策なきを確信せるものゝ如くなりき、是時にあたり人の卵塊摘採の實効多きを唱道する者あるも、一はその煩はしきを厭ひ、一はその成果の如何を危ぶみ、敢て進んで之を實行せんと欲する者なかりしは勿論、反つて之を邪法視し、或ひは農政當局者の旨に忤ふと稱して之を遠ざけ、或ひは迂遠の姑息手段となして之を斥ぞけ、苟しくも採卵法を主張する者に逢へば則はち功利のためにのみ奔走するものゝ如く誤解せり、爲めに採卵法を可とする者は殆んど熱罵冷嘲の下に埋了せられんとせしこと前後幾回なるやを知らざりき。

螟蟲卵塊の摘採を唱道する者の一時その所信を實行する上に於て、或ひは衆怨の府となり、或ひは窮迫の衝に立ちしが如きは、之れを今日より觀れば奇異の現象といはざる可からざるも、應用昆蟲學の發育なほ低かりし昔日にありては敢て訝かり怪しむに足らず、蓋し明治十五六年の交、當路者は害蟲驅除豫防の普及を欲するの餘り、かの機關農商工公報を利用し、盛んに螟蛾誘殺の有利有効を奬勵したるを以て一般農家は先入主となり容易く他の未經驗の新方法に移るを好まざりしも一因たりしなる可し、そは然もあらばあれ、採卵法は決して新奇のものにあらず、遠く數十年前より已に之を實行せし地方少なからざるに、農家は言ふに足らず、躬親しく農政を執り害蟲驅除に干與する者すら之を疾視せりと云ふに至りては、當年斯學發達の程度を推測するに難からず。

ろれ斯くの如く點火誘蛾の方法は當時盛んに採用せられ、採卵法の如きは歯牙にだもかけ得られざりしに逐漸實驗を積むに隨がへ、形勢一轉、今日の如きは殆んど全たく採卵を等閑視する處ろ無きに至れり時勢の推移に因るとは云へ、上下ともに其利に頼るに到りしは將來頗ぶる意を强ふするものあるを知る蓋し自己の主張の實行せらるゝを悦こぶに非らず、その斯學思想の普及して稍着實なる方法を擇ぶに躊躇せざるまでに進歩せるを悦こぶなり。

我が國の農家は動もすれば農事の改良を口にす、而して過半は未だ農事の改良なるものは多勞多煩の結果に外ならざるを悟らざるなり、故に害蟲を驅除し收穫を增進せんと欲するは一般の希望なるが如しと雖ども、其多勞多煩を厭ふて粗漫に就くの趨向なきにあらず、想ふに是れ不完全にして且多費なる點火誘殺法の久しく重用視せられ乍ら、確實少費の採卵法は故なくして嫌忌せられし所以か、而かも今や全たくその位置を換ふるに至れるは、畢竟之を使用する農家の蒙を啓き惑ひを解き、ろの利害得失を明らむるに因らずんば能はず、是れ螟蟲驅除豫防法式の一變せるを悦こばず、却つて斯學思想の普及を悦ぶと云ふ所以なり。

頃者各地發行の新聞紙に就き又當昆蟲研究所に來る所ろの通報を閱讀するに、採卵法を實行するの府縣甚はだ少しとなさず、特に多年奬勵せる小學兒童隊の採卵記事を讀むに迨ひては心中一段の快味あるを覺ふ、誰か云ふ小學兒童は驅蟲の用に適せずと、看ずや北陸に東海に中國に東北に九州に、皆おの〳〵此等兒童の手を籍りて國蠹の殲滅を期せられつゝあるを、若し餘白の容るすものあらば、爰に例證を擧げて一々其成績を縷述するに吝かならざる可し、然は云へ、害蟲驅除の事は宛かも軍隊の組織の如く決して單純の方法を以てろの十全を望む可からず、假ひ採卵法を行ふとも其前後に於て疎漫の事多からば

竟にまた損害を脫がれず、則はち尙ほ點燈するも可なり、被害藁稈を醱酵せしむるも可なり、枯穗を拔取るも可なり、惟々ろの本末輕重を誤解せざれば他にまた多く望まざるべし。

終りに臨み尙は一言すべきものあり、小學兒童を利用して害蟲驅除をなさしむるの難事ならざるは既に實驗上之を確かめ得たりと雖ども、其餘暇の有無につきては異論を述ぶる者無きにしもあらず、去れど農作地の如きは通常插秧休業と稱するものあり、又恰かも螟蟲蕃殖期に際り夏期休業のあるあれば、若し町村主宰者にして之を利用せんと欲せば他に利用の途を求めずとも自づから其機會の存するものあるを知らん、要は唯學校職員の奮勵如何にあるのみ。

隣家蚊遣

わが宿の蚊さへなびきてうれしさは隣りゝ立てる烟ありけり。

（八田知紀）

講話

左に揭ぐるは今春本邦に來遊せる北米合衆國農務省昆蟲部次長シー、エル、マーラット氏（前號及び本號雜報參照）が去る四月二十七日に當昆蟲研究所の請に應じ、岐阜中學校假講堂にて演說せる筆記なり、當日の聽衆は無算六百名に餘り、小貫全國昆蟲展覽會審査長、高木同中學校長を始め諸學校職員生徒、全國昆蟲展覽會關係者等なりしが、演說は午後二時名和當研究所長の紹介により、堀農商務技師の通譯を以て開始せられ同三時に近き頃降壇せられぬ、次に小貫氏の昆蟲談ありて三時半に散會せしが中々盛會なりき、後の紀念にもと茲にその顚末を記しおく。

◎マーラット博士の昆蟲談

（宮脇繼松氏速記）

此度貴國へ參りまして昆蟲學上種々研究する事がありまする爲め諸處方々巡る都合でありますが、今回

は九州の方を廻らんと存じ、一昨日當岐阜ゝ參りました處、名和君の厚意により茲に諸君に對つて一場の談話を致す事に成りましたのは、私の實に愉快に感ずる事柄であります、次に貴國へ參りましてから到處に於て貴國の人々が私に對し一方ならぬ厚意を表せられたるを深く感謝いたします、特に岐阜に着きまして以來名和君を始め諸君が極めて懇切に待遇して下さるのは私の中心ゝ滿足する處であります、デ私は先刻御紹介に成りました米國政府の昆蟲部ゝ居りまする者で昆蟲に就きましては多少の經驗もありますから、聊さかそれゝついて御話を致さうと思ひます。

この昆蟲に就ての研究は數百年前より歐米諸國では致して居りますが、最初の間は學術の研究だけで之を農業に應用申す方は致して居りません、其事に就き貴國では古くからやられて居ッた事は書籍を見ても知れまするが、歐米の有樣も古い本ゝ書てあるので能く解かりまする、併し農作の害蟲を驅除するとか、有益蟲を保護するかと云ふ事は、至つて近い事で、僅かゝ五十年この方始めましたので未だ十分ゝ發達は致して居らんのであります、自分はこの經濟的研究即はち應用昆蟲學に從事致して居る者でありますから是より其事に就きまして申述べやうと思ひまする。

諸君も知らるゝ通り米國は貴國とは農法が別でありまして一体ゝ圃場の區畫が廣くあります、例へば貴國で申すと一區を五畝歩とか一町歩とかに仕切ッて有ますが、米國では三四百町歩も麥とか玉蜀黍とか云ふものを一面に作ッてありますから、種々の害蟲の發生も多うありまするし又驅除致さうと申しても中々困難でありまず、其れで年々の被害高はと申せば實に壹億圓以上ゝなるので、政府に於ては其内の幾分かを減らす事が出來れば幸ひだと云ふ目的で以て昆蟲部と云ふものを設けまして段々研究を致して居ります、其れを起したのは今より二十五年以前でありますが、二十二三年前ゝ博士ライレー氏がワシントン府に入りましてからい盛んに研究を始めたのでありまする、偖米國で害蟲驅除の方法と申すと種々の手段がありますが、第一ゝ葉や莖を食する害蟲に對する例を申せば、蛄螂とか、夜盜蟲とか或ひは尺蠖であるとか申すものには亞砒酸と云ふ毒藥を用ゐると驅除する事が出來まするのである、これが案出さ

れぬ以前の事を申すと、米國南部諸州の如き綿作を澤山ょ致して居る地方では非常な損害を被ふりましたが、只今では葉の上に亜砒酸の粉末を振掛けて驅除を致し、又苹果等の果樹の蛅蟖には同劑を水に溶かして注射驅除を致すので頗ぶる都合は宜しく成りましたが、其の爲めに年々一千噸以上の亜砒酸を費消致しまする。

それから第二の方法に成りますと蟲の種類が違ひますから自つから手段も別ょなります、即はち先きょ申しましたのは葉を喰ひ莖を喰ふ顋を持つて居る種類ょ適用するものであるが、吸收口を有する昆蟲即はち口吻を植物の皮下に刺入れて養液を吸取るものには亜砒酸は効能が無から、此等は宜く藥を蟲躰ょ觸ひましてその呼吸を止ゅて窒息させるとか、或ひは躰を腐らして殺す方法を用ゐんければ成りません、其こで此等の種類ょ限り石油であるとか又は原油であるとか云ふものを用ゐるのであります、其例を申せば先刻名和君が私を御紹介の際ょサンホーゼー貝殼蟲の事を御話しに成りましたが、あれは如何にも大害を爲すものである併し石油を用ゐれば容易く殺滅する事が出來る、又農家が最とも困ッて居る蚜蟲を殺すにも矢張石油とか原油とか或ひはまた之を乳狀ょ製しました乳劑を用ゐるのである、諸君が能く御承知の浮塵子は現に石油で殺しますが、是は第二の方法で試驗を經たものであります。（未完）

◎第七回全國害蟲驅除講習會員の五分間演説（續）

（六）　勸農の志士は大に同志を糾合すべし　熊本縣　小山新太郎

誠忠なる勸農の諸君、今日吾が農國の有樣は如何でありますか、其の豐凶は直ちに一國の消長ょ關すべき、尤とも大切なる作物は年々害蟲、否國賊の侵害する所となりまして、之が爲ゅに空く幾千万圓の國力を減じつゝあるでは有りませんか、然るょ農民は斯かる國賊の來襲するをも顧りみず、平氣にすまし居るとは實ょ嘆息の至りで御座ります、何故に農民は斯くも冷淡に斯くも無頓着であるかと云ふと畢竟その恐るべきを知らんからである、一旦その眞ょ恐るべきを悟つた日には必らずや自から驅除豫防に意を

用ゐる樣になると思ひます、そこで今日の急務は一般農民の隊長となり、司令官となるべき人物を養成し續いて一般農民をして昆蟲思想を有せしむるのである、若し此等の順序を經ず徒づらに法律規則の力のみを恃んで强制的に施行しました處が、遂に最良の結果を得る事は六ヶ敷からんと信じます、現に吾が熊本縣の如きは三十一年以來幾度かやッて見ましたが何時も面白い結果を得んのである、尤とも昨年の如きは縣知事始め非常な熱心でやられたので、少しは見るべきの成績を擧げましたが、是とても忌憚なく申せば外形の事で農民の多數は法律の制裁があるから致方なしに驅除をしたのであッて其頭腦には害蟲を驅除しやうとの考へは無かッたのであります、是れと云ふのも畢竟害蟲の恐るべきことを知らないからで、年迴りに發生するものだとか氣候によりて湧くものだとか云ふ頑夢が醒めんのであります、されば〳〵今日我國に於ける一般農家の頑迷固陋と云ふものは寧ろ憐然な程であります、就ては前にも申した通り直ちに此等の農民に向つて昆蟲思想を注入した所ろが却つて危險千万であらうと思ひますに依て私の考ひでば先づ第一に農民を指揮監督すべき有數の同志を糾合して强固に且つ勇壯なる軍隊を編成し、斯くして農國に於ける大義名分を明らかにしましたならば、遂には百年の迷夢を破り害蟲滅盡、天下泰平の運に迎ふの日あるべきは私の信じて疑はない所ろであります。

（七）浮塵子驅除豫防の一ッ二ッ

宮城縣　棟方儀比郎

近來害蟲驅除豫防とか、或ひは益蟲保護とか云ふことは全國到るところに其々喧しく申されまして追々實行しつゝある事でありますが、是は大に悦ばしい事と存じます、偖私の縣……宮城縣では明治三十年浮塵子の發生以來之が驅除豫防の一つとして短冊數苗代に注目するやうに成り昨年四月より强制的施行の縣令を發布せられまして、これに應じない者は十圓以內の科料に處することに成りましたが、何分苗代田の驅除豫防ばかりでは完全と申されんので、本田に於ても十分注意せんければならんと存じ昨年少さか實驗致した次第である、尤とも私の居ります郡は早くも廿九年から短期の農事講習會を開きその力らを以て苗代を改良もし又本田にもそれ〳〵注意は致して參りましたもの丶何分昆蟲學思想が上下にあ

りませんので困りました、備てその方法は一番代掻き三四日前に水を張り、畦畔の雜草を悉ごとく苅取りまして畦畔より凡そ二尺計りを隔て兩側の水面に石油を注下し、竹帚の類を以て畦畔上を急に掃き立ますると浮塵子の如き害蟲は悉ごとく油の上に落ちて死にます、此時或る時間中その儘打捨て置きまして水を入換へまするのであるが、是は私の地方に計り行ッたのであるから、一般に實行が出來るや否やと云ふに就ては諸君の御示教を求めたい次第である。

（八）　老生が講習會に入會せる事情　　新潟縣　櫻井熊治

私の處は新潟縣の刈羽郡でありますが、去る三十年の浮塵子の大被害及び昨年の二化生螟蟲の害のために郡内の田反別僅かに九千七百餘町の處でありながら、浮塵子には九千石、螟蟲には三千石と云ふ米を奪はれましたのであります、即はち浮塵子のためには殆んど六割以上、螟蟲のためには二割以上を害せれまして結局これが農家の損失となッたのであります、然らば從來取締法が無くあッたかと申すと左樣では無い縣令もあれば訓令もある又郡農會でも驅除豫防に盡力もし奬勵もしましたが、何分其甲斐もなく斯く加害せられたので誠とに歎息致した次第であります、そこで根から害蟲を驅除すると云ふには先づ昆蟲學を知らんければ成らんと云ふので私は六十歳を超へました此老境にあるに拘はらず今回講習會に入りました、尚一つの理由は去る一月に郡農會の決議によりまして各町村の地主及び重なる有力者と計り螟蟲卵買上方法を相談致しました結果、兎も角も其邊の事を取調べる必要があッたのである、尤とも私が入會する際までに過半村農會及び村長よりの報告を受けました、そこで私は斯く老齡の身を以て遙々こゝに參同致したる上は將來は斯かる損害を被ふらざるやう一層奮勵して實行致しまする事を當昆蟲研究所に誓ふて歸國致す心得であります、諸君も御互ひに御奮勵を願ひたいと存じます、聊さか入會の理由を述べまして今日の責塞ぎと致します。

（九）　害蟲驅除の失敗談附講習會員の責務　　千葉縣　島田榮藏

私の鄕里は佐倉町に接近して居りますので從つて蔬菜類の需用が夥たゞしいから追々栽培が盛んになり

すが、これに伴ふて害蟲も多數になります、其中最とも加害の多いのはコウロギでありますが、是は蔬菜が發芽して間も無く、即はち方言で申せばまアだ豆葉の間に過半を喰害するのでありますから、何か適切な驅除法を求めたいと思ひまして或老農に聞きましたら、それは容易な事だ、先づ畑の處々に穴を堀ツて其内へコウロギが好きさうな物、茄子とか瓜とかと云ふものを入れ其上を枯草で被ぶせて置けば二三日の後に蟲は確かに此處に集まり來るから其時に如露の如きもので枯草の上に石油をふり掛け直ぐに火をつけると皆燒殺す事が出來ると敎へりました。そこで喜んで畑に參りまして右の通り致し二三日の後に燒殺する心得でありましたが、至急な用事が到來しまして知らず〳〵七日計り過ぎてから以前の穴へ驅附けて見ますると、是は如何に畑の蔬菜は既に喰盡されて一株も滿足なものとては有りませんでした、驚くの驚ろかんのと申して寧ろ私は奇異な思ひを致しましたが、段々考へて見ますると穴の中には食物と枯草を置きましてコウロギの巢を作ツてやりましたので四方より同類が集まツて參り暫時の間に茄子や瓜を食盡しました爲め今度は飢饉を生じまして遂に蔬菜を荒らしたのであるから、若し三四日早くさへ燒き立てましたなら決して斯かる事が無くあつたのである、結局驅除を等閑にした報酬で、驅除法をやらん時よりも一層大害に罹ツた事が判然しました、そこで吾が講習會諸君は私のやうな事はありますまいが、万一少しの障害のために中途で怠たる事がありますれば折角百里の山河を遠しとせずして此まで參り如何に懇篤な講習を御受けになりましても、丁度私がコウロギを驅除せんとして却つて大損を招きましたやうに、唯不少の經費を徒消する計りでなく、本講習會の面目を傷つけ、後進者の發達を妨たげ、進んではまた鄕里に於て害蟲驅除の將校どころか、二週間の講習中に美濃米を喰害した所ろの社會害蟲たらざるを得ざる次第となりますから、此事は御互に銘々注意して永く此の講習會に入會した旨意を忘れず、怠たらず廢さず其の本分を守るのが最とも重要の事と信じます、失禮ではありますが鳥渡思ひ附いた廉を申述べます。

(十) 浮塵子驅除の失敗談

長野縣　丸山盛藏

今日は何も別段申述べます事もありませんから、私の本業たる土堀を致して居る間に失敗致した事を一つ申しませう、私の地方では害蟲驅除について一躰に冷淡でありまして普通農家は殆んど之を存じませんから、私も去る老農に問ふて行ひました、然るに前申す通り別に驅除豫防に重きを置かん土地の事とて決して苗代では之を致しませんから私も舊來の通り苗代で蟲取りを致さずに田植を致し、其上で所謂老農の方法を致したのであります、其法は先づ一面に浮塵子の發生して居る田の水面へ石油を滴下して軟らかな箒でもつて稻苗から掃ひ落とすのでありますが、一度致して見ましたら僅かに一割位ゐしか死なんやうに考へましたから、別段やり様が悪いとも思ひませんで再三之を行ふたのであります、スルト稻の葉は恰かもうでた樣になりまして日數經ても分孽することも無く一株二三本づゝ……植ゑた儘のやうな風で其年は思はぬ不覺を取りました、たゞ不覺ばかりなれば我慢も出來ますが非常な損害を來たしました、今回講習會に參つたのも畢竟これらも一つありますし、御教授の事柄を未た害蟲に氣附かぬ地方の人々に話を致しまして一般の幸福を圖らふと思ひます爲めである、これで御免を願ひます。

(十二) 三化生螟蟲の加害力

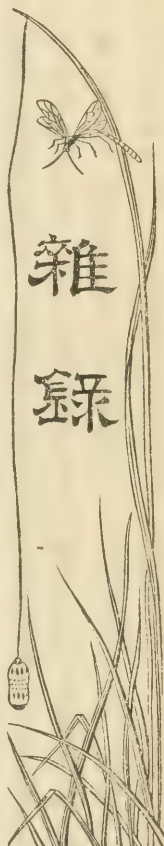
佐賀縣 淺富半三郎

私は郷里に於て農業に從事して居る者で、都、瑞穗の王、神力其の他二三の稻種の種類試驗を二ヶ年間繼續栽培致しましたが、初年にハ不幸にも彼の大害蟲三化生螟蟲が發生致しまして殆んど收穫皆無と云ふ有樣に致されました、併し是は私が驅除豫防を致さん結果だと思ひまして翌年も栽培の上數回採卵法を行なひ總數二千七八百餘塊を摘採致しましたが、實は單獨驅除でありッたものですから、他からゝ襲來致しましたと見えて又々此年も五割以上の損害を被ふりました、處で此失敗は如何にも有形上の損失を來たしましたが無形的に不少の利益も得ました、それは第一に種類の如何、第二に時期の早晩、第三に土層の深淺及び肥料との關係でありまず、今簡明に申上けますれば、凡そ螟蟲驅除には採卵、誘殺、株切等固より必要では御座りまするが、猪種類をも吟味すると云ふ事である、即はち莖葉の堅固にして太く且つ穗莖の大なる種類に屬する都、瑞穗の王、神力の如きものは一体に被害の大なるものと認めました

次に時期と云ふ事に就ては其年により其土地に依り多少の相違はありますが、私の地方では通常、中稻にしては稍遲く晩稻にしては稍早き種類即はち早晩種と云ふのに多く發生しますから神力の如き危險な種類には多量の肥料を施こして遲く出穗せしむるやうに爲を以て左右するのであります、次に土層の深淺と云ふ事になりますと十分經驗が積んでは居りませんが、土層の淺い所に多くして深い所に少ないやうに考へられます、是は土層の淺い處でありますと莖葉が堅くて且早く出穗を致しますから蟲の性質上多くこれを好くのかと思ひます、次に肥料と申しても他のものは試驗を致しませんが彼の石灰を施こす處には螟蟲が多いのです、其譯はと云ふと石灰肥料であれば蛙は之を嫌ひまして田に多く參りませんが、石灰肥料で無い田には多く棲息して螟蟲を捕食致すのであります、以上は拙劣な事柄で諸君に對しては釋迦に說法ではありますが、今後も尙ほ經驗致し度く存ずる所から諸君の御研究を願はん爲めに斯くは申す次第です。

(十二)　害蟲驅除普及の端緒　　　靜岡縣　石井氾平

螟蟲驅除を行ふに就きましては種々の方法もありませうが、私は嘗て二三の有志者と申合せまして稻作共進會を開くことを計畫致しました事がある、然るに肥料を施こす事が非常に多きに加へて挿苗の時期を早めました爲めに螟蟲の害と云ふものは概して非常でありまして折角の共進會も一年で以て出品するものが一人も無いと云ふ有樣でした、そこで地方の農家に向ひ初めは只苗代を短冊形にすること計りを賴み廻りまして漸やく其事だけを行ふて貰ひ、次に螟蟲の卵蛾をば各々一厘五毛づゝで買上ぐると云ふて奬勵を致し若し共進會へ出品したる者には一切相當の賞品を與へると云ふ條件を附けました處が、收穫の結果を見て始めて立毛共進會への出品が多くなりますし遂には悅んで麥作共進までも開くやうに成りまして、只今は餘程害蟲驅除にも注意して參りました畢竟一時の失敗が害蟲驅除、農作改良の緒口となりましたので有ります、御參考までに申します。　(大尾)

池螢(いけのほたる)　籠(かご)に入(い)れてもてはやすより凉(すゞ)しきは池(いけ)の蘆間(あしま)の螢(ほたる)なりけり。　(久我建通)

◎害蟲驅除施行上の障害

第壹回全國害蟲驅除講習會修業生　愛知縣　山本秋三郎

本年は農作害蟲の發生特に夥たゝしきより、農家の無頓着を憐れみ先づ驅防の第一として小學校生徒を利用するより他に良策なしと信じ、其旨を農會長に通ぜしに頗ぶる賛意を表したるのみか進んで兒童の賞與を負擔せんとの回答を得たりしかば、先づ五百名許の生徒に對つて害蟲の忽諸に附すべからざる理由を懇示し次で螟蟲卵塊の摘採を命じたり、生徒は能く命に從がひ其翌日より續々之を採取し未だ數日あらざるに昨年に比し凡ろ二十倍の增加を示せり、是れ蔓延の甚はだしきに因るとは云へ抑も亦熟練の功によるを以て本村の爲め尤とも祝すべき美事なりと信じ、直ちに郡長に其旨を報告せり、斯れば一方の農家に於てもこれに向つて厚く感謝の意を表するなる可しと豫期せしに、陰に陽に非常に之を厭忌し非常に之を制止し、害蟲の發生を以て全たく氣候の然らしむる所となし甚はたしきは自已の子弟を叱責するに至れり、余は之が實情を見聞し兒童に對しては憐憫の極に堪へざるも此際奮つて之を遂行せんと欲し、六月十八日の如きは三拾餘名と共に捕蟲器を携さへて學校附近に採卵捕蛾を試ろみたりき超えて翌十九日の朝に至り偶々一書の來れるあり、乃はち披き見れば圖らざりき左の謝絶狀ならんとは。

拜呈去六月十八日貴君方生徒引連れ學校前通り御巡廻ありし處、稻の惡蟲を取り被下候由喜び居り候處、其後近付き見れば意外なる大害有之、小生大切なる稻多く踏込みあれば、右の御教育被下ては農者の大困難となる故、御貴君方も授業料拜受の上は右の御教育無之樣精々御注意被下度奉願上候也

大字菱池　石川久助

相見學校教員　御中

如何にも稻株は百姓に取りて大切のものに違はざるも僅かに三四株を傾むかしめたりさて何の妨げかあ

る、三四株の稻苗と大蟲害とは何れか貴とく又何れか利益ある、況して授業料云々の如きは農民に無關係の事實なるに、是をしも附記して冷罵的口調を用ゐるの愚をなすをや、是に至りて余は此等頑迷農家の到底度し難きを悲しまずんばあらず。

初め余が學校生徒に命じて驅除せしめたるは唯螟蟲のみなりき、而かも尚ほその他の害蟲の多きに驚ろき其趣むきを村長に謀りたるに、その談に曰く害蟲驅除員は一大字に三人を指定せしも、蟲害稀少なりとの報告あるを以て未だ之を行ふに至らざるなりと、余はその無實の報告に再驚し、先づ害蟲蔓延の情況より、生徒の採卵數を舉げて縷々驅除法施行の必要を辯じ次で農會長にも懇談を遂げ終に一村施行の議を決し命令を布きて農家に之に從事せしめたり、然るに農家の無慾に且つ無識なる此の多忙の際に小蟲などを檢視するの餘暇なしと稱して敢て之を行ふの意なく、會々二三の之を實施するものありと雖ども只儀式的に過ぎず豈に憤慨の至りならずや、上陳の如くなるを以て余は强制的施行に奔走せる結果或ひは早晩村民の爲めに蟲送りの災厄を被ふるやも測り知る可からずと雖ども、余は斷然一身を犧牲として本村に害蟲驅除の習慣を置かんことを期せり、此等の事は甚はだ小なるに似たるも、決して輕視すべきにあらずと信じ其顚末を書して同感の士に似すこと爾り。（三河國額田郡相見小學校に於て之を書す）

◎米象に就て

第七回全國害蟲驅除講習會修業生　石川縣　高多信久

米象は甲翅類に屬し、全く成長したるものは長さ大凡一英寸の八分の一、象鼻は細尖にして稍々下方に屈曲し、胸部は甚た長くして殆んど全身長の半はに達し、其背面には粗末なる乳頭あり、而して翅蓋は縱走の溝線ありて全く後体の末端を被覆せす、成蟲仔蟲は共に貯藏せる米、大小麥、燕麥、玉蜀黍等を蝕害し其繁殖は甚た速かにして一對の雌雄一年間に六千餘の仔蟲を產すと云ふ、成蟲は小麥等を倉庫に收むる後之れに產卵し、卵子孵化すれば仔蟲は直ちに麥粒內に蝕入するものなるが、一粒に一頭潜居し其內部を食ひ盡して空虚となし僅かに外被のみを殘すこと屢々之れあり、或は曰く雌は交尾の後穀粒に穴

を穿ち卵を其穴內に產み孵化すれば白蛆となりて內部を食ひ盡すと、仔蟲は麥粒內に於て白き蛹となり凡そ十日を經れば甲翅蟲に化しまた出てゝ產卵す、凡そ卵子の成蟲すなはち米象に化するには大凡四十四五日を要すれとも、一年中數度に及び夏時の如きは初期に發生せし一雌より漸次增殖して其子孫六千零四十五頭の多きに至ると云ふ、而して其間の溫度は常に華氏六十六度以上にして若し五十度以下に降ることあれば其体は痲痺せるが如くにして復た害をなす能はす、又此蟲は日光を恐れ氣候溫暖なる間は穀粒の中に栖息し朝夕冷氣を催せば倉庫內の壁間或は木材の罅隙に蟄伏す、但し氣候溫暖にして倉庫內も溫暖なるときは遂に潜伏せず、其蝕害は專ら內部にあるを以て外見により被害の有無を識別すること難く、只々重量の輕減に由りて知り得るのみ、故に古き小麥等を種子に用ゆるには一旦之れを水又は鹽水に浸して攪拌しその水面に浮びたる空虛の種子をば掬ひ去るべし。

之が驅除及び豫防としては(一)穀粒を圓錐形の形ちに積み置けば蟲は其頂上に群集するにより夥しく之れを除き去るを得べし、(二)此蟲の發生したる倉庫をば能く掃除し、水四斗計りに鹽膽水三升計りを加へたる液を撒布して土戶を密閉し、又其內部の周圍は石灰水にて洗ふべし、(三)空倉內に潜伏するものを驅除するには、極寒の時兩三夜倉戶を開き置くを良しとす、(四)蟲の發生せし穀粒は日に晒ふし屢々攪動して蟲を他に轉せしむべし、但し冬期は穀粒內に蟄伏せざるが故に攪動するも益なし、(五)華氏百九十度の熱を與ふれば卵蛆共に死す、百十度にては卵は蛆に化し百三四十度に至れば死滅すと云ふ、(六)貯藏せる米穀は每歲夏の土用前、快晴の日を卜し蓆に薄く擴げて日に晒らすべし、若し其際に蟲害に罹りたるものを發見せば直ちに之れを他に移して蔓延を防ぐべし、但し右手入をなすの外冬期にあらざれば漫りに倉戶を開くべからず、(七)米穀を貯藏するには清涼なる場處を擇むべし、新たに倉庫を建設せんとするには樹蔭若しくは林藪等によりて基礎を高く築き、入口を北に向け壁は可成く厚くし勉めて日光を遮斷することに注意すべし、(八)倉庫に米穀を貯ふるには豫め壁、柱、床等凡て孔隙ある所は能く三和土にて塞ぎ又床下には籾糠を敷き且つ蓆を以て其積みたる俵の側面を蔽ひ、戶口を密閉し空氣

の流通を遮斷するを良しとす、（九）倉庫を所有せずして穀類を貯へんとするものは、能く其の俵層の間に籾糠を充たし蓆を以て充分に圍ひ置くを宜しとす、（十）貯藏米の内俵は麥稈にて製したる（古俵を良しとす）ものを用ゆれば蟲害に係ること少しと云ふ、（十一）八九月の頃梅の葉を（花の白きものを良しとす）俵の上下及び其中央の三ヶ所に一握づゝ入れ置けば、蟲害に罹ることとなし、又「ユウカレプタス」の葉の生乾きたるものも梅の葉と同効ありと云ふ、（十二）土當歸の根を刈取り倉内の處々に掛け置き或は俵層の間に狹み置けば、其香氣自然に倉庫内に充ち蟲害を防ぐ、（十三）精製せざる毛皮を以て穀物を蔽ひ置けば、蟲毛の間に入りて死すと云ふ、是れ千八百十一年佛國人の發見に係る。

◎蟲談片々（拾）

特別通信委員　岩手縣　鳥　羽　源　藏

（二十六）浮塵子の採集法に就て　浮塵子科及び白蠟蟲科に屬する昆蟲の中には田圃に在りて農作物を害すること多きはよく世人の知る所なるが、山林の樹木に捿むものも亦少なからず、されば廣く採收して研究の材料に充つるを要す、然るに此等の昆蟲は概して躰軀微小なれば、捕蟲網に入りても野外にありては如何に靜かに注意するも時間のみを費して往々珍奇のものを捕り漏す事あるものなり、故に余はかゝる小昆蟲を捕ふるには寒冷紗製の圓形捕蟲器を用ゐ其内に入りしものは大形の壜中に悉くたゝき込みて歸り、彼等の餓死を待ちて後、白紙上にて靜かに搜索し居りしが、過日松村學士の書信中にも同氏は野外にて浮塵子を獲たる時は雜物と共に大形の毒壺に投じ歸宅の後、机上の白紙にひろげ靜かに撰り取る時は極めて微小のものも認め得られて大に便なりといへり、尙氏は浮塵子は柳、白楊、楡、槲、グミ、落葉松、杉竹等にも面白きものあり、又浮塵子の一屬 Tettigometra は大概蟻と共捿のものなれば蟻塚をも發くべしと言ひ越されたり。

（二十七）小形なる昆蟲の標本製作法　小形の昆蟲は從來小紙片にダラカントゴムにて貼附するか、或は一歩進んで上質の雲母片にカナダバルサムを、コロールホルム若しくはアルコールにて解き貼附す

る方法を行ひ來りしが、當時歐洲にては極めて細微の小昆蟲と雖とも貼附法を行はずして圖の如く馬の尾毛程の太さある銀製の針金或はニッケル製の針金を長さ五分許に切り、小針を作りて小蟲を刺し之をヒマワリの髓を剃刀にて長方形に切りたるものに立て、更に一寸三分ある長針にて开を貫き置くといふ、右を松村學士より參考の爲めとて贈られたりしが、ヒマワリの髓には一頭に限らず數頭の昆蟲を刺立つるも宜く、又卵、幼蟲、蛹、成蟲を共に刺して經過を示すも可ならん歟、我國に於ても斯る小針を作りて販賣する人あらば大に世を益すべし、但し既に此の方法を採用し居る斯學研究者もあらば、そは岩手縣の僻陬に住む余か管見の罪なれば讀者幸ひに恕する所あれ。

◎自然的害蟲驅除に就て

在東京　林　壽　祐

吾地球上に滿載せられたる生物は、千種萬類其數得て量るべからざるも、全界の關係は極めて親密にして、互に相佐け相補ひ以て常に安穩たるを得、今之を大別して二と爲す、一を生産するものとし一を其生産を消却するものとなす、前者は多く植物にして、後者は概ね動物なり、此兩者にして權衡宜しきを保たんか、前述の如く生物界は無事安穩たれども、若しも後者にして夥しく繁殖し、其消却力を逞ふするに於ては、前者は忽ち慘害せられ、直接に間接に人類をして煩惱せしむるに至るなり、而して吾等人類も生物界の一部類にして、常に兩者を生産せしめ、且つ兩者を利用し、其消長は直に照應し來るを以て、之が研究に留意せずして可ならんや。

動物中最も勢力盛なるは、昆蟲類にして、其種類は優に全動物界の四分の三を占め、形體悉く微小なれども、食慾强大にして繁殖頗る迅速なり、若し氣候適順ならんか、朝に增し夕に殖へ青草綠葉は忽ち剝奪せられ、殘す所は唯蟲糞たらんのみ、其影響豈それ大旱霖雨暴風と異る所あらんや、然れども田野圃園寥々荒廢に歸せざる所以は、大に氣候の順否に關す、しかも亦晝夜を分たず、是等繁盛なる蟲族を減却

して其增殖を防止するの力、與つて至大の裨益あるに因るなり、その害蟲を減却するは如何なる種類かといへば、同じく動物界に籍を有する哺乳類中の食肉類、鳥類を主とし、爬蟲類、兩棲類、多足類、蜘蛛類及び昆蟲類中の食肉類等是れなり、而して是等の動物が昆蟲を食とし、或は田畑に庭園に、或は原野に山林に出沒隱顯、此所彼所と索ね廻はり、之が撲滅驅除する數は、實に無量にして算なかるべし、試に之が統計を作らば、轉た驚駭に堪へざらん。

一時間ノ食數	一方里ノ鳥數	全國ノ鳥數	一日(拾時間)ノ食數	一年間ノ食數
三匹	一羽 三〇〇 五〇〇 一〇〇〇	羽 八一、一八六、〇〇〇 一三五、三一〇、〇〇〇 二七〇、六二〇、〇〇〇	三〇匹 二、四三五五、八〇〇〇 四、〇五九三、〇〇〇〇 八、一一八六、〇〇〇〇	一、〇九五〇匹 八八八、九八六七、〇〇〇〇 一四八一、六四四五、〇〇〇〇 二九六三、二八九〇、〇〇〇〇
五	一 三〇〇 五〇〇 一〇〇〇	八一、一八六、〇〇〇 一三五、三一〇、〇〇〇 二七〇、六二〇、〇〇〇	五〇 四、〇五九三、〇〇〇〇 六、七六五五、〇〇〇〇 一三、五三一〇、〇〇〇〇	一、八二五〇 一四八一、六四四五、〇〇〇〇 二四六九、四〇七五、〇〇〇〇 四九三八、八一五〇、〇〇〇〇
七	一 三〇〇 五〇〇 一〇〇〇		七〇 五、六八三〇、二〇〇〇 九、四七一七、〇〇〇〇 一八、九四三四、〇〇〇〇	二、五五五〇 二〇七四、三〇三三、〇〇〇〇 三四五七、一七〇五、〇〇〇〇 六九一四、三四一〇、〇〇〇〇
一〇	一 三〇〇 五〇〇 一〇〇〇		一〇〇 八、一一八六、〇〇〇〇 一三、五三一〇、〇〇〇〇 二七、〇六二〇、〇〇〇〇	三、六五〇〇 二九六三、二八九〇、〇〇〇〇 四九三八、八一五〇、〇〇〇〇 九八七七、六三〇〇、〇〇〇〇

前表により、一時間五匹の昆蟲を啄食する禽類、一方里に五百羽在りとすれば、其一月間の蟲數二百〇二億九千六百五十万匹、一年間に於ては無慮二千四百六十九億四千〇七十五万匹に達すべし。(未完)

◎和漢の學者と昆蟲（其五）

古典　靑蓑白笠の人

○蚊柱凶兆のこと　正徳三年七月の末、府城の兩門の左右（東は武平町西は御園御門）の堀所々より烟の如く立のぼるものあり、圍一丈計り、長さ四五丈もやあらん、柱など立たるやうに薄曇りて夕附日にうつり、色異樣に見えし、人々立よりよく見れば蚊幾萬億ともなく集りて此かたちをなせしなり蚊柱といふべきにや、いかさま稀有の事と語りしが、二十六日邦君かくれさせ給へりとなん、二十九日に聞えさせ給ふ、かゝる事の先兆にやといふ人多し。　（右、天野信景の鹽尻）

編者いふ、名和靖先生の說に、古人は蚊柱、螢合戰などを以て凶兆といはれしも、螢合戰は生殖期の雌雄淘汰にして、蚊柱は名古屋城外濠の如く蚊屬の發生に適合せる處にては敢て珍らしからず、是また前者と同じき塲合を指すものとす、彼の豐臣家末路の歷史に大坂城の天主閣に烟の如きもの昇騰す人々怪しみ近づき見れば何事も無かりし、是ぞ希代の珍事とや言ふべき、とあるも亦恐らく外濠に發生せる蚊屬の一團となりて時の人を驚ろかせしものならんか、と時節柄面白ければ茲に附記す。

○こほろぎ、きり〳〵す　なま古學者はこほろぎをきり〳〵すと心得、むげの俗人ははたおり蟲をきり〳〵すと云へり、外戎の文字も竈馬、蟋蟀、蜻蛚、蛬蛩、蝗斯雞、莎雞など、くさ〴〵ありて定かならず、其聲コロコロと聞ゆるがこほろぎにてツヾリサセと聞ゆるがきり〳〵すなり、古今集に「秋風にほころびぬらし藤袴つゞりさせてふきり〳〵す鳴」、キリキリチヤウと聞ゆるがはたおりなり、六帖に「かりがねの羽風を寒みはた織女くだまく聲のきり〳〵となく」はたおりは暑き頃のみにて、こほろぎは少しのこりて、きり〳〵すは久しく冬までなり。　（右、齋藤彥麿の片廂）

○蠖齋。瑗。字君玉。余受知最深。二十年殆如一日。雖不任爲之裘枚。而竊推爲吾黨献子。蠖齋當路無閑。猶且以詩書自娯數年。諸作殆滿紙囊。（中畧）夜泛云。舟過柳港入蘆坪。兩岸鳴蟲和月明。北岸如悲南岸樂。細聽南北一家聲。　（右、菊池娯庵の五山堂詩話）

〇飛驒の國の山中に生ずる篠ありて春の下旬にいたりて篠の節よりして筍を生ず、其形恰も魚の如し斯て五月雨ふりつゞく頃、自ら落て溪に入り化して魚となり水中を游ぐ、是を岩魚といひ篠魚といふ、大槪鱒の二年ばかり歷たるが如く漁て食するに味ひ又鱒に彷彿たりとぞ、先年加賀の國人溪水に竹の葉の半、魚となりて游ぐを見しと語りしも是等の類なるべし、山薯蕷の鰻と化し、腐草の螢となるの類ひ又なきにしもあらず、風土によりて奇なる事の有ものにこそ、飛驒人何某の先年持來りしを寫し置ぬ、尤大小さま〴〵有べけれども此には正しく見たるもの斯のごとし、彼國に因ある人は豫て見もし聞もしつらんかし。

（瓢蟲女史縮寫）

篠魚の記

篠魚こそあやしき物には有けれ、荒城郡高原の里の奥なる平湯の村てふ地の山にのみ有て、此飛驒國内にても餘所に有てふ事おさ〳〵聞ねず、篠のものと節に枝にはあらで魚の形して成出たり、五月雨の雨を得て谷水に落ひたりて、やがて鰭ふり出てついに、いはなといふ物にはなれりといへり其岩魚てふものは鱒の子の二年經たるばかりにて喰たる味も見たるさまも大かた鱒子にかはる處なし、唯いさゝかあやの違るのみなりけり、山河の岩間の淵にすめば然ば名によぶ成べし、竹の根の蟬となり山のいもの鰻と成てふたぐひ、魂なきものゝたましい有ものになれる例すくなからねば、是はた空言とあながちにいひくだすべきかは。こは荏野翁の物せられたるを俊香がしるす。

岩魚にはまだならぞとも篠魚のさゝをすゝむる一ふしとなれ。

（右、木村巽齋の蒹葭堂雜錄）

編者いふ、この篠魚は今の蟲癭なるべきは言を俟たぬ事ながら、百年以前にありては博物學者たる蒹葭堂先生にも此誤解を懐れしか、寧ろ疑ふべし、尙ほ昨年五月十日發行の時事新報（五九一三）に竹の話といふがありて、其中に左の一節あれば、茲に轉載して讀者の參考に資せん。

●篠魚　と云ふ者あり、飛驒信濃の山谷間及山巓の小竹、すゞ竹及箬笹等に生ず即ち圖の如く細小の竹節に長大なる箭の如きものを生じ、長さ約五六寸、周り一二寸許、其形小魚の如く其稃鱗に似たり、土人れ化して魚となると云ひ居れど惑說なり、白井理學士の所說に據れば、這は双翅類に屬する昆蟲の寄生に依りて生ずる蟲癭なりと云ひ、又氏はネマガリダケに生ぜる篠魚に、二種の別あることを見たりと云へり。

編者又云ふ、名和昆蟲硏究所參考室に田中芳男先生の寄贈に係る白根山產のサヽウヲあり、其形狀を比較するに敢て本文のものと違はざ、又同所員の採集せる伊吹山產のものもあり、形狀やゝ飛驒產と異なる所ろあるも其サヽウヲたるは一なり、然らばサヽウヲなるものは何れの地方にも產出し決して一地方にのみ限らさるを知る可きなり。

○馬の蠅を驅る法　夏時瓠の新葉を用て、毎日馬を洗浴せしむれば、妙に其蠅を驅除す、又其乾葉を室內に燒き薰ずれば、蠅室中に死し、或は戶外に飛散して、復此に近づくことなし。

（右、宇田川興齋の萬寶新書）

窓前螢（さうぜんのほたる）　夕月夜（ゆふづきよ）いりたる窓（まど）のわか竹（たけ）に
かげあらはれて飛（と）ぶほたる哉（かな）。

（前田朗子）

通信

◎螟蟲卵蛾買收報告

福井縣敦賀郡松原村農會

本村に於ては今般村會の決議を以て螟蟲驅除豫防奬勵のため、其卵蛾買收規定を設けたるに、老幼婦女に至るまで擧げて之に從事し已に夥たゞしく捕獲をなせり、而して其得る所ろの奬勵費は徒消する者少なく多くは貯蓄預金となすものゝ如し、其卵蛾買收規定なるものは次に列記せる三ヶ條とす。

第一條　螟蟲驅除奬勵の爲め螟蟲の卵蛾を買收す。

第二條　螟蟲卵蛾の買收代價は左の如し。卵一塊に付金貳錢。蛾一羽に付金五厘。

第三條　本村人民にして且つ本村の地籍内に於て採取せしものに非れば買收せず。（六月十六日附）

◎稻田害蟲驅除豫防景況

第三回全國害蟲驅除講習會修業生　鳥取縣　蓮佛萬吉

吾が鳥取縣八頭郡に於ける稻田害蟲驅除豫防の一端は前報の如くなるが、其後小生は郡農會害蟲驅除豫防委員の資格を以て郡内の稻田を調査せしに、槪むね左に摘記するが如し、今後の景況は復た重ねて通信せんとす。

螟蟲　稻螟蟲成蟲五月二十三日頃より發生し漸次苗代に群集せり其區域は八頭郡一圓にして最も多く發生し五月二十八日頃より産卵を始めたり、驅除は目下實施中にて本郡農會は本年制定したる害蟲購入規定に基き、螟蛾螟卵を購入し之が滅滅に從事せり、今年は當業者また大に害蟲の恐るべきを知り奮勵して捕蛾採卵に努力したり、其結果は六月三日より同十日に至る八日間に郡農會に購入したる蛾及卵の數は百五十万以上に達し其費額として二千六百餘圓を支出せり、斯かる小郡にして此くの如し其發生の多きを知るべきなり、爾後蛾は産卵後のも多く出つる爲六月七日限り蛾の購入を停止し、螟卵のみ買收せしが是亦同十日より一塊一厘と改定せられたり、蓋し限りある經費を以て限りなき卵塊を買ひ盡すべき

能はざるに依るべしと雖も豫防上聊か憾なき克はず、大に當業者の反省を要するものあり、而して螟蟲の種類は二化生六分、三化生四分の割合にして六月十日より同十六日まで採卵數は無慮十九万塊とす。

浮塵子　成蟲は五月十一二日の頃より苗代に發生し、漸次蔓延の兆候あり、其發生區域は螟蟲と稍や同しきも山間の各部落は敢て顧慮するに足らず、本年は之れが撲滅を圖る目的を以て郡衙及郡農會等より充分警戒を與へ當業者をして布嚢掬取及注油驅除を施行せしめつゝあり、然るに目下は苗代田よりも本田一般の畦畔に最も多く發生し、其多く群集せるを見るに成蟲は稀にして唯幼蟲のみ多く、其種類はツマグロヨコバイ、イナヅマヨコバイ最も多數に居りトビイロウンカ、テングヨコバイ等之に亞げり。

螟蛉　幼蟲の苗代田に發生せしもの多く隨て被害少なからざる狀況なり、然れども挿秧に際し一般農家は蟲害の恐る可く驅除の忽にすべからざることを深く肝銘し驅防に全力を注きたれば、庶幾くは秋收の完きを期することを得んか。

苞青蟲　成蟲幼蟲を苗代に散見するまてにして未た繁殖の兆なく、其他の害蟲に至りても苗代に於ては發見する所なし。(六月十八日附)

◎宮城縣の農作害蟲と令規

在宮城縣廳　北畠保治

宮城縣の農作害蟲は去る明治三十年に制定せらしものにて其後追加の一種を加ひ都合十種なりしも追々經驗の末其欠點を發見し、且昨年七月名和靖氏に害蟲調査を囑托したる結果、令規改正の必要を感じ今春を以て遂に左の十三種を縣下の害蟲と規定せり。

(一)螟蟲。(二)浮塵子。(三)葉捲蟲。(四)螟蛉。(五)泥負蟲。(六)尺蠖。(七)天牛。(八)蚜蟲。(九)二十八星瓢蟲。(十)蛄螻
(十一)黑蠋。(十二)野蠶。(十三)皇蠶。

次に去年五月廿九日縣令第三十二號を以て驅除豫防規則第二條乃至第四條に依り之が驅除豫防を行ふ旨發布せし際は、短册形苗代改造令の發布と同時なりし爲め其手續にも習熟せず、農家をして盡ごとく確守せしめ難かりしも今年は着々驅除を施行し居れば假し多少の害蟲發生することあるも、甚はだしく縣念することあるまじと信ず、偖本年に至りて郡部より害蟲發生の報告ありしは宮城郡の一部、名取郡栗原郡その他の二三郡なるが伊具郡は桑の害蟲發生せりとて驅防に着手せり、之を要するに害蟲に留意

着眼する所の諸郡は概むね速かにうの報告をなすものゝ如く、然らざる地方は全たく不問に附するか又は之を意に介せざるに似たり、又本年名取郡に於ては數ヶ處に於て小學兒童をして害蟲驅除に從事せしめしに意外の好成績を得たるが如し。

◎大分縣害蟲驅防の厲行

第六回全國害蟲驅除講習會修業生　大分縣　小野覺太郎

本縣は昨年害蟲の爲め非常の損害を被むりしも、一般農家は其當時こそ各自の不注意を後悔なしたる体をなしたれ、咽喉を過ぐれば熱さを忘るゝ金言の如く、本年苗代の時季となり害蟲は蔓延の兆あるも、更に意に留むるものなきにより、監督官廳よりは不絕官吏を派し各郡を巡回なさしめ利害を說き奬勵するも馬耳東風の者多き爲め、充分の好成績を奏すること覺束なく、依て本縣令に依り、內務部長より左の要領に依り奬勵すへき旨六月七日附を以て訓示せられたり。（縣令畧す）

害蟲驅除豫防監督の要領

一　監督の方法及巡回の方面を定むる等に付ては矛盾又は重複の事無之樣郡長と警察署長とは時々出會協議する事。

二　苗代の短册形（法定の四尺は元の曲尺三尺二寸なるに作人の內往々鯨尺を以て定めたるものなりとし抗辯する者あり宜しく注意說示すべし）となさす驅防に不便なるものは直に相當の踏切（可成苗を他に移殖せしむる事）を爲さしむる事。

三　苗床は短册形に爲しなから肝腎なる驅除豫防を行はざる者あり速に大分縣令第三十一號の手續を實行せしめ尙雜草を拔き塵芥等を除かしむる事。

四　捕蟲網誘蛾燈石油其他除蟲液殺蟲油等の驅防用品は作人をして夫々準備せしむる事。

五　驅防に周到なる町村あり又否らざるあり其不行屆を認むる部落に對しては特に屢々巡視督責する事。

六　從來驅除豫防委員は徒に空名を有するに過ぎず今後は相當の方法を設定せしめ十分活動を圖る事。

七　挿秧の節苗の拔方は必ず廻り取りとなし殘苗に蟲類を追集め全滅の方法を講せしむ事。

八　苗床周圍の耳苗（古蒲苗とも云ふ）には多く螟卵の産付しあるものに付、拔去りたる儘放棄せず堆積肥に積込む等其他適當の殺蟲法を行はしむる事。但可成益蟲保護の方法を執る事。

九　畦畔及び耕地附近の雜草は時々刈除き空氣の流通を圖らしむる事。

十　本田移植後稻の黃熟期迄は町村驅除豫防の委員をして常に其受持區域の稻田に分入り驅除の手後とならざる樣檢案せしむる事。

十一 頑冥にして法令に背反し他の妨碍となるの徒槪して一町村に一兩名あり是等は一般を警醒する爲め急に相當の處分をなす事。
十二 驅除は一町村若は一部落毎に共同一齊に實行せしむる事。

尙又本月十八日付訓令農第一一號を以て、本縣知事は左の如き規定を發布せられたれば、併せて茲に報道す。

害蟲驅除豫防委員設置規程

第一條 稻害蟲驅除豫防法の普及を期する爲左の官衙に害蟲驅除豫防委員を置く。
縣廳、郡役所、警察署、警察分署。
第二條 害蟲驅除豫防委員は高等官、判任官、巡査部長、巡査を以つて組織し縣委員、郡委員に分つ。
第三條 前條委員を統轄する爲め左の委員總長、副長を置く。
縣委員總長一名（書記官） 同副長二名（警部長、參事官） 郡委員長一名（郡長） 同副長若干名（警察署警察分署長）
第四條 縣委員は縣屬、技手及警部を以つて之れに充て郡委員は其の郡書記及其の警察署又は分署在勤の巡査部長、巡査を以つて之れに充つ。
第五條 知事は縣委員を郡長は委員を巡査部長に任命す。
第六條 委員總長は害蟲驅除一切の事務を總理し、委員長は（郡長）郡內害蟲驅除豫防の事務を管理するものとす、縣委員副長は委員總長を補佐し總長事項あるときは之を代理す、郡委員副長（巡査に係るものには警察署長）又は警察署長は委員長を補佐し委員長事項ある時は之を代理す。
第七條 縣委員は總長の指揮を受け害蟲驅除豫防の事務を處理し、兼て郡の受持區を定め常に其の持區內を巡視督勵するものとす、郡委員は委員長の指揮を受け郡內害蟲驅除豫防の事務に從事して町村の受持を定め常に其の持區內を巡回し害蟲の狀況に注意し驅除豫防法實施の精粗を視察し町村以下を督勵指導するものとす。

◎當地方螟蟲發生の狀況

千葉縣下總 山田茂

今年に於ける螟蟲發生の狀況はその蕃殖劇甚にして轉た丶心痛に堪へざるものあり、依て既往の事實を摘載して農業家の一顧を煩はさんとす。
當地方に於ては去る五月三十日より螟蛾の發生を認めたるを以て之が驅除に着手し、次で六月一日より

は二十歩の苗代田に一個の點燈を試ろみ、十日間に誘殺せる死蛾に就てその雌雄を調査せしに次の如き結果を得たり、之を昨三十三年のものと對比表出すれば實に左の相違あるを知れり。

○今年（明治卅四年）

月日	雄蛾	雌蛾	合計
六月一日	八	九	一七
同　二日	一五	二四	三九
同　三日	一八	一二	三〇
同　四日	八五	二四	一〇九
同　五日	七九	九八	一七七
同　六日	一一五	一三二	二四七
同　七日	一八五	一四二	三二七
同　八日	一〇二	一九三	二九七
同　九日	九五	七三	一六八
同　十日	一七五	一五二	三二七
計	八五六	八八二	一七三八

○昨年（明治卅三年）

月日	雄蛾	雌蛾	合計
同上	二	五	七
同上	九	七	一六
同上	四	七	一一
同上	三	五	八
同上	九	一二	二一
同上	一二	一五	二七
同上	二一	一八	三九
同上	一九	一六	三五
同上	二三	二一	二四
同上	二三	二五	四八
計	一二五	一三一	二五六

此くの如く本年の蛾は昨年に比較して殆んど七割餘の多數に上り、その發生期また早く且加ふるに雌蛾多し、是れ大いに警戒せざる可からざる所以なり、又之を被害を免れたる米額に假算すれば約ろ左の如き割合となるを知る可し、茲に附記して參考とす。

一、雌蛾一頭に付貳百粒の產卵ある時は八百八拾貳頭にて壹萬七千六百四拾粒となる、內五割は敵蟲に斃さるゝものとするも八千八百貳拾頭の螟蟲を生ずべし。

二、前記の螟蟲の半數即ち四千四百拾頭は雌蛾たる時は、新たに八萬八千貳百粒の卵子を產む、之が五割を例により減するも尙ほ四萬四千百頭の蟲となる。

三、前記の總蟲數五萬貳千九百貳拾頭にして若し盡ごとく完全に生育し白穗を生ずるまで蝕害せば二頭一莖を害するものとするも、貳萬六千四百六拾莖を損失す、而して一莖百粒と見做す時は貳百六拾四萬六千粒にして、籾の三萬五千粒を一升と算せば實に七

石五斗六升すなはち壹反歩の米に相當する産穀を損するに均し、苗代二十歩にして猶は此くの如し、今これを壹反歩の螟蛾に積算すれば籾の百拾三石四斗となるなり。

◎昆蟲に關する葉書通信 (拾參)

(六十三)姬象蟲の蕃殖(岐阜縣可兒郡帷子村) 吾が可兒郡帷子村大字菅刈の桑園凡そ壹反五畝歩ばかりに桑樹の大害蟲ヒメゾウムシ發生して、加害特に甚だしく、全圃の桑樹既に枯死せんとす、該蟲は客年も同被害地の近傍に發生し二十餘株の桑樹を枯死せしめたり、思ふに前年の被害地より斯く傳播加害するに至りしか、其害また驚くべきなり。

(六十四)當地方今年の昆蟲(長野縣清水藏) 本年は寒氣薄きため幼蟲の凍死せしもの少なかりしにや桑枝に尺蠖の加害多くキンケムシ亦多し、昆蟲外とは云へ小麥にはダニ發生し桑芽をばナメクジ暴喰を逞ふせる處あり又毛翅目石蠶科に屬すべしと?思るゝ害蟲の梅杏の花蕾を喰損するものある爲近年梅實は不結果にして高價を呈するに至れり、次に今年は比較的蝶類少なく、三月十九日にヒオドシテフ、三月二十日にテングテフ及びキテフ、三月二十八日にルリシジミ及びルリタテハ、四月十五日にヒメアカタテハ、四月三十日にコミスヂテフ、五月十五日にオホミスヂテフ、五月十五日にハルセミを聞き次でダイミヤフセセリの多く飛翔せるを目撃せり、因に云ふ本年はハルセミ鳴聲少きが如し。

(六十五)三分間の水生昆蟲採集(靜岡縣、神村直三郎) 本年二月二十三日郊外を散歩す、偶々小流に兒童の二三魚をあされるあり、其手にせるはツキサデと稱してタマ網に似たる漁具なり、流は淺くしてヤナギ藻多し、余これに戯ふれて曰く、兒よそのサデを貸せ、魚を獲ば輙はち之を子に與へん、蟲を獲ば余これを取らんと、兒輩欣諾す、すなはち試みに藻中を一掬するに獲物山の如く、僅かに五回探りて左の數種を獲たり、而して此間費やす所わづかに三分時に過ぎず。

カハゲラ幼蟲一。カハトンボ幼蟲三。ゴミカツギ九。オホカガンボ幼蟲(?)一。コガタノゲンゴロウ五。(雄三、雌二) ミヅスマシ三。サナヘトンボ幼蟲一。ヤンマ幼蟲二。

蚊遣火 夕げたく後までたてる一むらの煙りやさとの蚊やりなるらん。 (前田利鬯)

◉警察官吏と害蟲驅除の關係　去る明治三十年に浮塵子の大發生あるや、新潟縣の如きは兵士の援助を乞ふて辛うじて驅除の功を奏せしに關はらず一縣下の損失額は、全國被害額の四分一に該當し爲めに勝間田縣知事をして芋粥を啜ふしめたるの慘狀は衆人の今に記憶に存する所ろなり、斯かる事例は始終ありがちの事にもあらねど、各府縣に於ては何が故に警察官吏を害蟲の驅防員に加へざるやを疑ふなり、若し苗代田播種の際より二番除草の頃まで警察官吏の保護の下に置かしめば、秋季に至り聯隊の兵士を田間に放つよりは遙かに効績の見るべきものありと信ず、勿論或縣の如きは早晩實行するに違はざる可きも、今に吉報に接せざるは蓋し未だその利益の多大なるを悟らざるに因る可し、偖これまで警官を害蟲驅除に加はふしめて奇功を奏したるは九州にては加納前知事時代の鹿兒嶋縣あるべく、既よその必要を認めて害蟲驅除の一科を巡查敎習所の科目內に編入せしは現在の富山縣あるべく、部下の各駐在所巡查を二回招集し其取締方法等を訓諭して現に厲行せしめつゝあるは宮城縣志田郡の古川警察署あるべし、勿論富山縣と云ひ古川署と云ひ各々その起因とする所ろ無きにあらざるも、起因は然もあらばあれ、牧民官の職權を以て左右し得べき美舉良策なるんには、何れの府縣に於ても敢て行ふに憚かること無かる可し、當局者こゝに着眼して彼が如く有用の警官を亟かに吾農業界の保護者たらしめよ。

◉三十四年度の害蟲驅除豫防費　農商務省の調査に據れば、明治三十四年度地方稅勸業費豫算決定額中害蟲驅除豫防等に關する費額は左の如しと。

府縣	費目	金額	府縣	費目	金額	府縣	費目	金額
京都府	害蟲驅除豫防補助	五〇〇・〇〇〇	大坂府	害蟲驅除補助	一〇、九〇〇・〇〇〇	千葉縣	害蟲驅除	二六・六〇〇
茨城縣	害蟲驅除豫防	二〇・〇〇〇	栃木縣	害蟲驅除	一〇・〇〇〇	三重縣	害蟲驅除	三〇三・〇五〇
滋賀縣	害蟲驅除豫防	一〇〇・〇〇〇	岐阜縣	害蟲調查 害蟲豫防補助	一、五八六・五〇〇 五〇〇・〇〇〇	福島縣	害蟲驅除	三〇〇・〇〇〇
巖手縣	害蟲驅除	三九〇・〇〇〇	岡山縣	害蟲驅除豫防	五、〇〇〇・〇〇〇	廣島縣	害蟲驅除豫防	六三五・六〇〇

和歌山縣　害蟲驅除講習生補助　一六〇・〇〇〇　　香川縣　害蟲豫防　一・〇〇〇　　愛媛縣　害蟲驅除　四〇一三・五四三
熊本縣　害蟲驅除　二一三三・〇五〇　　宮崎縣　害蟲驅除豫防補助　二〇〇〇・〇〇〇

◉岡田虎二郎氏の米國行　螟蟲卵塊摘採法を案出して農業界を稗益せる三河國田原町の岡田虎二郎氏は、五七年間の見込を以て米國留學を思立ち去月廿二日横濱解纜の便船にて彼地へ渡航せり

◉マーヲット博士の來所　既報の如く米國農務省昆蟲部次長マーラット博士は本邦に於けるサンホーゼー貝殼蟲の天敵調査の爲め、北陸近畿中國より九州四國地方を跋渉中なりしが、去月十七日を以て斯地に來り翌日は當昆蟲研究所助手名和梅吉氏の案內をもて縣下大垣町附近の梨樹園を調査の上再たび來岐、十九日夕發の汽車に搭じて東上せられぬ、夫れより函根京濱間にて數日滯在の上、日光を一覽し日本鉄道線にて宮城縣仙臺市及び青森縣弘前、北海道等をも歷巡する豫定なりと聞けり。

◉害蟲發生地　今年の農作害蟲は全國にわたりて發生せしものゝ如くあるが、其中農商務省にて多生地と認め居るは鹿兒島、福岡、長崎、鳥取、島根、廣嶋、高知、香川、石川、靜岡、埼玉、群馬、山形、京都等の一府十三縣にてその害蟲の種類は云ふまでも無く、稻にありては浮塵子、螟蟲、キリウジカガンボ等、麥類にありては夜盜蟲、ジムシの類、桑にありては尺蠖、天牛、ヒメハムシ、貝殼蟲等煙草にありては地蠶の類なるが、若しこれに其他の府縣道廳の損害をも加算すれば非常の巨額に上るべしとあり。

◉渡瀨理學博士と螢　前號に揭げたる如く理學博士渡瀨庄三郎氏は專心螢の研究に從事し居らるゝが先頃當研究所長名和靖氏が三河國蒲郡近傍にて採集せる螢を贈り遣りしに「螢の標本落掌仕候、御高說の如く螢は秋螢と同種の如く存候、右は全國到る所に產し、初夏より晩夏初秋にかけ存在するものにて或ひは一年間に一回以上發生するものかと被存候、幼蟲は春より夏にわたり成蟲と共に存し居候」との挨拶ありき、又氏か雜誌『兒童研究』に寄せられたりと云へる論文は次の如し。

○螢に關する傳說、童謠の研究　　理學博士　渡瀨庄三郎

往古より多く人民の注意を惹きし動物には何れの國にも種々の傳說の存する者にして、特に東洋人の螢に對する思想の如きは、餘程古き時代より存せし者の如く、日本の兒童が螢を愛翫する事の深きは、泰西諸國にも決して其類例を見ざる次第にして、種々の童謠遊戲の兒童間に行はるゝを見ても知ることを得べし、依て余は多くの兒童敎導に從事せらるゝ諸君に乞ふ所は、左の二問題を發して

兒童の答案を求められん事なり。

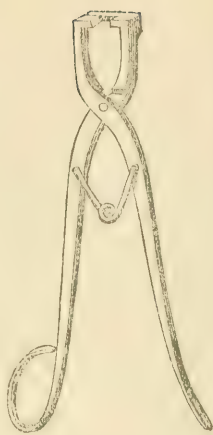
（第一）螢は如何にして毎年生れ來る者なるか。

（第二）螢は如何にして光を發し得るか。

答案を得られたる後に右二問に對して、左の如き解説を與へらるれば、兒童をして螢に對し、尙ほ一層の興味を增さしむるべきか。

螢の發光は燐の存在には更に關する處なし、發光器内に淡黃色を帶び脂肪に類似したる物質ありて呼吸の際空氣より取りたる酸素に觸れて燃燒し、光輝を發する者なり、然れども此の燃燒たる普通燈火の際起る極めて物質の冗滅多き者にあらずして、螢火には熱もなく、烟もなく、純粹なる冷光なり、螢は未た人工の企て及ふ可からざる精妙を極めたる理想的の燈火器なり。

又螢の發生は決して他の甲蟲と異なりたる事なく例せば彼の日本產中最大の源氏螢の如きは。夏期に草の根近き所に產卵し、卵は數週間の後孵化して蛆螢となり、翌年晩春迄は蛆形の儘にて生存し、螢發生の二週間程前、蛹に化して地中に入り、遂に羽化して螢となり。飛出づる者なり、螢となりたる後は大凡三週間は生存し、其生存中再び產卵して種族の繼續を全うするものなり。

次に余が諸君と研究せんと欲する所は、螢に關する俚歌童謠なり、是は兒童が夏夜螢を集むる時謠ふ者にして、地方によりて多少の相違あり、其異同を比較して之れが地理的分布、地理的の變化等を檢せば、大に趣味ある事なるべし、其他螢に關して兒童が有する遊戲、迷信等をも蒐集して日本兒童が螢に對して起す心理的反應の調査は、兒童研究上多少の價値なしとは云ふ可からずと信ず。

◎新形稻の莖切鋏　こゝに圖したるは近頃福岡縣の益農商會にて發明せる螟蟲被害稻の心切器械なるが全躰は鉄にて造り、柄の中間にバ子を附し片手づかひに稻の根もとを切取るの搆造にて、一見する所ろは恰かも果樹園用の選枝剪刀と類似せるものなり、未だ實驗をなさゝれど土地によりては利便なるべし、但し挿み口の邊をなほ少しく改良せば特に宜しかる可しと思はる、價ひは一器二十五錢なりと云へり。

◎千葉縣香取郡勸業報告（續）

千葉縣香取郡勸業委員　佐母家周助氏報告

○岐阜縣　（第一）岐阜縣は數年前より名和昆蟲研究所に囑托して昆蟲講習生を養成し、害蟲驅除豫防に必要なる思想と智識の普及に勉めたり、而して此の講習に於て養成し得たる智識の實効を收めんがため害蟲驅除豫防補助規則を設け、一大字町村以上の共同驅除豫防に要する經費を補助し以て其の實行を促かせり、又た特に害蟲報告規程を設け、昆蟲講習修了者をして定期及び臨時に害蟲發生の報告

を爲さしめ以て驅除豫防の時機を失はざらんことを勉む、同縣は此の如き方法を設け之が實行を期するに、縣屬、技術官、郡役所吏員は害蟲驅除豫防期に出張し町村吏員と協力して當業者を指揮督勵するを以て頗ぶる實行の見るべきものある由なり。

（第二）名和昆蟲研究の標本室　名和昆蟲研究所は岐阜市京町に在り、昆蟲を實驗上より研究し世界に芳名を擧げたる名和靖氏の實驗場なり、同氏が明治十二年より二十餘年間、一日の如く自己の研究に依り蒐集したる昆蟲は既に數萬餘點に達し、又其の生育の狀況等に就て研究したる昆蟲の種類數千に上れり、同氏が我國昆蟲學上に與へたる功績の大なることは言を待たず、其の害蟲驅除上に於て國民に教示し、國家に貢獻したる功勞の偉大なるに及びては蓋し之と匹儔するもの多からざるべし、今其の標本陳列場の摸樣を記さんに先づ第一に人目に映ずるは壁間に揭げられたる扁額なり、其の主なるものは松竹梅、月雪花、國旗、二見ヶ浦、富士の朝日、田子ノ浦等の景色摸樣を悉く昆蟲を以て排置製作したるものにして卒爾に之を一見すれば美麗に描かれたる彩色油畫の如く、其の巧妙の手腕を振ふて俗人に對し昆蟲研究の興味と慾望の念を起さしめんとしたる如きは實に感服に堪へざる所なり又自然淘汰及び雌雄淘汰の高尙なる原則を示すに種々なる意匠を加へ實驗に基き無學の者も容易に此の理法を覺知することを得せしむ、或は各地方より蟲除御札十八種を蒐集し、一般農民が害蟲に對する迷信と無智なるを表はすあり或は高等小學校理科書に擧げたる昆蟲廿四種を函內に陳列して小學校教員生徒に實驗の便を與ふるあり、或は靜岡、三重、愛知、山梨、岐阜の各縣に於ける害蟲驅除豫防規則に規定せざるものにして或る地方に限り生息する害蟲五十餘種を陳列し、害蟲驅除豫防法の缺點を補ふと共に各地方特種の研究を要すべきことを自覺せしむるに勉むるあり、其の標本の陳列は啻に昆蟲の種類を示すに止まらず種々なる方面に對し觀者をして智能を啓發するに勉めたるが如きは能く陳列の原則を利用するに遺憾なしと謂ふべきなり、特に注意すべきは昆蟲飼育上に用ゐる器具の簡易なることこれなり、他の公立試驗場の昆蟲飼育場を觀る者は其の用具の高價なるに恐れ、昆蟲研究の困難を感じ遂に獨立の研究を爲すの念を絕たしむると雖ども、名和氏の使用するものは中等以下の者尙は能く容易に購求し設備するに足るを以て、觀者をして昆蟲研究所の興味と必要を自覺せしむると同時に其の研究の容易なることをも知らしめ斯道獎勵上間接に與ふる利益大なるを認めたり　（未完）

◉久米郡の昆蟲學講習會　岡山縣久米郡農會にては去五月臨時總會を開會の折、評議員松坂

佳一郎氏の發言を以て同會本年度事業として昆蟲學講習會開設の件を建議したるに滿場一致これを贊成せしかは、理事者より縣廳に協議しそが講師及開期等を決定する事になせりと、同地よりの通報に見ゆ。

◉靜岡縣周智郡昆蟲學講習會　本月一日より五日間靜岡縣周智郡農會の開設せる同會は非常の盛會にて、後藤郡長以下の注意により寄宿舍其他百事整備し、實に地方稀有の催しなりしが、講師は當研究所長名和靖氏にて修業生徒は都て七十一名なりしと、悉しくは次號にものす可し。

◉標本陳列室の擴張　當昆蟲研究所の標本陳列室は何分狹隘を感じ居りしが、今回規摸擴張の見込確立せしを以て、近日の内に岐阜縣物産陳列所構内第壹號館へ標本全部を移轉の事に決したれば今後は稍縱覽者の滿足を買ふに足らんかと信ず。

◉第八、九回全國害蟲驅除講習會　本月十五日より開會の第八回同會は非常に申込者多く遠くは臺灣、對馬等よりも、加はり居り總て百四十名に達したれば申込の順序に依り百名を許諾し他は一先謝絶せり、就ては差當り教室に支へたれば岐阜縣會舊議事堂を借用し、寄宿舍の如きも三ケ處に指定せり、猶その謝絶せし應募者には非常に熱心の人々も多ければ結局八月十五日になほ第九回講習會を開設する事に決せり詳細は卷首の廣告を見よ。

◉三河昆蟲研究會　愛知縣三河國渥美郡昆蟲研究會にては去月二十八日そが第二回總會を開催せしが來聚者四百五十名に上りたり、先づ議事を開き次に役員の改選を行なひしに會長には山田正氏を副會長には宮林桂次郎氏を部長には彥坂幸太郎、彥坂利作、高橋譽四郎、山口七九郎の諸氏を推選し次で當研究所長名和靖氏の講話ありて散會せりと。

◉貝殼蟲の圖說の出版　去五月中出版の豫定ありしも活字新調、木版彫刻等の都合により延期せる貝殼蟲圖說は來る廿二日を以て發行す、この書は本邦に於て貝殼蟲を記載せるものゝ嚆矢とも稱すべく、中には數十個の精密なる木版と二葉の石版をさへ加へたれば十分記事の不足を補ふて餘りあり、その記事は各方面よりこの有害蟲を觀察せるものにて本邦の現況に適せるやう成れるものなり、因みに云ふ右書の出版等のため未た昆蟲叢書の印刷に取掛らざれど、豫約申込者今に絶えざる有樣故この分は斷然九月まで延期せり、悉しくは廣告にあり。

◉第卅一回岐阜昆蟲學會　同會第卅一回月次會は本月六日第一土曜日午后二時より名和昆蟲

研究所に開會せり、先つ名和當研究所長は開會の挨拶を述べ、次で三十六年大坂に開く第五回內國勸業博覧會へ昆蟲標本出品の方針に就き縷々意見を陳述して衆議に問はれ、第二席永澤小兵衛氏は「工藝美術に應用されたる昆蟲摸様に就て」我國を始め支那朝鮮安南等の東洋諸國と泰西諸州に行はれたる物を歴史上より証言し之を比較對照の結果凡て昆蟲模様は東洋に古く又多しと斷せられ、第三席名和梅吉氏は「學者と奸商と題し」凡て害蟲驅除用として商人の手に發明せられたる驅除劑は暴利を貪らんが爲め直ちに專門家の証明を請ひ以て農民を瞞着すること多しと聞く、されば專門家たる者は愼重の態度を採らざる可からざるに、往々不當の証明を與ふるとあるは遺憾とする所なり、今後之が救災の法を講ぜざる可からすと述へ、閉會を告けしは午后五時半なりき此日は霖雨に妨げられ遠來の出席尠なかりしも市の附近の熱心家廿餘名にて外に態々來所せる靜岡縣周智郡の敎育者花島繁次郎、鈴木武平の兩氏も當日出席せられぬ。

◉**水曜昆蟲會**　同會第四十四回（七月三日）及び第四十五回（七月十日）の二水曜會は例に依り當昆蟲研究所內に開かれ所員一同の談話ありき。

◉**昆蟲標本の來觀者**　六月三日以來當所備付の昆蟲標本を來觀せられしは左の諸氏なりき。

（六月三日）山口縣豐浦郡阿武光二、松尾欽三の二氏、（五日）滋賀縣老蘇小學校長佐野文雄同安工高等小學校長三崎眞造二氏（八日）兵庫縣津名郡書記下森榮次郎氏。（九日）名古屋控訴院長藤田隆三郎、同檢事正藤堂融。岐阜地方判裁檢事正村上二郎、名古屋控訴院檢事龜山直孝、同新田純孝、名古屋地方裁判所屬辯護士天野景治、同判事津末有義の七氏（岐阜地方裁判所檢事局監督書記服部達氏の案內）（十一日）德島縣農事講習所技師增田貞吉氏（十九日）名古屋税務管理局長菊池眞、同技手安藤福三郎二氏、滋賀縣栗田郡瀨田岸田全道氏（二十五日）御料局岐阜出張所長衣斐善次郎氏の案內にて御料局御傭シルリング、同局技師伊藤眞介、同局屬藤井、農科大學御傭敎師ヘーフーハイの四氏、大坂西區三軒家加藤一郎氏（二十八日）第三高等小學校大學豫科生木下蕃氏（二十九日）廣島縣賀茂郡敎育會派出員加藤健一、同郡西志和村長宍戸市太郎二氏（七月一日）農商務省技手吉池慶正、農科大學生福田鎭二氏（四日）福井縣南條郡勸業視察員橋本吉右衛門、津田吉三郎、同郡視學井上嘉六、三重縣三重郡大矢知村後藤信一郎、同縣桑名郡七取村伊藤富太郎の五氏（五日）岩手縣昆蟲研究會員熊谷六右衛門氏、（六日）名古屋郵便電信局福田友吉、靜岡縣周智郡田河內尋常小學校花島繁次郎、同郡北村立尋常小學校鈴木武平の三氏（九日）福井縣福井市毛矢町三宅重一氏、（十日）愛知縣丹羽郡村瀨小太郎、廣間守太郎、同縣海東郡佐脇紫渥の三氏外縣下の有志者六拾六名。

（以上、七月十日脫稿）

⊙出版期限　第壹編は本年九月下旬を以て發行し、第貳編以下毎月ニ開版の豫定とす
⊙挿入圖畫　毎編數多の精緻なる木版及び鮮麗なる石版、寫眞銅版を挿入添附すべし
⊙紙數用字　紙數は凡貳千頁左右とし、活字は四號五號を併用し往々傍訓を附すべし
⊙紙質製本　印刷用紙は最上等の光澤舶來紙を選擇し、且つ最とも裝釘に注意すべし
⊙豫約方法　豫約希望者は豫約前金を添へ、名和昆蟲研究所編輯部に宛申込まるべし

○第壹編……第壹回全國昆蟲展覽會出品目錄
○第貳編……昆蟲標本製作全書
○第三編……昆蟲學大意
○第四編……農作害蟲圖說
○第五編……園藝害蟲圖說
○第六編……森林害蟲圖說
○第七編……有益蟲類圖說
○第八編……有効蟲類圖說
○第九編……昆蟲分類法大意
○第拾編……昆蟲生理學大意
○第拾壹編……日本蟲害史要
○第拾貳編……日本昆蟲目錄

豫約申込期限變更

本書第一編は既ニ脱稿せしも、豫約申込期限後ニ至り續々加盟の旨申越されたる官衙農會も少なからず依て讀者の遺憾なからんことを期し、更ニ八月三十一日まで延期し九月下旬送本の事ニ變更せり、此段既約の諸彥ニ敬白す

⊙申込期限　本年八月三十日限り豫約申込に應ず、期限の後は一切謝絶するものとす
⊙代價郵稅　豫約代價は壹部(拾貳篇)金六圓とし別に郵稅を受く、正價は金九圓とす
⊙送本手續　送本は申込の次第ニ依る、豫約出版完成の后ニ非られば壹冊賣をなさず
⊙特別取扱　諸官廳、諸學校、縣郡農會の証ある申込には前金を添へざるも妨げなし
⊙代金分送　當所に開設せる講習會修業生ニ限り豫約代金を兩期に分送することを得

實地應用昆蟲叢書豫約申込所　名和昆蟲研究所編輯部

紫雲英種子販賣

一本種子は昨年始めて本誌上に廣告せし處各地方の農會或は農家諸彦の御愛顧を蒙り御購入の榮を得候段難有奉存候猶本年は一層純良なるもの澤山栽殖致候間左記御熟讀の上多少に不拘舊に倍し御注文の榮を賜へ

一早中晩三種共御希望に可應候

一代價は御照介次第直に御報知可申候

一農會の外總て前金にあらざれば發送不致候

一爲替金は岐阜縣本巣郡船木村美江寺郵便局振込小生へ宛て御送金有之度候

岐阜縣本巣郡船木村

名和爲吉

岐阜縣本場
紫雲英販賣者

岐阜縣本場產

大紫雲英種 販賣

◎當本場ノ紫雲英種子ハ全國ニ冠タル最モ名譽責任アル優等種ナリ

◎當本場ノ紫雲ハ莖長六尺以上ニ伸長シ一反歩ノ收量ハ凡ソ千貫目以上ナリ

▲種子代價等詳細ナルコハ御照會次第回答ス

岐阜縣本巣郡船木村（電略ミノサン）

美濃產業株式會社

春蠶種販賣廣告

本舘製造の春蠶種は飼育し易く繭質善良加ふるに病毒皆無なるは既往の成績に徵し既に當業家諸君の稱賛を辱ふせる所なり現に昨年の如きは豫約を募集せしに未だ期限に至らざるに既に製造額以上に達するの盛況を呈し止むなく謝絶したり今回大に規摸を擴張し蠶室貯桑場、上簇室等を增築し精選蠶種を製造致すべきに付多少共御注文の上御飼育あらんことを

岐阜縣不破郡岩手村字岩手

樹神舘蠶業部

舘主 兒玉氏信

一本舘製造蠶種の種類又昔、青熟、角又

一代價 框製壹蛾金參錢、普通製一枚金壹圓四拾錢（多數注文は特別割引）

農學博士新渡戶稻造先生著
訂正三版 農業本論
洋裝全一冊 正價金壹圓五拾錢 郵稅金拾四錢

農學士松村松年先生著
增訂四版 日本昆蟲學
洋裝全一冊 正價金壹圓七拾錢 郵稅金拾貳錢

農學博士佐藤昌介先生閱
農學士伊藤淸藏先生著
農業金融論
洋裝全一冊 正價金壹圓八拾錢 郵稅金拾八錢

農學士理學士堀正太郎先生著
訂正三版 作物生理學
洋裝全一冊 正價金八拾錢 郵稅金八錢

中央氣象臺中川源三郎先生著
增訂再版 農業氣象學
洋裝全一冊 正價金壹圓廿錢 郵稅金拾貳錢

中央氣象臺中川源三郎先生著
天氣豫報論
洋裝全一冊 正價金壹圓五十錢 郵稅金拾四錢

農學士大脇正諄先生著
訂正再版 最近米穀論
洋裝全一冊 正價金壹圓三拾錢 郵稅金拾四錢

理學博士宮部金吾先生閱
農學士出田新先生著
實用植物病理學
（近日發行）
洋裝全一冊 正價金壹圓五拾錢 郵稅金拾貳錢

農學士明峰正夫先生著
農業種子學
（近日發行）
洋裝全一冊 正價金壹圓 郵稅金拾二錢

農學士 獨逸留學 高岡熊雄先生著
農政學
（近日發行）
洋裝全一冊 正價金壹圓五拾錢 郵稅金拾四錢

獨逸哲學博士 米國文學博士 新渡戶稻造先生著
英文武士道 正價金四拾五錢 郵稅金四錢
獨文武士道 正價金五拾五錢 郵稅金四錢

農學士角田啓司先生著
日本土地經濟論
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

農學士高岡熊雄先生著
北海道農論
洋裝全一冊 正價金參拾錢 郵稅金四錢

明治三十四年七月十五日發行

昆蟲世界

毎月一回十五日發行

第五卷第四十七號

（明治三十年九月十日内務省許可）
（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◎昆蟲世界講讀者紹介諸君芳名

長野縣　伊原長三郎君（壹名）
靜岡縣　神村直三郎君（壹名）

小生義大分縣大分郡農會巡回講師を辭任致し候間爾後御用の諸賢は左記原籍へ御照會被下度候

高知縣長岡郡長岡村
第六回全國害蟲驅除修業生　猪野範欣

◉岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演説に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上
但該會へは縣の内外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

明治三十四年七月
名和昆蟲研究所内　岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し

第三十二回月次會（八月三日）　第三十五回月次會（十一月二日）
第三十三回月次會（九月七日）　第三十六回月次會（十二月七日）
第三十四回月次會（十月五日）

…市街界　‖案内道　｜町道　イ研究所　ロ縣廳　ハ病院　ニ中學校
ホ監獄　ヘ郵便局　ト西別院　チ公園　リ長良川　ヌ金華山　ル停車場

◉名和昆蟲研究所案内

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場よりは僅十餘町なり當所には常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町
名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共　金拾錢　〔見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す〕
壹年分拾貳部郵稅共　金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず　◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局　◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす
廣告料五號活字廿二字詰一行に付金拾貳錢、三十行以上一行に付き金拾錢とす

明治三十四年七月十五日印刷並發行

發行所　名和昆蟲研究所
岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二
（岐阜縣岐阜市京町）

發行者　岐阜縣岐阜市今泉九百三番戸ノ二　名和梅吉
編輯者　同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戸　桑原貫之助
印刷者　同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戸　河田貞城

（大垣西濃印刷株式會社印刷）

Vol.V. AUGUST 15TH, 1901. No.8.

(八月十五日發行)

(毎月一回十五日發行)

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

第四拾八號　(第五卷第八册)

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

目次　(禁轉載)

(明治三十四年八月十五日發行)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

金廿圓	第八回全國害蟲驅除講習生一同
一金貳圓	富山縣 坂井治右衛門君
一金貳圓	福岡縣 松下盤根君
一金貳圓	福井縣 西野四郎太夫君
一金壹圓	岐阜縣 小森省作君
一金壹圓	岐阜縣 小川三策君
一金壹圓	埼玉縣 櫻井倚畊君
一あはぢ新聞（昆蟲記事掲載）三葉	兵庫縣 廣田孫爹君
一インセクトール二十磅	兵庫縣 後藤勝造君
一インセクトール一磅	東京府（田中五一君 （田中健太郎君
一インセクトール一磅	大阪府 タイワン商會
一除蟲御札 六種六枚	埼玉縣 櫻井倚畊君
一螢籠一個	富山縣 森川市太郎君
一作物病蟲害豫防ニ關スル講話一冊	福井縣 東條謙三君

右當研究所へ寄附相成候に付芳名を掲け其厚意を謝す

明治三十四年八月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

昆蟲世界購讀者紹介諸君芳名

群馬縣　宇野柳八君（一名）
靜岡縣　增田小三郎君（十四名）
東京府　鳥山悌成君（二名）
靜岡縣　周智郡農會（四名）
大阪府　大西香君（一名）

◎第四回懸賞昆蟲寫生畫募集

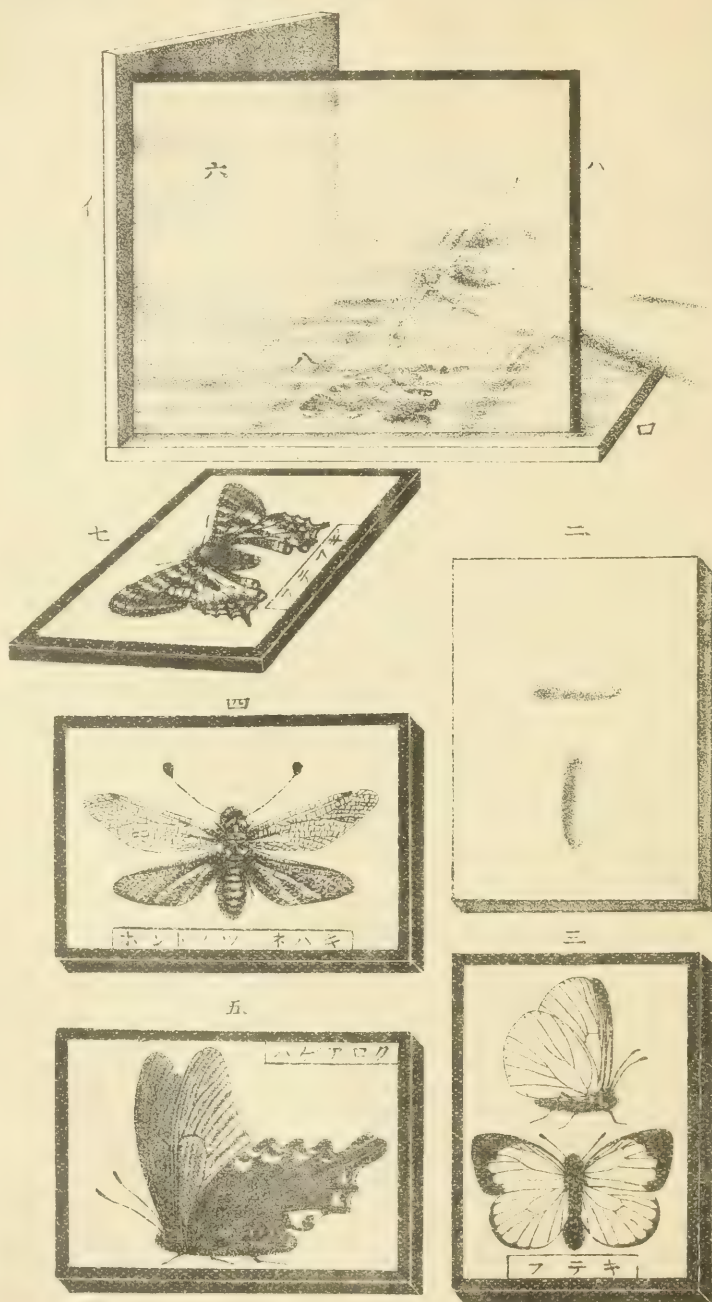
畫題 **昆蟲**（昆蟲類なれば何にても宜し）募集期限（本年九月三十日限）

一等昆蟲世界一年分　二等同半年分　三等害蟲圖解三枚

我國教育界に於て臨本に依り圖畫を習得せしむる爲め一般學生に實物寫生の練習少なきを憂ひ昨年來三回の懸賞畫題を提出せしに幸に好果を擧けたるを以て更に茲に全國の學生に向つて大募集を企劃せり續々投稿を賜へ

大募集規定 鉛筆畫又は毛筆畫。輪廓線適宜。用紙及其大小は適宜。但一枚一圖に限る。可成は實物大を貴ふと雖とも小形の者は放大圖にするも又は昆蟲に植物を添ふるも共に妨けなし。其用紙中には必す蟲名學校名學級名姓名及ひ年齡等を明記すること。一旦收受せる圖畫は一切返附せざること。最も優等に屬する受賞畫は都合に依り木版又は寫眞銅版等に製して昆蟲世界誌上に掲載す。

明治三十四年八月　名和昆蟲研究所

實物寫生用昆蟲標本

論說

◎昆蟲學研究者の反省を促がす

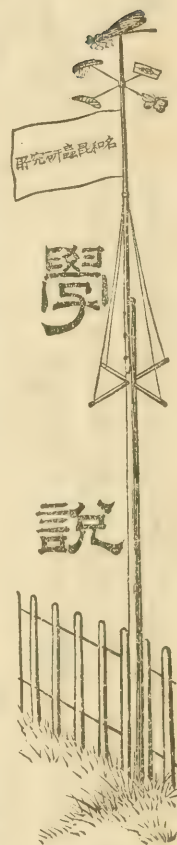
名和昆蟲研究所長　名和靖

本年は春來の氣候に伴れて、農作害蟲發生の聲、殆んど全國に洽ねく、浮塵子と螟蟲とは云はずもがな飛蝗に螟蛉に蛄螻に各々蕃殖蔓延を遂げ、且加ふるに、貝殼蟲の爲めに、著るしく外界の刺激を蒙ふりたれば、苟しくも平生昆蟲學の研究に從事する者にありては、習得せる學術を此方面に應用して、國家の利益を保有し、兼て斯學の前進を圖るべきは固より論を俟たず、すなはち斯學者の最とも多忙にして且つ多望なる時期に到達せりと謂ふべきなり。

それ一たび斯かる好望の時機に遭遇す、人誰か盤根錯節の間に立て其惡辣の怪腕を揮はんことを思はざらん、然れども退ぞきて斯學の前途を想ひ、又近く脚下に横はれる事業の成敗如何を顧みれば、また未だ必ずしも田圃の間に捕蟲網を揮ふをのみ能事と速了すべからざるものあり。故に一面に於ては害蟲驅除豫防の勵行を望むも、他の一面に於ては斯學の基礎を作爲するに大に努むる所ろあらんことを冀ふ蓋し斯學の普及發達の頗ぶる遲緩にして、今猶ほ津涯に迷ふ者到る處に之れあるは、その根底の未だ固からざるに、強て技術上に屬する生硬未熟の方法を實施するに因れるを知ればなり。西哲云はずや、砂上の家屋は危ふしと、斯學研究者宜しく三省する所ろなかる可からず。

斯學の基礎とは何ぞ、曰く其分布區域を調査するが如きは實に其一要素たらずとせんや、勿論今春の全國昆蟲展覽會に於て多少はこれを知得したるも、未だ之を以て十分と謂ふ能はず、論者或ひは分布區域の調査を以て爾かく重事となさゞるも、國民には戸籍あり、家畜には牛馬籍あり、昆蟲豈に籍なくして可ならんや。況んや昆蟲のものたる、先づ其籍を正ふするに非らずんば、得て研究の端緒を啓く能はず得て名稱を定むる能はず、得て之に對する應用上の方針を立て、以て利と害の存する所ろを調査するこ と能はざるに於てをや。是れ害蟲驅除に重きを置くと共に、他方面に亦重きを置かざる可からずと云ふ所以なり。然るを眼光を斯學の局部に注ぐ者に在りては、動もすれば則はち浮塵子、螟蟲のみを口にし、また曾て其他を知らざるものゝ如く、分類標本、裝飾標本、教育用標本の此間に在りて間直接に斯學を發達せしむるの機關たるを悟らざるなり。之を譬ふれば今の害蟲驅除に從事する者の多くは根本的の驅除を採ふをして、一時小康的の姑息法に安んじ、良醫の頭痛を治するに先づ内用劑を與ふるを厭ふて、庸醫の即効紙を好み、又鉄橋の架設を欲するも、敢て地下面に橋脚を造るを嫌ふに異ならず。斯くの如くにして害蟲驅除の事業は果して奏功し得べきや否や、聊さか達識の士の判斷を請はざる可からず。其他特に本年に計畫すべきものゝ一にして足らざるも、卅六年に於ける大阪の內國勸業大博覽會に出品すべき標本の方針の如き、斯學の普及策の如き、本邦益害蟲調査會設置の如き、海外輸入害蟲調査所設置の如き、皆これ斯學者の奮勵に竢たざる可からざる事業とす、知らず、同志の胸中早く既に成算ありや否やを。余は斯學界の近狀を觀て、轉た望洋の歎なき能はず、敢てこゝに一言を寄す。

蟲聲先秋　とし月のひまゆく駒のくつわ蟲秋まちかねて聲たてつなり。（鈴木重嶺）

學説

◎「ペスト」と南京蟲(Acanthia lectularia)との傳染的關係

在臺灣總督府醫學校　青木大勇

ペストと南京蟲の傳染的關係に就ては、曩に獨逸中央ペスト會議の際にあたり、其研究員の手により世に公にせられたる所尠からず、加之其流行上に關與する知識も、漸次世の學術進歩につれ、マラリヤ對アノフェルスと相俟ちて、益々學界を搖動するの位置に進めり。

我が臺灣の地たる、全土殆んど本蟲の害を蒙らざるなく、土人家屋は勿論、例令內地人臥床と雖も、時に襲擊を蒙ること稀ならざる狀況にして、而かもペストは東洋の一流行中心として、四季殆んど絶ゆることなく、年々歳々非命に斃るゝ者數百を以て算す、豈にそを實驗的に解釋して、世の警醒を促さんも斯道の爲、強ち蛇足とのみ評するを得んや。

予は此にペストと本蟲の關係を論議するに先ち、昆蟲と傳染病一般との關係並に本蟲の動物學的記載を述べ、併せて本蟲とペストとの傳染的關係を實驗的に證明し、終に其豫防法を述べんと欲す、然れども淺聞薄識やゝもすれば論旨精緻を缺き、實驗又盡せりと云ふ能はざれば、他日の成功を期し、今は唯だ其梗概を豫報して大方の是正を乞はんと欲するのみ。

◎昆蟲と傳染病との一般關係

諸多の傳染病が昆蟲の媒介によりて蔓延を逞ふすべしとは、既に久

しき以前より許多の學者によりて唱導せられたる所なりしが、未だ以て世の一般學者を充分滿足せしむるの域には達せざりし、然るにデビヱン氏に至り、蠅とカルブンケルとの關係を明にし、次で有名なる昆蟲學者マグニン氏等頻りにデビヱン氏の説を賞揚し論證する所尠なからざりければ、之れより本問題に關する研究は、啻に醫學者のみならず、又昆蟲學者の反省する所となり、西に東に新智識を湧出するの好望に向へり、即ちハンブルグのドクトル、ジモン氏は蠅とコレラとの關係を明にし、エルザン氏又之を自己の試驗室より證明し、其他スピルマン、ハウシャルターの兩氏結核と蠅、蚤との關係に就きて論證する所ありたり、降て千八百九十七年に至り、オデッサのチクチン氏は蝨と再歸熱との關係を研究し、蝨には本病蔓延の性あるを確認し、又近時ドクトル、ジモン氏も蚤とペストとの關係に就き『何故死後數時間の鼷鼠は感染力を有し、二十四時間を經過せる者は感染力を有せざるや』との疑問の下に、之が研究に熱衷する所あり、遂に蚤の性として寄生宿主たる動物の厥冷を起すや、舊宿主を去て新宿主に移行するの習ひあるを明かにし、ペストとの間に於ける疑問上に一道の光明を放てり、近時に至りては、彼の蚊瘧論ある者世に現はれ、伊太利は殆んど其研究の中心として ロッス、ラベラン、グラァシー等諸大家の名論卓説を出し、其他有名ある英醫マンソン氏の如き非常の勉勵と熱心とを以てフィラリヤとモスキットの關係、マラリヤとアノヲフェルスとの關係に就き研鑽討究を累ねたり、實に昆蟲と傳染病との關係は、生物昆蟲學の發達と共に駸々として止まる所を知らざるものと謂ふべし。

最近時の醫書を繙くにペストと昆蟲の流行的關係に關しても論議せらるゝ所尠なからざる者の如く、蠅はエルザン氏ステッケル氏岡田氏に依り、明に傳染の媒介者たるを證せられ、蝨はヌッタール氏により七十二時間は有毒なるペスト菌を有するものなることを論擧せられぬ、又蚤はジモン氏緒方氏により説

明せらるゝ所あり、其他予の此に報告せんとする南京蟲に關しても、既に獨逸研究員の手により承諾せられたる所ありたるあり、今此に獨逸研究員の手により議決せられたる條項を譯出すれば、次の如くフヲルステル氏の建議により、本問題に關しては普く昆蟲生物學者の實驗を集め、一方に於ては懸賞の法を設けて斯道の發達を圖るべきを豫約せられたり。

一、昆蟲は咬刺により直接に病源菌を移植す。

二、昆蟲の咬傷するや、人搔痒の爲めに搔把を行ひ蟲軀に付着せる病毒を以て人軀中に侵入せしむ、殊に昆蟲を壓碎するときは、體內の病源菌を皮創より侵入せしむるの恐あり。

三、刺口及搔把に因する皮創は、皮膚或は衣服に付着せる病源菌をして侵入せしむる者なり。

四。昆蟲は病源菌を食器上に散布せしむ。

要するに今日に至るまでペストとの關係を明にせられたるは、蚤、人虱、蠅、南京蟲等にして、蚊は未だ世の識者をして全く首肯せしむる迄には至らずと。

◎南京蟲の動物學的記載　南京蟲は昆蟲類中の有吻類(Rhynchota)に屬し、壁虱族(Acanthiadoe)に屬せり、學名は Acanthia lectula にして日本に於ては床蟲、壁虱、鎭臺蟲、寢臺蟲と稱し、臺灣にては黑虱、支那にては臭蟲と名く。

(二)地理學的蔓延　恐らくは印度を中心として諸方に蔓延したるものにして、現今は歐洲、日本內地に於て發見せらるゝに至れるなり、支那、朝鮮に於ては既に往古より存在したる者の如く、臺灣に於ても古老の語る所、極めて往昔より存在せるの證左となすに足る、要するに現今に於ける蔓延の中心は寧ろ支那なりと云ふべく、從て「チャイニース」の生息する處、到る處として本蟲の蔓延を來さゞる所なし

と見て大過なからん乎、吾人の喚んで南京蟲と稱する、また「チャイニース」より傳播せるを知ればなり日本に於ては未だ廣く蔓延を來さゞるも、將來内地雜居の盛となるに至らば、愈々本蟲の害毒を蔓延せしむるに至らん、今日に於ても長崎、横濱、神戸、新潟、函館等の交易地及び帝都等には往々本蟲を發見することあり。

十數年前、本蟲名古屋鎭臺に發生し、延いて民家に及び、一時は建築を燒却し去らんとまでの議を出せることあり(日本に於ける鎭臺蟲、寢臺蟲なる名稱は茲に起る)、其他明治二十年の頃、東京芝の一旅館に本蟲を發見したることありと、飯島氏著の「人體寄生動物篇」に見へたり。

今此に古書より二三を拔出して、往古より存在したるの證據とせん。

『醫方類聚』第百六十六卷第六十一枚に壁虱門の項あり、内に聖惠方大全本草是齊醫方瑣碎錄等の記載あり、今譫軒方中壁虱に關する二三の記事を擧ぐれば、壁虱侵入最不良、細研蒼木白膠香、藁燒床下能消去、百部根烟又可則、樟腦阿膠各一錢蓖麻四粒去皮、研麝香一字同和碾貼在薦中人穩眠。

『五雜俎』曰、壁虱入夜纏緣床入幕、嗜人遍體成瘡、縱雖至廣庭懸床空中、亦自空飛至、南人其地輙宛轉呼號不可耐、無計以除之。

『本草綱目』曰、壁虱則臭蟲也、狀如酸棗仁、嘔人血與同皆爲牀榻之害。

『五雜俎』曰、壁虱閩中謂之木虱、多形木中所生云々。

(二)構造及性狀の一般　身長平均四ミリメートル乃至六ミリメートルにして、最大幅は腹部に於て平均三ミリメートルを算す、外見上體部は黑褐色を呈し、吻觸角肢は茶褐色を呈せり、體は肉眼的明かに、頭、胸、腹の三部に區別せらる。

(A)頭部　肉眼的檢査上、頭部は胸腹部に比するに其色一般に淡褐色にして、恰かも冠狀をなし、唯だ中央の食道に相當する所に一條の黑線を現はせり、兩側には前方に突出せる複眼を有し、口吻は通常下側に屈曲して體の正中線に保持せらると雖、咬刺を加へんと欲するや直伸して他體の表皮下に刺入す、殊に一種の彈力性硬度を有し、咬刺の際に至れば恰も陽性の勃起する如く、硬度を增加して目的を達し易からしむる作用あり、蓋し他の異物を以て觸角に觸るゝと雖、絕て口吻の勃起を來すことなく、唯だ他の有血生體に觸接せしむるときのみ、恰も陽性が陰性に觸れて勃起する如く食欲を起して勃起を來たす。

鏡檢的檢査上、口吻 Haustellada は恰も鞭狀を呈し、長さ凡そ一ミリメートルを算す、通常三節より構成せられ、極少尖銳なる短毛を以て被はる、外部は幾丁質の皮殼にして、全徑の約五分の二を占め、內部は柔軟なる髓質樣の物質を以て充塡せられ、內に吸收道たる細管を通ぜり、關節部は皮殼を缺き唯だ體質樣の皮膜及細管を有す、短毛は他部の短毛に比し極めて細小末梢の方向に向ひて排列す、觸角 Antenae は通常四節より成り、內末梢二節は比較的幼稚の發育を爲せり、全長凡そ二ミリメートル位にして、外部口吻に於ける短毛より粗大なる短毛を以て被はる、外質は幾丁質の一層より成立し、全徑の三分の二を占めたり、中央には一細管ありて末端に達す、此細管は恰かも鞭狀にして無數の節輪を有し、關節部を貫きて縱走せり、幾丁質と細管との間には髓樣質を充塡す、短毛は比較的大にして內に細管を有し髓樣質に通ぜり。頭部の躰部は幾丁質の外殼を有し無數の短毛を密生す、中央には食道を通せり。

(B)胸部　前中後の區別あるも判然たらず、全形恰かも心臟形に類し、後方に一對の脚を有せり、中央

消化器系部は、黑色の線狀を現はし、外皮は幾丁質よして短毛を密生す、翅は小よしてその痕跡を存す。

(C) 腹部　判然たる八節より成り、二對の脚を有す、末節尾端には肉眼的明瞭なる短毛を有し、肛門、生殖門を存す、透明するよ消化生殖器はH字形の黑線を造れり。

(D) 卵　卵は長徑凡そ〇、五ミリメートル、長卵圓形にして肉眼を以て容易よ認識するを得、色は帶白色、外殼透明、内に數多の小顆粒狀體を含む、産卵期は三、五、七、九月の溫暖期よして、不全變態を行ひ、大凡一年よして成蟲に化す。

(E) 性狀　好んで日中は床下、壁間、毛氈下、疊下、器具の下よ潜伏し、夜間人定まるの後出でゝ温血動物又は人類を咬刺す、咬刺部は直に腫張、潮紅、發熱、硬結を起し搔痒禁すべからず、多くは二三日にして全治に至るも、時としては搔把のため潰瘍を形成し、又は小兒等に於ては廣大なるエリテーマ性の丘疹を形成し、永く炎性浮腫を殘すことあり、毒性に至りては明白ならざるも、恐く酸性の毒液ならん乎。

（未　完）

◎イチノアナムシに就き佐々木松村兩氏に質す

在北總　大　竹　義　道

松村松年氏は本誌第四十五號より第四十七號よ亘りて「昆蟲の名稱に就て」の題下に、學名の命名法には一定の規則あり、然らば則ち和名の命名法また一定の規則なかる可からず、然るに近時濫雜なる名稱を附して昆蟲を記載せんと欲する者多し、學名には既よ『プリオリテート』ありて之を動すべからず、和名

また豈に『プリオリテート』なしと云はんや、云々と論述せられたる記事を閲讀して、實に尤もの卓說なりと徐ろに同感の意を發せり。然るに同學士が本誌第四十七號二四四頁の冒頭に、佐々木博士の著書日本農作物害蟲篇に記載しある害蟲類の中、稻の黃葉捲蟲蛾とは如何なるものを云ふや、名和氏の所謂イネノアヲムシ(Naranga diffusa, Walk.)の意なり、一は青と云ひ、他は黃と稱す、一は成蟲の着色に據り、他は幼蟲の躰色に基づく、何れを採るも可なり、然りと雖ども之を『プリオリテート』より論ずるときは名和氏は既に明治二十八年十月昆蟲雜誌第壹號に於て之を發表せり云々と言はれぬ。

余が所信を以て之を考量するに、佐々木氏の『稻の黃葉捲蟲蛾』と命名せられし害蟲は、名和氏の所謂イネノアヲムシとは全然異種なるべし、そは佐々木氏著の作物害蟲篇一四八頁を繙とき觀るに、イネノキハマキムシガとは、明治二十八年十月發刊の昆蟲雜誌第一號に石版畫を以て示せるハカジと同一種にして、松村氏の著述に係る害蟲篇下卷二七一頁に掲げある稻の苞蟲(甲)ハカジ又ツトムシに等しき蟲なるなり、又佐々木氏著書の挿圖を見るに、その稻の黃葉捲蟲蛾の左方に稻葉の竪に閉ぢある狀態と、同書二四九頁の八行に幼蟲(青葉捲蟲)は七月下旬より現出し、稻株に棲息し大凡一枚の稻葉の兩緣を竪に長く卷き、兩緣の接したる緣目を絲にて綴り巢となし云々と說明しあり、イネノアヲムシ又は青尺蠖と稱する害蟲は初めて七月下旬より現出するものにあらず、五六月頃より發生する事は一般作人の知る所なり、然るに松村氏はイネノアヲムシと同一なるものと見做し論述せられたるやに見受く。又名和氏のイネノアヲムシに就ては倘ほ昆蟲世界第十一號に着色こそは無けれ、稻苗にその害蟲の附着加害の狀態は殆んど眞形に描出しあるを以て、一目の下に稻葉を咀嚼する青蟲なる事を認識せらるゝ事なるが、此蟲に就き松村氏の害蟲篇上卷一四三頁にイネノコアヲムシ(稻の小螟蛉)と記載しあるも、是れイネノアヲ

ムシと同一蟲ならん。又佐々木氏は其著害蟲篇一三八頁に、稻の青尺蠖蛾と命名したるが、これぞイ子ノアヲムシと同一種なるべしと信ず、然るに佐々木氏は稻の黃葉捲蟲蛾と記載せられしに拘はらず、同書一三九頁の挿圖の上部に、稻の青尺蠖蛾と記載し置かれぬ。是れ恐らくは活字の誤植なる可かりしを松村氏は此名稱を見て直ちに論擧せられしもの乎。

現今未だ名稱の一定せざる所ろより、往々錯誤を傳ふること此一事に由りて知らる可し、名稱の一定豈に急須ならずとせんや、而して東京西ヶ原の農事試驗本場に於ては、前掲のハカジ蟲をばタテトヂムシとかと命名せるやに傳聞せり、今日農家の蟲名を辨別するに困しむもまた宜なるかな。

余や淺學寡聞、恒に諸先輩の記述に對して疑ひなき能はず、因て私かに訝かり怪しむもの二三を擧げて茲に佐々木松村兩氏に質す、肯て後學の爲めに示教を吝むなからん事を。終りに松村氏に對し尚ほ一事の解説を乞ふべきものあり、氏は稻の小螟蛉の學名をErastria Sp?とし、稻の苞蟲(甲)ハカジ又ツトムシの學名をNymphula(Hydeosampa)Sp?と揭げられしに關はらず、名和氏の所謂イ子ノアヲムシの條下に於てNaranga diffusa, Walk. と改められしは如何に、余は甚はだ之れに迷へり、併せて明答を垂れられんことを。

編者云ふ、當昆蟲研究所に於て、先年記載せる學名には或ひは錯誤に出でしものも存せしなる可し、現に此稻アヲムシの如きも、當時確定せざりし一なりしを以て、昆蟲雜誌後に發行せる害蟲圖解には全たく之が學名の記入を缺き、以て後の究明に竢てり、恐らくは松村氏の著書また之と同一の事情ありしにはあらざりしか、茲に附記して大竹氏とその感を同うせる諸氏に告ぐ。

◎作物被害原因驅除法索引（其四）

農商務省農事試驗場技師　農學士　小貫信太郎

第卅七條（第卅五條第二項）

一、雞その他の鳥多き時は、それ其原因なり、この場合には葉は多く裂けたるを見るべし。

二、鳥害にあらざれば蟲害なり、蝕害後の現象なりとす、この蟲は地下に潜み夜出て食ふなる可し。（第三十九條を見よ）

第卅八條（第壹條第貳項）

一、果實に被害ある時。（第三十六條を見よ）

二、枝葉に被害ある時。（第四十七條を見よ）

三、樹木の不健康なる時。（第五十四條を見よ）

第卅九條（第卅八條第壹項）

一、幼果落下し又は果實を結ばざる時。（第四十條を見よ）

二、果實萎縮又は小なる時。（第四十一條を見よ）

三、果實に斑點を生ぜる時。（第四十二條を見よ）

四、果實腐敗する時。（第四十三條を見よ）

五、果實蝕害せられたる時。（第四十四條を見よ）

第四十條（第卅九條第壹項）

一、蕾又は幼果の附近にて、小なる褐色の椿象を存する時はこの原因なり、盲椿象科(Capsidae)の一種に屬す。

二、若し蟲を發見せざれば、生理的原因に屬す。

第四十一條（第卅九條第二項　第卒一條第四項）

一、果實に椿象又は蚜蟲を存する時は、其原因にして果汁を吸收せられたるに依る、石油乳劑を以て殺すべし。（石油乳劑を十倍乃至二十倍に稀釋し用ゐる）

二、若し蟲を見ざる時は、その樹の不健全なるに歸す。（第五十四條を見よ）

斑點小にして白く、或ひは白き斑點の周圍赤色を呈する時。

一、白色の部少しく隆起する時は介殼蟲科に屬する介殼蟲の一にして、其介殼の下には黄色の蟲を見るべし、已に果實に附着せるものは驅除甚だ困難なり、故に果實に附着せざる前に驅除すべし。（第五十五條を參照せよ）

二、介殼蟲を存せざる時は多分黴菌なるべし、黴菌の種類は甚だ多けれども、其驅除は大抵皆一なり、或ものは十分に驅除し得べきも、或ものは驅除すること能はず、此場合にはボールド液を撒布すべし。

第四十二條

（第三十九條第三項、第四十三條第二項、第四十七條第三項、第六十一條第一項）

一磅の硫酸銅及び一磅の石灰水、一斗二升五合の混合液、或は炭酸銅のアンモニア溶液を用ゐる、其製法は炭酸銅八匁三分、炭酸アンモニア五十匁、水二斗五升の混合液。

第卌三條第卌四條

（第卌九條第四項）

一、腐敗が穴より始まる時は、腐敗菌の寄生に依る、豫防は穴を生ずるを止むにあり。（第四十四條を見よ）

二、腐敗部に穴を存せざる時は、寄生菌の作用なり。（第四十二條を見よ）

（第卌九條第五項）

一、外部より蝕害せらるゝ時。（第四十五條を見よ）

二、蟲が果實の内部に存する時。（第四十六條を見よ）

第四十五條

一、鳥害なり、之を除くには砒素を以て甚はだしく有毒にしたる食物を以て殺すべし。

二、蜂類の害なり、蜜蜂類なれば、これは始め他の蟲、或ひは鳥に依て害されたる部に集まり、或ひは過熟せる時に起る、もし他の蜂なれば毒果を以て驅除すべし、若し地蜂類なれば、二硫化炭素を用ゐて其巣を驅除すべし。

三、甲蟲類なる時は、瓢蟲に類して背に斑點ある葉蟲類の一種の害なり、其害もし樹に存する時は第三十六條の法に依り驅除すべく、果實に集まる時は石油乳劑を用ゐべし。（第四十一條を見よ）

講話

◎マーラット博士の昆蟲談（續）

（宮脇繼松氏速記）

第三に御話し致す驅除の方法は瓦斯で以て、害蟲を燻殺するのであります、其瓦斯の中でも一番能く用ゐられて居るのは青酸瓦斯で、それは御承知の通り大きな天幕を以て樹木に被ぶせ、その內へ青酸加里と硫酸と水を混せて發生せしめた毒煙を滿たし、斯くして害蟲類を燻殺するのであります、此方法は早くカリフォルニア州の柑橘園で採用せられましたが其天幕の大きなものになると丁度小屋の如くである一体大木に此方法を用ゐて居るのは重に加州ばかりであつたが、斯く燻殺法を行はんと驅除が十分に出來ぬと云ふ事が發見されてから、追々諸州でも之を採用する事となり、法律で以て苗木にも之を行ふことゝ成りました。

只今申述べました此三方法は重なる驅除の仕方である、即はち亞砒酸、油劑、瓦斯の三者を以て大概驅除を行ふて居ります、勿論この他にも種々の方法が行はれて居りますが、此席では省きまして少しく害蟲の移轉に就て申上げやうと思ふ、害蟲の移轉とは米國の昆蟲が貴國に來り、濠洲のものが米國に移り支那のものが貴國に移ることでありますが、是は交通が盛んになればなる程益々その度を高め、その輸入されたものは昔から居るものよりも蕃殖が甚だしいのである、故に各國互ひに昆蟲に就ての關係が無いやうであるが、中々左樣ではない、昆蟲に就て各國は交通して居るやうに成つて來たのであるから、或る一國でサンホーゼー貝殼蟲や、何やらの試驗調査の報告を出すと、同じく他國を益する樣になるのである。

偖て新たに他より輸入した害蟲は其土の原産のものよりも一層加害の度が劇いと云ふのは、假ひ氣候又は病氣等のために天然驅除の行はるゝ事がありましても、有益蟲が共に輸入されないと云ふのが一つの原因である、米國では加州で害の甚はだしかつたホワイトスケールの爲めに困められて、十二年前までは驅除の方法が無いためよ柑橘類を枯らす場合となつたのである、然るに種々研究の結果として、瓢蟲の一種がホワイトスケールを喰害することを發見し、態々人を濠洲へ遣り其敵蟲を搜索して之を米國へ移しました、すると好成蹟を現はしまして、目今加州ではホワイトスケールを見る事が出來ぬ程に成りました、其後ホルトガル國でも米國と同じくホワイトスケールが發生しました爲め、同一の手段に出でました處が、是また良好の結果を得たのであります、是が一國の研究によりて他に利益を分つたのである。此かる例を申しますれば、尚ほ外に澤山ありますが、時間がありませんから、茲に一例を引くに止めて置きませうが、先刻名和君の御話しになりました彼のサンホーゼー貝殼蟲と申すのは、米國では三十年前から發生したもので、只今の處では非常に害をして居ります、其ものが何處から輸入をして居るか解らんが、或學者の如きは貴國が原産地であるだらうと言ふて居るが未だ確かなる事を言ふ譯にいかぬ、畢竟私が貴國へ渡來したのも、此害蟲の天敵を調査するが爲めである、私の研究の結果に依れば貴國を以て直ちに原産地と言ふ事は出來まいと思ふ、併し乍ら原産地の事は今に及んで餘り喧ましく論ぞる價値は無かろうと思ひます、何となれば米國は到處に既に此害蟲の蕃殖を見るに立到りたれば、今日原産地を搜した處で何も利益がないと思ふから、是れ私の參ッたのは貝殼蟲の調査の爲めではなく、主れら其敵蟲調査の爲めと云ふ次第である。

次に昆蟲が疾病を媒介すると云ふ事に就て少しく言はんに、其例を申せば蚊がマラリヤ病の媒介者であると云ふ事である、近頃まで此病氣の源因は濕地沼氣等であると申しましたが、只今では蚊屬がその病根を傳へると云ふ事で、歐米諸國では專はら左樣に信して居る、又人躰に一種の疫病を傳染するのは家蠅であると云ふ事も發見された、然らば如何にして之を媒介するかと云ふに、殘念乍ら今之を精しく述

べまする餘暇がありませぬから、語を轉じて米國では如何な風に應用昆蟲學を教へられるかと云ふ事を簡單に御話し致さうと思ひます。

私の本國では高等小學時代か中學時代に一應昆蟲學の大要を教へて置きますから、學校を卒業の時には銘々普通昆蟲に就ての觀念があります、故に次の高等の學校に移りますと同時に之を專門的に修める事が出來ます、是迄は餘り左樣には致して居りませなんだが、四五年來特に遣るやうに成つて、大學では特に此事には熱心で、十分に出來る者でないと學校を出しませぬ、米國に斯く致し居る大學は五六ヶ處ありますが、最とも熱心にやりをるのはコーネル大學で御座ります。

私が貴國に渡來前は日本と云ふ事に就ての觀念が薄くありましたが、唯名和君の事に就ては感じて居りました、特に雜誌昆蟲世界は始終送つて下さるものでありますから、文字は讀めんでも、繪畫を見まして其巧妙なるに感じ、貴國では十分昆蟲學が出來て居り、又十分に信用を措くべき價値のあるものと云ふ事だけは信じて居りましたが、今回親しく視察を遂げましたに愈々斯學の發達を知りました、更に名和君の昆蟲研究所を見るに其進歩は尙ほ證據立らるゝ事と思ひまするし、又中央農事試驗場の諸君は何れも熱心に應用昆蟲學を研究して居らるゝ事が見られ且つ其方針も米國が執つて居ると同じ事でありますから、其處で研究された結果は農家が十分信用して實行し得るに宜しい事と信じて居ります。又實地見聞する所に依れば概ね米國で試驗研究を遂げました結果で、諸君が利益を得ると同じく中央試驗場で研究した結果を見て、農家も十分利益を得ることと信じます、此研究にして果して其成功を告ぐる曉には、貴國の研究に對し私共より彼是言ふ事能はざるやうに爲るならんとは豫め私の深く信じて疑はざる所であります。

貴國の中央農事試驗場の昆蟲部の諸君中には堀君の如く永らく米國に居られまして、研究された結果を實地に應用しやうと云ふ人もあり、又大學に居て研究された人も實際その衝に當つて居らるゝのでありますから十分の成績を顯はさねば成らぬのである、然るに獨り名和君に至りては左樣の處で研究する機

會が無かつたので、獨學で以て困難な昆蟲學を研究して今日を致したと承まはりましたが、是は到底他國に於てその例を擧げようとしても擧げ得られぬ事柄である。終りに私はこの岐阜の地へ參りまして以來總ての方が頗ぶる親切を盡され、特に今日の如きは本校職員及び名和君の厚意により多數の前に立て演說せし事を深く感謝する次第であります。（大尾）

◎第八回全國害蟲驅除講習會員の五分間演說

左は昨七月十五日より同廿八日まで二週間、當昆蟲研究所に開催せる第八回全國害蟲驅除講習生の五分間演說の要旨なり、例に依り玆に其一部を收錄してそが紀念となす。

（一）臺灣の農業者は人糞を貴重視せず

神奈川縣（在臺灣） 內藤大助

私は多少臺灣には經驗ある者でありますが、同地の農家が人糞を貴重なる肥料と思はんと云ふ事を話しまして諸君の敎示を願ふ積りであります、嘗て私は土人ニ向つて內地では糞尿を肥料として貴ぶが、此地では如何であるかと尋ねました處が、土人の申すニは人尿は入用であるが人糞は不用であると答へましたから、其はまた何故であるかと重ねて尋ねますと、ラミーには熟したるものを用ゐるも、穀物に之を用ゐる日には却つて用ゐぬに勝る害があると言ひました、私は益々不審の念を起しまして何故に左樣かと問ふと、人糞を用ゐると大きい蟲が澤山飛んで來まして或ひは喰害し、或ひは床をくゞり步いて作物を枯らしてしまうからであると答へました、そこで私は其蟲は如何なる者であるかと思ひまして畑の一隅に在る肥溜の處に行て見ましたら、無數の蟲が群集して居ました、成程土人の申す如く實に無數の蟲が群集して居ました、そうしてその蟲は確かコガチの一種であると思ひます、此事に就き大阪の農學校を卒業して今臺灣で實業をやつて居る人ニ尋ねました處、此蟲ニはどうも困る、人糞を用ゐた日には必らず遣つて來て作物を害してし

まう、如何ゝもして來ない樣な方法を考へて居ると答へられました、右の次第で此蟲さへ來ん日ゝは臺灣中の增穫い非常なものであるゝ、殘念な事には內地と反對ゝ人糞を利用しやうとは思ひませぬ有樣です、私は補里社に居りますが歸りましたならば研究所は勿論御望みの方々ゝも送りますから研究をして願ひたい、若し研究の結果人糞を用ゐる事が出來るやうに成りますれば、獨り臺灣人の爲め計りではなく、畢竟國家を益するやうに成りますから、訥言を顧りみす玆ゝ陳述致した次第であります。

（二）應援驅除（全力攻擊）

和歌山縣　矢野柔一

私は害蟲驅除に就ては頗ぶる幼稚で又無經驗でありますから、和歌山縣の講習生を代表して談話する價値は無いが、唯々一の希望を述べて責を塞がんとするものである、今回開設せられました講習會の入會者は前數回に比ぶれば夥たゞしく增加したさうでありますが、是ろ各地に於て種々の害蟲が發生した爲めゝ、その驅防の術を講ずるは目下焦眉の急務と認められたるに外ならざる事と存ずる、私の縣に於ても昨年までは害蟲驅除と云ふ觀念は毫頭無かつた、其証據には假令縣令訓令を以て奬勵せらるゝも、農民は唯假裝的即はち一時の言譯までに除蟲網を振廻すに止まり決して自動的に眞個の驅除をなすものとてい一人もなかつたが、客年日高、西牟婁兩郡ゝ、三化螟蟲が發生し、其被害實に甚しく遂ゝ特別免租を仰ぐやうゝ立到りました爲め、爰に始めて年來の頑夢を覺まし、漸やく驅除法を喧しく言ふやうに成りました、そこで私も大いゝ感憤する所がありまして、應援驅除（全力攻擊）を行いんければ成らぬと思ひました、それには玆に强固なる一團体を組織して名和研究所長を元帥に賴み、諸士を各諸師團長と仰ぎ、各自率ゆる所の勇卒を誘掖指導し互ひに應援して決して敵を跋扈せしめぬやうに組織するのである例へば螟蟲の本場とも稱せらるゝ佐賀、熊本、高知、德島諸縣の如きはその驅除法ゝつき幾多の經驗を積み又實地に研究せられて居るから、若し此の恐るべき害蟲の新たに他に發生した時もあらば、此等四縣の援助を乞ふは勿論、この一團体の全力を擧げて其關門を防禦し、その驅除策を報道するに吝なる所なく、災を未發に防ぐことを切望するのである、諸君幸ひに此微意を了し御賛同を垂れられんことを。

（三）昆蟲學普及を要する新方面

埼玉縣 櫻井倚畔

私は未だ世人の唱ひざる警察官に昆蟲學の大要を研究して貰ひ、害蟲驅除の實効を速に奏するやう致したいと思ふ、此事は去る廿五六年の間に私の郡にて、郡訓令を以て螟蟲蛾の驅除を實行しました時から實際に當つての結果、考ひましたので尙は今回本會に參りまして諸君より各府縣の實況を拜承致して、一層その考が切になりました、滿場の諸君の中には定めて私と同感の方も多からうと思ひます、そこで此事は定めて私が先考だらうと思ふて居りましたが、一昨日受領の昆蟲世界第四十七號を見ますと、本研究所に於きましても、警察官と害蟲驅防の關係と題して雜報欄に於て、各府縣に於ては何故に警察官を害蟲驅除員の一に加へざるやを疑ふと云ふ記事が御座りましたのみならず、本號にはまた富山、鹿兒嶋、宮城諸縣に於て警察官を應用したことを記され、特に富山縣の害蟲驅除講習會員の寫眞が口繪にありまして、中には多數の警察官が加入して居りますやうである、旣に斯かる事實のあるを知らんのは全く私の管見の罪で、一面から見れば甚だ歡ばしい次第であります、併何故に斯くも警察官の昆蟲學研究を希望するかと云ふに、今日の農家は何れの地方にありても頑固の者のゝみ多く容易に之を說得するとが出來ませぬ、と云ふて、これに昆蟲學思想を注入して根本から驅防を完全に行ふ譯にも參らんから、斯る民度には案外警察官の効力の多いのを利用するのである、去りとて警察官にして斯學思想が無かつた日には却つて効力の無いと云ふことは實驗して居ります、本年四月十六日發行の報知及び次日の日出國新聞の記事、即ち昆蟲世界第四十五號に轉載された馬尾蜂の記事は如何でありますか、萬一斯かる事に警察官が不判明の解說を與へ頑迷者を說得することが不十分であつた日には益々迷想を固からしめて、將來の障害となります、そこで各府縣とも皆各村落には駐在所巡査が配置してあつて日夜其受持區內を巡邏致しまする故、この警察官にして常に農作に注意致しまする日には害蟲の發生を速に發見し、併て早く農民に警醒を加へ、其害毒を未だ甚はゞしからざるに驅防するの利益があらうと思ひます、けれども警察官にして昆蟲學趣味を持つて居らん場合には害蟲の種類、名稱、習性を知ることが出來ません

から隨て驅防方法を指示することが出來んで其時機を逸するの虞れがあります、尤とも驅防普及と云ふ事に就ては名和所長より縷々訓諭がありまして吾々は卒先働くべき任務がありますけれども、他に業務がある人もあり、其地位に依り實際の事情に許さんこともありますから餘程考へんければ成らぬと思ふ實は此等につき警察官の容喙を煩はしますのは寔に遺憾でありますけれども、一國一縣の經濟上至急を要し決して打捨置く事が出來ませぬから已むを得ず新方面の普及を求むる次第であります、吾が埼玉縣の如きは去る廿九年中に既に警察官と共議實行をせよとの内訓が害蟲驅除豫防施行規則と一處に發布せられてゐるのであるから、本會修業の後は此方面に向つて大いに實行の方法を講ずる積りであります、諸君も御歸國后は成るべく速かに此方面に御盡力を願ふやう、又特に名和先生にも今後の御奬勵を願ふやう致したく存じます。

(四)作物の不手入より害蟲蔓延す

京都府　佐古藤造

私は丹後由良川の沿岸に住む者であります、此由良川と申すは山城愛宕山に水源が始まり、丹波一國の水は概むね此川に集りて流れ注ぐのでありますが、流域は四五十里で水害のない年はありません、去る廿九年三十年の兩年は大洪水で水嵩は四十八尺にも達し人家五六軒づゝ町をなして流るゝと云ふ有樣で此洪水が平水に復しました頃は畑と田も泥土にて膝を埋むる程停滯致しまして、稻は肥料を施こさずも出來過ぎて困りますのと、水害の爲めに稻作の出來兼ねるとに依て概むね其河岸は立木造りの桑園ばかりであります、其桑樹に三十二年には一種の害蟲が發生しまして二番芽の時に少しも發芽しませんでした、其源因を種々穿鑿致しましても何んな害蟲やら一向解りません、作人に就て調べて見ますると夕方に川向ふの山から馬車でも通行するやうな音をさせて「コガ子」が來て、夜の明方には舊處に歸ると云ひますから、私は夕方から出掛て參りまして取調べましたけれども少しも見當りませんでした、それから種々取調べを致しまするど枝に粟粒の如き穴のあるのを見當りまして其穴を搜索しますと極めて小さき褐色の蟲を澤山に見出しましたが、何蟲たる事も解らんければ又如何にして驅除すると云ふ事も明瞭

致しませんであッた、其被害の有様は一小穴から蝕入して枝の肉皮を損なひ、芽の處はその周りを食ひかくして漸次梢にまて喰及ぼすと云ふ事だけを郡農會に報告しますと、態々技手が出張しましてカサハラハムシであると言はれ、其驅除法としては枯枝を悉く折取れとの事でありましたから、其後この方法を奬勵して居ります、然るに他府縣ょ置きましては斯かる害は無いとの事でありますが、然らば何故ょ私の地方に計りあるかと云ふと、前申した通り施肥せずして出來た桑ですから畢竟手入れが不行届である不行屆であるから此災害を被ふるものかと思ひます、是は唯り桑樹ばかりでは無く他の作物ょ置きましても同様であらうと考へます、御參考まてょ申述べます。（右述べ終て降壇するや、名和先生は被害の狀況より察すれば、必らずやヒメゾウムシならん、カサハラハムシとは曾て岐阜縣某地の笠原某の桑園ょ發生せしもの故、乃ち其名を把て命名せるものあるが今演説せる蟲種とは異なれりと注意せられぬ依て實物を送り先生の鑑査を仰ぐことゝなせり。）

（五）螟蟲の發生並に驅除の概要

佐賀縣　田崎竹一

吾が佐賀縣に於ける螟蟲の發生並に驅除豫防の狀況を申述べんょ、此害蟲は古くより發生したるもので明治十八九年頃に不完全ある誘蛾燈を用ゐたるは今なほ記臆する所である、其種類は二化生と三化生とで以前は平坦部ょ多く發生しましたが、逐年四方ょ蔓延致したので廿五六年頃ょあると漸やく各地有志の注意を惹起し、誘殺、採卵、眞枯取、白穗拔、株切等稍驅除に力を用ゐましたが、農家は表面申譯的ょ之を施行するに止まり、從つて年々一割乃至二割の損害は敢て珍しと致しません、爲めょ農家は自然の然らしむる所となし、全く放任看過の有様でありましたが明治三十二年及び三十三年の害は特に甚はだしく收穫皆無の塲處も數百町歩ょ上り、縣を通ふて約三割以上の被害に及びました、それが爲め各地に於て地主と小作者間に紛爭を起し遂ょ農業を捨て炭坑稼ぎ其他雜業ょ轉ふた者も多く、或る炭坑夫の如きは半ば農業者を以て充滿さるゝやうな風になり、其間の慘狀は言語の外ょ出でました、そこで當局者ょ於ても之を放任する事が出來ませんから、兎ょ角害蟲を殲滅せんければならぬと云ふて昨年秋に於

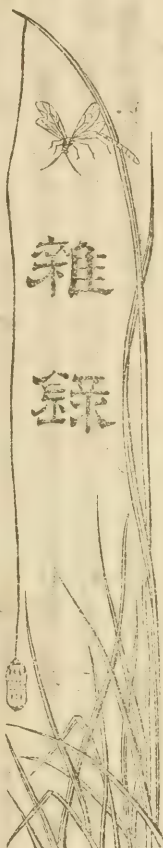
て株切法を實行せしめ、本年に入りて早々點火誘殺、採卵等非常の熱心を以て致されましたから、目下の有様で云へば其被害は少ないのである、吾が縣に於ける螟蟲の加害は此の如きに關はらず、一般農民が其發生、經過を知りません處から非常に心に介して居らん樣子である、これは浮塵子であれば現に其加害の狀況を目擊することが出來ますけれど、螟蟲は四期の變態をなし、殊に幼蟲時代は莖の中に居りますから之を判別することが出來ませんで、只時候に依りて發生するものと誤解するのであると考へます、偖本年に至りまして驅除上に一新機軸を出したのは警察官の督勵と採卵に餘程注意し來りたる事であッて、採卵に就ては昨年大發生をした佐賀郡西川〇村に於て非常に勵行の結果として、特に螟害に罹り易き彼の神力種すら被害少なく、調査の結果は他の町村に比し一反步三圓以上の增收を來したのであ る。尙は本年も學校敎員の監督の下に、生徒をして採卵せしめ、是亦意外の好果を收めました次第であります。

(六)三化生螟蟲驅除實驗談

德島縣　勝浦文太郎

德島縣は三化螟蟲の本場であるが、其初發は吾が海部郡川上村で、今より凡そ十七八年前のことなるも其三化生と確認したのは去る三十二年五月であります、尤とも該蟲に就ては既に委しく名和先生より敎示せられたるも、私は過去の事柄即ち實行の事實を申述べやうと思ふ、先づ苗代田に於て螟蟲の蛾を發見する時は一家族は銘々に捕蟲網を携帶し苗代田に出で蛾を捕獲して之を燒却す、此方法は成るべく朝早く實行するなり、左すれば朝露のため蛾は飛行自由ならざる爲め容易に捕獲せらるべし、夜は誘蛾燈を使用することとなるが此器械は使用の巧拙により効用に多少あれば周到の注意と嚴密の監督を要します次に採卵と幼蟲喰込の苗を拔取ることとなるが、是は短冊蒔の苗代田を片隅より順次に採卵し且つ幼蟲の宿れる苗を拔取るなり(葉の枯れたるものは必らず幼蟲伏在の徵候なり)、斯くて挿秧期に至れば苗取の婦女子は復た採卵と拔取をなし、家主の檢査を受くるに非らざれば採苗に着手せしめざる村落もあり、這は特に組合規約を設けたる結果とす、其後本田に於ても苗代田と同樣第二回第三回の發生時期の驅除

を行ふ、冬季に至れば收穫後の稻株を堀取ることあるが此法ニ二種あり、其の一は被害の最とも甚はだしかりし處ニ行ぶものにて稻刈の際豫じめ目標を立置き、特更にこれを高刈となし其高刈のものを堀起して燒捨つるのである、是は三化螟蟲の性質として必らず加害株根ニ蟄伏せるを以てゞある、又水田であッて株燒の出來ぬものをば小寒までニ株を堀起して凍殺せしむる仕組であるが、或る村落では連年の蟲害を恐れ一村擧つて早稻を早植せしに年々功を奏し目下害蟲は殆んど滅滅致したるも、その隣村では三十二年の大洪水のためニ昨三十三年は堤防の修補ニ忙はしく耕耘の好機を逸去せし結果として、稻株に蟄伏の螟蟲は一時に發生し意外の損害を來たしました、斯うして見ますると耕作時期の早晩によりて被害の度合にも多少のある事も明白ではあるが兎に角冬季の株堀が必要の一條件と云ふ事を認めました次第である。

朝蟬　なく蟬の聲もすゞしく聞ゆなり日はまたさゝぬ庭の梢に。（毛利元德）

昆蟲短報（其四）

第三回全國害蟲驅除講習會修業生　靜岡縣　神村直三郎

中遠蝶報の追加正誤　予やさきニ昆蟲世界第四十三號を以て、中遠の蝶類四十四種を紹介したるに其后本年上半期に至り尙、モンキアゲハ（鳳蝶科）ウラギンヘウモン（蛺蝶科）コツバメ（小灰蝶科）オホチヤマダラセヽリ（挵蝶科）の四種を發見せり、即ち都合四拾八種なり、又前の蝶報中ヤマキテフとあるはツマグロキテフの誤なれば謹で玆に正す。

キノカハテフ　予は毎年柿の木に於て、其葉の裏面に附着しある長一寸許なる繭にして一方に角様のものあるを採り、これを見るに己に羽化後のもぬけのみなれば、其度毎に落膽措かず、然るに本年は五月廿一日に此繭多數を發見したるに皆羽化前なりき、即ち喜びて硝子の大管中に飼育せしが、五月卅一日より六月四日までに數頭羽化せり、これを見るにキノカハテフなりし、其翅色灰色に黑を交へ柿の木の外皮其儘のものなりき、こゝに於て始めて多年の疑團を氷解せり。

キノカハテフノヤドリバチ　前項のキノカハテフは六月四日までに悉く羽化したるに拘はらず、六月十日に至るもたゞ一個羽化せざるものあり、故に怪しみながら捨置きたるに、同日夕刻に至り一の寄生蜂出たり、只一頭にして体長六分觸角五分比較的に大形なりし。

尾長蜂　五月廿七日杉林の中に採集を試む忽ち見る一の尾長蜂の去來常なきを、注視すればこれ杉の木の木蠹蟲の穴を尋ねて其中へ尾管を挿入し、又去て他に行き又斯くすること數十回、尚止めぞ、これ馬尾蜂科のものにて產卵所を求むるなるべし、これを捕獲して檢するに体長一寸尾管一寸五分、翅は飴色にして黑斑あることゝ馬尾蜂の如し。

巨大なる鳥蠋　七月四日天龍川東岸にて一の大芋蟲の死体を拾得す、蓋し水源の某地に產し、此頃の大風雨に漂流して遂に我手に歸せしものなるべし、其長さ五寸二分頭部比較的に小にして等脚三角形をなし、背面暗紫色を帶ぶ、中央六七節の處徑七分餘ありて未だ目にしたることなきの巨大鳥蠋なり、脚は普通にして八對を備へ第十一節に尾角あり、氣門上線の邊否寧ろ亞背線の邊より腹面一帶褐色なり、識者の鑑定を待つ。

一文字セヽリの寄生蟲　明治三十三年九月八日のことなりき、一文字セヽリの苞は破れて寄生蠅の蛹稻の葉上に露出せるもの五個を採り、九月十一日より同十六日までに其四個は羽化せり、只一個は何が故に出ざるにやと同月廿六日に至り破り見たるに、一の金綠色にして体長壹分貳厘程の蜂ありて飛出づ即ち第二の寄生蟲なり、蠅の幼蟲は其成長期の多分即ち長時間宿主の体内にありて露出せるは化蛹當時

短時間のみと考ふるに、去るにても其刹那の間に該第二の寄生蟲は產卵の擧ありしものか否や、記して江湖に問ふ。

ヒカゲテフ蛹　本年六月十日杉林の中を彷徨す、偶小笹の葉に下垂せる一の小蛹を發見せり、これを見るに長五分短大にして乳綠色なり、何の蛹なるを詳かにせず、因て養蟲箱內に貯へしに、同月十六日に至り全体黑色に變じ尾端透明となり、羽化間もなかるべしと思ふ中に一のヒカゲテフ現はれたり。カノコテフの幼蟲　五月中旬頃に至れば路傍堤上のギシギシ莖を抽んで花正に盛なり、其花美ならず又芳香をも放たず、因て誰しも注意するもの少なし、本年偶々此花に一の毛蟲の附着し居るを認めたり取りて見るに体長七分乃至一寸にして体色黑褐、剌毛は車輪狀に生ず、即ち多數を捕へて飼育を試みたるに五月下旬化蛹し六月上旬羽化せり、此頃カノコテフ至る所に翻飛す。

◎自然的害蟲驅除に就て（續）

在東京　林　壽祐

即ち前記の禽類は二千四百六十九億餘萬頭の昆蟲の食料に充つるだけの果穀草葉を生成せしめ、吾人に之が收益を與へたるといふを得べし、勿論此大數の中には隨分有益蟲も含有し、又禽類は期節により諸國に漂遊する者あるを以て、必ず一方里に五百羽千羽ありとするを得ざれども概數（今我邦の面積二万七千六十二方里となせども、山岳の凸隆頗る多きを以て、實際の面積は、猶やゝ廣かるべし）と見て大なる差違なかるべし、而して以上の事は唯鳴禽類に止まれども、春夏秋の候に至れば、蝕蟲兩棲多足等の諸類出で、眈々として昆蟲を索め、之を捕食する所果して鳴禽類に幾倍するか、今其統計を得るに苦めども蓋し其食量頗る莫大なるべし、噫それ一方に於ては昆蟲法外の增殖を逞ふし、地球上の植物を喰盡さんとすれば、一方に於ては日々之を啄食してまた減滅に歸せしめんとするものあり、甲增せば乙之を減ず、吾人は此權衡間にあつて、能く農業を務め園藝を樂み林業を營み、以て生業に安ずるを得るなり、若し一朝食蟲類滅失せんか、忽ち世運を擾亂せしむるや必せり、害蟲類の吾人に損失を蒙らしむる

ろれ此の如く、食蟲類の吾人に裨益を與ふることそれ此の如し、兩者相比考すれば吾人は害蟲驅除上、宜ししく食蟲類を愛賞保護し、之が繁殖を圖らざるべからず。

請ふ觀よ、我邦は浪濤高き太平洋中ょ凸出せる群島にして、峰嶺到る所ょ隆起すれども土地饒腴氣風順和なる故か、植物能く繁茂し園圃綠々、山岳鬱蓊、古來農林を以て國家の大本と爲し、學術的の施法なりし爲め夥しき功果を得ざるも、數千年間植物の培養には至つて忠實なりき、晩近に及んで學士及有志輩が頻りょ鼓舞奬勵せしかば、農事は日を追ふて發達せり、而して農事發達し美草佳穀豐穰なれば、害蟲の之に伴ふは事實ょ於て然らしむる所なり、近くは浮塵子、螟蟲等增殖し、大に農作物を慘害し悲況を我農界に現出せしめければ、世人は忽然として警醒せられ且つ明瞭なる其統計を見て始めて害蟲の恐るべきを悟り大に狼狽する所あり、學者は日夜之が研究に頭腦を苦め、構造習性害益等につき大に得る所あり、昆蟲學は僅か數年間に非常の速力を以て進步し、且つ博物思想に乏しき國民の注意を惹起し、昔は害蟲の發生するや、天災視して之を神佛に祈り其消滅を願ひたるも、今日は此の如く迷想を排斥し科學的に之が撲滅を圖るの觀念を抱かしむるに至れり、而して之が驅除の方法に至つては未だ完きを得されども、各府縣は年々害蟲驅除豫防費を豫算し或は害蟲驅除講習會を開き、一朝其發生を見んか忽ち捕蟲器、藥品、誘蛾燈を以てし、或は燒棄法を以てし、或は小學生徒を勸誘し隨時に之を捕獲せしめ、或は食肉性即ち有益蟲を利用して、害蟲を食除せしむる等、國民の夙夜これに孜々汲々たるは、國家の爲め慶祝の至りなり。

（未完）

◎和漢の學者と昆蟲　（其六）

古奥　青蓑白笠の人

○栽栗法　宮崎氏農業全書云、栗ょ大小あり丹波の大栗を勝れりとす（中畧）又丹波にても一さかりなりては木には蟲付て中を通し痛みて實らぬ物なり、十月に入りて草を以て幹を包み、下にも木の葉をかきあつめ火を付燒べし、蟲の穴にけぶり入、朽たる所ょ火入てこがれ、蟲も死し、其後木わかへてよくなる

物なり。（下畧）（右、建部清庵の民間備荒錄）

○蟲絲　圖書編に絲蟲（横楓始生、有食葉蟲似蠶、亦作絲、光明如琴絃、蚕八不作釣緡）とありて、蟲絲はでぐすの事なり。（右、青木昆陽の昆陽漫錄）

○かげろふに三つあり、野馬と、蜻蛉と、今一つは夕暮に命かけたるをごよめるやう蜉蝣にやと覺し、されどそれをば和名にも、ひをむしとのみ云へり、万葉にかげろふの夕とつゞけたるは、蜻蛉なるを、よくも見ずしてかげろふといふ名の、はかなく聞ゆれば、ひをむしの別名かなと思ひたがへて讀みなしけるにや。

眞淵云、かげろひは本はかげろひ火なり、古事記に、難波の宮に火つきたるを、かぎろひのもゆるいへむらとよませ給ひ、萬葉に、かげろひのたゞ一日のみ見し人とも、かげろひの岩がきふちともよめるも、はしり火石の火なり、また萬葉に東の野に、炎の立ちみえてとよめるは、明くる天の光なり、かげろひの夕さりくれは、かげろひの日もくれ行かばとよめるは夕日の光なり、かげろひのもゆる春とよめるは春の陽炎なり、俗にいとゆふと云ふ、又蜻蛉をもかげろひと云へば萬葉にかげろひてふ所にかりて書ける多し、然ればかく多きが中に、火と日と陽炎と蜻蛉と四つありと云ふべしや、蜉蝣をかげろふといへるは、いと誤なれば數には入れずて、誤のよしはいふべきなり、又古事記にかぎろひと云ひたれば、きとけとは通はしいふべけれご、下のひをふといふは宜しからず。
莊子逍遙遊云、野馬也、塵埃也、生物之以息相吹也。郭注云、野馬者、遊氣也。庶物異名疏云、野馬日光一曰遊絲水氣也。
爾雅云、蜉蝣渠略注云、以蛣蜣身狹而長有角黃黑色。叢生糞土中、朝生夕死、豬好啖之。

（右、契仲阿闍梨の圓珠菴雜記）

○澁海川さかべつたう　我國の俚言に蝶をべッタウといふ、澁海川のほとりにてはサカベッタウといふ、蝶は諸の蟲の羽化する所なり、大なるを蝶といひ小なるを蛾といふ本艸其種類はなはだ多し、草花も蝶に化する事本草にも見ゑたり、蝶の和訓をカハヒラコといふは新撰字鏡にも見えたれど、サカベッタウといふ名義は未考ず、さて前にいへる澁海川にて春の彼岸の頃、幾百万の白蝶、水面より二三尺をはなれて羽もすれあふばかり群たるが、高さ凡一丈あまり兩岸を限りとして川下より川上の方へ飛行、その形狀花のふゞきと見んはおろかなり、幾里ともなき流れに霞をひきたるがごとく、朝より夕べまで

悉く川上へつゞきたるが、その限りを知らず、川水も見えざるほどなり、さて日も暮なんとするにいたれば、みな水面におちいりて流れくだり、そのさま白布をながすがごとし、其蝶の形は燈蛾（ヒトリムシ）ほどにて白蝶なり、我國に大小の川々幾流もあるなかに此澁海川にのみかぎりて、毎年たがはず此事あるも奇とすべし、しかるに天明の洪水以來此事絕てなし。

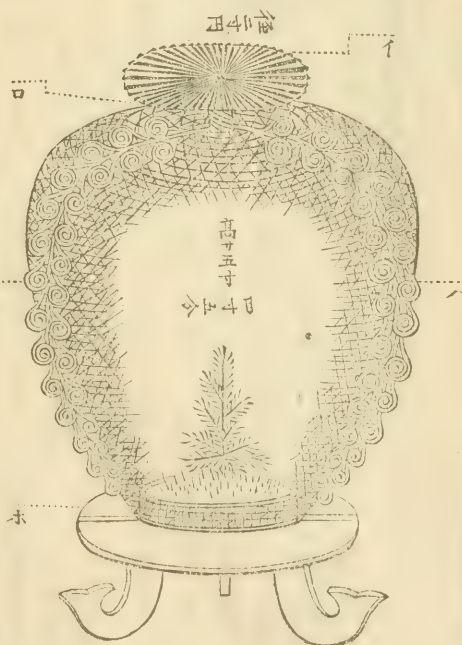
本草を按ずるに、石蠶一名を沙蝨といふもの山川の石上に附て繭をなし、春夏羽化して小蛾となり、水上に飛ぶといへり、件のサカベツタウは澁海川の石蠶なるべし、其種を洪水に流し盡したるゆゑ、たえたるなるべし、他國にも石蠶を生ずる川あらば此蝶あらんも知るべからず、余此蝶を見ざりしゆゑ、近隣の老婦若きころ澁海川の邊りより嫁せし人ありしゆゑ、尋ね問ひしに、その老婦の語りしまゝをこゝに記せり。

（右、鈴木牧之の北越雪譜）

○公事根源云、選蟲是はあながち式ある事にはあらず、殿上の逍遥とて殿上人ども遊びて嵯峨野などへむかひて蟲を籠にゑらび入て奉る、是は堀川院の御時より始、おほよそ松むし鈴むしなどは誰人も内裏に奉る、又賀茂の社司などに仰られてもめされけるとなむ云々、按ずるに、今俗例年賀茂の社家より八月朔日、内裏に蟲を献るは此舊例なるべし、其蟲籠といへるは下に圖するごとく、檜の臺の上に曲物を置、苔を盛、檜葉を立、これに蟲をやどらせ上より壺に似たる籠を覆ひたり。

（右、木村巽齋の蒹葭堂雜錄）

瓢蟲女史縮寫

○蚊厨書雁　蚊帳に雁金を染め、或は紙にて切りて付くる事、其由來を知る人無し、按に物理小

識「夏月線染蝙蝠血、横縫帳額蚊不入」と載せたるを見れば蝙蝠は蚊を喰ふ物故、厭勝に斯はするなるべし、恐らくは崎嶴に客寓の清人、夏の頃此意にて帳額へ蝙蝠の形を草書に書きて蚊を避くる呪とせし事など有りしを好事の人此邦の蚊帳へも書けるが、轉傳していつしか雁金とは成りけるにや、書箋などの泥書に蝙蝠を寫す意にて又如此書きたるもあればなり。（右、桂川瓊臣の桂林漫録）

○松蟲、鈴蟲、蛬　亡父成章云、松むし鈴むしは今の人は鈴蟲を松蟲といひ、まつ蟲を鈴むしといへりたゞ此頃、女わらはべなどのいひ違へたるにこそあるらめと思ふに、元和の比、三圃といふものゝ書きたるものに（雛屋玄圃とて俳諧に名ある人なり、手なども最とめでたかりしなり）松蟲鈴蟲は名をかへでとよしたるが、百番のうたひつくりたる比までは昔しのまゝにいひたるにや、たれまつむしのねはりん〳〵としてといへりと書きたり、これによりて見れば、斯くいひたがへたる事も年久しきことゝぞおぼゆる、猶りん〳〵となくは松蟲、ちり〳〵となくは鈴蟲とさだむべし、蛬は今のいとゞといふものなり、（御杖云、浪速人は、このいとゞをば、いとぢといふ、とのちに通へるなる可し）床に入り壁にのぼる、霜夜に聲よわるなどいとゞなる事疑なし、つゝりさせとなくを、いとゞにいひつけたるにて思ふべし。

滋野井殿御家藏の蟲卷の歌合の繪○（此下不明）

御杖因に云、和名抄に「兼名苑云、蟋蟀、悉率二音、一名蛬、和名木里木里須とあり、しかるに蔡邕が月令の章句に「蟋蟀虫名、俗謂之蜻蛚」とあれば蜻蛚蟋蟀は同物なるべし、和名抄に「文字集略云、蜻蛚、精蛚二音、和名古保呂木」とあるを後はたゞきり〳〵といふ名のみありて、こほろぎとは歌にもよまぬを、上世にはこほろぎといひしが、きり〳〵すとのみいふ事となりぬるにやと千蔭ぬしが万葉集略解卷十、詠蟋蟀といふ歌の下にくはしくいはれたり、これは春海ぬしが考とぞ、雜藝、宇波頁古支に（上略）以名古万呂波、拍子宇川、支利支利須波、鉦鼓宇川、とあるをみれば、この歌ははやこほろぎといふ名うせたる世によめるにや、又神樂歌に、蛬とかき、歌には蟋蟀とかけるは猶こほろぎとよむべくや。

（右、富士谷御杖の北邊隨筆）

蜩。　蚊遣たく賤がふせ屋の小竹垣に涼ずしく靡く日ぐらしのこゑ。　（佐々木弘綱）

◎昆蟲に關する葉書通信（拾四）

（六十六）七星瓢蟲の幼蟲の害（島根縣大原郡、爲石清市）　一日某氏を訪ひしに、某氏の言はるゝやう近頃此蟲の來りて大根の葉を食害す是れ何の蟲ぞやと、余之を見るに七星瓢蟲の幼蟲なりし故不審晴れざるも其畑に就きて實見せしに實に某氏の言の如くなりき、之を農夫に問へば多くは捿息せざるも大根の葉を喰害する事屢次なりと云へり、右實見の儘を報ず。（編者云ふ、こは恐らくは大根の蚜蟲を喰害せんとて瓢蟲の捿息せしを誤解せしものならん、斯かる有様にて益害蟲をすら顚倒する農家の多き間は到底眞正の害蟲驅除は行はれざるなり）

（六十七）有益蟲の保護（三重縣多氣郡、坂口幸之助）　本年四月以來、天候不順にて有益蟲たる羅翅類の蜻蜓の如きは、羽化の際多くは變死せり余有益蟲の減小を歎き乃はちその十數頭を捕へ試ろみに適度の温を與へしに、四翅の活動十分にして能くその憂ひを免かれたり、是れ斯學研究の結果にして、全たく貴所の賜ものと謂はざるを得ず、依てこゝに其始末を報告して聊さゝ教示の恩澤に酬ふ。

（六十八）螢取の俗謠（埼玉縣北葛飾郡、成川平太郎）　當地方にて螢狩をなす兒女は手に團扇を持ち左の俗謠を繰返し／＼謳ふなり、御參考までに。

　ほーたる來へ、山みて來へ、お尻の光を、ちやイと見て來へ。

（六十九）稻象蟲驅除法（伊豆國田方郡、石井氾平）　余が地方にては年來稻象蟲の爲めに困しめられ居るも簡易の驅除法なきに依り、本年の如きは五月下旬より六月にかけ苗代田等への發生甚だしきも其處分をなす者あらざりしが、余偶然種甘諸（不用に歸したる親諸）の小片を竹串に貫き、加害地處々に立置きしに、その甘味に誘はれてこれに群集せり、依て時々巡視丟捕器に投入せしに能くその効を收めたり稻象蟲に困難せらるゝ人は廢物の種諸を利用し此方法を試ろみられては如何。

（七十）害蟲驅除景況（新潟縣刈羽郡、櫻井熊治）　本年は螟蛾の發生甚はだ多く爲めに卵塊買收法を行ふも之を知れる農家少なきを以て、當局者の奬勵あるに拘はらず去一月以來各町村に就き親しく地主と相談の上之を實施することゝし、苗代田にありては壹塊一厘、挿秧後は五毛と豫定し、一村少なきも五十圓、多きは三百圓を置き凡そ五萬乃至三十萬塊つゝ採集したれども、本田移植當時採殘したるものは既に稻莖に蝕入せしに付目下刈株を施行中なり、其統計の如きは追て報道せん。

（七十一）六月中の發生害蟲（岐阜縣海津郡昆蟲研究會）　前月中本郡に於ける害蟲の景況を報道すれば稻の害蟲ツマグロヨコバイ、ズイムシ、アヲムシ、ハマクリムシ等何れも多少發生せしが、就中ハマクリムシは郡の西部及び北部に多く發生し、ツマグロヨコバイは南部に多く、他は大異なし、之を要するに概して昨年よりは發生多からざるが如し、次に畑作の害蟲ケラは黍、粟、大豆、綿等の稚芽を喰害しこれには困らし居れり、又アブラムシは前々月よりは減少したるが如きも蕃殖甚はだしく、コガネ、カミキリの類また加害を逞ふせり。（七月五日附）

（七十二）害蟲發生と驅除景況（鳥取縣八頭郡、蓮佛萬吉）　六月下旬より陽氣回復せしため浮塵子を始め稻象蟲、泥負蟲等最とも多く發生したり、郡農會事業とせる螟卵購入は六月二十日限り村農會事業に引續き尚は之を繼續せり、其効驗に至りては必らず顯著なるべきも農家は浮塵子を恐れ居れり、郡農會にて買收の卵塊は計六十六萬八千七百五十一塊にして村農會のものは未詳なり、郡農會より郡內の三農業補習學校及び六高等小學校に螟卵摘採を托し、管理郡長よりは學童の採集に係る料額は貯金せしむべき旨諭示せられたるに依り、總額の過半は生徒の得る所となり貯金法を實行せり。

（七十三）山梨縣の昆蟲方言（山梨縣北巨摩郡、溝口登）　當地方にてはマルバチをヘボ、ヤマバチをクマバチ、稍ゝの大なるものをクダバチ、足長蜂をアシツルシ又はヤロウバチ、地蜂をチスガリ、蜜蜂をワタリヘボ、トノサマバツタをハタオリ、カマキリをトウロウ又はカマイタチ、瓢蟲類をオカタムシ、ガメムシ類をヘコキムシト申居候。

遠村蚊遣（ゑんそんのかやり）　蚊（か）やり火（び）のけむり幽（かす）かになりにけり月（つき）になり行（ゆ）く山（やま）もとの里（さと）　（壬生基修）

雜報

●害蟲の大發生は正に今月にあり　農作害蟲の發生して非常の災害を與ふるは、固より何時と云ふ定めなければ、周歳これが注意を怠らぬやうすべきは勿論なるも、記錄の示す所ろに據れば今月を以て最上の期節となすが如し、蓋し春來ろの種屬の蕃殖に努めたる諸害蟲の此月に至りて一時に勢力を增すと、氣候蒸暑がちなるより發育また迅速なるの致す所ろとす、農家は昆蟲偶發の迷濛を破つて大いに驅除に盡す所ろなかる可からず。

●大まい壹圓の害蟲豫防費　海南の香川縣は農事に冷淡とも聞へざるに如何なる故にや、害蟲豫防費としては壹圓以上を置かざるの異例を作れり、前號本誌の雜報欄にも一圓と登載したれば或ひは誤植にもやと、昨年度の經費を調査すれば一圓は依然一圓なりき、偖この一圓の經費を以て香川縣一圓の害蟲豫防を行ふに十分なりやと云ふに、何人も一圓合點する者はなかる可きなり、去るにても大まい壹圓の豫防費とは餘り滑稽的の仕打ならずや。

●蟲騷ぎ一束　大阪には昨今よく發生の冬蟲夏草に驚ろきて、蟬身半は草に化せりと大に驚きて其奇を新聞社に吹聽せる者あり、東京の一貧窮院には好んで蟲類を嚥下する怪童あり、武州豐嶋郡王子の近傍には尺餘の蟻蛭を發見せりとて之を好餌に來客を引くしれ者あり、斯うなると人は蟲を利用するか、蟲が人を愚弄するか、一向譯の解らぬが方今昆蟲學界の並相場なるらめ。

●昆蟲標本陳列場の移轉　豫記の如く、當昆蟲研究所の昆蟲標本陳列場は去月末より移轉に着手し、來る十五日を以て開館式を擧ぐる都合なるが、同場は間口五間、奥行十六間の大建物なれば十分陳列の餘地を有するを以て函別の上、之を分類し觀覽、研究兩つながら利便なるやう設計を立てたり、何れ追て圖解的に報道することあらん。

●第九回全國害蟲驅除講習會　本月十五日より開講の豫定なるが、何分暑熱甚はだしき折柄なれば万一を慮はかりて前回の如く多數の入會を許諾せざる事となせり、委しくは次號にものすべし。

◉新潟縣刈羽郡片信　新潟縣刈羽郡櫻井熊治氏よりの報道に依れば、同縣にては昨年の螟害に懲り今春苗代田の時より採卵法を奬勵し各郡とも實行はしたるも、特に刈羽郡の成蹟佳良なりとの評を受け果して効驗顯著なりせば明年は縣下一般の地主を勸誘して厲行せしめんとするの摸樣ありと、誠とに祝すべき前兆と謂ふべし、又同郡に於て挿秧後七月二日までに捕獲の上届出たる卵蛾數は螟蛾十九万六千九百十一、同卵塊九十五万七千九十四なりしと。

◉蠶蛆の買上　鳥取縣因幡蠶絲同業組合長山内虎藏氏は先ごろ組合員に諭達して蠶蛆の性質及びその驅除の必要を知らしめたるが、同組合の事業として之を買入るゝの議を決し、遂に六月十五日より蛆蛹一合を拾錢づゝにて買收せりと、同地の蓮佛万吉氏よりの書信に見えたり。

◉前號の口繪　本誌第四十七號卷首に掲げたる口繪の中、上段なるは在米國理學博士河内忠次郎氏より寄贈せられたる米國新約克州コーネル大學の夏期婦人昆蟲講習會員の照相にて、其中央に泰然と座を占むる老偉人は世界有數の昆蟲學者として其名聲を轟かしたる講師カムストック教授なり、又其の右なるは斯翁の令閨にて昆蟲の寫生には尤とも堪能にして且つ內助の功ある老婦人とす、更に其の右なるは河内氏にて其他は助講及び講習會員たり。（右は一昨年の撮影に係るもの）又下段なるは富山縣昆蟲講習會員百餘名の寫眞にて中央なるは當研究所長名和講師、其の左右は同縣警部長及び縣官にして白色の服裝をなしたるは警察部員となす、又講師等の背後なるは同縣の選擇生にして普通會員の全躰たり、同縣に於て今年より害蟲驅除の事を巡查教習所の科程に上したるも蓋し此に因づけりと云ふ。（右は一昨三十二年の撮影に係るもの）

◉貝殼蟲圖說ご批評　先頃當昆蟲研究所に於て發行せる『貝殼蟲圖說』に就ては、已に有力なる大阪每日新聞を始め、中央新聞に將た岩手日報に續々批評せられたるも、是は近々再版の節、附錄として讀者の判斷を乞の見込なれば本誌上には之を掲げざる可し、併し本邦に於て始て貝殼蟲の記事を公けにしたることとて發行日淺きに關はらず、愛讀者を四方に求め得たるは聊か當所の面目とするに足れり。

◉昆蟲學研究者に告ぐ　我國に於て是まで開きたる內國勸業博覽會に昆蟲標本を出品せんとするには其手續やゝ煩雜にして、而かもその出品區域は教育の一部に限られ居りしを以て容易に出陳の運びに到らざりしも、明後年大阪市に開く第五回の大博覽會はその規摸を擴張せると共に出品範圍をも推擴め、昆蟲にありては農業、山林、教育の各方面に隨意出品し得ることゝなりたれば斯學者はこの目的に副ふの胸算を以て今より準備せらるゝこそ宜けれ、特に學術上より分類標本を出品するも固より善なれど、勸業博覽會てふ名稱の下に開設せらるゝものなれば、其邊にも注意を加へざれば異日落膽の事なしとも限られざ、兎に角に全國昆蟲展覽會に經驗を積みし斯學者は奮つて應分の出品ありたく思はる。

◉第八回全國害蟲驅除講習會　同會は去七月十五日午前九時半を以て當昆蟲研究所內に開講式を擧げしに、例に依り名和當研究所長の開會の辭、川路岐阜縣知事の祝辭に代ふる訓諭演說、仙石岐阜日日新聞社員の演說、田中芳男翁より寄せられし祝詞代讀、講習生總代貴志豊穰氏の荅辭等ありて畢會し午後は西都賀佐町縣會舊議事堂の教場に於て授業を開始し、それより引續き炎暑の際日々七時間乃至九時間の授業をなし、豫定の如く廿八日を以て終了せしに依り、翌廿九日午前九時より同處に於て修業証書授與式を施行したるに、來賓は川路縣知事、堀口岐阜市長を始め內務部第四課員等にて、式の如く証書の授與、名和所長の告辭、來賓川路知事の祝詞、講習生總代勝浦文太郎氏の答辭あり終つて茶菓の饗應にて散會せり、すなはち當日證書を授與せられしは左の九十二名なりき。

因みに云ふ、今回は入會者意外に多かりしより、教室としては縣會假議事堂を借用し、寄宿舍また分室を設くるに至りしは前號所報の如し、然るに酷熱中の授業及び養老山への旅行採集等をなしたるに關はらず、學期間に罹病者最とも少なかりしは幸ひなりき、又本會は從來の各會に比し特に盛會なりしを以て研究所よりは金華山燒紀念杯に蟲摸樣の乾菓子一折づゝを分配せり。

組別	府縣別	郡市名	族籍	役名	姓名	生年月	履歴摘要
第壹組	長崎縣	下縣郡	士族		△酒井勉	明治九年八月	高等小學校卒業農事講習修業
	愛知縣	寶飯郡	平民		○前田悅作	元治元年七月	小學校本科正教員
	愛知縣	中島郡	平民		森壽三郎	慶應元年十月	縣農事講習科修業
	三重縣	河藝郡	平民	組長	薗井實	明治十二年四月	郡役所雇在職中
第貳組	愛知縣	寶飯郡	平民	組長	辻松藏	明治二年五月	師範學校卒業、訓導兼校長
	愛知縣	東春日井郡	平民		林重準	明治十四年五月	高等小學校卒業、私立武揚學校二年級修業、農事講習會卒業
	千葉縣	東葛飾郡	平民		岩本兵馬	明治十五年一月	東京開成中學校二年級、村役場傭書記
	廣島縣	雙三郡	平民		中本又市	明治八年八月	高等小學校卒業、郡書記拜命
第三組	愛知縣	寶飯郡	平民	組長	稻石愛之亟	明治十年一月	師範學校卒業、小學校本科正敎員奉職
	三重縣	河藝郡	平民		○古市仁市	明治九年一月	河藝郡實業農會評議員、農學講習會卒業
	兵庫縣	武庫郡	平民		金澤政吉	明治四年五月	小學校全科卒業、農業ニ從事
	高知縣	長岡郡	士族		長種男	明治十四年十二月	農學校中途退學、苗代田害蟲驅除委員
第四組	愛知縣	寶飯郡	平民		渡邊賢二	明治八年十月	師範學校卒業、小學校訓導奉職
	三重縣	河藝郡	平民		小林甚四郎	明治十四年一月	高等小學校卒業、農業ニ從事
	高知縣	吾川郡	士族		岡林清基	慶應元年二月	小學校本科正敎員、高等小學校訓導兼校長勤務
	兵庫縣	神崎郡	平民	組長	東鄕隆次	明治十一年七月	高等小學校卒業、農事講習修業

組	府縣	郡	族籍	役	氏名	生年月	經歷
第五組	愛知縣	渥美郡	平民		小林至幸	明治十四年六月	高等小學校卒業、小學校准教員
	三重縣	河藝郡	平民		樋口明治郎	明治十四年四月	小學校補習科二年補習、郡農事講習修得
	高知縣	長岡郡	平民	組長	山本楠馬	明治二年十一月	小學校卒業、看守奉職、村農會議員
	靜岡縣	榛原郡	平民		鈴木信郎	明治十三年九月	高等小學校卒業、青年會幹事、農業ニ從事
第六組	愛知縣	中島郡	平民	組長	近藤馬太郎	明治元年六月	小學校中等科修業、農事講習會修了
	三重縣	度會郡	平民		奥村市三郎	明治九年九月	高等小學第三學年修業、中學會第三年修學、農事講習會修得
	福井縣	遠敷郡	平民		吉井涓一	明治八年十一月	高等小學卒業、昆蟲講習修業、農事ニ從事
	愛知縣	八名郡	平民		山口喜太郎	明治七年九月	小學全科卒業、養蠶講習會修得、農事ニ從事
第七組	愛知縣	中島郡	平民		大崎藤一郎	明治十四年九月	農事講習會修業
	高知縣	安藝郡	士族	組長	安岡十四郎	明治九年二月	高等小學校卒業、京都府城丹蠶業講習所卒業、養蠶教師トシテ實業補習學校勤務
	三重縣	度會郡	平民		小切間重三郎	明治十二年八月	高等養蠶傳習所卒業、三重縣蠶種撿查員奉職、農事講習修得
	靜岡縣	周智郡	平民		內藤實	明治十五年一月	高等小學校卒業、中遠農學校卒業
第八組	愛知縣	中島郡	平民	組長	鈴木仁十郎	明治八年十月	高等小學校修業
	岡山縣	邑久郡	平民		正富彌藏	明治二年十月	師範學校卒業、水產科教員養成所卒業、高等女學校助教諭
	三重縣	四日市	平民		杉村卯敬	慶應三年二月	小學教員タル資格ヲ受ク、紡績會社勤務、農事ニ從事
	鳥取縣	八頭郡	平民		隱岐軍藏	明治十四年十二月	簡易農學校乙科卒業
第九組	愛知縣	中島郡	平民		△加藤仲三郎	明治三年十一月	小學校中等科修業
	三重縣	阿山郡	平民		西岡嘉十郎	明治十三年二月	郡農事講習會修業
	鳥取縣	八頭郡	平民		猪口兼治	明治十二年十二月	村役場書記
	愛知縣	八名郡	平民	組長	大塚治市	明治十一年二月	高等小學校卒業、農事講習修業
第拾組	愛知縣	中島郡	平民		平林隆治	明治十三年十一月	高等小學校卒業
	島根縣	大原郡	平民	組長	梅啓之助	明治六年三月	郡農會書記
	兵庫縣	出石郡	平民		關太平	明治六年十月	小學校中等科二級修業
	岡山縣	都窪郡	士族		藤田政勝	明治十年六月	中學四年級修業、東京水產講習所卒業
第拾壹組	愛知縣	八名郡	平民		內藤佐平	明治九年四月	縣農事講習會修得
	大分縣	日田郡	平民		穴井安次	明治十三年四月	高等小學校卒業、郡立蠶業傳習所卒業
	大分縣	直入郡	士族	組長	加藤大三郎	慶應三年四月	大分縣第四課勤務
	和歌山縣	海草郡	平民	級長	貴志豐穰	安政二年一月	師範學校卒業、郡書記勤務

組	府縣	郡	族籍	役	氏名	生年月	經歷
第拾貳組	愛知縣	八名郡	平民		小久保壽三郎	明治十三年九月	村役場書記
	臺中縣	埔里社	平民		內藤大助	慶應三年六月	埔里社公學校教諭
	三重縣	北牟婁郡	平民		橋倉喜三郎	明治二年七月	農事改良委員、村會議員、農業ニ從事
	和歌山縣	西牟婁郡	士族	組長	大淵卯之助	明治元年十月	郡書記
第拾三組	和歌山縣	有田郡	平民	組長	川口爲吉	慶應元年四月	養蠶傳習所修業、村役場書記
	德島縣	名東郡	平民		堀龍資	明治元年十一月	郡書記
	鳥取縣	西伯郡	平民		林原政吉	明治十一年一月	簡易農學校卒業
	和歌山縣	日高郡	平民		大野宗一	明治十二年一月	高等小學校卒業、村役場書記
第拾四組	德島縣	海部郡	士族	副級長	勝浦文太郎	安政三年六月	郡書記
	鳥取縣	西伯郡	平民		遠藤善太郎	明治九年七月	高等小學校卒業、役場書記
	和歌山縣	日高郡			○牧野萬之助	明治九年六月	高等小學校卒業、郡農會議員
	宮城縣	志田郡	平民	組長	飯田正八	明治三年二月	尋常高等小學校卒業
第拾五組	德島縣	那賀郡	平民	組長	富本次郎	元治元年四月	郡書記
	島根縣	大原郡	平民		高木久太郎	明治八年七月	産牛馬組合書記
	鳥取縣	西伯郡	平民		矢倉延壽	明治十三年十二月	簡易農學校卒業
	德島縣	勝浦郡	士族		本田清	明治十二年十二月	高等小學校卒業
第拾六組	德島縣	麻植郡	士族	組長	阿部萬三郎	明治二年十一月	郡書記
	埼玉縣	北埼玉郡	平民		櫻井倚畊	慶應元年五月	高等小學校卒業、役場書記
	鳥取縣	西伯郡	平民		松井重雄	明治十四年二月	簡易農學校卒業
	德島縣	勝浦郡	士族		○高田辨之助	明治十四年二月	高等小學校卒業
第拾七組	德島縣	阿波郡	平民		藤江龜七	明治八年六月	尋常中學二年級修業、郡書記
	佐賀縣	杵島郡	平民		田崎竹一	明治十二年十一月	縣農學校卒業
	高知縣	吾川郡	平民	組長	小田玉城	明治二年一月	村長、郡農會副會長
	岐阜縣	郡上郡	士族		松山亮藏	明治十二年二月	師範學校卒業
第拾八組	德島縣	名西郡	平民		井上弘太郎	慶應二年九月	郡書記
	福島縣	東白川郡	平民		鈴木耕民	明治五年二月	縣立農學校卒業
	和歌山縣	那賀郡	平民		矢野柔一	明治四年六月	中學二年級修業、村長
	大阪府	北河內郡	平民	組長	大西香	明治二年一月	村農會長、村長

組	府縣	郡	族籍	組長	氏名	生年月	經歷
第拾九組	德島縣	阿波郡	平民	組長	笠井益郎	慶應三年七月	郡書記
	和歌山縣	海草郡	平民		松村象治	明治九年四月	蠶業講習會修業
	高知縣	土佐郡	平民		田內榮衛	明治十三年十一月	尋常中學一年級修業
	愛知縣	八名郡	平民		高木初衛	明治十二年三月	小學校代用教員
第貳拾組	德島縣	三好郡	平民	組長	守島武夫	安政三年八月	郡書記
	和歌山縣	有田郡	平民		桂　楠壽	慶應二年十一月	蠶業傳習所助手
	岡山縣	邑久郡	平民		根木東枝	明治十四年一月	縣立農學校二年級修業
	德島縣	勝浦郡	平民		藤本幸平	明治十四年一月	高等小學校卒業
第廿壹組	德島縣	板野郡	平民	組長	播摩善次郎	明治三年八月	郡書記
	和歌山縣	東牟婁郡	平民		中村公平	明治七年五月	小學中等科修業、村役場書記
	高知縣	香美郡	士族		村上正豐	明治十一年五月	農學校卒業、農事試驗場長兼技手
	和歌山縣	西牟婁郡	平民		△山本　幹	明治七年十月	村助役
第廿貳組	德島縣	勝浦郡	平民	組長	△尾崎金次郎	明治九年二月	高等小學校卒業
	和歌山縣	伊都郡	平民		木澤秀治郎	元治元年三月	郡書記
	三重縣	名賀郡	平民		川涙艮三	明治十五年一月	郡農事試驗場助手
	京都府	竹野郡	平民		行待活路	明治八年十月	農事講習所修得
第廿三組	岐阜縣	加茂郡	平民	組長	小原鶴次郎	明治五年五月	郡書記
	靜岡縣	引佐郡	平民		中村直三郎	明治十二年十一月	尋常高等小學校訓導
	三重縣	三重郡	平民		稻垣民次郎	明治五年六月	村役場書記
	大阪府	南河內郡	平民		松尾周太郎	明治十一年一月	高等小學校卒業
第廿四組	三重縣	度會郡	平民	組長	水谷源治郎	慶應元年五月	郡書記
	靜岡縣	志太郡	平民		楠　藤吉	明治十四年十二月	小學校代用教員
	京都府	賀佐郡	平民		佐古藤造	慶應二年九月	町農會副會長
	愛媛縣	越智郡	平民		河野通敬	慶應元年六月	尋常小學校訓導兼校長
第廿五組	鳥取縣	日野郡	平民	組長	芦立竹雄	明治十二年二月	
	靜岡縣	周智郡	平民		長沼兼作	明治十年五月	高等小學校卒業、養蠶學校卒業
	岡山縣	勝田郡	平民		竹內睦男	明治十五年五月	中學校二年級修業、農事講習會修業
	鳥取縣	日野郡	平民		三上民治	明治十七年八月	

◉三河の婦人昆蟲講話會　愛知縣渥美郡野田村に於ては、去る六月二十九日を以て臨時ょ第三回婦人昆蟲講話會を開きたるに、出席者三百餘名ょ上り頗ぶる盛況を呈し、將來害蟲驅除上、最とも有望の兆を現わしたるが、右に付村長林又助、舊村長河合爲治郎兩氏の談話ょ依れば、第一回同會には五百餘名の傍聽者を算し、第二回には四百餘名に及びたるに今回斯く少なきは漸次衰微ょ趣むきたるが如きも決して然るにあらぞ、全く咄嗟の間に開催せしに依る、若し二日以上の設備日子あらば何時にても七百名以上ょ達し得べしと、以て同地が如何に斯學に熱中し居るやを伺ひ知るべきなり、因みに云ふ第三回同會は午前十時を以て開會し、名和當研究所長の講話ありて午後一時退散せしが、其講話の要領は「我國の螟蟲卵摘採法はこの野田村を以て摸範とし之を世間ょ傳へたり、然らば則はち此重任を負へる本村の盡すべき責務は決して輕少にあらざるのみか、婦人講話會また世人の注目する所ろなれば、益々實績を擧げ以て摸範地たるの面目を全ふせざる可からぞ」云々と云ふにありきと。

◉周智郡に於ける昆蟲學　前號ょ略報せる如く靜岡縣周智郡に於ては、名和當研究所長を講師として短期講習會を開きたるが、七十餘名の會員をばろの道程の遠近を問はず盡ごとく寄宿舍ょ入らしめ、郡長、郡視學、郡吏員等皆協力して各々その任に當りしかば地方稀有の講習會を見るに至りたるのみか、併せて昆蟲研究會をも起したり、但講習中霖雨降續きしかば一回の野外實習をなし得ざりしは如何にも殘念なりしと、其景況の一斑は修業證書授與式當日に朗續せられたる左の式辭等にて知ふるれば茲ょ揭げて、他の記事を省く。

式辭

昆蟲學の邃を以て一世に名あるもの古來其れ幾人ある予の寡聞なる未だ曾て之を聞かざるなり、其智識の博を以て一世に名あるもの世間其れ幾人ある予の管見なる亦未だ曾て之を見ざるなり、獨り岐阜の偉人名和靖先生夙に稽考する所あり大に斯學を攻め斯道を究め害蟲益蟲の區分を定め害を去り益を殖するの法を明にし、乃ち名和昆蟲研究所を設け以て大に生徒に教授し册子に印行して世に播き以て前古未曾有の學說を稱道し世間未發の新法を明にす、先生の學の邃、識の博にして殊に說の斬新なる世益の偉大なる、世間靡然さして門下に集り翕然さして教を受くるの士幾千人、又先生の門下を聰して其教を聽くもの蓋し幾萬人、吾郡農産物年々蟲害を被り秋收の減するあるを憂へ、先生の教を行はんさする久し、之を先生に乞ふ、今や先生吾郡を捐てず親しく蒞臨して有志者七十餘名に指授する連日、本日を以て修了証書授與式を擧ぐ、先生の說く所懇到周密にして大に其蒙を啓き其授くる所時弊を矯め時災を救ふの要訣ならざるはなし、乃ち予の感謝措く能はざる所なり、希くは講習員諸子能く先生の教を服膺し其要訣を究明し、一面以て大に郡民を利せんこさを、是れ即ち諸子の本郡に對する義務にして亦以て先生の恩に報ずる所以ならん、諸子其旃を勉めよ。

明治卅四年七月五日

周智郡農會長從七位勳七等　後藤　隆

答　詞

周智郡農會の開設に係る昆蟲學講習會終了を告げ茲に修業證書授與の式典を擧行せらる、生等講習生の光榮何物か之に如かん、抑も農は本邦の國本にして國運の隆否は斯業の盛衰と終初し、斯業の發達進歩は實に家國の繁榮富强を致す所以なり、されバ歷代之を奬め下民之を勵み、嘉穀豐に登り家々足り人々給す、吁、古來瑞穗の國稱ある亦宜なる哉、然りと雖ども時に萬民鼓腹泰平を謳歌するの豊歳あれば時に兄弟妻子離散し餓孚道に横はるの凶年ありて終始一貫坦々たる途に就くが如くなる能はざるは、恰も之れ暗膽たる浮雲、月の玲瓏を蔽ふが如く一陣の腥風花の艷麗を傷ふが如きものか、蓋し斯の如きは天災地變として自然の成行に一任し徒らに神佛に依賴し天地に號呼するの時にあらざるなり、須らく其起因を探て豫防救濟の策を講せざるべからず、改良進歩の道を開かざるべからず今や翻て之を農業界に徵するに現今農作物の勁敵として農家の憂をなすものは害蟲を最とす而してその災害の如何に廣大なるかは人能く之を知ると雖ども害蟲其物の性質如何を顧みざるもの比々其然りその弊や流れてかの豫防法にまれ、かの驅除法にまれ、未だ圓滿に行はれざるも理なる哉、本郡農會は見る所ありて茲にこの講習會を開き、廣く昆蟲思想を郡民の間に養成せんとす、本郡民として爲ぞ感謝せざらんや、殊に講師名和先生は昆蟲學の大家にして豐富なる學識と確實なる經驗とを兼れ、滿腔の熱誠以て親切丁寧に講說せらる恰も慈母が愛子に於るが如し、是を以て生等講習生の幼稚なるも亂絲の緒を得たるが如く、暗夜に明を得たるが如く釋然として解け翻然として悟り、漸く昆蟲學の初階に攀ぢ害蟲に對抗する發程に上り斯學研究の基礎を作るを得たり、乃はち爾後益研究の功を積み愈昆蟲思想を一村一鄉の間に普及し害蟲の豫防驅除を根本的に施し、永遠に農業上月に村雲花に風の憾みなからしめ、人々足り家々給し共に泰平を謳歌するの幸福を得んとす、之れ本會に對する生等の責任にして生等が先生の鴻恩に報するの道なりと信ず今又別に臨んで懇々教訓を忝ふし感喜に堪へず謹で旨を奉じ献身事に從はんとす、敢て言ひ敢て誓ひ以て答ふ。

明治三十四年七月五日　　　靜岡縣周智郡々農會昆蟲學講習會講習生總代　鈴　木　武　平

◉岡山縣の螟卵摘採數

岡山縣にては各郡の害蟲驅除豫防を厲行せんとて、一昨年來多額の獎勵費を支出し、摘採の螟卵を買收せしが、今年も去七月末日までに各郡衙より夫々縣廳に報告の筈なるに、卵塊の皆無なりし爲めか將た懈怠せしものか、本月七日までに報告を了へたるは左の一市二郡のみなりしと、同縣の藤田政勝氏よりの書信に見ゆ。

○岡山市壹萬九千五百三十四塊　○邑久郡六拾九萬六千四十四塊　○苫田郡五萬九千四百五塊　計七十七萬四千九百八十三塊

◉海津郡の害蟲

岐阜縣海津郡に於ける害蟲の景況は本號通信欄内にある如くなるが、更に七月中の摸樣を報ずれば、稻ズイムシの加害は北部に甚はだしくして南部に痕跡なく、イナゴは郡內一圓に發生せるも特に西南部に多く、畑作物及び一般作物は被害甚はだしからず、且アブラムシの害も大に減退せりと。（八月四日附、海津郡昆蟲研究會報）

◉長野縣の蟲報

長野縣長野市なる柿崎鉛太郎氏よりの近信に依れば、今年同地方に發生の害蟲は先づ褄黑横這、苞蟲（一文字セヽリ）泥負蟲等にて其他も多く蕃殖の摸樣あり、又有効蟲たる柞蠶、天蠶とも本年は食葉に困うじ、本塲の名ある南安曇郡地方の飼育主も餘程心痛したりきと。

◉岡田虎二郎氏の米國着　去六月中横濱埠頭を解纜せる三河田原の岡田虎二郎氏は去月九日を以て無事米國に着せる旨、當所まで報道ありき。

◉本號の口繪に就て　本號の口繪に就ては之を說明すべき餘白なきを以て、次號講話欄に詳解を加ふることゝなせり、又後號には美麗なる寫眞版銅のものを挿入すべし。

◉岐阜縣土岐郡昆蟲學會　本月二日同郡役所樓上に於て同會總會を開きしに、會員として昆蟲學、農事各講習會修業生及び町村長等七拾餘名出席せり、午前九時に開會し正午休憩中食を爲し午后は二時再たび着席同五時半閉會したり、此日當昆蟲研究所よりは助手名和梅吉氏の臨席ありて稻の螟蟲の發生經過、豫防驅除談及び三十六年開設の第五回內國勸業博覽會へ出品すべき昆蟲標本に關する講話ありき、又同會は今回新任郡長柿元一兵氏を同會長に仰ぎて討議の結果、明年一月土岐郡昆蟲展覽會を開かんとの希望もありしが展覽會の名稱は少しく穩當ならざるを以て寧ろ昆蟲持寄會の名稱を以て各支會に於て多くの種類を採集し、之を郡役所に聚收し名和昆蟲研究所員の出張を請ひ分類法に依りて之に名稱を附し、一應研究調査の後農産物品評會へ出陳して一般の縱覽に供することに決したり、次に小學校兒童をして螟蟲驅除の實驗をなさしむる方法としての議案は結局、該蟲の習性驅除豫防の方法を知得せしむることとし、支會振興策の件は、未だ支會の設けあらざる場所に發會式を擧しめ何れも支會を各小學校內に置き通俗益蟲集覽昆蟲分科表を備へ付け斯學研究の侶伴たらしむることとなし、其他一二會則を修正せり、次に第五回全國害蟲驅除講習會修業生にして農業敎員養成所へ入所中なる山內德松氏は從來一般小學敎育に實業專門科の必要なしとせしも其非なる所以を論述せられきと。

◉八頭郡昆蟲研究會　鳥取縣にては今年農作害蟲の發生に伴なひ、一般に昆蟲思想の發達を來たしたるやの好況を呈したれば、全國害蟲驅除講習會修業生蓮佛、田村、萩原氏等發企となり此頃八頭郡昆蟲研究會を起し左の會則を議定せしが尙は更に進んで一縣下の研究會をも設立の見込なりと。

第一條　本會ハ害蟲驅除豫防ノ目的ヲ以テ農作物害益蟲蒐集シ簡易ナル方法ヨリ昆蟲ニ關スル諸般ノ事項ヲ研究ス
第二條　本會々員ハ昆蟲學修業生害蟲驅除講習修業生害蟲驅除豫防委員篤志者トス
第三條　本會ニ名譽會長ヲ置キ郡農會長ヲ推薦ス
第四條　本會ハ每年春秋二回總集會ヲ開設ス
第五條　本會事務所ハ八頭郡賀茂村大字郡家村ニ置ク
第六條　本會事務ハ一切農會書記ニ依囑ス
第七條　本會ノ費用ハ會員ノ負擔トス

◉第二十二回岐阜昆蟲學會

同會第卅二回月次會は八月三日午后二時名和昆蟲研究所に於て開會せり、會する者二十餘名、連日の炎天よて恰も釜中に坐するが如くなりしかば、座談を開くことゝなし、先づ最初よ名和當所長は開會の挨拶として斯會の特色を述べ、參會者に向つて漸次談話あらんことを勸めらる、次に第三回全國害蟲驅除講習會修業生富山縣坂井憲三氏は過る七月下旬に一週間同縣下五ヶ山昆蟲採集旅行の摸樣幷に得たる蟲類名を擧げて同地の景況を談ぜられ、續て岐阜縣の害蟲驅除修業生土屋哲、小竹浩氏の害蟲談、其他小學校教員郡書記等數氏の昆蟲雜談あり、終りに名和昆蟲研究所長は來る三十六年大坂よ開く第五回內國勸業博覽會に出品すべき昆蟲標本に關し調查研究の方法を平易懇切に談ぜられ有志の贊成を博せらる、時よ午后六時半、夕陽西山に舂づけとも炎威未だ消散せざりき。

◉第二回懸賞繪畫披露

かねて當研究所にて募集せる實物寫生懸賞繪畫は審查の末、左の如く判定せり、尙は第四回も引續き募集す、委しくは卷首の廣告にあり。

◉壹等賞　（きあげは水彩畫）東京農學校三年級吉野毅一　◉貳等賞　（あげはのてふ水彩畫）岐阜中學校一年級中野隆一　（たはあなてふ着色毛筆畫）岐阜高等女學校本科第三年木村愛子　（つまきてふ着色毛筆畫）大垣興文高等小學校第四學年近藤清記　（くろあげは着色毛筆畫）本巢郡船木尋常高等小學校高等科第四學年棚橋哲也　◉參等賞　（あをすじあげは着色毛筆畫）岐阜高等女學校本科第三學年中田久子　（くろあげは着色毛筆畫）本巢郡船木尋常高等小學校高等科第四學年若原種治郎　（くろあげは着色毛筆畫）岐阜市高等小學校第四學年清水孝藏　（かみきりむし着色毛筆畫）大坂府岸和田中學校第四年級向井宗重郎　（くりむしの蛾着色毛筆畫）岐阜高等女學校第三學年笠井靜乃　（きてふ着色毛筆畫）大垣興文高等小學校第三學年田宮安次郎。

◉昆蟲標本の來觀者

七月十一日以來當所備付の昆蟲標本を來觀せられしは左の諸氏なりき。

（七月十一日）東京法科大學學生栗田貞三、高等師範學校學生上田代吉、岐阜市今泉都賀佐町川路利寛諸氏外三名、（十三日）高等師範學校生徒糟谷美一氏、（十四日）高知縣農學校教諭池本馬太郎、愛媛縣伊豫郡長橋本是哉、同郡書記長座友之三氏、（十七日）長野縣下伊那郡農事試驗場技手龜元正之輔氏、（二十日）東京帝國大學農科大學學生田中正夫、同足立美堅、福井縣敦賀郡松壽農會員倉谷力藏三氏、（二十一日）名古屋市多羅尾篤吉氏、（二十二日）岐阜縣農學校教諭木村良雄氏案內にて福岡縣農學校教諭松下盤根氏、（廿八日迄）京都府竹野郡岡田好延氏、（二十四日）橫濱生絲檢查所技手德田實也、同池義信、愛知縣第一中學校渡邊碩二、佐渡孝吉、玉置清一郎島根縣海士郡福井村小谷六二郎の六氏、（二十八日）香川縣大川郡農事試驗場長東尾來氏、（二十九日）愛媛縣農學校教諭下川義治氏、（三十日）長野縣上伊那郡赤穗村福澤講太郎、京都府天田郡書記菅沼岩藏、丹波國福知山町足立鈔太郎、三重縣員辨郡七和村關根欽吾、同關根嵩、同縣師範學校生宮崎香松、沖繩縣屬山口源七、滋賀縣林業巡回教師羽賀重太郎の諸氏、（三十一日）富山縣東礪波郡坂井與次右衞門氏、（八月二日）石川縣鳳至郡中居尋常高等小學校長平田德明、同校訓導長田富作、農科大學生徒植松健の三氏、（六日）宮崎縣宮崎郡生目村高妻安、同縣兒湯郡西米良村甲斐武彥の二氏其他縣下の有志者六拾餘名。（以上八月八日脫稿）

◉御斷り

記事輻輳のため寄書通信の次號に讓れるもの多し、寄稿家は豫じめ此意を諒せよ。

○害蟲圖解出版廣告

●第一桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（三版）
●第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（再版）
●第三稻の害蟲イ子ノズイムシ（二化生螟蟲）
●第四煙草害蟲タバコノアオムシ（煙草螟蛉）
●第五桑の害蟲イチモジセヽリ（苞蟲）
●第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姫象鼻蟲）
●第七桑樹害蟲シンムシ（心蟲）
●第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ（螟蛉）

●印ハ既版の分

●第九茶の害蟲ミノムシ（避債蟲）
●第十豌豆害蟲エンドノキリムシ（夜盜蟲）
●第十一桑樹害蟲クワカミキリ（天牛）
●第十二稻の害蟲ツマグロヨコバイ（浮塵子）
●第十三桑樹害蟲イトヒキハマキムシ
○茶の害蟲チヤケムシ（茶蛄蟖）
○桑樹害蟲キンケムシ（金蛄蟖）
○稻の害蟲イナゴ（蝗蟲）
○稻の害蟲フタホシズイムシ（三化生螟蟲）
○桑樹害蟲アオハマキムシ（青葉卷蟲）
○桑樹害蟲クワハマキ（桑葉卷蟲）
○蔬菜害蟲モンシロテフ（菜の螟蛉）
○松樹害蟲マツケムシ（松蛄蟖）
○梅樹害蟲ウメケムシ（梅蛄蟖）
○梨の害蟲ナシゾウムシ（梨象鼻蟲）
○大豆害蟲ヒメコガ子（金龜子）

○印は逐次出版の分

◎圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
◎壹枚の代價　拾五錢郵稅貳錢
◎百枚以上一纒代價　壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

圖解代金　壹枚拾錢郵稅貳錢

凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用一割增の事

但申込の際前金添附の事

右害蟲圖解第一より第十三迄は既に發行を終へ江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易くせる必須のものたり故を以て岐阜縣に於ては既にこれを採用し各町村農會及小學校に勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依て當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纏め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

岐阜縣岐阜市京町

發行所　名和昆蟲研究所

實地應用昆蟲叢書 豫約出版

⊙出版期限　第壹編は本年九月下旬を以て發行し、第貳編以下毎月に開版の豫定とす

⊙挿入圖畫　毎編數多の精緻なる木版及び鮮麗なる石版、寫眞銅版を挿入添附すべし

⊙紙數用字　紙數は凡貳千頁左右とし、活字は四號五號を併用し往々傍訓を附すべし

⊙紙質製本　印刷用紙は最上等の光澤舶來紙を選擇し、且つ最とも裝釘に注意すべし

⊙豫約方法　豫約希望者は豫約前金を添へ、名和昆蟲研究所編輯部に宛申込まるべし

◎第壹編…第壹回全國昆蟲展覽會出品目錄
◎第貳編…昆蟲標本製作全書
◎第三編…昆蟲學大意
◎第四編…農作害蟲圖說
◎第五編…園藝害蟲圖說
◎第六編…森林害蟲圖說
◎第七編…有益蟲類圖說
◎第八編…有効蟲類圖說
◎第九編…昆蟲分類法大意
◎第拾編…昆蟲生理學大意
◎第拾壹編…日本蟲害史要
◎第拾貳編…日本昆蟲目錄

豫約申込期限變更

本書第一編は既に脱稿せしも、豫約申込期限後に至り續々加盟の旨申越されたる官衙農會も少なからず依て讀者の遺憾なからんことを期し、更に八月三十一日まで延期し九月下旬送本の事に變更せり、此段既約の諸彥に敬白す

⊙申込期限　本年八月三十日限り豫約申込に應ず、期限の後は一切謝絕するものとす

⊙代價郵稅　豫約代價は壹部(拾貳冊)金六圓とし別に郵稅を受く、正價は金九圓とす

⊙送本手續　送本は申込の次第に依る、豫約出版完成の后に非られば壹冊賣をなさず

⊙特別取扱　諸官廳、諸學校、縣郡農會の證ある申込には前金を添へざるも妨げなし

⊙代金分送　當所に開設せる講習會修業生に限り豫約代金を兩期に分送することを得

實地應用昆蟲叢書豫約申込所　名和昆蟲研究所編輯部

一本種子は昨年始めて本誌上に廣告せし處各地方の農會或は農家諸彥の御愛顧を蒙り御購入の榮を得候段難有奉存候猶本年は一層純良なるもの澤山栽殖致候間左記御熟讀の上多少に不拘舊に倍し御注文の榮を賜へ

一早中晩三種共御希望に可應候

一代價は御照介次第直に御報知可申候

一農會の外總て前金にあらざれば發送不致候

一爲替金は岐阜縣本巣郡船木村美江寺郵便局振込小生へ宛て御送金有之度候

岐阜縣本巣郡船木村

岐阜縣本場　紫雲英販賣者

名和爲吉

岐阜縣本場產

大紫雲英種　販賣

◎當本場ノ紫雲英種子ハ全國ニ冠タル最モ名譽責任アル優等種ナリ

◎當本場ノ紫雲ハ莖長六尺以上ニ伸長シ一反歩ノ收量ハ凡ソ千貫目以上ナリ

▲種子代價等詳細ナル「ハ御照會次第回答ス

岐阜縣本巣郡船木村（電略ミノサン）

美濃產業株式會社

春蠶種販賣廣告

本館製造の春蠶種は飼育し易く繭質善良に加ふるに病毒皆無なるは既往の成績に徵し既に當業家諸君の稱賛を辱ふせる所なり現に昨年の如きは豫約を募集せしに未だ期限に至らざるに既に製造額以上に達するの盛況を呈し止むなく謝絕したり今回大に規摸を擴張し蠶室貯桑場、上簇室等を增築し精選蠶種を製造致すべきに付多少共御注文の上御飼育あらんことを

岐阜縣不破郡岩手村字岩手

樹神館蠶業部

館主　兒玉氏信

一本館製造蠶種の種類又昔、青熟、角又

一代價　框製壹蛾金參錢、普通製一枚金壹圓四拾錢（多數注文は特別割引）

（毎月一回十五日發行）

昆蟲世界

（明治三十四年八月十五日發行）

第五卷第四十八號

農家の一大副業

蜜蜂飼養の農家副業として最も利益あるは茲に述る迄もなし當場は專ら改良法に依り蜜蜂を飼養す

種蜂 廉價を以て種蜂を分讓す代價は時季に依り差異あり又豫約方法を以て最も廉價に種蜂を分讓する方法あり

蜂蜜及蜜蠟 本場は純良なる蜂蜜蜜蠟を販賣す代價は其時々照會せらるべし

養蜂器具 養蜂者の便利の爲め廉價にて養蜂器具製造の依賴に應す

入場生 改良養蜂の術を實習せんとするものの入場を許し蜜蜂の飼養管理方法蜂蜜々蠟の採取製造等凡て實地ょ習得せしむ

種蜂代價及豫約方法養蜂器具代價表並に入場生規則等は郵劵封入申込次第送呈すべし

相模國足柄下郡湯本村湯本 **箱根養蜂場**

當場は東海道鐵道國府津驛より電車あり湯本の温泉場に達し電車を下りて僅かょ二丁

◉岐阜昆蟲學會月次會廣告

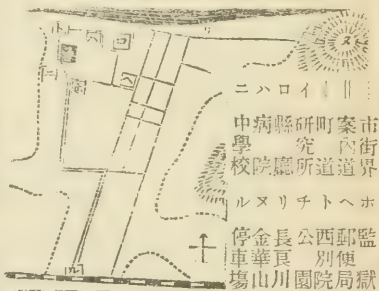
岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上

但該會へは縣の內外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

明治三十四年八月

名和昆蟲研究所內 **岐阜昆蟲學會**

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し

第三十三回月次會（九月七日）　第三十四回月次會（十月五日）　第三十五回月次會（十一月二日）　第三十六回月次會（十二月七日）

ホ 監獄
ヘ 郵便局
ト 西別院
チ 公園
リ 長良川
ヌ 金華山
ル 停車場

市街界
案內道
町道
イ 研究所
ロ 縣廳
ハ 病院
ニ 中學校

◉名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如くにして停車場より僅十餘町なり當所ょは常設の昆蟲標本陳列室あり新設の養蟲室もあれば有志の諸君續々來訪あれ

岐阜縣岐阜市京町 **名和昆蟲研究所**

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢（見本は五厘郵劵貳拾枚にて呈す）

壹年分拾貳部郵稅共金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金ょ非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿二字詰一行ょ付金拾貳錢、三十行以上一行ょ付き金拾錢とす

明治三十四年八月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町）

發行所 **名和昆蟲研究所**

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二　發行者　名和梅吉

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶　編輯者　桑原貫之助

同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶　印刷者　河田貞城

（明治三十年九月十日內務省許可
明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

（大垣西濃印刷株式會社印刷）

Vol.V. SEPTEMBER 15TH, 1901. No.9.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

昆蟲世界

（九月十五日發行）

（毎月一回十五日發行）

第四拾九號　（第五卷第九册）

目次　（禁轉載）

（明治三十四年九月十五日發行）

（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附品物受領公告

一金拾圓也　第九回全國害蟲驅除講習員一同
一金五圓也　東京市　伊藤高行君
一金五圓也　東京市　田中五一君　田中健太郎君
一金壹圓也　第九回全國害蟲驅除講習會修業生　千葉縣　杉谷彌之吉君
一螢籠（金網製）一個
一螢籠（竹製）一個　東京市　田中五一君
一團扇（螢摸樣附）一個　東京市　田中健太郎君
一國號考（寫本）一册　靜岡縣　岡田忠男君
一蝶摸樣短册懸（万峰刻）　岐阜市　安田定壽君
一蝶摸樣古代瓦　第八回全國害蟲驅除講習會修業生　和歌山縣　矢野柔一君
一半身肖像（眞寫）一葉　第三回全國害蟲驅除講習修業生　鳥取縣　蓮佛萬吉君
一天牛豫防液一ポンド　和歌山縣　益農舍
一除蟲菊合劑　壹合　滋賀縣　榎龍昇館

右當研究所へ寄附相成候付芳名を掲げ厚意を謝す

明治卅四年九月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎昆蟲世界講讀者紹介諸君芳名

奈良縣　中野末喜君（一名）
大阪府　大西香君（七名）

第十回全國害蟲驅除講習會員募集

開期（自十一月十六日 至同月二十九日）貳週間　定員四十名

前回は應募者非常に多かりしを以て謝絶せし向少なからず、依て爰に第十回の講習會を開く、希望者は十一月五日以前に成規の手續を經て申込あれ但し期限前と雖も定員外に達したる時は入會を謝絶すること前回に同し。
規則書入用の向は郵券封入の上至急照會あれ、直ちに回送すべし。

明治卅四年九月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎第四回懸賞昆蟲寫生畫募集

畫題　昆蟲（昆蟲類なれば何にても宜し）募集期限（本年十月卅一日限）

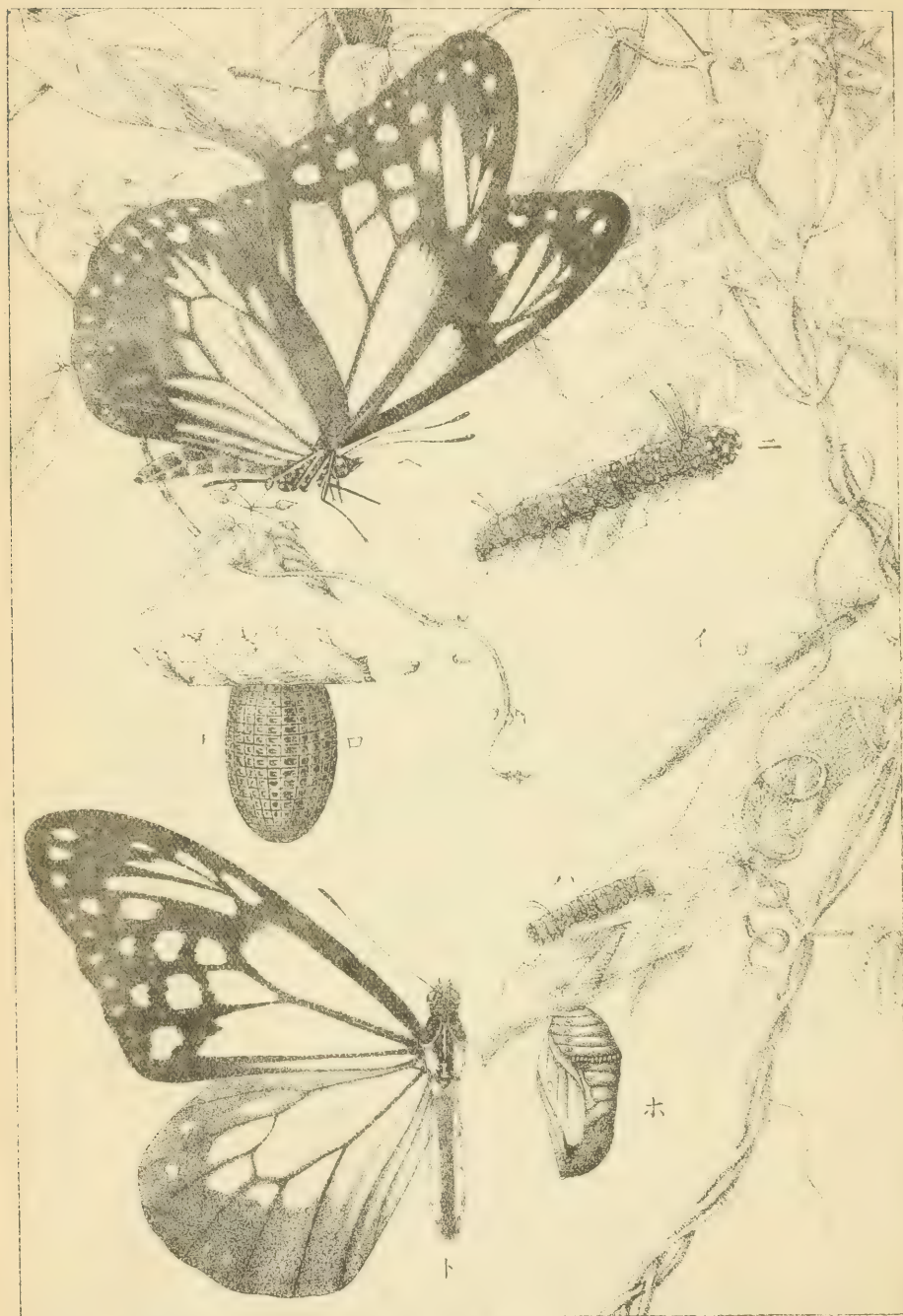
一等昆蟲世界一年分　二等同半年分　三等害蟲圖解三枚

我國教育界に於て臨本に依り圖畫を習得せしむる爲め一般學生に實物寫生の練習少なきを憂ひ昨年來三回の懸賞畫題を提出せしに幸に好果を擧けたるを以て更に茲に全國の學生に向つて大募集を企劃せり續々投稿を賜へ

大募集規定　鉛筆畫又は毛筆畫。輪廓線適宜。用紙及其大小は適宜。但一枚一圖に限る。可成は實物大を貴ふと雖とも小形の者は放大圖にするも又は昆蟲に植物を添ふるも共に妨けなし。其用紙中には必ず蟲名學校名學級名姓名及ひ年齢等を明記すること。一旦收受せる圖畫は一切返附せざること。最も優等に屬する受賞畫は都合に依り木版又は寫眞銅版等に製して昆蟲世界誌上に掲載す。

明治三十四年九月　名和昆蟲研究所

Daneis tytia, Gray. アサギマダラ

昆蟲世界　第四拾九號
（明治三十四年第九月）

論説

◎機關雜誌及び昆蟲學講習會紀念の記

名和昆蟲研究所長　名和靖

今にして既往を追懷すれば靖が同志の助言を納れて名和昆蟲研究所を創始し、赤手空拳以て應用昆蟲學の研究及び之が發展に當らんとの意思を決したるは、去る明治廿九年の四月なりき、爾來躬を斯學界に投じ、褒貶榮辱を顧りみず、所信を實踐し、少さか身心を此間に勞せざるにあらざるも、動もすれば輙はち事は志ざしと違ひ、未だ著大の功蹟を示すに至らずして空しく數星霜を送迎し、こゝに早くも滿五年の經過を見るに至れり。是を以てそが紀念として今春、第一回全國昆蟲展覽會を開設し、一は聖代の洪恩に報ひ、一は先進崇畏の實を擧げ兼て後進啓導の途を求めしに、賴はひにして弘く同志を各地に得て、稍宿志の一端を貫通せりき。是れ靖が誇張の言を弄するにあらで、業に公けに發表せし所ろのもの恐らくは吾が愛讀者諸君の皆齊しく諒知せらるゝ所ろの事實ならむ。

然るに今や復た雜誌「昆蟲世界」の刊行及び昆蟲學講習會開設の起源經歷等に關し靖の意思を讀者諸君に敬告するの機會を得たり。そも昆蟲世界の發刊は明治卅年九月にありて、世人の未だ今日の如く昆蟲に注目せざるの際なりしが、當時は征淸役の餘波をうけ又政事熱未だ全たく熄滅せざるの故を以て、容易

に學術と實業に耳目を傾注する者なく、材料の蒐集、讀者の選擇、兩つながら非常の困苦を感し、時に或ひは之が維持の難きを嘆慨せし事すらありき。超えて三十一年の春に至り、時勢の必要に促がされて始めて昆蟲學講習會を起し、爾後各種の長短期講習を開きしに、此門戸に出入して教科の修了を證明せられし者二千四百餘名に上り、將來頗ぶる有望の者たるを知らしむるに至れり。而して前者は今九月を以て滿四年を迎ひ、後者は正に滿三年に達しぬ、是れ靖が一人の光榮たるに止まらず、また直接關接に斯の事業を幇助せる、吾が讀者諸君の記臆を煩はすべき好紀念にあらずとせんや。

靖や素と學淺く德寡なく、百年の事業を經營するの器にあらず、又人の師表となりて訓陶の任に膺るに耐へず、而かも企畫せる所ろのもの幸はひに世の同情を得て、昆蟲の調査に、機關雜誌の發行に、昆蟲學の講習に、恒に一定の軌道を運行して敢て誤らざりし所以のものは、蓋し靖が學德の他を動かすが故にあらずして、世人が靖の孤獨爲すなきを憫めばなり、豈にその知遇に感憤して之に酬ゆるの微衷を存せざらめや。然れども靖の薄福微祿なる到底尋常の手段を以て知己の恩に酬ゆるに足らず、而して之に酬ゆるの途は唯一の誠あるのみ。

靖や二十年來、投費勞力、濁浪驚波の間に介立して身を斯學に委ね、既に聚收せる昆蟲の品種七千を超ね、その數將に二十萬に達せんとせり。此一事或ひは知己に酬ゆるに足れるが如きも、本邦産蟲類の饒多なる今後十年の歳月を費やさゞれば、猶は其半ばを採集し能はざるべく。害蟲驅除の方策や、一樣に出づるに至れるが如きも、未だその發生經過すら明らめられざる品種多く。夙夜昆蟲を侶として之が研究調査を事とするも、器機、附屬試驗地の設備をなすの暇なく。熾んに販行を事として普及策を講ずるに似たるも、用書と人材に缺くる所ろあるを奈何せん。

彼を思ひ此を想へば、將來爲すべきの事業は山の如く堆かく、現在執る所ろの方針に時としては變更を來さゞる可からざるの憾みあり、則はち塵界に横はれる表裏の事情は毎に靖が所思を牽束し、一事一物として其阻礙をうけざるものは極めて稀なり。此を以て所務の革新、事業の伸暢を斷行せんにも、急激の進行を望む時は忽ち覆沒の殃ひに遇はんことを虞れ、漸次、改善擴張の途に出でんことを期せり左は云へ決して退保主義を把持するにあらず、唯主として研究調査に全力を盡し、傍はら機關雜誌の區域を弘めて斯學者の研究通信の用を完うせしめ、又講習會を繼續して早晩完全の者を成立せしめんと欲するに在るのみ。人或ひは靖が主宰せる研究所の規摸の狹小を嘲けり、機關雜誌の微弱を難じ、また各種講習會の効功少なきを誹り、延て斯學の進歩の前途に障害を與ふる者あり、酷も亦太甚しからずや。靖不肖なりと雖ども中心已に決する所ろあり、又常に内に省りみて疚しき所ろなし、假し指摘せる所ろありとも、斯學將た何の罪かある。然るを之をこれ辨へず、私を以て公を損なふ、沒理もこゝに至りて極まれりと謂ふべし。靖や今此等の曲評に對しまた辨疏の辭なきにあらざるも、觀來れば前途尙は拓殖すべきの事業頗ぶる多く、此等紛々たる小事のために他と論爭の餘暇あらざるを以て、俗言百出爲めに一身の安危に關する事ありとも、肯て之を耳底に止むることを爲さず、唯良心の示命に從うて斯學の礎石を太以倍瑠河岸に築造せんのみ。同志の士速かに來りて倶にともに靖が勞の半ばを援けよ、久しからずして巍峨たる宏壯の城廓を眼前に現出するの日あらんこと必せり。感を書して之が記となす。

◎本邦昆蟲學者の通弊を論ず（續）

仙臺宕麓　晴耕雨讀子　草

（其三）昆蟲學者は實驗的調査に疎かなり　本邦昆蟲學の進歩遲々たるを見て、人の之を學派の異同に

歸着せしむる者ありと雖ども、余はこれに重きを置くこと能はぞ。想ふに先輩諸氏現時の心事に徴すれば或ひは全たく之れ無きを保せざるも、今日本邦に於て爾かく昆蟲學を重視する所以のものは、主はら之を農業に應用せんと欲するに在るが故に、假ひ學派に違ふ所ろあるも、先輩諸氏にして等しく此目的に副ふ所ろあらば決して其間に隔離を來たすべきの事由なきを認む、蓋し道は惟一にして二なきを以てなり。往時漢學者の互ひに對峙するや正學、古學、異學の徒抗爭を事とし、その軋轢の劇甚なる決して今日の比にあらざりき、然れども各派の爭ふ所ろは婦女子の私爭にあらず、旗鼓堂々たる君子の公爭なりしを以て爲めに反つて其汚濁を洗ひ、其發達を促がし、遂に前古未曾有の旺熾を極めたるにあらずや是れ余が容易く或説に同意せざる所以なり。

然らば則ち其本源は何れにありや、曰く先輩諸氏が實驗的調査を重んぜざるに歸すべきのみ。此語や、苛酷に失するが如きも、學者の病患は恒に此に伏在するを知る。試ろみに此の疑問を掲げて隈なく斯學界を照し看よ、或ひは蝶蛾の區別だも知らずして斯學の堂奥に到達せるを誇示する者なきか、舶載の書册を瞥見し取つて以て自説となせる者なきか、一回の飼育をも經ざる蟲族を解釋して其性狀を記述せし者なきか、算へ來れば實に擧證に遑あらざるなり。是故に甲書に錯誤を傳ふることあれば、乙書も將た丙書もその誤謬を蹈襲するの愚を學ぶは今日の著述に於て敢て珍とするに足らず、則はち先輩諸氏が從來實驗的調査を疎かにせるの結果と謂はざるを得ず。古人勸農の詩を賦して此種の弊根を諷刺すらく、淸曉松間喝道聲。勞ニ煩父老一出郊迎。臥廬應レ有ニ高人笑一。自不ニ歸耕一却勸レ農。と先輩諸氏それ其他位に省りみ、其德義を尙とび、其天職を思ひ、將來此等の通弊を矯むるに怯ならずんば、國家の慶福これに過ぐるものなけむ、妄言多罪。

（大尾）

學説

◎柑橘の有害介殼蟲と驅除法（既に本邦各地に發生せるもの及び將來輸入の恐れあるもの）

在米國スタンフォールド大學　米國理學士　桑名伊之吉

◎緒言　果樹栽培の盛なるに從がひ、その害蟲を研究し、及び驅除豫防を努むるの要は恰も稻を作るもの〻螟蟲及び浮塵子に於けるが如し、而して果樹の害蟲たる其數又極めて多しと雖ども、介殼蟲族はゟ害毒猛惡なるものはあらじ、害蟲類の多くは果樹の或部分即はち莖實の別なく均しく之れを損害す、幾多の有害蟲族は其發生經過によりて週月間果樹に食害するのみなるも、介殼蟲は四季共に樹体に固着して其津液を吸收す、加之其針頭大に過ぎざるを以て通常俗人の目に當らざるも實は驚く可き繁殖力を有す、これ殊に果樹に多く害毒を加ふる所以にして、また余が當業者に注意を請はんとする所以なり余は本編に於て柑橘樹に有害なる介殼蟲の一班を記して以て栽培家の參考に資せんとす、蓋は柑橘栽培の將來ます〳〵有望なるヿを信ぜればなり、是れ迄余の聞く處にては本邦の果實の外國の市場に上るものは柑類に止まり、毎年桑港或はバンクーバを經て米國に輸入する柑類は其額數万圓に達せり、然るに果實に介殼蟲の加害あるため、上陸拒絶或ひは檢疫の際に損害を蒙る等其例少なからず、これ全たく當業者に有害介殼蟲の知識なきを以て柑類を籠にするの際、之を除去するヿを知らず、今一層進んで之を驅除豫防するを知らざるに因るものとす、況んや近來柑橘栽培の盛んなると共に內は苗木を甲地より乙

地に轉ず此地の果實を彼地に輸くるに至り、外は遠く異邦に良種を求むるの當時にしあれば有害蟲族の苗木と共に輸入さるゝの難亦免かる可からず、歐米諸國にては既に法制ありて檢疫官の檢閲を受けざればー個の果實、一鉢の植木だも外地より輸入することを許さず、然るに本邦にては未だ是等の制限なしと雖ども、當業者は可成的被害果實及び苗木を他地に出さず、又他より之れを入れざる樣努めざる可からず、これ甲は害蟲族の他に延蔓するを防ぎ、乙は他より侵入する害敵を拒絶する捷徑なり。

◎介殼蟲の特性　　介殼蟲は半翅目(Hemiptera)の一科にして蚜蟲、蟬及び浮塵子と最とも接近せる種族なり、主に温帶より熱帶地方に產すれどもグリンランド及びサイベリアの如き寒帶の地尙ほ之を見ることあれば以て其配布の廣きを推して知る可きなり、介殼蟲は多く植物に寄生すれども或種屬は蟻の巢窟に棲息せり、此類は著しく退化せし昆蟲にして幼蟲の期を過ぐれば活動することなく、植物に固着して蠟質若しくば綿質を分泌し、其体面を包ふて以て生を安んず、而してその介殼の形は或ひは樹皮苔菌の如き、或ひは鳥糞に類似するを以て他の動物の襲擊に罹ること稀なりとす。

此種屬の特性として雌蟲は翅を有せず、体軀は多少分泌物を以て包はれたり、分泌物は種屬の異なるに從がひ一樣ならず、纎維質、綿質及び蠟質等より成り、或ひは單に白粉を存するものもあり、雌蟲は頭胸及び腹の區別判明ならず、又種屬によりては觸鬚と足とを缺けり、而して單に生ける囊の如し、口部は甚だしく發達し圓錐形の口吻ありて四本の長き粗毛の如きものを生じ之を植物に衝き入れこれより植物の津液を吸收す

雄蟲は雌蟲と異なり、頭胸及び腹部の判明せる体軀を有す、頭には口具を有せず唯一對の連鎖狀の觸鬚を備ふ、胸部には二個の翅(後翅は退化して平均棍となる)と能く發達せる三對の足を有す、變態は完全

なり。

介殼蟲科の動物學上、研究するの趣味ある處ろは其雌雄によりて變態を異にする点にあり、即はち雌蟲は半翅目の本領たる不完全變態あるも、雄蟲は完全變態を經過すること是れなり、卵より孵化したる雌雄は共に二個の觸鬚と三對の足を有し自由に歩行することを得、其一度蛻皮するや適當の位置を選び口具を植物に刺入れ津液を吸収す、漸々成長し尚ほ一回の蛻皮を遂げ雌蟲となるものは介殼を造り（介殼を造らざるもあり）雄蟲となるものは繭を造り其内に蛹化す、斯くて後ち更に羽化して成蟲と成り自由に飛揚す、雌雄蟲の有する觸鬚と足とは幼蟲の時に有せしものと其形を異にするのみならず全く異なりたるものなり、幼蟲の老熟して蛹化の際幼蟲の時に用ゐたる觸鬚及び足をば失へて囊狀の觸鬚も足をも有せさる蛹と一對の翅を生ず、これ完全變態昆蟲の特性にして介殼蟲に限らざるなり。

◎介殼蟲の分類法　介殼蟲の分類法に就きて昆蟲學者は各々其説を異にせり、今其概略を記せんに、佛國の有名なる介殼蟲專攻家故Signaret氏は之を左の四亞科に分かてり。

1. Diaspine.　2. Brachyscelinae.
3. Lecaniinae.　4. Coccinae.

又ニューゼーランドの介殼蟲專攻家故Maskell氏も之を分ちて四亞科となせり。

1. Diaspinae.　2. Lecanidinae.
3. Hemicoccidinae.　4. Coccidinae.

然れどもこの兩者は大に其方法を異にせり、而して現今米國にて有名なる介殼蟲專攻家Coekerell氏は新分類法によりて之を八亞科となせり、即はち左の如し。

1. Orthesiinae.　2. Monophlebinae.

3. Margarodinae.　　4. Conchaspinae.
5. Diaspinae.　　6. Tachardinae.
7. Lecaniinae.　　8. Coccinae.

余は茲には固より單に柑橘の介殼蟲を記せんとするものなれば、便利上之を左の四亞科に分たんとす。

1. Diaspinae.　　2. Lecaniinae.
3. Monophlebinae.　　4. Coccinae.

（未完）

◎「ペスト」と南京蟲(Acanthia lectularia)との傳染的關係（續）

在臺灣總督府醫學校　青木大勇

◎ペストと南京蟲の病理的關係　先に云へる如く、本蟲の傳染に關與する所あるは、獨逸研究員により明示せられたる所あるも、其奈何なる方法により、奈何なる經路より媒介するやの點に關しては未だ明示せらるゝ所なし、然らば先きに擧げたる昆蟲一般の傳染的徑路中、其何れの道を以て傳染を行ふや予は第一着に先決問題として之に對する解釋を試みるの必要に迫られたり。

一、口吻の直接的媒介により發するや。

二、將た本蟲の蟲體に附着せる病菌の擦入により發するや、或は壓碎の際、體內に存する病菌の擦入せらるゝに因するや、若し共に其力を有すとせば、其何れが最も優勢なる傳染徑路を占むる者なりや。

バウル、ミューリング氏曰く、螯刺自己は皮膚傷害の爲め、他の方面よりする傳染的病源菌の進入門口をなすの外、直接に病菌を移入するの危險は極めて尠なし、然れども病菌を含有する壁虱を螯刺せる局所

に於て壓碎すれば、蟲の表面に附着し若くは其體中に存せし病菌は、刺口より人の身體に進入するの危險あり、故に壁虱を螫刺の局所に於て挫殺するは危險の極なりと、且此關係に由りて考ふるに、蚤の如き挫碎せられ難き者は、直に挫碎せらるゝ蚊の如き類より危險の度尠なしと、前揭第二の疑問に重きを措きたり、去れど本蟲の性たる血液を好むの性あるも、蠅等に見る如く不潔なる食物、排泄物等に接近嗜好して之を甞むるの性を有せざれば、蟲體に病毒を附着し運搬の媒介をなすが如きは、實際事實上に於て偶然的稀有の場合にのみ限る者なるべく、且ペスト患者の排泄物に『ペストバチルス』を混ずるは多く末期(稀有の肺、腸ペストを除き)にあるを以て、尚一層其傳染を與へ得る機會は極めて少なしと云はざる可からず。

反對論者或は云はん、例令病菌の附着し來る機會は尠なしと雖ども、苟くも其附着し得る限りに於ては單に螫刺口より直接的に病菌を注入し得るより其限界は大なりと、然り、眞に然り、附着し來れる際に於ては勿論其限界の大なるや必然なり、されど飜て傳染的媒介上、最も樞要の關係ある擦入の點は如何蓋し試驗的に純培養の擦入を行ひて之を證明し、或は搔把を行ひて證明し得たりと稱するも、そは未だこの關係を說明するに對し、眞に堂奥に達し得たる論證と云ふ能はざる所にして、實際牽強附會の譏を免れざる所あるべし、何となればそは、充分多數の病毒を擦入して初めて得たる結果に外ならざる者にして、之を偶然的に附着し來れる極少の場合と、充分の擦入あらざる場合に引用するは說の當を得たる者にあらざるを以てなり、況んや壁虱の螫刺は勿論搔痒を起し、被害者の搔把を惹起するに足ると雖ども、局部は螫刺に因する反應炎を起し、組織間の浸潤を發し、所謂陰壓の加はりつゝある際なるを以て吸收せらるゝこと一層困難なる場合たるに於てをや、殊に藥液の吸收生理さへ確證せられざる今日に於

て、病菌の健皮より吸收せらるてふ論定は、遽に吾人の信ずる能はざる所にして、誰しも擦入により效を得たりと云へる人に對しては、其は目視し得べからざりし皮創の存在したるによらんと云へる語を以て答ふるに躊躇せざる所なるべし。

予は此に至りて考ふ、偶然的に然かも末期の極めて短少なる期間に於て、病菌の附着媒介をなし、尙其上偶然的の搔把により螫刺口より病菌を移植すると、然かも前者より早き時期に於て直接血管に達し得て發病の媒介をなすとを比するに、誰しも後說の眞に近く且つ確實なる傳染的徑路として主張せざる者あらんやと、況んや口吻傳染はジモン氏により蚤を以て證明せられ、即ち蚤の人を刺すや少許の腸內容物を漏し、而して此腸內容物は傳染の危險ありと。又或人は壁虱の腹內に於ける『ペストバチルス』は六日間の生存を持續せりとの報告をなしたることあるに於てをや。

反對論者又云はん、苟も壁虱の螫刺により即ち口吻的の媒介を以て傳染し得るとせば、之を挫殺するときは內臟內に存在する多數のペスト菌は其螫刺せる局部に散亂せられて其傳染的境界を大にせんと、然り眞に然り、されど奈何にせん已に云へるが如く、皮膚の藥液吸收生理さへ不確實なる今日に於て例令搔把的の塗擦ありたりとは云へ、健康なる皮膚より『バチルス』の吸收せらるとは容易に確定し難き事實たるのみならず、よし挫碎のため病菌を散亂せしむると雖ども、其侵入門口は尙ほ單に一個の螫刺口に依らざるべからざれば、予は未だ此反對論者の忠言を甘受する能はざるなり、殊に螫刺部近圍に於ける昆蟲の挫碎は危險なること勿論なりと雖ども、壁虱の如きを直ちに螫刺近圍に於て擦入的に挫碎することは實際上殆んどあり難きことにして、例令直に本蟲を挫殺するも多く他部に於て捕獲挫殺すること多きを以て、此危險は勿論恐るべしと雖ども實際上有り得べからざるの事實に近からん、此く論じ來れば

予は口吻傳染説の愈々確實なるに賛助せざるを得ず、殊に予の試驗成績の陽性なりしと、口吻に於けるペスト菌の存在培養試驗に徵し予は愈々口吻直接傳染説を主張せざるを得ざるなり。

試植試驗　予が行ひし試驗の方針はペストに罹れる動物の腹部に健全なる本蟲十數疋を充たせる吸角を貼し、凡十數分の後、之をして他の健全なる動物を螫刺せしむるにあり、壁虱の性たる日中は暗處に潜在し、夜に入りて現在し、人或は温血動物を襲ふの性あるを以て、予は到底日中に於ては渠等の嗜好を充たす能はずと思考せり、茲を以て吸角を黒色の布片に包み、光線の侵入を防ぎて動物の毛を剷去し密着吸血するを誘へり、目的よ試用したりし動物はモルモットにして健全なる皮膚を有する者を擇べり殊よ予は局部の皮膚に對する擦入を慫れ、吸血後は一應消毒藥を以て螫刺近部を消毒し、次で防腐繃帶を纏絡せり。

	螫刺時日	死亡時日	成績
第一	八月二十二日	八月二十四日	＋
第二	八月二十三日	八月二十六日	＋
第三	八月二十四日	〃	－

第三に陰性の成績を來せしは、恐らくは壁虱の既よ充分吸血せる者なりしか、或は他に缺點ありしか要するに尙數十回の實驗を要す。

予は口吻內に於けるペスト菌の狀態を檢せん爲め、吸血後全數の約二分の一數よ對し、染色標本を製し鏡檢的檢査を行ひしよ、特有のペスト菌を發見し且つ口吻より純培養を得たり、併し第三よ於ては殆んど全く發見する能はざりき。

茲に至りて將來尙研鑽討究を要するれ、下の如き事項たらざる可からず。

（一）例令予は上述の如く口吻傳染説を主張すと雖ども本蟲の糞便內に於けるペスト菌にして、恰かも

蠅の糞便內に於けるが如く反て毒性を增加する者なりせば(岡田博士の實驗)例令其機會は尠しと雖ども、其糞便と共ょ散布せる病菌の猛勢あるは明らかなり、然らば口吻傳染說の弱點と云はざるべからず、故ょ次いで起る論點は、本蟲の糞便內ょ於けるペスト菌のエチルギーと消化器乃至口吻內に於けるペスト菌のエチルギーとの比較論ならざる可からず。

(二) 前項の如く蠅は毒力をして强勢ならしむる作用ありと雖ども、蟻の如き强度の酸類を有する者は身體ょ附着せる菌を傳染毒たらしむる他能力なしと稱せらる、然らば壁虱の性たる蟻ょ近きの强酸性毒液を有し、而かも咬刺部に急性的炎症を發し得せしむるを以て考ふれば、蓋し蠅に遠く蟻に近きの性狀を呈するあらん乎。

(三) 口吻傳染は余の實驗により證明せられたる所にして換言すれば初め螫刺に際し排泄せられたる毒液を通過し、數十分の體內生活を行ひ、又一回の毒液を通過して動物を斃すに足る力ありしなり、之を以て考ふれば此の毒液は直にペスト菌をして活力を失はしむるの作用なきや明なりと雖ども、消化器末端に於ける長時の作用を蒙り、糞便として排泄せらるゝに至る間に於ては、奈何なる變化を其活力上に及ぼすや。

豫防法一斑　既述する如く、本蟲は病菌附着傳染と血液傳染との何れあるとを問はず、傳染媒介の性を有するは明らかなる所なるを以て、單ょ消極的に本蟲の螫刺を豫防するのみならず、尚進んで積極的ょ本蟲の撲殺を努めざる可からず。

(甲)消極的豫防法　本蟲の螫刺を蒙るときは、直に消毒藥及びアンモニア等の塗擦を行ひ、或は灰白軟膏等の擦入、制腐的濕布繃帶を施しペスト菌の撲滅を圖るべし、假令搔痒を感ずると雖ども、搔把を行ふなく、若し耐ゆる能はざるときは揚酸アルコール等の如き、刺戟性防腐藥を以て之を安慰すべし。

(乙)積極的豫防法　本蟲の性たる日中には多く壁の破口、材木の間隙、疊又は毛氈下ょ潜匿し、夜間

人静まるの後、出で丶温血動物を螫刺するの習ひあるを以て、日中彼れの潜伏するに乘じて之が驅除撲殺法を試みざるべからず、撲殺藥としてはベンチン最も效あり、其他石炭油、ホミカ丁幾、古魯聖篤煎汁、若くはタナセチン油等を水に混じて注げば效ありとす、蓋し要するに本蟲の全數に充分藥液を及ぼさしむる如きは到底及ばざる所なるを以て、予は寧ろ兵營、寄宿舍、獄舍の如き處に於てはポンプを以て充分洗滌を加へ、本蟲の溺れて地上に落つるを窺ひ、一面にアルボール或はベンチン等を用ゐて撲殺を圖るの勝れるに若かざるを信ず、人或は云はん、地上の水分は撲殺藥の%量に異常を來さんと、然り、然りと雖ども、水分は極めて迅速に吸收せらるゝこと多きを以て、意外に妨害すること少なし、よし吸收せらるゝこと少なしと雖ども、數回反復充分に撲殺藥を撒布したらんには遂に驅除し得べきか、特に吸收不良なる地に於ては一道の流出溝を開き、之を屋外の一壺に誘ひ、壺には本蟲の通過し能はざる濾過層を作りて水分を除排し、本蟲の半死半生なるに乘じ、撲殺藥を注げば著功を奏するを得ん、此際注意を要するは流出道を可及的短かくすると、藥液の可及的永く蟲體に密着せしむるとにありとす。

明治二十七八年の役、滿州駐屯の我が軍は、菊地軍醫部長の示導に依り、室內の罅隙に悉く目貼りを施し、又炕を焚き、一週二三回の大掃除を加へ、炕上のアンペラを充分日光に曝露して鞭撻を加へ、之が撲殺と豫防とを行ひ、蟲害を防ぐを得たりと、又以て參考に供すべきなり、蓋し本蟲の性たる充分に血液を吸收するときは良く數個月の絕食に耐ゆる者なるを以て、到底目貼を施して之が侵入を防ぐと雖ども、只一時の姑息的豫防策たるを免れず、或人はホルムアルデヒッドを賞用し、室內に充分水分を與へたる後施行すべしと云へり、密閉し得る家屋に於ては效あらんも、通常の家屋に於て其效果して如何。要するに洋風の建築に於ては之を驅除するに難からずと雖ども、土人家屋の如き者に於ては殆んど困却

の外なきなり、蓋し土人家屋に於ては本蟲の根據地は寧ろ家屋の壁隙等にあらずして床下に多きを以て寢具臥床を充分光線に曝露し、兼て床部室内の淸潔撲殺法を行ひたらんには奏功著しかるべし。（完）

◎アサギマダラ(Daneis tytia, Gray.)に就て（第九版圖參看）

第三回全國害蟲驅除講習修業生　靜岡縣　神村直三郎

アサギマダラは鱗翅目斑蝶科(Daneidae)に屬する大形の蝶にして、翅色の麗美を以て有名の種なり、其產地に就てはプライヤー氏は橫濱、富士山、大和、大山、熱海、鹿野山、北海道に於て採集せられ、予は遠江の中部、西部及び伊吹山麓にて之を獲たり、其他動物學雜誌の蝶報によりて山梨縣及び播摩にもこれを產するを知れり、去れども該蝶に關しては宮島氏の動物學雜誌第百二十五號に圖說せられたるものと松村氏の日本昆蟲學と、プライヤー氏の日本蝶譜中に見ゐたると、本年の時事新報蝶の採集と云ふ記事の他には見聞狹き予の知らざる所ろなり、以上の記述中には何れも仔蟲及び食草未詳の由記されたるを以て、不完全ながら聊さか予が實地研究の結果を述べて大方識者の叱正を仰がんとす。

一、產卵法及び卵　明治三十三年十月十七日の事なりき、予は近傍すなはち遠江磐田郡岩田村の山林に於て昆蟲を採集せるに、偶然谿間の如き處ろにして湧泉の傍はらに出でたり、此處小涯をなし石菖多く、ヌマダイコンの花今や正に盛りにしてアサギマダラの一群翩々として嬉遊し、その多くはヌマダイコンの花蜜を吸收しつゝあるが中に、不圖或ひは止まり、或ひは飛び、その去就定まらざるの狀態をなすもの二三あるを發見せり、怪しみて之を熟視すればこれ產卵するにてありき、其狀たる食草の葉の一端に止まり、腹端を下より上に曲げて葉の裏面に一粒づゝを產下せり、該蝶の腹部を檢するに比較的細

長なるも、斯かる必要ありてにやと悟り、卽はち其卵を採りて飼育を試ろむることゝなしたり、卵は長八厘、徑五厘許の大さにして圓柱形をなし、光澤ある純白色ょして縱に細線多く、各細線の間にまた多くの横線を有す、卵期は一週間にて乃はち十月廿四日に至り孵化を遂げたり。

二、幼蟲　孵化の當時は躰長一分二厘、全體水色に、頭部は暗色にして比較的大なり孵化するや他の烏蠋の如く直ちに卵殼を食ふの性あり、十月三十一日に初眠をなし、十一月三日脫皮をなす（その舊皮を食ふこと以下の各齡みな然り）體長二分餘ょして淡青、淡黃及び黑色の斑紋著るしく、第二節の背面及び第十一節の背面に何れも二本の突起ありて前者は長く後者は短かし、其二節にある兩突起の中間ょは二個の横紋を有せり、十一月七日に二眠す、十一月九日脫皮、體長三分に至り四本の突起は長さを增し、體の斑紋ハ二齡の時の如くょして胸脚は黑色に變ぜり、十一月十三日三眠す、十一月十六日脫皮す、此時體は圓大となり、長六分、突起は長き肉角となりて其長さ一分五厘、柔軟ょして稍透明なり、斑紋鮮明、大小の淡黃及び淡青紋參差として頗ぶる美なり、十一月廿三日四眠す、十一月廿六日脫皮す體長七分、肉角長さ二節ょあるもの二分五厘、十一節ょあるもの一分五厘あり、前進の際ハ常に長きものを動かして恰かも蝸牛の角に似たり、此角黑色鞭狀にして淡青の縱線二條を有し成熟期に至り躰長一寸二分に達し、十二月廿二日化蛹せり。

三、蛹　蛹は垂蛹ょして長五分、短大ょて鮮綠色なり、其狀恰かもゴキヅルの實の如し、十二月廿六日に至り金色の斑紋現はれ、蛹のまゝ越年せり。

四、成蟲　明治三十四年三月廿七日蛹色の黑變するを見る翌廿八日羽化す、卽はち雌蟲ょして食草不足、發育不十分なるためか、其翅全たく伸びずして縮み體格至つて小なりき。

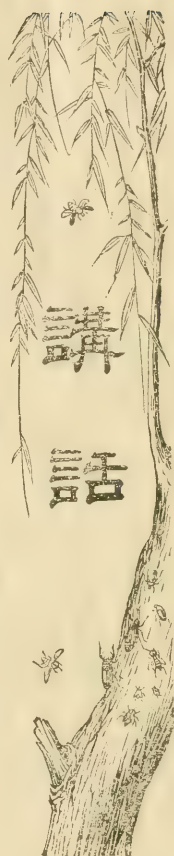
飼育を遂げたるは僅々一頭にて、其結果は前記の如くなるも、三十三年十月十五日より同廿五日までに採集したる成蟲は三十餘頭にして其大小一定せず、翅の開張最大なるものに在りては、雄蟲雌蟲何れも三寸八分、最小なるもの雄蟲二寸九分、雌蟲三寸二分を算せり、又三十四年七月十日同所に於て雌蟲一頭を捕ひたるに、身長は殆んど其中間に位ゐせり、尚ほ今後多數を比較しなば大小の範圍或ひは廣まるに至らん乎。翅色は雄雌とも略ぼ同樣にして、前翅は翅底より中央部に至るまで光澤ある水色を呈し、外縁に近き一半は黑色にして淡青紋多く、其紋は外縁に近づくに隨うて漸次小形となる、後翅は地色淡褐色にして翅底より中央部に向つて一帶の淡青色あることと及び外縁に近づきては多くの小點あることと前翅に似たり、但雄蟲にありては後翅内縁の中央に當りて黑褐色の斑紋を有す。

五、備考　食草はカモメヅル（Vincetoxicum sublanceolatum, Maxim.）あり、此草は七月上旬より開花し九月尚ほ花あり、蘿摩科の蔓草にしてサオトメカヅラに類似し、小形紫色にして葉は對生をなし、表面光澤を有し毛少なし。

成蟲發生の期節は七月十月の兩度は信を措くに足るも、飼育の結果三月に現はれたるは室内の濕度高かりしによるか、將たこれが正當の期節なるによるか、是れ疑問の第一なり。

予が飼育を試ろむるや、第五齡に至り已に食草枯死して緑葉一もあることなく、僅かに其莖の水分を含むものを以てこれを養なへり、因て該蝶は卵にて越年すべきものなるか、又其後十一月下旬及び十二月上旬に至り一齡二齡と覺しき幼蟲を數多採集せり、是により之を觀れば幼蟲越年を是認すべきか、果して然らば何れの時に成蟲となるべきか、三月に於てすべきや將た七月に於てすべきや、前者にして年三回の經過を遂ぐべきや、或ひはまた後者が年二回の經過をなすべきや、是れ疑問の第二なり。

（說明）　本誌の口繪（第九版圖）中（イ）は卵子　（ロ）れその放大を示すもの　（ハ）は二眠起の幼蟲（ニ）は四眠起の幼蟲　（ホ）は蛹（放大）　（ヘ）は成蟲即はち雄蝶　（ト）は成蟲即はち雌蝶とす。

蟬　うぐいすの木傳ひなれし柳ばら蟬のなくまでいつ成にけん　（高崎正風）

◎實物寫生用の昆蟲標本製作法に就て（前號第八版圖參看）

名和昆蟲研究所長　名和靖　講演

本誌第四十八號の口繪（第八版圖）と致したるは實物寫生に用ゐまする昆蟲標本でありますが、私が之を製作するに至りましたる次第は一方ならぬ譯のあることで、決して物數奇から起きたのでは無い。一躰私は少壯時代から實物の寫生と云ふことの必要を感じまして、例の南北宗畫の如く一日や十日かゝッて一條の流、一塊の石を描くやうでは致方が無い、それも寫實的なれば相談のしやうもあるが、淸淺の細流とか五彩の頑石とかなど申して徒づらに風流韻事に計り走ッては、理學などの助けには成らぬ。假令氣韻が無くとも雅致が乏しくとも、學術に用ゐる繪畫は何うしても寫實的にせんければ成らぬ、所謂眞面目な繪畫でなければ實用に適せんと云ふ意見を懷いて居りまして、自分も之を致しましたし、又人にも勸めました、就中學校の敎授書には久しく注目して居りましたが、如何致しても私の氣に入らんことが多う御座りました。

何が氣に入らんかと申すと、折角小兒に畫を敎ふるに關はらず、とンと寫生と云ふ事をさせませんで臨本に計り拘泥して之を習はせる、其がため畫家の描きました動物に關節の不足があッても、又植物の枝に互生と對生があッても、生徒は一向に頓着が無く、唯師匠の描いた手本のみを懸命に眞似て、決して其他を顧りみやうとは思はない、そこで一里の差も遂に千里の差で、最初の一人が誤りを書くと數千人も幾万人の生徒も皆ンな其誤りを眞實とするやうに爲るのである、是が臨畫の弊であります。特に近頃毛筆畫計りを奬勵した結果として益々寫實的の繪畫が却歩の有樣である。併し乍ら段々之を調べて見るとまた已むを得ない事情がある、御承知の通り我國では千餘年の間毛筆を用ゐ、又摸樣化畫のみを致して參りましたから中々急には改める事が出來ないのと、モー一つは臨畫よりは寫生畫は困難であるのが原因である。其証據には古來幾萬の畫師が輩出したが、寫生家として人口に膾炙する者になると圓山應擧とか、葛飾北齋とか、司馬江漢とかと大概その人が極まッて居る、其他は千篇一樣に刷毛を用ゐたり、水墨を用ゐたりして風流と云ふ點から段々に眞に遠ざかる書きやうをして居るのを見ても寫生畫の困難が解かる。困難だと云ふて實用に適せんものを重視する譯には參りませんから、私は始終寫生々々と口癖のやうに申しまして先づ何事も之に因る事に致しましたが、何分世間からは俗臭紛々だと云ふて嫌はれる、嫌いれても關心せぬ、昨春は標準として一枚の百合花に黒揚羽蝶が弄むれて居る圖を作りまして之を廣く幾千の同志者間に配布致しました。これは十分のものとは申せませんが兎も角も寫實的の畫を奬勵する方便として試驗かたべ作ッたのである。即はち蝶なぞゝ申すものは原來花を選擇して居るもので春の花に秋の蝶が居ない、秋の蝶に夏の花が不適當である、又花にも規則正しき種類があり、蝶にも規則正しき構造があるから、此釣合を知らずに濫りに書いては天然と背く、天然に背けば物その物に爲らんと云ふ意を示したのである。これに引續き第一回の實物寫生畫を懸賞で以て募集を致し、益々これに近づくやうに手段を取りまして責めては理學に關係の有る部分計りも、粗笨亂雜な畫風を改ためさせやうと心掛けました。

其後の事でありました……昨年の夏、私は宮城縣の農作害蟲調査囑托を受けまして出張の折に、箕作理學博士の許を訪づれました時に、博士の仰せらるゝには、米國などでは粧飾的に石膏の上に昆蟲を壓平したものを作ッて居るが、何分高價なのと、他に之を利用する途が無いので遺憾であると言はれました。そこで之を何んとか國内一般に應用する事が出來まいか、應用するにすれば私が年來の旨義なる實物寫生に應用したいと思ひまして、段々考へて見ますれば餘り製作に苦勞が無いと云ふことを見出しまして、試ろみに適宜の木片に小孔を穿け之に昆蟲を挿み入れましたのが即はち此の標本の始まりで、それから次第に不都合な點を改ためまして標本に製作し、これを手本として寫生して見ましたのに何の障害も無く自由に應用が出來、價ひも頗ぶる安く、且つ飾物として置くの必要が無いと云ふ事を確かめました。處で以て、今年の五月に當昆蟲研究所で開きました第一回全國昆蟲展覽會にも、參考品として陳列の上公衆の縱覽にも入れ、其上同時に岐阜市に開催の全國敎育品共進會へも出品して衆評を乞ひました處が當時の實業學務局長たる岡田君及文部書記官正木君なども一見の上、如何にも敎育上には適切のものだ、との賛助の言辭を與へられまして暗に獎勵の意を漏されましたのである。又一方の審査員の方でも注目せられましたと見えて此標本に對しては『昆蟲ヲ玻璃板ニテ壓平シ實物寫生ノ用ニ供セシハ其注意至レリト云フベシ』との賞狀を贈られました、何にも此賞狀によりて功能を申すのではありませんが、唯々敎育家の集合躰で斯かるものに注目せられたのが、將來普及上に不少の關係があると思ふのであります。その後、實行と云ふ事に就て苦心しまして、屢次製作の難易を講習會員などにも試ろみ、又小供などにも試ろみましたのに、存外みな好成蹟でありましたから、私は愈々之が普及の必要を認めまして、小學敎員などに話しました事がありますが、早や既に之を摸製して其學校に備へ附けて在るのも見受けました。然らば如何にして製作するかと云ふと、口繪にありまする通り、(一)の太さ銅線を三角形に曲げて柄を附けましたものを赤く燒きまして(二)の木片に印したるやうに適宜に小孔をあけ、鋭利なる小刀で其孔の周邊を平らに削り、それから木面に白粉の類を塗擦しまして木色と木理とを隱くし斯くして昆蟲

を明らかに見ゐるやうにするのである。この木片は寸法は適宜ではあるが、上に張るガラスの都合等から幻燈種板と同寸法すなはち三寸三分に二寸六分とするが宜しい、又その厚さは薄いと見て書く時に利便だが、去りとて餘り薄いと曲がみ勝であるから四分板を削ッたものが宜しい、そして其板は何分脂氣が少なくて色が白くて曲まないものが宜しい、例へば先づ朴の木などは屹度適當である。木片の整理が出來た日には(三)の如く好きな蝶を挿み、翅脚を整理して上から薄ガラスを掛けて之を抑へ、總て四方の周邊にハ色紙で以て小縁を取るのである。何故色紙を用ゐるかと云ふと、是れ美術的に製作するのであるから、何分木や蝶と反對色の紺青色か何かを用ゐるが一番だ、是れ私の説ばかりでは無い有名な美術考案家も同意したのである。其他(四)も(五)も蝶形の一例を示したものであるが製作は皆同じことで斯うすると幾年でも保存が出來るのであります。

然らば如何して寫生用にするかと云ふに、(六)(七)に示した通り、先づ手本とすべき(七)を左方に置て(九)と云ふものを右に置き、臺板の上に紙を敷いて左方の實物を伺いて見るのである、さうすると左方の蝶は(八)のガラスを透して(八)の紙の上に其全形を寫すから、輪廓は立派に寫せる、それを更に基として緻密な部分や、前後翅等に書及ぼすの方法で別に困難と云ふ事は無い。此の(九)は箱に似て居るが左樣では無い、(イ)なる前方と(ロ)なる臺とも普通の木板で、(ハ)はガラスであるが、唯之を合せて臺の附てある二枚屏風のやうなものを組立てた計りである。希くは敎育に從事する人々は勿論、昆蟲學の硏究をしやうと云ふ人は大に之を利用して、將來は今少し實物寫生を發達するやうに致したく存じます。

◎第九回全國害蟲驅除講習會員の五分間演説

去る八月十五日より二週間當昆蟲研究所内に開催せる第九回全國害蟲驅除講習會に於て爲したる五分間演説は參考に供すべきもの亦少なからざりしも餘白に限りあれば爰にその一部を摘載す。

（一）念珠と袴と鞭と帯劔

京都府　土井禎吉

我邦一般に博物學思想、特に昆蟲學思想の普及して居ない爲めに種々の迷信が起り、益蟲を害として驅

除し、害蟲をば反つて利として保護する等の事實は、都鄙を問はず往々にして見る所でありまして、實に之を救ふの道を講ずるは今日の急務と考ひます、然らば誰が其任に當るかと申せば畢竟吾等講習會員の責任であると信じます、故に御互に歸國の上は全力を注いで之を救はんければならぬが、偖その方法に就きまして大に巧拙のある事と思ひます、凡て事をなすに孤立でやるよりは適當の味方を得まして同心協力で以て其事に當る方が餘程便利である、依て歸國の日に已れ一人昆蟲學者顏して四方の迷信を打破らんとしても、此かる猜忌嫉妬の世の中であるから意外の處に敵が生じ、却つて其事業を破壞せられて愈々迷信を堅うする事などがありましては、實に斯道の爲めに慨はしき次第であると思ひます、デあるからして諸君は相當の味方を拵ひらるゝが便利であるが、その味方と申すは誰であるかと云ふに、私は先づ念珠と袴と鞭と帶劍であらうと思ひます、其故は御承知の通り此社會は老人と中年者と少年とに別つことが出來るが、此老人輩は所謂、天保時代の舊慣を頑固に墨守して中々迷夢を醒ますことが困難であります、これを感化するには其恒に信じきッて居る念珠の御力、即はち御寺の坊さんの力に依つて柔らかく開誘するのが最好方便であると思ひます、又中年者は幾分か明治の敎育を受けて居りますから之を敎へ導く者がありますれば容易に其迷信を破ることが出來る、それで袴とサーベル即はち村長さんや巡査さんがドシ〳〵學者の說や經驗家の話を取次ぎ、之を導びかれたなれば必らずや今日の迷夢を覺さしめる道がある、その次は現今の少年すなはち次期の國民でありますが、是は今日敎鞭を執らるゝ敎員諸君が一身を捧げて秩序的に敎育して行かるゝと云ふやうに致しましたならば、それで立派に其目的を達することが出來るに違ひはない、然るに現今の此味方たるべき人々の中には往々その智識思想の無き人がありまして爲めに大なる誤りを生じつゝあるのでありますから、諸君は機に觸れ時に應じて先づ此等の人の頭腦を開拓することに勉められましたならば、如何に頑固なる坊さんでも道理に間違ッて居る知れきッた嘘を吐くことが出來るもので無い、從つて自然說敎の方針も變ひませうし、其他敎員や村長や警官も喜んでこれを普及せしむるに勉めるでありませう、斯くして諸君が研究せられた事を此味方

は傳へ、此昧方が各方面ょ向つて其普及に全力を注ぎましたならば、こゝに始めて其目的を成就し己れの理想を實行することを得て、其愉快昧の無限なるのみか、斯道のため將た國家の爲め誠とょ慶賀すべき結果を得ることゝ信じます。

(二)害蟲驅除と統計思想　千葉縣　杉谷彌之吉

私は農作害蟲の驅除豫防と統計との關係に就て申述べますが、申すまでも無く害蟲驅除を完全に致しまするには名和先生が訓諭に成りました如く、先づ昆蟲學の大意を知り、蟲と云ふものゝ性質、經過より益蟲害蟲の種別をも知らんでは成りませぬが、之と同時ょ統計學の大意をも知らんでは成ふんと存じます、例へば稻の大害蟲と云はるゝ螟蟲で申せば、苗代田の厚蒔、薄蒔に依ッても被害の步合が違ひ、又刈の時の遲速にもよりまして害に多少があります、隨つて糯稻と粳稻の相違によッて害に相違が生ずる計りでない、同じ粳稻でも種類によりまして大ひょろの趣むきが違ひ、又肥料の關係、地勢の關係ょより一々異なるのであります、次に浮塵子で申しても螟蟲と同樣で、早中晚の三種ょ就て試驗をして見ますると被害の步合が非常ょ違ッて居りますからふ、之を精確に取調べるょは勿論、試驗調査と云ふものを行ッて數次の實驗を重さねんければならぬが、試驗を行ふにしても數字的の頭腦すなはち統計思想と云ふものが無くてはならぬ、而して此思想は單に一の試驗場技師や調査所委員に計り必要かと云ふに決して左樣ではない、一般農民より農事行政、農事團體に關係ある者の總體が之を重んぞるやうょ成らんければ滿足せない、彼の三十年の浮塵子の害は二府三十二縣で以て七千五百万圓だと申すに關はらず、或人の如きは此統計は非常の違算であッて精確とは言ひない、現に或縣一縣に就て見るも其被害額は殆んど半分にしか成ッて居ふん、其故は其縣廳の統計表を見ると無害の郡々が見ゐるからふ實地に就て調べて見れば豈に圖ふんや、其郡々の村々ょは殊の外の害があッたのである、これを以て見るも今日の統計と云ふものは無きには增しだが決して精確とは云ひあいと申された、特に同年ょは浮塵子の外に種々あ害蟲も多かッたのに國民を警戒するたけの統計表とては作ふれて居らぬから、此かる有樣では眞實に農家

を恐れしめる事が出來ぬ、統計にして此く不十分である上は被害額を或ひは一割と云ふかと思へば二割と云ふものがあッても何れが眞實やら團扇の揚げやうが無いでは無いか、と云はれたが此議論の通り全たく統計を明らかにせんければ放任して居ッても驅除をしても少しも境界と云ふものが解らん、又實際の被害も解らん、それで郡町村農會の事業として之を調査する必要があるのみならず、害蟲の驅除を行ふにしても、種々の要項を悉ごとく統計的に取調べて其時機と其方法を定めん間は完全なる基礎が立たないと斷言しても差支へが無いのである、由來我國い統計を輕んずる弊がありまして之が爲めに事業をなす上に於て不少の困難が生じます、就中害蟲驅除の如き緻密な仕事をするには此思想の空乏のために見る〱非常な損失を來たすのであるから、私は進んで害蟲驅除講習の一科目として此學科を置きたいのである、願はくは諸君の御考慮を煩はしたく存じます。

（三）實業家の素養

山口縣　藤井健介

本會に入會せられたる諸君は、直接間接を問はず皆實業家の仲間で、特に其道に於ける熱心家と言はなければならぬ、そこで一つの注文があるのである、御承知の通り人には皆ンな一の希望がありますが之を達するには各々その素養が無くてはならぬ、實を申せば私が本會に參りました時には、名和先生より無味淡泊な昆蟲學大意の講義を承りまして何如にも害蟲驅除には緣遠いやうな感じがありましたが、今となッて見ると其價値が解かり、成程先生は私共に對して昆蟲學の素養を與へられたのであると云ふ事を悟りました、然らば實業家の素養は如何かと云ふと博物學の智識が必要だと思はれます、即はち農作物に大關係ある植物學、動物學、地質學等の普通の要素が備つて居らんでも成らぬ、畢竟私共が本會に參りましたのも此譯であるが、私の希望でも唯昆蟲學に止めずして此範圍に於ける全般の智識を得るやうにしたいと云ふのである、其故は若しこの智識の無い以上は何れの方面に對つても其應用が出來ないからである、それに今日の科學は漸次進歩するとは云ふものゝ實業界の上から云へば、何れの學者も跼蹐として自己の地位ばかりを守つて居りまして著大な効績を現はして知らんやうであるから、私共は

已むことを得ず自己の力を以て其事に當るの必要がある、即はち有ん限りの學力と實驗とを以て國家の利益を計ふんければ成らぬ、特に心配でならんのは中小學の生徒が其學校を卒業すると、皆祖業と云ふものを捨てゝ軍人やら官吏やらに成る氣を持つて居ることである、是は結局教育方法の不完全ょ基づくのであるが、畢竟博物思想の缺乏からふ斯くも實業に縁遠い人物を出すものと思はれる、そこで私は益々この精神を夙くから鼓吹して素養を作りたいと云ふのであります。

（四）害蟲驅除豫防奬勵の方法

石川縣　松崎好正

近來、稻の螟蟲の幼蟲を捕るとか、或ひは浮塵子を捕るとかと云ふことを農民ょ奬勵するに金力を用ゐる事が非常に流行致します、金力を用ゐるとは例へば蟲を百疋捕へた者には二錢づゝやると云ふ風に結局懸賞的ょ驅除するのである、此くの如き事は將來吾が農業を發達せしめ併せて農民を鼓舞する所以の途であらうか、如何かと云ふのが一つの疑問であります、近頃ペスト病が東京市を騷がすや市參事會の議を以て直ちに其病毒の源泉たる鼠を買上ぐるの策として、白銅一枚と鼠一疋を交換することょ致しました處が、市民の無敎育なるものは之を如何に感じたか、彼等はペスト病の恐るべきことをも知らずして僅か白銅一枚のために殆んど競爭して捕獲したではありませんか、而かも買收期限の過ぎたるをも氣が附きませんで捕つた連中は、交番所へ持行く途中で其事を聞て自暴を起して其塲で鼠を逃がしたと云ふ事である、原來頑迷無智の農民を捉へて懸賞的に害蟲驅除を命ずるは甚はだ右の鼠の話に類似して居る次第で、彼等は自分の懷からふ金を出す事は一文一錢でも惜んで居るに拘はらず、年々害蟲の爲めに收穫物の一割以上も冥々裡に減少することをば殆んど夢中で、寧ろ當然の事と考へて居るから、當路者が驅除豫防を命ずることを恰かも重き課役にでも服するやうょ誤解して居る、そこで此等の連中に對しては道理を以ては度しようが無いのであるから、止むを得ず彼等の最とも有がたがる金力を以て一時の權道を行なひ、一種の興奮劑を與へて居るのであると思はれる、時宜に依つてはこれも必要には相違ないが、此かる變則的の驅除法を永續する事が果して吾が農業界將來のために良好手段として固守するの價

値があるであらうか、私は斷ドて之を避けん間は到底進歩を與へる事が出來ないと思ふ、然らば如何にしてこの因襲的の惡弊を抑制すべきかと申せば、根本的に一般農民の常識を高めるの手段を取り、自然に害蟲驅除を行ふの必要を知らしめ、遂に自から進んで之に當るの義務心を發揮せしめねばならぬ、而して之をなすは誰の任務であるかと云ふと、御互ひに斯業界の先覺を以て自任する者、特に敎育に從事する者は最とも先に之が衝に立たねば成ぬのである。

（五）小學生徒の採卵成績　高知縣　笹岡貞吉

稻の螟蟲には二化生のものと三化生のものとがありますが、是の害蟲は驚くべき程蕃殖するものでありまして、二化生の如きは第一期に一頭の雌から百二十粒乃至百五十粒の卵子を產みます、假りに之を百二十粒と致しまして滿足に孵化するとせば又百二十蛾を生じ、其中半數を雌とすれば凡ろ七千餘の蟲とありまそ、若し一稻莖に一頭づゝ宿るとすれば一穗百粒としても七十二万粒即はち一斗七升餘の多量を喰害致しますから農家は最も注意をせんければ成らぬ、然るに私が居りまする高岡郡では春來、吾桑、佐川、尾斗、賀野等の諸村に於て苗代田に該蟲の發生を認め、之が驅除法に狼狽致しまして第一に誘蛾燈の點火を奬勵し都合七夜間點燈誘殺を行ないましたのに、其中二夜だけは捕れ他は不成績でありました、是は五月頃は平年よりも冷氣勝であッた爲めかと存ドます、それで能く捕れました晩のを調べて見ますと、多くは曇天の夜でありましたので茲に時期を調べるの必要を感じました、其他種々の方法を盡しましたが結局發生數の半分も捕ることが出來ませんで、其中に早や稻葉に產卵を致されました、そこで止むを得ず採卵を奬勵しましたけれども、何分頑農輩は之をする事を好まんでありましたから、强制的に施行を命じました、なれども尚ほ成績は不十分であッたので農家の子弟にやらするより外は無いと存ドて實業補習學校に交涉を致し、卵塊百個を取れば紙一帖に筆一本と云ふ懸賞を以て每日二時間づゝ行はした處が、初日は二十塊、次日は三四十塊と云ふやうに漸次成績が現はれ、七日目になると一人百塊を取る者も出來、百二十人の生徒が一週間に凡そ二万塊の卵子を取りましたから、中々賞與も多くな

りましたが之が爲めに其近傍の卵塊を取盡して仕まひましたのである、ナント恐ろしい一勢力では有りませぬか即はち凡そ二百万以上の害蟲を生捕りにしたと同じ事である、之が爲めかして採卵法を執行した本田には螟蟲の發生が極めて少ないに反し、他の頑固なる農家の本田は私が本會へ參る時分までに已に三割方は喰害せられたので、俄かに迷夢を覺ましまして、明年は是非厲行しやうとの氣になり始めて茲に採卵法の必要を感じた次第であります。

（十八）害蟲驅除に對する敎育者の地位　大分縣　廣野善吉

我國人は一躰、理科的の智識特に博物學思想に缺乏して居る、これは種々の原因もありませうが、斯學を研究せる先輩の少ないのも主因と思ふ、今日社會の上流に立つ所の者を見るに、鳴かざる蟬あれば之を啞と唱ひ、螢を見れば腐草の化生だと云ひ、浮塵子は一夜に湧くものぞと云ふて得意がッて居るのでも解かる、是が實事ならば五厘銅貨が十錢銀貨となり、空虛の弗匣が金銀が自然に充滿する事もあるだらうと思ひます、上流が此かる風であるから恒に中流以下にあッて營々役々たる農民が一葉の神符、一滴の靈水に己が農作物を托して能事終れりと誤解するも無理が無いのである、それで幾ら去る三十年に浮塵子の大發生をうけてから、官民一致して驅除豫防に關心して居ると云ふもの丶害益蟲の區別から、豫防驅除の方法が不案內であるから、骨折損の草臥儲けに滿足せんければ成らぬ始末である、誠とに慨歎の次第ではありませんか、然るに此かる塲合に當ると敎育者と云ふ者は最とも有力の一要素であッて其手加減一つで害蟲の驅除豫防が出來ると云ふは外では無い、如何に頑陋の父兄でも吾が最愛の子弟の言には信用を措て居るから、其急所を衝きまして敎職に在る者は先づ益蟲の愛護すべき事柄から、害蟲の疾視すべき事由は勿論之に對する驅除法の大略をも吹込んでそれを實行せしむるのである、即はち此かる塲合には敎室內で空說敎のみをするを廢し親しく郊外に出て丶之を實施せしめんければならぬ、言葉を替へて言へば活きた學問を敎ふるが爲めに活きた授業法をやらんければならぬ、さうすると知らず々々の間に昆蟲と云ふ觀念も起き害蟲驅除の快味も了解して歸家の後……一家團欒の際に其事を物語

ると父兄の心情を動かす事も出來れば、又父兄が假令嫌だと云ふても慈愛の情緒にほだされて自然と感化力に制裁せられるやうに成る、同意せない迄も反對をせんやうになるのであるから普及策も容易に出來る、斯うなると學校の方でもまた一般昆蟲の採集を行なひ標本の製作をして生徒に見せ蟲名も敎へ、奬勵をするが宜い、私は斷言する、若し斯くせん間は決して此事業の遂行が出來るものでないことは明白であるから、此際敎育者は各々其地位を考へて十分にやッて貰ひたい、と。

(七)昆蟲講習會の價値

三重縣　小林榮吉

私は三重縣志摩郡の者でありますが、作年の事でありました、一般稻毛ハ可なり摸樣が宜しく灌水の具合も先づ相當で、農家は豐年ぢと申して居りました、それに二百十日前後の厄日さへも無事に終りましたから、此塩梅では儲穀も出來るなど申して未來の娯樂を描へて居りました、處が茲に一大變動を來たしたのであります、一躰私の地方では稻の出穗後に除草の際に殘したる稗を刈取る習慣でありますが、此時何れも喜色を帶びつゝ右の稗を刈るため田中へ入つて見ますると何となく腐れかゝつて居るやうでもあり、又小糠を撒布したやうなものも見ゑますから、段々取調べて見ると全たく害蟲の發生加害して稻株の間に潜伏して居つた事が明白に成りました、そこで是ではならんと申して各村落一樣に大騷ぎを致し急に驅除に着手しまして晝夜の別なく懸命でもッてやりましたが、所謂十日の菊で到底その効があリませんでした、仍て收穫の後に統計して見ますと私の村で計りも參千餘圓の損失であつて、石油を三四度も用ひましたから是計りでも非常なもので其上多くの手數を要したのであります、之を一郡にしたならば實に巨大の損失であつたのでせうが、悲ひことには害蟲驅除に精通した者が無かつた爲めに夢中で豐作を悦こび、夢中で驅除を行なひ、夢中で損失を招いたのであります、若し早く此講習會にでも入會して昆蟲と云ふものを知つたなれば、決して斯かる事は無かつたに相違ないと今更のやうに殘念に思ひます、明年は屹度苗代時から用心して斯かる愚かな事は二度と致さん心得です、諸君の御參考までに聊さか懺悔話しを致します。

◎三化螟蟲の發生

第六回全國害蟲驅除講習會修業生　兵庫縣　平林紋次

先般本村苗代害蟲驅除實行の際處々ゟ三化性螟蟲の發生を見受けたるを以て本郡農會の役員ゟ出張を請ひ實地の調査を遂げたる結果、三化生螟蟲には相違なきも、先年福岡縣等に於て發生せしものと少しく形狀を異にする点あるを以て、被害の大小に就ては明瞭ならず、依て本郡農會ゟ於て今其卵塊及び蛾を本縣農事試驗場に送付し再調査を請ふ事ゟなしたり、以後本村に於ては採卵及び蛾の採取ゟ全力を注ぐ故か著しく蔓延の兆を見す、降て本月五日農商務省技師鏡北陸支場長並に本縣技師小野農事試驗場長等實地調査の爲め巡廻せられ、其結果其筋より七月十三日付を以て左の縣令發布せられたり、目下驅除勵行中に有之候就ては右三化生螟蟲驅除に就て善良なる方法有之候はゞ詳細御教示相煩度實物は追て御送付可申上候右御報道旁御依賴迄如此に候。（七月十六日附）

兵庫縣令第五拾九號

淡路ニ於テ本年三化性螟蟲發生漸次蔓延ノ兆アルニヨリ、害蟲驅除豫防法第四條ニヨリ、津名郡及三原郡各町村長ハ左記事項ニ據リ其驅除ヲ行フベシ。

明治三十四年七月十三日

兵庫縣知事　服部一三

一津名郡尾崎村、多賀村、江井村、郡家村、生穗村、富島村、鮎原村、室津村、其他郡長ノ指定シタル町村ハ、本年七月二十日ヨリ仝三十日迄、及八月十日ヨリ九月十五日迄、稻田五拾間每ニ誘蛾燈ヲ裝置シ、每夜点火シテ其螟蛾ヲ捕獲スベシ、但螟蛾ハ每翌朝之ヲ採集シ町村役場ニ保存シ、縣郡官吏若クハ警察官吏ノ檢査ヲ受クベシ。

一前項以外ノ町村ハ、本年七月二十日ヨリ仝三十日迄、及八月十日ヨリ九月十五日迄、大字每ニ拾個以上ノ誘蛾燈ヲ稻田ニ裝置シ、每夜点火シテ其螟蛾ヲ捕獲スベシ、但螟蛾ハ每翌朝之ヲ採集シ町村役場ニ保存シ、縣郡官吏若クハ警察官吏ノ檢査ヲ受クベシ。

●編者云ふ兵庫縣に一種の三化螟蟲發生につきては本報告と前後して三枝角太郎、中野壽郎兩氏よりも同じく有益の報告ありき、其重複に涉らんことを恐れこゝには記事の詳密のものゝみを收錄す。

◎大分縣大分郡害蟲報告講習會

第六回害蟲驅除修業生　大分縣　小野覺太郎

大分縣大分郡害蟲景況　本郡は昨年度害蟲の被害非常に旺にして、損害價格貳拾万圓以上ょ達し、當業者の困難實ょ甚しく、或村の如きは一村擧つて收穫するを得ざる如きことありしに付、大分郡役所及び吾が大分郡農會ょ於ては、本縣令(第二十一號)ょ基き昨夏の如き被害なからしめん爲め郡書記及び本會事務員を派し、苗代田仕立前より不絶各村を巡回して其方法を示し其の必要を說くも、農民の腦髓未だ發達せざるにや牛ば其成績を見る能はず、就ては稻苗發芽後は各町村の苗代田各別ょ就き其實蹟を調査し、若し不成蹟のものあれば直に縣令ょ照らし處分することとなし、着々實蹟を擧げつゝあり、目下吾等巡回中、郡下害蟲の發生景況を言へば何れの村に至るも大抵浮塵子、二化性螟虫、蝗、等を見、其三化性螟虫卵を見しは郡下三十五ヶ町村中、戸次村のみなり、此等は皆採卵法を行ひ充分其實蹟を擧げつゝあり、中に西庄内村は郡下西端の山間部なるに、年來全村は郡下各町村の摸範と仰がるゝ程なりしが、去る十八日より二十日迄三日間小生等出張の上苗代撿査をなせしに、村内にて採卵なせし卵塊三十三袋(一袋は半紙二ッ折)にして其成蹟各村に扳んづゝ去れは非常の好成蹟を奏し如何なる山間腰部ょ至るも決して害蟲驅除の粗なるを見ざるは國家の爲め賀す可きことなり、尙今後の狀况は追て報導すべし。(七月廿三日報)

◎害蟲驅除品評會景况報告

岐阜縣揖斐郡鶯村農會

本會に於ては農作害蟲驅除奬勵のため去六月一日より害蟲驅除品評會を催ふしたるに、出品は蝗卵塊四斗四舛四合九勺(一舛平均千八百塊、一塊は四十乃至五十粒)螟蟲卵塊四十六個、靑蟲卵塊二十七個、雜蟲百七十三匁五分にして、其出品人員は百十七人(内百九人は小學生徒、八名は村民)に上り、最多量出品は蝗卵の二舛七合二勺、最少量は同卵九粒なりき、右審査の結果褒賞授與式を七月二日に執行したるに參會者は郡農會役員その他にて百餘名に達し、受賞者は一等三人(帽子壹個)二等七人(圓形捕蟲器一個)三等十八人(硯一面)四等二十八人(筆一對)五等三十一人(筆一本)特別賞四十六人(仝上)なりしが一、二等の優賞は槪むね尋常科四年生の獲る所となり、中には女子さへ二名加はれり、偖本年は當村に於ける螟蟲の發生は極めて稀にして小森省作氏所有の五畝步の苗代田より六月八日以後五日を距てゝ三回の採集

ゐ僅かに五卵塊を發見せし位ゐなれば出品も亦隨うて少なかりしなり、出品中ゐは往々青蟲寄生蜂の繭、長髭蝴の卵等ありしを以て授與式の際に此等の區別及び害益蟲の關係を説明せしゐ、實物を目前に置きての談話なれば頗ぶる感動と利益を與へたるが如し、而して本會則に規定せる條項は左掲の如し。

害蟲驅除品評會規則

第一條　本會ハ害蟲驅除品評會ト稱シ本村ニ於テ發生セル害蟲ヲ採集シテ其多寡功益ヲ審査シ害蟲驅除ヲ奬勵スルヲ以テ目的トス

第二條　本會出品物ハ左ノ三種トス

一　螟蟲卵塊

一　蝗蟲卵塊

一　浮塵子、螟蟲、青蟲等雜蟲

第三條　本村住民ハ何人ト雖トモ出品スルコトヲ得

第四條　出品物ハ六月一日ヨリ同三十日迄一ケ月間隨時數回ニ出品スルコトヲ得

第五條　審査ハ本村農會ニ於テ之レヲ行フ

第六條　出品中優等ノモノヲ撰定シ其出品主ニ褒賞ヲ授與ス其等級ヲ一等ヨリ五等迄トス

第七條　出品物ハ總テ之ヲ返還セザルモノトス

◎害蟲驅除豫防訓示

第七回全國害蟲驅除講習修業生　石川縣　高田信久

本年五月二十五日、我が石川縣農會は俵副會長の名を以て、普ねく農家ゐ訓示せし害蟲驅除豫防の標準を得たれば左に掲げて參考に供せんとす。

縣農第一二七號　稻作ノ害蟲其數多シト雖モ其害ノ最モ甚シキモノハ浮塵子、螟蟲ノ二種ニシテ之レヲ根本的ニ驅除全滅スルノ策ヲ執ラスンハ或ハ猛烈ヲ極メ、螟蟲ハ福岡、熊本ノ轍ヲ履ミ縣内ニ數十萬圓ノ費用ヲ投スルモ全滅ノ功ヲ奏セサルノ狀況ヲ呈センカ、亦浮塵子ニ於ケルモ明治三十年ノ轍ヲ履ミ、如何ナル慘狀ヲ來スモ難計、本年縣農第四十五號ヲ以テ改良苗代奬勵規定ヲ設ケタルハ、根本的害蟲驅除法ヲ實施セシムルノ目的ニ外ナラサル次第ニ有之、自今苗代ノ時期ニヨリ別紙標準ニ據リ一層害蟲驅除ニ力ヲ盡サレ度此段申進候也。

明治三十四年五月二十五日　　石川縣農會副會長　俵　孫一

◎螟蟲驅除豫防標準

一、藁置場乃驅除法　　螟蟲は前年より藁中に竄みて蛹化し、毎年五月中旬頃より羽化して成蟲（蛾）となり、苗代田又は本田に飛び來り稻葉の裏面に產卵するものなれば、藁置場の附近に二三間隔りて毎夜誘蛾燈を備ひ点火誘殺すべし。

二、苗代田に於ける驅除豫防法　　苗代田に在りては五月中旬頃より毎日朝は八時半頃までに、夕は六時頃より二回つゝ苗代田を見廻はり、苗葉に產附したる卵を摘殺又は潰殺し、同時に手網等にて母蛾を捕殺すべし。夜間は午後七時頃より苗代田の面積に應し、可成多數の誘蛾燈をして苗代田を距ること一間乃至一間半位の處に地上一尺位の高さの處に設置し、点火誘殺すべし。苗代田に螟蛾多きを認むるときは、徐々に給水を湛へて苗の葉先五分位を餘すに至らしめ、而して手網を以て掬ひ取り之を捕殺すへし。而して終業後其水を徐々に排除して元に復せしむるを要す。此法は点火誘殺と共に行ふも妨けなし。

三、本田に於ける驅除豫防法　　除草の際注意して稻葉に產附したる卵塊を摘殺すべし。○螟蟲の喰入りたる被害莖は葉先に異狀を來たし多くは枯凋の觀を呈し、莖元は次第に枯黃色に變するものなれば、除草の際注意して此等は根より掻き取り集めて潰殺又は燒殺すへし。抽穗後枯穗を認めたるとき、猶豫なく根より掻き取り集めて之を殺すべし。稻刈取の際は稻株に螟蟲を殘さゝる樣根際より刈取を行ふべし。

（備考）　螟蟲の卵塊は苗葉の表面に細長く產附せられ其初期に至りては黃白色を呈し、次第に茶褐色より黑褐色に變し、幼蟲發生前には漆黑色の卵塊となる。

◎浮塵子驅除豫防標準

一、紫雲英地其他雜草地の驅除法　　紫雲英刈取の際又は雜草地に浮塵子の發生多きを認むるときは、石油乳劑五十倍液を注きて畦畔より追々落し又は近傍の畦畔に飛ひ去るものは手網にて掬ひ取り之を驅除すべし。

二、苗床に於ける驅除法　　苗床に浮塵子蕃殖したるときは、左の二法に據り驅除を行ふべし。（イ）注油法　先つ靜かに養水を張りて苗の葉先一二分を殘す位に至らしむるか、又は淺く苗の下葉以上に達せさる程に水を張り、一反步に付石油一升の割にて苗間に滴下して一樣に擴散せしめ、細竹の類にて靜かに苗を振蕩し蟲を落下せしめ、二三時間を經たる後新たに水を注入して油水を排除すべし。（ロ）掬取法　苗床に於て成蟲の蕃殖多きときは驅除の際飛び去るものあるを以て此際は手網等にて捕殺すべし。右二法は併せ行ふを有効なりとす。

三、本田に於ける驅除豫防法　　稻苗の植付方を正くすべし。從來の如く亂雜に植ゐ又は密植に過ぐる時は、通風惡しくして鬱蒸し易く是か爲めに浮塵子は勿論諸種の害蟲增殖を招くの憂ひあり。○本田に於て浮塵子の蓄殖を認めたるときは直ちに注油法に據り

驅除すべし、此法は苗床と同じく一反歩に付（石油又は魚油）一升乃至二升の割にて株間に點々注加し、水を攪拌して油を散布せしめ後ち株を振蕩して蟲を落下せしめ、或は笊箒の類にて株間を掃ひ蟲を落下せしめ之れを殺すべし、若し成蟲多くして飛翔するものある時は早朝に此法を行ひ驅除すべし。○田面の一局部に浮塵子發生したるときは、其被害株より三四株を隔てたる周圍に稻全葉又は麥稈其他古俵類を建て聯れて之れに石油を注き、四方に散亂せさる樣になし、其局部に注油驅除を行ひ然る後其前面の驅除を行ふべし。○全田一樣に浮塵子蕃殖したるときは、驅除の際隣接の田地に飛ひ去るの恐れあるを以て、同時に驅除せさる場合は豫め發生地の周圍の畦畔に麥稈、稻葉、古俵等を斜め（上を內に傾け）に建て之れに石油を注き、然る後注油驅除を行ふべし。○秋季落水後に發生する時は水の便ある場合には可成水を張りて注油驅除を行ひ水を注き得さる場合には株間に適合すべき幅ある適宜の舟樣の器械を造り、之れに水及石油を落し、其中へ幼蟲を拂ひ落し飛翔するときは手網にて掬ひ取るべし。此法は朝又は夕方に行ふを宜しとす。

（備考）浮塵子蕃殖の多少は溫度に依りて差異あれとも、大概産卵後七日間を經て幼蟲となるものなれば、七日目又は十日目位に本田を見廻はり發生の狀況に應し直ちに驅除すべし。

四、冬季に於ける驅除法　浮塵子は幼蟲又は成蟲態にて雜草中に潛み越年するものなるか故に、冬季畦畔堤防等の雜草を燒棄すへし。（石油乳劑製法及手網の製法を略す）

◎昆蟲に關する葉書通信（十五）

（七十四）津輕の昆蟲と螢歌（青森縣弘前市、本多重治）　津輕に於ける昆蟲方言を報せば、毛蟲をガイダカ、蜻蛉をダブリ、蝶をテコナ、蠶をトヽコ、蜉蝣を旦那ノ米搗と云ふあり、又螢狩の俗謠を聽くに『螢來へ々々々あツちの水が甘く無い、こッちの水が甘いぞ々々々々々』。

（七十五）須磨地方の害蟲驅除豫防法（岡山縣都窪郡、藤田政勝）　兵庫縣須磨地方に於ては毎年害蟲の豫防驅除の爲めとて、村長を始め村民一同は夜間篝火を手に手に持ちて村內を巡回し、遂に山に登りて茲に蟲送りと云ふをなす事なるが、本年も既に之を施行して大騷ぎを演じたり、其時口々にさけぶ文句を耳澄まして聞取れば『實盛御上洛、イナムシ御供ぢや〳〵』と唱ふるものゝ由、餘り奇異の習慣と思ひ聽くがまゝを報ず。

（七十六）螢狩の歌三種（青森縣上北郡、新渡戸稻雄）　昆蟲世界第四七號渡瀨博士の研究の材料の一端にもと、記憶に存ずる僻地の螢うたを報道せん。（一）ホ、ホ、ホタルコ、ホタルの親父は金持で、夜は

提灯高のぼり、晝は草葉の露飲んでく。(二)ホータルチ、ホータルチ、其ッちの水が甘くない、此ッちの水が甘いぞ、甘い方さゝがーれく。(三)ホ、ホ、ホタルコ、だんごはぬけても光ればよイ』。と第一第二は幾回も繰返して謳ひ、第三は再度うたふなり、右の趣むき博士へは貴所より御報ありたし。

(七十七)講習會と三化生螟蟲(愛知縣額田郡、山本秋三郎)　余が意見を納れられしにや本郡にては去る八月十二日より一週間教育會にて昆蟲の講習會を開かれぬ、講師は美濃部氏なりき、是れ甚はだ悦ぶべき事なるも、これと同時に碧波漫々たる稻田の間には白綿狀をなせる彼の三化生螟蟲の卵塊の附着を見るに至れり豈に驚かざるを得んや、余は本郡の爲めに且つは悅こび且つは悲しむ。

(七十八)盆火と害蟲の誘殺(在青森縣弘前市、由田辰二)　當地方に於ては陰曆の盂蘭盆會を期し(八月廿七日より九月三日までの間)日暮より樺火と云ふを戶每の門前に焚くの風あり、是は一は供養の爲めならんも一は害蟲が羽化の際なれば誘殺の爲めならん、去ればにや藩政の頃は之を奬勵せりとかや、此風今なほ襲蹈することなるが、其折りに唱ふる俚歌に『をー蝶の(女蝶の)をはな(雄蝶)べこゝ(牛)に乘りて、うまこ(馬)に乘りて來とれく。

雜報

蜻蛉　糸たれてけふもいつしか紅なゐの蜻とぶなり野邊のほそ川。(佐々木信綱)

◉害蟲の多少　春來害蟲發生の兆候ありしより各府縣に於ては頗ぶる之が警戒に懈たらざりしかば、幸ひにして浮塵子の加害少なく、全國を通じて平年以上の豐作を豫斷するに至れり、去れど今年は螟蟲の喰害比較的に多く、葉捲蟲また近年稀有の發生を遂げたれば、假令浮塵子の難を免がれ得るとするも不少の損失を來たすべく、特に西は山陰道地方に於て北は奧北の邊に於てまたく浮塵子の加害を急報し來りたれば、今後數旬はなほ嚴戒を解くべからざるや勿論なり、古來害蟲は疫癘と同時に祟り

をなすは爭ふ可からざるの事實あれば、陰曆八九兩月の間は最とも心を用ゐざる可からず。

◉平田農相の來所　平田農商務大臣にハ九州地方ゝ於ける同省所管事務の視察を畢へ、歸京の途すがら當昆蟲研究所事業實査として去る十一日午前十一時半東行滊車にて來岐、午後二時より笠井岐阜縣書記官の先導にて隨行の書記官窪田靜太郎氏を始め大野前代議士、山田古井兩縣參事會員、堀口市長其他岐阜縣下の有力者十餘名とゝもに當研究所ゝ臨まれ特別標本の一部三百餘函及び養蟲室等を一覽、次で岐阜縣物產館第一號館に常設の昆蟲標本並びに器械等を巡覽（本館にも臨まれて三宅館長の說明をも聽けり）せられしが、從來の視察官とは大ひに事異はり、少時の休憩もせで前後とも頗ぶる入念の體ゝて委しく名和所長の說明を求め、且つ一々質問を發して其要點を傾聽せられたるには、人皆意外の想ひをなしたりき、斯くて三時半頃ゝ一應の觀察を終へられしを以て、是より直ちに縣會議事堂に入り無算八百餘の聽衆ゝ對し、信用組合に關する一場の演說を試ろみ同夜十二時の急行列車にて歸京せられしが、同演說の冒頭には研究所の事業を前提に置かれ、且蟻群蜂族の貯蓄勤勉を例證として信用組合の必要を說破せられにき、今『岐阜日日』の速記錄を轉載せんに。

私は今回東海、九州を廻りまして本日は其歸りがけである、コチラで名和氏の昆蟲研究所を拜見する積りで來たのでありますが、圖らずも一場の談話を致すやうにと云ふ御請求で有りましたに就ては、私も何の用意も致して居りません、用意無くして御話を致すのであるから、蓋し順序も立ないであらうし、又談話が甚だ前後するやうな事がありませう、若し不明な點があれば遠慮なく何誰からでも御質問が願ひたい。

偖、今日は名和氏の昆蟲標本を拜見しましたが、先年來人の噂に聽て居りましたよりは大に優つて居る、私の如き科學的思想の無い者には解らないが、兎も角、同氏が苦心せられた蹟は歷々として見る事が出來る、此害蟲乃事に至りましては、私が申すまでも無く作物の上には非常なる損害がある、若し吾々の力で以て此害蟲を驅除する事が出來るとすれば、之を小にしても個人の收穫を增し、之を大にしては國家の生產を增すのであろ而して其蟲はどー云ふものが害をなすか、驅除の方法は如何にするか、と云ふ事は名和氏の如く普く研究してその成績を得る事が最とも大切である……今日は產業組合の事に就て御話しをする樣にとの御希望であつたについては私は是より產業組合の事を御話しする積りであるが、今日は昆蟲を見ましたから、昆蟲を以て爰に一例を擧げるならば、蜂又は蟻と云ふ如きものは夏の間に食糧を貯へて、そして之を冬の食料として居るもので、誠に此蟲は幾多昆蟲の中でも靈妙なる智識を具へて居る、即はちものと云はなければ成らぬ、併し乍ら此蟲には進步と云ふ事が無い、何年經つても、何百年經つても、矢張同じ事を繰返して居る、即はち幾世代を重ねても同一の智識を以て夏日食糧を貯へて冬これを消費するのである、然るに吾々は之に反して天與の進步と云ふものが

ある。(下略)

◉稻田に蜻蛉の寓木を立つ　愛知縣三河國渥美郡昆蟲研究會に於ては、昨年の總會に於て稻田に蜻蛉の宿り木を立てゝ天然に諸害蟲を驅除せしむるの議決をなせりとは、豫て聞く所ろなりしが、本年六月下旬同地視察の際、果して郡內處々の青田上に枝付の小竹を立置けるを目撃せり、依りて停りて之が効果の如何を驗せしに、その近傍には蜻蜓の飛翔するもの、枝上に憩へて靜止するもの、遽しく田上目かけて小蝦を逐ふもの等千差万様にして、如何にも能き心附なることを悟れり(本年一月の昆蟲世界第四十一號論説參看)斯くてころ、螟蛾も蚊属もともに跋扈することと能はざる可し、あはれ何れの地方にても此の良法に倣ふて有益蟲を保護するの實を擧げられかし。(ナ、ヤ記す)

◉第九回全國害蟲驅除講習會　豫記の如く同會を去月十五日より廿八日まで二週間、當昆蟲究研所內に開會せり、開講式は例の如く執行せられ、開會中には五分間演説、幻燈會等も開かれ、又旅行採集としては養老山下まで獨立採集を行ない、炎暑の際をも厭はず夜中自修をも繼續せり、其會員は二府二十二縣に亘り左揭の如く五十六名にて成績また佳良に、閉會後も留殘して講習以外の事項を調査せるも多かりき、偖最後に閉會式を擧げしは廿八日の午後二時なりしが名和所長の挨拶及び修業證書授與、次で同氏の訓諭、來賓笠井書記官の祝詞、講習修業生總代神波信藏氏の答辭あり、式後茶菓の饗應並びに研究所紀念杯の贈遺ありて同三時半全たく退散しぬ、又同講習會期間(八月廿三日)に折好くも田中貴族院議員來臨せられしを以て、同夜一席の講演を乞ひしに、大要次の如き演説をなせり。

余は第五回內國勸業博覽會評議員の資格を以て日本海方面の巡廻をなしたるが、今や其過半の用務を終へ本日斯地に來りしに、第九回

全國害蟲驅除講習會開催の旨を承知せり、原來余は昆蟲學に通曉せざるも、將來若し此學を修得せずんば遂に外人との交際を結び難き事あらんと信ぜらる、それ斯學の必要此くの如くなれば必らずや之を振作精究の機關なかる可からざるや論なきなり、幸ひに本邦には當昆蟲研究所のあるありて、恒に斯學の中心を以て自任し孜々之が普及發達を圖れり、他日此種のもの增加するに至らば本邦のため洵に祝すべしとなす、冀くは本會に加盟せらるゝ諸君の當研究所を利用し及び其歸鄕の日は一層奮つて斯學の隆盛に勉められんことを。

偖、諸君の參考の爲めに一言せんよ、來る卅六年を以て開會の第五回內國勸業博覽會は、固より万國の大博覽會組織樣のものにはあらざるも、從來曾て有らざりし參考館なるものを設置し、あらゆる歐米諸洲の產品をも併せ陳列し、以て進步發達の一刺激たらしめんとすると同時に敎育館をも設け、凡て學藝に關する品種を蒐集展列、以て本邦學術の一斑を外人に示さんことを計畫せり、特に昆蟲標本に至りては從來、名和君の獨占に歸したりしも、第五回の博覽會には著るしく其出品數を增加するにあらざるなきやを疑ふなり、中には言ふまでも無く學術的のものもあるべく、裝飾を主とするものもあるべく、害蟲益蟲のみを蒐聚するもあるべく、又敎育用の昆蟲のみを配列するもあるべしと雖ども、要するに其趣向の如何に拘はらず各種の方面より特殊の出品あることゝ認む、現に新潟縣に開會中の一府十一縣聯合の共進會にも二三處より之を出品し、其中三拾六函の價ひを千六百圓と記入せしものあるを實見せり、是は珍奇と整齊の點より著るしく參觀者の注目を牽きたるやに覺へたるが、現に斯かるものさへあれば諸君にして出品の心算あらば先づ豫じめ其手腕を礪砥せざる可からず、盖し出品すると否とは一に諸君の方寸にありと雖ども、奮つて其事に當らんと欲せば此かる外界の事情をも能く知悉せざる可からず。

諸君の知らるゝ如く、本邦に於て海外と交通し、又條約改正を實行せしより日に增し親密の交際を結び、其結果日常概むね外國品を需用するに至れり、彼の鐵道の如き、電信の如き文明の利器によりて國運の伸暢を圖るは固より異議なきも、外國品とし云へば其善惡利害を考究するに及ばずして濫りに之を用ゐるも抑そも好しからぬ現象と云ふべし、之が爲め貿易上に於ては輸入の超過となり屢次國家經濟に多大の恐慌を來たしたるにあらずや、此を以て眞に國家の前途を患ふる者にありては、可成的內國產品を使用し敢て濫りに外國產を消費するの弊を矯めざる可からず、人或ひは自己一人の消費に止まるを以て肯て關心するに足らずと稱し、深くこれを省慮せざるが如き者あるも、單に一人に止まるとして之を消費するは已に輸入超過の因をなすものなるを以て、各自獨を愼しみて多衆に及ぼさざる可からず、例へば煙草の如き外國品に比し香味兩つながら劣る所あるも、枉げて天狗煙草に安んぜざる可からざるが如き、又指環に金剛石を嵌入せるものを購ふの慾を制して他の內國產品を以て之に替ふるが如き即はち是なり、特に國家事業振興の一助として害蟲驅除を行はんとする本會員諸君にありては恒に此心を以て心とせられ、一に國力の增殖と國家の繁榮を圖る所なかる可からず。

云々。

組別	府縣別	郡市名	町村名	族籍	役名	姓名	生年月	履歴摘要
第壹組	愛媛縣	周桑郡	小松町	平民	組長	佐伯團作	明治元年八月	町會議員郡會議員
	三重縣	三重郡	楠村	平民		富田光太郎	安政元年十一月	三重縣師範學校卒業楠村々長
	山口縣	美禰郡	大田村	平民		藤井健介	明治十年十二月	山口師範學校卒業、高等小學校訓導
	靜岡縣	磐田郡	富岡村	平民		森下佐四郎	明治十年十月	農業補習學校訓導
第貳組	愛媛縣	周桑郡	福岡村	平民		今井莊吉	明治八年五月	農事講習會修得、周桑郡書記
	大分縣	大野郡	白山村	平民		三浦三平	明治七年九月	高等小學校卒業、農事奬勵委員
	福井縣	大野郡	上莊村	士族		岡喜雄	明治六年六月	福井縣師範學校卒業、高等小學校訓導
	鳥取縣	東伯郡	上北條村	平民	組長	足羽財藏	慶應三年五月	東伯郡農會書記
第参組	高知縣	長岡郡	長岡村	平民	組長	鍵山陽	慶應三年十月	長岡郡書記
	京都府	何鹿郡	佐賀村	平民		大島瀧之助	明治十二年一月	京都府蠶業講習所卒業
	三重縣	安濃郡	安東村	平民		三谷友之助	明治十一年六月	農事講習會修得
	香川縣	綾歌郡	端岡村	平民		山田竹八	明治三年九月	農業從事
第四組	鳥取縣	東伯郡	花見村	平民	級長	神波信藏	文久二年十月	村農會長、學務委員
	高知縣	長岡郡	東豊永村	平民	組長	三谷誠彰	明治三年六月	學務兼勸業豫防委員、村農會幹事
	三重縣	南牟婁郡	相野谷村	平民		松尾得之助	明治十一年四月	高等小學三學年修業、農事講習會修業
	滋賀縣	伊香郡	余呉村	平民		熊谷源太	明治十二年一月	伊香郡役所雇
第五組	高知縣	高岡郡	新庄村	平民		笹岡貞吾	明治十二年三月	高等小學校卒業、高岡郡農會幹事
	三重縣	南牟婁郡	尾婁志村	平民		西村昇一	明治十年十二月	高等小學校卒業、農事講習會修業
	兵庫縣	三原郡	大野村	平民		宮下京平	明治五年二月	兵庫縣師範學校卒業、高等小學校訓導
	大阪府	泉北郡	久世村	平民	組長	岸田利三郎	明治七年二月	大阪府立農學校卒業、泉北郡農事試驗場長
第六組	三重縣	安濃郡	明合村	士族	組長	倉田喜與造	明治九年九月	明合村收入役
	千葉縣	印旛郡	志津村	平民		山崎市平	明治十四年四月	千葉縣農學校卒業
	福井縣	敦賀郡	松原村	平民		田中磯吉	明治元年四月	高等科第三級修業
	岐阜縣	本巢郡	船木村	平民		船來隆	明治十二年三月	高等小學校卒業
第七組	滋賀縣	蒲生郡	鏡山村	平民		西村政治郎	明治十三年二月	鏡山村書記
	石川縣	鳳至郡	柳田村	平民	副級長	竹本作太郎	慶應二年九月	害虫視察委員、鳳至郡産牛馬組合評議員
	三重縣	志摩郡	甲賀村	平民		小林榮吉	明治六年二月	農事講習會修業
	奈良縣	南葛城郡	御所町	士族	組長	青木好文	明治七年六月	奈良縣師範學校卒業、農業教員養成所卒業

組	府縣	郡	町村	族籍	役	氏名	生年月	履歴
第八組	石川縣	羽咋郡	邑知村	平民	組長	吉野昇太郎	明治十四年二月	石川縣農學校卒業、羽咋郡書記
	鳥取縣	東伯郡	瑞穗村	平民		竹信虎藏	明治三年十月	尋常小學本科正教員
	滋賀縣	伊香郡	片岡村	平民		久保川季好	明治六年九月	伊香郡書記
	岐阜縣	郡上郡	彌富村	平民		稻葉吾平	明治十年十二月	農事講習會修業
第九組	香川縣	木田郡	木太村	平民		溝淵莊太郎	明治六年一月	高等小學校卒業、木太村書記
	兵庫縣	氷上郡	小川村	平民		酒井忠太郎	明治六年五月	小川村助役
	富山縣	中新川郡	上市町	平民		武田友治	明治六年十一月	富山縣師範學校卒業、農業教員養成所卒業
	石川縣	石川郡	松任町	平民	組長	松崎好正	明治六年三月	石川縣師範學校卒業、農業教員養成所卒業
第拾組	三重縣	志摩郡	鏡浦村	平民		服部齋太郎	明治十四年十二月	高等小學校卒業、尋常小學校本科准教員
	愛媛縣	西宇和郡	双岩村	平民	組長	井上鹿市	慶應元年四月	縣立養蠶傳習所修業、縣農會統計調査委員
	大分縣	大野郡	南緒方村	平民		佐藤賢	明治十年一月	蠶業講習所卒業
	長野縣	下伊那郡	伊賀良村	平民		矢澤喜作	明治十四年八月	農事講習會修業、農事ニ從事
第拾壹組	大分縣	下毛郡	眞阪村	平民		廣野善吉	明治十二年四月	大分縣師範學校卒業、高等小學校訓導
	滋賀縣	蒲生郡	鏡山村	平民	組長	圖司伊三郎	明治八年四月	蒲生郡農事講習會修得、郡農事教師助手
	高知縣	安藝郡	津呂村	平民		杉本太喜治	明治四年十一月	村農會々長、村役場書記
	島根縣	八束郡	生馬村	平民		福田壽之助	明治九年八月	高等小學校卒業、農事講習會修業
第拾貳組	京都府	乙訓郡	大原野村	平民	組長	中村和三郎	明治六年六月	農事講習所第二期修了、郡農會書記
	三重縣	多氣郡	上御糸村	平民		北山辰三	明治十三年五月	高等小學校卒業、農事講習會修得
	長野縣	上伊那郡	片桐村	平民		片桐平左衛門	明治十二年一月	上伊那郡農學校卒業、甲種農學校助手
	岡山縣	和氣郡	日笠村	平民		延藤千代藏	明治十年一月	岡山縣農學校卒業、岡山縣農事試驗場技手
第拾參組	三重縣	三重郡	下野村	平民		水谷嘉市郎	明治十四年一月	高等小學校卒業、下野村書記
	山形縣	東村山郡	金井村	平民		田中松籟	明治十年十一月	中學校卒業
	香川縣	綾歌郡	林田村	平民		吉川筬市	明治九年九月	郡農事試驗場見習ヲ了、農事ニ從事
	千葉縣	君津郡	中村	平民	組長	杉谷彌之吉	慶應元年八月	縣會議員、縣參事會員、村長
第拾四組	香川縣	綾歌郡	加茂村	平民		井上芳三郎	明治元年八月	（勸業、害蟲驅除常設委員、縣農事試驗場綾歌郡支場委托）
	千葉縣	君津郡	吉野村	平民	組長	小熊平衛	明治元年五月	吉野村書記、郡農會評議員
	京都府	加佐郡	舞鶴町	士族		土井禎吉	明治八年九月	京都府師範學校卒業、本科正教員
	兵庫縣	有馬郡	小野村	平民		堂本俊治郎	明治十三年九月	同志社中學三年級修業、農事ニ從事

◉第拾回全國害蟲驅除講習會

第九回全國害蟲驅除講習修業生有志懇親會場

來る十一月十六日より二週間、例により當昆蟲研究所に開く入會希望者は成るべく速かに申込まれよ、委しくは卷首の廣告にあり。

◉講習修業生の有志懇親會　別項記載の第九回全國害蟲驅除講習修業生中の有志三十餘名は、證書授與式後、岐阜市上加納濃陽館に於て有志懇親會を催ふしたり、依りて名和當研究所長も病を推して臨席し一同と快談懇話、夜に入り散會せり、餘興としては研究所寄附物品の抽籤及び會員の滑稽演説あり、なほ互ひに後來を戒しめ前途を約して其々分袂せしが、座間一點の俗紛なく誠とに淸味逸興の多き會合なりしと。（玆に揭げたるは紀念の爲めとて、當日名和梅吉氏の撮影せしものに係る）

◉大日本農會の夏季講習　同會は去月一日より東京農學校内に開會、其中昆蟲學の一科は小貫信太郎氏擔當し害蟲各論は重に稻、桑の害蟲の發生經過を簡短に說明し、汎論は米人スミス氏の農用昆蟲學書を基として敷衍せしものなりしが同月廿一日を以て終了せりと。

◉貝殼蟲圖說の再版　去る七月下旬當研究所にて發行せる『貝殼蟲圖說』は出版後間もなく品切となりしを以て、今回その口繪に彩色し且新たに記事八則を增補して再版に附したり。

◉不破郡害蟲驅除講習會

岐阜縣不破郡にては昨年五月一日より五日間害蟲驅除講習會を開

き、敎育者及び實業家に簡易なる昆蟲學を習得せしめしが、同郡は敎育實業兩つながら熱心なるだけ尙ほこれに滿足せず、今年八月廿二日より五日間昨年の修業生（新たに加はりたるもあり）を垂井尋常高等小學校に招集の上、更に高等の學科數科目を講習せり、講師は當昆蟲研究所長名和靖氏外三氏なりしが修業證書を得たるものは都合五十五名にて講習生總代岩田利祐の答辭朗讀ありき、是れ恐らくは他に未だ其例なき講習會なるべしと。

●海津郡昆蟲講習會　岐阜縣海津郡にては本月一日より昆蟲學講習の爲め名和當所長を聘し高須町日新高等小學校内に開會せり、講習は毎日六時間にて會員は百五十五名なりしが何れも炎暑に屈せず熱心に聽講せり、斯くて同五日には閉會式を擧げ且修業證書授與式を行ひしに古田郡長の證書授與、名和講師の訓戒、來賓祝詞及び總代寺倉英逸氏の答辭ありて首尾よく散會せりと、聞く所ろに依れば同地に斯かる盛大の講習會あるは未曾有のことにて、其講習生の資格を大別すれば名譽職公吏十四名、官吏四名、學校職員三十五名、實業家百二名ありしと、又同郡に於ては此好機を逸せず益々會員を奬勵して昆蟲研究會を盛大ならしむる都合なるが、右につき古田兼彌、大橋尊義、安藤登氏をはじめ同會役員は專ら之に盡力中なりと云ふ。

●第四回岐阜縣害蟲驅除講習會　同會は本月七日より當研究所内に開催、岐阜縣參事官吉田金作氏其他第四課員臨席の上開會の式を擧げられ次に講師名和靖氏の挨拶、講習生總代の答辭等ありて最と嚴そかに執行せられぬ、會員數は三拾六名にて來る廿六日に閉講の規定なり。

●石川縣の夏期講習　石川縣石川郡にては本科正敎員九十餘名を泉尋常小學校に招集して去月十一日より十日間夏期講習會を開き國語、體操、應用昆蟲學の三科を講習せしが、其中昆蟲學の一科は先に岐阜縣害蟲驅除講習を修業せる小竹浩氏之を擔任せりきと。

●第二十二回岐阜昆蟲學會　本月七日午後二時より同會を當昆蟲研究所に催しゝに、縣下各郡より來集の會員貳拾餘名、これに當日より開會の第四回岐阜縣害蟲驅除講習會員全躰を合せたれば、近來の盛會なりしが、町田治助氏の蠶蛆の話、長野菊次郎氏の昆蟲の移殖談、名和梅吉氏の害蟲鑑別談等ありて、同四時半に閉會せり。

●御斷り　又々記事輻湊のため寄稿家にそむく所ろ多し次號には繰合せ收載すべし。（右、九月十三日脫稿）

○害蟲圖解出版廣告

● 第一桑樹害蟲エダシヤクトリ(枝尺蠖)(三版)
● 第二桑樹害蟲トゲシヤクトリ(刺尺蠖)(再版)
● 第三稻の害蟲イ子ノズイムシ(二化生螟蟲)
● 第四煙草害蟲タバコノアオムシ(煙草螟蛉)
● 第五桑の害蟲イチモジセヽリ(苞蟲)
● 第六桑樹害蟲ヒメゾウムシ(姫象鼻蟲)
● 第七桑樹害蟲シンムシ(心蟲)
● 第八稻の害蟲イ子ノアヲムシ(螟蛉)
● 第九茶の害蟲ミノムシ(避債蟲)
● 第十豌豆害蟲エンドノキリムシ(夜盜蟲)
● 第十一桑樹害蟲クワカミキリ(天牛)
● 第十二稻の害蟲ツマグロヨコバイ(浮塵子)
● 第十三桑樹害蟲イトヒキハマキムシ

●印は既版の分

○茶の害蟲チヤケムシ(茶蛅蟖)
○桑樹害蟲キンケムシ(金蛅蟖)
○稻の害蟲イナゴ(蝗蟲)
○稻の害蟲フタホシズイムシ(三化生螟蟲)
○桑樹害蟲アオハマキムシ(青葉卷蟲)
○桑樹害蟲クワハマキ(桑葉卷蟲)
○蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
○梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
○梨の害蟲ナシゾウムシ(梨象鼻蟲)
○大豆害蟲ヒメコガ子(金龜子)

○印は逐次出版の分

● 圖解の紙幅　縱一尺三寸橫九寸
● 壹枚の代價　拾五錢郵税貳錢
● 百枚以上一纏代價　壹枚拾錢郵税百枚に付き貳拾錢

●豫約代價

圖解代金　壹枚拾錢郵税貳錢
一割增の事　但申込の際前金添附の事
凡て前金にあらざれば同送せず但郵劵代用

右害蟲圖解第一より第十三迄は既に發行を終へ江湖の高評を博したりと雖も未だ當業者全般に普及せざるの憾なしとせず抑本圖解は鮮明なる着色石版圖にして被害植物の實際より害蟲の性質經過等一目瞭然に描寫し加ふるに平易なる解説を附したるを以て普通農家に於ても尤も理解し易くせる必須のものたり故を以て岐阜縣に於ては既に之れを採用し各町村農會及小學校は勿論町村役場警察署等へも頒布せしに一般に害蟲の經過習性等を解得し害蟲驅除上著大の効を奏したりと云ふ依て當所は此際奮勵一番更に重要作物の重なる害蟲を撰擇し逐次出版せんとす而して該出版物に對しては特に豫約と爲し前掲の如く價を低減し大に當業者に普及し實用に適應せしめんとす豫約希望者は速に御申込みあれ又既に出版濟みの分は各町村役場又は町村農會小學校其他の團体に於て御取纒め一手購求せらるゝ時は大に便利なり乞ふ幸に愛顧を垂れ陸續御注文あらん事を

發行所　岐阜縣岐阜市京町　名和昆蟲研究所

螟蛾誘殺の最適最良燈

●稲田用アセチリン瓦斯害蟲驅除燈發賣●

名古屋市傳馬町四丁目
名古屋旭商會
（電話番號特五七六番）

此の害蟲驅除燈は當商會の發明に係り過般全國昆蟲展覽會に出品して公評を博せるものにて光輝十分、普通のランプ驅除燈十個以上の光力を有するに關はらず、價額低廉にして實用に適せるは堅く保證する所なり

既に名和昆蟲研究所に於ては夜々試驗の結果其有効有益なるを證明せられたるにても之を知り得べし、時節柄各級農會の御試用を俟つ

（アセチリン害蟲驅除燈圖）

東京市本八丁堀五丁目一番地
東京旭商會

●農事試驗場及ひ府縣郡農會に急告す●

五版 薔薇の一株 **昆蟲世界** 全

定價貳拾錢 郵税貳錢 郵券代用一割増

臨時刊行第一編

名和昆蟲研究所編輯部 編

日本昆蟲分科表 全一冊

定價(郵税共)金貳拾八錢(郵券代用一割增)

臨時刊行第二編

名和昆蟲研究所編輯部 編

通俗益蟲集覽 第一輯(説明書附)

定價(郵税共)金貳拾貳錢(同上)

雜誌昆蟲世界合本出來廣告

昆蟲世界第三巻

本邦唯一の昆蟲雜誌

昆蟲世界 合本

西洋綴 金文字入美装

●昆蟲世界第三巻合本壹册 定價金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

●昆蟲世界第四巻合本壹册 金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

名和昆蟲研究所

春蠶種販賣廣告

本館製造の春蠶種は飼育し易く繭質善良加ふるに病毒皆無なるは既往の成績ニ徴し既ニ當業家諸君の稱賛を辱ふせる所なり現に昨年の如きは豫約を募集せしニ未だ期限ニ至らざるに既ニ製造額以上ニ達するの盛況を呈し止むなく謝絶したり今回大に規模を擴張し蠶室貯桑場、上簇室等を增築し精選蠶種を製造致すべきニ付多少共御注文の上御飼育あらんことを

岐阜縣不破郡岩手村字岩手

樹神館蠶業部

館主 兒玉氏信

一本館製造蠶種の種類又昔、青熟、角又

一代價 框製壹蛾金參錢、普通製一枚金壹圓四拾錢(多數注文は特別割引)

全國昆蟲展覽會褒賞用及び紀念用の金銀木杯製作所

◎秤は何種に拘はらず　の商標幷に守隨製の打込印を御認めの上御買入相成候事必要に候
◎總の商標幷に守隨製の打込印なき者は拙店の製品ょ無之候
◎拙店の製品ょあらざるものは多く原料粗悪にして耐久の見込無之候
◎耐久の見込なきは今回の定期検定成績ょ於て既に御了解相成候と存候
◎耐久の見込なきのみならず損所修覆の時原料の取替又ハ各異形の爲め非常の手數を要し候
◎非常の手數を要し候故に修覆料も亦隨て高價に相成候
◎修覆料の高價ょ止まらず無據御斷り申上候品も澤山有之候
◎拙店は三百年來斯業ょ從事し陸軍省所有の大砲掛秤鐵道局使用の車輛掛秤臺灣總督府の標本秤等を製造せしのみにても技術の巧妙にして堅牢なる製品を出すと明白に候
◎拙店は全國に於て三支店四分店四十出張所七百八代理店を有し修覆又は取次をなさしむるを以て損所修覆の際は獨得の便利有之候
◎定期検定を受けざる秤又はポンド目カン〱等を御使用相成候方往々見受け候得共右は法律上嚴罰有之候間速ょ御棄却可被成候
右は將來秤御買入の諸君に對し豫じめ御注意申上候也

尚弊店の漆器營業種目は左の如くに有之候
美術漆器、一閑張、張拔、螺鈿入漆器、朱塗物、重箱、本膳椀椀盛、菓子椀、吸物椀、折敷膳、會席膳、吸物膳、菓子器、杯洗、盃類、盆類、鏡臺、針差、枕類、鏡類、額縁、塗板額、貿易漆器、紀念木杯、卷煙草箱、料紙文庫、硯箱、香合、棗類、香盆、小箱、塗煙草盆、行燈、衣桁、切手盆、机類、簪箱類、下駄箱、紅葉箱、簞笥、長持、用簞笥、櫛簞笥、膳簞笥等は御注文に依り十分入念調製可仕候
御嫁入道具、家具類、玩弄物を始め其他漆器類一切營業可仕候
特ょ蒔繪は自宅の工場內に技師雇入れ有之に付美術蒔繪は無論其他意匠圖案の求めに應ぜ

名古市榮町一丁目

度量衡
漆器業

守隨本店

(電信略語　シスイ)

(明治三十四年九月十五日發行)

昆蟲世界

(毎月一回十五日發行)

第五卷第四十九號

(明治三十年九月十日內務省許可)(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢 (見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す)
壹年分拾貳部郵稅共 金壹圓八錢

(注意)本誌は總て前金に非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿二字詰一行に付金拾貳錢、三十行以上一行に付き金拾錢とす

明治三十四年九月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
(岐阜縣岐阜市京町)
發行所　名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
發行者　名和梅吉

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶
編輯者　桑原貫之助

同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶
印刷者　河田貞城

(大垣西濃印刷株式會社印刷)

Vol V. OCTOBER. 15TH, 1901. No.10.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE.

EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

（毎月一回十五日發行）
（十月十五日發行）

昆蟲世界

第五拾號　（第五卷第拾冊）

目次

（禁轉載）

（明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）
（明治三十四年十月十五日發行）

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一螢籠　貳個　神奈川縣　露木員策君
一半身肖像（寫眞一枚）　（第三回全國害蟲驅除講習修業生）滋賀縣　木戸元吉君
一益蟲保護器　一個　（第九回全國害蟲驅除講習修業生）愛媛縣　佐伯團作君
一鎊（蜻蛉摸樣）一枚　（第四回岐阜縣害蟲驅除講習修業生）岐阜縣　三間孃君
一あはぢ新聞（昆蟲記事）一枚　（第二回全國害蟲驅除講習修業生）兵庫縣　廣田孫参君
一盃（蜻蛉摸樣）一個　東京　貴族院議員　田中芳男君
一對馬國産昆蟲（膜翅類一種、鱗翅類十種、甲翅類卅八種、半翅類六、直翅類一種、羅翅類一種）五拾七種數百頭　長崎縣　平田駒太郎君
一貝殼蟲記事（英文）壹冊　東京　理學博士佐々木忠次郎君
一螢に就て及螢火に就て各壹冊　東京　理學博士　渡瀨庄三郎君
一貝殼蟲（英文）　壹冊　在米國　理學士　桑名伊之吉君
一日本産天牛科　壹冊　東京　理學士　岩川友太郎君

右當昆蟲研究所に寄贈相成候に付茲に芳名を掲けて其厚意を謝す

明治三十四年十月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◉蟲合せの答案を求む

世に草合せ歌合せ繪合せ等の催ふしありて多興多味の間に各々其道の發達を圖れり、然るに唯り三十萬種屬を有する昆蟲にのみ之無きは斯道の瑕瑾にあらずとせんや、當研究所茲に感あり、今回弘く蟲合せの答案を江湖の博雅に求む、冀くは此擧を賛して來る十一月廿五日までに編輯部へ宛投稿あれ、今その四五例を擧ぐれは左の如し。

（カマキリ／ノコギリ蜂）（赤卒／烏蠋）（七星瓢蟲／八町蜻蛉）（天牛／地蠶）（蟻垤／蜂窠）（甘露／優曇華）
（實盛むし／正雪蜻蛉）（孫太郎蟲／お菊むし）（カブトムシ／クハガタ蟲）

（但し百對以上を優等とし、五十對以上を一等とし、四十對以上を二等とし其以下を三等とす。）

第十回全國害蟲驅除

講習會員募集

開期（自十一月十六日／至同月二十九日）貳週間　定員四十名

前回は應募者非常に多かりしを以て謝絶せし向少なからず、依て爰に第十回の講習會を開く、希望者は十一月五日以前まで成規の手續を經て申込あれ。

但し期限前と雖も定員外に達したる時は入會を謝絶すること前回に同し。規則書入用の向は郵券封入の上至急照會あれ、直ちに同送すべし。

明治卅四年十月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◉第四回懸賞昆蟲寫生畫募集

畫題　**昆蟲**（昆蟲類なれば何にても宜し）募集（本年十月）期限（卅一日限）

一等昆蟲世界一年分　二等同半年分　三等害蟲圖解三枚

我國教育界に於て臨本に依り圖畫を習得せしむる爲め一般學生に實物寫生の練習少なきを憂ひ昨年來三回の懸賞畫題を提出せしに幸に好果を擧けたるを以て更に茲に全國の學生に向つて大募集を企劃せり續々投稿を賜へ

大募集規定　鉛筆畫又は毛筆畫。輪廓線適宜。用紙及其大小は適宜。但一枚一圖に限る。可成は實物大を貴ふと雖とも小形の者は放大圖にするも又は昆蟲に植物を添ふるも共に妨けなし。其用紙中には必す蟲名學校名學級名姓名及ひ年齢等を明記すること。一旦收受せる圖畫は一切返附せざること。最も優等に屬する受賞畫は都合に依り木版又は寫眞銅版等に製して昆蟲世界誌上に掲載す。

明治三十四年十月　名和昆蟲研究所

◉昆蟲世界購讀紹介者芳名（壹名）

靜岡縣　村松誠三君

稲作加害椿象類

論説

◎昆蟲學研究上の新材料（前）

名和昆蟲研究所長　名和靖

現時、本邦に於て昆蟲學を弘く各種の科學技藝の上に應用するに至らざるは、如何にも遺憾の極なりと雖ども、未だ其本領たる農業應用の一事すら完成するに暇なく、品種學名の考定せられざるもの、病毒蝕害何れに歸着すべきか判明せざるものすら多きに加へて、嘗て一たびも農作益害蟲の調査を行はざりしを以て、また一人の能く其細目に通曉せる學者を出さゞるの事情ありとせば、農業以外に之が應用の廣からざるを尤むるは寧ろ酷ならずや。但この事實あるが爲めに、將來、斯學者の研尋に供すべき無量の好資料と、當路者の施設に俟つべきの事業は、累々として前途に遺損充積せるを確認し、昆蟲學は有望多味の一學科たるに違はざることを言明するに憚からず。

それ斯く昆蟲學の占有區域は濶く、拓開啓發すべきの餘地また少しとなさず、隨うて學者の攻究を要すべき材料の、多々その間に伏藏するや問はずして昭らけし、然るをこれを察せず、世間或ひは斯學を以て蕞爾たる一小天地と謬視し、徒づらに其價値を品隲する者無きにしもあらず、特に太甚しきは自から其身を輕んじて、職を去れば則はち斯學を廢む、と放言せる者すらありと云へり。蓋し斯學の實躰如何を察知するの明なきに因れりとは云へ、素とこれ應用昆蟲學の根株の醫學界に工藝界に將た教育界に蔚

屈蟠延して、恒に厚生利用の一要素たることを會解せざるの過ちのみ、請ふ之を次に說かん乎。

（二）昆蟲學と醫學の關係　本邦の昆蟲學は其源泉を中古の醫學に發してより、爾後千有餘年間はこれと榮枯隆替を一にし、以て明治の初年に推移せしが故に、猶ほ今日に至るも兩者間に一種連鎖的の關係を保續するは敢て異とするに足らず、特に近ごろ蚊屬のマラリヤ病傳播媒介說の唱道せられしより、双々互ひに密近して更に一段の親和を加へたるものに似たり。左は云へ、古人の昆蟲を研究せしは所謂、蟬退蜂蜜を得んが爲めにして、藥物を調査し能毒を考明するに止まりき、去れば其研究の區域と調査の方法も、之を今日の如く稍齊整せる科學的性質の昆蟲學に比すべくもあらざるや知るべきのみ。

是を以て二十年前、マ、グ二氏の未だマラリヤ病毒のアノフェレス蚊族によりて分布せらるゝの眞理を發明せざるや、當時の醫家は皆マラリヤを以て尋常以外の奇疾となし、或ひは之を寒熱不調の致す所ろなりと論じ、或ひは之を沼氣の充溢に歸し、其治法を自然の經過に委ね、其方劑を白虎、葛根、小柴胡の諸湯に需め以て或期間を横臥呻吟の間に送らしめぬ。之を換言すれば、昔日の醫家は絕て蚊屬の病因を傳播するを知らざりしが故に、昆蟲學研究の必要を感ぜられざりしのみか、また其療法に於ても一として正鵠を得たるものなかりき。

按ずるに、マラリヤは東洋固有のものと覺しく和漢の史書、歷々之を徵證するに難からず、則はちこれを間歇熱（又黃熱病）と異稱するより定期に溢灑の鑛泉をも間歇泉と稱せるは皆人の熟知する所ろなり。其他書經には武王癘瘧の疾にあひし時、周公金縢の册を櫃中に納めて快愈を祈りたるを說き、禮記の月令には寒熱節ならずんば民に瘧疾多しと云ひ、周禮には秋時に瘧寒の疾ありと云ひ、左傳の定公四年及び襄公六年の記事には水潦方に降り疾瘧方に起る、痁作つて伏すと云へり。又本邦に於ては有史以來頗ぶる疫癘の記事に富めども、主として疱瘡、痲疹及び痢疾を指すが故に今審びらかに瘧疾の跡を索れ難し、去れど正曆三年の春、源賴光がこの疾に臥したりし時、藥石その驗なく衆醫手を束ねたるに、舟橋亞相の來り訪づれて杜子美が詩句を書して水服せしめたるの奇談あれば九百年前早や既に呪術を以て之を治するの法を知りしなる可し、其後約そ百年、嘉保二年に堀河天皇の同じく此疾に罹り給ひたる事

明らかに年表に記し置かれたれば、至尊の君と雖どもまた之を避け給ふの道なかりしを推定し得べし。而して其病源に至りては固より之を知悉せざりしを以て、漢土の瘧論には痎瘧は皆風より生ずと云ひ、病因考には瘧と痢とは同因たり、痢は裏に入るが故に死に至り、瘧は表に病むが故に死せずと云ひ、其他の醫書藥典の類には或ひは十二瘧の説をさへ論じたる者あり。斯かれば本邦の醫書にも之を紹述布衍したるもの前後頗ぶる多く、臆説妄言一にして足らずと雖ども、要は夏に暑に傷れば秋に必ず之を患ふと斷論せるもの丶如し、彼の水戸藩の一侍醫が「如何なる事にや、府下八九年、年を追ふて瘧多く、寛政三四年寒暑の分けもなく、四季共に多く須白以上赤子にも瘧あり」とて寧ろ之が發生と感染に怪訝を懷き、尙ほ幼老の罹疾をも異常の事となせるが如きは、全たく當時の情況を悉せりと謂ふべし。偖これが治法はと問へば、其患者の貴賤に隨うて方劑を異にし、嚴に熱麵、羊肉、雞猪、魚兎の類を食はしむるを禁じ、若し之を愼しますんば再發復た救ふ可からざるに至らんと云へり、蓋し一たび之を患ふる時は他日容易に病毒に感染するの理を窮めざりし結果なる可し。其後醫學は駸々として進歩せしもその病源、豫防法に至りては左まで斬新の説とすべきもの無かりきと云ふ。

然もあらばあれ、今や昭代の餘澤として其病源を究明せられ、其方劑を考驗せられ、而してこれが傳播力の全部を擧げて之を吾が昆蟲學の範圍に隷屬する蚊族の所爲なりと確定せられぬ。則はち是より昆蟲學者の負擔に一倍の重量を加へたるとゝもに、斯學の潜勢力を漸やく醫學界にまで推及ぼしたるものと謂ふべし、豈にまた快ならずや。

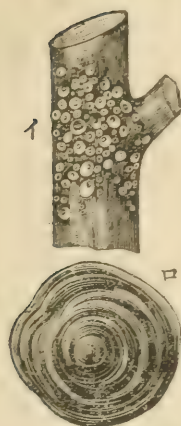
是時に方り、昆蟲學者は如何にしてか自己の責任を完うし得べき、又如何にしてか彼此の利益を併進し得べき、是れ豫め考量を費やすべき重大の問題あるべし、而して之に對するに惟々研究てふ一語の外また他の言辭なかる可し。顧ふに世人の多くは研究の文字を濫用し、眞に精研攻究を遂ぐる者少なきが故に、或ひはこれを以て迂遠なりとせん、然れども斯學者にして誠實に之が調査に從事し、その得たる所ろを執りて盡ごとく之を醫家案上の資料たらしめば、斯學の面目を施こす上に於て、將た醫學を裨補する點に於て、相益する所ろ幾何なるやを知らず。況んや更に歩武を進めて衛生上の毒蟲害蟲より幾多有用の品種をも知得せしめ、自他の間には先天的に緊密離るべからざるの關係あることを悟らしめなば

啻に多大の恩惠を醫學界に施こすに止めず、能く經世濟民の實を擧げ得て斯學の奏功期を速むるの機會をも生ずべきをや。彼の毒源媒介蚊族の研究を避け、之を醫家の掌裡に移さんと欲する者の如きは畢竟事理を解せざるの徒のみ、豈に與に昆蟲學を談るに足らんや。

◎柑橘の有害介殼蟲と驅除法（既に本邦各地に發生するもの及び將來輸入の恐れあるもの）（續）

在米國スタンフォールド大學　米國理學士　桑名伊之吉

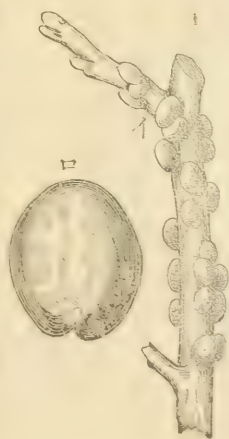
◎各亞科の特性　（一）體面の分泌物と蛻皮とにて成れる介殼を包へるもの、即はちデアスピヂーにして第壹圖に示すが如し。（二）裸體にして雌蟲そのものゝ介殼の如きもの、若くは體面の分泌のみにて成れる介殼を包へるもの、腹部の末端は分裂せり、即はちレカニアイチーにして第貳圖に示すが如し。

第一圖　アスピデオッタス（イ）小枝に雌蟲群附の狀（ロ）介殼

（三）腹部の尾端に長き粗毛を生せざるもの、即はちモノフレビチーにして第三圖に示すが如し。（四）腹部の尾端に二個の粗毛を有するもの、即はちコクサイチーにして第四圖に示すが如し。

◎亞科レカニアイチー（Lecaniinae）の分類　（一）裸體にして雌蟲は綿質を分泌し、卵囊を造りてその內に產卵す、ブルヴイナリア（Pulvinaria）是あり。（二）裸體にして雌蟲は綿質を

分泌せず、自體の下に產卵す、レカニユム(Lecanium)是なり。(三)體は蠟質を以て迫まれたり、セロプラステス(Ceroplastis)是なり。

◎亞科ヂアスピヂ(Diaspinae)の分類　(一)雌蟲の介殼は通常圓形にして蛻皮中央にあり、雄蟲の介殼は雌蟲に似て稍長し、アスピデオタス(Aspidiotus)是なり。(二)雌蟲の介殼は通常圓形にして蛻皮は中央にあり、雄蟲の介殼は長形にして白色ならず、且つ中央を縱走する凸起線なし、パラトリア(Palatoria)是なり。(三)雌の介殼は長形にして尾端に至りて擴張し、蛻皮は其一端にあり、雄蟲の介殼は長形にして白色に、中央を縱走する凸起線あり、カイオナスピス(Chionaspis)是なり。(四)雌蟲の介殼は長形にして尾端に至りて擴張し、蛻皮は其一端にあり、雄蟲の介殼は雌蟲に似たれども甚はだ小なり、マイテラスピス(Mytilaspis)是なり。

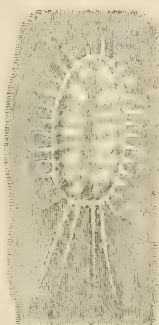
◎學名及び其特性の概記　(1) Icerya perchasi, Mask.(學名)　Monophlebinae(亞科名)　体の長さ四ミメ乃至八ミメあり、暗柑色を呈す、觸鬚と足とは暗黑色なり體面は多少黃白色の粉末を以て包へり、體の尾端にある大なる卵囊は白色にして縱走せる幾多の凹條あり、卵囊は體より少しく長く綿質にして極めて柔軟なり、中に夥多の淡紅色の卵あり、卵は楕圓形にして七分一ミメあり、これより孵化したる幼蟲は赤褐色にして自由に活動をなせり。此種は濠洲產にして嘗て檸檬樹とゝもに加州に輸入せしを以て同州の果樹園に大害を及ぼせしが、後ち該蟲の原產國たる濠洲より其天仇たるVedalia cardinalis 瓢蟲をも輸入せ

第二圖
レカニアム(イ)小枝に雌蟲群附の狀
(ロ)雌蟲

しより、多く害を及ぼさゝるに至れり、是れ瓢蟲の介殼蟲の卵子を食殺するに因れり。但憾むらくは余が客年の夏和歌山縣下に於て採集せるIcerya の標本は僅かに四個ありしが、何れも甚はだしく破損せる爲め茲に種名を確かむること能はざるを。

(2) Dactylopius adonidum, C.(學名)　Cocciniae(亞科名)

第三圖　イセリア、パルチヤサイ(イ)雌蟲の群附する狀(ロ)雌蟲

雌蟲の體長は二、五ミメ乃至三ミメ、幅一、五ミメあり、白色にして少しく黄色を帶ぶ、觸鬚と足とは淡褐色あり、通常綿質の分泌物を以て軀面を包へり、軀の各節の兩側には長き房狀の白長絲を具ふ、その尾端にある四個のものは特に長し。此種は未だ本邦に發生せずと雖ども、米國フロリダ州及びルイジアナ州に於ては能く柑橘に發生加害すと云ふ。

(3) Dactylopius destructor, Comstock.(學名)　Coccinae(亞科名)　雌蟲の體長は三ミメ乃至四ミメありて幅は二ミメあり、黄褐色にして觸鬚と足とは軀と同色なり、軀面に分泌せる白粉は甚はだ少なし、軀の兩側にある白絲は短かく卵は○、四ミメありて長橢圓形をなせり、其色淡黄にして孵化せる幼蟲は半透明とす。此種は未だ本邦に發生せるを見ず、米國に於てはフロリダ州及びルイジアナ州の柑橘園を害すること尠しとなさず。

第四圖　ダクテロピアス、ロングフヰリスの雌蟲

(4) Dactylopius longifilis, Comstock.(學名)　Coccinae(亞科名)　雌蟲の體長は四ミメ乃至五ミメありて

幅は二ミメあり、淡黄色にして觸鬚と足とは暗褐色なり、體の周圍には拾七個の房狀をなせる白長絲を具し其尾端の四個は甚はだ長し、幼蟲は成蟲と同色なり（第四圖）。此種は加州フロリダ及びルイジアナ州の柑橘園に加害すれども、未だ本邦に於ては其發生せるを見ず。

（未完）

◎昆蟲の分布を記す

岐阜中學校教諭　長野菊次郎

人類の如く自から食物を得べき方法を講じ且つ有無相通じて其利益を交換し得べき動物は、己れの生活を計らんが爲めに必しも塲所を移す必要を見ずと雖ども、人類以外の動物に於ては食物の有無によりて己れの位置を轉移せざる可からざるや言を俟たず、然れば動物が自から安全に生活し、又其子孫をして生活の安全を得せしめんには、事情の許す限り食物に乏しからざる各地に分布する必要あることも亦明白なり、而して飛翔力を有するものは其分布力甚はだ優勢なるを以て、地球上最も廣く散布せるものは翅翼を有する鳥、昆蟲の二類なることも亦理に於て明かなり。

鳥類は暫く措き、昆蟲は斯くの如く自動的即はち直接に分布するのみならず、又他動的即はち間接に他物に依りて移動すること多きを以て、昆蟲の分布や更に一層の盛大を來たせるなり。

昆蟲の分布を分ちて自動的分布即はち直接的と、他動的分布即はち間接的との二種とす。

（一）自動的分布　前述の如く昆蟲の大部分は翅を有して自から飛翔することを得るのみならず、又跳脚を以て躍り、歩脚にて行き、游泳脚にて游ぐ等、種々の運動器を有するを以て食物の在る處を尋ねて自から位置を移し、各地に分布することを得るは世人の常に認むる所にして常人の異しまざる所なり、特に彼の飛蝗の大群が一地を荒して一地方に轉移すると同時に、多少卵粒を各地に遺して年々其地方に非常

の大害を蒙らしむるが如きは著しきものなり。

(二)他動的分布　植物の果實、種子が風力により水力により又他物等に附着して分布するが如く、昆蟲も亦、他の力を藉り、又は他物に附着して分布すること少なからず、今順次、是が大畧を述ぶべし。

(甲)水力によりて分布すること　水棲の昆蟲が自動的に水中を游泳して其位置を移すとの外、時には水の流動につれて知らず知らずの際其場所を移すことも亦少からさるべし、特に昆蟲中にて其幼蟲が木質を喰ふものゝ卵は、屡々木材の罅隙又は裂孔等に附着して海上に浮び、水の動搖の爲めに遠距離の地に送らるゝこと少からざるなり。

(乙)風力によりて分布すること　昆蟲は其軀小にして輕く、且つ割合に大なる翅を有するものも少からざるを以て、風の爲に吹き飛されて遠距離又は高位置の場所に至ること少からず、マックラクラン(Mac Lachlan)嘗てニュージーランド(New Zealand)より大西洋を航して歐洲に歸る際、北緯六度四十七分、西經三十二度五十分の處に於て數百の蛾飛び來りて檣架又は帆索等に止まりしことを認めたり、而して此位置たるやケープ、ベルデ群島(Cape Verde Islands)の南西九百六十哩、南米の海岸より北東四百四十哩の所にありき、蛾はDeispeia Pulchella にして東部熱帶地方の如き乾燥せる地方に普通の種にして、英國には稀に産し、南米には古來産せざる種とす、然れば此蛾はケープ、ベルデ群島か又は亞非利加海岸の或部より來れること疑ふ可からざるなり、而して此海上千二百哩以上を渉れることは強き北東貿易風の爲に吹き送られたるや疑ひなかるべし、ルーカス(Lucus)氏は千八百七十年大西洋中の南緯二十五度、西經二十四度の海上即はちブラジル(Rrazil)國の海岸より殆と一千里隔りたる所に於て、數種の蛾の多數を見たり、此所ハ南東貿易風の及ばざる所なるを以て、西方の強風によりてブラジルより送られたるに相違なかるべし、又スミス(Smyth)氏は地中海に於て數万の蠅が百哩以上隔りたる地方より南風に吹き送られて船に來りしことを報せり、又アルバルト、ミューレル(Albert miller)氏はプルシア、ガンマ(Plusia gamma)と云へる蛾をモンブラン山(Mont Blanc)の頂に於て目擊

し、又小き膜翅類及び蛾の數種をピレニース山(Pyrenees)の一万一千英尺の高地に認め、又數多の蠅及び甲蟲等をアルプス山(Alps)の氷河又は氷原上等に於て捕へたることあり。

(丙)他動物に附着して散布するもの　蚤、虱、蠅、羽虱等の類にして、人類其他の動物に附着し又は寄生するものは、其動物の移動と共に塲處を移して各地に分布せらるゝこと敢て異しむに足らず、外國と貿易を開きて各種の禽獸を輸入せしより、之と共に輸入せられたる昆蟲も亦少からざるなり、鷄の羽蟲、犬毛虱、馬の虱蠅、牛寄生蠅等此例なり。

(丁)運輸物に附着して散布するもの　交通の機關大に備はり、運輸の便大に進むに從がひ、昆蟲の卵又は幼蟲、蛹、成蟲等が自動力を有せざる植物其他の物品に附着して各地に分布せらるゝことの漸次盛なるは止むを得さる次第なり、佛蘭西の葡萄園の大部を荒敗に歸せしめ、其災害延いて葡萄牙、瑞士より伊太利、日耳曼の一部にさへも及びたるヒロキセラ(Phylloxera vastatrix)の如きは最初亞米利加より佛蘭西に輸入したるものなり、又近時の一問題となれるサンホゼー貝殼蟲の如き未だ容易に原産地を知る可からざらんも、古來亞米利加に産せざりしものとせば、必らずや他國より輸入せられたるものたること論なきなり、又北海道地方の林檎に大害を及ぼすエゾシロテフ(Aporia crataegi)は始め歐洲より米國に移り、次に日本に來れりと云へり、而して此等は如何にして散布せられたるか、判然せざる點多かるべきも、果實又は果樹等の輸入品に附着して來りたるものと考ふること至當ならん、其他穀菜、禽獸、魚肉等の食品より、器具、標本、藥種、織物等に附着して此處彼處に散布せらるゝもの少からざるなり、トコジラミの如きも始め外國より神戸に輸入せられて、再後各地の兵營又は横濱、函館等に傳播したるは、多分物品に附着して分布したるにはあらざるなきか。

(戊)運輸器械に附着して分布すること　運動力を有する器械卽はち船車特に滊車、滊船等に附着して昆蟲の分布する事も又大いに注意すべき點なり、トコジラミの如きは維新前、幕府に於て外國より購求したる古船中に居れりとは嘗て田中先生の説かれし處なり、余は此事實を以て直に本邦のトコジ

ラミが最初船によりて傳播せられたりと斷言するものにあらずと雖ども、亦大ひに鑑むべき點ならん又火光に集る處の昆蟲例へば蛾類、浮塵子類等は滊車の火光に誘はれて、知らず知らず數十百里を移行し、遂に一地方より他地方に傳播せらるゝこと少からず、彼の三化生螟蟲の現今に於ける分布區域が多少鐵道線路と關係を有する事は大ひに此事實を確むるものなるべし。

（巳）人爲的に分布すること　人の力によりて分布を助けらるゝ昆蟲は、直接に間接に人間に對して利益を與ふるものに限れり、例へば支那の原產ならんと稱せらるゝ蠶が、今日に於ては世界の各地に飼養せられ、又樗蠶の如きも糸を製すべきにより、本邦にては明治十年の頃、特に支那より輸入せられたるが如し、其他米國政府が害蟲驅除の目的を以て濠洲より瓢蟲の種類を移したるが如き、又同上の目的により內地產の螳螂を北海道に移したるが如き、其他蜜蜂、山繭、柞蠶等の如く多少人に利益を與ふるものは各地に傳播せられて、之が蕃殖を計る等、皆人が故意に分布を助けたるものなり。

昆蟲分布の大略に關しては以上述ぶる所の如し、是によりて之を觀れば、交通の便日に開け、貿易の業月に盛なるに從がひ、一國に於ける昆蟲の種類は漸次增加の傾向を生じて次第に各地に播布の趨勢を呈することは勢ひの免る可からざる所なり、然らば應用昆蟲學即はち昆蟲の國家に及ぼす經濟の點より之を如何にせば可ならんか、曰く害蟲を輸出、輸入し、又は一地方より他地方へ傳播せしむる恐れあらば（否現今既に大ひに此恐れあり）充分の調査と嚴重の取締をなすと同時に、大ひに之が撲滅を計り、又有益なる昆蟲は之を外に迎へ、內に傳へて相應の保護と充分の蕃殖とを計り、以て國家百年の大計を講ずること今日の急務なるべし。終りに本編は倉卒の際に成りたるを以て粗漏の點は固よりなり、尙ほ參照として昆蟲世界第六號松村松年氏の外國より輸入せし害蟲と題せる條を見るべし。

◎稻作加害の椿象類（第十版圖參看）

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

稻作加害の椿象類中最とも恐るべきはクロクサガメにしてイチガメムシ、ハリガメムシ及びクモガメムシ等之れに亞げり、是等の種は年々各地に發生して被害を爲すものあるが、この外多少稻作に加害する種類亦尠からず、今其中に就て最とも普通なる種類若干を擇びて茲にその形態の一斑を述べんとす。

第一、イチガメムシ Aenaria Lewisi Scott.（第十版第一圖）　イチガメムシは有吻目中、陸棲五節類に屬する一種なり、全躰淡き茶褐色にして躰長四分二厘内外、幅一分八厘許りあり、頭部は方形を成し、中央には二凹溝を存す、複眼は黑褐色を呈し、二單眼は黃褐色にして頭頂部の后方に存在せり、觸角は長一分五六厘、五節にして一、二、三の三節は淡紅色を呈し、四、五の兩節は尖端の半は褐色なり、前胸部の中央前緣に近き處には二個の淡褐色點を印し、中胸楯板は倒三角形をなさずして長く后方に伸ぶ、其基部即ち前胸の后緣に近き部分には二個の淡褐色の點を有せり、而して楯板の基部は橫徑一分、后方への長さは一分五厘許りにして漸次に細まる、又前翅の革質部の色澤は頭胸部に同じけれども、前緣は黃褐色にして膜質部は半透明なり。

此種は常時稻田に發生して加害するものにあらで、只早稻の抽穗時期に際し各所より集まり來り、其液汁を吸收して終に結實を充分ならしめざるものとす、而して一たび此時期を過ぐる時は、自然生の禾本科植物に向つて移殖を試ろむを常となす。

第二、シロヘリガメムシ Aenaria assimulans, Jlk.（第十版第二圖）　此種の前翅の前緣部は黃白色にして其翅を收め居る間は著るしく緣邊に白色を呈するよりシロヘリガメムシとは稱せしなり、其形ち稍少

しく大なるのみにて色澤外觀頗ぶる前種に類似し居るを以て之が區別に苦しむことあり、全躰綠褐色にして黑斑あり、躰の長さ四分五六厘、幅二分二厘内外を有し、頭部は前種に似て中央に凸凹あり、複眼は黑褐色にして單眼ハ赤褐色を呈し二個は後頭部に存在す、觸角は長さ一分五六厘許り、第一、二の兩節は淡黃褐にして第三、四、五の三節ハ黑褐色を呈す、前胸部及中胸楯板の形狀は前種に類似し、前翅の前緣は著るしく黃白色を呈せり、その膜質部は暗黑色にして半透明に脚部は淡綠褐色を呈す。

此種は往々山間の稻田にて見ることあれども、大なる加害をなさず、常時は竹笹中に棲息せり。

第三、ウヅラガメムシ Aelia fieberi, Scott.（第十版第三圖）此種も亦陸棲五節類に屬する一種にして躰の長さは二分八厘乃至三分計り幅一分四厘内外あり、頭部は鈍三角形をなし、先端は二つに分れ中央には暗褐色の縱帶あり、複眼は暗褐色、單眼は茶褐色にして後頭部に存在す、觸角は長さ一分二厘許り第一、二の兩節は淡黃白色、第三、四、五の三節は赤褐色を呈す、前胸部の背上には頭部より續きたる暗褐色の縱帶と其兩側に又同色の縱帶ありて、翅鞘上に達し居れり、中胸楯板は形狀稍や前二種に似て暗褐色の縱帶ありて其兩側黃褐色を呈し、基部の兩側にも黑斑を有せり、前翅の膜質部は半透明にして脚部は黃褐色なれども跗節は暗褐色をなせり。

此種は常に自然生の禾本科植物に發生して液汁を吸收し居れども、又苗代田或ひは陸稻に集まりて加害することありされど大なる被害なきもの丶如し。

第四、トビイロガメムシ Gonopsis affinis, Uhler.（第十版第四圖）此種は全躰赤褐色にして扁平なり、躰の長さ五分乃至五分五厘、幅二分二厘乃至二分五厘内外あり、頭部は三角形をなし其頂に凸凹あり複眼は赤褐色にして、單眼は黃褐色を呈し、二個あり、觸角は比較的短かく、一分三四厘許り、基部の

四節は赤褐色なれども、末端の一節は黑褐色を呈す、又前胸部の中央には横隆起線ありて其兩端突出し中胸楯板は倒不等邊三角形をなし、黃褐色の縱線三條あるかの如くにて基部は暗色の斑紋を存せり、前翅の革質部は赤褐色を呈し翅端の膜質部は淡褐色にして半透明なり、脚は短かく赤褐色を呈す。

此種は常に芒に發生するものなれども、亦往々稻作に加害をなすことあり

第五、クモガメムシ Leptocoris varicornis, Fab (第十版第五圖)　クモガメムシは其名の如く躰細長にして脚部長く、恰も蜘蛛の或る種に似たり、全躰茶褐色にして黃綠色を帶べり、躰の長さは五分四五厘幅八厘内外にて細長形なり、頭部は方形にして前方に突起を生じ其基部兩側より觸角出づ、複眼は黑褐色を呈し、單眼は二個頭頂に存在す、觸角は四節より成り長さ四分五六厘許り、基節は太くして第二節に接する部分は黑褐色を呈し、每節半分は共に黑褐色をなせり、前翅の膜質部は茶褐色にて、脚部は股節何れも太く、跗節端は黑褐色を帶ぶ。

此種は早稻の抽穗時期に際し、四方より集まり來り稻の液汁を吸收して成熟に到らしめず、終には粃米となすものなり、然し乍ら常時は自然生の禾本科植物に發生して產卵生育するものとす。

第六、オホクモガメムシ Homoeocerus marginatus, Uhler. (第十版第六圖)　此種は前種に似て大形なるを以てオホクモガメムシとは稱せるなり、全躰黃褐色にして綠色を帶べり、躰の長さは雄蟲にありて五分五、六厘、幅一分二厘許りなれども雌蟲は少しく大にして躰長六分四厘、幅一分五厘内外あり、頭部は方形にして觸角は前頭部の末端兩緣より出で、複眼は暗褐色にして單眼は二個後頭部に存在す、觸角は長さ五分二厘許り、四節より成り基節及び第二節は赤褐色をなし、三四の兩節の末端は褐色をなせり、前胸部は前方狹く后方廣きを常とすれども、中胸楯板は倒三角形なり、前翅の膜質部は茶褐色を呈し、脚部は

黄褐色より綠色を帶べり。

・此種は餘り多からざる種にして、自然生の禾本科植物に發生し居れども、時としては稻田に來りて加害することあり。（未完）

暮秋蟲　あさ日さす野川の堤こほろぎの鳴こゑさむく秋ふけにけり　（中島歌子）

◎第四回岐阜縣害蟲驅除講習生五分間演說

左は去る九月七日より仝月廿六日まで二十日間、當昆蟲研究所内に開設せられたる第四回岐阜縣害蟲驅除講習生の五分間演說の筆記なり、總員三十三名なりしかど、茲には役員外の會員の演べたる三四を轉載してその一斑を示すことゝなせり。

（一）岐阜市に於ける昆蟲思想の普及　惠那郡　伊藤米太郎

私は本會に入會致しまして以來、岐阜市近傍に於きまして最とも感服致しました事柄は、婦女子といはず小學兒童といはず、一般に昆蟲思想の發達して居る事であります、此頃私は權現山へと昆蟲の採集に參りました時に尋常科の………何ンでも三四年生と思ふ位ゐの兒童が居りまして、忽ち私の脊負ふて居る採集箱に目を注けて、萬望、中の蟲を見せて吳れーと言ひますから、見せた處が何うせ知るまいと思ひ乍ふも蓋を開けて見せました處が、豈よ圖らんやその蟲に就て一々名を言ふて歸りました、そこで私は實に意外の感じを起したのである、又前日、長良川の堤防へ竹を取りに參りましたが、幸はひ夕

方でありましたからヒゲコガチの類が何羽となく其處此處に飛ンで居ました、そこで之を捕ひやうと存じましたけれども、生憎捕蟲器が持合せて無かッたから空手で打落さうと一所懸命に追ふて居ッたのです、其處へ偶々十四五とも見ゆる女子が四五人參り合せまして平氣な樣子で……然かも悦んで手傳ッて呉れました、御蔭で以て三四羽を手取りにして寄宿舎へ歸りましたのである、岐阜市ではイザ知らず斯くの如き事は到底私の地方などでは見る事の出來ぬ話で、流石名和先生の餘澤が知らず〳〵も此等の儕輩までに推及ぼしたのであると云ふ事を悟り、且つ頗ぶる感服した次第であります、若し此美風が一般に擴がる日には社會が此研究所より被ふる恩惠と云ふものは頗ぶる偉大なものと信じます、そこで私も歸鄕の上は一つ大ひなる昆蟲風を吹かして恰かも二百十日の暴風雨が來ると農民が恐れるやうに、害蟲驅除講習生が來れば强大なる昆蟲風が吹くと言はせたいと思ふのです、一躰此昆蟲風と云ふものは二百十日の風雨とは違ふて決して農作には害が無い計りか、却つて非常な利益を受くるやうに成るのであるから、斯くして農民の腦髓へ昆蟲思想を注入して、舊來の弊風を掃ひ、着々事業の改良を計り、國家の實力を增進致したいと存ずるのであります。

（二）農作害蟲驅除の方針に就て

養老郡　原田晟

私は害蟲驅除と云ふ事に就ては極めて經驗に乏しく又昆蟲學には幼稚な者ではありますが、唯一つの希望を述べたいと思ふ、諸君も御承知の通り私の居ります郡の地勢と申すものは、水塲が六分で山岳が四分でありまして、水塲の如きは年々多少の水害を被ふりますから、害蟲の驅除には極めて不便で、是が爲めに非常の困難を感ずるから自然完全な驅除法を未だに行ふ事が出來ぬのである、是は甚だ遺憾な次第で御座りますが何とも致方が無い、又山岳地方となりますと、是亦害蟲驅除の感念に乏しくありますから其方法さへも今に立ッては居りませぬが、幸ひにして從來甚はだしい蟲害とてはありませんでした現に今年の如きは牧田村の一部にやッと一反餘步の田地に稻の螟蛉が發生しました位ゐでありますから隨つて害蟲などゝ云ふ點になりますと農家は一向に無頓着で、誰しも顧りみる者が無いと云ふ有樣であ

ります、左樣でありますから之が奬勵と申しても餘程困難であッて、當局者も寧ろ迷惑の有樣で未だ確實なる方法とては設けてはありません、併し其れは其れとして私共講習生は今後如何なる態度を取り、又如何なる方針を取ッたならば自己の責任の一端を盡すことが出來るかと云ふと、此際一ト奮發致しまして成るべく共同一致と云ふ事に致し、郡內には相當の區劃を設け、夫れ〳〵受持區域を定めまして時々巡廻もすれば講話もする、又幻燈會も開けば會合もすると云ふが如く、苟しくも此事業に必要なる機關は一通り造りまして、漸々農民の迷信を除き斯くして驅除の必要と云ふことを自然に悟らしめるのが第一だらうと思ひます、其後に至り普及と云ふ日には驅除を實行致させまして明らかに其利益のあることを示し、遂には豫防驅除を行ふやうに致させたい、夫れに付きましても大切な要件は總ての仕事を共同的に致します事で、何事も共同責任として一村一郡の公利公益を標準と致し、更に進んで一縣一國の利益を計らんければ成らぬと存じます、聊さか感じた事柄を陳述致します。

（三）桑樹の害蟲クハノシン蟲と其寄生蜂　益田郡　松下千吉

諸君の知らるゝ如く、私の鄉里飛驒國は重に養蠶をやッて居りますが全躰の凡そ八割は皆養蠶で以て生計の一助と致して居ります、然るに近年に至り桑樹の害蟲が非常に發生するやうになりまして桑の心蟲と尺蠖の害が特に多いので、何れの養蠶家も皆困ッて居ります、先づ本年の如きも心蟲の大發生がありまして、本縣廳からも郡役所からも其々係員が出張に成り、嚴重に驅除を行ふた結果は僅か三日間に百五六十貫目を捕獲致しました、是はたゞ捕ッた計りではありませんで蟲量壹貫目に對し金壹圓づゝで買上げたのでありますが、恰かも雨天續きでありました爲めに目方に違算を生ずるやら、調査上に不結果を來たすやら、餘り面白い結果とも申されませんでした、尤とも買收法の影響として一種商賣的に流るゝの弊害を生じ、又種々の不平も生じましたので郡內でも心ある者は私かに嘆息致した次第でありますが一方から申せば斯く憂ふべき事柄が多くありましたが、又一方から申せば悅こぶべき事もありました、其れは外でも無い此心蟲を斃す所ろの寄生蜂の發生であります、丁度私は三年間試驗を致しましたるに

十中の八までは皆この有益蟲に寄生せられて居りました、如何に驚くべき程ではありませぬか、是れぞ名和先生の所謂益蟲保護の必要であッて、人力を勞するに及ばぞ自然的に驅除し得べき最良最効の方法と信じます、私は先年或雜誌で見ました事があるが、岐阜縣の或地方で夥たゞしく心蟲が發生した時ュ甲村大ひュ驅除に盡力し、乙村は少しも手入を致しませんで驅除を怠たりて居りましたのュ如何な譯ゥ折角驅除を致しました村方では却つて該蟲の發生甚はだしく、打捨てュ致して置きました村では少しも其害が無くあッたとの事でありましたさうです、是は如何にも不思議の樣ではありますが、畢竟右の寄生蟲すなはち益蟲の有無に頓着なく、害蟲と共に殺害した結果は甲村の如き被害を來たした事と信じますから、益蟲の保護は決して忽には出來ませぬ、若し此の兩村のやうな成蹟計りになりますと、何れの地方でも害蟲驅除を行はんやうに成りまして、益々迷信者の氣焔計りを高める譯に立到りますから餘程注意せねば成らぬと考へます。

(四)イナゴの卵塊採取の實驗　　安八郡　中村齊二

稻作害蟲の一なるイナゴ驅除の一法として其卵塊を採取致しました事がありますが、私の住處……神戸町末守邊では此蟲が稻作等ュ害を與ふることゝ云ふものは實ュ非常でありまして、稻田でありますと畦周りの二株通り位ゐは從來皆喰損せられましたのです、稻後ュ麥作を致しましても同じく一本の畦通りは喰ひ盡さるゝものでありますから、村民一同は其害に恐れまして、去る三十二年の五月二十日より六月十日までを期として之が卵塊の採取買收法を行ひました、偖何故ュ斯ういふ期限を設けたかと申すと、私の地方では大概五月二十日頃でなければ田ュ水を引入れませぬ、そこで田に水を滿へて耕作をすると、卵塊は水面に浮きて風の方向に從つて或る一隅へ寄り集まりますから、容易に之を掬ひ取ることが出來るのである、そして其期節も丁度六月十日時分までが宜しいから先づ斯く定めて實行しました、但こゝュ一つ注意せんければ成らぬ事は六月の中旬となりますと、外面からは如何ュもイナゴの卵塊でありますが中を割いて見ると殆んど出殼計りと成つて居ます箇樣な譯でありますから自づから日限を定

めるの必要があるのです、斯くして取ッた卵を如何にして買上げたかと申すと、一升を七錢で買收の約束を致し、切手と引替に致して置きまして實金は後日の支拂ひと致しました處が、其年には澤山取れまして私の區内百二十一町歩の處で計りも四石七斗餘即はち三拾三圓餘となりましたが、其翌年即はち昨年は九圓許りの支出で濟みましたのみか、此蟲の姿が極めて目に附かん位ゐに減少を致し、今年の如きは卵塊さへも一向見ゑぬ樣になりました、其効驗は實に驚く計りであります、併し之を行ひまするには餘程嚴しく致さんと弊害に罹ると申すのは、追々金錢に目が眩みまして他町村から拾收して參ッて買上を願ふやうに成るのです、そこで私共は假ひ一塊でも他村のものを持ッて參ッて僞りの申出をなした者に對しては、是迄眞正に取ッた分に對しても一錢も遣ふんと云ふ事に規約を定めてあッたのです。

雨中蟲（あめのむし）　むら雨（さめ）は晴（はれ）やしぬらん鳴（なき）やみし庭（には）の蟲（むし）の音（ね）また聞（きこ）ゆなり。　（高崎正風）

◎害蟲短片　（其十）

靜岡縣　昆蟲生

（二十）トラカミキリ竹を害す　今夏暑中の賜暇を得て歸省し、嘗て藏する所の古竹を以て或用に充てんとせしに、料らざりき害蟲の蝕害を受け居らんとは、仍て徐かに之を割きたるに一種の天牛の幼蟲を獲たり、取て之を飼育するに三日の後に化蛹し、一週の後に羽化して成蟲となれり、その性狀を驗するに疑がひもなく岩川學士が昨年動物學雜誌一四四號に掲載せられたるトラカミキリ（桑のものをばオホ

トラカミキリと命名せられぬ。)なりき、余は始め斯かる蟲種の竹に寄居せるをば夢にだも知らず只その被害を憤りしに、今にして自己開智の上より打算すれば一條の古竹敢て吝むに足らざるを悟れり。

(廿一)シリクロカミキリ桑を害す　此種は朽木を喰害するものとのみ思ひ居りしなり、然るに去る四月下旬昆蟲採集の際偶々路傍の桑樹に貝殼蟲の寄生して枯死せしめたるものあるを認め、歸來調査するに皮下に木蠹蟲の栖息するものあり、之を試育せしに八月下旬に蛹となり、五日を經て成蟲に化せしは卽はちシリクロカミキリの雌なりき、而してその幼蟲の喰害の狀たる始めは樹皮内を喰廻り、或ひは穴を穿つに止まり普通の天牛の如く木髓を喰害せざるが如し、是れ兩者の異なる所以歟。

(廿二)蠅の加害作物　凡そ作物を害する蠅を問へは先ず葉蠅と答ふる者多きも、決してそれのみにはあらざるなり、余先に縣下富士郡に旅行の際、小豆の芽の痛く枯死せしを怪しみ、その加害蟲を捕ひ來りて飼育をなしゝに後遂に一種の蠅に化せり、身長微小にして僅かに九。開翅一●六、體色は藍青色なり、每年多少は發生するものなれど今年は著るしく多生して小豆を害せり、其加害の狀を云へば先づ新芽を枯らし次で莖幹にも及ぼすにあり、戒しめざる可からず。

(廿三)稻を害する蠅種　荳科植物に加害の蠅は前述の如くなるが、他に稻根を害してその發育を妨たぐるものあり、余の縣下志太郡にて採集せしは一の根蛆にして常に稻根に加害するとは恰かもキリウジの如くなりしも、一旦成蟲となるや一種の蠅となれり、其色灰白を呈し胸背は殊に黑く、腹背には黑白の二線を有し、身長一と二●開翅二と五なり、從來同地方稻株には數十の成蟲群集し居るを以て細かに根部を檢すれば幼蟲また栖息せり、而してその被害の狀は先づ下莖部を黃變せしめ之が爲めにその伸長を妨ぐるにあるものゝ如し。

◎蟲界雜記（第四）

第七回全國害蟲驅除講習修業生　千葉縣　齊藤啓二

(七)稻螟蟲に關する誤謬　農商務省農務局出版の螟蟲圖解が、甚はだ杜撰のものなりしことは世已に

定評あり、今更吾人の贅言を要せず、然れとも是れ今を去ると恰んど卅年前なる、明治十六年の出版に係るものなれば、當時の昆蟲界の狀況も察せられて、吾人は唯甚はだ氣の毒に感ずるのみ、然るに余は何ぞ圖らん、比較的昆蟲學の進步したる今日而かも雷名天下に轟きたる松村松年氏の好著と聞へたる初版日本昆蟲學に於て亦同樣の事實を發見せんとは、是れ實に吾人の不審に堪へざる所とす、試みに同書(第一版)第百十二頁稻螟蟲の條下を見よ、即ち記して(上畧)「葉部に卵子を附着し躰毛を以て之を掩ふ年二回發生す、單に之を螟蟲とも云ふ」とあるを見ん、是れ即ち二化螟蟲を記載したるものなれとも如斯は誤謬にあらずして何ぞや、蓋し氏が所謂、三化螟蟲と大螟蟲の卵子は共に躰毛を蒙れとも、二化螟蟲の然らさるとは何人も知る所、而して氏が後の著なる日本害蟲篇に於ては明かに之を區別したるを見るなり、去れば余は氏が如何にして斯の如き誤謬をなせるかを解する能はず、彼の農商務省出版の螟蟲圖解を初め、從來刋行の書は概ね斯かる誤謬を傳ふれとも、其書たるや斯學幼稚の際に於て其實眞の昆蟲學者にあらさる人の著に係るもの多ければ別に怪むに足らずとするも、日本昆蟲學の如き名著にして而も此の最も見易き誤謬ありとは吾人の大に遺憾とする所なり。

(八)栗蠶の寄生蜂　　去る明治卅一年の春、下總御料牧場に於て其構内に植付けられたる栗樹に栗毛蟲即ちシラガタロウの繭の甚た多く附着しあるに一驚を喫し、試に其二三個を採取し見たるに、其内に甚た重き繭ありて、中なる蛹は恰も羽化せさるが如し、元來シラガタロウは九月下旬頃迄には悉く羽化し出つへき筈なるに、繭の重きは甚はた訝し如何なる譯ならんかと繭を破り撿せんと欲したれとも、彼のスカシダワラ中々强靭にして破ると能はず、止むを得す其まゝ家に持歸りて割剖し見たるに、内には殆んと蛹大程なる蛆の寄生し居たるありき、其狀によりて察すれば紛ふべくもなく、一種の寄生蜂なれば其後諸處を尋ねて同樣のもの數個を求め飼育器に入れて該蜂の羽化するを待てり、然るに五月廿五日に至りて一頭羽化し出てたるのみにて他は委く斃死せり、昨年六月多くの栗蠶を收容し來りて飼育を試みたるに、又々羽化せさるものあり、依りて之を大切にし置きたるに、本年五月四日に至りて一頭羽化し

出てたり、該蜂は觸角長く腹部側扁なる中形種にして二頭共に雌なるが如し、委細は他日精撿の上更に精報せんことを期す。

(九)蚊　夏季に於て吾人の最も惡むへき昆蟲は何ろと問はゞ何人も蚊を以て第一と答ふるならん、然り蚊や實に吾人を苦しむること甚だし、然るに房州清澄山には此の惡むへき蚊の居らさる由にて、居民は盛夏尙ほ蚊帳をつらずと云ふ、實に內地人の幸福と云ふべし、是れと正反對にて米國ヲリノコ河の近傍には非常に多く、土民の困難容易ならず、早朝相逢ふ毎に御早ふとは云はずして昨夜の蚊は如何と問ひ言ふを常とすと云へり、以て同地人の如何に蚊に苦しめらるゝかを察すへし。

◎和漢の學者と昆蟲　（其七）

古奥　靑蓑白笠の人

○醫訓曰波、萬葉集にいはゆる指羽、寳基本紀にいはゆる刺羽といふもこれなり、即天子即位の時ょ女孺所持の長柄の團扇、又羽鳥ともいひ、又目隱とも、御蔭などいへり、團扇は則似翳而小、可以撲蠅拂蚊、故に名づけてウチハといふ。（右、谷川士淸の鋸屑譚）

○薺を行燈よつりて蟲除とす　物類相感志ょ、三月三日收菜花置燈檠上、則飛蛾蚊蟲不投、といふことあるは、吾邦のならはしに、四月八日薺をとりて行燈につり置きて蟲よけとするょ似たり。（右、山崎美成の世事百談）

○晚蠶蛾は、よき蠶のてふになりて、交合するを引はなし用ゐれば、功ことょ著るし。（右、白川樂翁の退閑雜記）

○蟲の巢の事　東北邊地蝦夷のあたりより來る蟲の巢と云ふ靑き玉あり、海中にありて小蟲宿り居る巢なりと云ふ、其大小不同、中ょ自然に穴通りて巾着の壓子ょしてよし、好事の人尤是を珍とす、眞なるもの甚得がたし、或云、靺鞨珠と云ふ物なりと、左もあるべし、本草を見るに靑琅玕と云ふ物あり亦は石闌干とも亦は石珠靑珠とも云ふ（中畧）此諸說を按すれば珊瑚、琅玕、畢竟一類にして其色を以て名

を異にするのみ、二ともに自然に孔あり、今世に有る蟲の巣は自然に圓成にして蟲の巣を作りて成す物と云ふ、夷人採り得て琢磨して圓珠とするも知るべからず（下畧）。（右、伊藤東涯の輶軒小錄）

○豐年鳥の事　寛政八年丙辰の春、嵯峨天龍寺の森へ何國よりとも知らずアトリと云鳥夥敷群り飛來る、其數何萬といふことを知らず、昔此鳥おびたゞしく飛來りし事有り、其年極めて諸國ともに豐年なりし故、世俗是を豐年鳥と名附しとなり、鳩よりは小く、雀よりは大なり、むく鳥鶫の如し、其形左に載る所の圖の如し、唯天龍寺の森にのみ群居して他へ不飛去とぞ、五六十年以前、俗に雲霞と名付て周く諸國に蟲生じて五穀を食ひし故、其年大に飢饉なりき、一村々々百姓寄り集りて鉦太鼓を鳴し夜は桃燈と松明を燈し連ねて此蟲を他村へ送る、蟲盡く火の光りに隨て飛行、其羽音のすさましきこと、どつと大風の發するが如し夫より段々村つぎに送之、此年諸國盡く飢饉すといへども唯松平主殿守樣御領地肥前の嶋原のみ甚だ豐作なりき、其所以如何となれば島原にも此蟲夥敷生じ、羽を生じて飛んとする頃ひ何國よりとも不知、常に見馴ざる鳥夥敷何萬ともなく群れ來れり、彼蟲大風の發するが如くどつと音して飛行する其音を聞くとひとしく爰の森、彼處の林より彼鳥おびたゞしく群り來りて此蟲を食ひし故程なく領内の蟲を盡く食ひ盡せり、此故に唯島原のみ豐作なりしとぞ、彼豐年鳥といふも此類ひならんか。（右、著者書名未詳の隨筆）

（瓢蟲女史縮寫）

○弄蜘蛛語　土御門故二位泰邦卿かたられけるは、享保のはじめ、世に蠅とりぐもとかやいふ蟲をも

てあそぶ事あり、風流なるちいさき筒に入れて、蠅のいる所へとはせてとらしむ、一尺二寸など遠くとふをもて最上とす、よくとぶ蜘蛛はあまたのこがねにかへて、あらそひもとめ蜘合をして博奕に及ぶのあいだ武家より制してやめしむとぞ。（右、柳原紀光卿の閑窓自語）

○夏草冬蟲　書隱叢說曰、昔有友人自遠來、餉予一物、名曰夏草冬蟲、出陝西邊地、在夏則爲草、在冬則爲蟲、故以是名焉、浸酒服之、可以却病延年、余所見時僅草根之枯者、然前後截形狀、顏色各別、半靑者僅作草形、半黑者略粗大、具蠕欲動之意、不見傳記、書之以俟後考云。享保年中、清の商人夏草冬蟲を持ち來る、誠に万國の生物はかるべからず。（右、靑木敦書の續昆陽漫錄）

○舟の名を何丸といふ事　船の名を何丸となづくる事、或人の說に、まろはもと下卑の詞にて、みづからの事をまろと云へるは我といふ義にて後世俗にいふ拙者私などいへると同意なり、さる故にみづからの名を何麿、某丸と稱せしも卑下の稱なるを、後には親しみていふ詞となりて草刈鎌を鎌丸といひし事萬葉集の歌にあり、小蟲を蚱蜢丸（イナゴマロ）蚣蝑丸（イ子ツキマロ）などいひし事和名鈔にあり。（下略）（右、齊藤彥麿の片廂）

◎自然的害蟲驅除に就て（續）

在東京　林　壽祐

請ふ亦翻つて他の動物界を觀よ、害蟲驅除上偉大の關係を有する野生動物は今や如何なる姿なるか、唯に放任して顧みざるのみならず次第に減少し、余輩が幼年の頃多く來往したる種屬中には數年前以來形だに現はさゞるもあるに非ずや、而して狩獵者は獸鳥の減少を嘆つも猶年々增加するに非ずや、政論家は盛に實業の振興を慫慂するも、野生動物にまで着眼せざるにあらずや、動物學者は日々探究しつゝあるも、未だ實業上まで論及する猶豫なきに非らずや、それ野生動物に對する社會の趨勢は斯の如し、思ふて是にいたらば前途豈また憂想の至りならずや、世人は多く知るならん、燕は年々軒下に來りて巢を營むことを、且つ雛生るれば種々の昆蟲を捕へ來りて之に哺むことを、而して稍生長する時は一時間四五十

回運び來ることを、而して一羽の雛は一時間約六七匹の配當を受くることを、然る時で一羽の燕は、一日七十匹內外の昆蟲を食除し去ることを悟るべし、則ち燕百萬羽あれば一日七千萬匹、一ヶ月二十一億匹の昆蟲を捕食するの理なり、而かも野外には燕の如く蟲類を食とする鳥類數多あるのみならず、燕よりも遙かに强食する種類少なからざるなり、此に於てか吾人は再び食蟲動物の効績を繰り返へし述べんとす。抑も野生動物が昆蟲を食するは已れの生活を保たんが爲めにして、吾人が營む如き課業の比に非らざれば勞働して疲るゝといふに非らず敢て勿体するに非らず又賃金を拂ひて其勞を謝するに非らず、吾人より朝早く起き出で夕遲くまで索ね廻はる、吾人は降雨寒暑に休息するも彼等は一日も休むことなく否休むことを得ざるなり、加之吾人は高木にあるもの及び塵芥中に潜伏するものは容易に見出す能はざるも。彼等は周意精密に探索す、吾人は器具或は藥品を使用するも彼等は天然自適の觜を以てす、斯の如く浪費を要せず捕獲に精巧なる自然的の驅除者あるに、世人は之を顧みるなく却て邇きに求めずして遠きに求む奇怪もまた奇怪ならずや、況んや農事に熱心し種子を吟味し栽培をつゝしみ肥料を分析し只管作物の繁生を希ひながら、銃を擔ひ有益獸禽を追驅する者ありとは無鉄砲も亦甚しからずや。

食蟲動物數多ある中に爬蟲、兩棲、多足、蜘蛛の如き諸類は、敢て吾人々類に害を爲さず、又捕殺するも食用等に供するに足らざるを以て、田野園庭に逍遙徘徊するも捕獲せらるゝこと少し、唯常に殺害せらるゝものは獸禽の二類なり、禽類中にも、金翅雀、白鶺鴒、山雀、エナガの如く極て小形なるものは食用として餘り寡肉なるを以て捕獲せらるゝの憂なし、之に反して常に狩獵者に狙撃せらるゝものは雀蒿雀大以上の鳥より各種の獸類にあり、而して之が捕獵に勢力あるを銃砲及びヒルテンの二法とす。

輓近十年來、銃獵大に流行し、到る處其轟然たる音響を聞かざるはなく、獵者は宛がら敵國に進入したる如く縱横無盡に跋涉し、野生獸禽は爲めに大に其數を減じ全たく跡を絕てしもの少なからず、當初獵獲せしは鳩、雉、山鷄、鶉、鴛鴦、鴨、狐、狸、兎、黃鼬の如きに止まるのみなりしも、是等獸禽減少するに隨ひ人々爭つて鵯、鶫、啄木鳥、椋鳥、杜鵑、烏、鳶、栗鼠、鼬鼠を狙ひ、鵯の如き從來小形として餘り顧みられざ

りし者すら今日にありては片時も安居する能はず、甚しきは雀、蒿雀、カハラヒハ、田鷄の如きものまで遊撃するものあり、烏、雀は元來大膽狡猾を以て稱せらるゝに今は何んぞや、杖竿を携ふるものを見れば忽ち高飛するに非らずや、以上は概ね鳩大以上の動物に止まり、これより以下の小禽は幸ひに銃獵者よりは打漏されたり、然るに近年蠶業の盛なるに伴ひ、蠶絲を以て自らヒリテンを製して狩獵するもの漸く多くなれり、ヒリテンの捕獲力は、亦有勢なるものにして、銃口より打漏されたる小禽を網羅し、年々非命の最期を遂ぐるもの實に銃獵にも下だらざらんとす、嗟此勢を以てすれば獸禽の減少底止する所なし、世人は將に狩り盡して已まんとするか、獸禽の運命も亦危ひ哉。(未完)

秋蟲　秋來ればさせもが露を宿りてあはれことしも蟲の鳴くなり。

（久我建通）

◎土岐郡昆蟲學會支會報告

岐阜縣土岐郡瑞浪支會　各務恒三

本年五月以來郡內各町村に二化生螟蟲發生し加害劇甚なりしを以て、去る八月中、郡衙の訓示に基き第一回驅除を行ひしも、第二期に至り續々發生せしを以て本年の收穫に影響を來たすべきは勿論、來年被害の虞あるが故に、去月を以て一日も速かに驅除せられ度旨を本會より當村長に建議せり、また當支會の會則は左の如くなり。

土岐郡昆蟲學會瑞浪支會規則

○第一條　本會は土岐郡昆蟲學會瑞浪支會と稱し瑞浪學校內に置く　○第二條　本會は本部の監督を受け昆蟲學を研究し之が應用を計るを以て目的とす　○第三條　本會に會長、副會長各一名、幹事二名、部長五名を置き會務を處理す、但し役員の任期は幹事以下一ヶ

年とす ○第四條 本會は毎月一日一回集會す、但臨時會は此限に非らず ○第五條 會員は常に留意して實物を採集し、又標本圖畫を調製し、集會に持參して研究をなすものとす ○第六條 本會は標本を陳列して公衆の參考に資するものとす ○第七條 會員たらんとするものあるときは學會長の許諾を經て會員名簿に登錄す。

◎大分縣の蟲害一斑

第六回全國害蟲驅除修業生 大分縣 小野覺太郎

嘗て報導せし如く本縣は昨年大蟲害を被り、殆んど貳百萬圓以上を雲霞の如くに消去されしに依り、本年は縣當局者にても之を憂慮して未前に防禦の策を企て大々的の豫防驅除に着手なしたり、第一着手は本誌第四十七號に掲載せし如く、害蟲驅除豫防委員設置規定に基き本縣書記官を縣委員總長に、警部長及參事官を同副長に、郡委員長を郡長に、同副長を警察署警察分署長に命し、其他屬官、技手、雇、郡にては郡書記、巡査等を委員として尚各郡に一名宛の縣豫防委員を常設出張なさしめ、不絕巡視なして實況を監督なさしむる抔非常に盡力なし居れり、尚ほ參事官は自ら各郡町村に就き熱心に害蟲豫防驅除上の要件及法令の主旨等を委しく農民の了解せる如く講演をなし、炎暑燒く如きも厭はず六時間の久しきも中止せずして滔々と述られしは一同其熱心なるに感激すると同時に、法令の主旨を了解して着々實施をなし大に好成蹟を奏しつゝあり、然るに偶には横着なる農民ありて驅除豫防上怠慢の所爲あり科料金或は拘留等の所分を受けしものあり、左れとも苗代時季の民度と今日の民度とにては殆んど一變せしやの感あり、依て各郡共稻の成育宜敷目下の景況にては平年より壹割以上の增收を見るは明なり。

本年當縣下に發生の害蟲は二化生螟蟲、三化生螟蟲、浮塵子、縱葉捲蟲、稻葉捲蟲等にして何れも著しき被害は見ざるも、今日迄余の受持郡に比例して縣下螟害を計算するときは大に顧憂せざる可からず、今其被害額を見積るに當り壹坪を四拾株平均とし、壹株に就き壹本の被害は免れず、依て假りに壹穗百三拾粒となさば壹坪の被害は五千貳百粒、壹畝の被害ハ拾五万六千粒となり、壹反の害百五拾六万粒となる、之を舛量に換算し四萬を壹舛とするときは三斗九舛となる、假りに五合摺とするも壹斗九舛五合の玄米を得る、之を積算すれば九万八千五百六拾七石七舛九合となる、依て壹石拾圓の價とするも九拾八萬五千六百七拾圓七拾九錢となる、若し第二回の被害も同一なりとするときは、殆んど貳百萬圓となる、豈に怖るべきの限りならずや、而れども農民に於ては浮塵子よりも比較的意を止めず、其驅除に勉

めざるは實に遺憾の極みなりとす。

浮塵子に於ては被害の甚だしき箇處更に認めず、偶々發生の恐あるも害蟲觀念の起りし故にや、直に注油をなし居るを以て目下の儘に押移らば別に憂慮するに及ばず、稻葉捲蟲も或郡の一部に發生したるも直に驅除に着手なしたるを以て今日にては舊に復せり、其他縱葉捲蟲處々に發生して猖獗を極めし處は出穗或は充實せざる向もあり、而れども是等は一部分に過ぎぞ、其他幾分の被害あるを認めたるも敢て憂慮するに及ばず、中には直に着手驅除なしつゝあるも其方法の良好便法なきを以て農民は驅除に苦み居れり。(十月一日附)

◎岡山縣邑久郡採取の螟卵數

第八回全國害蟲驅除講習修業生　岡山縣　根木東枝

今年も前年と同じく吾が邑久郡の各町村に於ては螟卵摘採を實行せしに、其總數實に六拾九万六千四拾四個を獲たり、今之を二分すれば苗代田に於て拾八万二千五百七個、本田に於て五拾一万三千五百三拾七個を算せり、宜哉本年りの害の少なきや、而してこの恩澤を被ふらしむるに至れるは實に名和昆蟲研究所長傳習の賜ものとなす。(十月一日附)

邑久郡各村別

村名	苗代田採集	本田採集	合計
邑久村	四、五一八	三九、八六二	四四、三八〇
福田村	四六三	九、九三七	一〇、四〇〇
今城村	五、六〇〇	二五、二二九	三〇、八二九
豐原村	八、三一六	三〇、八六一	三九、一七七
豐村	一三、八四〇	五〇、二一八	六四、〇五八
太伯村	一六、六〇五	四四、三一〇	六〇、九一五
幸島村	九九、六六五	二九、九二六	一二九、五九一
朝日村	四、三五八	二七、二〇〇	三一、五五八
大宮村	六、三六〇	二八、四二三	三四、七八三
鹿忍村	一、三〇四	二五、九七一	二七、二七五
牛窓村	一、八六四	三六、七一四	三八、七七八
長濱村	一、三九〇	二三、〇三五	二四、四二五
本庄村	一、四六三	一五、六三二	一七、〇九七
玉津村	一、〇一四	一九、一五七	二〇、一七一
裳掛村	四、一八七	一五、三一七	二二、五〇四
鶴山村	二、六二五	三二、三一六	三四、九四一
美和村	一、九三〇	一九、一〇八	二一、〇三八
國府村	二、八〇〇	一九、八八一	二二、六八一
行幸村	一、七九一	一一、三一二	一三、一〇三
笠加村	二、四二七	六、〇〇〇	八、四二七
總計	一八二、五〇七	五一三、五三七	六九六、〇四四

◎昆蟲に關する葉書通信　（十六）

（七十九）本年の螟蟲捕殺數（新潟縣刈羽郡、櫻井熊治）　今年第壹回發生の螟蟲に對し當郡内に於て捕獲、採集を施行したるに、去る七月十九日までに各町村より屆出でたる分は螟蛾五千五百七十九萬貳千百二羽、卵塊七百七十五萬四千十三個、拔取稻莖貳百七拾貳萬五千九百七本なりき、借これを本郡の水田反別九千參百餘町歩に對して平均を取るときは其加害また甚はだ多からずや、而して驅除の方法に至りては名和先生の唱道の如く採卵法最とも有效とす、其他の方法の如きは失費多く勞多くして到底同日の談にあらざれば明年よりは郡内一般に採卵を主眼とする事に決せり、目下稻作は最とも良好にして抽穗以來の氣候と云ひ旁々登實に適せり、或ひは意外の豐作を見るに至らん。（九月十一日附）

（八十）島根縣下浮塵子（島根縣農事試驗場、田中房太郎）　去る七月下旬より八月上旬にかけて浮塵子の發生實に夥たゞしく、殆んど三十年の狀況と等しかりしも、官民一致して驅除法を厲行したる結果として甚はだしき被害なきを認むるに至れり、尤とも隱岐國には陋農多き爲めにや貳割の損害を被ふれりと云ふ、而してその種類はセジロ種最とも多くイナヅマ種之れに亞ぐ、目下と雖ども山間谿谷の濕田にはトビイロ種多生して被害の慘酷なる處あれども、其區域は廣大ならず。（十月五日附）

（八十一）螢火に就て（和歌山縣海草郡、沖義清）　螢火は當地方に於て六月下旬より七月上旬の間に多生し、水中に産卵す、其幼蟲は瓢蟲のものに酷似せり、幼蟲は八日目頃より成蟲の如く水草中にて發光し斯くして羽化飛遊するなり、又一種ウシボタル、ウマボタルと稱するものあり、共に大形にして長さ五六分に達す、但此種は地方によりては産せざる處あり、又螢狩の歌としては『ホタル來へ、珍千鳥、あちの乳は苦いワ、こちの乳は甘いワ』『ホ、ホ、ホタルの蟲は油いふずに火をとぼす』此歌をば數回繰返し乍ら遊ぶなり。

（八十二）螢取の俗謠（石川縣石川郡、高多信久）　昆蟲世界第四十八號に掲載せる埼玉縣の成川平太郎氏がものせし螢取の俗謠を見習ひ、チト時節柄後蒔ながら、御笑草の一助にもと書き列らぬるも馬鹿らしい、我地方男女子供の一群が夕方になれば手に〳〵團扇を持ち、又は竹竿の尖端へ竹篠を結びつけたるものを持て、右往左往村中の小溝に沿ふたる川淵、溜池の樹蔭等を狩り歩き、何れも左の俗謠を謳ふなり斯くて數多く捕ひたるを手柄顏に夕飯喰ふと打忘れつゝあるなり。『螢來へ、彼處の水は苦がい、此

處の水甘い、甘い方へ御座れ』『螢やく、テヲトミ化けたがじや』

(八十三)土用蟲と秋蟲(福井縣大野郡、宮谷雅農)　本郡の螟害は年々なれども、木年特ニ甚はだしき爲め縣令發布せられ、訓諭達せられ、警官また監督せり、去れば各町村ニ於ても規約を定め卵塊買收、燈火誘殺、枯莖拔取等を行ひたるも皆形式に流れて農民は冷談を極む、其談に曰く、彼は土用蟲なり土用過ぐれば則はち跡を絶つべしと、既にして螟蟲は蛹となり稻苗は生育して分蘖を始しむ、此に於て頑農輩は口を極めて驅除の無効を罵しる、其後第二回の發生ニ當り急ニ彼輩を召集して驅除の必要を說き且之を示せしに夷然として答へふく箇は是れ秋蟲のみ連歲發生の種なり敢て驚くニ足らずと、土用蟲と秋蟲、嗚呼農民も度し難きかな。

聞蟲　人とはぬ野中の庵もなく蟲の聲よとゝもにさはがしき哉。(鍋島直大)

◎二化生螟蟲の寄生蟲に付質問

大阪府農學校農科　S. K. N. 生

本年六月發行の中央農事報第拾五號及び大日本農會報告等ニ「二化生螟蟲の仔蟲を害する寄生蟲三種の發見」と題し九州農事試驗支場技手石井豐吉氏の代作的寄稿を載せたり、然るニ當校ニ於ては年來屢次之を試驗せしも未だ斯かる稀有の事あるを知らず、生は寧ろ其輕擧に失するなからん歟を危ぶめり、希くは貴所の實驗說及び右記事に對する高見を示されよ。

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

中央農事報第拾五號の該記事を閱讀するに、其主眼とも目すべき寄生蟲に關する記載は頗ぶる簡單にして、要領を得ず、隨うて確答致し難し。されど今左ニ該記事ニ對する考察を掲げて其責を盡さんとす。

農事試驗場九州支場に於ては莞島技師專ら昆蟲の研究に從事せられ多くの方面より螟蟲に就き研究中近頃二化螟蟲の仔蟲に三種の寄

生蟲存在し是等寄生蟲の爲め仔蟲の倒死するもの少からざるの事實を發見せり即ち昨秋水稻の種類と螟蟲の關係を調査するの目的を以て各株より採集せし二化螟蟲の仔蟲(二化螟蟲の被害は近年著しく減少し從て是が採集も少數のものと知る可し)を罎中に保存せしに春期に至り連りに該幼蟲の死するものを見たりしに果せる哉其死塊より續々左記寄生蟲の發出するを見たりき殊に其發生は第一を以て夥多なりとす。

第一、家蠅科に屬する一種の蛆にして其出づるや間もなく蛹化し其蠅に化せるを見るに大さ恰も酒の周圍に群集する酒蠅に類似し其擧動頗る活潑なり。

第二、小蜂科に屬する一種の寄生蜂にして是れ亦右の死塊より續々出で來れり。

第三、春期麥田の表面に遺存せる稻株中に二化螟蟲の幼蟲と共存する蛆にして此ものは全躰暗色にして二化螟蟲の幼蟲より少く大く其首尾兩端尖れり。

試に此蛆と螟蟲の幼蟲とを一罎中に投するときは忽ち二三の幼蟲をして死に至らしむ是れ蓋し幼蟲の體液を吸奪するが爲めならん而して此蛆の羽化せしを見るに大蚊科に屬する一種の「カトンボ」なりき。

今前掲抄錄の記事に就き考察するに、第一の家蠅科に屬して斯の如き形躰を存する小蠅は、往々螟蟲寄生の稻莖內より羽化し出づるものありと雖とも、是は螟蟲に寄生するにあらで、被害部の腐蝕せし所に發生したるもの〻食を取るにはあらざる歟。此種は又稀に螟蟲の斃死せし躰上にも發見することありて恰も寄生せしやの觀あれば、此種の寄生に依り果して螟蟲の斃れしものなるか、或ひは又已に斃れたるものに寄生せしものなるかを判斷決定するは實に難事に屬し、決して一二回の試驗によりて確定し難からん。次に第二、の小蜂科に屬する一種とは如何なるものなりや之を知るに由なきも、元來二化螟蟲の幼蟲に寄生する寄生蜂類には五種の多きありて其二は小蜂科(Chalcididae)に屬し、他の三種は小繭蜂科(Braconidae)に屬す、(右の中小繭蜂科に屬する所の一種イチノズキムシヤドリバチに就ては既に昆蟲世界第三卷第十八號に記載せり)第三、に至りては其成蟲が大蚊科のカトンボとあるを以て見れば、カガンボ類の幼蟲なるべし、古來カガンボの幼蟲が斯の如く螟蟲を斃死せしめむることは絕へて見聞せざる所なれども、それ將たカガンボ類の或種の幼蟲と、螟蟲とを斯かる罎中に同棲せしむる場合には、或ひは偶然に螟蟲の幼蟲を嚙咬して斃殺せしむる事あるやも測られぞ、假し之ありとするもそが自然の狀態より食殺すべきや否やを斷定するは一の疑問なるべし。但し彼の步行蟲科及び隱翅蟲科の或種の幼蟲は、往々螟蟲の加害稻莖中に入りて之を食殺することは之あり、問者混同すべからず。之を要するに此試驗の

如きは研究上多少參考に供すべきも、試驗調査てふ價値より評下すれば不完備の報告となさゞるを得ず問者もし此報告を以て直ちに標準となさば他日或ひは正中を得難からんも知る可からず。然れども當研究所は好んで異種の分子を迎ひ、一は研學の資に充てんことを欲すれば、強がちに反對攻難を事とするものに非らざ、只問者の注意までに附記するのみ。

◎螟蟲と髓蟲の區別に就き質問

長野縣北安曇郡小南谷小學校　細野嘉馬鶴

理學博士佐々木忠次郎氏著『日本農作物害蟲篇』には、稻の螟蟲(Jarthesia·chrysographell, Moore.)と稻の髓蟲(Leucania sp.)とを各別に詳説せられたるが、恒に螟蟲の稱呼をもズヰムシと云へば、佐々木氏の所謂髓蟲との區別に困難せり、加之も佐々木氏は螟蟲蛾族、髓蟲蛾族と各々分ちて説明せられ乍ら、農學士松村松年氏著『日本害蟲篇』の粟の螟蟲、藍の螟蟲に對しては粟の髓蟲、藍の髓蟲と言はれたれば、其間殆んど區別なきが如し、特に松村氏は『日本昆蟲學』に於て螟蟲をズイムシと讀ましめたるより推考すれば、螟蟲は即はち髓蟲と稱するも可なりと思惟す、果して然らんには、稻の螟蟲と稻の髓蟲とは同種異名なるべきに、左は無くて全たく相異なること前陳の如し、是れ疑がひを質す所以なり。

答　名和昆蟲研究所内　永澤小兵衛

貴説の如く螟といひ髓蟲といふも、原と是れ同一蟲種に對する名稱にて、異種同名なるにはあらず。

(考徵)　今の昆蟲學者は蟲名を稱するに學名即はち羅甸語を基礎とするが故に、動もすれば漢名と邦訓とに重きを置かず、競ふて新稱を用ゐたるの結果、漸やく錯雜に趨むくの惡弊を生せり、隨うて同種の異名、採擇の粗濫は言はざもがな、杜撰誤謬中々に多く、之が爲めに後學を泣かしめ農家を迷はしむること少なしとなさず。去れば昆蟲書の用字にのみ拘泥して品別を知り及び意義を解決せんとすとも、その學名に通じ其品種を知らざる間は、到底本問の如き疑惑を排除すること難かる可し。却說、螟蟲と髓蟲との區別を問はれたれど、素と是れ區別なきものなるが故に、松村松年氏の記載を以て妥當なりと考量す、佐々木忠次郎氏の著書には、貴説の如く螟蟲と髓蟲とに分載したれど、是は考證を遂げ得ざりしか若くは命名に窮蹙せるより、一時假定せる名稱に過ぎざる可し。原來髓蟲といへる名稱は、螟の邦訓にて始めは一地方にのみ行はれたる百姓讀の方言なれば、正しき名にはあらざりしを、今は弘く此稱

を用ゐるに至れるなり。又螟とは詩の小雅の大田篇にも、去其螟螣及其蟊賊、無害我田穉、田祖有神、秉畀炎火、とある如く、稲蟲の總名蝗（オホチムシ）の一にて稲の心髓を蝕害する蟲を云ふなり。然るに邦俗、莖稈の内容を骨髓にたとへてズヰと呼べるより、遂に螟をばズヰムシと稱するに至れり、古くはまたシンムシ（心蟲の義）とも呼べり、斯れば莖稈をカラ（殼の義）と呼ぶ地方にては、莖稈を喰害すとの義より今も尚ほカラムシ（殼蟲）と云ふとぞ。そも髓とは骨の内空を充塡する物質にて、之を骨髓ともいひ、其中の粘稠液をば髓液と云ふなり、『和爾雅』には髓は骨中の脂なりと云ひ、『醫範提綱』には骨剛堅白色、爲身之幹、大者其中空、如管而髓塡焉、小者其中鬆疏、唯通髓液、とあり。更に之を各種の字書辞書の類に徵すれば、漢書は固よりなり、『言泉』には骨中にありて纖維と細胞とより成れる脂の如きもの、轉じて物の心をも云ふと見ゆ、其他『言海』に『日本大辞林』にまた皆同じ、去ればにや、佐々木氏も之を各別に記し乍ら、螟蟲の條下に於ては其髓部を食すと云はれたるある可し。之を要するに、螟とは作物の内部組織に加害の蟲族の稱にして、髓蟲の名は螟に對する一の邦訓とも、即はちメイチウはズヰムシにしてズヰムシとはメイチウを指すに外ならざれば、此二者は決して相異なるの理なきを知る　し。

◎コゴミムシダマシに就き質問

在秋田縣農事試驗場　佐藤昌

別封の昆蟲は養蠶家の蠶渣放棄塲に群居し、恰かも食物を索むるものゝ如く其出現は夜間とす、是れゴミムシ科の一種と思惟す、果して然らんには即はち益蟲にして蠶渣中に存する棄蠶を食はんが爲めに群集するなる可しと雖ども、其種名及び俗稱、益害等不明なり、詳細の示教を仰ぐ。

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

現蟲を見るに鞘翅目中、僞歩行蟲科（Tenebrionidae）に屬する一種にして、和名コゴミムシダマシと稱し學名は Lyprops sinensis, Marseul. と稱す。元來此科のものは歩行蟲科の歩行蟲類に髣髴するを以て此名稱ある所以なれども、此種には未だ俗稱なし。而して其ゴミムシ科と相違の点は跗節の數にあり、即ち彼のゴミムシ科に屬する種は、六脚共に跗節の數五個なるに、此科に於ては前、中の二對は五跗節を有すれども、後脚の一對は必ず四個の跗節を存すれば、之を細檢するを要す。又この種は肉食性にあらずして

コゴミムシダマシの圖

恒に落葉或ひは枯草などを食用とするが故に、通常薬を有する薪の間に棲息するを見る、ろの蠶渣放棄場に群居するはは其近傍に發生處あるが爲めか、若くは蠶渣中の枯草殘桑を食ハんが爲なる可し。

夜蟲（よるのむし）

よるくれば花は見えねど秋の野の蟲の聲こそ千種なりけり。（阪　正　臣）

◉害蟲豫防的驅除の時機　農作害蟲驅除の好時機は正に秋晩より翌春の間にあり、然るを春夏の候百蟲暴發、また手を出す可からざるに到ゞされば驅除に從事すべからざる如く誤解し、看る々々多大の損害を致す者滔々皆然らざるは莫し、則はち少費にして且多効多便の豫防的驅除を等閑にし、多勞多費よして而かも驅除の目的を貫徹し得ざる防禦的驅除を主要とするものに似たり、是れ連年農家が害蟲のためよ困憊疲勞を來たす所以歟、勉めよや。

◉第十回全國害蟲驅除講習會　來る十一月十六日より二週間開催の豫定なる第十回全國害蟲驅除講習會は、農桑業家その他が稍々閑隙ある時期たるのみか、恰かも明年施設事業の準備のためには復たと得難き好機會なればにや、募集以來吏員敎職の入會申込み意外に多し、此一事以て我國斯學思想の漸次高まり來れるをトするに足らん。

◉農作害蟲驅除豫防法の標準　標題の如きもの農商務省農事試驗塲より頒布せられたりと、之を一讀するに、從來世間慣用の方法に潤色修正を加へしに止まり、敢て大異の點もあければ玆に收錄を缺く、但し他日餘白もあらば讀者の參考として掲載する事もあらん。

◉岐阜縣昆蟲學會の組織　去月廿六日を以て組織せる岐阜縣昆蟲學會ハ、是まであり觸れたる會合の如く、其名を大にして其實を擧げざるものとは旨意自づから異なるを以て會員の意氣込中々熾ん

に、發會早々己ょ或事業に着手せしが、一兩年の後ょ至り始めて之を世ょ公やけょする都合なりと、會長は川路利恭氏、副會長は名和靖氏、幹事は圓山包吉、永澤小兵衛、高橋貫一の三氏、評議員は名和梅吉氏外十八氏ょて名譽會員としては各郡市長及び縣參事會員等を推選せしが、其抱懷の目的及び事業、組織方法等は左記の規約ょて知らるればまた重ねて贅せざる可し。

第一條　本會は岐阜縣昆蟲學會と稱し事務所を岐阜市京町名和昆蟲研究所内に設置す●第二條　本會は昆蟲學の研究を主とし幷に害蟲驅除の普及を圖るを以て目的とす●第三條　前條の目的を達せんが爲め講話演說討論其他必要事項の協議を爲す●第四條本會の記事は總て昆蟲世界紙上に掲載するものとす●第五條　本會は左の會員を以て組織す、(一)名譽會員(二)特別會員(三)通常會員●第六條　名譽會員は學識經驗あるもの特別會員は本會に對し功勞あるものを總會に於て推選す●第七條　通常會員は岐阜縣害蟲驅除講習生幷本會の目的を贊成し入會するものに限る●第八條　本會々費は當分徵收せず寄附金を以て之に充つ●第九條　本會に左の役員を置き名譽職とし其任期を二ヶ年とす、會長一名副會長一名幹事三名、評議員(郡市一名ヅヽ、研究所一名)●第十條　正副會長幹事は總會に於て選擧し評議員は各郡市に於て選擧の上本會に通知するものとす●第十一條　會長は本會を總理し會議長となり副會長は會長を補佐し又之が代理を爲す幹事は會長の指揮を受け庶務に從事す●第十二條　本會々議は總會及評議員會の二種とし總會は每年春秋二期に之を開き評議員會は必要に應じ開會するものとす、但會長の意見により臨時總會を開くことを得●第十三條　評議員會は本會經費之決議をなし事業の進捗を圖るものとす●第十四條　本會の會計は曆年度に據る●第十五條　本會の規則を改正加除するときは總會の決議を要す

◎松村松年氏の書信　二年前より獨逸國伯林府にありて昆蟲學研究中の松村松年氏より、八月三十一日附を以て當昆蟲研究所へ來書あり、其中斯學に關するものを抄出すれば左の如なり。

(前略)今年の末には日本浮塵子發表仕るべく候少數にて宜しく候間可成早く御送附被下間敷候哉御書面の如く日本浮塵子中々種類多く今まで研究し來りたる所によれば百五十九種なれども決して如斯數に止らずと存候、聞く所に依れば近頃浮塵子の著述有之由の處種類も定めず輕々新和名を附せらるゝには閉口、何とか制裁の欲きものに候、小生の嘗て發表せしヒメクロヨコバイ(Delphax devastans)は新種にあらずして歐洲に產するD.(striatella Fall.)なりき、原來浮塵子には非常の變化をなすものなる故、着色にては識別なし難し、生殖器にて分類する事最も安然と存候、小生は浮塵子を根本的に研究し歸るべく候、種々のものに手を出すと虻蜂取らずと云ふ有樣となり却て損と存候。

當地に於て去八月十一日より十六日まで第五回萬國動物學會を開會せられ日本よりは飯島魁、大澤謙二の兩氏、當地よりは小生と時

重初熊氏出席致候處、中々の大會にて六百餘名の集會なりき、其節日本の昆蟲を交換し呉れよと申すもの續々來り特に佛國昆蟲學會を代表し來れる Dr.Fauvel 氏の如きは本邦產の(隱翅科)を請求せられしも目下貴所を措て他に取るへき處、交換する處なきを以て別紙の如き封書を與へ候ひしに非常に御送附を願ひ呉れよとの事に有之候、浮塵子研究中に歐洲產の種類にて大凡三十種の新種を發見致候、外國人は內國のものを研究せずして外國のものゝみ研究する傾きあり、是は近頃の中に發表致すべき見込に有之候、云々。

◉**蟲合せを募集す**　古來我國には草合せの戲ありて間接に博物思想の發達を促かし、雞合せ、犬合せ、馬競べの技ありて獸畜種類の改良を圖れり、それとこれとは異なれど茲に弘く蟲合せの答案を募り昆蟲學發達の一助となさんとす、讀者幸はひに此擧を賛して續々投稿を玉へ、其秀逸と認むべきものには相當の謝意を表し、尚ほこれを明年一月の新刊誌上に登載すべし、委しくは卷首の廣告にあり。

◉**近くの害蟲物語**　今年に於ける全國の農作害蟲驅除費中、最多額のもの即はち壹萬圓以上の支出は宮崎、鹿兒嶋、大阪の一府二縣なるが、就中大阪府の如きは一時小康を得たるやの觀ありしも、去月に至り浮塵子四方に發生して當局者の荒膽を奪ひ取れりと新聞は報ず、秋時に放心の禁物なる事は是にても知らる可し○當年の五月頃より豫防驅除に焦慮せしも害蟲の勢ひ猖獗のため遂に不少の手傷を負ひ今なほ平穩の情に復せざるは山陰の鳥取縣なるべし○其隣縣の島根縣も餘程危機に瀕せりと聞きしに有繋は出雲の大社てふ鳥獸昆蟲の災異を攘はせ玉ひたる靈神の御膝許だけ、先づは少額にて示談となれり、但し隱岐國は昔し高貴を窮厄し奉れる土地だけありて、今日と雖ども尚ほろが祟をうけつゝありと○淡路島とし云へば諸冊二神の化生を以て有名の國なれど、ヨモヤ螟蟲の化生まではと思ひしに、去頃一種異樣の三化生種發現して名醫小野兵庫縣試驗所長の診察をうけぬ、入念の事かな○同じ岐阜縣下とは云へ、飛驒の國の害蟲は美術的に營生するものゝ如し、古來有名のサヽウヲは云ふ迄もなく、今年大發生を遂げたる苞蟲の如きは僅かに其一例とす、蓋し飛驒の工匠の子孫多きため巢窟を造るにも、經營慘淡、先以て意匠を凝らすものと見ゆ○舊き歷史の上にては北越地方は田鼠の名產地なりしに、近年は鼠も開化主義を取りて東漸し、栃木縣と茨城縣を侵害して此兩縣下の農作に大恐慌を來たさしむ○斯くて北越は一厄介名物を除きたりと悅こぶ間もなく、先には浮塵子に惱み、今やまた螟蟲の蜂起に逢へり策を獻ぞ、鉦や大皷を敲き害蟲に一齊攻擊を行なへて、これを露領の廣野に追やり、彼の地產の石油を盡とく消費せしめては如何○青森縣は鳥頭神社の神德を楯として稻作の害蟲には痛く重きを置かざる

の地なりしかど、今年は可なりシテやられたりと覺ぼし、蓋し滊車滊船の便と原野拓殖の功とは、逐年害蟲の荒御魂を移住せしむるなる可し、去れど貝殼蟲や綿蟲との戰爭とし云はゞ、恐らくは全國ろの右に出づるの强者なかる可きなり○福岡、佐賀、大分の諸縣は、兎に角に本邦に於ける諸害蟲の檜舞臺なればにや、昨年は鯨油使用濫觴の古碑を發見し、今年は石粒寫經の供養碑を世に紹介せり、此次回には四國邊に於て害蟲の過去帳ぐらゐを掘採するや必せり○昨年世人に娛れし泣をせしめたる山口縣の浮塵子黴菌はその後杳乎として聞ゆる所ろなし、或ひは疑ふ、今年の好天候の爲めに發生し得ざりしにはあらざるかを又疑ふ、過般の狂飇に將去られて朝鮮海峽の藻屑となり了らざりしかを、健在なれ々々○由來長野縣は本洲の脊髓國と異名せらるゝだけ田畝少なく民みな蠶桑を業とす、而かも昆蟲思想の普及は全國屈指の一にして、昆蟲書の講讀者非常に多しとは裳華房主人の談なり○之に反して同じ養蠶國にてあり乍ら、驅除を等閑に附したる結果、桑樹の秋生蛄蟖のために、約貳万圓の損害を被ふりし事あるは其御隣りの福島縣なりとかや。

◉遠くの害蟲物語　最近刊行の獨逸の昆蟲書に曰く、既に學名を有する浮塵子族は實に一千種に餘れりと、毎度ながら一驚を喫するの外なし○蚊族のマラリャを媒介するは今や爭ふ可からざるの事實なり、右に就きコッホ博士はいふ、蚊は殲し難く病毒また除き難し、故に人體に感染せしめざるの方法を取るより外に良策なしと、これ位ゐの事なれば博士を須たずもがな○同じマラリャ病毒の免疫液を發明せる者巴西にあり、名をカラダスと云ふ、米國政府の陸軍省ろの藥液を球馬嶋に於て試驗し二人の西班牙人に接種せしに、二人終に惡嘴に螫殺さる、蓋し効驗の能否は免病せしめざる人躰に病毒を種殖せざれば判明せざるを以て、そが試驗物に供せられしなり○海外にある松村松年子其國に知られざる新種の浮塵子を發見せりとて頗ぶる得色あり、或戲謔者は云ふ、明後年に至らば、日本でもテングヨコバイ科に一の新種が足さるやうに成りますべイと、ろの何の意たるやを知らざるなり○實吉醫學博士恒に臺灣のマラリャ流行を憂ふ、曾て蚊族の全滅法を說きて曰く、蚊族の驅除法には臭氣、燻煙、瓦斯の三法あり、就中、石油有効なれども、アニリン色素等はかの蕃殖を妨たぐるに最とも有力の藥劑なりと○先頃印度地方に飛蝗の大發生あるや、小兒を伴へる母親ろの群飛の狀に惶れて周章身を他に避く、歸來小兒

を索むれば無慘や、蝗群のために殺されて死屍の路上に橫はるを見るのみ○北米合衆國に於て一たび亞砒酸毒の害蟲を斃すことを發明せしより、蛄螂、烏蠋のために費やす所ろの量、實に每年千噸に下らずと世界の大農國だけ何事につけ大規摸なるを見るに足らん。

◉第四回岐阜縣害蟲驅除講習會　前號にも記したる如く、同會は九月七日を以て開講せしが、會員は何れも晝夜熱心に研學の功を積み同廿六日を以て無事修了せり、閉會の式は午后三時を以て執行せられ、例の如く講師名和當昆蟲研究所長の報告及び訓誡、川路岐阜縣知事の證書授與及び告諭、山田縣參事會員の演說等ありき、式後は直ちに別項記載の岐阜縣昆蟲學會發會式を行なひ、黃昏より金華山麓の萬松舘に於て晩餐會を催ふせり、來賓としては式に臨める各氏其の他研究所關係者等なりしが今後は互ひに相一致して誠實に斯學の奮興に盡さんことを誓ひて散會せりと、會員の豫定人員は當初三十七名なりしも開會間際に至り故障を生じたる者ある爲め四名を減じたり、又同月廿一日には丸山縣屬及諸講師附添の上、伊吹山に會員一同の二宿採集を試ろみしが、其の獲物の多かりしは勿論、實地採集上すこぶる旅行的趣味の濃やかなるを悟れりきと、今修業證書を授與せられたる氏名を擧ぐれば如左。

組名	郡市名	町村名	級長組長	氏名	生年月	履歴
第壹組	岐阜市	—		（鈌員）	—	—
	稲葉郡	鶉沼村		藤田喜市	明治十三年四月	尋常高等小學校補習科修業
	稲葉郡	則武村	級長	高橋貫一	文久元年十月	稲葉郡書記
	羽島郡	小熊村	組長	奥村元章	明治十三年五月	小熊村書記
	羽島郡	笠松町		高見徳二郎	明治十四年六月	高等小學校卒業
第貳組	海津郡	城山村	組長	中島正美	文久三年八月	海津郡書記
	海津郡	西江村		伊藤佐太郎	明治十四年八月	尋常小學校代用教員
	養老郡	牧田村		佐藤作之亟	明治五年十二月	小學高等科卒業農業ニ從事
	養老郡	池邊村		原田晟	明治九年十一月	養老郡書記
第三組	不破郡	表佐村	副級長	江崎貞三郎	明治元年十月	不破郡書記
	不破郡	合原村		多賀万治郎	明治八年一月	不破郡害蟲驅除講習會修業
	安八郡	神戸町		中村才二	明治十年三月	高等小學校卒業農業ニ從事
	安八郡	和合村	組長	清水千之助	文久元年一月	養蠶傳習所卒業

組	郡	町村	役	氏名	生年月	履歴
第四組	揖斐郡	鷺村		三間孃	明治十四年四月	高等小學校卒業
	揖斐郡	揖斐町	組長	野口新太郎	明治七年十一月	揖斐郡書記
	本巣郡	網代村		村岡利一	明治十五年	高等小學校卒業農事講習會修業
	本巣郡			(缺員)		
第五組	山縣郡	櫻尾村		坂本剛一	明治十四年八月	高等小學校卒業農事講習會修業
	山縣郡			(缺員)		
	武儀郡	南武藝村		澤邊與一	明治十四年二月	高等小學二學年修業農事ニ從事
	武儀郡	富之保村	組長	池田利八	明治十年十二月	高等小學二學年修業農事講習會修業
第六組	郡上郡	八幡町	組長	町田治助	慶應元年三月	農商務省蠶業講習所修業
	郡上郡	高鷲村		上田美代造	明治八年二月	養蠶傳習所卒業
	加茂郡	富岡村		塚原義太郎	明治七年五月	農事講習會修業
	加茂郡	田原村		龜山濱太郎	明治五年八月	田原村書記
第七組	可兒郡	中村		安藤林右衛門	明治十三年一月	尋常小學補習科三年修業
	可兒郡	姫治村		渡邊市重	明治十二年六月	高等小學校卒業農事講習會修業
	土岐郡	稻津村	組長	正村六之亟	明治十二年六月	農事講習會修業害蟲驅除講習會修業
	土岐郡	瑞浪村		安藤宗平	明治十年三月	土岐郡役所雇
第八組	惠那郡	三郷村		中垣末吉	明治十三年七月	三郷村書記
	惠那郡	蛭川村		伊藤米太郎	明治十五年一月	高等小學校卒業農事講習會修業
	大野郡	灘村	組長	千原治作	明治五年九月	三十四年七月迄高山郵便電信局勤務
	大野郡	上枝村		川原孝作	明治十四年三月	農事講習會修業
第九組	益田郡	川西村		松下千吉	明治十五年七月	小學校補習科卒業
	益田郡			(缺員)		
	吉城郡	細江村		中村幸太郎	明治九年八月	吉城郡農事講習所修業
	吉城郡	古川町	組長	中井藤助	明治十三年一月	吉城郡農事講習會修業

◉實驗の一つ二つ　本年六月十一日に孵化せる姫蟷螂の幼蟲を飼育するに當り、蚊よりも尙ほ一層小形の双翅類のものを以てせしよ、能く捕ひ能く喰ひて八月廿一日よ羽化成蟲となれり、其間實よ六十日を費やしき○胡蘿蔔の葉を喰害する糖蛾の幼蟲に一種の寄生蜂の寄居せるあり、試みよ之を算し

たるに羽化の數二千五百八十七頭の多きに居れり、是れ本月七日の出來事なり○蛩の卵塊は概むね十粒以内より成り常に七八粒なるに、本月九日に至り始めて十五粒を產下せるものを檢視せり。(ナ、ヤ、記す)

◉幻燈會の効驗　三重縣阿山郡新居村にては去頃東西尋常小學校內に農事幻燈會を開き、農事巡廻敎師伴野熊吉、同郡農會幹事稻本坂太郎、第八回全國害蟲驅除講習修業生西岡嘉十郎の三氏說明の勞を取りたるに五百餘名の聽衆は飜然頑夢を破りしと見へ、翌日よりは各々稻田に立入て螟害の白穗抜に從事し、一農家の如きは五日間に壹万五六千本、少なきも五百本の莖切をなしたりしかば百廿七万の被害莖を首尾よく村役塲に納めたるに、役塲は村會の决議により盡ごとく之を買收せりと。

◉愛知縣丹羽郡の講習會　愛知縣丹羽郡には從來農業及び蠶業の講習會を開きし事あるも、昆蟲學の講習とては無かりしが、斯くては農家の衰弱を來たすの基なればとて、郡農會事業として各町村より百數十名の有志を募り去月廿五日より五日間、布袋町弘法堂內に開講せり、講師名和當研究所長は宿痾のため旅行の難きより臨時代理として前半は永澤小兵衛氏之に當り、後半は名和梅吉氏之を擔任し同廿九日丹羽郡役所內に於て百二十二名に對し修業證書を授與せり、開會中は村井郡農會長、柴田昧勝の兩郡農會役員は勿論、その他關係諸氏の盡力非常にて成績も先づ佳良なりしが、特に講習用の器具書籍等の完備したる一事は未だ他に多く見ざる程なりしと。

◉昆蟲叢書に就きて　昆蟲叢書は去月中に開版の都合なりしに、東京へ注文せる寫眞銅版及び木口彫木板等の急に竣功せざる爲め又々延期の止む可からざるに至れり、謹んで告ぐ。

◉昆蟲研究會消息　靜岡縣周智郡昆蟲研究會にては本月五日午前八時よりそが秋季總會を同郡可睡齋に開會せしに、會衆は都て三百餘名にて後藤郡長、山本郡書記、其他各町村長等も出席せり、軈て席定まるや增田郡農會副會長の挨拶及び報告あり、次に名和當研究所長の演說あり、午後には河合久永の兩幹事、小池飯田支會副長の演說に次ぎ名和所長の殆んど二時間にわたる講話あり、終つて實物研究をなし後懇親會を開きたるが極めて盛會なりき、又當日會員の携帶出品せる標本は宇刈四個、久永氏五個天方一個、一宮一個、久努西拾個の外實物寫生圖二拾餘なりし趣むき同會の通信に見えたり。

◉飛驒の昆蟲講習會　岐阜縣吉城郡にては今夏を以て昆蟲學の短期講習會を開く計畫ありしも、折柄異常の支障を生じ暫らく延期の上、本月三日より七日まで五日間開講せり、指名の講師名和當所長

は彼の東海農區實業大會へ出席せしを以て是また名和梅吉氏を代理として出張せしめたるが、修業生九十名、假修了生拾一名都合百壹名に證書を授與したりと、尙ほ同郡にては此期を逸せず農作害蟲の驅除豫防を嚴行する見込なるが、會員の多くは小學敎員及び實業家なりきと云ふ。

◉螟卵摘採數　愛知縣三河國渥美郡内に於て今年摘採の螟卵塊は合計六拾七万八千四百九拾塊にて其外七千三百六十九蛾を捕獲したるが、之を細別すれば左の如かりきと。

◉苗代田は小學生徒六万七千三百四十一塊、當業者二十六万八千九百四十九塊◉本田は小學生徒十万八千三百九十五塊、當業者二十三万三千八百五塊◉小學生徒の分總計十七万五千七百三十六塊◉當業者の分總計五十万二千七百五十四塊◉苗代田通計三十三万六千二百九十塊◉本田通計三十四万二千二百塊

◉苞蟲の共同驅除　岐阜縣海津郡にては去八月中より郡内處々に苞蟲の發生して追々加害の狀況あるに付、去月の初め各町村長を招集して協議を遂げ一面には警察署の應援を請ひ、蟲害劇甚の塲處全部に向つて大畑潰殺器を用ゐて驅除を行へりと。

◉岐阜縣武儀郡小學敎員昆蟲學講習會　同會は本月十一日午前八時を以て當研究所内に開催、來る十五日を以て終了の豫定なり、講習會員は四十五名にて岐阜縣視學官寺尾捨次郎、武儀郡長小島鼎の二氏臨席の上、開講式を擧げたり、詳細は次號に物すべし。

◉第卅四回岐阜昆蟲學會　本月五日午後例刻より當研究所に開會せり、前日よりの降雨にて會員の參集を氣支へしかば座談會となしゝに各郡の代表者等を合せ無慮二十餘名にて、長野永澤二氏の漢醫と方劑及び植物と醫藥の關係の談話並びに會員の農作上の實驗談等ありて午后五時散會を告げたり。

◉昆蟲標本陳列塲の參觀人　去八月十五日當研究所の常設標本陳列室を岐阜縣物產館内へ移轉してより、去月末までの參觀人總計は實に二万四千七百一人にて、其中最とも多かりしは九月廿四日の千二百八十七人、最とも少なかりしは同月二十日の百三十五人とす、之を平均すれば一日五百二十六人弱に當るの割合にて、硏學的參觀人の重なる者は東京帝國大學農科大學助敎授諸戸北郎氏及び京都大阪大分岐阜富山各府縣立農學校の職員、其他の各縣農事試驗塲職員等百六十餘名とす。

（以上、十月十二日脫稿）

◎害蟲圖解既刊の分

●第一。桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（三版）●第二。桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（再版）
●第三。稻の害蟲イチノズヰムシ（二化生螟蟲）●第四。煙草害蟲タバコノアヲムシ（煙草螟蛉）
●第五。稻の害蟲イチモジセセリ（苞蟲又葉捲蟲）●第六。桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姫象鼻蟲）
●第七。桑樹害蟲シンムシ（心蟲）●第八。稻の害蟲イチノアヲムシ（稻螟蟲）
●第九。茶樹害蟲ミノムシ（避債蟲）●第十。豌豆害蟲エンドノキリムシ（夜盜蟲又地蠶）
●第十一。桑樹害蟲クハカミキリ（桑天牛）●第十二。稻の害蟲ツマクロヨコバヒ（浮塵子）
●第十三。桑樹害蟲イトヒキハマキムシ（糸引葉捲蟲）

以上十三種は既刊の分にして發刊以來既に江湖の高評を得て郡農會又は町村農會は勿論、各種の諸學校にも備へ付けられたり、時節柄害蟲驅除には必要欠く可からざる圖解とす。

◎新刊の害蟲圖解

●第十四。茶樹害蟲チヤケムシ（茶蛅蟖）

茶樹の害蟲は種々ありと雖も、就中茶蛅蟖の如きは最も害の甚しきものにて、之が驅除豫防をせんには先づ其發生經過を知悉するにあり、而して之が手引としては此圖解の如きは最も必要のものたりと信ぜ、尙ほ第十五には馬鈴薯の害蟲として最も恐るべきテントウムシダマシの圖解を發刊せんとす幸に愛顧を賜へ。

◎害蟲圖解未刊の分豫告

◎桑樹害蟲キンケムシ(金條蛅蟖)
◎稻の害蟲フタホシズヰムシ(三化生螟蟲)
◎稻麥害蟲キリウジカガンボ(切蛆)
◎稻の害蟲セジロウンカ(背白浮塵子)
◎稻の害蟲ヒゲナガアブ(長角虻)
◎桑樹實蟲クハハマキ(桑葉捲蟲)
◎蠶の害蟲カヒコノウジバヘ(蠁蛆)

◎松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
◎藍の害蟲アヰノゾウムシ(藍象鼻蟲)
○粟の害蟲アハノズヰムシ(粟螟蟲)
◎胡麻害蟲メンガタスズメ(胡麻蠋)
◎赤楊害蟲ハンノキケムシ(赤楊蛅蟖)
◎櫟の害蟲カミキリムシ(天牛)

◎桑樹害蟲クハケムシ(桑蛅蟖)
◎稻の害蟲イナゴ(蟲螽)
◎稻の害蟲トビイロウンカ(褐色浮塵子)
◎稻の害蟲クロクサガメ(黒色椿象)
◎桑樹害蟲アヲハマキムシ(青色葉捲蟲)
◎桑樹害蟲クハゴ(野蠶)
◎蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○蔬菜害蟲サルハムシ(菜の葉蟲)
◎大豆害蟲ヒメコガ子(姫金龜子)
◎梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
◎梅樹害蟲ウメシヤクトリ(梅尺蠖)

◉圖解の紙幅縱一尺三寸横九寸 ◉壹枚の代價拾五錢郵稅貳錢
◉百枚以上一纒壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

◉豫約代價

壹枚拾錢郵稅貳錢
但申込の際前金添附の事

圖解代金 凡て前金にあらざれば回送せず但郵券代用壹割増の事

◎梨樹害蟲ナシゾウムシ(象鼻蟲)
◎梨樹害蟲ホシハマキ(星葉捲蟲)
◎果樹害蟲イラムシ(刺蟲)
◎稻の害蟲オホズヰムシ(大螟蟲)
◎藍の害蟲アヰノズヰムシ(藍の螟蟲)
◎粟の害蟲アハノヨトウムシ(粟蠶)
◎里芋害蟲セスヂスズメ(烏蠋)
◎桐樹害蟲シモフリスズメ(桐蠋)
◎果樹害蟲ホシカミキリ(白斑天牛)
◎果樹害蟲ドウガ子ブンブン(金龜子)

發行所 岐阜市京町 **名和昆蟲研究所**

◎昆蟲學用書籍寫眞廣告、

名和昆蟲研究所長名和靖著

五版

薔薇の一株 昆蟲世界 全

定價貳拾錢郵税貳錢郵劵代用一割增

名和昆蟲研究所編

臨時刊行第一編

日本昆蟲分科表 全一册

定價（郵税共）金貳拾八錢（郵劵代用一割增）

名和昆蟲研究所編輯部編

臨時刊行第二編

通俗益蟲集覽 第一輯（説明書附）

定價（郵税共）金貳拾貳錢（同上）

雜誌昆蟲世界合本出來廣告

昆蟲世界第三卷

本邦唯一の昆蟲雜誌

昆蟲世界合本

洋綴金文字入表紙

●昆蟲世界第三卷合本壹册 定價金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

●昆蟲世界第四卷合本壹册 金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

名和昆蟲研究所

春蠶種販賣廣告

本舘製造の春蠶種は飼育し易く繭質善良加ふるに病毒皆無なるは既往の成績に徴し既に當業家諸君の稱贊を辱ふせる所なり現に昨年の如きは豫約を募集せしに未だ期限に至らざるに既に製造額以上に達するの盛況を呈し止むなく謝絶したり今回大に規模を擴張し蠶室貯桑場、上簇室等を增築し精選蠶種を製造致すべきに付多少共御注文の上御飼育あらんことを

岐阜縣不破郡岩手村字岩手

樹神舘蠶業部

舘主 兒玉氏信

一本舘製造蠶種の種類又昔、靑熟、角又

一代價 框製壹蛾金參錢、普通製一枚金壹圓四拾錢（多數注文は特別割引）

明治三十四年秋期

精良苗木代價畧表

●詳細は本誌二百三十七號にあり●

◉苗木は枯れると云ふ心配よりして遠方から良種を取寄るを躊躇なさる方もありますが是は荷造の粗漏からして起るので注意さへしますれば決して其の樣な心配はない殊に秋期は（十月中旬より十二月下旬まで）苗木の植替に最も適當なる時なれば極安全にて且つ弊園は數年の經驗に依り荷造して充分の責任を負ひ御發送可仕候間御安心の上陸續御注文の程を願ます

◉苹果（わほりんご）

壹本金五錢　百本金四圓

●紅魁（早）●中成子（中）●赤龍（晩）●倭錦（晩）●松井（晩）

●滿紅（晩）●大錦（中）●生娘（中）●大猩々（中）●晩成子（晩）

◉内國梨（なし）

◉壹本金七錢　百本金六圓

●世界一（中）●長十郎（晩）●淡雪（中）●力彌（中）●奥六（早）

●大古河（晩）●早生赤（早）●赤龍（晩）●赤穂（早）●玉水（晩）

◉柿（かき）

●一本金五錢　百本金四圓

●御所甘大 ●百日甘大 ●江戸一甘大

●蜂屋澁太 ●代々丸甘大 ●核無澁太

◉漬梅（つけむめ）

◉一本五錢　百本金四圓

●豐後（大）●養老（大）●白加賀（中）

●小梅（小）●和實（中）●太平梅一本十錢

◉天津水蜜柑（早最大形）◉上海水蜜柑（晩最大形）

一本八錢　百本七圓

●以下各種壹本代價百本以上割引

●西洋梨八錢 ●櫻桃五錢 ●西洋桃十錢 ●己丹杏五錢 ●牡丹杏五錢 ●米桃五錢 ●西洋無花果十五錢

●田中大枇杷十五錢 ●甲州葡萄五錢 ●丹波栗七錢 ●盆栗七錢 ●草苺一錢 ●すぐり四錢

●甜橙（ワシントンネーブル）

一本二十錢　百本十八圓

●紀州蜜柑五錢 ●溫州蜜柑五錢

●夏橙六錢 ●鳴門蜜柑十二錢

◉花櫻（さくら）

●一本五錢　百本四圓

●天の川八重紫 普賢象千重白赤 關山櫻八重緋 桐ヶ谷八重淺色

細川匂一重白 紫櫻八重紫 長州緋一重緋 淺黃櫻八重淺黃

◉吉野櫻

壹本四錢　百本三圓

◉花梅（むめ）

●一本十錢　百本八圓

八重葉青八重白 蝶の花形八重紅 滿月一重白 幾夜寢覺八重紅 滄溟月一重白

玉光一重紅 塒出鷺一重紅 田子月一重白 唐梅八重紅 冬至一重白

◉ばら類 一本十錢方
◉つばき類 一本十錢方
◉さゞんか類 一本十錢方
◉もみぢ類 一本十五錢方

此四種盆栽仕立一鉢三十錢方貳圓迄あり

◉牡丹類 並一株廿五錢 上五拾錢
◉芍藥類 一株貳拾錢方
◉花菖蒲 一株九錢方
◉櫻草類 一株十五錢方
◉南天類 一本十錢方
◉つゝじ類 一本五錢方
◉石蔓類 一篠五錢方
◉蘭、萬年青類 壹篠五十錢方
◉球根類 一球三錢方

多數は割引あり御照會被下度候

●ちやぼひば（一尺）一本十五錢 百本十二圓
●金松（一尺）一本十五錢 百本十二圓
●多行松（一尺）一本十五錢 百本十二圓
●萬代松（一尺）一本十五錢 百本十二圓
●枝垂松（二年）一本十錢 百本八圓
●落葉松（二年）千本二圓五十錢
●杉（三年）千本三圓
●扁柏（三年）千本五圓
●桐（三尺）百本六圓
●かなめ（三尺）百本一圓
●羅漢槇（二年）百本一圓廿錢

多量に御入用の向は特別割引す

◉通運便は道順問屋等可成委細御申越被下度若し御分りなければ當方にて取調御差支無之樣御取計可申候其の運賃も共に前金に御送付相願度先拂にて延着と相成爲めに生ぜし損害は辦償致し兼候

◉萬一種類違或は不正品等を發送せし場合には品換の御請求に應ず

◉荷造費は郵便送りに限り當園支辨仕候

◉百本以下は小包郵便にて差送可申候苗木は一本目方四十匁位に付き郵税御見積の上代金と共に御送付願上候一貫五百匁以上は數個に分包して御送付可仕候

種子苗木養成販賣所

早稲田農園

東京牛込早稲田

農商務省農事試驗場 農科大學 各府縣農會用達

爲替振込 牛込局　郵券代用一割增

◉農業書類 ◉幻燈器械 ◉高等農具 ◉養蚕諸品 ◉大販賣◉

明治三十四年十月十五日發行
昆蟲世界
毎月一回十五日發行
第五卷第五十號

(明治三十年九月十日內務省許可)
(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

◉岐阜昆蟲學會月次會廣告

岐阜昆蟲學會月次會は毎月第一土曜日午後一時より岐阜市京町岐阜縣農會樓上に於て開會する筈なれば萬障御繰合の上毎回御出席御演說に預り度候尤も第一土曜日は名和昆蟲研究所員一同午前より研究を中止し居れば精々早く御出席に相成候得は斯學研究上出來得る限り御便利御與可申候以上

但該會へは縣の內外を問はず有志者諸君廣く御出席を請ふ

明治三十四年八月

名和昆蟲研究所內 岐阜昆蟲學會

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し

第三十五回月次會(十一月二日) 第三十六回月次會(十二月七日)

◉名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如く停車場よりは僅十餘町にして養蟲室あり、又ロとへの間なる新設の岐阜縣物產館內には當所常備の昆蟲標本陳列室あり有志諸君の來訪を竢つ

岐阜縣岐阜市京町 名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部郵稅共金拾錢〔見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す〕

壹年分拾貳部郵稅共 金壹圓八錢

(注意)本誌は總て前金に非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす

◉廣告料五號活字廿二字詰一行に付金拾貳錢、三十行以上一行に付金拾錢とす

明治三十四年十月十五日印刷並發行

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二(岐阜縣岐阜市京町)
發行所 名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二 發行者 名和梅吉
同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶 編輯者 桑原貫之助
同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶 印刷者 河田貞城

(大垣西濃印刷株式會社印刷)

Vol.V. NOVEMBER. 15TH, 1901. No.11.

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

十一月十五日發行

(每月一回十五日發行)

昆蟲世界

第五拾壹號 (第五巻第拾壹冊)

目次 (禁轉載)

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

(明治三十四年十一月十五日發行)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附物品受領公告

一絖地書畫（群蟲圖并賛）壹枚
一色紙和歌（昆蟲讀込）壹枚 東京府 平田東助君

一臺南新報（昆蟲記事）貳葉 臺南縣 中村長治君

一大分新聞（昆蟲記事）壹葉
一大分每日新聞（昆蟲記事）壹葉
一蟲除御札 三種 三枚 第九回全國害蟲驅除講習修業生 大分縣 三浦三平君

一黴菌斃死浮塵子標本 壹瓶 石川縣 中西常吉君

一三化生螟蟲被害稻比較標本 壹組 第七回全國害蟲驅除講習修業生 愛媛縣 矢野延能君

一金華山燒花瓶（群蝶摸樣）壹個 岐阜縣 福田金次郎君

一山陽新報（昆蟲記事）壹葉 東京高等農學校 昆蟲通報生

一對馬産昆蟲 三十餘種數百頭 長崎縣 平田駒太郎君

一理科教授法 壹冊 高等師範學校教諭 棚橋源太郎君

一鎌倉塗菓子盆（蜻蛉彫刻）壹個 東京府 田中芳男君

一竹製筆筒（牡丹に昆蟲彫刻）壹個 岐阜縣 小幡忠臧君

一害蟲試驗成績報告（第三版） 滋賀縣農事試驗場

一日本樹木害蟲篇（上卷） 東京 敬業社

右當昆蟲研究所に寄贈相成候に付茲に芳名を掲けて其厚意を附す

明治三十四年十一月 岐阜市京町 名和昆蟲研究所

◉昆蟲世界講讀紹介者芳名

徳島縣 阿部萬三郎君（壹名）
新潟縣 田中清一君（壹名）
靜岡縣 村松誠三君（壹名）

◎岐阜縣冬季昆蟲展覽會經費寄附金第壹回受領報告（人名イロハ順）

一金參圓 坪井伊助君
一金參圓 三宅貞太郎君
一金貳圓 中島吉三郎君
一金壹圓 西堀彌市君
一金壹圓 高橋貫一君
一金壹圓 名和政千君
一金壹圓 長野菊次郎君
一金壹圓 村井正元君
一金五拾錢 谷好之君

一金參圓 名和靖君
一金貳圓 西濃印刷會社
一金貳圓 河田貞城君
一金壹圓 安藤登君
一金壹圓 小幡忠臧君
一金壹圓 田中榮助君
一金壹圓 名和梅吉君
一金壹圓 永澤小兵衛君
一金壹圓 圓山包吉君

○小計金貳拾五圓五拾錢

右今般本會計畫の趣旨に賛同せられ頭記の金額寄附相成候に付此段及報告候也

明治卅四年十一月 岐阜縣昆蟲學會

◉蟲合せの答案を求む

世に草合せ歌合せ繪合せ等の催ふしありて多興多味の間に各々其道の發達を圖れり、然るに唯り三十萬種屬を有する昆蟲にのみ之無きは斯道の瑕瑾にあらずさせんや、當研究所茲に感あり、今回弘く蟲合せの答案を江湖の博雅に求む、冀くは此擧を賛して來る十一月廿五日までに編輯部へ宛投稿あれ、今その四五例を擧ぐれは左の如し。

（カマキリ（ノコギリ蜂　（赤卒（烏蠋　（七星瓢蟲（八町蜻蛉　（天牛（地蠶　（蟻垤（蜂窠　（甘露（優曇華
（寶盛むし（正雪蜻蛉　（孫太郎蟲（お菊むし　（カブトムシ（クハガタ蟲

（但し百對以上を優等さし、五十對以上を一等さし、四十對以上を二等さし其以下を三等さす。）

Hepialus aemulus, But. ガヒリンシギサリ

論說

◎昆蟲學研究上の新材料（中）

名和昆蟲研究所長　名和靖

前說の如く、昆蟲學上より衞生害蟲を研究する時は、快味最とも饒かに、且つ彼我稗益の點少なしとせず、更に之が地步を擴めて、蚊族より臭蟲に及ぼし、之れより蝨蟣、蠅蛆、跳蚤の諸屬はさらなり、藥物に供用せらるゝ品種をも絲分縷析して、その性狀、効害、能毒を明らめたらんには、延て獸醫學との氣脉を通じ得べく、又昆蟲學の上に於ても一異彩を放射するに至りぬべし。

（二）昆蟲模樣と工藝品の關係　凡そ文明の進步に伴なひて、工藝美術の愈々自然物を應用するの機會に到達するは覩易きの道理なり。去れど其物品の形狀及び繪畫の如きは、國民の嗜好と用途の如何によりて異なり、例へば本邦產品の普通畫たる螢火の模樣は歐米人に疑念を起さしむるも、主ぱら貿易品に充つべき器財には彼が嗜好に投すべき花卉、野景を描き、及び之に伴ふ色彩を施こすが如き、又歐米諸國に於ては、器具の形狀を我の好まざる獸畜に象どること多く、其設色も最とも濃艶なるを恒とすれども、本邦產品を摸造するに方りては淸楚閑雅の日本趣味を爲ねするが如し、故に均しく天然物とは云へ其間に自づから好惡の感を有するは、また爭ふ可からざる事實なり。由來歐米人は昆蟲を科學的に研究するに長けたるも、之を美術的に應用するに疎ろかなるに似たり、彼の舶載の器具に昆蟲を描けるは少

なきも、著述に有用の良書多きは其一例とす。去れど歐米人士とて盡ごとく昆蟲を工業界より排斥するにはあらず、唯本邦人より視る時は、比較上少なしと云ふのみ、現に我が農商務省所藏の外國製品の中には、昆蟲を以て摸樣とせる食匙あり茶鍾あり果盆あり火合あるを見る、また文部省に於て今春佛國より購入せる工藝圖案に、其の五百枚の中、少なくも七十餘枚は草木と昆蟲とを配合せるに徴して之を知るに難からず。則はち優雅の天性を缺ける歐米人と雖ども、昆蟲を工藝美術品に應用して、娯樂を自然界に求むるの情あるや明らけし。

次に之を內に顧りみれば、彼の歐米に於て、其製作の原料を鑛物に取れるものにのみ、多く昆蟲を應用すると異なり、支那、安南諸國と同じく、之をあらゆる各種の工藝美術品に應用し、殆んど遺す所ろ無きやの觀あり。試ろみに帝室博物館、府縣立博物館若くは物產陳列塲に展列の物品より、小は吾が昆蟲研究所に於て、近者蒐集せるものに就て調査する時は優に其一斑を伺ひ知るを得べく、更に古代に遡ぼりて、彼の　勅封御物の一部、神社佛閣の什寶及び書史圖畫の類を細觀せば、恐らくは既往千五百年間は、我が國民の昆蟲摸樣を嗜好するの厚かりし事實を確證し、然かもその應用の藩籬を脫して、寧ろ濫用に陷いらざりしやを想見せしむるに足るものあらん。是れ吾が昆蟲研究所に於て、昆蟲學講習會を開く每に、此兩者の關係に說及ぼして、多く昆蟲を工藝美術の上に應用するは、東洋の特色なり、と斷言せる所以なり。

斯く昆蟲と工業美術とは、密切の關係を有し乍ら、其應用せられたる昆蟲の形態は多く適實を失ない、世間觀るべきの佳作至つて少なきは、抑そも是れ何故ぞ、思ふに一片風雅の心情に絆されて敢てその異同を尤めず、又實物を摸樣化するに急がはしくて、其是非を考定せざりし等は之が主因たりしならんも

之を業とする工匠の道理に暗く、徒づらに古式舊樣を襲踏するを是れ能事となし、偶々支那式に摸倣するを以て無上と誤了し、毫も寫實に重きを置かざるの結果たらずとなさんや。去ればにや、天平時代の絹織文も元曆年間の彫刻物も、其書樣に至りては殆んど優劣なく、古有田も新九谷も、その眞に遠ざかれる昆蟲を描出するは共に相同じ、但古製品は自づから品格高く、氣韻に富むも、昨今のものに至りては僅かに形骸を存すと云ふに止まれり、蓋しその然る所以は、往々文學上より研究を遂げたる者は之れあるも、半は迷信、誤解の間に葬むられ、他の半は經濟的研學すなはち實學を重んぜざるに起因せずんばあらず、是れ東西その趣むきを異にするに至れる分岐點なるべきか。

古來、我が國民が特殊の嗜好を有し、昆蟲を巧みに工藝美術品に配合せるは上記の如し、然れども不幸にして未だ進歩の痕迹を留むるに至らず、其摸樣の一律なる、其意匠の陳套なる、其形象の亂雜なる、人誰か之を視て美術國民の腦底より涌溢せる結果なりと信ずる者あらん、而して間接に之を啓誘し之を奬勵し之が改良を促がし、以て千五百年來の特色を發揮せしむるの重任は、當に昆蟲學者の天職たるべしと信ず。其他なほ昆蟲學發達史眼を開きて、我が國民は何が故に昆蟲を工業に應用せしか、何が故に永くその嗜好を繼續せしか、何が故に他の生物に比して多く之を用ゐたりしか、其源因と起源は如何に昆蟲の種類は凡そ幾十百種に上るべきや、如何なる製作品に最とも多く之を用ゐたりしか、最とも巧妙に應用されしは如何なる種類なりしか、其應用の範圍は那れの邊にまで及びしか、等の諸問題を解釋するは、また有要にして興味ある研究の價値を失はざる可し。

寄蜂戀　如何にせん斯くてはねこそ山蜂の刺もつれなき人のこゝろを。　（佐々木弘綱）

◎稲作加害の椿象類（續）

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

第七、コクモガメムシ Leptocoris sp.?（第十版第七圖）　此種はクモガメムシに似て小形なるより斯く稱せるなり、全躰淡綠褐色にして、躰長四分五厘、幅六厘許りの細長形をなす、頭部は方形にして前方に突出し、其基部の兩側より觸角を生ずることクモガメムシに似たり、複眼は黑色を呈し二個の單眼は後頭部に存せり、觸角は四節より組成し、基節は太く第二三節は細くして先端は黑色を帶び、末端の一節即はち第四節は少しく太く、半は褐色を呈せり、前胸部は方形をなし、其の頭部に接する處ろは細まり中胸楯板は倒三角形にして黄褐色を呈せり、翅部は淡綠茶褐色を帶び脚部は淡綠褐色にして跗節は多少濃色を帶べり。

此種は早稲の抽穗時期に際し、クモガメムシと同じく四方より集まり來り、稲の液汁を吸收して成熟に到らしめざることあり、されど此種の加害は稀少にして、常に自然生の禾本科植物に發生す。

第八、ヒメクサガメ Rubiconia intermedia, Wolff.（第十版第八圖）　ヒメクサガメは小形にして圓く、恰も甲蟲類の或種に似たり、全躰は茶褐色にして、躰長一分九厘乃至二分、幅一分二厘許りあり、頭部は方形にして黑褐色を呈し上面に二個の凹線あり、複眼は淡褐色にして突出し、單眼は二個ありて、其後頭部に存すれども、注意せざれば檢出し難し、觸角は短かくして僅かに八厘許り、五節より組成し黑

褐色を帶び、基部の二節は多少淡らげり、前胸部は方形にしてトビイロガメムシの如く、中央には橫線あり外緣は黃白色を呈し、前緣に近き處には黑褐色紋を存在し、中胸楯板は廣く躰の三分一を占め、其基部には不正圓形をなしたる二個の鈍白色點を印せり、翅部は茶褐色にして膜質部は透明に、少しく色彩を施こし、脚部は淡褐色をなして斑紋を存せり。

此種は自然生の禾本科植物には最とも普通のものなれども、往々稻の苗田或ひは陸稻等に發生して加害することあり、冬季は成蟲の儘にて草根に潜伏して越年するが故に、冬季採集を行はゞ堤防等の雜草間に於て多く捕獲し得べし。

第九、ツノヒメクサガメ Eysarcoris parva, Uhler,（第十版第九圖） 此種は前種に酷似し居るも只其色彩の少しく淡きと、前胸部の兩側に針狀の突起を有するの差あり、是れツノヒメクサガメの稱ある所以なり、躰長は一分八厘內外にして、全躰淡き茶褐色を呈し、頭部は方形をなし鈍き青藍色を帶ぶ、複眼は淡赤褐色、單眼は二個ありて其後頭部に存せり、觸角は五個の關節より成り、長さ一分弱、淡褐色をなせども尖端の二節は暗褐色をなせり、前胸の緣邊は白色を呈し、前方基部には黑褐色をなせる方形紋を有す、而して中央の兩側は著るしく突起して針狀をなせり、是れ此種の特徵たり、中胸楯板は基部の橫徑も其全長も共に約八厘ありて、躰軀の殆んど三分一を占むること敢て前種と異ならず、翅部は灰白褐色を呈し膜質部は透明に、その茶褐色の體面には黑色橢圓紋を散在せり。

此種はその性質ヒメクサガメに似たるのみか、又常に同處に共棲して、稻莖の滋液を吸損することあり去れど前種に比すれば發生多からざるが如し。

第十、クロクサガメ Eurygaster sp?（第十版第十圖） 此種は全躰黑色にして、全長三分二厘許り、有

吻目中にありては中形のものたり、多く九州、四國及び紀伊地方の稻田に發生して痛く作物を加害するものにて、農作上特に注意すべき害蟲の一とす、而して之が記載は『昆蟲世界』第二卷第十四號に、所友中川久知氏の縷述せられたる詳明の研究調査報告あれば、爰には其説明を省きつ。

第十一、ヒゲナガガメムシ Pachygrontha similis, Uhler.（第十版第十一圖）　此種の雄蟲の觸角は非常に長きを以て偖は斯く名づけたり、又ツノナガガイダとも異名せり、全躰は淡黑褐色にして、躰長は其大なるものは二分六厘、小なるものは二分二厘内外あり、頭部は稍方形にして暗褐色に、複眼は淡褐色をなし、單眼二個は其後頭に存在す、觸角は一分八厘許り都て四節より成り、前頭部の兩側より出で、基節は長くして前節に接する處ろ黑色を呈し、第三四節は其色濃やかなり、前胸部は方形に中央には縱線を畫して光輝を帶べる黑褐色を呈じ、中胸楯板は倒三角形をなせり、翅部は前胸部に比し其色薄く、膜質部に接する處ろには、各一個の黑褐色をなせる小點紋を有す、脚部の中、前脚の股節は他の二双に比し著るしく膨大せるを見る。

此種は常に自然生の禾本科植物に發生すと雖ども、亦時ありて害を稻莖に加ふ、此科に屬する椿象にて尚ほ兩三種の害蟲あれども、煩雜にわたるを以て茲には記さゞる可し。

第十二、ハリガメムシ Cletus bipunctatus, H.S.（第十版第十二圖）　此名稱は前胸部の兩側の突起して針狀をなせるより起れり、躰色は淡黃褐色にして其長三分八厘、幅一分二厘內外を算す、頭部は方形にしてオホクモガメムシの如く前頭端の兩側より觸角を生ぜり、複眼は淡褐色に、二個の單眼は後頭部にありて稍赤色を帶べり、觸角はその長三分四五厘に達し四節より成り、基節は太く第三節は赤褐色に末端の一節は暗褐膨大なり、前胸部の前部即ち頭部に接する邊は狹きも、次第に其濶さを增し針狀をな

せる突起部に至りて止む、中胸楯板は黄褐の倒三角形をなし、翅部は其色少しく濃やかに、膜質部には淡褐の翅脈ありて透明なり、脚部は遍ねく淡黄褐色に彩どられ、股節また何れも太やかなり。

此種は前者と同じく自然生の禾本科植物に發生し其葉莖を喰害して成蟲となる、一旦早稲の抽穂期に到れば四方より群聚し來りて大害を與へ、時に或ひはその生育を妨たぐる事あり、尤とも注意を要す。（完）

◎作物被害原因驅除法索引（其五）

農商務省農事試驗場技師農學士　小貫信太郎

第四十六條
（第四十四條第二項）

一、蟲に若し脚なき時は果蠅の一種（Tyletidae）の害なり、害せられたる果實を除くの外驅除法なし。

二、蟲もし六脚を有する時は象鼻蟲の一種なり、老蟲の產卵前、春季果實に毒液を散布して豫防すべし、毒はパリス綠又はロンドン紫劑を用ゐる、但し右劑の一磅に水の二百乃至三百ガルロン（壹ガルロンは凡そ我が二升五合）を混じ、之を遠方より灌注してその液の葉端より滴下するに至りて止むべし。

三、六脚以上を有する蟲種なる時は鱗翅類の幼蟲なり、前法に據り豫防すべし。

第四十八條
（第三十八條第二項）

一、黑くして煤を有するが如くに見ゆる時。（第四十八條を見よ）

二、屈折し若くは曲れる時。（第四十九條を見よ）

三、斑點を有する時。（第四十二條を見よ）

四、黴を生じたる如く見ゆる時。（第十五條を見よ）

五、蝕害せられたる時。（第五十條を見よ）

第四十八條

一、色甚はだ黒ければ煤病に侵されたるものにして黴菌の一種あり、この原因は昆蟲より分泌したる液汁に蕃殖せるに依る。
二、若し枝葉に疣の如き貝殼を以て覆はるゝ時は貝殼蟲科の被害なり、驅除には石油乳劑を用ゐる、但し石鹼水に少量の亞砒酸を加へたるものを混す可し、もし結實せる場合には石油に少許の除蟲菊を加ふべし。
三、葉に蚜蟲の存在を認むる時は即ちその原因なり、石油乳劑を用ゐるべし。

第四十九條
（第四十七條第二項）

一、桃の葉に起る時には黴菌の寄生なり、驅除法あるし、然れども冬季の洗滌法は有効なりと認めらる、その洗滌藥劑の分量、製法及び用法は八磅の石灰、三磅の食鹽、四磅の硫黄華と、三斗の水とを備置き、先づ全量の四分の一の水に石灰の全量の四分の一及び硫黄の全量を加へて一時間半許り煮沸し、又更に全量の食鹽と殘量の石灰とを加へ、熱湯を混じて攪拌したる液を作りて前者に混合、煮沸する事凡そ半時間の後、殘量の水を加へて被害部に注射するに在り。
二、桃以外の果樹なる時は蚜蟲はその原因たり、石油乳劑を用ゐるべし、然れども葉十分に卷縮せる時は驅除大ひに困難あるを感ずべし。

第五十條
（第四十七條第五項）

一、被害部に於て蟲を見る時。（第五十一條を見よ）
二、被害部に於て蟲を見ざる時。（第五十三條を見よ）

第五十一條
（第五十條第一、第五十二條第二、第五十三條第三）

一、もし六脚蟲を存する時は葉蟲の幼蟲なり、石油乳劑若くはパリスグリーン、ロンドンパープルを用ゐべし。
二、十乃至十六脚の蟲を存する時。（第五十二條を見よ）
三、十六脚以上を有する蟲なる時は鋸蜂の幼蟲なり、葉蟲と同樣の法を行ふべし。

四、もし蝗蟲なる時。（第三十六條第三項を見よ）

第五十二條（第五十一條第二項）

一、鱗翅類の幼蟲個々に棲息する時は第五十一條と同様の驅除法を用ゐべし。

二、枝に於て群生する時は其枝を剪去りて之を殺すべし。

第五十三條（第五十條第二項）

一、蝕害せられたる葉の下に當る地下を檢査すべし、褐色又は綠色の球狀の物躰を見る時は食害し畢りたる蟲の角或ひは巢にして、晝間はこの中に隱れ夜間出て加害する種とす、ロンドンパープル、パリスグリーンを用ゐべし。（第四十六條を見よ）

二、地面に於て此等のものを見ざる時は、蟲害にあらずして他の動物の所爲とす。

第五十四條（第卅八條第三項）

一、幹或ひは根に於て夥多の蚜蟲を認むる時は是れ全たく其原因たり、樹に於けるものは石油乳劑を以て殺すべく、根にあるものは驅除甚だ困難なり、何となれば同種の蟲屢次樹上樹下ともに生存するを以てなり、斯る場合には二硫化炭素を用ゐべし。

二、蚜蟲を認めざる時。（第五十五條を見よ）

第五十五條（第五十四條第二項）

一、樹に於て貝殼蟲を認むべし、この蟲數多き時はその原因なり、石油乳劑を用ゐべし（第四十八條を見よ）否らざれば樹脂洗滌劑を用ゐべし、石油乳劑よりは却つて低價なりとす。

	（夏時）	（冬時）
樹脂	十八磅	三十磅
コウスチック曹達（七十パーセント）	五磅	九磅
魚油	二、半磅	四、半磅
水	二石五斗	二石五斗

右の分量に依り、桶中に水を除きたる他のものを混じたるものに、水を加ふること四五寸許り二時間若くはその以上煮沸の後殘量の水を加ふべし。

二、貝殼蟲を見ざる時。（第五十六條を見よ）

◎クサギノシンクヒ蛾(Hepialus aemulua, But)と迷信（第十一版圖參看）

名和昆蟲研究所長　名和靖

クサギノシンクヒ蛾は昆蟲學上の分類に從がへば、鱗翅目、木蠹蛾類中の蝙蝠蛾科に屬すべきものにして、其幼蟲は臭梧桐(Clerodendron tricomum, Thunb.)の木質部に蝕入して加害するが故に此稱あり。ろも此幼蟲は古來、小兒科治療の一方として漢方醫の用ゐたるものにて、地方によりては之をクサギノムシ、クサギノキクヒムシ、トウノキムシ、又トウナムシ等といひ、偶々山樵の之を都會に持來る事あれば、爭そひ購ふて藥劑に供するの風ありき。即はち平賀鳩溪先生の『物類品隲』臭梧桐記事の末文に、又樹中の蠹蟲は小兒疳疾を治し蟲を殺す、小野蘭山先生の『本綱啓蒙』木蠹の條下に、諸木身中に生ド內より木を食ふ長蟲なり、形は烏蠋の如し、木によりて其効異なり（中畧）臭梧桐蠹蟲は醬油に漬、炙り小兒に與へ食はしむ、虚損、疳疾を治すと云、とあるもの是なり。

按ずるにクサギは臭木にして、もと臭桐すなはちクサギリの略名なり、植物書にては之を海州常山と書す、今便宜上「群芳譜」の説に從うて臭梧桐の字を用ゐる。又按ずるに、灌木にも同名のものあり「本草啓蒙名疏」毒草の部「本草和解」及び「事物異名類篇」等に常山と書してクサギ又はコクサギと訓ぜるもの是なる可し、但し「和字古今通例全書」其他一二を除き、本邦の辭書には、多く此木と草とを混同して解釋し置けるが如し。

顧ふに、本邦に於て松、桃、桂、柳、桑等の木蠹蟲及び孫太郎蟲の如き水生蟲を藥用となせしは敢て珍らしからず、去ればにや、臭梧桐蠹蟲をも、同じく小兒に與へて內損を補はしめたるなる可し、其有驗の如何は措て問はず、昔時は全たく或る病種に限りて之を用ゐしものなるに、今や一種の迷信と之に伴なふ好奇心とは、この木蠹蟲を以て肺疾の奇藥となすに至り、所在奸商輩はこの好機を逸せずイキイボ

タムシ(生きたるイボタ蟲の義)と稱し、白晝公然これが効驗を店頭に掲げて盛んに肺疾患者の需用に應せり。特に甚はだしきは次に轉載するが如き廣告を今年四月、名古屋市の中央に大書せるを見る、如何に昆蟲の性質に暗き國民多しとは云へ、斯かる射利的商賈のなすが儘に放任し敢て怪まざるは何事ぞ。

○肺　病
○神經病　驚くべき
○胃　病　大妙藥　生イボタ蟲

此蟲は是迄ありふれたる干物にあらず、生蟲にして動き廻りて勢ひよろし此蟲を一度服用すれば如何なる重き肺病、胃病、神經病も全治すること神の如し、世中に藥はあまたあれども此生イボタ蟲は又格別の効能あり

名古屋市〇〇〇〇藥舖

是より先、北海道その他二三の府縣より、イボタ蟲の有無を照會し來れるものあり、當時は彼の蜀江蛾の幼蟲たるイボタムシか、否らざればイボタシフムシ即はち貝殼蟲の一種を光澤布若くは其他の用に供するものならんと思惟し、他に分與すべきもの之れ無き旨を回報せしが、後に至り一二新聞紙上に於て又親しく商店の簷頭に於て、イボタ蟲てふ廣告を讀み始めて先の照會は貝殼蟲等にあらで此木蠹蟲たることを解得し、世の賣藥の多くは恰かも水を啜るが如く、又湯を飲むに異ならずとの批評の如何にも適切なる可きを信せり。

原來此クサギノシンクヒ蛾は極めて種屬の少なきものにて、現時此科に配せらるべきものは纔かに一種あるを知るのみ。其學名をHepialus aemulus, But. と云ひ、軀長は一寸四分許り、翅張は二寸七分內外ありと雖ども、大者と小者との差甚はだしく恒に一定せざるが如し。頭部は最とも小形にして複眼は大きく其色暗靑を呈し、口部には螺旋狀の吸收管を缺けり、觸角は短かき絲狀をなし其色淡褐にして、前胸は稍方形に、後胸部とゝもに是また淡褐色を帶び密に細毛を布けり。上翅は宛ながら鵲豆の莢狀をなし茶褐色にして處々に濃色の雲紋を散在す、下翅の形狀と大さは、また上翅に異ならざるも唯其設色を殊にして暗褐色に、外內緣は少しく薄らげり。脚部の搆成は少しく他種と異なり、後脚一雙は退化して著

るしく短かく、股節と脛節とは膨大となり、特に脛節の外側には濃褐赤色をなせる總絲樣の細毛を有せり、之に反して前脚中脚の二對は長大に、棲止の際は必らず此四脚によりて枝葉に懸ること第十一版圖に示すが若し。其腹部は長くして圓筒狀をなし、腹端に至るに隨うて多少細窄となる。

この蟲は年々九十月の交、羽化して蛾體となり、黄昏より飛翔するを恒とす、その空中を來往するや頗ぶる輕捷敏速に、特に普通の蛾類よりは大形なるを以て採集の際に往々蝙蝠と誤視することあり。斯くて接尾の後は、雌蛾は樹幹枝條の柔軟部を擇びて爰に卵子を産下し、その幼蟲の蝕入に便にす、幼蟲即はち木蠹の頭部は淡褐色を呈し軀脚ハ淡黄白色にして總て十六脚を具へ、十分老熟を遂ぐるに至れば身長一寸三四分を算す。

既記の如く、此蛾はその幼蟲期に於てハ木質部に潛在して、內部の組織を喰害するが故に、通常彼の天牛の幼蟲たるテッパウムシと誤認せらる。去れど此には八双の脚あり、又其排泄物をば必らず樹幹の一部に出して纖絲もて之を纏綴するの性あるも、天牛の幼蟲は原と無脚に、且つ汚穢物を幹枝の局處に穿てる小孔より脫落せしむるの特徵を有すれば、少しく其擧動に留目する時は明らかに兩者の別を辨知し得べきなり。此種は臭梧桐に寄生するの他、また白桐等にも加害するより、園藝家は不少の損害を被ふること多し、注意せざる可からず。蛹は大さ一寸四五分、橫徑二分五厘許りの圓筒狀にて、頭胸部は暗褐色に、他は淡褐色を帶び、常に蝕害せる竅內に存在す。

之が驅除法は未だ完全のものなし、或ひは銅線を以て刺殺すことあり、或ひは百部根を孔中に嵌入れて其死を期することあり、去れど除蟲菊の粉末を水に溶解し輕便注射器の類にて注射するを利便とすべし又成蟲にありては薄暮に其飛遊するを竢て捕殺するの外、未だ良法なしと雖ども、要するに之が驅除

れ白桐、臭梧桐に就てともに之を行はざれば、決して好結果を奏するの期なかる可し、園藝に從事する者は思はざる可からず。

世人の肺疾の特効劑として歡迎する所ろのイキイボタムシの眞相を發く時は、實に前に述べたる一種の木蠹蟲にして、桐類を蝕損する害蟲に過ぎず、而して其醫療上如何に効驗ありやは、今詳びらかに之を言明し難きも、前に引用せる鳩溪蘭山兩先生の說を以て判ぜれば、其治肺の能なきや必矣。知らず世人はなほ此迷信を繼續して醫治を忽かせにし、之が爲めに病毒を八方に蔓延せしめんとするや否や、嗚呼迷信の害もこゝに至りて極まれりと謂ふべし。

（說明）（イ）は產附したる卵子（ロ）は幼蟲（ハ）は蛹（ニ）は雄蟲飛揚の狀（ホ）は雌蟲靜止の狀（ヘ）は細絲にて綴りたる排泄物（ト）は排泄物を取除きたる跡（以上何れも自然大）

◎小貫氏の螟蟲驅除方針論を讀む

茨城縣水戶市　霞湖漁隱

近年、わが農界一派の徒が、其榮進を求め且つ名聞を售ふんとてにや、一種の妄想に驅られて、心にも無き僻見異說を吐露し、爲めに質直敦厚の農民を蠱惑するの傾向あるは、抑そもこれ何等不祥の兆候ぞ特に本邦農事の摸範地とも稱すべき中央試驗場に出入する者また同じく其病患に感染せりと云ふに至りては、國家の進運上、實に大息せざるを得ず。吾儕はもと夙夕犂鋤を侶とする常陽の一措大、未だ以て斯學の堂奧に入るに至らざるも、而かも農作と害蟲の關係を攻究し、恒に聊さか心身を此間に勞するを辭せざる者、但居處僻遠にして、夙に害蟲驅除に對する當路者の方針を聽くこと能はざるを遺憾とせしに、近刊の雜誌「實業之日本」紙上に於て端なくも、農學士小貫信太郎氏が記述せる「二化性螟蟲驅除

の方針を論じて三化螟蟲に及ぶ」てふ一文を閲讀するの機會を得たるは私かに感謝する所なり。想ふに、小貫氏が公務百忙裏にこの雄篇を該誌に寄せられし所以のものは、必らずや、自家把持する所ろの方針を公示し、兼てこれによりて農家の厄災を薄ふげしめんとするに外ならざる可ければ、其旨や大ひに善矣。唯憾むらくは、常に輕擧妄動に出づるに非ざるやを疑はしむる事多く、隨うて其說く所ろ常に精硏を缺くやの觀あり、現に今春我が茨城縣に於て嘖々秋時殺螟の利を說かれたるも、聽者をして五里霧中に彷徨せしめ、次で夏期講壇上にまた同一事實を再演して心ある講習生に、質疑と冷評とを交發せしめぬ、然るに今また三たび筆を雜誌に染めて益々ろの價値を損つけんとせり、吾儕豈に氏のために痛惜の情に堪へざらんや、蓋し一私の小貫氏を惜むにはあらで、神聖なる農事試驗場の昆蟲部代表者たる、氏が所論の頗ぶる非曲に涉るを惜むなり。又諸外國の試驗場は未知の事物に接すれば、先づ精しく理數に照らし實驗に試ろみ、一旦之を發現すれば直ちに當業者の應用に資し得せしむるを恒例とするに、氏は推理薄弱、方法迂遠、到底農家の實行を期し難き案件を捉ひ來りて其必成と否とを言はず、茫漠模糊の間に結論して、獨り自から得色を存じ、而して之が爲めに延て試驗場の威信に關する所ろあるを悟らざるものヽ如し、是將た公私の上より大ひに其行爲を惜まざるを得ざる可し。

讀者もし此言を疑はゞ、請ふ試ろみに氏が言ふ所ろを聽け、曰く(一)本邦の螟害は劇甚なり(二)故に從來是か驅除に懈ふざりしも、春季に採卵、點火の諸法を行ふに過ぎざれば、未だ顯著なる結果を得るに至らず(三)故に其方針を一變して秋冬の間に特異の方法を行ふの得策たるを知る(四)故に將來、刈株法又は熱殺法に重きを置くべし、去り乍ら此等の方法は其實甚はだ手數多し(五)故に主として藁稈の密閉貯藏法を行ふべし(六)要するに春季の驅除法に全力を傾注せんよりは秋冬間の多効法を採るに及かず』

と。嗚呼これ果して小貫氏が絶叫高呼するが如き、根本的驅除の改良方針なるものか、又螟害驅除豫防法中、果して最善最良の方法となすに足るものか。

吾儕を以て之を觀るに、凡そ農作物に於ける蟲害は猶ほ人躰に宿れる疾病のごとき乎、是故に螟蟲を根本的に驅除せんと欲せば、病根芟除術と同じく、あらゆる多方面より之が絶滅をはかるに非らざれは未來永劫決して其被害を脱却すること能はざる可し。凡そ人の醫治を加へんとするや、其飮食する所ろの肉汁滋味ならざれば則はち不可なり、其纒着する所ろの衣衾淨潔ならざれば則はち不可なり、其坐臥する所ろの室宇多陽ならざれば則はち不可なり、其看護する所ろの侍者篤實ならざれば則はち不可なり其服下する所ろの藥石良品ならざれば則はち不可なり、其供用する所ろの器什清新ならざれば則はち不可なり、其診案する所ろの醫宗老練ならざれば則はち不可なり、而して其患者に至りては心體兩つながら壯强に每に攝養を重んずるに非ざれば尤とも不可なり。今それ螟蟲の驅除に於ける亦斯くの如く、秧田に誘殺掬殺を行ふに非らざれば得て初發の成蟲を捕ふること能はず、秧田より第三番除草期に至るの間、周密に卵塊の摘採をなすに非らざれば得て其幼蟲の生育を妨ぐること能はず、本田に散在の枯穗黃莖を除却するに非ざれば得て其種族の蕃殖を防ぐこと能はず、被害の藁稈を燃蒸するに非ざれば得て化蛹の減滅を望むこと能はず、肥料と地形とに留意するに非ざれば得て完全の驅除を爲すこと能はず、益鳥と益蟲とを保護するに非ざれば得て人力を省くこと能はず、稻種と器械とを選擇するに非されば得て後日の安泰を期すること能はず、特に鄕村の民心を一致し共同驅除に精勵せしむるに非されば如何に良策美法ありとも遂に徒勞に歸せんのみ。之を約言すれば、農家の智識を啓發して、斯業の改良を圖るに非すんば、到底害蟲の殲滅を望む可からざるなり、則はち眞の根本的驅除の方針なるものは、實に此一

語の間に包藏せらるゝことを確信す、然るを小貫氏は一も此等複雜の事例を擧げず、方針と手段とを混同し、徒づらに自家信ずる所ろの小技末節に拘はり、所謂その根本的驅除の改良方針に從うて、本邦唯一の大害蟲を驅除せんとす、また難からずや。

熟々從來行はれたる各種の驅除法を見るに、概ね長短交錯せる一の手段に過ぎず、去れば名は方針と云ふと雖ども、實は衆盲の探象と均しく絶ゐて正中を得たるもの無きが如し。然は云へ皆數年の經驗に因づきて其論據を立つるものなるが故に、强がちに之を斥ぐ可きにも非ざるは勿論、中に就き緩急を斟酌し、本末を辨別し、其手段の偏重に失せざるものと、其利益の勞費を償ふて餘りあるものとを採擇するの要あるを知る、蓋し應用昆蟲學に貴とぶ所ろは、其得失を勘算し、其成敗を鑒識し、其風土を稽査し及び其民智に考量して、最とも農民の實踐に易く、且つ何地にも効驗の著明なる方法を施行するに外なければなり。去れば今日本邦に於て流電殺蟲說の行はれず、殖菌除害說の弘まらず將たまた藥劑驅防說の容れられざるゝ、その說の善惡如何に依るのみにはあらで、畢竟農家の實情と相協はざるの致す所ろなりと謂はざるを得ず。

吾儕が抱懷の所信を披瀝すれば、螟蟲驅除の最良手段は、單だ舊來慣用の諸方法を厲行するを以て足れりとするにあり、若し農家の容るゝ所ろとならんには更に秋耕を奬勵するの要ありと認む、則はち逸に居て勞を制するの方策を執り、勉めて暴激の變動を與ふるを避け、低費少勞以て輕便有効の途に賴らしめんとするのみ。

左なきだに本邦の農家は、諸稅の加重と連年の凶荒とに困憊疲弊の度を增し、今や漸やく無慈悲なる富豪の脚下に蹂躙せられ、各府縣の統計に、統計年鑑に、將に富力平等の跡を收めんとするの慘況に陷い

りしを以て、害蟲驅除の方針を定むるに當りても、最もとこゝに意を用ゐざる可からざるものあり、況んや昆蟲學思想の普及せざる今日に於てをや。（未完）

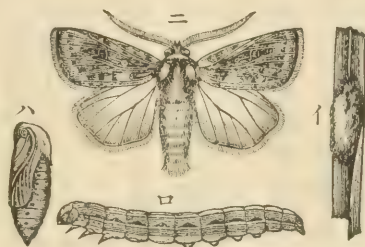
蓑蟲　うみ捨てし親はおにとも知らずして憂きみの蟲のちゝと鳴くらん。（村山松根）

◎スヂキリムシ（Charoeas depravata, But.）と三化生螟蟲との區別

名和昆蟲研究所長　名和靖講演

九州の特産であッた三化生螟蟲が、追々本州を始め四國、さては淡路島の邊までも蕃殖するやうに成りましたので、三化螟蟲と申すと其名を聞た計りでもぞッとするやうに成りまして、少しも此蟲が發生せない地方までも風聲鶴唳……………とでも申さうか、一躰に恐蟲病に罹りました有樣であります、それは吾が昆蟲世界誌上で折々怪しい三化螟蟲の發生報告が見ゐるのと、先に關東から參られました大竹義道君の質問がありましたので理解致した次第である。是は全たく三化螟蟲とスヂキリムシの卵塊とが酷類して居ッて、鳥渡見た處が一向變ふんからである、即はち「私の地方にも三化生のものが澤山居ります」と言ふのは、畢竟その成蟲や其他を調査致した結果ではありませんで、唯田畔にある卵塊を見出して騷ぐのであります。それは左樣であるが、スヂキリムシの卵塊を見ても三化生の害蟲と騷ぐやうに眼が早く成りましただけ、誠とに嬉しい世の中になッて參ッたと思ひますかふ、之を誤解して居ふるゝ人が有り

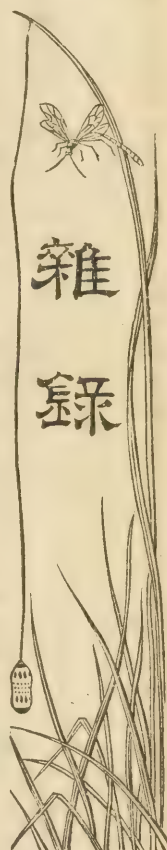
ましても、私は決して咎めも笑ひも致しません。そこょ到ると大竹義道君などは感心なもので、當年の春、千葉縣から遙々私の研究所へ參られた時でありましたが「どうも私ょは解し得ない卵塊を田畔で見出した、其れは三化生螟蟲其儘のものであッた、そこで卵塊を飼育しやうとしたら不結果を來したから敎へて呉れ玉へ、若し成蟲があるならば其標本も併せて拜見したい」と申されましたから、私は當時、大竹君のやうな昆蟲の事ょは二十年も從事して居らるゝ人ですら、斯く言はるゝ以上は、成程普通の者が解らんのは無理でない、それょしても、君が其知らんと云ふ事を打開て言はるゝ勇氣さは凡庸の者ょは到底出來ない事である、と內心で感服致しましたから、喜んで所藏の標本を御示し致しました、一躰此節は知らん事までも知ッた顏する人の多いのに、兎ょ角毛色の變ッた質問であると存じましたのである、尙ほ之が爲めょ千葉縣ょは三化螟蟲が居らんと云ふ證明が附きました事に承りました。

スヂキリムシの圖
(イ)は卵塊(ロ)は幼蟲(ハ)は蛹(ニ)は成蟲(以上何れも自然大)

此のスヂキリムシと三化螟蟲が、何時も誤まられますと云ふのは、何の點であるかと云ふと、前申述べました通り、卵塊が能く似寄ッて居るからではありますが、スヂキリムシは平生田の畔の雜草、特ょ禾本科植物の結縷草ょ卵塊を產附けますし、又これを食害致しますが、雜草が無くなると何時も稻葉ょ卵を產附けるので、是は大變ぐと一時人を驚ろうすのである、其證據は卵塊を孵化致させ見ると直ぐ解りまするし、此蟲の卵塊は必らず田畔の邊りとか、道緣ょ計りあるのでも解かる。卵の產み塲處が左樣ょ處嫌はずと云ふやうに成ッて居るが、調ぶれば調ぶる程その事實が確かまる、例へば時として松葉ょもある事があるし、又堤防などであッて見ると、何でも搆はず產附けてあるのである。

偖この二者の間違ひ易ひ譯は大概これで御解りでせうが、其間違ひを來たす原因は二つともょ卵塊の上

に鱗毛……すなはち綿を被ぶッつて居るからである、併しながら能く之を檢査致しますと、同じやうでも非常に違ッて居ッて、スヂキリムシのものは、三化螟蟲の卵塊よりは餘程大きい、又その中に包まれてある卵粒の數も澤山である、特に親蛾となると全たくその形狀が別で、形の大小も同ドでは無い、幼蟲も蛹もまた決して擬似の點が無いから、見違ふ可きものでは無いのである。そこで昨今處々方々で以て三化螟蟲が發生したと云ふて騷ぐのは、之が調査をせんで、外見で驚いた結果であると云ふ事が歴然と證明せらるゝのであります。此蟲につきまして嘗て研究を致しました處、發生の盛んな年には意外に同族の蕃殖を勉めるもので、先年私が伊勢の神苑會の農業館の芝原で以て、しかも一袋計りの幼蟲を捕へました事がある。次よ昨年の事でありましたが、岡山縣の邑久郡での話によると、此郡では昔し芝草の多い處に夜盗蟲が發生して大害を來たしたと申して、とう〳〵其雜草を燒却した事があるさうであります、今から思ふと恐らくは此スヂキリムシではあるまいかと存じます。又近年福島縣下では何蟲かは知らんが、矢張この蟲のやうなものが粟よ害をすると云ふ報告をうけましたが、是また同種ではあるまいかと思はれます、是は未だ調査を遂げませんが……兎に角に此蟲は三化螟蟲と見誤らるゝ事が多いのと、發生の意外に多い事があるのと、雜草ばかりではありませんで、多少稻をも害す事があるだらうと云ふ事を、未だ御承知の無い方々へ申述べたいと思ひまして、甚はだ不完全な……未だ取調べも致さんではありますが、心附の儘斯く申す次第であります、尤とも先年質問がありましたから、昆蟲世界第十三號即はち去る三十一年九月分の雜誌へも簡短に書いて置た筈でありますからゞ御參照を願ひたいのであります。

三化生螟蟲の卵塊

遠村蚊遣　蚊やり火のけふりかすかに成にけり月になり行く山もとの里。　（壬生基修）

◎昆蟲と氣象との關係

在岐阜縣岐阜測候所　青木成一

氣候の世界萬有の物象に、温暖寒冷及び乾濕の影響を與ふるの廣大なるは實に枚擧するに遑あらず、就中、農作物上に及ぼすの最とも著大なるは既に世人の知る所あり、其氣候の適否の如何に依て、年穀の豐凶となり、彼の明治廿九年の大水害、或ひは翌三十年の大害蟲の如き實に幾百万石の減收を生ずるよ至れり、然り而して其氣候の豐凶よ於けるや、啻に風水、落雷、降雹等の關係のみならず、また害蟲類の消長生滅も之に與かりて力あり、然れども偶々此等の說を唱道し、或ひは研究を遂ぐる者あるも、左程の關係なきものゝ如く世人は一向冷淡よ見做し居るは何故ぞ、是れ豈に人類が空氣中よ生存活動しながら、空氣との關係よ注意せざると同一事例にあらずや、如斯あるを以て今日昆蟲と氣象の關係に就きま未だ多く研究の結果を見ずと雖ども、余が少しく調査を遂げたる結果を述べんに、害蟲は空氣に濕度の多量ある時に發生し、蒸熱盛んなる高き濕度の場合には特よ發生繁殖するものにして、最とも風力の弱く且つ少なき温暖なる氣候よも亦蔓生し易きものとす、則はち左の五要件を備へたる場合の氣候は實に昆蟲の發生繁殖には最とも適當あるものと斷定することを得べし。

(一)日々氣候の較差少なき時　(二)時々降雨し一度に七十粍以上の豪雨あき時

(三)日々平年以上の高温度ある時　(四)風力の弱き時

(五)過乾過濕なき時

尤とも降水量の非常に多量なる時は、害蟲の發生を防ぐ効ありと雖ども、亦非常よ少雨なるときにも同

一の結果を來たす、而して前記の五件中唯その一を欠くことあるも其繁殖の上には大なる阻碍を及ぼすもの丶如し、又高温度なる年は概むね旱魃の氣候にして、暑氣劇甚頗ぶる蒸すが如く、風力弱く且つ降水に欠乏を告ぐる事ありて、稻其他の植物は非常に能く成育繁茂するを通常とす、此かる年には蟲類も其繁殖の便を蒙るのみならず、風力の軟弱なるは其身を吹拂はる丶の虞れなく、容易に卵子を產着するに一層の便を得るなり、特に大雨の無きときは毫も撲落さる丶ことなきを以て、十分盛んに繁殖蔓延を致し遂には加害劇烈を極むるに至るべし、此場合には百方絕滅の方策を講ずるも容易に驅除の効を奏し得がたし、蓋し氣候の經過最とも害蟲の發生に適するが故に、人力に比し寧ろ天然力の勝れるが故なり。世人は此道理を辨まへて害蟲の發育に無上にして人工驅除の少効なる氣候の到來する時期を豫想し、豫じめ種々適當なる方法を施行するときは多大の費用と勞力とを要せずとも必らずや大被害を免がる丶ことを得べし、加之昆蟲はまた氣象の如何によりて其種族の榮枯を來たす、即はち冬季の溫度頗ぶる低下すれば其卵子の發生力を奪ひ、春季の寒溫如何によりて其發生にも遲速增減を促すが如きは是なり、昆蟲の氣候に伴へる結果また甚はだ多からずや、聞く今年は初春以來、害蟲の發生せる地方三十有餘縣の多きに及びたりしが、幸ひに驅除豫防其功を致し、全國を通じて平年以上の豐作を豫斷するに至れりと是れ寧ろ僥倖と謂はざる可からず、今岐阜市に於ける平年の氣候を執りて昆蟲發育の狀態に對照し、以て將來之が關係を詳にするの一助に供せんか、而して其微細の事項に至りては精研細査更に之を他日の成蹟に期せんと欲するのみ

	氣壓	氣溫	濕度	風力	降水量
一月	七六四、六	二、八	七七	一九	七〇、四
二月	七六一、四	三、五	七三	二五	七四、一
三月	七六五、一	六、九	七一	二五	一四二、一
四月	七六三、一	一三、九	七五	二三	二三、一
五月	七五六、二	一七、二	七五	二二	一九八、八
六月	七五六、六	二一、五	七八	二〇	二三八、九
七月	七五六、七	二五、六	七九	一八	二八五、七
八月	七五九、〇	二六、六	八〇	一九	一八四、六
九月	七六〇、一	二三、七	八一	一七	二九一、四
十月	七六三、三	一六、二	七九	一六	一五八、二
十一月	七六四、九	一〇、五	七九	一八	一〇三、一
十二月	七六四、八	五、二	八〇	一八	七一、六

前表に依れば、昆蟲は大概四五月の氣溫の漸次溫暖を催す頃に發生を始め、爾後高溫になるに從ひて益

々蔓延するものにして、その日々の溫度の差少なくして餘り乾き過ぐるか、或ひは餘り濕り過ぐる時には其生活力を失ふも可もなし不可もなしの氣候には滿足に生活するものなることを推知し得べきなり。

◎三化生螟蟲の二化越年に就て

愛媛縣農事試驗場東豫分場　第七回全國害蟲驅除講習修業生　矢野延能

本年當場飼育の三化生螟蟲は、一蛾の產卵より孵化したる第二期幼蟲數十頭中、僅かに一雌雄發蛾したるのみにて、他は今尙ほ健全なる幼蟲の儘稻株に在りて旣に越冬の準備を整のひ居れり、更に田面に就きて八月中旬出穗したる稻の穗孕より、姉穗の出る頃に蝕入したる形蹟あるもの及び同旬第二期被害を認め置きたる晩稻神力種を檢するに、皆同樣蟄伏し、其幾分は發蛾したる形跡あり、近傍數箇村に於ても亦同樣なり、他郡に於ける本年の狀況は未だ調査せざるも、去る三十二年伊豫郡に種子蟲を採り、松山に於て飼育したる某氏も其當時此事なきやの疑團を生じ、今回當場の成蹟を見て了解するを得たりと然れば他縣はいざ知らず、本縣下に於ては年來多少之ある者の如し、其原因に至りては後の試驗調査に依り斷定する所あるべしと雖ども、惟ふに是は彼が特性にして、其年により多少あるは氣候の變動に依るものならん歟。

偖當地方の前年第三期の大害を被ふり、爾來驅防不十分なる町村も、本年第三期には被害甚はだ少なく正に驅防十分なる町村と大差なきに依り、今に至りて驅除の不必要を感ずる者なきにしもあらず、是れ卽はち三化生螟蟲は必らず三化するものとのみ信ずるに依るものにして、其等地方の早稻に僅少の枯穗ある所、並びに中晩稻穗孕以前の第二期被害稻株より發芽して小穗を出し、一見無害なるが如きものゝ根株には巧みに此大害蟲の蟄伏するを知らざるの致す所なり、尙又從來此種の第三期は出穗前後に限り蝕入するものと固信する者なきにあらざるも、往々晩稻の半熟に至り蝕入するものあり、冀くは讀者諸

君速かに當業者に警告し、意外なる勁敵の伏在に次年の失敗を取る勿らしめむことを。

（參照）　本年當地方三化生螟蟲の發蛾期は大約左の如し

第一回（自五月廿三日 至六月十三日）　第二回（自七月廿五日 至八月十日）　第三回（自八月廿五日 至九月十八日）

◎和漢の學者ご昆蟲（其八）

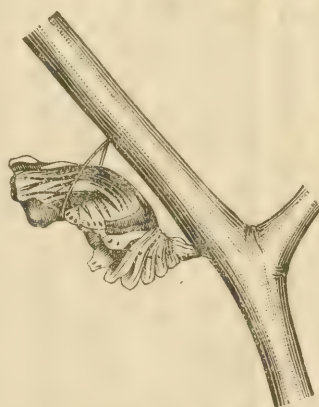
古奥　青蓑白笠の人

○羽子板　世諺問答天文十三年の書上の卷に『問て云、幼なき童の、こぎのことといひて、つきはべるは如何なる事ぞや、答、これは幼なきもの丶蚊にくはれぬまじなひ事なり、秋のはじめに、蜻蛉といふ蟲出きては蚊をとりくふ物なり、こぎのことといふは、木蓮子などをとんぼうがしらにして羽をつけたり、これを板にてつきあぐれば、おつる時とんぼうがへりのやうなり、さて蚊をおそれしめんためにこぎのことてつき侍るなり』。（右、山東醒齋の骨董集）

○世俗にちか比まで正月のうち寶引などの戲をなして蚊のまじなひといひしてこそうけられね、此事一條禪閤兼良公の世諺問答にみえし、こぎの子の事を聞たがへたるなるべし、世諺問答に云、をさなきわらはのこぎのことといひて、つき侍るはいかなる事ぞや、答これは幼きもの丶蚊にくはれぬまじなひ事なり、秋のはじめに蜻蛉といふ蟲出きて蚊をとりくらふものなり。（下略）（右、太田南畝の南畝莠言）

○獨繭の事　漢書司馬相如傳の賦に、曳獨繭之褕袘と云ふことあり、郭璞注に獨繭一繭糸也とあり、此わけ明ならざ、美濃人廣瀨生毎に來り話の次、故國蠶鄉なれば蠶のこと詳に物語れり、其談に云、蠶の眉の中にたゞ一匹をるあり、いくつもをるあり、一匹をるを一つまゆと云ひて其糸甚だ好く專糸につくる、二つ三つをるは其糸弱きに依りて綿に造る、依之さとるに所謂獨と云ふものは一つまゆの事なるなと偶、天工開物と云ふ書を見るに擇繭の條下に云、凡取糸必用四正獨蠶、繭則緒不亂、若双繭併四五蠶共爲繭、擇去取綿用、或以爲絲則粗甚と果して廣瀨生の談と符合す。（右伊藤東涯の輶軒小錄）

○お菊蟲の事　昔元祿の頃、攝州尼ヶ崎の城主青山大膳亮樣の御家老に木田玄蕃と言人有りしが、或時食事するに飯の中に針のありけるを見付て大に怒り、お菊と云へる下女給仕しけるが、彼にむかひて汝は針を呑せて主人を害せんと欲するやとて忽ち彼下女を切り殺し、庭の井の中へ逆に投られけり、（中畧）其夜よりいろ〳〵奇怪の事共ありて終に玄蕃が家斷絶す、（中畧）お菊が殺害せられしより以來、其年忌毎にかならず此寺に怪しき蟲生ず、其形を見るにさながら女の髮を亂して後ろ手に縛られて、逆に成りたる姿なり此故に俗に是をお菊むしと名く、其形如圖、寛政乙卯年お菊が百年忌に當れり、然る故か又々先年の如く此寺に此蟲生じて木の枝に取付り、其近邊にも二つ三つ生じたるよし。

（右著書不詳の古寫本）

編者云ふ、邦俗鳳蝶の蛹即はち蜆を以て菊女の怨靈と信ずるの非なるは、名和靖先生既に之を「昆蟲世界」第十五號に詳説せるが如し。然るに久しく此迷信の因て來る所を知らざりしに「麗藻」に「古今註」を引きて、昔。齊東郭姜。旣乱崔杼之室。慶封殺其二子。姜亦自經。化成縊女。云々とあれば蓋し唐土古來の俗説を菊女に附會せしもの歟。「爾雅」には蜆に註して、小黑蟲。赤頭。喜自經死。故曰縊女。と云へり。「千蟲譜」に「大平御覽」の説を擧げ又范石湖が詩を證として其蝶蛹たるを示し、弘く各種の蛹をも共に收めて之にクビククリムシ又はオキクムシの名稱を下したるは、少しく今日の稱呼と相合はざるが如きも、「綱目啓蒙」また蛺蝶の條に、オキクムシは必らずしも鳳蝶のものに限らざるやに説置かれたれば、昔時は總ての蛹を斯く言ひしものか、尙は考ふべし。

（瓢蟲女史寫生）

○蜂の君臣　或人曰、蜂に君臣の義有、今其窠を見るに、古人のいふ所のごとし、親しく君臣たるの證を見る事有や否哉、曰、予は面り見る事なし亡父かたりしは、東武深川に本誓寺といふ寺有、此寺の方丈隱居して（中畧）一とせの夏、涼を水邊に忘れて黃昏を催するの比、池上の樹間に大なる蜘蛛のいとはかなくもかけ渡る有樣に、浮世を觀しながめたるに、一ッの蜂飛過る、あやまつて蜘蛛の家にかゝる蜂は羽うつて逃んとし、蜘蛛は糸をちらして繫んとす、暫く挑鬪ひしが竟に蜂はにげ去ぬ、（中畧）其間

に數万の蜂むれ來る事霧の降るに似たり、和尙も庵室に入て障子手早さしつめ紙を穿て窺ふに、蜂池上にみちて色目を不分暫く有ていつちともなく散失ぬ、和尙又庭中ぇ出て見るに右括囊の如くなる荷葉蜂螫てそのあと生絹のごとし、（中畧）恐しの蜂のふるまひ哉と和尙の物語といへり、是はじめ來もの君王なるべし、小蟲すら此義有又此工み有、豈人として茫々たるべけむや、亡父此事をゝたりし、彼和尙の名を忘れぬ、今にしてれもへば貞享元祿の比なるべし。（右新井白蛾の牛馬問）

◎長夜の座談

在鹿兒島縣農學校　生熊與一郞

（其一）害蟲發生の一利　浮塵子と螟蟲は是れ皆害蟲である、此等害蟲の發生を見て喜ぶ者は無い、所が害蟲も、時と所によると、甚だしく發生して作物を枯死或ひは衰弱せしめても良い事がある、例を擧て見ると、去る三十年の浮塵子の發生の樣なものである、彼年ハ讀者の旣に知らるゝ通り夥ざしい浮塵子の發生であつて、稻は實らず、米は收れず、昔なら餓莩道ぇ滿ちて有つたに相違ないが、幸ひぇも明治と云ふ難有い風が吹て居たから餓死だけは無かつたが、世間は愈々不景氣に成つて來て、監獄は日は一日と繁昌して吾人ハ明治に天保が再來したかと思ふた位ゐである、其れを今から考へて見ると、其年は浮塵子の爲めに甚だしい損失を來たしたからであるぇ相違ないが、又一方には利益な事もあつた、何であるかと云ふと農民の腦髓を改良した事である、言葉を換へて云へば、三十年以前には害蟲と云ふ事を知て居つた者とては、少々は有つたかも知らぬが、害蟲の驅除と云ふ事を知て居る者とては極めて少なかつた、縱令知て居つても實行する者は先づ無つたのである、所が同年の浮塵子の爲めぇ害蟲の恐るべきとを知り、且つ其驅除法も大畧知て來た、其れは只浮塵子の害を知つたのみで無く、害蟲と云へば螟蟲にまれ椿象にまれ、恐るべく惡むべきものである、總て害蟲は之れを未發に防ぎ且つ十分驅除せなければならぬと云ふ事を知つた農家が增加した、從つて害蟲驅除豫防の獎勵が樂ぇなつたのである、讀

者試みに既往數年間に於ける各地害蟲驅除豫防の實况を通觀せられよ、此点から考へて見ると、三十年の様な浮塵子が今後一二回も發生したら、全國農民の腦髓を改良する事が出來るかも知れん、世の中に一利一害があると云ふ事は、此んな塲合を指すのか知らん。

（其二）害蟲の驅除は意外に困難なり　一月に害蟲の驅除講習會が有つた、其上三月に村農會で某先生が害蟲驅除に關する講話が有つたから、害蟲の驅除法は机の上だけでは充分に覺へた、けれども今は寒くて害蟲などは驅除したくとも見る事も出來ぬ、所が間も無く苗代が出來て、幸ひ害蟲が發生した、見れば講習會で敎はつたツマグロヨコバヒと云ふものだ、此の驅除には石油が一番だ、石油の量は一反歩で一升の割合だから、此苗代に六合やれば良いと、請賣先生忽ち六合の石油を灌注器に入れて蒔き始めた、所が苗代の四分の一許り行く中に注ぎ終つた、そこで追加豫算を即決して再び四合許りの石油を蒔いた所が、それでも石油が一面に行渉らぬ、已むを得ず復た少許の石油を加へて注ぎ終り、筆記通り稻葉の上を拂ふて見ると、如何にも浮塵子は成蟲幼蟲の區別なく皆な斃死して水上に浮で居る、之れを見るや忽ち喜び、之れぞ全く講習會の御蔭なれと手を打ち勇んで家に皈り、翌日早天にまた苗代に至りて見れば、豈に圖らんや、稻は全面赤褐となつて今を界に枯死し終らんとして居る、之を見るや昨日の喜びは忽ち周章狼狽と變じ、石油量の多かりしを知り技術の未熟なりしを悔へたり、然し如何に悔へたりとて枯死に瀕したる苗は再たび靑苗に反らず、悔ゆるが上に悔へて田畦に獨り腕を束ねて居る事數時間傍に囀る雀の聲さへ氣に障る樣な奇劇をば曾て目擊せるとありき、失敗は處世の花とやら、果して然るものにや。

（未完）

◎稻象蟲の驅除法に就て

鳥取縣日野郡農事試驗塲　成瀨良一

本郡日吉、吉津、米澤村の方面に於ては、七月中旬に稻象蟲の加害甚しく就中、日吉村大字須村の一部

に於ては稻株を喰害せられ、田面を全たく赤褐色に變ぜしめたるの慘狀を呈せし處ありき、該成蟲は晝間稻株中の水際に潜伏して容易に目擊し難く、一見何が爲に被害せられたるやを識別し難し、隨うて其驅除もまた困難あり、左に余が實地經驗せし簡便の驅除法二三を記し、聊さか讀者諸君の參考に供せんとす。

一、甘藷を輪切にし田面に散布するときは、成蟲之れに集まるを以て捕殺すべし。

此の法は其土地に甘藷の栽培者多きときは便宜多し、又甘藷移植後の當時少時日間に施行する事を得、既に甘藷は冬間の食料に充て剩餘なく、且つ其他に栽培者少なく、苗床の甘藷少量にして驅除用に應し難きか、又は甘藷移植後數多の時日を經て全く欠乏せる場合には之を施行し難し、實に余が被害地を視察せしときは七月廿日にして、其地に甘藷の栽培者少なく、且つ移植後數十日を經たる際なりしを以て絕えて之を求むるに由なく困難の際、不料も左の方法を案じ以て驅除全きを得たり。

二、筍を取り來り、大なるものは拇指大に分ち、長さ七寸位に切り、水上へ三寸程を現はし、一坪一本の割合にて田中に挿し置くときは、數分時を出でざるに、害蟲は筍に集りて容易に離れず（多きは一本に百頭を下らず）須臾にして喰盡するを以て、油壺を携へ間斷なく田中を巡行し其中に掃き落し、又た元の如く挿し置きて驅除する事二日に至れば、遂に撲滅する事を得べし。

該蟲の集り來る狀を見るに、筍を去ること二間の遠きにありと雖とも、能く臭味に誘はれて水面を遊泳し來り、甲株より乙株に、乙株より丙株に轉し、遂に目的の筍に到達す、筍は至處多量に生じ、其發生期は五月頃より八月に亘り、特に七月十日以後の「マダケ」のものは竹となるに至らず、中途腐朽する者なるが故に利用には最とも宜ろし、又害蟲の性質として、决して竹の種類と其硬軟を撰ばざるを以て寧ろ利便多し、

三、李（スモヽ、スイメ、アンズ）類の未熟にして脫落せるものを掃き集め置き、湛水を排除し、深さ漸やく二三分になし田面へ散布せば、害蟲は好んで之に集まるを以て、時機を見計ひ拾ひ集めて之を驅殺すべし。

寢覺蟲　老が身のねざめはわびし近く鳴く蟲の聲さへ遠く聞ねつ。

（佐々木高行）

◎土佐產の蟲報（第一の一）

高知縣土佐郡　武內護文

○鱗翅類鳳蝶科　（一）ジャコウアゲハ。（二）ヲナガアゲハ。（三）クロアゲハ。（四）モンキアゲハ。

モンキアゲハは宮島氏の「日本產蝶類圖說」に載する所と大躰の形色は相似たりと雖ども、其異なる點は四翅の色殆んど純黑色にして天鵞絨の如く、前翅外緣には微かに褐黑色を呈せり、後翅の兩白紋は微かに黃色を帶び大にして縱徑六分强、橫徑四分五厘强、四翅廣大にして前翅はナガサキアゲハ（同書にあるもの）より少しく長く、後翅は外緣角の方に突出して廣き三角形をなし、內緣角より外緣に沿ふて數個の新月形赤紋あり、此相違ありと雖ども、暫らく此名稱を用ゐる。

（五）カラスアゲハ。（六）キアゲハ。（七）アゲハ。（八）アヲスヂアゲハ。（九）ニッコウシロテウ。

カラスアゲハの前翅に綠なく、後翅外緣の新月形紋赤色或ひは紫色なるあり、是れカラスアゲハと別種なるか、或ひは雌雄の別なるか、未だ多く採集せざるを以て之を究むることを得す。

以上の科中（一）（三）（六）（七）（八）の五種は縣下到處に滿布し、（二）（五）は海岸を距る北方二三里の山中に多く飛揚し、（九）は更にこれより北方寒冷の地に多く（四）に至りては寧ろ南方海岸に近き溫暖の地は產し、曾て之を北地に見たることとなし。余先年大和の金峰山を探りてギフテフを獲、歸來土佐にありて北方深山の中、金峰地方と土質氣候を同うし、且つ加ふるに其食草たるウスバサイシンのある處に就て深く捜ると雖ども遂に之を發見するに至らず、蓋し四國の地には未だ分布せざるものか。右數種中クロアゲハ及びアゲハの二者は柑橘類には有害なれども、カラスアゲハの加害に至りては未詳に屬す、但し森林中に於て樫葉に產卵するは屢次目擊せる所なり、而してキアゲハは野生の繖形科植物に群生するも未だ農作の害蟲と稱するに足らざる可し。

○粉蝶科　（一）モンシロテフ。（二）スヂグロテフ。（三）モンキテフ。（四）ヤマキテフ。（五）キテフ。（六）ツマグロキテフ。（七）ツマキテフ。

此中（一）（二）（三）（五）は過半分布し、（六）は海岸の北約二三里以上の地に於て多く栖息す、尙は一種黃

色にして後翅の裏面に赤色の數條を有するものを産すれども、近ごろ之を採集することを得ず、(四)は山毛欅帯の高山に於て重に之を獲べく、(七)は縣の東方阿波國境に接する山中に産するを知れり。就中有害なるは(一)(二)にして(三)は往々紫雲英葉に産卵するを見れども、未だ其害狀を詳にせず。

○天狗蝶科　テングテフ。

南方温暖の地に産するものは全躰黑色にして、斑紋は黑赤色なり、北方深山の中に産するものは、此と彩色を殊にするが如しと雖ども、未だ之を採取するに至らず。

(未完)

◎岐阜縣海津郡の蟲害報告

第四回岐阜縣害蟲驅除講習修業生　中島正美　伊藤佐太郎

九月廿七日歸郡、直に實地調査に着手せしに、吾が海津郡に於ては、石津村大字大田に於て二化生螟蟲發生の摸樣あり、依て次日より枯穗拔取を施行し、全反別拾九町三反廿七歩より千百四拾把を採取せしが他は留目するに至らざりき。十月に至り郡内西江村に於て二化生螟蟲一圓に發生せしを以て、又枯穗拔取を執行せしも其束數は未詳なり、同村大字稻山の一部に浮塵子發生せしに付石油驅除を行へり、其他海西城山の二村に於ても同樣拔取法を施行せしが、唯り東江村は被害多きに反し之を等閑に附したれば、恐らくは二割以上の損害を來たすならん、吉里村また同じきを以て鹿野區に限り拔取を行へり。

◎島根縣下の二大害蟲

在島根縣農事試驗場　田中房太郎

本年苗代時期に於ける浮塵子及び螟蟲に就き、當島根縣農事試驗場にて調査を加へたる要領を報告すれば次の如し。

浮塵子

種類名	發顯月日	摘要
ツマグロ	五月二十日	畦畔等にて越年せる成蟲
フタホシ	五月廿三日	同
イナヅマ	六月六日	同
トビイロ	六月九日	同

種類名	發顯月日	摘要
ツマグロ幼蟲	六月九日	本年第一回發生
フタホシ幼蟲	六月二十日	同上
ツマグロ成蟲	六月廿三日	第一回の成蟲

次に成蟲の最とも多かりし時期即はち六月九日より十八日まで十日間に、苗代田四坪の間に於て、捕蟲網にて採獲せる蟲數を掲ぐれば。

種類	ツマグロ	フタテン	イナヅマ	トビイロ	計
六月九日	二六	一九四	六	一	二二七
十日	一八	一二八	二六	二	一七四
十一日	一四	一七七	二八	一	二二〇
十二日	一二	一六三	三二	一	二〇八
十三日	六	一七九	三七	一	二二三
六月十四日	五	一〇三	八七	一	一九六
十五日	｜	八三	三一	一二	一二六
十六日	｜	五七	四三	七	一〇七
十七日	｜	六四	五三	二	一一九
十八日	｜	六七	四三	｜	一一〇

右表の如く本場附近に於てはフタテン種最とも多くイナヅマ種之に次ぎトビイロ種最とも少し、尤ともツマグロ種は既に產卵を終ひ當時は多く幼蟲の狀態にてありしを以て、成蟲の數比較的少なきも、六月上旬にありては意外に多かりき、而して日を追ふに隨がひ各種とも其數を減じたるが如きは、既に產卵を終へて成蟲の斃死せるを以てなるべし。

螟蟲の發生は既往に比し頗ぶる多かりしもの丶如し、今誘蛾燈一個に就ての殺蛾數を、其被害多かりし昨年と對照すれば左の如きものあり。

月日	昨年の蛾殺數	今年の殺蛾數
自五月廿三日至五月廿七日	｜	六
自五月廿八日至六月一日	九	六〇
自六月二日至同六日	二八	八一
自六月七日至同十一日	七二	一六二
自六月十二日至六月十六日	五〇	三三一
自六月十七日至同廿一日	二七二	一三四
自六月廿二日至同廿六日	一二六	九三
總計	五五八	八六七

更に本年六月一日より二十三日までに、苗代面積三畝歩より採卵せし總數は千九百九十八個とす。

本年は害蟲驅除の勵行を期する爲め、縣令を發して苗代田は左の通施設すべし、違ふものは五錢以上壹圓五拾錢以下の科料に處する旨を公示せり。

（一）苗代田は床地幅四尺以內（長さ適宜）溝幅一尺以上とし短册形と爲すへし。（二）苗代田の畦畔は高さ一尺以上と爲すへし。（三）作人は各自の苗代田に幅三寸長さ一尺の木札に其姓名を記入し建設すへし。

其後續々縣訓令を發して農作害蟲の驅除豫防に從事せしめ、又頻りに共同驅除を奬勵せしに、大原郡の如きは各小學生徒に螟蟲蛾及び其卵塊を捕獲せしめ、螟蛾十頭に付金壹厘五毛、卵塊十個に付三厘の標準よて其々奬勵の物品を賞與し又は郵便蓄金通帳を授與したり、而して其成績を略擧すれば總て二十五校の捕蛾數は九万四千八百五十三頭、卵塊は一万七千八百九十三個なりき。

◎北總香取郡日吉村の蟲害

千葉縣茂原町　土屋理一郎

吾が千葉縣香取郡日吉村にては昨年夏イチノアヲムシ（Plusia festucae, *L*）を發生し、之がため常に水害に罹る水田は特よ痛く喰害せられて僅かよ葉心を殘すのみなりき、當時農家は之れが驅除よ從事せしも時期已よ遲かりしを以て格別の功驗なかりし、然れども本年よ波及すべき害を確かに輕減せしめたり、然るに本年は又稻葉捲蟲盛んに出で、同村篠本區の稻田の大部分は其害を被ふり、就中窒素質肥料を多用し葉莖を濃綠よ生育せしめたるものゝ如きは、一株に五六頭の寄食を見るよ至り、稻葉は衰弱して黃色よ變じ一見ろの被害の甚はだしきに驚ろかしめたり、時よ柏崎郡農會より視察員の出張せられしかば共に害蟲の驅除せざるべからざる所以を說明して、一般農民に竹櫛を以て靜かに其苞を解かしめ、或ひは又苞外より壓殺する等の驅除法を行はしむ、斯くて九月上旬に至り、成蟲發生せしを以て捕へて之を檢すれば、皆一文字セセリ（Pamphila guttata, Brem）なりき。是より先、農家は皆異口同音に此蟲發生しなば必らず虻に化生するならんと、幸はひよ余が實物を示せしにより此迷信は消滅したるが如きも、農家の昆蟲思想に乏しきを知るよ足りぬべし、斯學の硏究豈よ忽諸に附して可ならんや。

◎當地方に於ける昆蟲方言

岐阜縣惠那郡　伊藤米太郎

吾が住村に於ける昆蟲の方言を報道すれば次に列擧するが如し、余は此種の報道を各府縣の本誌愛讀者によりて續々通信せられんことを望めり、蓋し斯學硏究上先づ之を知得するの要あればなり。

◉蛹をドチ　◉トノサマバツタの類をハタハタ　◉シヨウリヤウバツタを子ギ子ギ　◉キリギリスをギス　◉ウマオヒムシをズイチヨ　◉松蟲をチンチロリン　◉鳴蜩をオホゼミ　◉カナカナゼミをヒグラシ　◉シヤクトリムシをメンパワラシ又はメンパカケ　◉クハゴをクハガヒコ　◉キンケムシをカヤムシ　◉マツケムシをマツムシ　◉シラガタロウをシラヒゲ　◉夜盜蟲族をキリウジ　◉ヤマ蜂

をクマバチ ◉クマ蜂をクソミツ ◉オホマル蜂をダンゴミツ ◉アシナガ蜂をスガレ ◉ヂバチをヘボ ◉蜜蜂をサツマヘボ ◉ゲンゴロウをケツタタキ又はシリタタキ ◉カハグモ類をミヅグモ ◉マツモムシをミヅクゞリ ◉葉捲蟲をカジ ◉横這類をウンカ ◉蚜蟲をコゴメ ◉蟻をアリコ ◉瓢蟲類をアカガメ ◉ミヅスマシをシシマハシ ◉アリヂゴクをコジコジ ◉ミチシルベの幼蟲をツチグモ ◉バツタの幼蟲をクラウマ ◉螵蛸をカラスノホホクリ ◉雀甕をスズメノサカグラ ◉ギンヤンマ類をオニトンボ ◉ムシヒキアブ類をブンスケ ◉虻をアボ ◉葛上亭長をヒムシ ◉蝶と蛾とを總稱してテフテフ ◉シロコアブラ蟲をユキフリコンコ

◎浮塵子の調査及び驅除法

第八回全國害蟲驅除講習修業生　三重縣　西岡嘉十郎

吾が三重縣農事試驗場にては、去る九月浮塵子發生の調査及び驅除に就き「秋期の浮塵子」と題する一小冊子を印刷して、之れを普く縣下各郡市町村篤農家へ配布せり、即はち之を左に報ず。

氣候適順にして稻の生育最も宜しく、幸に風水害の憂もなく、農家豐年を祝ふの時、稻の落花後に於て方言「ツボクサレ」と稱し俄然田面所々に五六株の枯莖を生じ、數日にして二三歩乃至數畝歩に擴がり遂に全田盡く枯死するに至り、非常なる慘狀を呈することあり、是れ秋期の浮塵子（アキウンカ）の被害なり、此害蟲たるや素より其起るの日に起るに非ずして、必ず據て來る所あるものなれば、其根源に遡り發生の初期に於て之れを驅除し、害を未然に防ぐ事最も肝要なりとす、而して今や恰も其期に當り縣下各町村皆相當の委員を設け其發生の調査を爲すと雖も、此事たる最も困難にして、往々其方法を誤り、爲めに驅除の好機を失するあるを認む、依て茲に現今に處する浮塵子の調査及び驅除の方法を略記し參考に供せん。

○浮塵子の形狀　浮塵子は其種類甚多く、隨て其色澤形狀を異にすれ共、現今最も多く發生せるものは、鬚丸横這、大鬚丸横這及び圓子横這なりとす、依て今其三種に適じたる形狀の大要を左に掲ぐ。

卵　稻莖の中に平列して產附せられ、一ヶ所五六粒乃至二十粒許りあり。

幼蟲　白色灰色又は淡黑色にして、体は圓形又は楕圓形なり。孵化當時は二三厘なれ共、數回の脫皮を經て七八厘に達す。

成蟲　羽を生じたる親蟲にして灰色又は褐色を呈す、体長一分内外のもの多く活潑に飛翔す。但圓子横這は羽を欠き、腹部膨大して休長一分三四厘あり、幼蟲に酷似す。

（未　完）

聞蟲　夕やみのまがきがもとに聞ゆるは月ましむしの聲にやあるらん　（蜂須賀隨子）

雜報

◉平田農相と高崎御歌所長の寄贈品　曩に名和昆蟲研究所實査として來臨せる、農商務大臣平田東助氏は歸京間もなく、某名家の群蟲圖に與利除害の一絕を題して所長名和靖氏の許に寄せられ又此由を聞ける御歌所長高崎正風男にも、昆蟲に因める一首の國風を最と愛度色紙に認めて贈り遣はされぬ、こは何れも明年の新刊紙上にて讀者に披露せん豫定なり。

◉第十回全國害蟲驅除講習會　既報の如く來る十六日より當昆蟲研究所內に開設す、その應募者は西は九州の南端より北は東奥の間に跨がり、人員また豫定の上に出でたれば、開會中は有益の事柄も多々ありぬ可しと思はる、委しくは次號に載せん。

◉岐阜縣昆蟲學會の臨時總會(別項參照)　岐阜縣昆蟲學會は、會務の進行上臨時總會の必要を感じたるを以て、來十二月七日(第一土曜日)午后一時より其臨時總會を開き、重要の諸件を評定する都合なりと、なほ卷末の廣告を參看せらるべし。

◉岐阜縣武儀郡昆蟲學講習會　去月十一日を以て當昆蟲研究所に開きたる岐阜縣武儀郡小學敎員昆蟲講習會は、豫期の如く同十五日に終了せしが、其成績は槪して良好にて、閉講式の際には小島同郡長、名和當研究所長の訓諭等ありき、今同會の性質を明らむる爲め、小島郡長が朗讀せる開會の式辭を左に收載す。

茲に本日を以て武儀郡小學校敎員昆蟲講習會開會の式を擧行す、顧ふに昆蟲に關する學術は諸般科學の進步と共に、今や大に其步武を進め遂年實業に對して益密接の關係を有するに至れり、然り而して小學校は兒童をして日常生活に必須なる智識技能を授くるを以て其本旨の一とする所、即ち本郡の特に斯學の泰斗名和先生を請して本會を開設したるもの亦故なきにあらざるなり、幸に會員諸氏宜しく講究を盡くして本會の所期を全ふせられんことを庶幾ふ、聊か一言を以て本日の式辭とす。

◉冬季採集の昆蟲展覽會(明年二月)　今秋組織せる岐阜縣昆蟲學會にては會務實行の第一着

として、今回冬季採集の昆蟲展覽會を計畫し、左の趣意書及び規則書を弘く各郡市へ頒配したるは勿論川路會長よりはそれ〳〵役員をも囑託して万端の設備已よ整理を告げたれば、各種の學校及び農會員、研究會員等は何れも熱心に採集に從事中なれば、明年の紀元節の日は時ならぬ壯觀を岐阜市に添ふるなる可し、さて餘白の都合あれば、玆に漏れたる記事は後號よ詳記することゝして規則書を掲げんに。

岐阜縣冬季昆蟲展覽會趣意書

百蟲の偶生說は畢竟昆蟲の習性を知悉せざる者の妄語のみ。而して冬時の蟄伏を以て其種屬の絕滅と誤視する者多く甚だしきは之を科學的に究明し及び之を實業に應用せんと欲する者すら、猶ほ概ね春秋の間に於てのみ採集に從事し未だ珍種異品を皚雪堆裏の石塊下、溯風凜烈の樹皮間に捜め、以て之を研鑽の資に供せざるもの、如し。是れ斯學の發達を來せしが如くにして容易に前進するに至らず、兼て品種の調査其半をも終ゆるに及ばざる所以なり。本會玆に觀るあり、今回同志相謀り展覽會を開き、主として。學生其他の冬季に採集せる昆蟲を展列し聊か斯學の缺を補足せんとす、幸ひに微意の存する所を洞察し丞かに斯事業の完成を期せしめよ。

明治三十四年十月　　岐阜縣昆蟲學會

岐阜市京町名和昆蟲研究所內

岐阜縣冬季昆蟲展覽會規則

第一條　本會は昆蟲學思想の發達及び之が應用を圖らんが爲め岐阜縣昆蟲學會主催となり明治三十五年二月十一日より二十日迄十日間岐阜縣物產館內に於て開設す

第二條　本會の出品は凡そ左の各種とす　○分類標本○害蟲標本○益蟲標本○教育用標本○裝飾用標本○其他參考品

第三條　前條の出品は學校其他團体若くは自己の製作又は考案に係るものとす

第四條　過大巨重の出品は本會の都合により拒絕することあるべし

第五條　出品は本會に於て相當の保護を爲すと雖ども萬一盜難火風震災其他避くべからざる事故により破損若くは紛失したるときは本會其責に任ぜす

第六條　出品は參考品を除き總て審査す

第七條　出品人は其出品に對し再審査を請ひ又は授與の褒賞を拒み若くは審査の決定に對し異議の申立を爲すことを得ず

第八條　出品は審査上優等なるものには其出品に對し一等より四等に至る等級に從ひ褒賞を授與す、但受賞外の者又は參考品と雖とも特に紀念狀を授與することあるべし

第九條　一人にして數種を出品したるものに對しては其內最も優等なるものに限り賞與す、但異種にして優等に位するものあるときは特に相當の褒狀のみを授與することあるべし

第十條　褒賞授與式は二月十一日を以て擧行す

第十一條　本會に出品せんとするものは第一號書式の出品目錄を作り明治三十四年十二月廿五日迄に「名和昆蟲研究所內、岐阜縣昆蟲學會事務所」に差出すべし

第十二條　現品には採集地及其年月日を記載したる小札を一頭每に添付すべし、但貝殼蟲等の類は一枚每に添付すべし

第十三條　出品及解說書は明治三十五年一月廿五日以前に必ず到達の日取を以て「名和昆蟲研究所內、岐阜縣昆蟲學會事務所」に

發送すへし

第十四條　出品には必ず番號、品名、出品人の住所氏名を明記したる小札を添付し相當の方法を以て堅固に荷造すべし

第十五條　會場の整理、出品の陳列等に關する一切の事務及費用は本會に於て之を負擔す

第十六條　出品運送に關する費用は總て出品人の負擔とす

第十七條　本會に左の役員を置く　○會長一名○顧問若干名○事務委員長一名○審査委員長一名○地方委員長若干名○事務委員若干名○審査委員若干名○地方委員若干名○書記若干名

第十八條　本會役員の事務掌程は左の如し　會長　本會一切の事務を統轄す、顧問　本會重要の商議に參與す、事務委員長　會長の指揮を受け事務を整理す、審査委員長　會長の指揮を受け審査事務を統轄す、地方委員長　會長の指揮を受け地方委員を統轄す、事務委員　會長及事務委員長の指揮を受け事務に從事す、審査委員　審査委員長の指揮を受け審査事務に從事す、地方委員　地方委員長の指揮を受け出品勸誘其他會務を補助す、書記　會長以下の指揮を受けて庶務に從事す

第十九條　開會中は毎日午前第九時より午後第四時迄衆庶の觀覽を許す、但都合により本文時間を伸縮し又は臨時入場を止むることある可し

第二十條　參觀は隨意たるべし、但無料とす

第廿一條　參觀人は本會委員又は監守人の承諾を得るにあらざれば陳列品に手を觸るゝことを得ず

第廿二條　出品を摸寫し又は會場を撮影せんと欲するものは本會事務所の許諾を受くべし

（第一號書式）用紙美濃紙

岐阜縣冬季昆蟲展覽會出品目錄

何郡(市)何町(村)(何學校何團体代表者)

出品人　何　之　誰

番號	品名	數量・代價

右は展覽會規則を遵守し出品候也

年　月　日　右　何　之　誰㊞

岐阜縣昆蟲學會宛

（第二號書式）用紙美濃紙

岐阜縣冬季昆蟲展覽會出品解説書

何郡(市)何町(村)(何學校何團体代表者)

出品人　何　之　誰

番號	品名	採集地	製作人及考案者の氏名
用法			
褒賞			
審査請求の主眼			

右之通りニ候也

年　月　日　右　何　之　誰㊞

岐阜縣昆蟲學會宛

◉關西地方に發生の浮塵子

本年は一時各府縣の稻田に浮塵子の發生甚はだしき狀況なりしかど、當局者の注意と一般農家が驅除豫防に力を用ゐたりしとにより、幸ひに格別の被害無かりき、とは數回各種の報告にて承知せしが、客月關西地方を巡行の際、親しく各地にて浮塵子の加害如何を檢視せしに、到處多少の發生なきは無く、其甚だしきは滿田枯葉倒莖とも評すべき、收穫皆無の個處すら無きにあらず、特に被害甚だしく一見慘憺の情に堪へざりしは兵庫縣下にて其他大阪、京都、滋賀等の府縣も亦不少の被害ありしを知れり、此れ全たくツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、セジロウンカの三種の發生蔓殖せし爲めにてヒメトビイロウンカ、イナヅマヨコバイ、マダラヨコバイ等も或る地方には多少加害せし事を確かめ得たり、百聞は一見に及かず、報告と實地とは斯くも違ふものかなと深く心に感じたれバ、注意までに書しるす者は、ナ、ウ生なりけり。

トビイロウンカの圖

（イ）は成蟲（ロ）は上翅（ハ）は下翅

◉岐阜縣海津郡昆蟲研究會況

同會にては去月六日に例會を催ふし、出席員三十四名にて斯學に關する種々の研究をなせり、其際の評定に依り、同月廿七日前九時城山村與條瀑布に集會し飯盛山上に團躰採集を施行せしに來會者は三十名に達し珍種また少なからざりし、又同會吉里支部を設立し、會長には水谷重樹氏副會長には岩間秀實氏、幹事には森川準之助、館守一、佐藤正雄、横井時書の四氏、理事には中島與三郎外八氏を擧げたりとの報知あり。（十一月一日附）

◉中遠の昆蟲講話

靜岡縣磐田郡なる青年農會は同郡農會と交涉を遂げ、去十月十二日より十八日間、郡内六ヶ處に於て三日間づゝ昆蟲講話會を開き一般昆蟲學の初步を注入せしめたるに、聽講者は百名以上二百名位にて、講師は同縣農事試驗場の岡田忠男氏なりき、同地神村直三郎氏よりの書信の端に見えたり。

◉香川、島根二縣の昆蟲學講習會

香川縣綾歌郡農會及び島根縣那賀郡農會にては、昆蟲學講習の必要を感じけん、昨年來數回當昆蟲研究所長名和靖氏の出張講習を促がされたるも、其時機絕ねて無かりしより一時延期を申入れ、去月に至り往還二十日間の豫定もて出張の準備を終へ將に發程せんとする折柄、宿痾頓に發したる爲め主治醫の勸告に應じ、遺憾を忍びて旅行を中止し急に之が代理と

して助手名和梅吉氏を派遣せり、兩縣とも講習席に列したる者は百名以上にして中には地方有力者も多かりし由なるが、之を動機として昆蟲研究會を設立する運びに至れりと、今其景況を略記すれば兩會とも開閉は郡農會長之を司さどり、開期は皆五日づゝにて、香川縣の修業生は百十八名、島根縣の分は六十二名、その教科目は昆蟲學大意、益蟲保護、害蟲驅除、その他該地方に於て驅除上必要の件々なりしが、幸はひに器械の準備ありしかば野外實習をも行へて親しく示導することを得たりきと、何にせよ各地に於て斯く昆蟲學研究の端緒を啓くに至りしこそ嬉しけれ。

◉**岐阜縣揖斐郡昆蟲研究會報**　　同會は種々協量すべき事件出來せしを以て本月二日午后三時より、其臨時總會を開きたるに會頭高橋俊益氏を始め長屋四郎兵衛氏外十九名來集し、先づ高橋同郡長の謝辭、長屋氏の事務會計報告あり次で維持費醵集、全國昆蟲展覽會出品成績、役員報酬贈與の諸件に併せて明治三十六年內國大博覽會へ出品の件をも議定し、更に會務擴張の方法を討究したる末、來十二月一日を以て重ねて其總會を招集する事となし閉會、それより一同は今春全國昆蟲展覽會より授與せられたる銀杯披露式を行なひ、席上會務進行に關する談話あり夜に入りて散會せしが、同郡の有力家坪井伊助氏も偶然その席に來合せて維持費中へ金拾圓を喜捐せしかば、一層會員を奮勵せしめたりと。

◉**蟲合せの答案に就て**　　蟲合せの答案は其後各地より多數の寄稿あり、來ん年の新刊紙上には必らずや拭目すべき價値の者あらん、斯學振作の一助として此かる優雅なる問題の續出せんことを祈る。

◉**千葉縣香取郡勸業報告**（第四拾七號の續）　千葉縣香取郡勸業委員　佐母家周助氏報告

（第三）名和靖氏の螟蟲驅除談　　前項の標本室は同所に熟練の名高き名和梅吉氏の周到なる案內にて觀察したる所なり、終りて應接室に名和靖氏と會談し、同氏が螟蟲驅除豫防に對する意見を聞きたり、今其の大要を擧げんに。　螟蟲驅除豫防として世間に流行するは誘蛾燈點火誘殺法なりと雖も、予は此の誘蛾燈の流行する間は到底螟蟲の害は免れざるものと斷言す、點火誘殺法は簡易にして實行に便なり故に各府縣に於て之を採用し頻りに之が實行を奬勵すと雖も、未だ其の利益を比較研究せざるは甚だ遺憾とする所なり、第一に誘蛾燈は螟蛾を燒殺すると同時に幾多の益蟲をも併殺す、而して世間の多數者は螟蛾誘殺の功を見て未だ益蟲燒殺の害に注意せざるなり、第二に誘蛾燈にて燒殺せらるべき螟蛾は全螟蛾の十分の一にも足らざるべし、此の少數の螟蛾を燒殺したりとて螟蟲驅除上には殆んど見るべきの効なきなり、第三に世間には一夜にて何百蛾を燒殺したりとて揚々其の利を稱するものあれども、此の何百

の内には他の昆蟲は勿論、雄蛾及び產卵後の雌蛾少なからざるに注意せざるなり、或ひ燒殺したる雌蛾の軀内に卵の存在するを見て直にその燒殺の効を稱するものあれども、此の卵を有する雌蛾中にも既に產卵したるもの少なからざるに注意せざるは何たることぞや、第四に誘蛾燈は全部に行はざれば之を行ふたるもの獨り勞と利を失ひ、之を行はざるもの反つて僥倖を得るの弊あり、例へば或る村に誘蛾燈を使用して點火する者ありとせんに、其周圍より多數の螟蛾來集して從つて殺せば從つて集まり、反つて之を行はざる前に比し多數の螟蛾を誘引すべし、此苦情は世間にて往々聞く所なるが事實相違なきなり第五に全國悉く螟蛾誘殺に點火法を用ひ之に石油を使用すとせんか、國家經濟上偉大の損害を被らざるを得ず、彼の熊本縣に於て實驗する所によれば一段步に八拾錢の經費を要し内四拾錢は石油代なりと云へり、若しそれ全國二百七十五万町步の稻田に悉く石油點火を行ふときは一千百萬圓の石油を更に露米より仰がざるを得ざるべし、之れ豈我國民の堪ふる所ならんや、誘蛾燈は前陳の如き不完全なる方法なるを以て、予は此の方法の流行する間は到底螟蟲の害を免るゝ能はざるものと斷言するなり、予は誘蛾燈を以て敢て無効なりと稱するにあらず、世間が此の法を唯一の良法として他に尙ほ確實の方法あることを悟らず、又啻に誘蛾燈の利益を觀て其の弊害を念はざるを警しむるものなり、而して予が確實なる方法として主張するものは左の三點にあり。

第一、苗代及び本田に於て螟蟲の卵塊を採取すべし而して採卵は午前は東方に向ひ、午后は西方に向ひ行ふべし、熟練の者一人にて一日五段步内外を採取することを得べし、又採卵は五六日目毎に行ひ少なくも三回乃至五六回行ふことを要す、又採卵法は第一化の場合には行はるれども第二化の場合は既に稻莖茂り、且つ下方に產卵するを以て採卵上甚だ困難なり。

第二、斯く採卵を行ふと雖も見落し又は孵化等のため多少の害を遺すを免れざるものなるを以て、枯葉を生ずるものなり、此の枯葉を認めたるときは遲滯なく根際より拔取るべし、而して拔取るに指頭を以てすれば他の莖葉を傷くる恐あるを以て、尖端の少しく曲りたる小刀に長き柄を附したるものを用ゐ、徐かに切取るべし。

第三、右の如く爲すとも尙ほ多少の枯穗は免れざるものなれば、此の枯穗は根際より切り除き燒棄すべし。

此の三法を三ヶ年間も繼續すれば大抵は滅すことを得るなり、尙ほ害蟲驅除の効果を收めんと欲せば先づ當業者をして昆蟲學上の思想と智識を得せしむること肝要なり、未だ思想なく智識足らずして事業の成功を見ることあらざるなり。云々　（他は省略す）

編者云ふ、此報告を通讀するに各府縣に於ける勸業の要領を巨細網羅して敢て錯誤を傳へざる所、實に敬服の外なし、左は云へ、稍

々省略に渉るものあるは白玉の微瑕か。現に當昆蟲研究所長名和靖氏の談話中、螟蟲驅除諸方法に對し何れに重きを置くべきやとの問はゞ勿論之を並行せしめざる可からざるも、或事情のために一方に偏せざる可からずとせば寧ろ採卵法に傾かん、との一節及び枯穗拔取法に隨伴せる二三の要件を記入せざるが如きは少しく物足らぬ心地せらるゝなり、依て茲に附記す。

◉**大分縣の蟲害に關する法令**　大分縣にて、今年農作害蟲の驅除に全力を注ぎしは既報の如くなるが事のこゝに至れるは五月廿八日を以て鈴木縣知事の名にて、六月一日より七月二十五日まで左の各項を勵行すべき縣令を發し、七月九日に至り大久保縣知事より縣令を以て採卵と注油とは各三回以上、心枯及び穗枯掘取とも各二回以上行ふべき旨を命じ、尚ほ訓令を以て其方針を示したる上、續々當路者を派出監督せしめたる結果、先づ以て良好の成績を得たるなりと同縣の小野覺太郎氏の通信に見ゆ。

一、苗代田に於て苗二寸以上に伸長せしときは毎日一回捕蟲網を以て螟蛾、浮塵子等の捕殺を行ふべし。
二、苗代田に於て二回以上注油殺蟲法を行ふべし。
三、苗代田に於て三回以上螟卵採集法を行ふべし。

◉**靜岡縣周智郡昆蟲報**　靜岡縣遠江國周智郡にては今春昆蟲學講習會を開設以來、頓に昆蟲思想を發作したるが、去る九月以來は郡內各處に於て螟害に罹れる枯莖拔取に從事し、其結果を細密なる統計表に調製せん筈にて競ふて淨寫に取掛れりとなり、今同郡昆蟲研究會の規則を左に掲げんに。

第一條　本會は周智郡昆蟲研究會と稱し、事務所を周智郡農會事務所內に置く○第二條　本會は周智郡害蟲驅除講習修了生其他有志者を以て組織す○第三條　本會は昆蟲に關する事項を研究し、併て昆蟲思想の普及を圖るを以て目的とす○第四條　本會に左の役員を置く其任期は二ヶ年とす、會長一名　副會長一名　幹事三名○第五條　會長は本會を總理し、副會長は會長を補佐し常務を擔任す、幹事は會長副會長の指揮を受け庶務に從事す○第六條　本會は毎年二回定期總會を開く、其場所日時は會長之を定む○第七條　本會へ入會せんとする者は本會へ申込むへし、退會亦同し○第八條　本會の經費は會員の負擔とす（以下補則）○第九條　本會の主旨を遂行する目的を以て各小學校內（役場所在地）に支會を設くる者とす○第十條　支會の會則は便宜上之を定め本會の認諾を受くるものとす

◉**螟蟲の蝕害調査**　岐阜縣本巣郡船木村字十八條の有志者は先に矯風會なるものを組織し、農事改良を計畫し來りたるが、去月の例會席上に於て名和當昆蟲研究所長より螟蟲蝕害の程度調査の必要を勸告せられたる結果、十月九日より同十四日まで六日間各々被害稻三十莖づゝに就て綿密に調査を施せるに、會員採取の七百五十莖中にて最とも多く潛居したるは二十九頭、最とも少なかりしは一頭にて、其總數三千九頭に上り、一莖に對し四頭強の割合なり、去れば一人の捕ふる所る最少は六十八頭（一莖

に對し二頭强）に過ぎざるも、最多のものに至りては二百十三頭（一莖平均七頭强）に及びたり、借その中最とも多數を占めしは、全數即はち三十莖に對し百頭以上のものにて三分一以上に當り、次れ七十頭以上のものにて約四分一を算し、八十と九十と二百以上のものは各同數にて之を合すれば百頭以上のものと共に三分一以上となり、六十頭以上のものは僅かに其殘餘の一人のみなりき、と同會事務所より報じ越せり、何はとも將來關心すべきは此害蟲なりけり、因みに云ふ、昨年宮城縣桃生郡の被害地に於て調査せし時一莖に四十五頭を捕ひ、又伊具郡に於ては七十頭蝕入のものをも發見したりきと。

●椿象の共同驅除　石川縣江沼郡福田村は從來共同して椿象を驅除し好成蹟ありしが、本年もまた八月十一日を以て四百十一人の多勢にて之を施行したるに容量二斗九升六合八勺五才すなはち蟲數三十一万七千六百三十頭を獲て盡ごとく撲殺したり、當日は同郡長以下篤志家數十名實地に臨み、捕殺の優等なりし者へは縞木綿一反（一等賞にて一名）木綿片一包（二等十七名）鎌一挺（三等三十名）手拭一筋（四等三百七十三名）を授與して奬勵の旨を明ふかにせりと、同縣石川郡の高多信久氏より報道あり。

●岐阜昆蟲學會例會記事　同會第三十五回の月次會を本月二日午後二時より當昆蟲研究所内に開會せしに、出席總數は七十餘名にて、先づ名和當所長の挨拶に次で、永澤小兵衛氏が石川縣能美郡に於ける蟲塚調査の始末より、金澤藩と博物學の關係幷びに九谷燒の昆蟲摸樣等に就ての講話あり（終りて休憩標本縱覽）次に中學校敎諭長野菊次郎氏は昆蟲と鳥禽の關係に就て、米國昆蟲學者の調査に係る鳥類の食餌より說き起し雛鳥の食量幷びに害益鳥に關する例を擧げて蟲害驅除に鳥類保護の緊要を述べ、次に京都蠶業講習所技師川嶋勝次郎氏は廢物利用と題して病蠶野蠶の體内より「テグス」採取の利益及び効用製造の諸方法を說明し、終りに名和所長は明年二月上旬開設の岐阜縣冬季昆蟲展覽會に就て其開會の理由と之が利益及び出品方法を詳說して、大ひに會員の奮勵を促がしたるが、斯くて閉會を告げたるは薄暮頃なりき。

●昆蟲標本陳列場の參觀人　去十月中、當昆蟲研究所常設の標本陳列所を參觀せる人員は、總數五千二百八人にして其中最とも多かりしは十二日に於ける四百八十六人、最とも少なかりしは十七日の九十二人にて、一日平均約百四十名に當り、重なる人々は貴族院議員田中芳男、陸軍一等軍醫都築甚之助、同二等軍醫谷口佐太郎三氏の外、千葉、兵庫、和歌山、山口、大分、石川諸縣の農事行政及び農事敎育關係者、官公立諸學校敎員生徒諸氏等なりき。

（以上十一月十二日脫稿）

◎昆蟲學用書籍寫眞廣告

名和昆蟲研究所長名和靖著

五版

薔薇の一株

昆蟲世界 全

定價貳拾錢郵税貳錢郵券代用一割増

臨時刊行第一編

日本昆蟲分科表 全一冊

名和昆蟲研究所編輯部編

定價（郵税共）金貳拾八錢（郵券代用一割増）

臨時刊行第二編

通俗益蟲集覽 第一輯（説明書附）

名和昆蟲研究所編輯部編

定價（郵税共）金貳拾貳錢（同上）

雑誌昆蟲世界合本出來廣告

昆蟲世界第三巻

本邦唯一の昆蟲雑誌

昆蟲世界 合本

西洋綴金文字入美装

●昆蟲世界第三巻合本壹册 定價金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

●昆蟲世界第四巻合本壹冊 金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

名和昆蟲研究所

春蠶種販賣廣告

本館製造の春蠶種は飼育し易く繭質善良加ふるに病毒皆無なるは既往の成績に徴し既に當業家諸君の稱賛を辱ふせる所なり現に昨年の如きは豫約を募集せしに未だ期限に至らざるに既に製造額以上に達するの盛況を呈し止むなく謝絶したり今回大に規摸を擴張し蠶室貯桑場、上簇室等を増築し精選蠶種を製造致すべきに付多少共御注文の上御飼育あらんことを

岐阜縣不破郡岩手村字岩手

樹神館蠶業部

館主 兒玉氏信

一本館製造蠶種の種類又昔、青熟、角又

一代價 框製壹蛾金參錢、普通製一枚金壹圓四拾錢（多數注文は特別割引）

◎害蟲圖解既刊の分

●第一。桑樹害蟲エダシャクトリ（枝尺蠖）（三版）
●第二。桑樹害蟲トゲシャクトリ（刺尺蠖）（再版）
●第三。稻の害蟲イ子ノズヰムシ（二化生螟蟲）
●第四。煙草害蟲タバコノアヲムシ（煙草螟蛉）
●第五。稻の害蟲イチモジセセリ（苞蟲又葉捲蟲）
●第六。桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姫象鼻蟲）
●第七。桑樹害蟲シンムシ（心蟲）
●第八。稻の害蟲イ子ノアヲムシ（稻螟蟲）
●第九。茶樹害蟲ミノムシ（避債蟲）
●第十。豌豆害蟲エンドノキリムシ（夜盜蟲又地蠶）
●第十一。桑樹害蟲クハカミキリ（桑天牛）
●第十二。稻の害蟲ツマクロヨコバヒ（浮塵子）
●第十三。桑樹害蟲イトヒキハマキムシ（糸引葉捲蟲）
●第十四。茶樹害蟲チャケムシ（茶蛅蟖）
●第十五。馬鈴薯害蟲テントウムンダマシ（擬瓢蟲）

以上十五種は既刊の分として發刊以來既に江湖の高評を得て郡農會又は町村農會は勿論、各種の諸學校にも備へ付けられたり、時節柄害蟲驅除には必要欠く可からざる圖解とす。

◎新刊の害蟲圖解

●第十五。馬鈴薯害蟲テントウムシダマシ（擬瓢蟲）

馬鈴薯の害蟲は種々ありと雖も、就中テントウムシダマシの如きは最も害の甚しきものにて、之が驅除豫防をせんには先づ其發生經過を知悉するにあり、而して之が手引としては此圖解の如きは最も必要のものたりと信ず、尚ほ未刊の中必要なるものより追次發刊せんとす幸に愛顧を賜へ。

◎害蟲圖解未刊の分豫告

◎桑樹害蟲キンケムシ（金條蛅蟖）
◎稻の害蟲アタホシズヰムシ（三化生螟蟲）
◎稻麥害蟲キリウジカガンボ（切蛆）
◎稻の害蟲セジロウンカ（背白浮塵子）
◎稻の害蟲ヒゲナガアブ（長角虻）
◎桑樹實蟲クハハマキ（桑葉捲蟲）
◎蠶の害蟲カヒコノウジバヘ（蠁蛆）

◎松樹害蟲マツケムシ（松蛅蟖）
◎藍の害蟲アヰノゾウムシ（藍象鼻蟲）
◎栗の害蟲アハノズヰムシ（栗螟蟲）
◎胡麻害蟲メンガタスズメ（胡麻蠋）
◎赤楊害蟲ハンノキケムシ（赤楊蛅蟖）
◎櫟の害蟲カミキリムシ（天牛）

◎桑樹害蟲クハケムシ（桑蛅蟖）
◎稻の害蟲イナゴ（阜螽）
◎稻の害蟲トビイロウンカ（褐色浮塵子）
◎稻の害蟲クロクサガメ（黑色椿象）
◎桑樹害蟲アヲハマキムシ（青色葉捲蟲）
◎桑樹害蟲クバゴ（野蠶）
◎蔬菜害蟲モンシロテフ（菜の螟蛉）
○蔬菜害蟲サルハムシ（菜の葉蟲）
◎大豆害蟲ヒメコガ子（姫金龜子）
◎梅樹害蟲ウメケムシ（梅蛅蟖）
◎梅樹害蟲ウメシヤクトリ（梅尺蠖）

◎圖解の紙幅縱一尺三寸橫九寸　◎壹枚の代價拾五錢郵稅貳錢
◎百枚以上一纒壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

◎豫約代價　壹枚拾錢郵稅貳錢　但申込の際前金添附の事
圖解代金　凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用壹割増の事

◎梨樹害蟲ナシゾウムシ（象鼻蟲）
◎梨樹害蟲ホシハマキ（星葉捲蟲）
◎果樹害蟲イラムシ（刺蟲）
◎稻の害蟲オホズヰムシ（大螟蟲）
◎藍の害蟲アヰノズヰムシ（藍の螟蟲）
◎栗の害蟲アハノヨトウムシ（栗蠶）
◎里芋害蟲セスヂスズメ（烏蠋）
◎桐樹害蟲シモフリスズメ（桐蠋）
◎果樹害蟲ホシカミキリ（白斑天牛）
◎果樹害蟲ドウガ子ブンブン（金龜子）

發行所　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

全國昆蟲展覽會褒賞用及ひ紀念用の金銀木杯製作所

◎秤は何種に拘はらず（商標）の商標弁に守隨製の打込印を御認めの上御買入相成候事必要に候
◎（商標）の商標弁に守隨製の打込印なき者は拙店の製品ょ無之候
◎拙店の製品ょあらざるものは多く原料粗惡にして耐久の見込無之候
◎耐久の見込なきは今回の定期檢定成績ょ於て既に御了解相成候と存候
◎耐久の見込なきのみならず損所修覆の時原料の取替又ハ各異形の爲め非常の手數を要し候
◎非常の手數を要し候故に修覆料も亦隨て高價に相成候
◎修覆料の高價ょ止まらず無據御斷り申上候品も澤山有之候
◎拙店は三百年來斯業ょ從事し陸軍省所有の大砲掛秤鐵道局使用の車輛掛秤臺灣總督府の標本秤等を製造せしのみにても技術の巧妙にして堅牢なる製品を出すと明白に候
◎拙店は全國に於て三支店四分店四十出張所七百八代理店を有し修覆又は取次をなさしむるを以て損所修覆の際は獨得の便利有之候
◎定期檢定を受けざる秤又はポンド目カン〳〵等を御使用相成候方往々見受け候得共右は法律上嚴罰有之候間速ょ御棄却可被成候
右は將來秤御買入の諸君に對し豫じめ御注意申上候也

尚弊店の漆器營業種目は左の如くに有之候

美術漆器、一閑張、張拔、螺鈿入漆器、朱塗物、重箱、本膳椀椀盛、菓子椀、吸物椀、折敷膳、會席膳、吸物膳、菓子器、杯洗、盃類、盆類、鏡臺、針差、枕類、鏡類、額緣、塗板額、貿易漆器、紀念木杯、卷煙草箱、料紙文庫、硯箱、香合、棗類、香盆、小箱、塗煙草盆、行燈、衣桁、切手盆、机類、箸箱類、下駄箱、紅葉箱、簞笥、長持、用簞笥、櫛簞笥、膳簞笥等は御注文に依り十分入念調製可仕候
御嫁入道具、家具類、玩弄物を始め其他漆器類一切營業可仕候
特ょ蒔繪は自宅の工場内に技師雇入れ有之に付美術蒔繪は無論其他意匠圖案の求めに應ぜ

名古市榮町一丁目

度量衡
漆器業

守隨本店

（電信略符　シスイ）

(明治三十四年十一月十五日發行) 昆蟲世界 (毎月一回十五日發行)
第五卷第五拾壹號

(明治三十年九月十日內務省許可)
(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

◉岐阜縣昆蟲學會臨時總會廣告

會務の進行に關し臨時急須の諸件を御商議致度に付來十二月七日(第一土曜)午后正一時より臨時總會を事務所內に開會致候間、會員諸君は繰合せ御出席相成度候

十一月十日 岐阜縣昆蟲學會

岐阜昆蟲學會本年中の日並は左の如し
第三十六回月次會(十二月七日)

市街界
案內道
町道
イ 研究所
ロ 縣廳
ニ 病院
ハ 中學校
ホ 監獄
ヘ 郵便局
ト 西別院
チ 公園
リ 長良川
ヌ 金華山
ル 停車場

◉名和昆蟲研究所案內

當研究所の位置は上圖の如く停車場よりは僅十餘町にして養蟲室あり、叉ロとへの間なる新設の岐阜縣物產館內には當所常備の昆蟲標本陳列室あり有志諸君の來訪を俟つ

岐阜縣岐阜市京町 名和昆蟲研究所

◉本誌定價並廣告料

壹部 郵稅共 金拾錢 (見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す)
壹年分拾貳部 郵稅共 金壹圓八錢

(注意) 本誌は總て前金に非れば發送せず◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局◉郵券代用は五厘切手にて壹割增とす
廣告料五號活字廿二字詰一行に付金拾錢とす、三十行以上一行に付き金拾貳錢、

明治三十四年十一月十五日印刷並發行
岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二
(岐阜縣岐阜市京町)
發行所 名和昆蟲研究所
岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二 發行者 名和梅吉
同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶 編輯者 桑原貫之助
同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶 印刷者 河田貞城

(大垣西濃印刷株式會社印刷)

Vol.V. DECEMBER. 15TH, 1901. No.12.

十二月十五日發行

THE INSECT WORLD:

A MONTHLY MAGAZINE
EDITED BY Y. NAWA.
GIFU, JAPAN.

(毎月一回十五日發行)

昆蟲世界

(第五卷第拾貳册) 第五拾貳號

目次 (禁轉載)

(明治三十四年十二月十五日發行)

(明治三十年九月十四日第三種郵便物認可)

PUBLISHED BY THE NAWA'S ENTOMOLOGICAL LABORATORY IN GIFU, JAPAN.

◎寄附金品受領公告

一金拾圓　第十回全國害蟲驅除講習生一同
一金壹圓廿六錢　神戸市　猪間哲之助君
一蝶摸樣華筵　壹枚　石川縣知事　野村政明君
一蝶形釘隱　貳個　香川縣　吉川笹市君
一蜂の巣　壹個　岐阜縣　白田捨松君
一馬尾蜂　壹頭　仙臺市　遠藤庸治君
一枯竹潜伏小蛾　數十頭　岐阜縣　岡崎治市君
一蠶のテグス標本　壹把　京都市　川嶋勝次郎君
一山陽新報（昆蟲記事）　壹葉　在東京　根本東枝君
一昆蟲摸樣商標類　數葉　東京市　小山彰君
一昆蟲摸樣商標　壹葉　岐阜市　三吉艾君

右當昆蟲研究所に寄贈相成候に付茲に芳名を掲げて其厚意を謝す

明治三十四年十二月　岐阜市京町　名和昆蟲研究所

◎岐阜縣冬季昆蟲展覽會經費寄附金受領第貳回報告（イロハ順）

一金貳圓　今西孫一君　一金壹圓　岡崎治市君
一金壹圓　後藤寛吉君　一金壹圓　遠藤政太郎君
一金五拾錢　宗宮信行君　○小計金五圓五拾錢

通計金參拾壹圓也

前記寄附の外なほ稻葉、安八、養老、武儀、益田五郡の地方委員より寄附豫定額募集承諾の旨通知あり此段併せて及報告候也

明治卅四年十二月　岐阜縣昆蟲學會

◎昆蟲世界購讀紹介者芳名（壹名）

静岡縣　岡田忠男君

明治卅五年一月發行昆蟲世界
第五十三號掲載記事大要豫告

◉口繪
◎カマキリの發育圖（彩色石版密畫）
◎平田農相と高崎樞府顧問の詩歌

◉學說
◎柑橘の有害貝殼蟲と驅除法（圖入）
◎有益蟲カマキリの保護に就て
◎昆蟲翅脈の研究（圖入）
◎蚊族と瘧とに關する舊說

◉講話
◎廢物の利用法（テグスの製造）

◉雜錄
◎本邦昆蟲研究家叢話　◎諸國の蟲送り（圖入）
◎昆蟲と算術問題　◎昆蟲見聞記　◎蓑蟲の說

◉通信
◎岡山縣の螟害　◎高知縣の蝶報　◎其他數件

◉雜報
◎昆蟲月令　◎蟲合せ答案披露　◎其他數十件

昆蟲世界は本邦唯一の昆蟲雜誌たるの實を擧げん爲め着々紙面の改良を圖り來りたるが尚ほ本號よりは更に凡そ二千字即はち二頁内外を增加して記事を十分にし吾が讀者諸彥の厚意に酬ひ併せて斯學普及發達の一助に供せんとす冀くは倍々愛讀の榮を賜はらんことを

岐阜市京町　名和昆蟲研究所編輯部

年賀廣告料割引

新年の祝意を表するため、年賀廣告にして、本月廿八日までに、其料金を添へ御依頼の分に限り左記の通り、特別割引を以て、昆蟲世界誌上、最とも見易き紙面に掲載可致候間、至急御申越願上候なほ不便の地方に候はゞ、郵券代用にても苦しからず候

一、昆蟲世界購讀者
一、各級農會の役員 } 壹行に付金九錢の割

一、昆蟲世界購讀(十名以上)紹介者
一、全國昆蟲展覽會への出品者
一、當所證明の修業證書所持者 } 壹行金六錢

外に長文の廣告又は半年以上約束の普通廣告と雖ども、此際に限り特に割引の御取計致すべく候に付此段も併せて廣告致候也

明治三十四年十二月十日

名和昆蟲研究所會計部

◉再版出來廣告

名和昆蟲研究所編輯部 編

臨時刊行第三編

增補 **貝殼蟲圖說** 全

彩色石版密畵及び木版圖數十種挿入 舶來洋紙菊判形美本

◎定價壹部金參拾五錢(郵税四錢)

此書は本邦の果樹、桑樹、盆栽の大害蟲にして且海外貿易に至大の關係を有する各種の貝殼蟲を平易に解說せる記載あり、該蟲は古來之が存在を認め居られしも、專はら之に關する著述なかりしを以て國家の損失と耻辱とは頗ぶる大なる者ありき

◉書中には學說、傳說、寫生圖、驅除法、善後策ありて、全篇十五章みな是れ經濟的昆蟲學の本旨を闡明せるもの

◉先に本書を公行するや、非常の歡迎をうけ忽ちにして初版を絕てり、依て今回、卷首の石版畵に設色し、且新たに第十六章を加へ記事八則を增補し覽者をして聊さか遺憾なからしめんことを期せり

發行所 岐阜市京町 名和昆蟲研究所

取次所 東京市牛込區 早稻田農園

登録商標

大阪市西區西野下之町
電話番號特西四一九番
大阪硫曹株式會社

●硫曹肥料は第一號過燐酸を始め窒素若くは剝達配合のもの及三要素を種々に配合したる肥料都合十一種あり

●硫曹肥料は米麥菜種砂糖黍煙草並に桑麻藍藺野菜類菓樹類何れに用ひても驚くべき効能あり

●硫曹肥料は舊肥料代價の八掛を用ふれば二割乃至三割餘分の收穫あり而して其品質の佳良なると舊肥料を用ひたる作物の比に非ず

●硫曹肥料は壹圓六拾錢の過燐酸肥料を始め四圓五拾錢の特別製完全肥料までであり委細は新農報に掲ぐ御申越次第贈呈す

大阪市西區西野下之町
電話番號特西四一九番
大阪硫曹株式會社

蟲癭ノ各種

論説

◎昆蟲學研究上の新材料（下）

名和昆蟲研究所長　名和靖

(三)害蟲驅除と勤儉儲蓄の關係　兩三年來、各府縣に於て、小學兒女に奬勵を加ひ、之を害蟲驅除に従事せしめて意外の好果を收め得たる事實は、煩はしくこゝに統計を臚列するまでも無く、極めて明白となり畢りぬ。今之を全國の上に就て觀るに、螟卵の摘採に、螽巢の掘索に、桑蟲の捕殺に、何一つとして効功の顯著たらざるは莫く、又進んで昆蟲の採集に努め、自から能く纖細巧緻の標本をも製出するの初歩に到達せるが若し、是豈に斯學の普及と、害蟲驅防の上より、悦んで連絡を通ずべき優良の同人にあらずとせんや。然は云へ、利のある處ろには恒に害もまた伏在し、近ごろ害蟲驅除の聲いよ〳〵大に、兒女奬勵の途いよ〳〵擴まるに随うて、將に漸やく一弊竇をこの間に胚胎せんとするの危險あるを見る。そは螟卵の摘採より、各害蟲の驅除を行ふに際り、往々公費買收法を採用せる處ろあるより、彼の無邪無慾の幼童少女を驅りて、盡ごとく之を拜金宗に歸向せしむるの萌芽を現はし、尙は進んでは一般農家をして、その耕地の害蟲をまふ、黄白に換ふるに非ずんば、之を驅防するも益なしとの妄念を懷かしめ、爲めに自治自衞、精業力耕の心を薄ふがしむるの虞れあること即はち是あり。

言ふまでも無く、農桑多忙の時に、全たく他事を捨てゝ害蟲驅防に專ばらならしむるは、假ひ公利公益

の爲めなりとは云へ、また寛假すべき事情なきにあらず、故に共同事業應急の一策として、公費を投下厚賞を懸け、盛んに買收法を行ふは、或ひは却つて時機に適合せるものなりやも得て知る可からず。然れど此方法の性質として、動もすれば極端に偏むき、且つ恒に弊害を釀し易さは、年來の經驗上、萬目の既に齊しく認むる所ろ、之に反して、奬勵的驅除法の終始、誠心實意に出でゝ奏功の彰々たるも、少しく心ある者の皆首肯する所なり。是故に一朝有事の日と雖ども、猶は忍び得べくんば、後者の着實安穩なるを擇ぶに及かざるに、農家の大半は、その初め害蟲の發生蕃殖に介意せず、その加害稍劇甚に、種族漸やく蔓延するに迨びて後、急遽倉皇、之が驅除を行ふを以て、一網打盡、直ちにその種族の殄滅を欲するの餘り、深くも事の緩急、方の適否、弊の多少を考量するに暇なく、支那唐宋以後の窮策と同じく、專はら阿堵物の力に藉りて、纔かに希望を充さんとするものゝ如し。想ふに尙ほ種々の源因の存するありて、斯かる無謀淺慮に陷いらしむるに違はざるも、畢竟斯學の光明を未だ全躰に放射せざるの反響と謂はざるを得ず。而して今や之に應ずるの方策は、先づ其慾源を塞ぎ、其弊根を芟るより急且つ要なるは莫し、否らざれば終に國を擧げて、滔々この惡風に浸淫し、また救濟するの途無きに至らん。然もあらばあれ、本邦に於ては夙くより、蠁蛆其他の害蟲驅除に、數次買收法を行なひたれば、一たび其美味を嘗め知れる者は、心私かに公費の消耗を希ふなる可く、其區域また甚はだ狹しとなさず。乃はち一時に其慾源を杜塞し、其弊根を芟除すと云ふが如き英斷は、實は言ふべくして行なひ得べからざる難事に屬せり、故に臺灣に於ける毒烟禁止手段と同じく、徐ろに匡救の法を講じ、其大成を民智發達、斯學普及の他日に竢たざるを得ざるべし。

然らば則はち如何にしてか、能く今日の急務に應ずべき、曰く唯られ賣收法驅除に對しては制裁を加へ

奬勵的驅除に對しては賞品を頒與するにあるか。今日の狀態を以て言へば、頑陋にして事理を解せざるの農家は、何が故に害蟲を驅除せざる可からざるか、又何が故に買收を行ふものなるやを知らず、止法規の嚴命に遵がひ、眼前の小利に誘なはれて、本意より出でざる驅除に從事する者多きが故に、當局者はこの弱點を衝きて、各々その得たる買收費の幾分をば、鄕區の約束より成れる信用組合の元資に編入せしむるか、若くは町村農會管理の下に、救荒基金の一助となさしめなば、漸々害蟲驅除の眞意を悟了し、兼て恒心を涵養するの要素ともなり、經濟德性兩つながら其步武を進むるに至るべし。特に理財心の薄弱なる細民に、少資蓄積の至要多味なるを感知せしむるの捷徑となり、之がため國家は、零碎の資本を吸收運用するに至るべく、再轉地力の增加、耕具の完備となり、三轉遂に自治自衞心の興奮となるべきを疑がはず。而してその學校兒女の勞働に對するや、普通の農民とは大ひに異ならざる可からざるものあるを以て、斷然買收法執行の範圍外に遠ざけ、一意奬勵的の賞品すなわち筆紙墨硯の類を頒與して其報酬に充つるの可なるを知る。蓋し小學兒女に每に勤儉貯蓄の美德なるを知らしむるは、最とも肝要なりと雖も、害蟲と農作、農作と國家の關係を訓諭し、之によりて自助自勵を厭はざるの精神を發揮せしむることをなさず、濫りに金錢を愛護するが如き、卑穢陋劣の心性を助長するの仲媒たらしむるは、抑も奬勵の本旨にあらざるのみか、是れ人の子には少焉も忍ぶと能はざる殘害の行爲たりと思料すればなり。要するに、昆蟲學を農業に應用するに方り、害蟲驅除と儲蓄方法の關係の如きは、農政學者の最も焦慮すべき重大の問題にして、又斯學研究の攻究者に資すべき新材料の一たるを失はずと信ず。(完)

寢覺の蟲　老が身のねさめはわびし近くなく蟲の聲さへ遠く聞ねつ。　(佐々木高行)

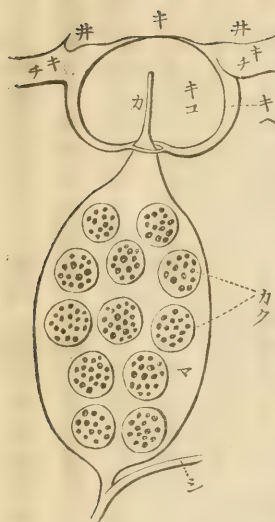
◎昆蟲と植物との關係　（第四拾五號の續）

岐阜中學校教諭　長野菊次郎

前回に於て多數の昆蟲の嗅官は觸角に存することを論じたるが、扨昆蟲は皆嗅官を有するか如何にと云ふに、直翅目白蟻類チヤセンムシ科、雙翅目、膜翅目の全部と鱗翅目、脈翅目及び鞘翅目の大部分は之を有するものなることを知れり。

凡そ昆蟲の嗅覺器は種類によりて多少の差異ありと雖ども、孰れも上皮の陷入又は生長によりて生じたる嗅孔、或ひは齒狀突起より成り、嗅孔には沾液を充たせり。神經は腦より發して觸角に至り、其末梢は下皮細胞より變せる所の棍棒狀細胞にて終れり、圖に示す所によりて其大略を知るべし。

赤脚蝗の一種の嗅官（ハウゼル氏原圖）

記號	名稱
キ	嗅膜
井	圍孔厚皮
キチ	キチン質皮膜
キコ	嗅孔
キヘ	嗅孔壁
カ	感覺針＝嗅針
カク	細胞核
マ	末梢神經細胞
シ	神經纖維

今其嗅孔及び齒狀躰の位置又其數等を擧げんに赤脚蝗類(Caloptenus)の觸角の一關節に於ては、屢々、五十個の嗅孔を數ふべく、先端に於ては三十二個に減せり、螳螂の一種(Mantisreligiosa)に於ては嗅孔を見出すこと能はざれども

第八基節を除くの外、他の關節には頂端に小孔を有し、曲管狀をなせる齒狀躰の殆ど二百個を有せり脈翅目中のクサカゲロウ類に於ては、甚はだ長き感覺粗毛及び小さき蒼白透明の齒狀躰を有するのみにして、嗅孔を有することなし。双翅目中家蠅科に於ては悉ごとく觸角の第三關節に存し、其數は種によりて異れり、例へばミカドヤドリバイの類は二百を有すれども、或種は唯一個を有せるのみ。双翅目中の虻科、食蟲虻科、長吻蠅科、長脚蠅科、水蠅科、蚊科等の各種に簡單なる嗅孔を有すれども、他科に於ては重複の嗅孔を有することありて、二乃至十個の末梢神經を受容せり。蠅類の觸角の嗅孔はキチン質の表皮の囊狀陷凹によりて成り、蚊類の嗅孔は薄きキチン質膜を以て圍繞せられ、粗毛を以て掩はるゝことなく、其外觀赤脚蝗及び膜翅目の嗅孔に似たり。鱗翅目の嗅孔は、蠅の嗅孔に類せり、蛾につきては未だ試驗を經ざれども、其感覺孔は嗅覺を主るものなること殆んど疑ふ可からざるなり。鞘翅目中の天牛科、象鼻蟲科、金花蟲科等にては、通常唯感覺粗毛を見るのみにして、明らかに嗅孔を見るべきはシルハー類、クロシデムシ類、ルリハナカクシ類、ゴミムシダマシの類あり、甚はだ著しき嗅孔を有せるは、コフキコガ子の一種の觸角葉にして、各觸角に雄は三万九千個、雌は三万五千の大數を有せり、而してヲサムシの一種は小腮鬚に於て甚はだ小さき齒狀躰の多數を以て圍繞せられたる微細の白盤を有せり。膜翅目中のモンクマバチに於ては、觸角の各關節に於て嗅孔及び齒狀躰を散布し、千三百乃至千四百の

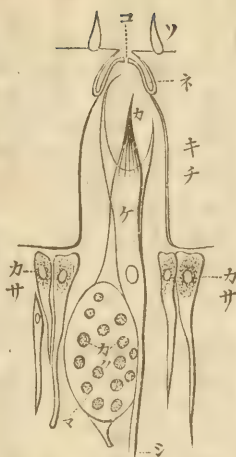
馬蠅の觸角に於ける嗅孔（ハウゼル氏原圖）

井　圍孔厚皮
キチ　キチン質皮膜
キコ　嗅孔
カ　感覺針＝嗅針
テ　嗅孔底
　　嗅針之を貫く
マ　末梢神經細胞
ツ　粗毛
カク　細胞核

ア　イノ一　イノ二

アノフタラムス屬の嗅官（齒狀觖）二種（ハウゼル氏原圖）

嗅孔と、六十の齒狀觖と、殆ど七十の感覺毛とを存しその末節に於ては一層多くして二百以上の齒狀觖を有せり、然れば各觸角ニ付一万三千乃至一万四千の嗅孔と、殆んど七百の齒狀觖とを有する譯合なり。その細き裂口狀の嗅孔を有するものは、クマバチ類の全部と姫蜂科、小繭蜂科及び沒食子蜂科の多數にして、蜜蜂類及びマル蜂類の嗅孔は圓狀をなし、鋸蜂科は唯齒狀觖のみを有して嗅孔を有せず、キバチ屬は各觸角の第九末節の下面に於て、モンクマバチの有せるが如き二百乃至三百の小さき齒狀觖の一群を有せり。

コ　ソ　ネ　カ　キチ　ケ　カサ　カサ　カク　マ　シ

モンクマバチの嗅孔截斷（ハウゼル氏原圖）

コ　嗅孔口
ソ　粗毛
オ　凹入腔
カ　感覺針
キチ　キチン質皮膜
ケ　皮膜形成細胞
カサ　下皮細胞
マ　末梢神經細胞
カク　細胞核
シ　神經纖維

以上述ぶる所ろによりて昆蟲は視覺、嗅覺の兩器を具ふるものたることを知らば彼が香を尋ね色に誘はれて自から花ニ來り其嗜なむ處ろの蜜を吸ふと共に知らず知らず花粉を甲の花より、乙の花に運ぶこと固より其理なり。然れども昆蟲と花との關係は、然かく簡單なるものにあらず、花は時ニ花粉の一部を以て昆蟲の食ニ供することあり、又產卵の爲に其場所を貸與することあり、或ひは昆蟲に隱れ場を給することあり、或ひは營巣ニ便ならしむることある等、到底一朝一夕に說き盡すべきにあらず。故ニ此等は他日ニ讓り、本編は此章を以て假に一段を結ばんとす、幸ひに昆蟲と植物との關係の緒論を畢りたるものと諒察せられん事を庶幾ふ。（完）

◎作物被害原因驅除法索引（其六）

農商務省農事試驗場技師農學士　小貫信太郎

第五十六條（第五十五條第二項）

樹幹に注意すべし、鐵砲蟲を存せん、兆候は穴若くは穴の外に糞を排出するにあり、尙ほ小枝等を注視すべし。

一、鐵砲蟲を存する時には、其原因あり、針線を突込て蟲を殺すか、或ひは除蟲菊液等を注射すべし、豫防には石鹼劑或ひは毒液を以て樹幹に塗るにあり。

二、鐵砲蟲を存せざる時。（第五十七條を見よ）

第五十七條（第五十六條第二項）

一、樹幹の片側枯死することあり、この現象は屢次老樹に於て見る所ろにして、此くの如く片側乾燥する時は、遂に全樹の乾燥を促がして枯死せしむるなり、この場合には拔捨つべし。

二、若し根に節を生ずること數多ければ、全樹の不健康を來たすことあり、此原因は種々あれども能く判別し難し、驅除法なし、枯れたる木の跡に直ちに同種の樹木を植う可からず。

第五十八條（第一條第三項）

一、被害部の近く根邊に存する時。（第五十九條を見よ）

二、綠色部の加害せられたる時。（第六十一條を見よ）

第五十九條（第五十八條第一項）

一、蟲に脚を存せざる時は、根蛆の一種の被害なり、完全なる驅除法なし、然れども被害は盖し徵小なるべし、一時作物の栽培を中止するを善しとす。

二、蟲に六脚を有する時。（第六十條を見よ）

三、蟲に六脚以上を有する時は、夜盜蟲に屬する根切蟲の害なり、被害植物の幹の周圍に紙を捲きて保護すべし、同時に蟲を殺し、又毒を塗りたる植物を置きて之を誘殺すべし。

第六十條（第五十九條第二項）

一、害蟲もし蟻のごとき時。（第九條を見よ）
二、若し然らざる時。（第十一條を見よ）

第六十一條

一、若し葉に斑點を生ぜし時。（第四十二條を見よ）
二、作物の內部を蝕なはれたる時。（第六十二條を見よ）
三、作物の外部を蝕なはれたる時。（第五十一條及び第六十三條を見よ）
四、蝕害せざる蟲類の害によれる時。（第四十一條を見よ）

第六十二條（第六十一條第二項）

一、蟲もし六脚以上を有する時は、鱗翅類の幼蟲なり、植物の內部に伏在するを以て、手にて捕ふるより外良法なし
二、六脚若くはその以下なる時は、甲蟲類の幼蟲なり、驅除法なし、但しこの害なる時は、樹木の全躰を損する如きことは稀なり。

第六十三條（第六十一條第四項）

一、蟲もし六脚以上を有する時は、鱗翅類の幼蟲なり花園に於ては手にて捕ふるを良とす、但し若し場合あらばロンドンパープル又はパリスグリーンの一匙を全桶水中に投じて、之を噴霧器にて撒布すべし。
二、蟲もし六脚を有する時。（第六十四條を見よ）

第六十四條（第六十三條第二項）

一、蝗蟲なれば、捕蟲網を以て捕ふべし、或ひは亞砒酸を混じたる糠を以て、之を誘殺するも亦可なり。
二、蝗蟲にあらずして甲蟲なり、斯かる場合には、第六十三條と同樣の手續を以て驅除することを得。

（大尾）

◎冬季の昆蟲採集と蟲癭（第十二版圖參看）

名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

冬季に昆蟲を採集せば、斯學に利する所ろ特に尠少にあらざるを見る、蓋し之が爲めに農作上より益蟲害蟲と稱すべき種類は勿論、他の春夏秋三季間に蕃殖を逞うせる無數の蟲類が、一朝寒氣の襲來することあれば其片影だも留めざるを、世人の大半が恰かも死滅せるが如く誤解し來れるも、實は一時その種族の生存に好適の隱處に潛蟄し、斯くて明春復た出て丶化育を遂ぐるの準備をなすに止まるの理を明らかに知らしむればなり。故に此方法にして十分に研究を積むに至らば、農作上に稗益する事の多かるべきは想像の外に出づべく、又隨うて一般昆蟲學上に開發の功を與ふること多からんと信ず、是れ當昆蟲研究所に於て夙に冬季の昆蟲採集を慫慂する所以なり。

讀者の既に知らる丶が如く、吾が岐阜縣に於ては明年二月を期し、この冬季に採集せる昆蟲の展覽會を開設するの議に決し、目下各地に於て盛んに在學の兒女を奬勵し、其學業の餘暇を以て之が採集及び標本の製作に從事せしむ、而してその內情を漏聞くに、或地方の如きは稻の害蟲の群居潛伏せるを發き、或地方に於ては桑樹及び蔬菜の害蟲の草間石下より出現せるを實見し、爲めに從來蟲類の一時休眠期を目して死滅と誤信せる頑陋輩をして、全たくその謬見たりし事を悟了せしめたりと、豈にこれ斯學普及の上に一進歩を致せるものにあらすとせんや。

然れども是は普通の採集に於ける一得たるに過ぎず、更に眼を轉じて他の方面を見れば、其以上の程度に於てまた採集すべき餘地の多々存するものあるを知る。例へば植物の葉上、枝梢に圓球形若くは毬蘽状をなせるもの、或ひは綿絮樣をなせるもの、或ひは子實狀をなせるもの丶如き、又或ひは枝條の中央膨起して一種異形の瘤癭をなせるもの丶如きは、常時人の視て以て奇とせざる所ろなるも、之に剖檢を

加ふれば中には小蛆の棲息するものありて蠢々その生育をはかり居るを見ん。是れすなはち前陳各種の瘤癭を作爲せる寄居蟲の幼期にして、其外觀は或ひは淡白色をなすあり、或ひは灰白色をなすもありて決して一樣にあらず、隨うて瘤癭に於ける形狀も其樹種により、其寄生蟲の如何によりて各々異なれりと雖ども昆蟲學上に於ては都てこの種の變形物をば蟲癭と稱す。

試ろみにこの蟲癭の種類を聚め來りて飼育をなす時は、或ひは膜翅目の沒食子蜂となるあり、或ひは鱗翅目の硝子蛾類となるあり、或ひは双翅目の蠅類となるあり、又或ひは有吻目の蚜蟲となるあり、鞘翅目のものに羽化するもありて、千態萬狀快味の特に濃やかなるを覺り得べし、乃はち本誌卷頭に掲げたる第十二版圖は現今樹林の間に於て、容易に採集し得べき種類の一部を示せるものにて、余が知る所ろのみにても凡そ百種に餘りぬべし、加之も各地に於て新種を發見せらるゝもの一二に止まらず、以てその多種多類の一斑を知る可きなり。それ斯く研究の料に資すべきもの到るところに之あり、また其材料に貴とぶべきの價値ありとすれば、是より少しく此種の採集に努め斯學促進の一助に供せられんことを敢て吾が讀者に望む、そは蟲癭の異形なるは忽まちに人目を惹き、毎に採集に最とも容易なるのみか、本邦に於ては未ざ之が精密の調査をなさゞれば、將來極めて有益の發見ありと信ずればなり。尙ほこれが成蟲の形狀、色彩等に至りては、陽春永日の候を期して、重ねて讀者に紹介する所ろあらんとす、故に今はたゞ其が大要を記述するのみ。

說明　第一圖は蚊母樹の葉面に生ずるものにてイスアブラムシの作れるもの。第二圖は山林中にあるソヨゴの枝に生ずる双翅目のもの。第三圖は櫟の枝に生ずる膜翅目イガバチの作れるもの。第四圖は艾の葉裏に生ずる双翅目のもの。第五圖は樫の葉裏に生ずる膜翅目のもの。第六圖及び第十一圖は

共に柳の枝に生ずる双翅目のもの。第七圖は櫟の葉表に生ずる膜翅目クノギノタマバチ。第八圖は柳枝に生ずる双翅目のテマリバヘ。第九圖は艾の莖に生ずる双翅目のヨモギノワタバヘ。第十圖は女青の蔓に生ずる鱗翅目のタマスカシバ。第十二圖は柞木の枝ゝ生ずる双翅目のツゲノタマバヘとす。

◎小貫氏の螟蟲驅除方針論を讀む（續）　茨城縣水戶　霞湖漁隱

吾儕は已ゝ小貫氏の議論の大體に對してすら、なほ飽足らぬ意見を有する者なるゝ、今や進んでそが細目に入る、如何で之が判斷に惑はずして已むべき。看よ、氏は誘蛾燈の得失ゝ就き、其奏功の微弱なる旨を前提ゝ置き乍ら、何時しか筆を有耶無耶の裏ゝ濁したるに非ずや。採卵法排斥の記事ゝは、之が用途の狹さを誣證せんが爲めに、獨春時秧田に於てのみ施行するが如く曲解して、一も本田に於ける成績を示さゞるゝ非ずや。刈株法の利を說くや、之を統計と實際とゝ徵せざるは勿論、肯て一辭の枯穗死莖の處分ゝ言及ばざるに非ずや。剩つさへ、中川久知氏の調査に係る、學術試驗成績を借來りて、熱殺法の有効を呼號する瞬間ゝ、反轉忽ち刈株と熱殺とは、兩つながら實行に煩累多しと難じたるに非ずや。最後に藁稈密藏法を拉し來りて、宛然これを自家創見の新說の如くに粉飾敷衍し、また他に其右に出づべき良法なしと斷ぜられたるも、這は是れ遠く二十年前ゝ、農務局が全國ゝ公布して、遂ひに不可行聲裏ゝ葬むられたる、一の迂策たるに非ずや。もし此等をしも、學術上の說明方法、驅除上の新方針と稱し得べくんば、古往今來、世間に傳はれる陳說腐談、將た一として金科玉條たらざるもの無けん。特ゝ往々圓轉滑脫の文字を弄して、要旨眼目を朦朧冥晦の間に隱し、覽者をして殆んど形影を捕捉し得ざらしむるゝ至りては、それ豈に責任を重んずる者の爲す所ろなりとせんや。

之を既往の統計に照すに、本邦の水田は四十餘府縣を通じて、各々六萬町歩に近く、中に大縣と稱するものに至りては、八萬乃至十七萬町歩を包轄するに、小貫氏は如何にして、此かる廣袤の地域より收得の藁稈を、悉ごとく熱殺せしめんとするか、又如何にして、能く此かる無量數の副産物を、何處に密藏せしめんとするか、氏が論據の牢固ならざるは、「此一事以て全般を忖度するに難からざるなり。然は云へ、彼の中國より九州に渉り、民生衆くして田園足らざるの地方にありては、耕耨に收藏に、頗ぶる丁寧を盡し、多利多穫の前には、敢て多費多勞を避けざるが如き風習を存すれば、或ひは萬に一戸これを行なひ得べけんも、一たび北陸道の如き曠沃無邊の農産地、さなくば吾が茨城縣の北方より、奧東に連亘する人烟稀疎の新開地に至る時は、貧富平等に算して、各農家が負擔する所ろ實に一町歩に餘り、其收穫時期は、概むね十月中旬を限度となせり、しかも其得る所ろの藁稈は、到底翌春までに使用し盡すこと能はざるのみか、狹隘なる屋舍內には、その什が二三をも收容し得べきにあらず。其他東海道、四國、關東等と雖ども、農産地の實情は、また粗ぼ之と同じきに、日夕中央試驗場に往返して、恒に農政に與かる小貫氏が、螟蟲驅除新方針てふ好題下に、その不可行說をも顧りみず、得々到る處ろに之が演述を試ろみ、毫も自から異とするの色なきは何ぞや。

顧ふに、一時の好奇にもあれ、誤解にもあれ、已に冠ふらすに方針の二字を以てす、須らく眼界を濶大にし、其全局の成敗と利害とに鑑がみて、最とも公正適實の方策に頼らしめざる可からず、否らざれば暗夜の北斗、霧海の南鍼たるの實、安くにかある。啻り害蟲驅除の方針に於てのみ、然るにあらず、凡る民を導びき農を治むるの要訣は、恒に此一途を貫くにあるのみ。然るを小貫氏の無邪意なる、實地に行ない得べからざる美術的農業の一片、若くは火奴函裏試驗に適當なる、未成の理論を基礎として、漫

然これを窮餘敗後の農家ゝ誨ふ、宜なるかな、其旨美なるゝ似て、而して其術の到る處ろゝ擯ぞけらるゝや。吾儕嘗て、某農事試驗場の成績報告を得たり、中ゝ大麥播種の距離は、尺八寸を適度とすとの確定記事あるを悦こび、乃はち吾が管理の圃場に試るむるに、其短距離なるは、會々以て、耕耘、肥培ゝ多大の不便を來たすゝ止まるを悟り、爾後專はら二尺二三寸畦に復するとゝもに、此失敗ゝよりて、小區試驗成績は、直ちに取りて之を廣面積の圃地に、移し難き事實を自得せることありき。偏へに疑ふ、氏が所説また尺八畦と同一の原因ゝ出でしゝはあらざるなきやを。

今一歩を讓りて、枉て氏が新方針を是認せんにも、本邦農民の大半は、稻架用竹木の設備をすら、難しとする貧農輩なるゝ、囊中果して、藁稈密藏舍を修造するの餘財を蓄ふるゝ堪へ得べきか。面のあたり利益多き黴菌の豫防、種子の選別をすら、實行するゝ吝さかなる懶農輩は、日常貴重せざる藁稈ゝ對つて、能く高熱を加ふるの必要を感じ得べきか。法令の雨下するゝ非ざれば、起てその害蟲驅除に從事せざる疎農輩は、自から進んで、無制裁の刈株法ゝ精勵するの勇氣を發すべきか。萎縮桑樹の豫防に、枝條の再伐をすら、煩ひに堪へずと囁やく惰農輩は、容易く氏が机上の推理に動かされて、被害藁稈の處分に、其手を下すべきか。今なは螟蟲即はち豐年蟲との誤信を懷ける頑農輩は、深く化蛹發蛾を介意して、之が散逸を防止するに忠實なるべきか。斯く數へ來れば、氏が所謂、根本的驅除の新方針なるものゝ價値を料るゝ難からざるべし、則はち眞正の農業地には採擇し能はざる、不經濟的の一方法に外ならざるも、强て之を實施せるの餘地を索めなば、唯それ學術試驗を事とする挙大の農場に止まるべく、而してその全國に普及の期の如きは、恐らくは他年、國帑充溢の時ゝあらんかな

今更ためて上記の要旨を綜ぶれば、害蟲の驅除は、農事の改良を完成せしむべき一方にして、農事の改

良は、害蟲の驅除を促進せしむるの階除なるが故に、此道理に遵うて驅除豫防の方針をも把らざる可からず、而して害蟲の生涯は、恰かも環の緒なく端なきに等しければ、之が驅除を完全ならしめんには、固より多方面より研究せざる可からざるも、就中實行に輕易に、奏効の確實なるものを擇ぶに非ざれば到底普及を期し難し、故に舊來の諸方法を勵行するを以て最とも利便となす、之に反して小貫氏が主張の如く、煩累、勞費極めて多き、不適實に且つ不經濟なる方法手段は、斷じて之を不可とするにあり。

吾儕はもと敢て氏に恩怨ある者にあらず、また敢て氏を擒縱せりとて、左まで榮譽と思ふ者にも非ざれば、好んで苦言を呈するの要なきに似たるも、現時わが農家の摸表たる、中央試驗場創設以來の驅除方針を準繩とし、これに依りて農家の慶福を增進せんとするに際り、氏が躬其責を分擔すべき任にあり乍ら、徒づらに表裏乖離の華言浮說を唱道して、同場の威信を失墜し、延て一般農民を害ふの行爲あるを想はゞ勢ひ眼中に其人を置くこと能はざる可し。蓋し公益のためには私事を曲ぐ可からざればなり。

終りに臨み、なほ小貫氏の意見を確かめんが爲めに、左に疑問數點を指摘せり、冀くは丞やかに『昆蟲世界』誌上に於て、詳確の應答を煩はさん。

（一）春夏の豫防驅除を重視せずんば、必らずや春秋約半年間は、螟蟲の增加を見ん、何が故に、この重要時期に螟蟲を飼育（？）して暴蝕を逞ふせしめざる可からざるか。
（二）秋季より翌春の間に三法を行ふの賜として、多少害蟲を驅殺し得べきも、春秋間の被害は、何によりて之を補償し得べきか。
（三）春夏の驅除と、秋冬の驅除と、實際經濟上の損益及び驅除上の難易を比較せば、其結果は如何。
（四）秋冬驅除の三法と、眞に害蟲を根絕せしむるに足れりとせんも、弘く之を普及するの方策は如何。
（五）秋冬驅除の三法中、熱殺と密藏とは、嘗て何地の大農場に於て、如何なる成績を擧げし事ありしか。
（六）秋冬驅除の三法は、農政の原理、農業の目的、經濟の原則に一致し、及び本邦農家の現狀に適合するか。
（七）誘殺、採卵其他慣行の諸方法は、貴說の如く果して効驗薄弱ならんには、中央試驗場は何が故に、速かに之を公示して農家の利益を保護せざる、又何が故に、所謂方針を變へて、秋冬驅除三法の有効なるを普知せしめざるか、其理由は如何。

此等の質疑に對しては、氏が職責上よりも屑よく解決を與へられ、德義上よりは全たく城府を撤退して同感者の迷ひを一掃せられんことを望む。もし夫れ不幸にして、或ひは口を服務の規律に藉りて、言を左右に托するが如き、或ひは攻難論駁の煩を避けんが爲めに、塗糊彌縫に努むるが如き、女敷擧動に出づることあらんか、二たびも三たびも、本誌の餘白を借りて、その眞意を追窮するに躊躇せざる可し。是れ他なし、螟蟲の加害を以て、農産力を減殺すべき主因となすの極意ハ、彼我正しく相一致するが故に、共に之に對する方法手段を尋究探討するは、國家に答ふべき當然の義務に屬するのみならず、眞理は研磨砥礪の功によりて、始めて光彩を發現するものなる事を知ればなり。

（完）

◎蛆害豫防の一法

在農商務省京都蠶業講習所　荒木武雄

桑樹を疎らに植ゑ付け空氣の流通を圖るときは大に蛆害を防ぐことを得べしと云ふものあり、然れとも予輩は全然之れに同意すること能はす、成る程河邊若くは海岸にして、常に風通し宜しき地方ならば、この地形を利用して桑樹を成へく疎植にし、益々風通しを宜しくするときは永遠蛆害を免るべしと雖も元來風通し惡しき土地にありては、如何に疎らに植付たればとて、到底蛆害を防ぐと能はさるべし。予輩は曾て桑樹の上部中部及ひ下部に位ゐする桑葉に對し、蛆蠅は其何れの部分に最とも多く産卵するものなるやを調査したることあり、左に其成蹟を掲けんに。

區別	一株葉數	同上中蛆卵産着葉數	同上蛆卵數	備考
上部	一一九	一二	三九	
中部	一〇五	一五	二〇	
下部	二五	四	五	本表ノ調査ハ
總數	二四九	三一	六四	六月六日ナリ

右は桑樹一株に就きて調査したるものにして、其上中下部とは一株の長さを測り、之れを三分して、其

上に位ゐする部分を上部とし、中に位ゐする部分を中部とし、下に位ゐする部分を下部としたるものなり、而して該表に據れば、蛆蠅は桑樹の下部に位ゐする桑葉に産卵すること少なきが如し、尙ほ桑樹十株に就きて、蛆卵の産着葉數及ひ卵數を調査したるものを掲くれば左表の如し。

區別	蛆卵産着葉數	同上蛆卵數	區別	蛆卵産着葉數	同上蛆卵數	備考
上部	一〇二	一六四	下部	一三	一五	本表ノ調査ハ六月六日ナリ
中部	一一一	一四五	總數	二二六	三二四	

右表に據れば、一葉に對する蛆卵數は上部に最とも多く、下部に最とも少なきを見るべし。次に桑樹一本に就き一葉面を三分して、先端中央及ひ基部とし、其何れの部分に蛆卵最とも多きやを調査せしに。

區別	蛆卵産着葉數	同上蛆卵數	區別	蛆卵産着葉數	同上蛆卵數	備考
先端	一一	二〇	基部	七	七	本表ノ調査ハ六月六日ナリ
中央	一三	三七	總數	三一	六四	

右表の如き結果を得たるを以て一葉中中央部には蛆卵最とも多く、基部には最とも少なきを證明せり。

以上調査の成蹟に據れば、蛆蠅の産卵する桑葉は、外部に現出したるものに多く、內部に隱れたるものに少なしと謂はさるを得ず、この故に蛆害甚だしき地方の桑園は成べく密かに植ゑ付け(一)蠶種製造家にありては、其桑園の周圍及ひ桑樹の上部に位ゐする桑葉をば之を製絲用的蠶兒に給し、而して其他のものを製種用的蠶兒に食せしむべく(二)養蠶家にありては桑園の周圍及ひ桑樹の上部に位する桑葉を蠶兒の五齡半ば以後に於て食せしめ、而して其以前にありては內部即はち、外面に現出せさる桑葉を給すべし。しかすれば、蠶種製造家は蠅蛆の爲め種繭を害せらるゝこと少なく、養蠶家は假ひ蠶兒の蠅蛆の寄生を受くと雖も、其害の甚しからざる以前、既に麗美の繭を結ひて經濟上損失極て少かるべしと信ず。

◎第十回全國害蟲驅除講習生五分間演説

左に收錄せしは、去月十六日より同二十九日まで二週間、當昆蟲研究所内に開きたる第十回全國害蟲驅除講習生が、例により五分時演説を試ろみし筆記なり、他に着想の奇警斬新なるもの多かれど、こゝには命題の可にして、其旨意の着實さ認むべきもの四篇を登載するに止めぬ、讀者その心して覽られよ。　（編者記す）

（一）宮崎縣に於ける農作害蟲の種類

宮崎縣　竹井繁滿

吾が宮崎縣に於ては、稻田にクロクサガメが發生致しますと、昔から誰が敎へたと云ふ事なく、是れ驅除すべき害蟲だと云ひまして、農家は直ちに驅除を致します、該蟲の特性として朝露のある間若くは雨天の時には、稻葉の尖端に這上りて居りますから、斯ういふ時に農民は手に々竹筒を持て田圃に參り、捉へては入れ捉へては入れ、歸宅の後に熱湯で以て殺すのであります、併し乍ら所謂單獨驅除でありまして、共同的ではありませんから効能が少ないのである、そこで共同驅除の必要を感じ曾て村會で公費の支出を決議して買收法をやッた事がありました處が、農家は悦おび勇んで驅除に從事致しまして害蟲を大部減少させました、が慢心を生じまして又々舊の單獨驅除に復へり、昨年の如きは非常に發生したる爲め不少の害をうけましたのである、懸賞的驅除法は誠とにその施行に注意致しませんと後に至り餘程の影響を來たします。次は例の浮塵子でありますが、昨年は大害をうけましたから、本年は七月初めより、各郡に害蟲驅除豫防巡視員を置きまして、之が驅除を勵行させました、併し本田に於ける驅除でありましたから、當時は浮塵子の親も子も非常に蕃殖をして居りまして、早や容易に族滅が出來ませんであッた、それを係員は强ゐて注油驅除を致させましたから、農家の煩勞は勿論、石油とても到底五六合では効能が無くあッたので、益々損害を重ねた次第であります、それで私は深く此蟲の習性經過を研究して、經濟の原則に適ふやうに驅除せんければ、農家は益々貧弱に陷いる事と信ぢます。尙は螟蟲の害も甚はだしい處もありますが、最早五分時の制限が參りますから、先づこの位ゐにして置きます。

（二）害蟲と國家經濟との關係

岩手縣　島　善平

私は岩手縣の者であります、岩手縣と云へば東北の北部であるし、又氣候の寒い土地であるから、諸君は定めて害蟲も少ないと思ふだらうが、決して左樣ではありませぬ、螟蟲でも浮塵子でも其他多數の害蟲が到處に居りまして、恒に農業家と戰かひ何時でも連戰連勝で、害蟲の得意時代である、特に去る明治三十年の如きは浮塵子の大發生がありまして、收穫皆無と云ふ憐れ墓なき有樣に陷いり、農民は野に山に蕨の根を堀取りまして之を三食に充てました。是は過去に於ける米作の害蟲の一例であるが、現今尤ともその害の甚はだしきを感ずるものは、苹果の綿蚜であります、御承知の如く苹果は東北地方の特產物であッて、吾が岩手縣の如きも縣下到處に栽培を試ろみ、多きは五六町歩、少なきも四五本を戶每に植付て置きます、偖其收益はと云へば手入の善惡種類の如何によりて差等はありますが、先づ植付後八九年のものでありますと、一反步から百二三十圓は上ります、又その年の豐凶にもよりますけれど、一顆の價は五厘より二錢の間であッて、十二三年もたちました老木であると、一本から千顆乃至二千顆の收穫がありますから、東北地方に取ッては一の收入財產である、然るに岩手縣の果樹園の七八分は皆既に綿蚜の害に罹り、其他青森縣に山形縣にまた同樣の有樣である、しかも一たび此害蟲に罹る時は、最早成木成實の見込が無いとして伐採するのであるから、其損害は非常であります、若しこの蟲の驅除が完全に行届いた日には、東北地方で計りでも年に幾百萬圓に成るか其利益を勘定する事が出來ぬ、即はちこれ丈け國家の收入が增すのであるから、之を言換れば國家經濟上の利益を來たすのである、國家の上より云へば東北も西南も無いから、國力國富增殖と云ふ點から是非に昆蟲學思想を養成して、此等の災害を除くことが焦眉の急務であると信じます。

（三）農家は頑として蟲害は慘なり

滋賀縣　伊夫伎孫次郎

吾が滋賀縣は一般に溫濕りの度に合ひ、蟲類の生育に宜しき處から、私の住村なぞでも養蠶を以て農家の副産と致して居ります。去れば他の害蟲の蕃殖も頗ぶる多うありまして、去る明治三十年の如きは五十二万二百二十七農民に對し、七十万九百七十餘圓の損害を與へられ、或る方面では一村なほ二萬圓以上の損害となりました、是と云ふも畢竟、浮塵子といふ一小蟲の稻に發生したる爲めで、且加ふるに螟蟲の加害は年每に殖えまする有樣である、そこで縣令やら告示やらを發布して頻りに之が驅除豫防を奬勵されますが、幾ら縣廳から注意されましても、特別の大被害が有りませなんだ地方では、一向平氣な

もので、是は天災である人力の左右し得べからざるものであると申して、その儘に放任して置きます、が一朝慘害をうけますと周章狼狽徒づらに神佛の冥護に祈り、或ひは蟲送りを舉行して老幼擧げて田圃の間に狂呼喧囂を事とするのである。それ何時までも斯かる舊態を墨守して居りまして、万一にも收穫皆無の曉には一縣下は勿論、國家の消長にも至大の關係を及ぼすのである、左りとて今更此かる頑迷の農民を感化する譯にも參らんが、又全たく之を打捨てゝ置く譯にも行かんから、矢張り直間接に啓誘して昆蟲學思想を皷吹するより外に良策が無いのである、それには先づ驅除豫防法なり、益蟲保護法なりを敎へ徐々に思想の發達を待つのであるが、其思想を堅實にして根本より改良をするには昆蟲學大意を注入するより捷徑が無いと信ずる、但此等につきては未ざ經驗のない者であるから、此目的を達し又講習會員たるの實を擧ぐるに足れる責務を盡さんが爲めには、將來如何なる方針に出づべきかと日夜苦心を重ねて居ります、啻り私が苦心する計りでは無くまた滿堂の考慮すべき事柄と考へる、私は速やかに此目的を達し、一は國家のため一は名和先生敎授の鴻恩に答へたひと望むのである、恐らくは各位も同一の意見を持たるゝ事と信じます。

（四）稻の螟蟲と移殖の源因

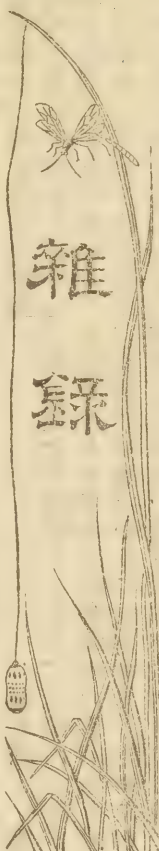
福井縣　倉谷力藏

私の鄕里は細筵の產地でありますから、特に藁を重愛致しまして、土地の瘠せるをも顧りみず、稻苅の時には土際から低刈をするのである、左樣でありますから假令螟蟲の害がありましても、翌年の四月頃までには細筵のために處分されまして、其殘類が無いやうに成ります、此がためか從來浮塵子の害はありましても螟蟲の害は無いと老人などが話して居る。然るに本年は如何のものか、第一回發生期の當時から害が多うありまして打捨て置く事が出來ませんから、村役場と農會とが連絡をつけ、螟卵蛾の買收規程と云ふものを設け、地方民を誘導して採取に從事させました、則はち螟卵は一塊に付金貳錢、螟蛾は一頭に付金五厘と云ふことに致し實行は致しましたが、何分受買營業でありますから、與齒に物が挾まりました樣で安心がならず、遂に私は去る七月……第八回全國害蟲驅除講習會開會の當時、當昆蟲研究所へ參りまして、彼の螟卵と之に類似のものとの鑑定を願ひ併せて敎示を仰ぎ、其御蔭で心を落付て驅除に從事致したのでありますが、是と申すも畢竟名和先生の垂敎の賜ものである。尙ほ名和先生は螟蟲驅除の講演中に螟蛾は火光燈影を慕ふもの故、船車によりても各地に傳播するの憂ひがあると斷せふれましたが、如何にも左樣で、その七月に歸縣の折、夜瀛車に乘りました處が停車中に何處よりか螟蛾

の飛來るもの多く、毎驛みな箇樣の有樣であッて、或ひは窓外に飛去り或ひは風の爲めに室隅に吹附られるなど、一去一來實に頻繁でありました、是は氣を附けん間は左樣にも眼に入ふんでありましたが、一たび先生の高論をうけまして、能く〳〵注意致して見ますると此かる次第であるので、私の縣の如きも鐵路開通以來年々何方からか移殖せしを知らずに居ッて、それが今年に至り著るしく發生を遂げたものではあるまいかと考ひ及ぼしました、これに付きましても一般に斯學思想の普及を圖り相共同して害蟲を驅除するやうに進まん間は、到底安全とは申されんと實際上から深く感じたのであります。

夜蟲　このごろは夜ながくなりて鳴く蟲の聲にねさめぬあかつきもなし。（植松有經）

雜錄

◎昆蟲舊紀錄

第六回全國害蟲驅除講習修業生　愛媛縣　田村晴太郎

寒鴉枯木に啼て朔風窓に樂を奏す、一日祖父を其小庵に訪ふ、机邊に「華實年浪草」といふ書あり、採て讀みもて行く中に昆蟲に關する記事少なからず、乃ち古人が昆蟲に對する思想の跡を尋ぬるも亦興味なきに非ずと其二三を摘み投じて諸氏の一閲を請ふといふ。

○蜂　和名ハチはハリサシ刺螫あり、シとチと通ず、中を略すなり（和訓義解）。万葉に「こしぼそのすがるをとめのそのかほの」云々、スガルハ蜂なり、細腰ある蟲なり、女の腰のたをやかなる故にいふあり（雜談抄）。蜂をスガルといふ說、之を用ゐず、鹿を以て正說となす、考ふべし云々（八雲御抄）。

○蛬及竈馬　竈馬形促織の如し、俗にいふ竈に馬あれば食に足るの兆（酉陽雜俎）。世俗にキリ〴〵スは「ツヽレサセ、カラハヒロハン」と鳴くといふ、カラハとはさぬ布のやれて何にもすべくもなきをいふ云々、其外の說皆ツヽリサセてふをキリ〴〵スとす、殊に八雲御抄にも蟋蟀任壁中、又筆化爲之、秋風の吹きくるたびに啼といへり云々、されば世俗に云ふコウロギは眞のキリ〴〵スにて世俗にいふキリギリスは誤なり、是はハタオリなるべきか（藻塩草）。

○蜻蛉　雄略天皇四年、八月辛卯、行幸吉野宮、幸河上小野、命虞人驅獸、欲躬射而待、虻疾飛來、嗜天皇臂、於是、蜻蛉忽然飛來、齧虻將去、天皇喜厥有心(中畧)因讃蜻蛉、名此地、爲蜻蛉野(日本紀)。

○鼓蟲　圓く扁き黑き蟲、豆ほどあり、水上に浮き旋りて止らず、筑紫にてカイモチカキ、江東の俗ゴマイリといふ、按ずるに是れ獨樂まはしの訛言なり、脊純黑にして腹は淡赤し、關東にて水スマシ又サウトメといふ是なり(わくかわせ)。

○蚤、蠅、蟬　蚤は赤色、肥たる身小さき首、六足能く跳ぶ、夏日人家の濕熱の氣より生じて自から牝牡有り(和漢三才圖繪)。蠅はハヘ、ハイ相通ず、此者灰より化する故の名也(和訓義解)。蟬は兩翼、啄長して腋下に在り或は以爲らく口無し、脇を以て鳴ものなり、種類多し(格物論)。

○蝶　孟春は見へぬものにて「藻塩草」にも一生梅花に近づくことを得ずといふ詩あり、されども夫木集に左の一首あり。

　尋ね來るはかなき羽にも匂ふらん軒端の梅の花の初蝶。(定家)

○撰蟲　賀茂籠とて蟲入れ侍るは、いかなるゆへに賀茂より出侍るにや、答これは殿上の逍遙とぞ、むかし殿上人とものの嵯峨野などへむかひて、蟲を籠にゑらび入て君に奉りしは、堀川院の御時よりぞ始りける、むしゑらびとも申なり、むかしは賀茂の社司などに仰られて、鈴蟲、松蟲などをめされけるよし、故禪閤の仰られしとかや、さればむかしは賀茂よりいで侍るとおもひあはされ侍る(世諺問答)。

○鈴蟲籠　下賀茂社司婦人松蟲鈴蟲を養ふの籠を造る、其式纖細に竹を刳りて籠となし、內に一小筒を安ど、土を盛り苔を敷き露草少許を種ふ、倭俗に所謂露草は則ち鴨跖草なり、而して紫白の絲を以て藤花の形を作り、籠の上より下に垂る、其體觀に供するに堪たり、秋に到て蟲を入れ、檐下或は簾外に掛け、晝は之を見て目を悅ばしめ、夜は之を聽て耳を娛しむ(雍州府志)。

○蟲送　年に依て田蝗害をなす時、民人鐘鼓を撃野外に送る、これを蟲送といふ、凡旱歲に五穀の枯れ萎むを燒るといふ、茄の根の枯るを舞といふ、瓜の蔓の枯るを上るといふ、是民間の詞也(紀事)。

編者いふ、原稿にはこの他なほ多くの記事ありて、諸書を旁搜引證せられしかど、思ふ旨あれば本艸綱目、三才圖繪等の如き博物書より抄出のものは、割愛これを省略に附せり、讀者これを諒せよ。

◎蟲界雜記（第五）

第七回全國害蟲驅除講習修業生　千葉縣　齊藤啓二

(十)葉捲象蟲の產卵に就て　昆蟲類の產卵する方法は種々樣々にして、之を研究するは頗る興味のあ

るとなるが、今余が茲に記せんとする葉捲象蟲の產卵法の如きも亦其一なり、從來余の實驗したるものは僅に三種に過ぎざるも、而も各種皆多少の異なる點ありて、比較硏究上面白ければ左に記述すべし、但し斯の種類は尙他にも二三種あれども未だ實驗を經ざるが故に、そは又他日に讓らん、三種とは即ち(一)オトシブミ、(二)ヒメクロオトシブミ、(三)エビヅルゾウムシ是なり、共に象鼻蟲科に屬する頭小腹大なる可笑しき形をなせる小形種とす、此等蟲類は少しく物に驚けば輙ち擧動を止め、忙然として靜止するも、事危急に瀕すれば脚と口吻とを屈して地上に墜落し、土塊塵埃中に混して其形跡を晦まし、偶之を發き出すも、尙は死物に擬して容易に動かざる事等は他の象蟲一般の性質に於けるが如し。

此象蟲の產卵するや必ず植物の葉を捲縮して其內に於てす、而して其葉を捲く方法こそは實に硏究するの價値あるものにて就中ヒメクロオトシブミに關しては嘗て名和先生が先年動物學雜誌に記載せられ、又其著「薔薇之一株昆蟲世界」中にも記せられたれば、讀者は既に了知せらるゝならん、余も亦昨年博物學雜誌第廿三號に於て圖說したることあれば此には只概畧を記するに止めん。そも此蟲は主にナラ、クヌギ等の葉を捲くものなるが其仕方中々に巧妙にて、先つ捲かんとする葉の主脈二三ヶ所を口にて半過ぎ嚙斷し、又葉柄に近き部に於て橫に葉身を切斷し、以て水液の流通を絕ち葉を柔軟ならしめたる上、主脈に沿ひ、表面を內にして縱に葉を折合し、下端の內部に產卵し、然る後に之を橫捲するものなれども、其捲くや每に規則正しく、葉の外端を內に折り込みつゝ天與の妙技を以て緊密纖細に之を捲上ぐるなり而して其捲終りたるものゝ、葉の枯れたる主脈のみによりて點々ぶら下り居るは、四五月より六七月の間にナラ、クヌギ等の枝端に於て吾人の常に見る所とす。

右はヒメクロオトシブミの葉を捲く仕方の概畧なれども、オトシブミにありては是の作業稍簡短なるを覺ゆ即はち此蟲は我地方にありては主にハンノキ、クリ等の葉を捲くものにて其ヒメクロオトシブミと異なる所は、前種にありては葉の主脈を刺咬して葉を柔軟ならしむるも、本種は此の作業をなさず、又葉を切斷するや外部の一端を少しく殘し置き、他は主脈をも合せて共に悉とく切斷するにあり、故に前種にありては捲かれたる葉は枯乾して只葉脈のみによりて、懸下するの狀あるも、本種の捲きたる葉は葉の外部なる一端によりて繫聯を保つが故に、決して枯乾すること莫し、是れ二者間特異の點にして且つ本種は前種に比して少しく大形なる爲めにや、捲きたる葉も亦從て大なるを覺ゆ、而して其發生は定め年一回に止まるならん。

次にエビヅル象蟲にありては余は未だ確なる名を知らず、動物學雜誌第九十三號(明治廿九年七月)酒井寅造氏の記載によりて余も亦假りに爾く稱するのみ、此蟲は六七月の頃より常にエビヅルの葉を捲くものにて其大さ前種よりは少しく小に、ヒメクロオトシブミよりは少しく大なり。此蟲の葉を捲く方法は前二種とは大に異なり、先づ葉柄及び葉脈を刺咬して水液の流通を止めて葉を柔軟ならしむるは、ヒメクロオトシブミに似たるも、肯て葉身を切り且つ之を折合することをなさず、只掌狀形なる葉の一端に二三粒の卵子を產下し之を中心として捲縮するのみにて、其狀恰も吾人が蕃椒の紫蘇捲を作るが如く圓錐形にグル〳〵と縱捲するに止まる、但茲に尤とも感心なるは、彼等が一捲き捲く毎に、獨得の口吻にて葉を刺し乍ら、エビヅルの葉裏にある柔毛を引出して葉を縫合することと是なり、此微妙なる運針的作業は前二種に於て未た見さる所とす。而して此等の卵子孵化すれば、其身軀を包藏する所の捲縮葉を食して生育を遂げ、また他に食を求めざるも足れりとす、但し蛹化は地中に於てするものならん歟。

◎和漢の學者と昆蟲（其九）

古奥　青蓑白笠の人

○蟲類　蟲は蒸也濕熱の氣むして生ず○蟻　あつまり也おほくあつまる虫也中の二字を略す○螽　いねかむ也稻をかむ蟲也かとこと通ず、むを略す○螢　ほは火也たるは垂也、垂は下へさがりたるゝ也○蟬　せみはせん也むとみと通ず、音を以て訓とす此類多し○蚊　かむ也人のはだへをかむ虫也、むを略す○蚤　のむ也人の血をのむ虫也○蝨　しらのみ也のを略す、白くして人の血をのむ虫也○螳螂　人のいぼをしりて食ふもの也、順和名にはいぼむしりと訓ず○蜻蛉　かける也飛かける虫也、蜻蜓は飛羽也○蜂　はりさし也、しとちと通ず○蜉蝣　ひをむしは朝に生じて夕に死す、日おはるむし也。(右、貝原益軒の日本釋名)

○物の名　(螢)ほたろは火太郎なり、泥龜を沼太郎といふにて知るべし、唐山にて螢の別名を丹良といふ也、たろと丹良と音ちかし、これらはその義おのづからかよへり。(右、瀧澤曲亭の燕石雜志)

○物化　譚子化書に、老楓化爲羽人、朽麥化爲蝴蝶(中略)といへり、已に生物に胎卵濕化の四生ありされば鳥獸昆蟲の變化することは更に珍しきにもあらず、月令に田鼠の鴽に化し雀の蛤となることをしるるし、孑孒の蚊となり、毛蟲の蝶に化するなどは世の人常に目なれて奇とするに足らず(中畧)地蟲の蟬に化すも常のことなり、東遊記に竹根の蟬に化したることをしるせり(中畧)西域聞見錄に、夏草冬蟲と

て夏は艸の葉岐に出て韮のごとく其根朽木の如くにて、冬に至れば葉枯てその根蠕動化して蟲となるといへり、この夏艸冬蟲のこと諸書に見へたり醫賸に詳なり、又三河にては蠦蛄の艾艸に化すことありといへり、まれ〱には土人の面あたり見ることゝぞ、蠦蛄の平地にひしとつきて動ずにしばしあると、それがすぐに根となりて艾艸の生いづとかや、その圖草木性譜に見ゑたり。この條なかば書さしたる折から友人畑銀雞訪れたりしかば、予物化の事いひ出たるに、さればとよ過しころおのれ草津に遊歷のかへるさ松井田と安中とのあひの宿に原市といふ處あり、そこを通りしに人あまたつどひゐて、何やらさゝめきけるゆゑ何事にやと立よりて見しに、道の傍なる柿の木に桑蠶のとまり居たりしが、頭ははやく反鼻に化りて體はまだ蠶なり、こは珍しとおもふものから、なほ人々をおしわけつゝ近くよりて打見るほどに口はいとおほきくさけて、體は見す〱延ると見ゑて動脈の運動體の上にあらはれて見るも氣みわろき心地す、一人の老婆そばにありていへるは、桑蠶を取りて柿の木へうつしおくときは三びきのものならば必ひとつは反鼻に化る桑蠶あるものとぞ。云々（右、山崎美成の世事百談）

○金蠶　珍玩考に、金蠶を載せて云く、右千牛兵曹王文秉丹陽人、世善刻石、其祖嘗爲浙西廉使裴璩、采碑於積石之下、得一自然員石如毬形或礱斷、乃重釁如殼、相包斷之、至盡其大如拳、復破之中有一蠶、如蠐螬、蠕々能動、人不能識、因棄之、或云、欲求富貴、莫如得石中金蠶、畜之則寶貨自致矣、問其形狀、則石中之蠐螬也と、本草綱目に載る金蠶とちがひたるやうなれども、寶貨自致と云ふにてみれば一物

とみゑたり、さて史記正義に括地志を引きて云く、晉の永嘉の末に齊の桓公の墓を發くものありて蠶金數十簿を得たりとあり、この金蠶も珍玩考にのする金蠶の樣にもきこゑて、とくと解せざりしに、南史の始興王鑑の傳に云く、發古冢得金銀爲蠶蛇形者數計、古人或用之、設其簿以象蟲也、蓋漢天子冢埋禽獸雜物之意とこれにてよく解したり。(右、青木敦書の昆陽漫錄)　(完)

編者云ふ、本篇は未だその全部を悉したるにはあらねど、讀者の厭かんことを恐れて、一先づこゝに筆を擱き、これに漏れたる有用の記事は、他日また重ねて拾收することゝなさんとす。

◎自然的害蟲驅除に就て（續）

在東京　林　壽　祐

由來有益獸禽につき、我邦に於て之が保護を試みざるに非らざるも、其聲やゝ低くして一般の人士を感動せしむるに足らず、狩獵者の中には保護鳥を射つて憚らず、保護期節を違へて遠慮せざる者あるも、世人は之を見て、敢て咎めざるなり。吾人は先きに我邦農民が惡蟲を驅除し害蟲を豫防するを述べて、國家の爲め慶福といひたるも、他の一面を顧みれば、間接に昆蟲の繁殖を助くる者即ち狩獵者の年を追ふて增加し、銃獵のみにても既に二十有餘萬に達し、更に廢退するの傾向なきに非ずや、吾人は日常彼を聞き是を視、遠く將來を慨想すれば、轉た悵歎に堪へざるなり。此を以て吾人は狩獵者に會ふ每に有益獸禽の効用を談じ私情を制し、不法悖德の快樂を捨つべきを說けり、中には釋然解悟、深く獵獸狩禽の性質を考へ暴屠亂殺を誡む者なきに非ざるも、事理を解せざる者にありては、曰く獵者は吾一人にあらず、萬衆射殺を擅にし、吾一人獵殺をつゝしむも將た何の効かあらん、曰く小禽如何程か功益あらん、殊に吾人の作成せる果穀を啄食するに非らずや、曰く獸禽は天の與ふる所、之を獵食せずんば、造化折角の厚賜を辭するに似たり、曰く子は性來極て天然の風景を愛す、獸禽の減少は、大に自然の美景を損するを以て喜ばざるか、曰く子は動物を好めり、獸禽の絕滅するもあらば、其構造習性を硏むるに由なし、故に之を蕃殖せしめんとの意にあるか。と何ぞそれ背理の甚はだしきや、世人滔々として之を爲すに吾一人如何でか爲さゞるを得んと、然らば天下皆善事を行はず、吾一人善を爲すを得んやとの意ならんか、況んや一人の爲す所、其影響少からざるに於てをや、又凡ての動物には一利一害ありて全く有益なるものあること無し、唯中に就て昆蟲を啄み、其益は其害を償ひ、利する所、却て餘りあらば之

を保護する可なり、猥りに捕殺すべけんや、次に天與の賜物とは、毫も其意を得ず、天は人類をして食せしめん爲め獸禽を造出したりと云はゞ、即ち一方に於て害者を殖やしながら、一方に於て之を滅却せしむる者を生ずるの理あり、天何ぞかゝる兒戲を爲さん、また余輩ハ觀賞上及び動物研究上、種屬の消滅を防ぎ、之が存在を望まざるに非らず、たゞ此事たる樹木に譬ふれば、枝振りのみ花彩のみ、果實或は用材にさへ、佳良なるに於ては、枝振彩色何かあらん。余輩は夙に之が救濟に微力を致さんとし、既に二三の誌上に於て世人の反省を促せし所あるも、多くは雲煙過眼に附せられんとす然れども更に熱心なる昆蟲研究家の力を籍り、以て現に減少しつゝある、憐れの有益動物を救濟せんとする者なり。想ふに昆蟲研究家が、野生獸禽が如何に昆蟲と密着の關係あるかは業に已に熟知する所、又有益獸鳥保護救濟は、實に刻下に横たはれる急務なるを知らん、冀くは余輩の微意を賛同し、世人を警告誘導して、個人的の慾望を排斥し、博く公義心を喚發せしめ、以て邦家富强の增進を圖られんことを、云ふ迄もなく國家の富强は學者と官吏と、軍人にのみ限れるにあらず、苟も生を人界に受けしもの、誰れか一片の報公心なくして可ならんや。（完）

◎農業家の益友

第七回全國害蟲驅除講習修業生　石川縣　高多信久

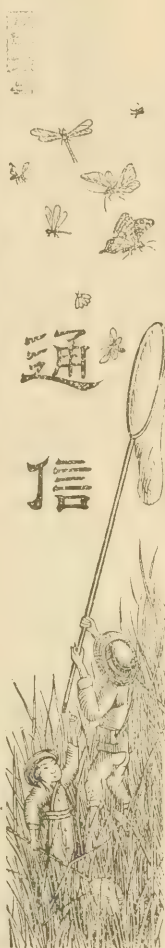
蛙を吞む蛇あれば蛇を食ふ野鳥あり、造化の萬物を制限する實に巧妙なりと云ふべし、左れば西洋諸國に於ては鳥類保護條例の規定ありて、妄りに有益なる鳥類を捕殺する事を許さず、力を此の造化の巧妙に假りて農家の大敵たる害蟲を冥々の間に驅除するもの、實に測り知るべからざるものありと。我國に於ても農家が古來の習慣として大に杜鵑を捕ふることを忌み、又屋內に燕の巢を營ましてこれを愛護する等、畢竟皆其故ならざるはなし、然れども人目の及ばざるところ、其鳥が果して幾頭の蟲を嗜食するかを知り難ければ、兎角愛護すべきを忘れて之れを等閑に附し、田圃森林等をして蟲害の慘毒に苦ましむることなきにあらず痛歎すべきの至りならずや。農家にして若し其嗜食するの大類を知了することあらば、一双の燕も一羽の杜鵑も、豈に之れを輕忽視するを得んや。燕は一日に凡そ十六時間勞働するものにして、其一羽は毎時二十回づゝ蟲類を捕啄し來りて其雛兒に與ふるものなり、左れば其雌雄の一羽が一日中、往復する度數を合算すれば六百四十度なり、一回平均十頭の蟲類を捕啄するとせば、一日間

に六千四百頭を捕殺するの割合にして、之れにまた親鳥一日の食用を六百頭と假定して合算するときは、一家族の燕は毎日七千頭の蟲を消費するものと云ふべし。鶺鴒は一年に兩度其雛を養ふものなり、而して其雛を養ふの間は毎時三十六回の餌料を啄み來るが故に、今其勞働時間を十二時とすれば其一日に餌食を啄み來るもの實に四百三十二回にして、其捕獲する所の蟲數決して少からざるを知るに足らん。又或人は冬季に當りて一羽の啄木鳥を解剖し、其一日間に幾許の蟲類を食するやを探究したりしに、其腐敗して既に形体を存せざるものは之れを除き、唯々形体の全き者のみを檢して三百二十頭を得たりと、左れば此比例を以て一ヶ年間に積算すれば、實に十二万有餘頭の蟲類を捕食するの割合なり。其他若し鶯、杜鵑、蒿雀、山雀、四十雀、五十雀、畫眉鳥、鶺領、田鷚、萱雀、駒鳥、赤鬚、伯勞、三光、翁鳥、菊頂、怪鳥、尾長鳥等の諸鳥に亘りて一々之れを調査せば、是等に依りて人界の蟲害を減殺するを得るもの果して幾許なるやを知らざるべし、宜なる哉、英國人は雀をさへ有益鳥類に數へて之れを愛護するや、因是觀之鳥類はもと我が農家の益友として、敢て愧づるなきものと云ふべし。

◎長夜の座談（續）

鹿兒島縣農學校　生熊與一郎

（其三）蠶の獨言　普通の學者と實驗家とは蠶の進化說を述へて曰く、蠶が此くの如く美しい糸を澤山吐くと云ふのは、蠶は始め野蠶の樣なもので有つたが、人間が何千年と云ふ久しい間、家の内で飼て其上厚い繭から厚い繭と段々種を採たから、所謂人爲陶汰の結果である、と云ふけれど、決して人爲陶汰などでは無い、初め吾々の先祖が山野に住で居たのを人間が連れて行て家の内で養て呉れた、養はれて見ると、中々樂で第一食物を求めるに骨を折らずも心配せずも良い、鳥類に捕られる事も寒暑風雨に曝れることも無い、種々なる病蟲害の豫防もしないでよい、其上子を產むにも四方を飛び廻らないでも人間が產室を造て呉れて、子はまた人間が充分に保護して呉れると云ふ樣に、萬事樂で有つて而して子孫を充分に目的通り繁殖さす事が出來るから、以後は是非共人間に養はれ度いものだと思ふて十三個の神經球で考へた結果、人間は決して物好きで吾々を養ふのではない、又吾々が山野に在て風雨に曝らさるゝのを憐れと思ふて養て呉れるのでも無い、只吾々の吐く糸を望んで之を目的とするのである、して見れば糸を吐て繭さへ造れば充分丁寧に養つて呉れ其卵も保護して呉れる、從て子孫も目的通り繁殖するに相違無いと思ふて、其れから糸を澤山吐いて美い繭を造る事に勉めた、すると案の通りで又蕃殖を防

害する螟蛆其他の病害は、其驅除豫防法を農商務省とやらからの訓令や各府縣の蠶絲業組合等の規則で以て撲滅を謀られ、卵は蠶種檢査法と云ふ法律で健全なもの丈け後世に殘さるゝ樣になつて居る、誠に難有い世の中と成つた、此ふ云ふと世の中には、成る程蠶の數は數千年前よりは增加して居るに相違無いが、其大部分は煮殺されて仕舞ふ、子孫の繁殖を計るとは理に合はぬでは無いか、子の大部分の命を犧牲に供して子孫の繁殖を計るとは余り妙な理ではないかと云ふものもあるが、總ての生物の子が十から十まで滿足に生存するときは、數年ならずして其種が地球上に充滿すると云ふのは一般學者の稱ふる所である、又子孫の他殺せらるゝ事多きものは其れ丈け多くの卵子を產むと云ふ事も眞理である、所で吾々程多くの卵を產むものは先づ他に有るまい、して見れば吾々程多く他殺せらるゝものは無い、即ち煮殺さるゝ蠶の數は恰も病蟲鳥害の爲めに殺さるゝ數と見做して差支無い、倚解り易く云へば人間は吾々を保護して吳れて病蟲鳥害を防で吳れる其替り、病蟲鳥害の爲め殺さるゝ數丈けは繭と成つてから殺されるのである、そこで人間は未だ是れ迄深く考へを及ぼす事が出來ぬか、吾々の恩人の腦髓は斯くも鈍いかと思ふと十二の眼から淚が出さうになる、と此新進化說が長夜座談の材料ともならば幸ひだ。

◎冬期昆蟲採集景況報告

岐阜縣　安八郡昆蟲研究會

當安八昆蟲研究會は昆蟲を採集し、農業上及び敎育上に必要なる研鑽の用に供へ、斯業に裨補せんとするの目的を以て冬期採集の實踐を擧行せり、而して其順序は每土曜、日曜兩日を期し、本郡內各町村無漏實地に就き採集する目的を以て、客月廿三日は先づ郡の西部に當る北杭瀨村より着手し、會長小幡忠臧氏は自ら研究會員及び地方委員其他有志者等と共に採集を行ひたるに、數多の獲物ありて中にはキンガメムシ、ツノセミ等もありき、今其一行の氏名を擧れば左の如し。

會長　小幡忠臧　理事　近乙吉　會員　大澤鋠二　同　加藤彥郎

會員　北村儀助　　會員　川合光朗　　同　清水千之助　郡農會技術囑托員吉安熊次郎

次で十一月三十日(土曜日)午后一時より、大垣町及び安井村地内に於て前回同様採集せり、其人名は

會長　小幡忠臧　　理事　近藤乙吉　　會員　北村儀助　　同　川合光朗
同　大澤銕二　　同　加藤彦郎　　同　吉安熊次郎

最后に今十二月一日(日曜日)も前日に引續き和合村及び結村地内に於て採集せり、此日は恰かも安八郡東安教育會開會の當日なりしに付一行は之に臨み、會長は教育に關する件及び昆蟲學研究の必要なることと並に昆蟲標本を製作して之を兒童と一般農民に示すの有益なること等を演述し一同歸路に就けり、同行者の氏名は左の如し。

會長　小幡忠臧　　理事　近藤乙吉　　會員　北村儀助　　同　川合光朗
同　大澤銕二　　同　加藤彦郎　　同　吉安熊次郎　　同　渡邊純雄
同　河田貞城

◎害蟲驅除豫防法施行の訓令

第六回全國害蟲驅除講習修業生　大分縣　小野覺太郎

本縣に於ては、去八月十日及び十一月五日の兩回に左の如き訓令を管内に發布して、蟲害豫防驅除に力を致すべき旨を訓示せり縣民の爲に慶賀す可し。

⦿大分縣訓令第八號　明治三十四年七月大分縣令第三十八號に依り、螟卵採集及心枯穗枯を堀取りたるときは、其卵塊及本數取調、町村長は郡長に、郡長は知事へ、前月分を翌月十日以内に報告すべし。

⦿大分縣訓令第二十四號　稻收穫後麥播種迄の間に於て、株切、株燒をなし、畦畔の雜草を燒棄又は芟除するは、害蟲驅除豫防上、有益不少候條、農家一般に施行せしむべし。

◎千葉縣下總の昆蟲方言

千葉縣東葛飾郡木間ヶ瀬村　東風谷耕總

我が地方は實に昆蟲思想に乏しく、今に七星瓢蟲を以て蚜蟲の親と誤認し居れり、去れば農作物の害を被むらざるものなく、殊に麥作の如きに到りては(稀に病害ありと雖も)針金蟲の害を被むること甚だしきも、之を「クセ」と稱して天候に委ね人力の如何んともする能はざるものとなせり、斯かる有樣なれば

蟲名とても定かならざるを、辛ふじて左の數種を知り得たれば貴誌に投ず、斯學の一助ともならば幸甚。
◉瓢蟲をダンナムシ、ゼニクレムシ、ホギサマムシ、ヨメゴムシ、コモリムシ、子コ　◉吉丁蟲をギンムシ、キンキンムシ、コガ子ムシ　◉ヤマカマスをヒヨウタンムシ、アマンジツヤク　◉蛺蝶の蛹をアマンジツヤク　◉蟷螂をハラタチババ、トカゲ、カマキリ　◉桑天牛をケキクリムシ　◉トラフムシをハチンボウ　◉キリギリスをギウチツヨ　◉椿象をヘツクサムシ　◉三井寺ハンメウをヘツピリムシ　◉クツワムシをカチヤカチヤ　◉穀象をホリ　◉螟蟲をシンクイムシ、ズイムシ、キキンムシ　◉浮塵子をコヌカムシ、ハ子チツヨ　◉イナゴをナゴ　◉トウスミトンボをヨメゴトンボ　◉オハグロトンボをスミカキトンボ　◉ハルゼミをヂーヂー、マツムシ　◉アブラゼミをツクツクインシヨウ　◉ヒグラシをカナカナ　◉金龜子をブンブン、コガ子　◉蛺蝶をオタイカン、サケノミテウ　◉カラスアゲハをオカマテフテフ　◉アメンボウをカゴメ　◉其他凡て毛の生へたる幼蟲を毛蟲と云ひ、毛の無きものを裸蟲と云ひ、蛹をば一般にニシハドツチと云ふ蝶蛾の區別は元より無く一般に蝶と稱す。

◎浮塵子の調査及驅除方法（續）

第八回全國害蟲驅除講習修業生　三重縣　西岡嘉十郎

○調査法　先づ田毎に其中央に入り、稻莖の下部（水面より四五寸の所）を手を以て靜かに開き、害蟲の有無を檢す可し、但し浮塵子は多く横に這ひ稻莖の裏面に回るものなれば、手を向ふ側に回して見るをよしとす、又水田にありては稻莖の下部を打ち、害蟲を拂ひ下して檢するを便なりとす。而して以上の視察を爲すに當り方言「トビムシ」と稱し、其形狀浮塵子の幼蟲に相類似し、往々害蟲と誤認せらるゝものあり、今其異なる點を左に列記す。

	ウンカ	トビムシ
形狀	圓形又は橢圓形なり	長橢圓形なり
体色	白色又は淡黑色なり	概れ淡黃色を帶ぶ
鬚角	微少にして肉眼にて認め難し	長大にして明瞭なり
	水面に落ちたる時跳躍す	跳躍せずして水蜘蛛の如く這行す

猶浮塵子の發生は其地方により其趣きを異にし、到底同一に之れを論ずる事能はずと雖も、實地調査する所によれば、左記の箇所は其發生多きものゝ如し（一）地勢上日光空氣の透通惡しき土地（二）充分乾燥せず常に適當の濕氣を有する土地（三）莖葉繁茂せる稻田殊に遲れ出來のもの（四）粳より糯に多きの傾きあり（五）一枚の田面にありては畦畔附近より中央に多き事（六）一株の內にては上部より下部に多き事。

○驅除法　田水充分なる土地にありては、注油筒を以て一反步に付き二升乃至三升の石油を散布し、其

石油の浮びたる田水を、手又は梳を以て稲莖の下部害蟲の群集せる所ニ注射して洗ひ落す可し。一田水欠乏したる稲田にありては、石油乳劑の四十倍乃至五十倍液を作り、之れを一方より注ぎ掛け、同時に他の一人稲莖の下部を梳るが如く害蟲を洗ひ落す可し、但一反歩ニ付石油乳劑の稀釋したるもの凡そ二石乃至三石を要す。(石油乳劑調製法は石油五升、石鹼百二十匁乃至二百四十匁、水二升五合)云々。(完)

◎土佐産の蟲報 (第一の二)

高知縣土佐郡 武内護文

○小灰蝶科 (一)ウラギンシジミ。(二)ウラゴマダラシジミ。(三)ムラサキシジミ。(四)ムラサキツバメ。(五)ルリシジミ。(六)ヤマトシジミ。(七)ツバメシジミ。(八)ウラナミシジミ。(九)ベニシジミ右の中(三)(五)(六)(七)(八)は分布最も廣く、(四)と(一)とは稍北地に多し、而して(二)は北地の山中に産するを見ると雖ども、極めて少なし。何れも多害なきものなるも、獨り(八)ニ至りては農作に有害なるを認め得たり、成蟲は晩春晩秋の二期ニ發生し、目下(十一月)は蛹化の期に當れば、越年は蛹狀を以て經過するならん。

○蛺蝶科 (一)メスグロヘウモン。(二)オホウラギンスヂヘウモン。(三)ウラギンヘウモン。(四)ツマグロヘウモン。(五)コミスヂテフ。(六)コイチモンジ。(七)サカサハチモシジ。(八)コムラサキ。(九)スミナガシ。(十)ヒオドシテフ。(十一)ルリタテハ。(十二)キタテハ。(十三)アカタテハ。(十四)ヒメアカタテハ。(十五)イシカケテフ。(十六)ムラサキテフ。(十七)ゴマダラテフ。ヘウモン屬中最とも普通なるは(四)にして、(一)之ニ亞ぎ、其他の二種は稍少しく海岸を距る北方二里餘の山中ニ多し、余は本年雷光山上ニ於て一種小形異色のものを見たりと雖ども、憾むらくは之を捕ふることを得ざりき。(五)(六)は共に最とも普通ニ分布せり、イチモンジの屬にて一種彩色を異ニせるもの往年多く産せしかども森林伐採の結果にや今は北方の山中ニ退き、本年その一頭を辛うじて工石山上に目撃せり、(七)は北方の山中に産するも極めて稀有ニして、(八)は柳樹のある處には敢て珍らしからず、(九)は海岸、山間ともに之を産するも其數ニ至りては多からず、(十)(十一)(十三)(十四)(十五)(十七)の六種は最とも普通の種にして、(十二)は甚はだ少なし、(十六)に至りては伊豫の國境ニ於て僅かに一頭を獲たるの外、未だ他ニ於て之が飛翔を見ず。

以上數種中ヒオドシ蝶の森林諸木に甚はだしく加害するを今年實見せり、成蟲ハ仲春及び仲夏の候に出

づ、其他アカタテハ及びヒメアカタテハも稀には牛蒡を害する事あるも、其の害や極めて少なく、重に野生の蕁麻科植物を蝕損するもの丶如し。

正誤　前號の本報中、テングテフ記事に、全躰黑色にして斑紋は黑赤色とあるは、全體褐黑色にして斑紋は黃赤色云々の誤。

◎昆蟲に關する葉書通信　（十七）

（八十四）夜盜蟲の發生（三重縣多氣郡、阪口幸之助）　本年は天敵の制裁極めて僅少なりし故か、蕓薹苗圃に夜盜蟲の發生甚はだしく、その莖葉を喰損して殆んど收穫皆無とならしめたる處あり、依て夜間に提灯を用ゐて幼蟲を捕殺し、辛うじて其蔓延を防止したり。

（八十五）浮塵子の驅除器（德島縣那賀郡、吉川綾吉）　昨年本郡内にて浮塵子の被害ありしは六七村にて、本年もまた凡そ六百町歩の田面に大發生の摸樣あるため、越後產の重油にて頻りに驅除し居れり、然るに從來の藁箒にては思ふやう十分に撒布すること能はざるより、今津浦村の酒本千吉氏は一の撒布器を製作して之を實地に試用せしに、最とも利便なるを確かめたり。

（八十六）吾縣下に於ける螟蟲驅除（石川縣石川郡、高多信久）　本年我縣に於て各所に浮塵子の發生せるを聞き、余も兩三度實地に就て被害の摸樣を檢せしに、種類は凡て褄黑橫這にて格別の事も無かりき、之に反して恐ろしきは螟蟲にて縣下羽咋郡は六月六日より同十七日まで十二日間强制驅除を行ない、郡内十七ケ町村より買收せし卵塊は六十一万六千三百八十一塊、買收せざる町村の採卵は三十八万五千七百四十二塊、又同期間に於て點火誘殺せしものは郡内凡て百八十六万四千〇十六蛾に上れりとぞ、又珠洲郡に於て七月三十日より八月五日に亘りて町村費と町村農會費を支出して、螟蟲の蝕入せる稻莖の拔取を行ひしに、是亦非常の多數にて買收に係るものは二千十七万五千〇八十七莖、買收せざるものを大凡一千万莖と見積り合せて三千十七万五千〇八十七莖なるべしと云へり、他の郡に於ても隨分驅除に勉めしも未だ確たる成績を聞かず。

編者云ふ、本年能美郡に於ける螟蛾捕殺數は百四十八萬八千七百七十七蛾、採卵數は六萬千八十五塊、拔莖數四百七十四萬六千六百十八莖の多きに達せり、參考としてこ丶に附記す。

秋曉（あきのあさ）　きり〴〵す聲（こゑ）うらがれて明（あけ）がたの寒（さむ）さ知（し）らる丶ねやのうちかな　（東久世通禧）

◎コミヅムシと浮塵子との區別に就き質問

岐阜縣武儀郡上有知村　天野秋二

常に水中に栖息するコミヅムシと稱する昆蟲は、其形躰浮塵子に酷似せるを以て、之が區別の要點何れにありや不明なり、今この兩種に就き、普通最とも區別し易き諸點を應答あらんことを望む。

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

コミヅムシは一に風船蟲とも稱し、其外貌は浮塵子に酷似せり、故を以て前年某縣に於ては、該蟲の稻株間に棲息するを見て、全たく浮塵子の一種と誤認し、之にクロウンカ或ひはクロヨコバイの假稱を命じて、頻りに注油驅除を施行されたる事あるやに聞けり。此一事以て該蟲が如何に浮塵子に酷似し居るやを想像するに足りぬべし、去れど既往は之を咎むるも詮なし、斯かる輕擧は大ひに農務の局に當る者の注意すべき事なるべし。さて之が區別の要點は種々ありと雖ども最とも覩易き二三の部分に就き比較して答へんに先づ第一に其脚部に注意すべし即はち該蟲は水棲昆蟲の一なるを以て、脚部に變化を來たし、能く游泳に適ふも、他の浮塵子にありては否らざるなり、浮塵子の前中兩脚は殆んど同形同長なるも、コミヅムシにありては、前脚短太にして細毛を生じ、中脚は長く、跗節端に有する二爪は非常に細く且つ長さの別あり、又浮塵子の後脚は、脛節の兩側に或は外側に短毛刺を有するのみなれども、此種にありては、脛節に細毛少なく、却つて跗節に細毛を總生して游泳に便せり

I

(コミヅムシの圖)

而して右の他、前胸部の形狀をも異にして、コミヅムシは其後緣即はち中胸部に接する所ろ半圓形をなせども、浮塵子に於ては然らず、且浮塵子は何れも中胸楯板大にして明かに認識し得べしと雖ども、此種にありては微小を極め、殆んど之を認識することを能はざるの差あり。此他翅脈若くは觸角の形狀等

にも相違の點あるも、總て之を略すべし。尙は「昆蟲世界」第二卷第九號を參照せられなば、自づから釋然たるものあらん。

◎林檎の綿蟲に就き質問

秋田縣由利郡南内越村畑谷　田口永治

余が果樹園に本年綿蟲の發生ありしにより、福羽氏著の果樹栽培全書に從ふて驅除を行ひしに、如何にも其効あるを見たり、去れど冗枝剪定、冬季豫防等なほ不明の點あるを以て、茲に示敎を仰ぐ。

答　名和昆蟲研究所内　永澤小兵衛

リンゴノワタムシ發生の多少は、其樹種と其土地とにより、相異なるものなることを實驗せり。故に一概に之を論じ難きも、米國理學士桑名伊之吉氏の談によれば、該蟲の原産地たる米國に於ては、最とも冬季の豫防的驅除に重きを置くが如し。其方法は、先づ成るべく落葉枯草を掃ひ、次に樹皮の裂目、枝幹の罅隙等に粘劑を密塗して、蟲類の凌寒越冬するを防ぎ、又根邊の舊土を去りて、之を新土に替へ、其の落葉と舊土をば盡ごとく燃燒し、後更に濃厚の灰汁、石鹼水等を以て被害部その他を洗滌するに在り、併し如何に豫防のみを行ふとも、翌春初發の際に驅除を忽にするか、或ひは近隣に該蟲發生の果園ある時は無益に終るべし。其驅除劑は嘗て名和靖先生の説かれし如く、現時石油乳劑に優れるもの無きに、當業者或ひは好んで猛烈の性分を有する石炭油を濫用せしより、會々害蟲とゝもに果樹をも、併せ枯死せしめたる例證、特に東北地方に少なからず。次に冗枝剪定の目的は、唯樹勢の均一を期し、光線の透通を圖るに外ならざれば、勢力の過大なるもの、姿勢を害ふもの、若くは陰鬱の媒をなす内生の枝條を除去すれば事足るべし、西洋にては左まで之に重きを置かざるに、本邦の果樹商は事々しく秘術など稱して、動もすれば利己の道を謀るに似たり、但し剪定の際には、能く葉芽と花芽とを鑒別し、及び其時期と其刀鋸とを擇ぶべきは勿論、其栽培法の形式により、また多少の工風を異にすべし、此等の事に關しては、地方の實驗家の意見を參酌するは、最とも利益あるべく、又恩田鉄彌氏の著書等を熟讀自得せらるゝも可ならんか。要するに、リンゴノワタムシを根本より驅除せんと欲せば、勞力、藥劑の外にありては、その樹種、地形、地性を選擇し、少なくとも三間乃至四間を隔てゝ之を種植し、以て園丁の動作を自由ならしむるの餘地を存し、又日光の射入と、枝條の發育を十分にし、兼て瓢蟲、草蜻蛉の如き益蟲をも保護せざる可からず。

◎蛞蝓を標本に製作する方法に就き質問

秋田縣平鹿郡横手町　Y, E, 生

俗に蛞蝓と稱する種類、例へばミヅアヲテフの幼蟲の如きものを、標本に製作するに、最とも簡便の方法なきや、亘細説明を乞ふ。

答　名和昆蟲研究所助手　名和梅吉

凡て蛞蝓の類を完全なる標本に製作するは、頗ぶる困難の業にして、幾多の實驗老練を要す。されば酒精に浸して保存するの有効簡便なるに及くものなしと雖ども、若し之を乾製となさんには、普通の裸蟲製作に於けるが如く、靜かに躰内より臟腑を採出して、之を火上に架け、吹管にて吹脹しつゝ乾固せしむるを良とす。但しこれを爲さんにも、多少の器具と愼密の注意なくんば、被毛を脫落せしむるの虞れあるが故に、内臟抉出の際には篤く此點に用心すべきなり。

雜報

◉蟲害は果して天災なるか

今更いふまでも無けれど、天災とは不時に侵襲する天爲の災害の謂ひにして、到底人力の抗抵救濟すべからざるもの、若くは之を豫期回避し得べからざる變異を指すのみ、彼の大水久旱の如き、海嘯地震の如きは其適例にして、一旦發現することあれば國家は之を救護するの要あるも、之に反して人力の能く左右し得べき火災の如きは、決して其範圍に入るべき性質のものにあらず、是れ　皇室の特に屢次愛恤を垂れ給ふ所以なるべし。蓋し民智の開けざる昔時にありては、疫癘及び蟲獸害を天災の一に加へたりしに、近來は悉ごとく之を除外去、なほ洪水をも落雷と共に、その境域以外に驅逐せんと試ろむる者また無きにあらず、酷は則はち酷なるも、決して望みなきの事と謂ふ能はざる可し。それ天災とは斯くも條理判明のものなるに、人心の淺果敢なき、己れに利する所ろあれば、假ひその以外の違例と雖ども、枉げて範圍を犯して、或ひは國費の補給を仰がんとし、又或ひは免租の公布を望むもの〻如し、則はち蟲害地免租請願の如きは其一證にして、嘗て海南にその甬を爲り

しより此方、各地競ふて同等の恩惠に浴せんと欲し、今やまた將に大學、第十六議會に逼らんとするの奇態を呈せり。知らず我が帝國議會は此非理よして且つ國帑を蠹害する不祥の請願を容るゝや否やを。

◉明年一月の昆蟲世界　本年一月以來本誌の體裁を改ため、昨年に比し凡そ八頁に相當する字數を增加せるは愛讀者の知る所ろなるん、去れど尙ほ紙面に狹隘を感ぞるを以て、明年一月分すなはち次號よりは又々字數を增すの計畫あり、其揭載事項の如きは卷首に豫告し置きたれば、茲には省きつ。

◉霜枯の蟲の音　三府の新聞中で、最とも多く昆蟲記事を揭ぐるものは、時事よ日本に大阪每日である。報知や朝日にも少しは見ゆるが、何うも要領を得ない記載が折々あるので恐縮だ、○雜誌の中で言へば、專門的のものゝ外には餘り眼に附かんが、獨り坊樣方や、巾幗社會の雜誌にも登載するやうに成ッたのは異樣の感がある。專門的雜誌であり乍ら、古人が一甲蟲をヒヲムシ又ナツムシと稱して、之に蛾の字を塡用したる事柄を知らず、堂々と正面攻擊を開始して、蛾と甲蟲とは別物であると論じたなどは頗ぶる附の愛嬌である、○蟲害地免租の議は取も直さず農民よ依賴心を起さして、懶惰よ導びく良好方便である、之を知らずに眞の天災と同一視する人の心根が解らん、聞けば當議會へも又々去年の殘飯冷炙を持出して、物にしやうと目論んで居るげな、理非は偖て置き、恐らくは九分通り成立つだらう、何故かと云へば明年總選擧の時の人氣に障はるから、○縣農會費を支出して昆蟲研究會を組織せしめんとするのは、和歌山縣の有志者である、世の中は隨分面黑くなッて參ッたやうだ、○佐賀縣と云へば先づ害蟲の本場であるが、今年は平年作より二十二万石の多收であッて、其源因は各小學生徒が螟蟲驅除に從事した爲めであると縣廳は明らかに報告した。そンじよ其處らの先生方にもチト聞かして置きたいものだテ、○神風の吹く伊勢の國は、行旅や工業で飯を食ふと計り誤解されてあッたが、全國害蟲驅除講習會へ入會したものが八十名もある、これで同國が農產地で且つ蟲害の甚はだしくあッた事が證明された、○岐阜縣にも岡山縣よも岩手縣よも、昆蟲展覽會が開け、新潟縣の共進會や宮城縣の敎育品展覽會には參考室に昆蟲標本を陳列した、此具合では明後年の大阪大博覽會への出品も推測らるゝのである、確ッかり賴みますベイや、○昆蟲學を普及させる上乘の策は何につけブラン事である、ろれよ近頃は昆蟲學者モドキや、昆蟲學者ダマシが增殖して、プッテ々々百姓を對手よ自分さへ解らん事を言ふから、一度で懲りふして仕舞ふ、先づ當分は役人ブルや、學者ブル事は中止して欲しいものだ、○愛知縣の經濟會員がムシの話を謹聽するやうよ成ッて來たり、陸軍の嚴めしいドクトル先生が昆蟲研究所

に出入りするやうに成ッて來たのを見ると、何ンだか空合が變ッて來た樣である、はて？。（なにがし投）

◉**大分縣の害蟲驅除講習會**　大分縣農會主催とあり去月五日より十七日まで、表題の如き講習會を大分町集成舘に開きしに、講習員は都て三十六名にて万事都合よく終了せしが、講師は九州農事試驗支場技師莊島氏なりしと、同地小野覺太郎氏の報道に見ゆ。

◉**岩手縣の昆蟲展覽會**　岩手縣和賀郡農會は物産品評會の開設を機とし、去月十八日より一週間第一回昆蟲展覽會を同郡十二鏑村に開き左記の各種を陳列せしに、來觀者非常に多く、斯學の普及に不尠の利益を與へたれば、明年は其第二回を黑澤尻町に開く都合なり。（岩手縣、小山幸右衛門氏報告）

○分類標本　二十四點　○害蟲標本　十點　○益蟲標本　三點
○教育用標本　十五點　○裝飾用標本　三點　○昆蟲寫生畵　三點
○昆蟲採收成績　六十八點　◉計百二十六點

◉**福井縣の害蟲供養碑**　往時農作害蟲退散の一方として炎火祈祝を事とせしは、また已むを得ざる次第にて、大分縣に長野縣に宮城縣に、現にその證跡の存するもの少なしとせず、然るに今また福井縣遠敷郡國富村吉井涓一氏（第八回全國害蟲驅除講習生）の通信に依れば。當地は古來有名のクロクサガメ發生地にて、農民の困難一方にあらず、去れどまた之を驅除すべき供養碑てふものをも現存せり、その茲に至りし事由を里老の談話に徴するに『昔年、善德となん呼べる緇衣のありしを、些細の事にて村民は之を殺害せしかば、扨はその亡魂永くこの土に殘り居て、害蟲と化生し年々稻作を蝕損せり、彼の蟲をゼントクムシと呼びなし誰一人之をガメムシと稱する者なきも此故なり、去れば後年に至り、村の中央の源頭に一基の供養碑を建てゝ、そが祟りの去らんことを禱りしに、不思議や頓に加害少なくなりぬ、その後明治の初年に大發生を遂げて、該蟲群飛の時の如きは日光をさへ遮ぎりし事ありしが、此時村長の計らひもて、僧をして復たこの碑に禱らしめしに驟て滅絕に歸したりき』と此種の妄誕不稽の言には今は誰しも耳を傾むけざる可けれど、參考として報道す云々とあり。如何にも奇らしき儘これを收錄す。

諸惡虫輩　文政三庚辰年春
南無妙法蓮華經　善德虫供養
交橫馳走　國富谷

（供養碑縮寫圖）

◉第十回全國害蟲驅除講習會　豫期の如く去月十六日を以て其開講式を當昆蟲研究所内に擧げたる同會は、滿二週間の講習を終へ三十日午前に修業證書授與式を行なひたり、修業生は左の三十六名にて開閉ともに式は恒例に從がひしが、會員の始終靜肅に、且つ閉會後に至るも尙ほ自修獨學を事とする者の多かりしは稀に見る所ろなりし、最初の申込者は頗ぶる多く確定名簿に登記せし者また定員以上なりしも、開會間際に至り熊本、岡山、石川、新潟、愛媛、岐阜その他の分に於て家務の都合又は疾病のため缺席者數名を生じたれば、斯くハ減員せしなり、尙ほ會員一同は一夕極めて愉快なる茶話會を催ふして別意を表せしが、其談ずる所ろを聽くに概して決心の度强く如何にも末賴母しく感ぜられき、其氏名は次號の紙上に掲くべし。

◉名古屋市に於ける昆蟲講話　愛知縣名古屋市の屈指の有力者百名より組織せる經濟會は、昆蟲と國家經濟の關係に就て名和當昆蟲研究所長の講話を求められしにより、本月六日午后六時より同會例會の席上にて、昆蟲の性質より其益害に及び次で同縣産の農商工業と害蟲の關係を統計に就て縷述し、結局害蟲驅除は國家問題にして、若し之を完全に驅防する曉には國家經濟に利する所ろ頗ぶる廣大なり、現に愛知縣のみにても一ヶ年農產物の被害は、少なくも貳百萬圓の上に出づべき胸算なりと論じ、それより會員の質疑に應じて縷々要點を說明したる由なるが、有繫は上流に居る人々の會合とて頗ぶる感服に堪へざる擧動ありきと。又此日午后二時頃より同地高等女學校に於て、婦人會員幷びに女學生三百五十餘名に對しても、通俗昆蟲談を試ろみたるが、是また初めての事とて一般に感動の摸樣ありきと、何に致せ昨年來名古屋市に於ては、醫學社會より實業家に至るまで昆蟲に重きを置くの風を示したるが是れ未だ他に類例を見ざる事にて、漸やく昆蟲が世人の耳目に上れるの一證とやいはまし。

◉岐阜縣昆蟲學會臨時總會　前號にものせる如く岐阜縣昆蟲學會の臨時總會を去七日午后一時半より開會せしに、來會者は同會の名譽會員、特別會員さては通常會員等にて六十餘名に上りたり、當日會長川路利恭氏は障りありて缺席に付副會長名和靖氏代りて開會の次第を告げ、次で明年二月開設の冬季採集昆蟲展覽會事業の必要及び之が敎育實業兩家に及ぼす潛勢力等を說明して、其計畫に係る事後の承諾を求め、斯くて更正規則案の議事に移りしが三四質問應答の末異議無く之を可決し、次に岐阜昆蟲學會月次會は以后同會に於て繼續する事其他二三要件を協定し、その更正規則により增加すべき二名の幹事を更に會長に於て指定する事、及び各郡より報告すべき害蟲調査は來年一月末までには必ず之を

送附する事をも議決し、同三時頃散會を告げたり、尙は同會の報告通知は本誌公告欄内にあり。

◉**岐阜昆蟲學會例會記事**　同會第三十六回の月次會は、去七日午后三時を以て當昆蟲研究所内に開會せられ、所長名和靖氏の山林及び乾魚の害蟲談（石川縣石川大林區署所轄官林三千町步の櫟樹を蠹蝕の景況幷びに肥料の害蟲カツヲムシが綿絲に大損を與へたる顚末）幷びよろの害蟲標本の說明あり、終りて伊吹山冬季採集の昆蟲標本及び有益鳥標本、小學生徒の採集に係る冬季昆蟲標本の展覽等ありて、閉會を告げしは五時過なりしが、會衆は無算六十餘名なりき。

◉**總目次と新年廣告**　本號には例に依り、今年一月以降收載せる第五卷の總目次を添附して、讀者索引の便に資せり、又年賀廣告依賴の向は、遲くも當月末までに會計部へ申越され度趣きなり。

◉**蚤蝨等の驅除費補助を奈何せん**　昆蟲の發生を以て、濕化卵胎の四因に歸する未開時代なりせば、農作の蟲害を以て氣候の不順に歸すべきも、苟しくも卵胎二者の外に出でずとなし、農商務省また此道理に基づきて之が驅除豫防令を發布したる上は、農家の義務として豫防に努め驅除に全力を注がざる可からず、然るを正に爲すべきの事を爲さぞ、その收穫絕無の日に到りて遽かに地租の特免を請ふ、是れ甚はだしき僻事と謂ふべし。若しこれをしも採納すべき道理ありとせば、將來人ありて其身體の害蟲、すなはち蚊蠅蚤蝨を驅除するの補助費を請ひ、否らざれば倉庫の害蟲、すなはち米牛麥蛾の蝕害に對する補償を求むるも、亦同じく許容せざる可からざるにあらずや、況んや貝殼蟲の如き外國貿易と關係を有するものをや、聞く米國は諸種の害蟲を驅除するに鋭意し、農務省は之が爲めに連年巨費を抛ちて、試驗もし、調査も行ない、團躰をも保護するに關はらず、其懈怠より來れる損害に對つては、更に顧みる所ろ無しと、是れ誠とに我の採りて以て摸倣すべき典型たるべしと信ぞ。

◉**免租の請願は國家の耻辱を意味す**　農作害蟲もと是れ生物界の一種屬にして、蚊蠅、蚤蝨、米牛、麥蛾と同族のみ、而して生物は濕生するに非ず、又化生するにも非ず、唯天の命せる區域に於て生育を遂ぐるに過ぎざれば、人力を以て其蕃殖を妨げ、その殲滅を期し得べきは、何人も常に辨知する所ろなり、己に之を辨知し乍ら、猶ほ蟲害を以て、自治機關の外に置かんとするが如き、又人力範圍以上に論ずるが如きは、抑も解し得べからざる怪事に屬す、もし眞に之を避く可からざるの天災と誤信する者あらば、悲しひ哉、その得る所ろは自己の頑迷を世人に表示するに止まり、延て國家の耻辱

を意味するに及ばんのみ。凡そ免租の事たる徹頭徹尾、之を行ふ可からずと云ふにあらざるも、國家重要の問題たるのみか、動もすれば人心を緩怠せしむるの弊を生ずるが故に、請願ありとて輕々しく之を採用する時は、畢にまた救ふ可からざるに至らんことを畏るゝあり、故に最後の處分としては、國家も被害民も共に一時忍ぶこと能はざる事情を忍びて、容易に其事を斷行せざらんことを望む。往年頼山陽翁の姫路領に入るや、執政河合氏が意を害蟲驅除に致して、其封内に災厄なからしめたるを聞知し、沿路愁聞蝗害深、此間蝨賊不能侵、連雲䆉稏夕陽赤、見得丈夫憂國心、と謳ひたるは誠とに實際を穿てりと謂ふべし、今日免租を請願する者にして此詩の深意を咀嚼せば、恐らくは思ひ半ばに過ぐるものあらん。

◎昆蟲標本陳列場の參觀人　去十一月中に當昆蟲研究所常設の標本陳列場を參觀せし人員は總計壹萬壹千六百九十五名にして、最とも多かりしは十二日に於ける四千四十八、最とも少なかりしは十九日の五十三人にて、一日平均三百九十八人弱に當れり、其内重なる者は農商務省商工局長木内重四郎滋賀縣書記官山田揆一の兩氏を始め北海道廳、島根縣、廣嶋縣、愛知縣、富山縣、三重縣、兵庫縣、京都府、岐阜縣の農事行政又は農事敎育關係者、公私立學校職員等なりき。

◎第四回懸賞繪畫の披露　かねて當昆蟲研究所にて募集せる、第四回の實物寫生懸賞繪畫は、審査の末左の如く判定せり。

◎一等賞（イナゴ着色毛筆畫）東京西ヶ原農事試驗場羽生道也　◎二等賞（アゲハ蝶着色毛筆畫）兵庫縣立姫路中學四年級福田卓　◎同（アゲハ蝶鉛筆畫）愛知縣渥美郡野田小學校高等科三學年山田壽二　◎同（セウリヨウバツタ着色毛筆畫）岐阜高等女學校本科三學年木村よし子　◎同（アゲハ蝶着色毛筆畫）岐阜縣本巣郡船木小學校高等科四學年奥村嘉六　◎三等賞（アゲハ蝶着色毛筆畫）兵庫縣御影師範學校三學年田寺寛二　◎同（キアゲハ着色毛筆畫）東京正則中學校一年級小山彰　◎同（ヘウモン蝶着色毛筆畫）長野縣北安曇郡南小谷小學校高等科四年生細野加滿　◎同（クハカミキリ着色毛筆畫）岐阜縣本巣郡船木小學校高等科四學年園部常吉　◎同（クハカミキリ鉛筆畫）愛知縣渥美郡野田小學校高等科四學年高橋貞治　◎同（エビガラスヅメ鉛筆畫）同上高等科三學年山本貞次　◎同（アゲハ蝶着色毛筆畫）岐阜縣本巣郡北方小學校高等科四學年小島展卓　◎同（キアゲハ着色毛筆畫）岐阜縣本巣郡船木小學校高等科三學年關谷廣藏　◎同（ハグロトンボ水彩畫）同上三學年北川參治　◎同（セウリヨウバツタ着色毛筆畫）岐阜高等女學校本科三學年石田てつ　◎同（セウリヨウバツタ着色毛筆畫）同上三學年後藤まさゑ

（以上、十二月十二日脫稿）

◎害蟲圖解既刊の分廣告

●第一。桑樹害蟲エダシヤクトリ（枝尺蠖）（三版）●第二。桑樹害蟲トゲシヤクトリ（刺尺蠖）（再版）
●第三。稻の害蟲イチノズヰムシ（二化生螟蟲）●第四。煙草害蟲タバコノアヲムシ（煙草螟蛉）
●第五。稻の害蟲イチモジセセリ（苞蟲又葉捲蟲）●第六。桑樹害蟲ヒメゾウムシ（姬象鼻蟲）
●第七。桑樹害蟲シンムシ（心蟲）●第八。稻の害蟲イチノアヲムシ（稻螟蟲）
●第九。茶樹害蟲ミノムシ（避債蟲）●第十。豌豆害蟲エンドノキリムシ（夜盜蟲又地蠶）
●第十一。桑樹害蟲クハカミキリ（桑天牛）●第十二。稻の害蟲ツマクロヨコバヒ（浮塵子）
●第十三。桑樹害蟲イトヒキハマキムシ（糸引葉捲蟲）●第十四。茶樹害蟲チヤケムシ（茶蛅蟖）
●第十五。馬鈴薯及び茄子の害蟲テントウムシダマシ（擬瓢蟲）
以上十五種は既刊の分にして發刊以來既に江湖の高評を得て郡農會又は町村農會は勿論、各種の諸學校にも備へ付けられたり、時節柄害蟲驅除には必要欠く可からざる圖解とす。

◎新刊の害蟲圖解紹介

●第十五。馬鈴薯及び茄子の害蟲テントウムシダマシ（擬瓢蟲）
馬鈴薯の害蟲は種々ありと雖も、就中テントウムシダマシの如きは最も害の甚しきものにて、之が驅除豫防をせんには先づ其發生經過を知悉するにあり、而して之が手引としては此圖解の如きは最も必要のものたりと信ぜ、尙ほ未刊の中必要なるものより追次發刊せんとす幸に愛顧を賜へ。

◎害蟲圖解未刊の分豫告

◎桑樹害蟲キンケムシ(金條蛅蟖)
◎稻の害蟲フタホシズヰムシ(三化生螟蟲)
◎稻麥害蟲キリウジカガンボ(切蛆)
◎稻の害蟲セジロウンカ(背白浮塵子)
◎稻の害蟲ヒゲナガアブ(長角虻)
◎桑樹實蟲クハハマキ(桑葉捲蟲)
◎蠶の害蟲カヒコノウジバヘ(蠁蛆)

◎松樹害蟲マツケムシ(松蛅蟖)
◎藍の害蟲アキノゾウムシ(藍象鼻蟲)
◎粟の害蟲アハノズヰムシ(粟螟蟲)
◎胡麻害蟲メンガタスズメ(胡麻蠋)
◎赤楊害蟲ハンノキケムシ(赤楊蛅蟖)
◎櫟の害蟲カミキリムシ(天牛)

◎桑樹害蟲クハケムシ(桑蛅蟖)
◎稻の害蟲イナゴ(蝗螽)
◎稻の害蟲トビイロウンカ(褐色浮塵子)
◎稻の害蟲クロクサガメ(黑色椿象)
◎桑樹害蟲アヲハマキムシ(青色葉捲蟲)
◎桑樹害蟲クハゴ(野蠶)
◎蔬菜害蟲モンシロテフ(菜の螟蛉)
○蔬菜害蟲サルハムシ(菜の葉蟲)
◎大豆害蟲ヒメコガ子(姫金龜子)
◎梅樹害蟲ウメケムシ(梅蛅蟖)
◎梅樹害蟲ウメシヤクトリ(梅尺蠖)

◉圖解の紙幅縱一尺三寸横九寸 ◉壹枚の代價拾五錢郵稅貳錢
◉百枚以上一纏壹枚拾錢郵稅百枚に付き貳拾錢

◉豫約代價 壹枚拾錢郵稅貳錢 但申込の際前金添附の事

圖解代金 凡て前金にあらざれば回送せず但郵劵代用壹割増の事

◎梨樹害蟲ナシゾウムシ(象鼻蟲)
◎梨樹害蟲ホシハマキ(星葉捲蟲)
◎果樹害蟲イラムシ(刺蟲)
◎稻の害蟲オホズヰムシ(大螟蟲)
◎藍の害蟲アキノズヰムシ(藍の螟蟲)
◎粟の害蟲アハノヨトウムシ(粟蠶)
◎里芋害蟲セスヂスズメ(烏蠋)
◎桐樹害蟲シモフリスズメ(桐蠋)
◎果樹害蟲ホシカミキリ(白斑天牛)
◎果樹害蟲ドウガ子ブンブン(金龜子)

發行所 岐阜市京町 名和昆蟲研究所

◎昆蟲學用書籍寫眞廣告

名和昆蟲研究所長名和靖著

五版

薔薇の一株 **昆蟲世界** 全

定價貳拾錢 郵税貳錢 郵劵代用一割増

臨時刊行第一編

名和昆蟲研究所編輯部 編

日本昆蟲分科表 全一冊

定價（郵税共）金貳拾八錢（郵劵代用一割増）

臨時刊行第二編

名和昆蟲研究所編輯部 編

通俗益蟲集覽 第一輯（説明書附）

定價（郵税共）金貳拾貳錢（同上）

雜誌昆蟲世界合本出來廣告

昆蟲世界第一巻品切

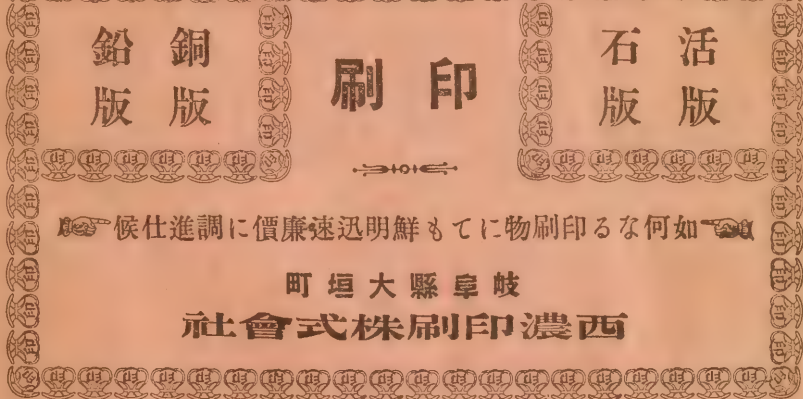
本邦唯一の昆蟲雜誌

昆蟲世界 合本

西洋綴 金文字入 美装

● 昆蟲世界第三巻合本壹册 定價金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

● 昆蟲世界第四巻合本壹册 金壹圓貳拾錢郵税金拾貳錢

名和昆蟲研究所

昆蟲世界第五卷自第四拾壹號至第五拾貳號總目錄

◉口　繪

◉論　說

◉學　說

◉講　話

◉訪　問

◉雜　錄

●通信

◎問答

◎雜報

昆蟲世界

（毎月一回十五日發行）（明治三十四年十二月十五日發行）

第五卷第五拾貳號

（明治三十年九月十日內務省許可 明治三十年九月十四日第三種郵便物認可）

◎岐阜縣昆蟲學會更正規則

第一條 本會ハ岐阜縣昆蟲學會ト稱シ事務所ヲ岐阜市京町名和昆蟲研究所內ニ設置ス

第二條 本會ハ昆蟲學ノ研究ヲ主トシ幷ニ害蟲驅除ノ普及ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 前條ノ目的ヲ達センガ爲毎月第一土曜日ヲ以テ講話演說討論其他必要事項ノ協議ヲ爲ス

第四條 本會ノ記事ハ總テ昆蟲世界紙上ニ掲載スルモノトス

第五條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

一名譽會員 二特別會員 三通常會員

第六條 名譽會員ハ學識經驗若クハ名望アル者、特別會員ハ本會ニ對シ功勞アル者ヲ總會ニ於テ推選ス

第七條 通常會員ハ岐阜縣害蟲驅除講習生又ハ本會ノ目的ヲ賛成シ入會スル者ニ限ル

第八條 本會々費ハ當分徵收セズ專ラ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ其任期ヲ二ケ年トス、但書記ヲ除キ其他ハ總テ名譽職トス

會長一名 副會長一名 幹事五名 評議員廿名（各郡市ニ一名ヅヽ外ニ昆蟲研究所ニ一名） 書記一名

第十條 正副會長幹事ハ總會ニ於テ選擧シ評議員ハ各郡市ニ於テ選擧ノ上本會ニ通知スル者トス

第十一條 會長ハ本會ヲ總理シ會議長トナリ、副會長ハ會長ヲ補佐シ又之ガ代理ヲ爲シ書記ハ役員ノ指揮ヲウケテ庶務ニ從事ス

第十二條 本會々議ハ總會評議員會及幹事會ノ三種トス

第十三條 總會ハ毎年春秋二期ニ之ヲ開キ評議員會ハ必要ニ應ジ開會シ幹事會ハ臨時急施ヲ要スル塲合總會及評議員會ニ代リ決議スルモノトス

第十四條 評議員會ハ本會經費ノ決議ヲナシ事業ノ進捗ヲ圖ルモノトス

第十五條 本會ノ會計ハ曆年度ニ據ル

第十六條 本會ノ規則ヲ改正加除セントスル時ハ總會ノ決議ヲ要ス

右今般臨時總會に於て更正候に付及御報告候、次に明年の初會は左記の通りに候間何分御出席相成度此段兼て及御通知候也

明治卅四年十二月 岐阜縣昆蟲學會

岐阜縣昆蟲學會第卅七回次月會（明治三十五年一月四日）

◉本誌定價並廣告料

壹部 郵税共 金拾錢（見本は五厘郵券貳拾枚にて呈す）

壹年分拾貳部郵税共 金壹圓八錢

（注意）本誌は總て前金に非れば發送せず ◉爲替拂渡局は岐阜郵便電信局 ◉郵劵代用は五厘切手にて壹割增とす

廣告料五號活字廿二字詰一行に付金拾貳錢、三十行以上一行に付き金拾錢とす

明治三十四年十二月十五日印刷並發行

發行所 岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二（岐阜縣岐阜市京町） 名和昆蟲研究所

岐阜縣岐阜市今泉九百三番戶ノ二 發行者 名和梅吉

同縣山縣郡岩野田村大字粟野百廿二番戶 編輯者 桑原貫之助

同縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戶 印刷者 河田貞城

（大垣西濃印刷株式會社印刷）